



此書係由本館代為代印之書也

本館代印

定本由本館代印

甲種

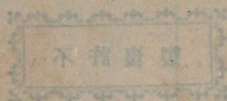
本館代印

定本由本館代印

乙種

本館代印

定本由本館代印



丙種

本館代印

定本由本館代印

大正五年一月三十日

行

本館代印

(共五冊)

大正五年一月三十日

行

本館代印

(共五冊)

(岡山製本)

大正五年一月廿七日印
大正五年一月三十日發行

有朋堂文庫
總索引總解題
(非賣品)

編輯兼
發行者

三浦理

東京市神田區錦町一丁目十九番地

印刷者

平井登

東京市本所區番場町四番地

印刷所

凸版印刷株式會社分工場

東京市本所區番場町四番地

發行所

有朋堂書店

東京市神田區錦町一丁目十九番地

不許複製

〔和俗童子訓〕 (益軒上)

益軒の著、兒童教育修養の道を訓へて懇篤を極めた
るもの也。

益軒は當時の儒者にして、教育を人々の日常に

用山人の著、第四卷のあかしの訓解也。

〔益の文反〕 (益軒上)

益軒の著、益の字の反を訓へて、益の字の

益軒の著、益の字の反を訓へて、益の字の

有朋堂文庫 第一第二兩輯 一百二十冊 總 解

〔時習〕 (時習主人)

時習主人の著、時習の字の反を訓へて、時習の

時習主人の著、時習の字の反を訓へて、時習の

〔時習〕 (古力集)

古力集の著、時習の字の反を訓へて、時習の

時習

時習の著、時習の字の反を訓へて、時習の

時習の著、時習の字の反を訓へて、時習の

の也。

隆達小唄集

(近代歌謠)

慶長より天和の頃まで専ら世に行はれたる隆達節の集也。

〔柳髪新話浮世床〕

(浮世床を見よ)

ロ

蘆陰句選

(名家俳句)

蕉村が我門の囊錐なりと推賞せし大魯の句集也。

六帖詠草

京都の歌人小澤蘆庵の歌集にて、其醇正古今集中の歌の如き述作は收めて此内にあり。

ワ

若みどり

(近代歌謠)

寶永三年靜雲閣主人の編にて、長歌、端歌、吾妻淨瑠璃等の新曲を收む。

和漢文操

焦門の俊足支考の編する所、和漢の古名文と其師友及び自家の俳文とを輯録して之を精細に評註せり。

和漢朗詠集

(古代歌謠)

藤原公任の撰に係る。朗詠とは和漢文人の詩文中主として雅興豊かなる駢麗の句を朗吟するものの謂也。

和合人

(滑稽和合人を見よ)

〔和讃〕

(親鸞聖人)

親鸞の作、三帖和讃と稱す。「淨土和讃」「高僧和讃」は七十六歳、「正像末和讃」は八十六歳の作也。

世上洒落見繪圖 (黄表紙)

山東京傳最後の自畫作に係る黄表紙にて、世の所謂通なるものの行き方を寫して其過ぎたるを嘲る所著眼頗る奇抜にして其才氣を窺ふべし。

〔四方のあか〕 (太田南畝)

蜀山人の狂文集にして、徳川時代狂文の粹也。

〔四方の留糟〕 (太田南畝)

蜀山人の狂文集「四方のあか」の續篇也。

〔萬の文反古〕

西鶴の作、但疑を存すべき點あり。一種の書簡體小説也。

與話情浮名横櫛 (脚本下)

三代目瀬川如皐作、最も有名なる横櫛にとみ切られ與三郎の狂言也。

ラ

〔樂訓〕 (益軒上)

總論、節序、讀書、後論の四項に分ち、人生適くとして快樂ならざるはなき所以を述べたる益軒の的文章にして、文致ことに典麗の妙味を備ふ。

リ

〔立正安國論〕 (日蓮上人)

日蓮三十九歳の著、佛教諸宗殊に念佛の法門を痛罵し、治世安國の道は法華を弘むるにありと論斷せるもの、日蓮が流竄の禍に遇ひしは斯書に因れりといふ。

〔立正觀抄〕 (日蓮上人)

日蓮五十三歳の作、法華經に據りて、其の觀心修行の法の禪宗などより遙かに勝れたる事を述べしも

觀世流改訂諸本を底本として、その内外別二百番を収めたり。古名・番外・他流との同異及び各曲名五十音別略解題の如き悉く同書下巻の巻末に収められた、今凡て省略に従ふ。

用捨箱

田舎源氏の作者柳亭種彦の隨筆にして、俗間の事物言語を考證して精細を極む。

養生訓

(益軒下)

益軒先生八十四歳の作に係り、醫藥攝養の道を述べて微に入り細を穿ち親切至らざるなし。

横笛草紙

(御伽草紙)

平家物語卷十なる建禮門院の女房横笛と齋藤瀧口時頼との戀物語を潤色して一篇の物語となしたるもの也。

義經千本櫻

(傑作集)

出雲外二人の作、狐忠信の芝居を以て最も人口に膾炙せる千本櫻の丸本也。

吉野都女楠

(近松中)

近松五十九歳の登場、時代もの也。

吉野物語

(本朝水滸傳の一名)

吉原小歌總まくり

(近代歌謠)

北里に行はれし小歌の集也。

吉原十二時

(石川雅望)

雅望が二六時中の遊女遊客の姿態を描寫せるものにて、始めに其各時の有様を概叙し、次に其選したる幾多の狂歌を載せ、各巻軸に自作一首を掲ぐ。

淀鯉出世瀧徳

(近松上)

近松四十八歳の登場、世話物二十四篇中の一つ也。

〔大和俗訓〕 (益軒上)

貝原益軒の著にして、聖人の大道を説くに簡易なる俗語を以てし、世の愚夫愚婦にも解し易からしめんとしたるもの也。

〔大和物語〕 (平安物語)

作者は花山天皇在原滋春の二説あれど共に信ずるに足らず。伊勢物語に繼ぎたる歌物語の書也。

〔鍵の權三重帷子〕 (近松下)

近松六十五歳の登場、世話物二十四篇の一也。

ユ

〔唯信鈔文意〕 (親鸞聖人)

聖覺法師の「唯信鈔」に引用せる要文を詳解したるものにて、親鸞八十五歳の文也。

〔惟然坊句集〕 (名家俳句)

三河荊谷の土中島秋舉の編にて、文章逸話を附載せり。本文庫には其初版本と再版本とを撮合し更に藤井博士の再追加を以てす。

遊京漫錄

清水濱臣の著、二卷ありて前半は西下の日録、後半は旅中の見聞を纂輯したる隨筆也。

〔夕霧阿波鳴門〕 (近松中)

近松五十八歳の上場、世話物二十四篇の一也。

〔雪女五枚羽子板〕 (近松上)

近松三傑作の一、其五十三歳の登場に係る時代物也。

〔弓張月〕 (椿説弓張月を見よ)

ヨ

〔謠曲集〕

伽羅千代萩 めいばくせんだいばぎ

(名作集下)

近松貫四、高橋義兵衛、吉田角丸作の淨瑠璃丸本也、その正岡御殿まゝたき場を以て有名なる事いふ迄もなし。

めくら仙人目明仙人 めんくらせんめ あきせんじん

(黄表紙)

富川吟雪の畫作、黒本か。謡曲又は歌舞妓狂言の趣向を取りて、景清が盲目となりて日向に謫居せる所を丸姫が訪ね行くといふ筋に義經の子冠者太郎をからませたるもの也。

〔めでた百首夷歌〕 ひやぐりひひなうた

(太田南畝)

蜀山人壯時の歌集也。

モ

物くさ太郎 ものくさたらう

(御伽草紙)

信州の物くさ男、一歳賦役となりて上京し豊後守の

女を得て之と婚するや又昔日の物臭にあらず、系によりて其高貴なるを知られ、甲信兩國を賜はり、後、愛宕の大明神と現じたりと也。

ヤ

〔八百屋お七〕 やばや しち

(傑作集)

海音の作、有名なる丸本也。

夜船閑話 やせんかんわ

(禪林法話)

禪林中最も有名なる白隱禪師の法話の書也。

〔奴師勞之〕 やつこだこ

(太田南畝)

蜀山人の隨筆、狂歌に關する記事に富めり。

山口素堂句集 やまぐちそうたう しふ

(名家俳句)

五子稿中の一篇にて、四季の末に藤井博士の集むる所を増補せり。

るものとして尊重せらるゝ也。

ム

〔昔話 稻妻表紙〕

山東京傳作の讀本にして、芝居の不破名古屋の鞘當を取りて全體を芝居仕立に脚色したるもの也。

娘節用 (假名文章娘節用を見よ)

無腸句集 (名家俳句)

藤井博士編、上田秋成の句集也。

〔胸算用〕 (西鶴上)

西鶴最後の作、大晦日の遺縁算段の苦しくも亦可笑しき魂膽を寫し出せる一大傑作也。

〔紫式部日記〕 (平安日記)

源氏物語の著者紫式部が篋底の祕記にして、寛弘二

三年頃より上東門院に宮仕せる間の記事也。この絶世の女文豪の生涯の一斑と其人物とを窺ふべき唯一の資料として推重せらる。文の美は更めていふ迄もなし。

紫式部の卷 (御伽草紙)

紫式部が上東門院の命により、石山寺に籠りて源氏物語を作りし事、澄憲僧都が源氏供養として、石山寺にて表白文を述ぶる事を記せり。

メ

名家詩集

伊藤仁齋より小野湖山に至る六十名家の詩を新に編輯して本文庫中の一冊となしたるもの也。

〔冥途の飛脚〕 (近松中)

梅川、忠兵衛を主人公とせる世話物、近松五十九歳の登場也。

松の葉 まつば (近代歌謡)

組歌、長歌、端歌、吾妻淨瑠璃、投節等、採録頗る廣く、俗謡中最も有名なるもの也。元祿十六年秀松軒の編に係る。

窓のすさみ まど

篠山侯青山下野守の臣松崎堯臣の編述せるものにて、徳川初期より享保頃までの忠孝、貞節、仁慈、武勇等の美談多きに居る。

萬載狂歌集 まんざいきやうかしふ

四方赤良即ち蜀山人の撰にて、所謂天明調の代表的詠作を萃めたり。

萬葉集 まんやふしふ

二十卷、奈良朝の末に撰ばれたる和歌集にて、我國最古の歌集也。主として奈良朝時代の和歌を萃む。

〔水鏡〕 みづがたみ

中山忠親の作といふ。神武より仁明まで五十四代千五百年間の記事にて、往々官撰の史乘に見えざる異聞を掲ぐ。

水かゞみ みづ (禪林法話)

一休和尚の法話問答の書也。

〔身延山御書〕 みののまさんご (日蓮上人)

又「身延山記」といふ。身延山の幽邃を叙し、法華信心の要諦を述べたるもの、日蓮五十四歳の作。

都のてふり みやこ (石川雅望)

雅望作、一種の隨筆にて、江戸の人情風俗を味ふべき好文字也。

妙竹林話七偏人 めうちくりんわ しちへんじん

梅亭金鷲の作、安政四年上梓の滑稽本にて、格別目新しき筋もなけれど、徳川時代滑稽文學の最後を飾

〔本朝町人鑑〕

〔西鶴織留の一名〕

本朝二十四孝

〔名作集上〕

近松半二外五人合作の淨瑠璃丸本にて、「廻向せう
とお姿を」の句は即ち本書に出づ。

梵天國

〔御伽草紙〕

清水の申子たる中納言と其笛の音に感じて梵天王
が下し賜へる一美姫とを主人公とせる一種異様の
作にて、文詞蕪雜なれど、以て當時の人の畸形的思
想を窺ふ一資となすべし。

〔堀江川波鼓〕

〔近松中〕

近松五十五歳の登場、世話物二十四篇の一也。

マ

〔枕草紙〕

一條帝の后定子に奉仕したる清少納言の隨感錄に

して、平安朝時代の側面觀史とも稱すべく、觀察奇
警行文簡勁、寔に國文學中の華也。

〔増鏡〕

壽永二年後鳥羽帝の即位より後醍醐帝の元弘三年
に至る百五十年間の歴史にて、承久の亂南北對立の
事など最も詳細を極め、行文典雅流麗也。

〔末燈鈔〕

〔親鸞聖人〕

親鸞七十九歳以後門弟に與へたる法語及び消息を
聚む、從覺上人の纂也。

〔松風村雨束帶鑑〕

〔近松上〕

近松四十二歳の登場、時代淨瑠璃也。

松の落葉

〔近代歌謠〕

寶永七年扇徳の編にて、松の葉に漏れたる歌謠を補
へるもの也。

を説き、世相人事の轉變を録したる隨感隨見の記錄也。

〔北條九代記〕

徳川時代に出でたる中世戰記物語の流亞にて、鎌倉幕府百五十年間の事蹟頗る其要を提げ得たり。作者未詳。

北雪金澤實記

所謂加賀騒動の顛末を述べたるものにて、作者は未詳也。

〔北窓瑣談〕

橋南谿の隨筆にて、また捨て難き好記事に富む。

〔保元物語〕

保元の亂を叙したる戰記物語にして、古來戰記文學中の白眉と稱せらる。作者未詳。

〔法華題目鈔〕 (日蓮上人)

文永三年日蓮が清澄寺に於て書する所、問答の體を以て、南無妙法蓮華經の七字の題目について説示せるもの也。

〔本尊問答抄〕 (日蓮上人)

日蓮五十七歳の著、法華經の題目を以て本尊とすべき所以を述べたる問答書也。

本朝水滸傳

一に吉野物語といふ。建部綾足の作、惠美押勝、僧道鏡等の事迹を漢土の水滸傳に擬して作れるものにて、馬琴之を評して讀本の嚆矢と稱すべしといへり。八犬傳また源を此書に求めたりと稱せらる。

〔本朝醉菩提〕

山東京傳作、稻妻表紙の後篇にて、一休の事を中心として、其俗傳の逸事を一篇の小説に綴りたるもの也。

藤樹の門人殿井任重がその師の説を抄録して學者修養の資となしたるもの也。

武野俗談

馬文晁の著はす所、江戸俗間に有名なりし人物事件を録叙し、自己の見地を以て俗傳の過誤を正せり。

へ

平家物語

作者諸説紛々として定かならず。平家盛衰の顛末を叙したるもの、全卷無常轉變の思想に富み、筆路典雅一篇の散文詩とも稱すべし。

丙辰紀行

（日記紀行）

林道春の作、元和二年江戸より東海道を経て比叡大津に到れる紀行にて、其間の名所五十二箇所を舉げ、其史實故事を叙し、詩歌の述作を添ふ。

平治物語

平治の亂の顛末を記せる戦記物語にして保元物語と共に戦記文學中の雙璧と稱せらる。

邊鄙以知吾

（禪林法話）

白隱禪師の「何某の國何城の大守何姓何某侯の閣下近侍の需めに應ぜし草稿」といふものにて、君主治國の大道を縷述せり。卷末に釋忍阿の長文を添ふ。

ホ

報恩鈔

（日蓮上人）

父母君師の恩は必らず報いざるべからず、然してこれを報いるの道は益々深く佛道を修するに在りといふより論じ起して、例の如く法華經の最も貴き所以を説きたるもの、日蓮五十五歳の作也。

方丈記

日野山奥に閑居したる鴨長明の作にて、人世の無情

餘り姫を殺害し、ふくろふは悲歎に堪へずして法師となり其跡を吊ふといふ話也。

佛鬼軍 おつきぐん
(禪林法話)

阿彌陀佛大將軍となり、諸佛を引率して弘誓の船に乗り地獄に攻め寄すといふ御伽話系のもので、文も盡も共に一体の作と稱せらるれどもいかゞはし。

〔筆のすさび〕 ふで
(名家隨筆下)

菅茶山の談片を蒐錄せる緒餘の隨筆なれども、眞率簡朴なる彼の人格は字面に躍如として、滋味永く盡きざるを覺ゆ。

〔武道傳來記〕 ぶたうでんらき
(西鶴上)

西鶴作、敵打果合等専ら武張りたる話の短篇集也。

風土記 ふんどき

風土記は地方々々の地理、產物、傳説等の記錄にて、元明の朝勅を以て諸國より奉らしめしものなれど、

今日現在せるは常陸・出雲・播磨・肥前・豊後の五ヶ國に過ぎず。本文庫にもこれら五種を收録したり。

文正ごうし ぶんしごうし
(御伽草紙)

年代未詳なれど、此種の作物中最古の物ならん。鹿島大明神の大宮司の雜掌文太が逐はれて製鹽を業とし、富巨萬を重ね、遂に娘の故を以て大納言に至るといふ話也。

〔文武訓〕 ぶんぶくん
(益軒下)

分つて文訓武訓の二となす、益軒先生が文學武藝に關する教訓を縷述したるもの也。

文武二道萬石通 ぶんぶにだうまんきくどほし
(黃表紙)

喜三二作行曆畫にて「名作二十三部」の一也。松平樂翁侯老中となりて只管文武二道を獎勵せる苦心の經綸を茶化すに一流の諧謔を以てせるものにて、前代未聞の大流行を來せる作也。

〔文武問答〕 ぶんぶもんたふ
(中江藤樹)

〔百日曾我〕 ひやくにちじが (近松上)

近松四十五歳の登場、時代物也。

百人一首一夕話 ひやくにんいっしゆひとよがたり

九卷、尾崎雅嘉の著にて、百人一首の歌に基き、作者の略傳、歌詞の解釋、及び作者に聯關せる幾多の逸話奇聞を輯めたるもの也。

ひらがな盛衰記 せいするき (名作集下)

梶原景季腰元千鳥を主人公とせる名高き淨瑠璃にて、文耕堂外三人の作る所也。

フ

風俗 ふうぞく (古代歌謠)

諸國の俚謠と覺しく、催馬樂の歌と同性質也。

風俗文選 ふうぞくもんせん

風來六々部集 ふうらいろくくぶしふ (平賀源内)

鳩溪平賀源内の狂文集にて、前後兩篇各六部の文を集めしを以てこの名ある也。

風流志道軒傳 ふうりうしだうけんでん (平賀源内)

源内の作、風來仙人といふ仙術者より淺之進といふ稚兒が如意自在の團扇を授けられて各國を飛行し、後再び仙人の戒を受けて淺草觀音地内に木の松茸を振り立てて講説するといふ筋也。

〔武教小學〕 ぶけうせうがく (山鹿素行)

素行先生の著、一卷、武人の日常履踐すべき道德を説きて頗る懇切を極めたるもの也。

ふくろふ ふくろふ (御伽草紙)

かめわり坂の籠のふくろふ鸞姫に思ひを掛けて山がらを媒となし、遂に婚成りしに、上見ぬ驚嫉妬の

蜀山人の狂歌狂詩狂文の雜集「千紅萬紫」の續篇也。

〔孕常盤〕
はらみと常盤 (近松中)

近松六十一歳の上場、時代もの也。

〔春雨物語〕
はるさめものがたり (上田秋成)

上田秋成の作に係る一部の短篇小話小説集也。

ヒ

彦山權現ひこさんごんげん 誓助劔ちかひのすけだち
(名作集上)

梅下風、近松保藏作の淨瑠璃丸本にて、毛谷村六助吉岡の娘に助太刀して京極内匠を討たせし事を潤色せるもの也。

〔膝栗毛〕
ひざくりげ (東海道中膝栗毛を見よ)

美人びじんくらべ
(御伽草紙)

丹後少將五條宰相の姉娘の美人なるを聞きて之を

娶らんとせしを、繼母己が所生の妹娘を嫁せんとして苦計を弄したるも遂に破れたりといふ話也。

飛彈匠ひだのたくみ 物語
ものがたり (石川雅望)

雅望作の小説にて、一代の名工墨繩の技術の傳奇的なる幾多の話篇に配するに仙界より人間に下れる一少年と一姫宮との戀物語を以てせるもの也。

〔ひぢりめん卯月の紅葉〕
うづき もみぢ (近松中)

近松五十五歳の登場、世話物二十四篇中の一也。

秀衡入ひでひらいり
(御伽草紙)

牛若奥州に下りて秀衡の館に入り、平家追討の事を託する筋也。

百家琦行傳ひやくかき かうでん

江戸の戯作者八島五岳の編述する所、真に奇人の奇行と稱すべきものを録したり。

ずよく其中庸を得たるに近きもの也。

はちかづき (御伽草紙)

備中守されたか初瀬に祈りて一女を設け、思ふ所ありて鉢を蒙らしめしといふに端を起し、其姫が繼母に虐げられて沈淪し、後榮寵を極むるに至る話也。

はつけんでん
「八犬傳」 (南總里見八犬傳を見よ)

はつせうじん
八笑人 (花暦八笑人を見よ)

はなごよみはつせうじん
花暦八笑人

瀧亭鯉丈の作、五編上は一筆葦主人、同中下の二卷は與鳳亭枝成の補作する所にて、茶番狂言を骨子としたる一種の滑稽本也。

はなのしたながものがたり
鼻下長物語 (黄表紙)

芝全交作、北尾政美の畫く所、「名作二十三部」の一にて、當時の子供の口ずさびに唱へし長々と言ひにくき詞を集めて趣向を立てたる所一寸目先が變り

て面白し。

はなぶささうし
英草紙 (古今奇談英草紙を見よ)

はな
花みつ (御伽草紙)

繼母に虐待せられたる花みつが、其義弟月みつを殺さん事を親しき二人の僧に頼み、實は月みつに代りて自ら殺さるゝ筋也。

はまぐり
蛤の草紙 (御伽草紙)

又「蛤はたおり姫」といふ。天竺のしじらといふ孝子と蛤工の中より出でし天女と相契りて富貴を極め、姫は天に歸り、しじらも昇天せりと也。

はまで さうし
濱出草紙 (御伽草紙)

鎌倉の形勝を叙し、頼朝任官、梶原源太又父より官を譲られ、いそぎ下りて披露する模様などを綴りたるもの也。

ばんし せんとう
「萬紫千紅」 (太田南畝)

は奈良朝時代の所作の、延喜式中の祝詞式に收められて今日に傳はれるもの也。

ハ

〔梅園拾葉〕

（名家隨筆下）

醇儒三浦梅園の著はす所、所謂道を教へて倦まざるの書也。

〔梅園叢書〕

（名家隨筆下）

豊後杵築の儒臣三浦梅園が諄々として道を説きたるもの也。

梅翁宗因發句集

（名家俳句）

談林の開山梅花翁宗因の句集にて、一陽井素外の編に係る。

俳諧玉藻集

（名家俳句）

蕪村の編輯に係る女流句集也。

俳懺悔

（名家俳句）

大江丸自選の句集にて、所々に新古の俳話を交へたり。

〔配所殘筆〕

（山鹿素行）

一卷、素行先生が赤穂謫居中終焉の期近きを豫測して、一生の經歷を回顧し、之を叙べて山鹿三郎右衛門、岡八郎左衛門の二人に贈りしもの、先生の事蹟を知るべき最も確實重要な資料也。

〔博多小女郎波枕〕

（近松下）

近松十六歳の登場、世話物二十四篇の一也。

麥水句集拾遺

（名家俳句）

藤井博士が諸書を搜りて獲たるもの百三十餘句を收めたり。

芭蕉翁發句集

（名家俳句）

五升菴蝶夢の編にて、句數多きに過ぎず少きに失せ

恐る、一夜世に尊き發心者のもとに鼠の夢に現れて
その説法を聴き、其次の夜は虎毛の猫出でて物語る
といふ如き筋也。

根南志草 (平賀源内)

源内の小説にて、闇魔大王が名優瀬川を戀ひて之を
地獄に拉し來らんとする魂膽を骨子とし、専ら男色
の様を寫したるもの也。

〔壽の門松〕 (近松下)

近松六十六歳の登場、世話もの二十四篇の一也。

〔寐惚先生文集〕 (太田南畝)

蜀山人の狂詩狂文の集也。

年々隨筆

石原正明の筆述せる「辛酉上」「辛酉下」「壬戌」「癸
亥」「甲子上」「甲子下」六卷の總稱にて、其古學者流
の固陋を難じたる一家の見と、其甚深なる國學の造

詣とを窺ふべきもの也。

野ざらし紀行 (日記紀行)

松尾芭蕉の述作にて、貞享元年江戸を出で、東海道
筋を京に上り、甲斐を経て歸來せる俳諧紀行也。

のせざる草紙 (御伽草紙)

丹波の國のせの山に年へしましをのこんのかみと
いふ猿の子こげまるどのといふ才藝兼備の猿が、兎
のいきのかみ殿の獨り姫を戀ふといふ擬人物也。

後の岡部日記 (日記紀行)

嵐淵が某年の秋再び江戸より遠江に歸りたる時の
紀行也。

祝詞

祭祀の際神に對して朗讀する詞にて、奈良朝以前又

建部綾太里作、當時の巷説に基きて脚色せる小説にて、文章は純然たる擬古體を用ひ、一字一句古典に準據して一々其出典を明かにせり。

二十四孝 (御伽草紙)

大舜以下所謂二十四孝の名を挙げ、各五言の詩一首を掲げ、其孝行の次第を數行に略叙したるもの也。

日本永代藏 (四鶴上)

四鶴作、一種の商人立志傳とも稱すべき小説集也。

日本外史論文 (山陽史論を見よ)

日本政記論文 (山陽史論を見よ)

日本振袖始 (近松下)

近松六十六歳の登場、人物を神代に採りたる面白き時代物也。

入出二門偈頌 (親鸞聖人)

親鸞八十四歳の作、往還二廻向の義を説き願力成就の五念五功德を明かにせるもの也。

女房形氣 (教草女房形氣を見よ)

如説修行鈔 (日蓮上人)

日蓮が信者に與へて「如説修行の信者」の何なるかを明かにしたるもの也。

如來滅後五五百歲始觀心本尊抄 (日蓮上人)

日蓮五十二歳の著、問答體を以て、一念三千の眞義を述べたるもの也。

ネ

猫の草紙 (御伽草紙)

慶長の治世に洛中の猫悉く綱を解かれ、鼠大にむち

ナ

直毘靈 なほびのみたま

本居宣長の著、我邦の萬國に卓越せる神國なる事、眞の道は之を我が古典籍に求むべき事等、所謂「古學の第一義」を明かにしたるもの也。

〔中務内侍日記〕 なかつかさないしにづき (平安日記)

後宇多帝の後宮に奉仕せる女官の手記に係り、弘安三年以後十數年間の記事にて、中古宮禁のさまを窺ふべき好資料也。

〔長町女腹切〕 ながまちをんをはらきり (近松上)

元祿十三年近松四十八歳の登場にして、世話物二十四編の一也。登場年代より推せば世話物の最初の作なれども、或は「曾根崎心中」が其初作ならんとも稱せらる。

七草草紙 ななくささうし (御伽草紙)

正月七日野に出でて七草をつみ、みかどへ供御に備ふるといふ由來とて、楚國大しうといふ者の孝行話を叙したるもの也。

夏祭浪花鑑 なつまつりなはかにぞみ (名作集中)

並木千柳、三好松洛、竹田小出雲作の淨瑠璃丸本にて、外題の上に「團七九郎兵衛、釣船三ぶ、一寸徳兵衛」と題せり。

〔南總里見八犬傳〕 なんそうさとみ はつけんでん

曲亭馬琴の大著にて最も人口に膾炙せる小説也。

〔南畝莠言〕 なんぼ うげん (太田南畝)

蜀山人の隨筆、古書に據れる考證多く、雜學者としての南畝の造詣の甚深なるを窺ふに足るべきもの也。

ニ

西山物語 にしやまものがたり

へて倦まざる面目を窺ふに足るべし。

〔藤樹先生精言〕

（中江藤樹）

後學の士が先生の言を抄記して學者修養の資となしたるもの也。

道成寺現在蛇鱗

（名作集中）

淺田一鳥、並木宗輔作の淨瑠璃丸本にて、其劇中の人物なる安珍清姫の名は夙に人の知る所也。

當世こゝろた揃

（近代歌謠）

名の如く小うたを集めし小冊子也。

當世武野俗談

（武野俗談を見よ）

〔東遊記〕

（東西遊記を見よ）

〔獨語〕

（名家隨筆上）

太宰春臺の著はす所、世態人情を盡して之を剖判す

るに一家の識見を以てしたるもの、採て以て處生修養の鑑戒となすべし。

〔讀史餘論〕

新井白石が將軍家宣に進講せし史論の稿本にて、古史籍の章句を採りて史實を叙し、斷ずるに犀利卓拔の見を以てせり。

徳和歌後萬載集

四方赤良即ち蜀山人天明五年の撰にて、江戸狂歌の粹は擧げて此内にある也。

〔土佐日記〕

（平安日記）

承平四年紀貫之が土佐守の任滿ち海路京都に歸れる時の紀行にて、國文中最も尊ばるゝものの一也。

都鄙問答

（心學道話）

心學の開祖梅巖石田勘平の著にして、最もよく心學の主義とする所を窺ひ知るべき書也。

ト

東海紀行とうかいき かい

(日記紀行)

井上通女の作、通女が天和元年十六歳の秋郷里丸龜を出でて江戸に到れる日記也。

東海道中膝栗毛とうかいだうちうひざくりけ

十返舎一九の作、彌次郎兵衛北八を以て最も人口に膾炙せる徳川時代隨一の滑稽小説也。

東海夜話とうかいやわ

(禪林法話)

有名なる澤庵和尚の法話にして、假名交り文と漢文と相交はれり。

東關紀行とうくわんきかう

(日記紀行)

仁治三年の秋京都より鎌倉に至れる紀行文にて、作者は普通親行と稱せらるれど定かならず。文致圓轉にして愛すべし。

東歸とうき

(岡部日記の一名)

東齋隨筆とうさいずいひつ

(宇治拾遺附錄)

一條兼良が、十訓抄、著聞集等の古書より抄錄收集したるもの、本朝にて隨筆の名を稱するは此書を初とす。

東西遊記とうさいいうき

橘南谿の著、天明二年の秋より翌三年の秋まで山陽九州四國をめぐり、同四年秋より六年夏まで東海東山北陸諸州を巡遊せる折の筆錄也。奇事異聞に富み文亦愛誦すべし。

藤樹先生遺稿とうじゆせんせいゐる かつ

(中江藤樹)

藤樹の漢詩漢文を萃めたるもの、因て以て其須臾も道に離れざるの襟懷を窺ふべし。

藤樹先生書簡雜著とうじゆせんせいしよわんざつちよ

(中江藤樹)

名の如く藤樹の書簡と雜著との合集にて、其諄々敦

かといふ。

てふはながたみいかのしまだい
蝶花形名歌島臺

(名作集下)

若竹笛舸、中村魚眼の淨瑠璃丸本にて、其小坂部音近の二人の孫笹市松太郎の仕合の一節の如き、最も人の喜ぶ所也。

ツ

つうせくかんそ ぐんたん
〔通俗漢楚軍談〕

作者夢梅軒は傳詳ならず、漢楚興亡の事蹟を叙したるものにて、或一部の書の翻譯又は翻譯にあらず、廣く諸史小説を涉獵して作れるもの也。

つうせくさんごくし
〔通俗三國志〕

作者文山の傳詳ならず。元の羅貫中の説に基づき、晉の陳壽の三國志を參考して漢の建寧より晉の大康に至る百餘年間の治亂を記せる歴史小説也。

おれものがたり
つくし船物語

村田春海作の擬古小説にて、もと「つくし船」は大井三位物語と稱して構想せるものの第一卷なりしを、第二卷以下成らで止みしより、これに物語の名を附して單行せる所といふ。

つらち よみ
〔藤篋冊子〕 (上田秋成)

上田秋成の歌文集にして、門人の編纂する所也。

つる
鶴のさうし

宰相にて右兵衛督を兼ねし人に助けられし鶴が、上臈に化けて妹脊の語らひをなし、其恩に報ゆるといふ筋也。

つれぐさ
〔徒然草〕

雙ヶ岡に世を背きたる兼好の所感所見錄にて、釋典を經とし老莊を緯とし、一種清新の趣味を以て筆を行りたる古今の一大隨筆也。

〔丹波興作〕 (近松中)

近松五十五歳登場、世話物二十四篇の一也。

俵藤太物語 (御伽草紙)

秀郷が龍神の仇敵たる三上山の蜈蚣を退治して、取れども盡きぬ米俵などを受け、又龍神の加護にて將門を滅する由を記せり。

〔たはれぐさ〕 (名家隨筆下)

雨森芳洲の著、其精到の見と穩健の識と、殊に其世態人情に對する一家の見識とは、之を本書に依りて窺ひ得べし。

チ

近頃河原達引 (名作集下)

れしゆん傳兵衛の淨瑠璃本也、爲川宗輔、筒井半二、奈河七五三助三人の作に係る。

〔持妙法華問答鈔〕 (日蓮上人)

問答によりて法華經の尊き所以を明らかにせるもの也。日蓮四十二歳の作。

〔椿説弓張月〕

馬琴四大小説の一にて、快傑源八郎爲朝の一生を叙したるもの也。

〔中朝事實〕 (山鹿素行)

素行先生が、大陸文明の影響を受けざりし太古時代の史實を摺摺し來りて、所謂古聖先王の道一として我國に備はらざるなきを辨じたるもの也。

〔晝夜用心記〕 (西鶴下)

北條團水の作、騙盜の色々を取集めたる物語也。

丈草發句集 (名家俳句)

編者未詳、京都の俳諧本屋井筒屋などの集めしもの

我國小説の鼻祖として尊ばるゝ傳奇的物語にて、滑稽の裏に人情を寓し、筆致簡固にして愛誦すべし。

伊達競阿國戲場 （脚本下）

千代萩と累の因果物語とをつき合はせしものにて、作者未詳也、一に「紅楓累物語」と稱す。

伊達顯祕錄 （てけんびろく）

所謂仙臺騷動の詳細を筆述せるもの、作者は未詳也。

旅のなぐさ （日記紀行）

一に西歸と稱す。加茂眞淵翁が京都より郷里遠江に歸りし時の手記にて、多く名所舊蹟を考證せり。

手枕 （雅文小説）

本居宣長が、源氏物語に六條御息所の事の始の見えざるを補はんとての作、文亦紫女の筆致に倣へり。

靈能眞柱 （たまのみなしら）

平田篤胤の著、我が古傳説に基きて天地開闢の説をなし、之によりて日本が宇内萬邦の宗たる所以を辨じたるもの也。

玉水物語 （たまみづものがたり）
（御伽草紙）

狐高柳宰相殿の姫君を戀ひ慕ひ、玉水姫といふ侍女になりて仕ふる話也。

〔歎異鈔〕 （たんにせう）
（親鸞聖人）

法語を鈔録したるものにて、選者は唯圓房といふ説眞なるが如し。

〔檀那山人藝舍集〕 （たんなさんじんげいしやしふ）
（太田南畝）

蜀山人の狂詩集也。

壇浦兜軍記 （だんのうらかぶとぐんぎ）
（名作集下）

文耕堂、長谷川千四の合作にて、景清と箕尾谷四郎との事を以て脚色せるもの也。

ッが」云々の句は實に此内にある也。

〔尊號眞像銘文〕
（親鸞聖人）

名號の偉徳と傳師の鴻恩とを彰はすもの、親鸞八十
三歳の作也。

會呂利狂歌咄
そろりきやうかばなし

醒睡笑の作者安樂庵の作る所といへど定かならず。
一段ごとに狂歌を以て結び、毎段の小話之が序引を
なす、狂歌の伊勢物語とも稱すべし。

タ

〔大經師昔曆〕
（戀八卦柱曆の一名）

太祇句選
（名家俳句）

俳人嘯山雅因二人の選ぶ所、後編は門人五雲坊必化
の編なり。

〔大職冠〕
（近松下）

近松六十一歳上場の時代淨瑠璃也。

たいのやひめ
（いばやのさうしの一名）

大佛供養物語
（御伽草紙）

東大寺供養に於ける叡山、園城寺、奈良の僧の説法
傾聽するに足るものなく、賴朝遂に辭退して止まざ
る法然上人を強ひて請じて説法せしめ、聽衆皆感激
せりといふ筋也。

〔太平記〕

四十卷、花園帝の文保二年より後村上帝の正平二十
二年迄凡そ五十年間の戦亂の狀を記したるもの、所
謂南北朝時代の記事擧げてこの内に在り。作者は小
島法師とて兒島高德遁世後のすさびといふ説今一
般に行はるれど定かならず。

〔竹取物語〕

川柳選、武玉川選、冠附選、狂詩選より成り、山椒氏が特に本文庫の爲めに選輯する所也。

〔世話文章〕
せわ おんしやう (萬の文反古の一名)

ソ

草木太平記
さうもくたいへいき (御伽草紙)

一むら薄、八重櫻、小萩、梅、楠等を擬人したる物語にて、草木に因みたる地口殊に巧妙也。徳川時代の作ならん。

〔曾我會稽山〕
そが かいけいざん (近松下)

近松六十六歳當場の時代物にて、三大傑作と稱せらるゝものの一也。

〔曾我物語〕
そが ものがたり

曾我兄弟の讐討の事を詳細に綴りたるものにて、室町初期の作に係り、作者未詳也。

續一休咄
ぞく いっしゅうばふし

一休咄に繼ぎたるものにて、作者也來の傳は詳ならず。

〔俗耳鼓吹〕
ぞくじく する (太田南畝)

蜀山人の隨筆、歌曲、戯曲に關する記事多し。

〔俗つれづれ〕
ぞく つれづれ (西鶴俗つれづれを見よ)

そしり草
そしり ぐさ (平賀源内)

源内作として人口に膾炙するものなれどいかゞはし。史上有名なる幾多の人物を拉し來りて痛罵せるものにて、謂ふ所概ね淺薄なる一家言也。

〔曾根崎心中〕
そね ざきしんちゆう (近松上)

近松會心の傑作にして、元祿十六年彼が五十一歳の時の登場なれども、或は世話物の初作かとも稱せらる。一代の碩學物徂徠をして驚歎措く能はざらしめし「あれ數ふれば曉の七ツの時が六ツ鳴りて殘る一

〔關取千兩 幟〕

(傑作集)

半二外五人の作、關取岩川を主人公とせる有名なる丸本也。

〔世間妾形氣〕

(上田秋成)

作者秋成壯時の作にて、八文字舎本の形氣物に倣ひたる小説也。

世間子息氣質

(八文字舎)

其續の作、所謂形氣物の最初の作として尊重せらるるもの也。

世間娘容氣

(八文字舎)

其續の作、所謂形氣ものの一也。

〔蟬丸〕

(近松上)

近松四十九歳の登場、時代もの也。

〔千紅萬紫〕

(太田南畝)

蜀山人の狂歌狂詩狂文の雜集也。

〔千載和歌集〕

後白河院の宣旨によりて、後鳥羽院の文治四年藤原俊成の撰進せる所也。

〔撰時抄〕

(日蓮上人)

佛教の弘まるべき時、佛教を學ぶべき機根等を陳べて、法華宗の益々榮ゆべき事、並に自己が獨り佛教の極意を得たる事を揚言せるもの、日蓮の面目句々の間に躍如たるを見る。

先哲像傳

江戸の儒者得齋原義胤の編にて、徳川時代の儒者數十家の肖像と筆跡とを影寫し、極めて的確なる材料を以て其傳を叙したるもの也。

川柳狂詩集

作者秋成が肚時の戯作にて、八文字舎本の系統を追ひたる一種の短篇小説集也。

ス

菅笠日記 すががさだつぎ (日記紀行)

本居宣長の吉野花見の紀行にて、其大部分は地理歴史に關する考證也。

菅原傳授手習鑑 すがはらでんじゆてならひかきみ (傑作集)

出雲外二人の作に係り、芝居に所謂寺子屋の丸本也。

住吉物語 すみよしものがたり (平安物語)

一種の古代人情小説也、原作早く亡び、今現存せるは鎌倉時代の假托の作に過ぎず。

駿臺雜話 すんたいざつわ (名家隨筆上)

室鳩巢の著はす所、その義理明晰にして道を誨ふるの懇到なる、寔に一部の好修養書と稱すべし。

セ

井華集 せいくわしよ (名家俳句)

蕪村の高足高井凡菫が自選の句集也。

西歸 せいき (旅のなぐさの一名)

聖敎要錄 せいけうえうろく (山鹿素行)

三卷、渺たる小冊子なれども、當時の爲政者と官學者流との探りて以て唯一の信條とせる程朱學を斥けたる一大文字にして、素行先生の識見と立脚地とを窺ふべき重要な述作也。

醒睡笑 せいするせう

徳川初期の有名なる茶人安樂菴策傳が、一代の名奉行板倉重宗の爲に、聞き集めし笑話を記して贈りたるもの也。

西遊記 せいいうき (東西遊記を見よ)

世に至る迄百餘年間に於ける名將傑士の言行を萃錄せるもの、古武士の意氣精神躍如として卷中に漲り、以て士人修養の鑑戒となすべし。

〔消息文類〕 (日蓮上人)

日蓮の消息四十篇を選集したるものにて、其四十九歳より六十一歳に及ぶ迄のもの也。

〔詔勅集〕 (神武天皇より明治天皇に至る迄の御歴代の詔勅宣命等を、最も信憑すべき材料によりて當編輯局が謹撰せるもの也。)

神武天皇より明治天皇に至る迄の御歴代の詔勅宣命等を、最も信憑すべき材料によりて當編輯局が謹撰せるもの也。

〔淨土三經 往生文類〕 (親鸞聖人)

親鸞八十五歳の輯にして、三經の眞假、往生の勝劣を示せるもの也。

〔淨土文類聚鈔〕 (親鸞聖人)

「教行信證」六卷中より精髓を鈔出したるもの也。

〔松樓私語〕 (太田南畝)

蜀山人が妾しづより聞きて記せる吉原松葉屋の年中行事也。

〔初學訓〕 (益軒下)

益軒の著、竹田定直の序中に、「書名の意は纔に初學の人の助となるべきものといふにあらんも、其言簡にして其旨ひろく、諸訓中特に親切著明の懿訓なり」といへり。

書簡集 (しよかんしふ)

武笠三氏が特に本文庫の爲に編纂せるものにて、古人の書翰凡そ一百六十餘通、上は鎌倉時代より下は明治の初に至る。

〔蜀山自筆百首狂歌〕 (太田南畝)

蜀山老後得意の狂歌百首を自撰せるもの也。

〔諸道聽耳世間猿〕 (上田秋成)

を披瀝するに當り、鎌倉の官憲が加へたる壓迫の次第を手記せる記録にして、當時の真相羅如として字句の間に溢る。

〔出世景清〕
しゆつせかげきよ (近松上)

近松三十四歳の時の登場に係る、時代物也。

出定笑語
しゆつぢやうせうご (直毘靈外二種の附録)

平田門人の輯錄せるものにて、篤胤の佛教攻撃演説の筆記也。

酒吞童子
しゆてんどうじ (御伽草紙)

例の大江山の酒吞童子の暴威と頼光、定光、季武、綱、金時、保昌等の武勇とを綴りたるもの也。

春泥發句集
しゆんでいはつくしふ (名家俳句)

蕪村門下の俊足召波の句集にて、其子維駒の編に係る。

〔春波樓筆記〕
しゅんぱろうひつぎ (名家隨筆下)

一代の奇才、西洋畫の先覺として仰がるゝ司馬江漢の筆にして、文は甚だ蕪雜なれども、其謂ふ所は遠く時流の上に出て、傾聴に値するもの甚だ少なからず。

松翁道話
しやうおうだうわ

布施松翁の著、心學道話書中の代表的述作也。

松月鈔
しやうげつせう (近代歌謠)

琴の組歌の註釋書中最も古きものにて、元祿七年吉田邑琴子の著也。

正眼假名法語
しやうげんかな ほうご (禪林法語)

正眼國師の法語にて、談話體にて最も平易に禪學の要旨を述べられたるもの也。

〔常山紀談〕
じやうざんきたん

備前岡山の碩學湯淺常山が、戰國時代より徳川の初

神靈矢口渡 (平賀源内)

源内の淨瑠璃中最も有名なるものにて、材を新田義興義峯兄弟に取り、兵庫之助、南瀬六郎の忠節を配して、最も悲壯を極む。

釋迦如來誕生會 (近松上)

近松四十三歳の登場、時代もの也。

拾遺愚草

藤原定家の詠集也、和歌の技巧的方面を窺はんとするものの必らず窺はざるべからざるもの也。

拾遺和歌集

花山院の勅により公任の撰したるもの、又花山院の親撰ともいふ。古今、後撰と共に勅撰三代集と稱せらる。

集義和書

蕃山の著述中主要なるものにて、書簡五卷、心法圖

解一卷、始物解一卷、議論九卷より成る。

十萬堂來山句集 (名家俳句)

俳諧五子稿中の一篇也。來山の句には詼諧の中に蕭散の氣ありて、談林と蕉風とを融和せる趣ありと稱せらる。

守護國家論 (日蓮上人)

日蓮三十八歳の作、淨土宗の法然上人が著はす所の「選擇集」を以て謗法の書となし、其根本の誤謬を論斷し、法華經の尊むべき所以を明にしたるもの也。

主師親御書 (日蓮上人)

「釋迦佛は我等が爲めには主也師也親也」と説き起して、その尊貴すべき所以を述べたるもの、日蓮三十四歳の筆也。

種々御振舞御書 (日蓮上人)

日蓮が鎌倉に於て法華の大義を怒號し憂國の熱情

海音作、お千代半兵衛の心中を叙したる丸本也。

〔心中萬年草〕（近松中）

近松五十六歳の登場、世話物二十四篇の一也。

〔心中刃は氷の朔日〕（近松中）

近松五十八歳の登場、世話物二十四篇の一也。

〔心中宵庚申〕（近松下）

近松七十歳、世話物二十四編中の最後の上場に係るもの也。

〔神皇正統記〕

南朝の忠臣北畠親房が兵馬倥傯の際に述作せるもの、神代より始めて代々の史蹟を歴叙したれども、その眼目は皇統の正潤を辨じ、治亂の因果を明かにするにあり。

新版歌祭文（名作集上）

新編水滸畫傳

近松半二作の世話物淨瑠璃丸本にて、お染久松の狂言也。もと大阪油屋の丁稚久松が主人の娘に染二歳を守して川に落し、土藏の裡にて縊死せる事實を仕組めるものといふ。

〔新葉和歌集〕

宗良親王撰の准勅撰集にて、多く南朝君臣の熱血湧くが如き歌を輯む。

〔親鸞聖人御消息集〕（親鸞聖人）

親鸞が門弟に興へたる法語及び消息の集にて、覺如上人の編に係る。

〔詞花和歌集〕

近衛天皇の仁平年中、藤原顯輔の崇徳院の勅を奉じて撰進したる歌集にて、收むる所僅に十卷四百九首。

〔繁野話〕

(古今奇談繁野話を見よ)

糸竹初心集

(近代歌謠)

一節切琴三味線の手引として著はされし書也。

七偏人

(妙竹林話七偏人を見よ)

〔士道〕

(山鹿素行)

素行先生の言論を門人等の蒐錄せる「山鹿語類」の第廿一卷士道の部を抽出せるもの也。

しみのすみか物語

(石川雅望)

六樹園作、今昔物語の類に倣ひるたる奇聞逸話の集也、内容變化に富み、文また擬古文の上乗なるものといふべし。

〔新古今和歌集〕

後鳥羽院の勅によりて定家家隆等の撰せる和歌集にして、主として技巧的方面に優れたる和歌を萃む。

新撰朗詠集

(古代歌謠)

和漢朗詠集の後を續ぎて和歌詩句を萃めたるものにて、藤原基俊の撰する所也。

〔心中重井筒〕

(近松上)

近松五十二歳の登場、世話物二十四篇中の一也。

〔心中天の網島〕

(近松下)

かみや治兵衛、紀伊國屋小春を主人公とせる世話物也、近松六十八歳の登場に係る。

〔心中二枚繪草紙〕

(近松中)

近松五十四歳の登場、世話物二十四篇の一也。

〔心中二つ腹帯〕

(傑作集)

もの也。

さんじつこくよがねのはじまり
三十石 艦始 (脚本上)

並木正三作の脚本にて、川浦遊軒(川村瑞軒)の淀川
工事を骨子とし、之を大隠謀として幾多の人物事件
をあやなしたる狂言也。

さんげんさんけ さうし
三人懺悔冊子 (三人法師の一名)

さんげんはふし
三人法師 (御伽草紙)

一名三人懺悔冊子といふ、高野山にて遁世の法師三
人相會して互に出家の來歴を語る筋也。

さんやうし めん
〔山陽史論〕

頼山陽の著「日本外史」及び「日本政記」中の論文を
採りて假名交り文に書き改めたるもの也。

さらしなにつき
〔更科日記〕 (平安日記)

菅原孝標の女の作にて、治安三年父に従ひて京に上

りし事より、夫俊通の病歿までに及び、其間約四十
年間なれど、始めは密にて終は甚だ粗也。

さるげんじ さうし
猿源氏草紙 (御伽草紙)

伊勢阿漕浦の鯛賣の女婿猿源氏が某大名と詐稱し
て遊女螢火を招き、寢言によりて化の皮の現れんと
するや、種々の古歌にて之を辨解したるものにて、
歌才を衒はんとての作なるべし。

さるまはしかどでのひとふし
猿曳門出 諷 (脚本上)

作者未詳、或は奈河龜助の孫弟子たりし篤助の作か
ともいふ。例のおしゆん傳兵衛の狂言也。

シ

し じんせう
〔四恩鈔〕 (日蓮上人)

日蓮四十一歳流寓中の作、其心事と行動とを録して
工藤左近尉に送れるもの、四恩とは一切衆生の恩、
父母の恩、國王の恩、三寶の恩の謂也。

はれたる群小説の一にて、袂衣大將と源氏宮とを主人公とす。作者未だ定かならず。

さゝれいし (御伽草紙)

十二代成務天皇の卅八人目の姫宮さゝれ石の宮といふに托して佛徳を述べたるもの、宮の名は「君が代」の歌に基く也。

さし藻草 (禪林法話)

二卷、白隱禪師が「何國何某侯の殿下近侍の諸賢の需めに應じて書せし草稿」といふものにて、殊に婦人の害を詳述せり。第一卷の末に「勸發菩提心偈」といふものを掲ぐ。

ざっげい 雜藝 (古代歌謠)

五節の謠ひ物の類也、本文庫には諸書に散見せる古き舟歌田植歌の類をも附加したり。

さつまうた 薩摩歌 (近松上)

近松五十二歳の時の登場にて、世話物二十四篇の一

也。

さぬきのすけ 讃岐典侍日記 (平安日記)

沖の石の讃岐が宮女生活中の筆録にて、上巻は嘉承二年堀河御惱より崩御の事に及び、下巻は鳥羽の御即位より大嘗會の大略などを記せり。

さんか てうちうか 山家鳥虫歌 (近代歌謠)

京都大學藏本にて上下二冊あり、諸國盆踊唱歌の外題にて、我自刊我本書中に收めたるものの原本なるべしといふ。

さんか わかしふ 山家和歌集

詩僧西行法師の詠を萃めたるもの、其神韻縹渺として超俗の趣に富める幾多金玉の什は、これを本集の中に求むべし。

さんげんか きよくかい 三阮歌曲解 (近代歌謠)

上方唄の散紅葉と雪とを採りて鹿持雅澄が評釋せる

平安第一の女流歌人小野小町の傳説を潤色し、寓するに佛道勸獎の意を以てせるもの也。

サ

〔西鶴置土産〕（西鶴上）

西鶴作、傾城買の末路昔大盡の身の上話也。

〔西鶴織留〕（西鶴下）

西鶴作、一二の卷は町人鑑、三五四六の卷は世の人心にして、一種の通俗教訓小説ともいふべし。

西鶴句集（名家俳句）

藤井博士が本文庫に收めんが爲めに編纂せられしものにて、諸種の句集短冊等より七八十句を收輯せり。

〔西鶴諸國ばなし〕（大下馬の一名）

〔西鶴俗つれづれ〕

西鶴作、主として酒色に關する話を集めたるもの也。

〔西鶴文反古〕（萬の文反古の一名）

わんぐみ（御伽草紙）

原本「さかき」と誤れり。うだの佐伯といふ者京に上りて一上臈と親しみ、國に歸りて後その妻の發心によりて三人何れも出家すといふ本地もの也。

催馬樂（古代歌謠）

古代に於ける俗間の俚謠にして、當時の人情風俗の反映とも稱すべきもの也。

〔最明寺殿百人上臈〕（近松上）

近松五十一歳の登場、時代物也。

〔西遊記〕（繪本西遊記を見よ）

狹衣物語

四卷、平安朝の半期以後源氏物語を紛本としてあら

もの也。

〔滑稽五十三驛〕

(東海道中膝栗毛の一名)

滑稽和合人

瀧亭鯉丈作、四編は爲永春水の補ふ所の滑稽本にて、其趣向は多く茶番狂言の駄洒落を出でず。

骨董集

山東京傳の考證的隨筆にて、徳川時代俗間風俗の研究に最も恰好の資料也。

五大力戀緘

(脚本下)

並木五瓶の作、初め「島巡戲聞書」と稱し、琉球を舞臺とせるものなりしが、後其初三段を削り、四段以下を潤色して好評を博せるものといふ。源五兵衛菊野の狂言也。

胡蝶物語

(御伽草紙)

春秋の花にのみうき身をやつしたる胡蝶と諱名されし隠士の、一朝母を失ひて草木の色香にめでて道心を失はんを恐れ、それをだに捨てて行ひ澄せるが許へ、一夜花の精數多の美人となりて來り教化を請ふといふ筋也。

古道大意

(直毘靈外二種の附録)

平田門人の輯録する所にて、篤胤が國學の主意とする所を平明に説明せる講義書也。

木幡ざつね

(御伽草紙)

山城木幡の老狐の女きしゆ御前當時第一の才子三位中將と契を重れ、一男を儲けしが、犬を獻ずるものありしが故に逃れて木幡の古塚に歸り、ついで出家遁世せりとの話也。

〔碁盤太平記〕

(近松中)

近松五十四歳の登場、時代もの也。

小町草紙

(御伽草紙)

二十卷、橋成季の撰著にして、今昔物語、江談抄等の跡を繼ぎ、世に遺れる各種の物語を分類彙輯せるもの也。

古事記こじき

今日に傳はれる我國史中最古最貴の典籍にて、天武天皇が稗田阿禮に誦み習はしめしものを元明天皇の朝太朝臣安麻呂の聞き書きしたるものなる事普く人の知る所也。

後拾遺和歌集ごしよゐわかしふ

白河帝の勅により藤原通俊の撰集したものに、勅撰第四の歌集也。

五十年忌歌念佛ごじふねんぎうたねんぶつ

近松五十七歳の作、世話物二十四編の一也。

五常訓ごじやうくん

(益軒上)

益軒が仁義禮智信等所謂「五常の道」について諄々

として其本義を説きたるもの也。

御所櫻堀川夜討ごしよざくらぼりかはようち

(名作集下)

文耕堂、三好松洛合作の淨瑠璃丸本にて、其辨慶上使の段の如き、今なほ盛にもてはやされつゝある也。

後撰和歌集ごせんわかしふ

古今集に後るゝこと四十六年、村上天皇の天曆五年に、源順、大中臣能宣等所謂梨壺の五人が撰出せるもの也。

悟窓漫筆ごそうまんびつ

(名家隨筆上)

太田錦城が其該博なる蘊蓄を傾倒して、漢宋明清諸儒の註誤を匡し、學者をして必らず中正の見地に住せしめんと試みたるもの也。

碁太平記白石噺ごたいへいきしらishiばなし

(名作集下)

烏亭焉馬、紀上太郎、容揚黨、焉烏旭、三津環合作の淨瑠璃丸本にて、宮ぎの、しのぶを以て有名なる

れる折の手記にて、其天才的筆致は奇警なる觀察と相俟つて遠く清女の壘を摩する概あり。

〔好色五人女〕
かうしよくごにんをんな

(西鶴下)

西鶴作、好色本中の白眉にて、姫路のお夏、大阪のお仙、京のお三、江戸のお七、薩摩のお萬等の事實に基きたる短篇小説也。

〔古今和歌集〕
こきんわかしふ

勅撰歌集の權輿にして、醍醐天皇の延喜五年紀貫之以下五人の歌人が撰したるもの、收むる所二十卷一千一百首、何れも國歌の精髓也。

〔國性爺合戰〕
こくせんやかつせん

(近松下)

近松三傑作と稱せらるゝものの一にて、近松時代淨瑠璃中最も愛誦すべきもの、その六十三歳の登場に係る。

護國女太平記
こくをんなたいへいぎ

講談柳澤騷動の種本にて、柳澤吉保一代の詳細を叙したるもの也。作者未詳。

古今夷曲集
ここんい きよくしふ

浪花の人行風號は生日堂の編にて、古へより其當時迄の狂歌を萃む。狂歌の沿革を窺ふべき絶好書也。

古今奇談 繁野話
ここんき だんしやくやわ

「英草紙」を古今奇談前編といへるに對し、これは古今奇談後編と稱せり。前者と同じく近路行者の作に係り、全く前者と同一性質のもの也。

古今奇談 英草紙
ここんき だんばなふさざうし

近路行者の作の小説、清朝の今古奇觀を粉本としたるものにて、文章頗る漢臭に富みたれども、又適勁捨て難きものあり。江戸讀み本の先驅をなしたるもの也。

古今著聞集
ここんちよもんしふ

〔源氏物語〕
げんじ ものがたり

平安朝の女文豪紫式部の著はす所、當時の上流社會が理想とせる男女の典型ともいふべき源氏の君と紫の上とを主人公とせる一大人情小説にして、上下三千載の文學中また他に匹を見ざるもの也。

〔源氏冷泉節〕
げんじ れいせいおし (近松上)

近松三十六歳の登場、時代もの也。

〔源平盛衰記〕
げんぺいせいすうき

四十八卷、葉室時長の作といへど確ならず。二條天皇應保年中より安徳天皇壽永年中に至る二十二年間を骨子として源平盛衰の跡を叙したるもの也。記事平家物語に似て更に叙述の精細を極む。

玄峰集
げんぽうしふ (名家俳句)

百萬坊旨原の編、嵐雪の句集にて、後に「嵐雪句集」と改題す。四季の末に藤井博士の蒐むる所を追加せり。

〔顯謗法鈔〕
けんばうほふせう (日蓮上人)

日蓮上人四十一歳の作、卷頭に「第一に八大地獄の因果を明し、第二に無間地獄の因果の輕重を明し、第三に問答料簡を明し、第四に行者弘經の用心を明す」といへり。

コ

小敦盛
こあつもり (御伽草紙)

一の谷の合戦に討死せし敦盛の一子を主人公として、其母君、法然上人、熊谷入道等を配し、敦盛の亡魂を出して父子の恩愛を叙したる因果話也。

〔戀八卦柱曆〕
こひはつぱはしらごよみ (近松中)

近松五十四歳の登場、世話物二十四篇の一也。

庚子道の記
かうしのみち (日記紀行)

武女といへる白拍子が享保五年尾張より江戸に歸

稗史億說年代記

(黃表紙)

式亭三馬の畫作、話の筋は鉢かづき姫の事なるが、之を假りて稗史の變遷を寫し、作家畫家の名字を集め、當り作、畫風、板元迄記して、而も始終一種の興味を以て之を行りたるもの也。

癩癖談

(上田秋成)

扁々たる寓話に附するに單刀直ちに肺腑を刺す底の著者秋成一流の短評を以てせるもの也。

愚禿鈔

(親鸞聖人)

親鸞八十三歳の作、教義と信仰とにつきて、己證の領解を述べたるもの也。

君子訓

(益軒上)

貝原益軒の著、名の示すが如く君子人の道を訓へて懇篤を極めたり。

ケ

桂園一枝

香川景樹の家集也、その天才的にして一種清新の氣に富みたる幾多の詠作は之を本集中に求むべし。

傾城阿波の鳴門

(名作集中)

名代近松門左衛門作者近松半二以下四人の淨瑠璃丸本にて、近松の世話物夕霧阿波鳴渡より轉化して、例の事件本位の大仕組となしたるもの、十郎兵衛が弓と巡禮とを以て最も人口に膾炙せり。

傾城酒吞童子

(近松下)

近松六十六歲登場の時代もの淨瑠璃也。

傾城反魂香

(近松中)

近松五十三歳の登場、時代もの也。

源氏烏帽子折

(近松上)

近松四十七歳の登場、時代もの也。

蜀山人作、小倉百人一首のもじり也。

〔教行信證〕（親鸞聖人）

「顯淨土眞實教文類一」より「顯淨土方便化身土文類六」に至る六卷の總稱にして、他力本願の實意を顯はし念佛の奥儀を大成せる淨土眞宗開闢の根本寶典也。

狂言記

繪入狂言記と題して元祿年間に大成せられたる刊本四部二十冊二百番を收む。和泉流狂言の詞書也。各書の題目は五十音順に排列して之を本書下卷の卷末に收め、且略解題を施し置きたれば、今略に従ふ。

俠詞花川戸（脚本下）

並木五瓶作の脚本にて、「幡隨院長兵衛精進組」の改題、「平井權八吉原衢」の前身といふ、白井權八小紫の狂言也。

曲亭一風京傳張（黃表紙）

馬琴作、畫者未詳、京傳の店にて賣る煙管を材料としたる因縁咄也。

馭戎慨言

本居宣長の著、上古より織豊時代迄の間に於ける外國との交渉の顛末を叙して之を評論し、貫くに尊内卑外の大精神を以てせるもの也。

去來發句集（名家俳句）

蝶夢の編する所、別に五子稿にありて本書に洩れたるものを拾ひて附録とせり。

羈旅漫錄（日記紀行）

曲亭馬琴の作、享和二年五月江戸を立ちて京阪に遊び、同四月歸來せる迄の各地の隨見隨聞の筆錄にて、一種の隨筆とも稱すべく、東海及び京阪の人情風俗を窺ふに絶好の書也。

ク

たるもの、日蓮五十一歳の作。

金槐和歌集 きんくわいわかしふ

雄渾壮大直ちに萬葉の壘を摩したる歌人實朝の家集也。

琴後集 きんごしふ

村田春海の歌文集也。春海の文はその漢文の精髓を寫して擬古文に一種勁雋の致を添へたる點に於てまた他に其比を見ざる妙味を有せり。

近世江都著聞集 きんせいえいどちよもんしふ

(江戸著聞集の一名)

近世畸人傳 きんせいいきじんてん

閑田子伴蒿蹊が、其友三熊花顚子の蒐集せる材料を刪補して作る所、主として民間無名の士の奇行の高節を録す。正當の插畫は花顚、續篇のは其妹露香の畫く所也。

〔近世說美少年錄〕 きんせいせつびせうねんろく

馬琴の作、戰國時代の二雄毛利元就、陶晴賢を拉し來りて之を善惡二種の美少年に假作して主人公としたるもの、其局面の變化よりも寧ろ人物の性情描寫に努めたるは、馬琴作品中の一異彩と稱すべし。

〔金葉和歌集〕 きんえふわかしふ

崇德天皇の大治二年、源俊賴が白河院の院宣を蒙りて撰したる和歌集にして、收むる所十卷六百四十九首、此集に至りて始めて連歌を收むるを見る。

鳩翁道話 きうをうだうわ

柴田鳩翁の著、心學の道話集中最も有名なるもの也。

九州道の記 きうしうみちき (日記紀行)

當時の歌聖玄旨法印細川幽齋の作、天正十五年四月居城田邊を出で、九州に到り、歸路山口、宮島、姫路等を経て大阪に到れる紀行也。

〔狂歌百人一首〕 きやうかひやくにんいつしふ (太田南畝)

ぐれて鎌倉に召されありしが、頼朝木曾を追討せんとす
と聞きて竊かに木曾に内通し、その旨を受けて頼朝
を殺さんとして成らず、石の牢獄に投ぜられしが、
其女萬壽姫の孝心によりて遂に救げるといふ筋也。

〔唐物語〕 （平安物語）

支那の故事をなだらかなる邦文に書き下したるも
の也 鎌倉初期の作ならん。

荻萱桑門筑紫轅 （名作集上）

並木宗輔、同丈輔作の淨瑠璃丸本にて、石童丸を以
て最も人口に膾炙せるもの也。

キ

祇園女御九重錦 （名作集上）

若竹笛躬、中邑阿契合作の淨瑠璃丸本にて、三十三
間堂平太郎縁起といふものは也。

其角發句集 （名家俳句）

坎窩久藏の考訂にて、小本二冊の中に五元集の句を
四季に分ちて收めたるもの也。

歸家日記 （日記紀行）

通女の著、多年江戸に在りし著者が、其主養性院の
逝去の後、三田茂左衛門に嫁して郷里丸龜に歸れる
際の紀行也。

紀唱歌集 （古代歌謠）

日本紀及び古事記中の歌を萃めたるものにて、林諸
鳥の編纂せるを底本とせり。

〔義經記〕

義經辨慶の武勇談にして、室町初期の作なるべきも
作者は詳ならず。

〔祈禱鈔〕 （日蓮上人）

法華經を以てする祈の最も驗果著しき所以を述べ

假名文章娘節用

曲山人の筆に成り、人情本中最も出色あるものの一にて、有名なる小三金五郎を主人公とせるもの也。

歌舞妓草紙

（御伽草紙）

に國が北野の社頭にて念佛踊を興行せし際、見物の中より名古屋山三郎の亡靈現れ出で、互に懷舊の情を叙する筋也。

鎌倉三代記

（名作集中）

紀海音作の淨瑠璃丸本にて、名の如く鎌倉時代の著名の人物を拉し來りて脚色せるもの也。

竈將軍勘略之卷

（黃表紙）

時太郎可候畫作と署す。可候は浮世畫の泰斗として其名今や世界的となれる葛飾北齋の戲名にて、本書は黃表紙に於ける彼が處女作也。

鎌倉諸藝袖日記

多田南嶺の筆として世に知らる。鎌倉諸勇士の席話に擬して世のさまぐの人情を寫したる小説也。

鎌倉北條九代記

（北條九代記を見よ）

〔諫諍錄〕

（益軒先生與宰臣書の一名）

〔漢楚軍談〕

（通俗漢楚軍談を見よ）

閑田耕筆

閑田子伴蒿溪の隨筆にて、其該博なる蘊蓄の讀者を利するもの鮮少にあらざるを見る。

賀茂翁家集

加茂眞淵の家集、本文庫は和歌の部のみを採りたり。以て萬葉風なる翁の男々しき詠作を味ふべし。

唐糸草紙

（御伽草紙）

木曾殿の侍手塚太郎光盛の女唐糸の前琵琶彈琴にす

加賀見山かどみやま 舊ふる 錦繪にしきえ (名作集下)

容揚黛作の淨瑠璃丸本也。其に初を以て有名にて、今も芝居道に珍重せらるゝ事人の知る所也。

〔家訓〕かくん (益軒上)

益軒先生の家訓にして、「聖學須勤」「幼兒須教」「士業勿怠」の三條より成る。

神樂歌かぐらうた (古代歌謠)

神祇を祭る舞樂の謠ひ物にて、其多くは古歌を材とせり。

花月草紙くわげつそうし

松平定信の隨聞隨感の筆錄にして、其文遒勁典雅、此種隨筆文中罕に觀る所也。

〔蜻蛉日記〕かかげふねづき (平安物語)

右大將道綱の母として百人一首に有名なる藤原兼家の室の目錄にて、天曆八年より以後約二十年に涉

る記事也。

花鳥風月くわてうふうげつ (御伽草紙)

葉室中納言の邸にて人々扇合を催し、其一つの畫の業平か光源氏か決し難きに遭ひて、花鳥風月といふ姉妹の女巫に卜はしむといふ話也。

〔家道訓〕かたうくん (益軒下)

益軒先生八十二歳の作、家を治め身を修むるの道を述べて餘蘊なきもの也。

〔假名世説〕かなせせつ (太田南畝)

蜀山人が夫の「世説」に倣ひて近世の逸話名言等を蒐めたるもの也。

〔假名手本忠臣藏〕かなてほんちゆうしんぐら (傑作集)

出雲外二人の作、四十七士の義舉を材とし、大石良雄の苦心を脚色したる有名なる丸本也。

〔女殺油地獄〕（近松下）
をんなころしあぶらのちたに、

近松六十九歳の登場、世話物二十四編の一也。

遠羅天釜（禪林法話）
をらてがま

白隱禪師の「答鍋島攝州侯近侍書」「贈遠方之病僧書」「答手法華宗老尼之問書」及び續集として「答念佛與公案優劣如何問書」を輯めたるもの也。

〔織留〕（西鶴織留を見よ）
おりどめ

カ、クワ

〔改元紀行〕（太田南畝）
かいげんきかう

蜀山人が享和元年官命を帯びて東海道を旅行せし折の紀行也。

廻國雜記（日記紀行）
くわいこくざつぎ

道興准後の作、文明十八年六月京を出て北陸東海諸州を歴遊せる紀行也。

海道記（日記紀行）
かいだうき

貞應二年四月上旬京都を立ち、東海道を經て鎌倉に到れる紀行にて、作者に關しては諸説ありて定かならず。普通には光行作と稱せらる。

懷風藻（名家詩集附錄）
くわいふうそう

淡海三船の撰輯する所にて、我國詩集の權輿也、以て我國上代の詩風を窺ふべし。

〔開目鈔〕（日蓮上人）
かいもくせう

日蓮佐渡流竄中の著にして、日蓮宗の教義を敷演し、法華經が他の諸經に勝れたる事を論じ、日蓮自身法門の重器に當れる事を陳辯したるもの也。

〔鑑草〕（中江藤樹）
かみぐさ

明の顔茂猷の廻吉録を抄録して之に詳評を加へたるもの、原説に準れて佛説に因はれたる所なきにあらねど、又好女訓たるを失はず。

おきなもんだよ
〔翁問答〕

〔中江藤樹〕

藤樹三十四歳、即ち僅かに指を王學に染めたる時の作にて、文學なきものの爲めに惑を辨へ徳に入るの道を説きたるもの也。

おきみやけ
〔置土産〕

〔西鶴置土産を見よ〕

おくはとみち
奥の細道

〔日記紀行〕

松尾芭蕉が元禄六年以上磐奥羽より北陸諸國を経て美濃に出でたる時の最も有名なる紀行文也。

をしへぐさにようばうかたぎ
教草女房形氣

草雙紙の合巻にて、其二十五編中一編より十九編迄は山東京山の作、他は鶴亭秀賀の補訂又は述作に成り、多種多様な女房のさまを寫せるもの也。

てんべあちかごろかはらのたてひき
おしゆん傳兵衛近頃河原達引

〔近頃河原達引を見よ〕

おちくばものがたり
〔落窪物語〕

〔平安物語〕

源氏物語に先だちて出でたる人情小説にて、文章洗練叙事緊密、平安朝の一名作と稱すべし。

おどけなしうきよ
〔譚話浮世風呂〕

〔浮世風呂を見よ〕

おにつらくせん
鬼貫句選

〔名家俳句〕

不夜庵太祇の編にて、二冊五卷に分ち、卷五には紀行文を收めたり。

はつてんじんぎ
〔お初天神記〕

〔曾根崎心中の一名〕

おんざうししな
御曹司島わたり

〔御伽草紙〕

又「島わたり」ともいふ、義經北方千島に一祕卷あるを聞きて之を得んとし、四國土佐の港より舟出して幾多不思議の島々を巡り、遂に江の島辨財天の化身朝日天女と親みて、密かに大日の兵法を得るといふ筋也。

大久保武藏鑑 おほくほむさしあがみ

作者未詳、「宇都宮騷動之記」「松前屋五郎兵衛之傳」「彦左衛門功績之記」の三篇より成る。例の釣天井の話、一心太助の事、さては痛快なる彦左衛門の話篇など、悉く收めて此内にある也。

〔大下馬〕 おほげ (西鶴上)

西鶴の作、諸國の奇談を集めたるものにて、百物語の系統に屬す。

奥州安達原 あうしうあたがはら (名作集上)

近江半二、北窓後一、竹本三郎兵衛作の淨瑠璃丸本にて、袖萩に君を以て最も人口に膾炙せり。

往相廻向還相廻向文類 わうさうかうかうぐまんさうかうぐまんさう (親鸞聖人)

親鸞八十四歳の撰、經釋によりて往相廻向と還相廻向との義を明かすもの也。

樗庵麥水發句集 あふちあんばくすいはつくしふ (名家俳句)

撰者未詳、寫本として傳はれるもの也。

近江縣物語 あふみかたものがたり (石川雅望)

六樹園雅望作の小説にて、藤原保輔同齊光といへる大泥棒に配するに、佳人蘭生、才子梅丸、及び其戀仇常人等を以てせる物語也。

近江源氏先陣館 あふみけんじせんぢんやかた (名作集中)

近松半二外六人の作に係る淨瑠璃丸本にて、佐々木高綱の嫡子小四郎高重先陣の事を脚色せるもの也。

鸚鵡返文武二道 あうむがへしばんぶのふたみち (黄表紙)

・戀川春町作北尾政美の畫にて「名作二十三部」の一也。喜三二の「萬石通」の後篇とも見るべきものにて、やはり樂翁の經綸を茶化したるもの也。

岡部日記 をかべにづき (日記紀行)

加茂眞淵作、某年江戸より故郷に歸りたる時の紀行にて、一に東歸と稱す。

繪本太閤記 えほんたいがふき

名の如く幾多の繪畫を加へて豊太閤の一代を叙したるものにて、繪は大阪の畫家法橋玉山の畫く所、歴史畫として最も價值ありと稱せらる。文の作者は未詳也。

繪本太功記 えほんたいこうき (名作集中)

近松やなぎ、同湖水軒、同千葉軒作の淨瑠璃丸本にて、材を豊太閤と明智光秀に取りたるもの、其十日の段所謂十段目最も人口に膾炙せり。

宴曲 えんぎよく (古代歌謠)

朗詠及び今様の亞流にて、特に長編として發達し、用語、句法、題目、内容等何れもよく鎌倉文學の特徴を發揮せり。僧明空の徒の作歌調曲に成る。

燕石雜志 えんせきざつし

曲亭馬琴の考證的隨筆、雜學者としての馬琴の造詣の如何に甚深なりしかを窺ふに足るべきものにて、

其考證の讀者を益する事尠少にあらざるを見る。

延年唱歌 えんねんしやうか (古代歌謠)

主として南部北嶺に行はれたる僧家の舞樂にて、もと祝言の意を寓するものなること、その名の示すが如し。

オ、ヲ

〔大鏡〕 おほかがみ

藤原爲業の作といふ。文德帝の嘉祥三年より後一條の萬壽三年に至る百七十六年間の紀傳史にて、直筆して忌まず、文亦簡固なり。

大岡政談 おほをかぜいだん

天一坊、越後傳吉、村井長庵、小間物屋彦兵衛、白子屋阿熊、雲切仁左衛門、煙草屋喜八の七種の物語に、小話十九篇を加へて一書と爲したるもの也。

鶉衣うづらころも

也有の俳文集にして、寔に俳文の極致精華と稱すべきもの也。

〔雲萍雜志〕 (名家下)
うんぴやうざつし

柳澤淇園が、飄逸の筆を以て人情世態を曲盡せるものにて、殆んど一種の悟道觀を讀者の胸底に畫かしむるものあるを覺ゆ。

浦島太郎うらしまたらう
(御伽草紙)

日本紀に見えたる浦島子を作り物とせる小冊子にて、謠曲浦島と共に、この話篇を人口に膾炙せしむる上に力ありし作也。

エ、エ

〔益軒先生與宰臣書〕 (益軒下)
えきけんせんせいゐたふるさいしんにしょ

一に「諫諍錄」といふ、益軒が最も知遇を受けたる藩

の重臣に與へし意見封事の書にして、其經世的見地を窺ひ知るべき重要な資料也。

江戸紀聞えどきふん
(江戸著聞集の一名)

江戸著聞集えどちよもんしふ

馬文畊の著にして、江戸俗間の有名なりし人物事件を録し、話篇毎にまづ有名なる俳句一首を舉げて之を講説せるもの也。

江戸名所圖會えどめいしよづゑ

七卷二十冊、江戸の人齋藤幸雄の鑒めて輯むる所、其子幸孝之を刪補し、其孫幸成之を大成上梓せり。然して畫は一代の良匠雪旦の苦心に成る。

〔繪本西遊記〕
ゑほんさいいうき

支那小説に所謂四大奇書の一、元の邱長春の著「西遊記」の譯本にして、篇によりて譯者を異にす、有名なる孫悟空の話は即ち本書に出づ。

〔浮世床〕

式亭三馬の作、江戸時代の髪結床を舞臺とせる一大滑稽小説也。

〔浮世風呂〕

式亭三馬の作、一九の膝栗毛と相並びて江戸時代滑稽小説の白眉也。

〔雨月物語〕 (上田秋成)

一部の小話集也。著者秋成一流の幽玄にして而も豊麗なる筆致最も喜ぶべし。

うけらが花

橘千蔭の歌文集にて、享和二年門弟數輩の編纂したるもの、千蔭は徳川時代第一流の國學者にして、殊に其歌の妙は他に多く其儔を見ざる所也。

嘘多雁取帳 (黄表紙)

奈蒔野馬乎人作忍岡歌麿の畫にて、所謂「名作二十

三部」の一也。馬乎人は洒落本作者志水燕十の變名也。

宇治拾遺物語

作者未詳、順德天皇の建保年間に成れるものにて、作者の見聞又は今昔物語・古事談等を根據として種種の話説を雜然書き列ねしもの也。

〔團扇曾我〕 (百日曾我の一名)

〔卯月潤色〕 (近松中)

近松五十五歳の登場、世話物二十四篇の一也。

〔宇津保物語〕

作者年代共に詳ならず、されど源氏物語より前に出で、源氏物語の構想の本書に負ふ所あるは、細井貞雄の玉琴にいへるが如し。本文庫本は武笠三氏が二十一種の異本を對校して得たる校訂本にて、特に本文庫の爲めに氏が研究の一半を發表せられたるものなり。

今物語 いまものがたり (宇治拾遺附録)

藤原信實の著にて主として其時代の歌物語を記す。

今様 いまやう (古代歌謠)

宴遊に用ひられしものにて、新しき風の歌の義也、後には句格整ひて七五調四拍子なるを常とす。

妹脊山婦女庭訓 いもせやまをんなていしん (傑作集)

半二外三人の作、妹脊山のお三輪を以て最も有名な丸本也。

いろは假名四谷怪談 いろはがなよつやくわいだん (脚本下)

鶴屋南北作の脚本、岩稻荷を以て最も人口に膾炙せる一大狂言也。

いろは文庫 いろはぶんこ

爲永春水作、或は二世春水の代作ともいふ。材を四十七士の別傳に採り、其實傳口碑に小説的潤飾を加へたるものにて、中本(人情本と滑稽本との總稱)

紅楓果物語 いろもみぢかさねものがたり (伊達競阿國戯場の一名)

としては比較的内容純潔にして毛色の變りたるもの也。

いはやのさうし いはやのさうし (御伽草紙)

又「たいのやひめ」といふ。中納言有末卿と白河の姫君との間に生める一女の、繼母の爲めに虐げられて沈淪し、遂に又榮華を極むるに至る筋也。

ウ

魚鳥あんばいよし うをとり (黄表紙)

魚鳥の筆を綴りたるものにて「鴉鷺合戦物語」などを粉本としたるものならん、作者時代共に未詳。原本は珍しき赤本也。

浮世親仁形氣 うきよおやぢかたぎ (八文字舎)

其蹟の享保二十一年の作、「かたぎもの」と稱するものの一也。

名の如く一休禪師の法話の書にして卷末に道歌を添へたり。

一休咄いつきうばなし

作者未詳、蓋し徳川中期の書なるべく、一休禪師の性格の一面を傳へて世人の耳目に親しからしめしもの也。

一茶發句集いつさ はつく しよ

(名家俳句)

巧に俚語を操りて飄逸洒落なる句を創始せる俳諧寺一茶の句集也。

一寸法師いっすんぽうし

(御伽草紙)

住吉の申子身僅かに一寸、家を追はれて三條宰相に仕へ、之を欺きて其女を得、伴ひて地獄に至る。法師二つの鬼を退治し、打出の槌にて己が身長を大にし、寶を得て京に歸り榮達すといふ話也。

和泉式部いづみ しきぶ

(御伽草紙)

和泉式部保昌と契をこめて一子を儲け、之を五條の橋に捨てしが、其子成人してゆくりなくも母式部と契を交すといふ筋にて、其内に一より二十一迄の戀の數へ歌あり、面白し。

〔和泉式部日記〕

(平安物語)

平安時代一流の女流歌人和泉式部の手録する所、長保五年以後數年間の記事にて、主として前に通じたる爲尊親王の薨後其弟敦道親王の通ひ給ひし始末を録せり。

田舎源氏ゐなか げんじ

柳亭種彦の作、此種草雙紙合卷中の白眉として最も人口に膾炙せるもの也。

〔稻妻表紙〕

(昔話稻妻表紙を見よ)

〔今宮心中〕

(近松中)

近松五十八歳の登場、世話物二十四篇の一也。

と欲し、連歌の賭事を行ひて却て破れ、郡司は所領を得て富み榮えしといふ話也。

伊香保の道行きふり (日記紀行)

眞淵門下の才媛倭文女が十八歳の時母と共に伊香保に遊べる紀行文也。

生寫朝顔話 (名作集上)

「増補」と冠す。有名なる淨瑠璃丸本也。山田案山子といふ人、竹本重太夫の爲に創作し完結せずして歿したるを、翠松園主人が舊章に據りて刪補潤色したるものにて、もと「生寫朝顔日記」といひしを、六字を忌みて斯く改めしと也。

生玉心中 (近松下)

近松六十三歳の上場、世話物二十四篇の一也。

十六夜日記 (平安日記)

女流歌人として有名なる阿佛尼の作、其子二條爲相

が異母兄の爲めに枉屈を被れるを訴へんとて鎌倉に下れる折の紀行にして、建治三年に筆を起せり。

伊勢音頭戀寐刃 (脚本上)

近松徳三作の脚本、例の油屋おこん福岡貢の狂言也。

伊勢物語 (平安物語)

業平の自記に後人の加筆せるものか。所謂歌物語の嚆矢にて、古來歌人必讀の書として推重せらる。

一念多念證文 (親鸞聖人)

親鸞八十五歳の筆にして、一念往生多念業成の偏執の非を示せるもの也。

谷嫩軍記 (傑作集)

宗輔外五人の作、源平の勇士を寫せる有名なる丸本也。

一休和尚法語 (禪林法話)

有朋堂文庫

第一第二兩輯
一百二十冊

總解題

ア

東遊 あづまあそび
(古代歌謠)

又東舞といふ、東國の風俗にあはするが故の名にて、其歌は數首に過ぎず。駿河歌長篇にて最も有名也。

吾孀那萬侶 あづまなまじり
(石川雅望)

宿屋飯盛としての雅望の手腕を窺ふべき狂文の集也。

姊妹達大礎 あねいもうとだてのおほきど
(脚本上)

辰岡萬作の脚本、宮城野しのぶ仇討の狂言にて、それに多數の人物事件をあやなしたり。

商人軍配團 あきんどぐんぱいうちば
(八文字舎)

其續の作、文化年間江陵山人が序を附して刊行し、今専ら坊間に流布せる「商人軍配記」は本書の改題也。

イ、キ

〔伊賀越道中雙六〕 いがさえだうちうすむろく
(傑作集)

半二作、近松が加作する所の有名なる丸本也。

伊賀越乗掛合羽 いがごえのりかけがっぱ
(脚本上)

奈河龜助作の脚本にて、渡邊靜馬の仇討を骨子とせる狂言也。

伊香物語 いかごものがたり
(御伽草紙)

近江伊香郡の郡司某の妻才色兼備す、國守之を得ん

稗史億說年代記……………全
淨瑠璃名作集……………全二冊

荊萱桑門筑紫轢……………全

三十三間堂祇園女御九重錦……………全

平太郎緣起安達原……………全

奥州安達原……………全

武田信玄本朝二十四孝……………全

長尾謙信……………全

久松新版歌祭文……………全

御陣九州彦山權現誓助劔……………全

地理八道……………全

増生寫朝顏話……………全

鎌倉三代記……………全

繪本太功記……………全

近江源氏先陣館……………全

道成寺現在蛇鱗……………全

傾城阿波の鳴門……………全

事は宮ぎの妹はしのぶ碁太平記白石嘶……………全

圖七九郎兵衛釣船三ぶ夏祭浪花鑑……………全

一寸徳兵衛伽羅先代萩……………全

逆櫓松ひらがな盛衰記……………全

聖君は源家の類蝶花形
巖岩は平家の落人……………全

名歌島臺……………全

御所櫻堀川夜討……………全

傳兵衛近頃河原達引……………全

壇浦兜軍記……………全

加賀見山舊錦繪……………全

脚本集……………全二冊

三十石艦始……………全

讀賣伊賀越乘掛合羽……………全

龜割坂姊妹達大礎……………全

下紐開姊……………全

油屋おこん福岡貢伊勢音頭戀寐刃……………全

猿曳門出諷……………全

俠詞花川戸……………全

五大力戀絨……………全

いろは假名四谷怪談……………全

興話情浮名横櫛……………全

伊達競阿國戲場……………全

以上全六十冊二百六十一部

つくし船物語……………全
手枕……………全

石川雅望集……………全一冊

近江縣物語……………全

飛驒匠物語……………全

しみのすみか物語……………全

都の手ぶり……………全

狂文吾燭那萬俚……………全

吉原十二時……………全

平賀源內集……………全一冊

風來六々部集前編……………全

風來六々部集後編……………全

根南志具佐……………全

風流志道軒傳……………全

そしり草……………全

神靈矢口渡……………全

修紫田舎源氏……………全一冊

娘節用……………全一冊

教草女房形氣……………全一冊

八文字舎本五種……………全一冊

浮世親仁形氣……………全

世間子息氣質……………全

世間娘容氣……………全

商人軍配圖……………全

錄諸藝袖日記……………全

花曆八笑人……………全一冊

滑稽和合人……………全一冊

妙竹林話七偏人……………全一冊

黃表紙十種……………全一冊

魚鳥あんばいよし……………全

めくら仙人目明仙人……………全

腔多雁取帳……………全

文武二道萬石通……………全

鸚鵡返文武二道……………全

世上洒落見繪圖……………全

鼻下長物語……………全

竈將軍勘略之卷……………全

曲亭一風京傳張……………全

海道記	全
東關紀行	全
廻國雜記	全
九州道の記	全
丙辰紀行	全
野ざらし紀行	全
おくの細道	全
東海紀行	全
歸家日記	全
庚子道の記	全
伊香保の道行ぶり	全
旅のなぐさ	全
岡部日記	全
後の岡部日記	全
菅笠日記	全
壬戌羈旅漫錄	全
繪本太閤記	全三冊
大岡政談	全一冊
天一坊實記	全
越後傳吉之傳	全

村井長庵之傳	全
小間物屋彦兵衛之傳	全
白子屋阿熊之記	全
雲切仁左衛門之記	全
煙草屋喜八之記	全
大岡裁判小話	全
大久保武藏鏡	全一冊
宇都宮騷動之記	全
松前屋五郎兵衛之傳	全
彦左衛門功蹟之記	全
護國女太平記	全一冊
金澤實記	全一冊
伊達顯祕錄	全一冊
新編水滸畫傳	全四冊
雅文小說集	全一冊
古今奇談英草紙	全
古今奇談繁野話	全
西山物語	全
本朝水滸傳	全

其角發句集	玄蜂集	丈草發句集	惟然坊句集	去來發句集	蕪村句集	太祇句選	太祇句選後篇	樗庵麥水發句集	麥水句集拾遺	無腸句集	井華集	春泥發句選	蘆陰句選	俳儼悔	一茶發句集	俳諧玉藻集	風俗文選	和漢文操	鶉衣
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全一冊	全一冊

古今夷曲集	萬載狂歌集	德和歌後萬載集	新撰川柳狂詩集	近代歌謠集	隆達小唄集	よしはら小歌座の子	山家鳥蟲歌	糸竹初心集	當世小唄揃	松のの葉	松の落葉	若みどり	松の月	三阮歌曲遊	江戸名所圖會	（附錄）	江戸名所花曆	日記紀行集
全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全四冊	全一冊	全一冊	全一冊

禪林法話集

都鄙問答

全一冊

佛鬼軍

水かゞみ

一休和尚法語

東海夜話

正眼假名法語

夜船閑話

遠羅天釜

遠羅天釜續集

邊鄙以知吾

さし藻草

書翰集

先哲像傳

近世畸人傳

百家琦行傳

百人一首一夕話

閑田耕筆

年々隨筆

年々隨筆

全一冊

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

遊京漫錄

花月草紙

骨董集

燕石雜志

用捨箱

醒睡笑

一休咄

曾呂利狂歌咄

窓のすさみ

武野俗談

江戸著聞集

名家俳句集

梅翁宗因發句集

西鶴句集

十萬堂來山句集

鬼貫句選

芭蕉翁發句集

山口素堂句集

山口素堂句集

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

全一冊

直
昆
靈

浦島太郎	全
横笛草紙	全
酒吞童子	全
三人法師	全
大佛供養物語	全
倭藤太物語	全
秀衡入	全
いはやのさうし	全
花み	全
美人くらべ	全
花鳥風月	全
紫式部の巻	全
伊香物語	全
ふくろふ	全
胡蝶物語	全
玉水物語	全
鶴のさうし	全
草木太平記	全
歌舞妓草紙	全

取戎慨言……………全一冊

靈能眞柱

(附録)

古道大意……………全

出定笑語講本……………全

加茂翁家集……………全一冊

六帖詠草……………全一冊

桂園一枝……………全一冊

琴後集……………全一冊

うけらが花……………全一冊

新名家詩集……………全一冊

(附録)

懷風藻……………全

心學道話集……………全一冊

鳩翁道話……………全

續鳩翁道話……………全

續々鳩翁道話……………全

松翁道話……………全

古代歌謠集

全一冊

紀記歌集

全

神樂歌

全

催馬樂

全

東遊

全

風俗

全

今樣

全

雜藝

全

和漢朗詠集

全

新撰朗詠集

全

宴曲

全

延年唱歌

全

山家和歌集

全一冊

拾遺愚草

金槐和歌集

全二冊

狂言記

續狂言記

狂言記拾遺

狂言記外篇

御伽草紙

全一冊

文正さうし

全

はちかづき

全

小町草紙

全

御曹子島わたり

全

唐糸草紙

全

木幡ぎつれ

全

七草草紙

全

猿源氏草紙

全

物ぐさ太郎

全

さぐれいし

全

蛤の草紙

全

小敦盛

全

二十四孝

全

梵天國

全

のせざる草紙

全

猫の草紙

全

濱出草紙

全

和泉式部

全

一寸法師

全

さいき

全

椿弓張月……………全一冊

近世說美少年錄……………全二冊

昔話稻妻表紙……………全一冊

本朝醉菩提……………全一冊

正史伊呂波文庫……………全一冊

東海道中膝栗毛……………全一冊

譯浮世風呂……………全一冊

柳髮浮世床……………全一冊

通漢楚軍談……………全一冊

通三國志……………全三冊

繪本西遊記……………全一冊

以上全六十冊二百十部

第二輯之部

古事記……………全一冊

祝詞……………全一冊

風土記……………全一冊

常陸風土記……………全

出雲風土記……………全

播磨風土記……………全

肥前國風土記……………全

豐後國風土記……………全

萬葉集……………全二冊

宇津保物語……………全二冊

狹衣物語……………全一冊

宇治拾遺物語……………全一冊

(附錄)今物語……………全

東齋隨筆……………全

古今著聞集……………全一冊

あ と も ひ 心 中	卯月の潤色	全
丹 波	興作	全
女 人 堂	心中萬年草	全
高 野 山	心中萬年草	全
清 重 郎	五十年忌	全
歌	念佛	全
二 郎 兵 衛	今宮心中	全
あ き さ	心中刃は氷の朔日	全
夕 霧	阿波鳴渡	全
忠 兵 衛	冥途の飛脚	全
梅 川	并三度笠	全
吉 野	都女楠	全
孕	常盤	全
大	職冠	全
嘉 平 次	生玉心中	全
あ さ が	生玉心中	全
國 性	爺合戦	全
鐘 の 權	三重帷子	全
山 崎	壽の門松	全
日 本	振袖始	全

曾 我 會 稽 山	全
傾 城 酒 吞 童 子	全
博 多 小 女 郎 波 枕	全
か み や 治 兵 衛	全
紀 伊 國 屋 小 春	全
天 の 綱 島	全
女 殺 油 地 獄	全
心 中 青 庚 申	全
海 音 半 二	全
出 雲 宗 輔	全
菅 原 傳 授 手 習 鑑	全
大 物 船 矢 倉	全
吉 野 花 矢 倉	全
義 經 千 本 櫻	全
假 名 手 本 忠 臣 藏	全
關 取 千 兩 幟 勝負 附 貳 枚 續	全
十三 鐘	全
絹 懸 柳	全
妹 脊 山 婦 女 庭 訓	全
伊 賀 越 道 中 雙 六	全
八 百 屋 お 七	全
心 中 二 ッ 腹 帶	全
一 谷 嫩 軍 記	全
南 里 見 八 犬 傳	全六冊

西鶴文集

全二冊

世間妾形氣	全
雨月物語	全
春雨物語	全
癡癡談	全
藤簾冊子	全
大下馬	全
武道傳來記	全
日本永代藏	全
胸算用	全
西鶴置土産	全
好色五人女	全
西鶴織留	全
西鶴俗つれづれ	全
西鶴文反古	全
晝夜用心記	全
近松淨瑠璃集	全三冊
出世景清	全
源氏冷泉節	全
松風村雨束帶鑑	全

釋迦如來誕生會	全
百日曾我	全
源氏烏帽子折	全
長町女腹切	全
淀鯉出世瀧德	全
蟬丸	全
最明寺殿百人上臈	全
曾根崎心中	全
源五兵衛薩摩歌	全
おまん	全
おふさ	全
徳兵衛重井筒	全
雪女五枚羽子板	全
傾城反魂香	全
心中二枚繪草紙	全
兼好法師基盤太平記	全
あとむひ	全
茂兵衛戀八卦柱曆	全
堀江川波の鼓	全
與兵衛	全
あかめ	全
卯月の紅葉	全

山鹿素行文集

全一冊

聖教要録

全

武教小學

全

士道

全

中朝事實

全

配所殘筆

全

集義和書

全一冊

常山紀談

全一冊

名家隨筆集

全一冊

駿臺雜話

全

獨語

全

梧窓漫筆

全

梧窓漫筆後編

全

梧窓漫筆三編

全

たはれぐさ

全

雲萍雜誌

全

梅園叢書

全

梅園拾葉

全

春波樓筆記

全

筆のすさび

全

東西遊記

全一冊

北窓瑣談

全一冊

太田南畝集

全一冊

四方のあか

全

四方の留粕

全

寐惚先生文集

全

檀那山人藝舍集

全

蜀山人自筆百首狂歌

全

めてた百首夷歌

全

狂歌百人一首

全

千紅萬紫

全

萬紫千紅

全

改元紀行

全

假名世紀

全

南畝莠言

全

俗耳鼓吹

全

奴師勞之

全

松樓私語

全

上田秋成集

全一冊

諸道聽耳世間猿

全

願淨土方便化身土文類六.....全

日蓮上人文集.....全一冊

主師親御書.....全

守護國家論.....全

立正安國論.....全

四恩鈔.....全

顯訪法鈔.....全

持妙法華問答鈔.....全

法華題目鈔.....全

開目鈔.....全

祈禱鈔.....全

如來滅後五百歲始觀心本尊抄.....全

如說修行鈔.....全

立正觀抄.....全

撰時抄.....全

身延山御書.....全

種々御振舞御書.....全

報恩鈔.....全

本尊問答抄.....全

消息文類.....全

益軒十訓.....全二冊

家訓.....全

君子訓.....全

大和俗訓.....全

樂訓.....全

和俗童子訓.....全

五常訓.....全

家道訓.....全

養生訓.....全

文武訓.....全

初學訓.....全

中江藤樹文集.....全一冊

（附錄）益軒先生與三宰臣書.....全

翁問答.....全

鑑草.....全

藤樹先生精言.....全

文武問答.....全

藤樹先生遺稿.....全

新古今和歌集

全一冊

新葉和歌集

親鸞聖人文集

全一冊

水鏡

和讚

淨土和讚

高僧和讚

正像末和讚

全

大鏡

全一冊

增鏡

往相廻向還相廻向

全

保元物語

淨土三經往生文類

全

平治物語

尊號眞像銘文

全

北條九代記

一念多念證文

全

平家物語

唯信鈔文意

全

源平盛衰記

末燈鈔

全

太平記

親鸞聖人御消息集

全

義經記

歎異淨土文類聚

全

曾我物語

愚禿入出二門偈頌

全

神皇正統記

顯淨土眞實教文類一

全

讀史餘論

顯淨土眞實行文類二

全

山陽史論

(外史正記の論文)

顯淨土眞實行文類三

全

謠曲集

全二冊

顯淨土眞實證文類四

全

全

顯淨土眞實佛土文類五

全

有朋堂文庫

第一、第二兩輯
一百二十冊
總目錄

第一輯之部

詔勅集	全一冊
源氏物語	全四冊
平安朝物語集	全一冊
竹取物語	全
伊勢物語	全
大和物語	全
落窪物語	全
住吉物語	全
唐物語	全
枕草紙	全一冊
方丈記	全一冊
徒然草	全一冊
平安朝日記集	全一冊

土佐日記	全
蜻蛉日記	全
和泉式部日記	全
紫式部日記	全
讃岐典侍日記	全
更科日記	全
十六夜日記	全
中務內侍日記	全
古今和歌集	全一冊
後撰和歌集	全一冊
金葉和歌集	全一冊
詞花和歌集	全一冊
千載和歌集	全一冊
拾遺和歌集	全一冊
後拾遺和歌集	全一冊

○笑と泣

(禪林) 一八三

○笑ひ本

(平賀) 四六

○藁靴

(宇津上) 二六

○草鞋(天愚孔平)

(琦行傳) 六三

○藁盗人

(宇津上) 四七

○蕨(別當入道の歌)

(古今著) 五〇

○同(春の蕨)

(宇津上) 六三

○わらび餅

(日記) 一九二

○同

(日記) 六五

○笑病

(八文字) 三六三

○瘡疾

(田舎上) 一四

○童相撲

(古今著) 三四

○割籠

(宇津上) 三〇

○割符

(淨上) 二六

○割米

(太閣下) 四三

○我

我を知りて人を知

(禪林) 二三

る事

我とは何ぞ

(禪林) 五五

我無し

(心學) 三〇

我なしの心

(心學) 三四

我なしの勤

(心學) 一四

神は我なり

(花月) 五七

○われから

(閑田) 一三

○われてといふ詞

(年々) 二五

○破鍋に閉蓋

(曾呂利) 六二〇

○圓座

(宇津上) 五七

○草鞋

(宇津下) 五八

○藁沓

(宇治) 四三

有朋堂文庫

第二輯 六十冊

總索引終

○忘れがたみ〔發句と

狂歌〕

(燕石) 六五

○わすれ草

(宇津上) 三二

○和田伊賀守の忠志

(太閤上) 二五

○和田左衛門

(淨下) 五五

○渡守

(宇治) 八七

○海神わたつみ

(宇津上) 三五

○綿津見神の宮

(古事記) 九二

○和田峠わたどの

(鶉衣) 八八

○渡殿

(宇津上) 一六

○和田戸山

(江戸二) 五〇

○渡邊數馬の馬の口取〔窓の〕 一五

○渡邊勘兵衛の高名 (太閤下) 六二

○渡邊靜馬 (脚上) 一五一

○渡邊助兵衛の義氣 (窓の) 一六七

○渡邊靱負 (脚上) 一六八

○和田の盃 (閑田) 一五

○和田の別所

(淨上) 一六

○和丹の典藥

(淨上) 一三

○和田山の合戦

(太閤上) 三四

○和田義盛

(淨下) 一四

○渡會銀兵衛

(淨下) 三三

○わたりがば〔三途の

川〕

(宇津下) 五九

○日理郷わたり

(風土記) 五五

○渡部狂

通夜物語ノ序

(和漢) 三六

祭三界萬靈文

(和漢) 五九

○わたる瀬川わづちひのうしのかみ

(日記) 三九

○和豆良比能宇斯能神

(古事記) 二四

○和庭秀吉に謁す

(太閤中) 三九

○話頭

(禪林) 四〇

○和銅寺廢址

(江戸四) 六二

○鰐

(古事記) 四七

同

(古事記) 七

同

(宇治) 九

○和邇吉師論語と千字

本を献ず

(古事記) 二六

○鰐の口

(淨上) 三

○和爾部眞太刀わにべのまたち

徒を集めて白山に

籠る

(雅文) 五三

大伴家持の館に來

る

(雅文) 五三

○和名抄古砂本

(遊京) 四四

○梶久の手水鉢

(日記) 六四

○梶久出端〔丹前古今

ぶし〕

(近代) 三五

○纏袍わんぼう

(淨下) 一四

同

(脚上) 四九

○菓〔菓の食〕

(石川) 五一

○若宮〔二宮腹〕 (狭衣) 一八〇

○若宮八幡〔馬牽澤〕 (江戸二) 一九三

同〔牛込〕 (江戸二) 五六

同〔豊島〕 (江戸三) 七四

同〔若宮町〕 (江戸四) 三三

同〔千束村〕 (江戸四) 三八

○稚産靈神 (靈能) 三八

○わかむどほり〔王家〕 (宇津上) 五六

統 (宇津上) 五六

○和漢同物 (閑田) 一六

○和漢のめでたき隨筆〔年々〕 三五

○和漢朗詠集 (古代) 一七

○若山吟神 (古事記) 六六

○恨別〔佐麥土〕 (和漢) 三三

○わかれぢ〔長歌〕 (近代) 五八

○わかれの色〔あづま〕 (近代) 三五

淨留利 (近代) 三五

○わかれのかれ〔小うた〕 (近代) 三三

○別のことさら〔今様〕 (古代) 一五

○わかれのことに〔今様〕 (古代) 一五

○調腋 (宇津上) 三三

○狐臭 (石川) 八二

○和久産巢日神 (古事記) 一五

○脇坂甚内 (古事記) 一五

○脇坂甚内 (古事記) 一五

○脇坂甚内 (古事記) 一五

○脇坂甚内 (古事記) 一五

○脇坂甚内 (古事記) 一五

○脇坂甚内 (古事記) 一五

○脇坂甚内 (古事記) 一五

○脇坂甚内 (古事記) 一五

○脇坂甚内 (古事記) 一五

○脇坂甚内 (古事記) 一五

○脇坂甚内 (古事記) 一五

○山葵 (淨上) 二九

○禍みづから促す (花月) 五三

○鷺 (宇津上) 六四

同 (淨上) 二九

同〔鷺と鷺の賄賂〕 (醒睡) 一五〇

○鷺夫〔天倉〕の長歌 (遊京) 四四

○鷺津城の合戦 (太閤上) 二三

○和字正濫抄〔契沖〕 (古道) 三九

○鷺の善六 (淨下) 五三

○鷺の太郎藏 (黄表紙) 一六

○鷺の山 (宇津下) 四六

○鷺六〔時澄の家來〕 (淨上) 九八

○和助〔荒木〕召捕られ (伊達) 三九

拷問の事 (日記) 四八

○忘井〔都の里〕 (日記) 四八

○わすれがたき〔はやり歌〕 (近代) 四三

○實朝の歌	(金 槐) 五三
○眞淵の歌	(加 茂) 一
○蘆庵の歌	(六 帖) 二五
○景樹の歌	(桂 園) 五三
○千蔭の歌	(うけり) 一
○春海の歌	(琴 後) 三一
○若市	(狂言下) 一二四
○和賀江の月島	(日 記) 七四
○わがをる町	(燕 石) 四六
○若桂の序〔春海〕	(琴 後) 六四
○我門〔風俗〕 <small>わがかとど</small>	(古 代) 一五二
○我門爾〔催馬樂、律〕 <small>わがかとど</small>	(古 代) 二三四
○我門乎〔催馬樂、律〕 <small>わがかとど</small>	(古 代) 二五
○若草	(脚 上) 四八〇
○同〔長歌〕	(近 代) 二〇〇
○若倉〔國貞の嫁〕	(淨 上) 二〇三
○若小君〔藤原兼雅〕	(字 津 上) 三〇

○我駒〔催馬樂、律〕	(古 代) 二九
○若氣の誤	(心 學) 四一
○若狹〔國風〕	(近 代) 六六
○和歌の曼陀羅〔雲居寺 の重寶〕	(古今著) 一四〇
○若葉 <small>わかひるめのかみ</small>	(淨 上) 八
○若畫女神	(古事記) 六三
○若松風流〔丹前古今ふ し〕	(近 代) 四九
○若松の浦	(風土記) 四〇三
○若御毛沼命〔神武〕 <small>わかみけぬのみこと</small>	(古事記) 二〇一
○同〔白拍子〕	(淨 中) 二四
○若狹阿闍梨〔覺緣〕 <small>わかさなめのかみ</small>	(字 治) 九
○若沙那寶神	(古事記) 六七
○若狹の前	(淨 中) 一
○若衆〔男色參照〕 <small>だんしよく</small>	(平 賀) 一六三
○同	(入文字) 五四

○別旅明神 <small>わかたび</small>	(江 戸) 四八
○若殿〔石動君〕 <small>わかとののかみ</small>	(淨 上) 六
○若年神	(古事記) 六六
○若菜和漢朗詠集、春〔古 代〕	一七六
○同〔新撰朗詠集、春〕	(古 代) 二九七
○若菜寶序 <small>わかたへし</small>	(鶉 衣) 七四〇
○若苗色	(字 津 上) 三九五
○若菜の羹	(字 津 下) 一三〇
○和歌の浦〔二上り〕	(近 代) 二六八
○同〔長歌〕	(近 代) 五三
○同	(淨 上) 五〇
○同〔秀吉の遊覧〕	(太閤中) 五五五
○わか水〔端歌〕	(近 代) 六〇二
○若みどり〔長唄〕	(近 代) 一九四
○若みどり〔靜雲閣主 人〕	(近 代) 五一
○若宮〔八幡〕	(字 治) 四七五

三輪執齋直方の靈

に供へし歌 (先哲) 六

小野寺秀和の詠歌 (畸人傳) 三三

通蓮の詠歌 (畸人傳) 三〇

苗村介洞の妻の詠

歌 (畸人傳) 三四

僧似雲の歌 (畸人傳) 三七

矢部正子の詠歌 (畸人傳) 三三

祇園梶子の詠歌 (畸人傳) 三五

禁詞の不可論 (畸人傳) 三七

歌論 (畸人傳) 三六

僧元政の詠歌 (畸人傳) 三四

三輪執齋の詠歌 (畸人傳) 四〇

高森正因の詠歌 (畸人傳) 五九

題子の日 (年々) 三五

縁の詞 (年々) 三一

第一義 (年々) 三三

餘情と餘韻 (年々) 三六

同心同字を忌む事 (年々) 三七

古歌の話 (燕石) 三一

人口膾炙の歌 (燕石) 三七

時代不同の歌合 (燕石) 三八

なかばより〔信清軒

の百首〕 (燕石) 六一

まきもくの歌 (閑田) 二三

戀歌の趣 (閑田) 二五

戀歌と猥褻 (閑田) 二五

戀歌と僧 (閑田) 二六

撰集に入る事 (閑田) 二七

國歌の體裁 (閑田) 二九

歌と其人 (閑田) 二八

儒經を題の歌 (閑田) 二八

やまと歌の道 (花月) 五一

詠歌 (花月) 五四

歌のよみ方 (花月) 五三

歌の評 (花月) 五四

和歌に關する幾多

の逸話 (古今著) 二四

和歌の曼陀羅 (古今著) 二四

歌よみ等の噺〔北川

眞顔より石井夏

海へ〕 (書翰) 二九

國の名を隠して詠

める歌 (鶉衣) 八七

夷振 (古事記) 四

歌詠みて罪を免る

る事 (宇治) 三六

和歌の道 (宇治) 四〇

詩歌類〔東齋隨筆〕(宇治) 五九

西行の歌 (山家) 一九

定家の歌 (拾遺) 一

兵を宣州道に分つ(水滸四) 四二三

兵を歙州道に分つ(水滸四) 五八

大に昱嶺關に戦ふ(水滸四) 五三

○ろ印の箕 (和合人) 四三五

○露情大盛 (淨下) 三七三

○露川[草刈説] (風俗) 九四

○魯智深[花和尚]

拳して鎮關西を打

つ (水滸一) 九二

大に五臺山を開す(水滸一) 一四五

瓦礫寺を焼く (水滸一) 一九二

倒に垂柳を抜く (水滸一) 二〇〇

大に野猪林を開す(水滸一) 二二六

二龍山を單打つ (水滸一) 四二七

縁繩井を解脱す (水滸四) 二五四

浙江に座化す (水滸四) 五八〇

○六方詞 (用捨箱) 六九四

○呂白傾城 (淨上) 一五六

○魯班 (石川) 一六八

○繡拍子踊 (近代) 四四五

○論語の片假名抄 (八文字) 四九三

○論語讀の論語知らず(平賀) 四九

○魯楊目を招く勢 (平賀) 四二

○路蓮坊主 (狂言上) 四三

ワ

○我家[わしへん]催馬樂、呂 (古代) 一四三

○賄賂 (大久保) 三二

○和歌

宴曲 (古代) 四二

一休和尚の和歌 (禪林) 七二

和歌と才 (禪林) 一四

佗び住む人の妻の

歌ずき (醒睡) 一八

一休熊野山にての

歌 (一休) 四三

和歌の浦に云々の

解釋 (古道) 四四

はるの夜の (大久保) 二七

聚樂の御會 (太閤下) 三

光秀の詠歌 (太閤中) 七

勝家辭世の歌 (太閤中) 五七

夫婦の仲直 (曾呂利) 五九

詠めぬは歌なり (曾呂利) 六五

文字餘りの歌 (曾呂利) 六八

詠歌と商賣 (八文字) 一五三

鏡屋の紫式部 (八文字) 三六

藤原惺高の和歌 (先哲) 一三

熊澤蕃山の詠歌 (先哲) 六〇

仁齋の詠歌 (先哲) 六六

益軒の詠歌 (先哲) 八四

○六尺 (醒睡) 一五

○六十賀 (石川) 四四

○六十齡ノ説 (鶉衣) 六七

○六所宮御旅所 (江戸二) 三九

○六助〔毛谷村〕 (淨上) 四六

○祿助乞兒しつゝ母を (琦行傳) 七五

○六藏〔頼兵衛の下人〕 (平賀) 五三

○六孫王〔義家の先祖〕 (淨上) 一八九

○六地藏 (狂言上) 四三

○六塵五欲 (禪林) 三八

○六條〔廓の全盛〕 (日記) 五〇

○六條の假家 (田舎下) 二三

○六條の式部卿の宮〔敦實親王〕 (宇治) 五二

○六條の新館の新年 (田舎下) 五六

○六條堀川〔太刀懸松〕 (曾呂利) 五七

○六條三筋町の廓 (田舎上) 一〇八

○六條御息所 (雅文) 六六

○六天の魔風 (淨上) 一六七

○六道 (心學) 六六

○六道の街 (平賀) 三〇

○六道の辻 (淨上) 三六

○六道の横うり〔京都〕 (日記) 五〇

○六人僧 (狂言上) 四〇

○祿の高 (閑田) 一九七

○六波羅 (淨上) 一六三

○六波羅密寺 (宇治) 五三

○六部〔六十六部廻國〕 (平賀) 五六

○六兵衛 (脚下) 五〇

○六郎〔是角〕 (淨中) 六六

○六郎〔淡路、追捕使〕 (宇治) 三五

○六郎左衛門〔篠崎の〕 (御伽) 三六

○六郎重保〔重忠の嫡

子〕 (黄表紙) 二〇六

○六郎兵〔日幡〕上原右

衛門大夫に打殺さ

る (太閤中) 五二

○六林文集序 (鶉衣) 六七

○轆轤 (宇津上) 三五

○悼六々庵辭 (鶉衣) 八八

○轆轤首 (閑田) 二〇

○路考〔瀬川の條参照〕 (平賀) 一六六

○廬山公九錫俳諧〔文

〕〔宋遠淑〕 (和漢) 六七

○鷺洲〔長〕福神、贊 (和漢) 四四

○盧俊義〔玉麒麟〕

史文藝を活捉る (水滸三) 三四

大に玉田縣に戦ふ (水滸四) 一

兵、青石峪に陥る (水滸四) 五〇

黑夜に敵を賺す (水滸四) 一七

○老萊子老いて幼童の

舉動を爲す

(御伽) 一九

○老鯉

(花月) 六三

○浪裡白跳〔張順〕

黒旋風と闘ふ

(水滸二) 三七

水上に冤を報ず

(水滸三) 二六

○爐火〔和漢朗詠集、冬〕

(古代) 三六

同〔新撰朗詠集、冬〕

(古代) 三四

○ろかゝの印文

(一休) 四八

○盧橘

(閑田) 二八

同

(日記) 六〇

○六〔北面女雜使〕

(宇治) 四〇

○六右衛門久八をいた

はる

(大岡) 三五

○鹿苑院〔明國との關

係〕

(取戎) 三四

○鹿苑寺

(日記) 五三

○六角承禎

學慶を害せんと謀

る

(太閤上) 二三

觀音寺城退去

(太閤上) 二六

鯨江城に信長を支

へんと計る

(太閤上) 三六

長光寺城水の手を

斷つ

(太閤上) 四五

信長と和睦

(太閤上) 三八

○六角堂

(淨上) 二三

同

(禪林) 三〇

○六角義秀

秀吉の才に感ず

(太閤上) 二六

覺慶を觀音寺城に

迎ふ

(太閤上) 二三

○六月二日後の日記

(太閤中) 一四

○ろく子〔堀左近の妻〕の

遺書

(書翰) 六六

○六郷川

(和合人) 四四

○六郷酒匂之土橋

(用捨箱) 六〇

○六郷の渡

(日記) 三七

同

(平賀) 五三

○六郷橋

(燕石) 五七

○六郷八幡宮

(江戸一) 四六

○六根不具

(心學) 二八

○六齋念佛の由來

(太閤中) 五七

○六左衛門〔近頃河原達

引〕

(淨下) 三六

○六左衛門の剛直

(窓の) 二二

○六左衛門〔上村〕の自

害

(太閤中) 五二

○六左衛門〔蜂屋〕忠心

の事

(伊達) 四六

○六尺〔駕身〕

(淨上) 七

○期詠 (淨中) 五七

同〔和漢〕 (古代) 一七二

同〔新撰〕 (古代) 二九三

○浪化〔俳諧發願文〕 (風俗) 一五

○浪華公移爲記〔東華坊〕 (和漢) 五

○籠居の非〔大久保一翁〕 (書翰) 五

より松平春嶽へ (書翰) 五

○臘月 (淨上) 七三

○らうけ所 (字津上) 五三

○牢輿 (淨上) 三三

○ろうさい (近代) 二六

○老人

老學者の意氣〔雨森

芳洲〕 (書翰) 一五

老輩伯の意氣〔葛師

北齋〕 (書翰) 四六

題 (石川) 三

袋こそ (石川) 八

若がへりたる老夫

婦 (石川) 三〇

虱をもてあそぶ翁〔石川〕 三〇

老の道樂 (八文字) 三七

川流れの婆 (八文字) 四六

老人に杖を許さる

る事 (禪林) 一四九

老人のつれ (禪林) 二五

和漢期詠集、雜 (古代) 二八〇

新撰期詠集、雜 (古代) 二九三

○良少將〔行政の稱〕 (字津上) 五七

○籠城の覺悟〔蔚山籠城

中の加藤清正等よ

り出征諸將へ (書翰) 五

○老衰 (花月) 五六

○良佐行政の稱 (字津上) 三七

○らうずり (字津下) 五〇〇

○老莊と佛氏 (禪林) 一八〇

○浪人

貧家錢内 (平賀) 一六

道具好の浪人 (八文字) 三六

浪人の廉恥 (閑田) 八四

○老年 (閑田) 三二

○縁の青指貫 (字津下) 三

○老婆〔卒都婆の血を見

る話〕 (宇治) 七

○老婆と藥 (花月) 五〇

○羅馬法王〔五代目のハ

ツハハウロ〕 (書翰) 五

○老母の身上〔高野長英

より茂木茂恭へ (書翰) 四六

○老武者 (狂言下) 八〇

聯句

(鶉衣) 六九

○聯句歌仙行〔渡白狂〕

(和漢) 三三

○聯句連歌

(燕石) 五三

○蓮花

(宇津上) 一四

○蓮花王

(宇治) 四六

○蓮花王院〔頭風山平愈寺〕

(淨上) 一八

寺

同

(宇治) 四六

同〔不思議の水〕

(古今著) 四六

○蓮花王坊〔沙門〕

(淨上) 七

○蓮華御前

(御伽) 六

○蓮花寺〔福田山〕

(江戸一) 三六

同〔清瀧山〕

(江戸四) 一三

○蓮花谷〔高野山〕

(宇治) 四七

○蓮二房

(和漢) 三三

和漢文操眞名序

(和漢) 三三

賛秋風像

(和漢) 二八〇

田家戀

(和漢) 六四

悼水國公

(和漢) 二六

故人庵茶歌

(和漢) 三四

連俳互照序

(和漢) 三五

答五老井狀

(和漢) 四三

花生賛

(和漢) 四六

東桐舎辨

(和漢) 四六

鑑塔銘

(和漢) 四九

雲鈴法師行狀記

(和漢) 四七

○連尺^{れんじやく}

(狂言下) 三九

○蓮生俗名熊谷次郎直實

(平賀) 三五

實

○蓮成寺

(江戸二) 六一

○廉承武〔大唐の琵琶の博士〕

(宇治) 四二

博士

○蓮臺

(平賀) 三四

○蓮臺寺

(田舎上) 三

○蓮池亭の佳景

(八笑人) 三四

○蓮如

(百人) 五四

○蓮如上人子守歌

(遊京) 四九

○連俳歌仙行

(和漢) 三九

○連俳互照序〔蓮二房〕

(和漢) 三五

房

○れんぼのかはり〔よし〕

(和漢) 三五

原小歌

(近代) 一八

○れんぼのきねた〔よし〕

(近代) 一八

原小歌

(近代) 三

○連理楠〔吾妻森〕

(江戸四) 四六

○連理の契

(宇津上) 四六

口

○藹〔上藹、中藹、下藹〕

(宇津上) 五六

○蘆陰句選

(俳句集) 六七

○呂淵日本に使す

(馭戎) 一三五

禮儀

(大久保) 一五

天竺の諸禮

(出定) 五五

鳩に三枝の禮

(淨上) 三九

禮儀類(東齋隨等)

(宇治) 五五

○癡乙子(雪見賦)

(和漢) 二四三

○靈雲院(天王山)

(江戸四) 四三

○靈雲寺(寶林山)

(江戸三) 一九六

○禮樂刑政

(閑田) 六

○禮幹(青地)

(書翰) 一四六

○靈嚴和尚の奇行

(崎人傳) 三九

○靈嚴寺(道本山)

(江戸四) 五

○靈岸島

(江戸一) 一六三

○靈官殿

(水滸一) 三九

○靈鬼

(淨上) 二五

○麗景殿の女御

(宇津下) 四七三

同

○靈魂

(狹衣) 四二三

人魂は墓の上に留

る説

(靈能) 二四四

魂の行方

(靈能) 二四四

其行方を知る順序

(靈能) 二六

人死して黃泉に行

く説は支那の説

(靈能) 三三

○荔枝

(石川) 一六一

○嶺松寺(金剛山)

(江戸一) 六四

○冷水浴

(琦行傳) 八六

○冷泉節

(平賀) 五三

○冷泉前右府(代々の

跡)

(古今著) 一九一

○靈虫(傳(去來)

(風俗) 一七三

○靈南坂

(江戸二) 三

○靈府の尊像

(淨上) 五〇

○冷野集奥書(春海)

(琴後) 六四

○歴史を知るの要

(書翰) 一六七

○烈婦(貞節、女參照)

七兵衛妻蛸を斬つ

て夫を救ふ

(崎人傳) 一七九

久兵衛妻猪をと

めて夫を救ふ

(崎人傳) 一八〇

に雪

(琦行傳) 八〇五

○蓮阿

(遊京) 四三〇

○廉安道(假名用、眞名韻

序)

(和漢) 二八二

○連歌(和歌參照)

上手の人々

(宇治) 四六一

火災について實業

實種兩卿

(窓の) 三四

光秀叛心の諷詠

(太閤中) 七

本能寺追福の詠

(太閤中) 四〇

○連歌毘沙門

(狂言上) 二五七

○聯句

(宇津上) 二四

を取らんとす

(水滸三) 二四

英雄座次を排す

(水滸三) 二九

雙の頭を獻ず

(水滸三) 四九

十面の埋伏

(水滸三) 四八

金を分て大に買市

す

(水滸三) 五三

徽宗帝夢に遊ぶ

(水滸四) 六八

○獵師佛を射る事

(宇治) 二八

○蓼兒洼宋公明的神聚

る

(水滸四) 六七

○良眞座主

(宇治) 五二

○驚鷲山

(禪林) 一五〇

○丁助〔駒澤〕

(淨上) 六五

○良助〔御師匠〕の相撲

好き

(琦行傳) 七九

○靈山寺〔常在山〕

(江戸四) 一五

○良通法師

(百人) 四二

○リやうぜんみやま〔今

様〕

(古代) 一五

○丁膽の狂歌

(窓の) 一〇五

○涼菟〔神農像讚〕

(風俗) 二六

○兩頭の蛇

(花月) 五九

同

(琦行傳) 七五

○良忍上人〔大原〕の勸進

帳

(古今著) 七

○丁然禪尼庵室地

(江戸一) 一七

○療病院

(江戸三) 二六

○龍門〔大和國吉野

郡〕

(宇治) 一四

○良友書寫の一切經

(閑田) 七

○料理智

(狂言下) 一八

○呂洞賓

(淨中) 四八

○旅別秋情〔宴曲〕

(古代) 四八

○驪龍の玉

(淨上) 四

ル

○類聚名義抄

(遊京) 四九

○樓翁傳

(鶉衣) 六四

○留志長者

(宇治) 一五

○瑠璃

(宇津上) 一五

同

(宇津上) 三二

○瑠璃光

(禪林) 一八

レ

○禮

威儀を正しくす

(心學) 四三

被服の禮

(心學) 五三

敬と佛神

(禪林) 一五

克己復禮

(禪林) 一七

頭面攝足禮

(禪林) 二五

禮節

(宇治) 三〇

兵を伏せて行長を

捕へんとす (太閤下) 四三

○劉唐(赤髮鬼)

月夜に郡城縣を走

る (水滸一) 五二六

火を放て戦船を燒

く (水滸三) 五二六

○龍燈松

(江戸四) 四八三

○劉徳高日本に使す

(馭戎) 六

○柳春和尚の頓話

(武野) 三三〇

○龍の駒

(宇津上) 六六〇

○龍腦

(宇津下) 二六

○龍門

(宇津上) 二二〇

同

同

○龍門寺本尊の問答 (禪林) 三六

○龍門の聖鹿にかばら

んとす

○呂(催馬樂)

○寮

○丁庵(駒澤)

○陵王

同

○丁延房阿闍梨

○兩替屋の銀の鑑別

○兩替屋の話

○兩眉ぬいだ娘の話

○蓼花巷記

○涼月遺草跋(春海)

○兩拳(そつそ坊)

○兩國

兩國橋の光景

兩國の名物

涼みの催

(宇治) 一四

(古代) 二九

(田舎下) 五五

(浄上) 五七

(宇津上) 二五四

(宇治) 四九六

(宇治) 一四四

(心學) 三七五

(心學) 三五

(心學) 九四

(鶉衣) 五五四

(琴後) 六五六

(浄下) 五二

(石川) 三七二

(石川) 三七六

(八笑人) 一三三

夕涼み

兩國橋

兩國橋の納涼

兩國橋

○瓦壺峰(竹夫人傳)

○楞嚴院

同

○靈山

○梁山泊

林冲落草す

梁山泊の義士

吳用戴宗を擧ぐ

戴宗に假信を傳し

む

梁山泊の好漢法場

を劫す

關勝議して梁山泊

(八笑人) 一六

(江戸一) 二四

(江戸四) 四三

(浄中) 五八

(和漢) 五三

(宇治) 一五一

(宇治) 五〇六

(禪林) 一九

(水滸一) 三三

(水滸一) 五〇四

(水滸二) 二九七

(水滸二) 四七

(水滸二) 四七

(水滸二) 四八

四梅廬賦

(風俗) 五

四絶文章序

(風俗) 二三

聖靈祭文

(風俗) 一五

笠塚碑

(風俗) 八二

俳諧頌

(風俗) 三〇

○龍

女をとる

(古今著) 六二

龍に乗れる童

(字津上) 二

眞龍

(雅文) 二九三

○龍隱庵〔小石川〕

(江戸二) 五九六

○龍王

(字治) 四九三

○りうかく〔臨岳〕

(字津上) 一五五

○りうかく風〔一つの琴

の名〕

(字津上)

一

○隆覺法印〔興福寺の合

戦〕

(古今著)

七

○柳下惠

(字治) 四六

○龍眼寺〔慈雲山〕の萩〔江戸四〕四〇

○流義づくし

(七偏人) 五二

○琉球組〔本手〕

(近代) 一六九

○龍宮城

痴人龍宮に行く

(石川) 三三

龍宮の玉の箱

(石川) 三六

龍王の居城

(平賀) 一八四

○龍華寺

(日記) 五四

同

○りうげの山

(江戸一) 六三〇

○輪鼓

(骨董集) 三六

○柳後園に宴する序〔支

考〕

(風俗)

二〇

○柳後園晝寢〔馬才

人〕

○龍谷山功運寺

(和漢) 二九

○龍神

(江戸一) 二六五

○龍神

(淨上) 九

○龍樹菩薩

(字治) 三〇

○流星

(古今著) 五六

○柳成龍安定館に明の

將卒を饗應す

(太閤下)

二〇九

○立石寺〔慈覺大師〕

(日記) 二三

○龍泉寺

(字治) 二九

同〔信康山〕

(江戸二) 一四三

○流泉啄木

(字治) 四三

○龍造寺兵馬

(畸人傳) 四七

○隆達小唄集

(近代) 一

○隆達節

(田舎上) 三三

○龍女

(禪林) 六〇

同

(田舎上) 五三

同

(田舎下) 三七

○劉綰

吳宗道を使として

行長に説かしむ〔太閤下〕四七九

小早川久留米等に

破らる

(太閤下) 三九

戦ふを好まず

(太閤下) 三二

○律(催馬樂)

(古代) 二九

○栗山(柴野)の詩

(詩集) 一五

○和栗山、詩(林道春)(和漢) 二九

○律宗の宗旨

(出定) 六三

○立秋(新撰朗詠集、秋)(古代) 三二

○同(和漢朗詠集、秋)(古代) 三三

○立春(和漢朗詠集、春)(古代) 二七

○同(新撰朗詠集、春)(古代) 二五

○李寧行長が斥候を虜

にす

(太閤下) 三二

○李白の集

(石川) 五八

○李夫人

(淨上) 一五

同

(淨中) 四

○利兵衛(金屋)

(大岡) 五九

○隣家(和漢朗詠集、雜)(古代) 二七

○同(新撰朗詠集、雜)(古代) 三三

○恪氣(妬嫉參照)(淨上) 一八

○林杏

(石川) 四八

○臨濟寺

(日記) 一七

○麟祥院(天澤山)

(江戸三) 三〇

○林聖太子

(淨上) 五七

○吝嗇

藤堂和泉守

(大久保) 一六

醍醐山城守

(大久保) 三九

吝嗇なる商人

(八文字) 五五

儉と吝嗇との差別(八文字) 四一

毘沙門と窮鬼

(石川) 三六

しらみの皮

(石川) 四九

吝嗇の人の話

(花月) 五五

○林專(志岐)伊知地文

大夫を斬る

(太閤下) 一九

○輪臺

(宇津下) 三七

○倫太夫(祝部山上)

(淨上) 四一

○林冲(豹子頭)

誤て白虎堂に入る(水滸一) 二三

刺されて滄州道へ

配さる

(水滸一) 三七

棒、洪教頭を打つ

(水滸一) 三五

風雪山神廟

(水滸一) 三六

雪夜梁山に上る

(水滸一) 三〇

梁山泊に落草す

(水滸一) 三三

水寨に大に火を併

す

(水滸一) 四九

○林平(奴)

(脚上) 五三

○倫法師

(宇治) 三四

○李由

僧の古鏡に示す辭(風俗) 一五

湖水賦

(風俗) 三六

○蘭陵王の面 (石川) 一五

リ

○理 理に當らざる事 (禪林) 一六四
事理の二つの心附

き (禪林) 一七三
理と作業 (禪林) 二〇一
窮理 (禪林) 二二四
理外の事 (花月) 五〇

○李鎰小四行長に破らる (太閣下) 一四

○離縁(結婚参照) 傍の女房のとぶら

ひ (醒睡) 一六

法體に基く離縁 (八文字) 一三

妻の愁心に基く離縁

縁 (八文字) 一六

浮氣女離縁の口實(八文字) 三一

○利害得失 (花月) 五七

○理願(新羅國尼) (萬葉上) 一五三

○李達(黑旋風を見よ)

○力丸(森) (淨中) 五

○利休

淀殿に讒せらる (太閣下) 九

茶器の新古を目利

して價を定む (太閣下) 九

亡命 (太閣下) 九

幽霊となる (太閣下) 一〇五

○陸奥候草料場を焼く(水滸一) 三七

○陸續の橘 (御伽) 三〇

○六韜三略 (淨上) 三八

○六韜七書 (淨上) 一三四

○六如(釋)の詩 (詩集) 一四

○吏儒(明)流丸に當つて死す (太閣下) 二〇九

○李俊(混江龍)揭揭嶺にて宗江に遇ふ (水滸二) 三六

○李舜臣

龜甲船を用ひて日

本勢を破る (太閣下) 一八九

大に日本勢を破る(太閣下) 四九

三河守と戦ふ (太閣下) 四一

智を以て日本軍を退く (太閣下) 四六

○李成桂の朝鮮建國(取戎) 三

○李原誠釜山浦を走る(太閣下) 三六

○履仲天皇 (古事記) 三八

○李長孫 (太閣下) 三三

○鯉丈の作象牙の色付(和合人) 三七

○李如松

○來山〔十萬堂〕句集 (俳句) 三七

○賴山陽の妻〔梨枝〕よ

リ小野泉藏の妻へ(書翰) 三六

○賴山陽の母へ山陽よ

リの書 (書翰) 三五

○雷藏〔市川〕 (平賀) 三三

○來福寺〔海賞山〕 (江戸一) 三〇

○雷鳴丸〔叙〕 (淨中) 二四

○來也〔續一休咄〕 (一休) 四五

○樂阿彌 (狂言下) 一七

○樂右衛門 (和合人) 五八

○樂右衛門を狸扱ひ (和合人) 三〇

○樂翁〔松平〕

旗下へ御旗本中心 得書 (書翰) 三一

某へ述懐 (書翰) 三九

國本論 (禪林) 五八

○落花〔和漢朗詠集、春〕(古代) 一〇

同〔新撰朗詠集、春〕(古代) 三〇

○落柿舎記〔去來〕 (風俗) 二〇

○落柿先生挽歌〔支考〕(風俗) 一五

○落躑 (字津上) 九〇

○落葉〔和漢朗詠集、秋〕(古代) 二七

同〔新撰朗詠集、秋〕(古代) 三六

○洛陽 (字治) 三八

○樂老庵主、像賛 (鶉衣) 六九

○樂老記 (鶉衣) 五九

○羅喉羅出家 (出定) 五二

○羅眞人李達に劈らる(水滸三) 一

○羅城門 (字治) 五二

○羅刹國 (字治) 一八

○羅刹女 (石川) 八六

○らつひ〔長歌〕 (近代) 二三

○螺鈿の太刀 (字津上) 三九

○蘭〔新撰朗詠集、秋〕(古代) 三四

○蘭學者 (靈能) 五三

○亂髮 (淨上) 八

○嵐山院飯泉花生大禪

定門 (田舎上) 三〇

○蘭麝 (淨上) 二三

○蘭奢木 (脚下) 六三

○嵐雪〔茶碗銘〕 (風俗) 二〇

○蘭亭〔高野〕 (詩集) 八三

其の詩 (窓の) 三〇

父百里の辭世 (窓の) 三〇

○亂拍子一聲〔延年唱

歌〕 (古代) 五五

○嵐嵐 蚊を焼く辭 (風俗) 一七

富士賦 (風俗) 五

○嵐蘭誄〔芭蕉〕 (風俗) 一四

ラ

せむる事

(字 治) 三〇七

寄人

(字 津上) 五九九

○頼政〔源三位〕

雪のした水

(古今著) 一七九

射藝に達し和歌を

能くす

(平 賀) 三九五

かくし題の歌を詠

む

(字 治) 四九九

經盛と梅の花

(字 治) 四九八

引きぞ煩ふ菖蒲の

前

(淨 上) 三

○頼義〔義家の父〕

(淨 上) 一八七

○頼義〔伊豫入道〕みのわ

堂を建立す

(字 治) 五七七

○頼能〔樂所の預小監物

源〕玉手信近に笛を

習ふ

(古今著) 二六

○夜あふ〔端歌〕

(近代) 六〇八

○夜の食國

(古事記) 二七

○夜の殿さん〔狐〕

(黄表紙) 一五五

○夜は誰と〔雜藝〕

(古 代) 一六九

○鎧

(狂言下) 二六四

○鎧懸松

(江戶一) 三三三

○鎧島

(江戶一) 一八三

○鎧の渡

(江戶一) 一四二

○鎧明神祠〔大久保〕

(江戸二) 四九

○鎧の今昔

(花 月) 三六

○興六

(脚 上) 五〇三

○よろづの佛の〔今様〕

(古 代) 一五

○萬幡豐秋津師姫

命

(古 道) 四九

○萬屋助六道行

(近 代) 三六五

○興話情浮名横櫛

(脚 下) 三五

○雷

山精を撃つ

(雅 文) 二六六

經文の徳

(字 治) 三二

烈しき雷鳴

(田舎上) 五九

黄泉國の八の雷

(古事記) 二〇

落雷と人の命

(閑 田) 九二

○來國俊の名刀

(八文字) 三九

○頼光〔源〕

酒吞童子を討つ

(御 伽) 三二

鬼同丸を討つ

(古今著) 三八

盜賊退治

(石 川) 二〇四

日記

(八文字) 五九

夏祭浪花鑑

(淨 中) 五七七

○頼蒙阿闍梨

(平 賀) 三九

○來迎松〔常光寺〕

(江戸四) 四八三

○興樂寺〔寶珠山〕 (江戸三) 二九

○賴家〔征夷大將軍源〕

鎌倉三代記 (淨中) 一

近江源氏先陣館 (淨中) 一四三

○賴家卿の御母君 (淨中) 七

○賴兼〔大外記〕瓶子を

持參す (古今著) 五三

○寄木神社 (江戸一) 三三七

○興力同心無禮を働く〔大岡〕 一三七

○賴武〔泰〕

その子賴峯 (古今著) 三三三

武守が女 (古今著) 四八〇

○賴實〔藏人〕住吉明神

〔秀歌の新禱〕 (醒睡) 一六〇

○賴輔〔三位〕家平と問

答 (古今著) 二九

○賴時〔安倍太夫〕

奥州安達原 (淨上) 一八六

胡人を見たる事 (宇治) 四六六

○賴朝の美徳 (窓の) 二四

○賴朝〔源〕

範賴へ出陣中の訓

令 (書翰) 四

其所業 (百人) 七三

善光寺の佛の印相

を言ふ (古今著) 六七

あま鷲 (古今著) 一八四

寶藏の御繪 (古今著) 三五六

唐糸の前に狙はる〔御伽〕 八九

大佛供養の後濱出

を爲す (御伽) 二五三

重忠に文武の人を

問ふ (黄表紙) 八〇

ぬらくらの大小名

を戒む (黄表紙) 二〇八

其人物評 (平賀) 四六六

魏武に似たり (閑田) 八七

諸藝の妙手を求む〔八文字〕 四六五

近江源氏先陣館 (淨中) 一四二

御所櫻堀川夜討 (淨下) 二九三

壇浦兜軍記 (淨下) 四八

○賴長〔宇治左府〕

周易を學ぶ (古今著) 二二

宋朝の商客名籍を

奉る (古今著) 二二

學問料の試 (古今著) 二三

敗北の事 (百人) 三三〇

○賴業〔宇津宮越中前

司〕水底に鎧を脱

ぐ (古今著) 三〇〇

○賴信〔河内守〕忠恒を

張本

(黃表紙) 三七

○夜寐講

(心學) 三五

○四布袴

(田舎下) 三九七

○艶書

(宇津上) 一四

○記余白俚歌

(鶉衣) 八五五

○與原の里

(日記) 四七

○臍

(宇津下) 五九六

○丁

(石川) 二五

○夜ぶか船(二上り)

(近代) 六六

○與兵衛(日蓮に改宗の

話)

(醒睡) 二八三

○よ町(長歌)

(近代) 五九

○讀寶

(平賀) 九三

○黄泉

(淨上) 六

同

(宇津下) 二六

○夜見國

其説明

(靈能) 三三

其實

(靈能) 三四

平田篤胤の考證

(靈能) 三三

人死すれば魂其國

へ行くと云ふは

曲説なりとの論(靈能) 三〇

○嫁(結婚參照)

邪見の嫁

(心學) 一九二

嫁入の訓誡

(書翰) 三〇

嫁くらべ

(黃表紙) 二九四

嫁と姑

(心學) 三二

嫁の孝心

(八文字) 三九

○四方一火災を豫知す(窓の)

(脚上) 三五

○與茂吉

○よもぎ(一條殿の下

仕)

(宇津上) 三六

○蓬が柚の記(春海)

(琴後) 五九

○蓬生の巻

(田舎下) 三三

○與茂作(百姓)

(淨中) 四六

○黄泉津大神(伊邪那美

命)

(古事記) 三

同

○黄泉國

(靈能) 二五三

○泉事解之男神

(靈能) 二五三

○黄泉醜女

(古事記) 三〇

○黄泉比良坂

(古事記) 二

同

(靈能) 二五三

○四方赤良(南畝參照)

萬載狂歌集の序 (萬載) 三七

徳和歌後萬載集 (徳和歌) 元一

徳和歌後萬載集序(徳和歌) 三九四

南陀樓の命名 (石川) 四三

○四方の見世

(七偏人) 四八

○とも山といふ詞

(年々) 四一

○代々木八幡宮

(江戸二) 二九

○夜燈

(石川) 二七

同

(黄表紙) 二六〇

同

(平賀) 三九

○四人翁(商山の四皓)(宇津下) 四三

○より不動(良秀の名

作)

(宇治) 三

○四目市(江戸)

(江戸一) 一四二

同

(日記) 二九二

○世織踊

(近代) 四六

○世恒(伊良縁)毘沙門

御下文の事

(宇治) 四六

○夜妻

(宇津上) 六〇

○四谷

(江戸二) 六二

○四谷大木戸

(江戸二) 六六

○四谷左門

(脚下) 一八六

○よつ柳(能登)

(日記) 八四

○淀

(狭衣) 九〇

同

(日記) 二五

同

(日記) 二九七

同

(宇治) 四四

○淀川

(日記) 六二

同

(宇津下) 六九

同

(田舎上) 五五

○淀川所作

(近代) 五九

○よど小市(鯉)

(黄表紙) 四

○淀城の合戦

(太閤上) 四八

○淀堤

(淨上) 一八

同

(淨中) 二三

○淀殿

北政所の茶會に招

かる

(太閤中) 九

園中の勢力

(太閤中) 六八

利休を譏す

(太閤下) 九五

御産

(太閤下) 二七

秀次へ美女を送る(太閤下) 二九九

小西石田等の罪を

詫ぶ

(太閤下) 三九

行狀

(太閤下) 五四

鏡に對して姿色

の憔悴を驚く

(太閤下) 五五

○淀の渡の狂歌

(曾呂利) 六三九

○淀橋

(江戸二) 四六五

○淀與三右衛門

(脚上) 三〇

○米市

(狂言下) 二五六

○世上洒落見繪圖

(黄表紙) 一四二

○吉隠

(日記) 四六

○米と黄金

(花月) 四二

○米饅頭の名義

(用捨箱) 七二

○米野興兵衛の話

(醒睡) 三三

○世の中承知之助のみ

すゑ(野太鼓組の

○吉見右京太夫 (脚上) 三七

○吉見勝右衛門 (脚上) 五四

○義通〔稻葉丹後守、柳澤

に取入る〕 (女太平) 七

○義光〔新羅三郎〕 (淨上) 七三

○義光〔源、時秋と足柄山

に會す〕 (古今著) 三〇七

○義光〔本田〕如來を負ひ

て歩く (平賀) 一四二

○源満〔的弓の上手〕 (宇治) 三九

○吉水院 (日記) 四九

○吉光の守刀 (淨上) 四二

○義岑〔新田小太郎〕 (平賀) 四七

○吉宗公〔徳川八代將軍

有徳院〕 (大岡) 一

○義村〔三浦之助〕 (淨中) 一四

○義元の畫像〔今川義元

の條參照〕 (日記) 五五

○其基公〔關白〕 (淨上) 二

○義盛〔和田〕

鎌倉三代記 (淨中) 四

三界無右衛門の無

の見の物語 (八文字) 五九

○吉保〔柳澤を見よ〕

○義行〔澁川左衛門佐〕舊

趾 (江戸三) 一五二

○豫讓〔晉の〕 (淨上) 三三

○豫讓智伯が爲に趙襄

子をれらふ (窓の) 六四

○餘情と餘韵 (年々) 六四

○興二郎〔下主〕元日の

薪 (醒睡) 五一

○興次郎 近頃河原達引 (淨下) 四〇

猿曳門出諷 (脚上) 六三

○吉原

吉原細見里のなだ

まきの評 (平賀) 七

吉原細見天の浮橋 (平賀) 一三

吉原の縁語 (石川) 四二

吉原の春秋 (石川) 四二

吉原細見記の序 (石川) 四三

新吉原細見の序 (石川) 四〇

吉原十二時 (石川) 五七

吉原町の起源 (近代) 三

吉原町舊地 (江戸一) 二六

○吉原源氏五十四君 (田舎下) 四七

○よし原小歌鹿の子〔琢

玉齋〕 (近代) 一五

○吉原たゞのり〔よし原

小歌〕 (近代) 六

吉野物語

(雅文) 四二

義見の旅立

(日記) 四七

秀吉の花見

(太閤下) 二九〇

芳野賦(丈草)

(風俗) 三

○吉野(遊女)

其奇行

(崎人傳) 五五

其傳

(日記) 五〇

○吉野嵐山の櫻

(閑田) 一八

○吉野川

(狹衣) 二〇

同

(日記) 四七

○吉野葛

(淨上) 一九

○吉野郷(上總)

(日記) 九四

○吉野の内裏

(平賀) 四三

同

(淨中) 四五

○吉野の長歌跋(春海)

(琴後) 六三

○吉野宮

(萬葉上) 一六

○能信(大納言)の殿上

の其胸

(古今著) 三二

○義延(大友)舊館之地

(江戸二) 五二

○吉野山

(宇治) 三三

同

(宇治) 四三

同

(遊京) 三二

○吉野山の花盛

(田舎下) 二六

○義詮(足利)

(平賀) 四四

○吉徳公(加州家前田)

(金澤) 一九

諸老臣を罰す

(金澤) 一九

姫川にて凶變に遇

(金澤) 二六

ふ

(金澤) 二六

○義則(左近少將)

(宇津上) 六三

○芳野離宮

(萬葉上) 三三

同

(萬葉上) 四七

同

(萬葉下) 四六

○義晴(左大臣足利十二

代源)

代源)

(淨上) 二九

○義治(脇屋)

(平賀) 四八

○義尙

(田舎上) 四九

○義尙公の眼病

(田舎下) 一九

○義秀(朝比奈三郎)

(淨中) 二

○良秀(繪佛師)家の焼

くるを見てよろこ

ぶ

(宇治) 九二

○吉平(晴明の子)地震

の豫言

の豫言

(古今著) 二五〇

○義廣

(淨下) 二六

○義弘(豐前の大領大

内之助)

(淨上) 三

○義弘朝臣浪華の商人

に救はる

(窓の) 二六

○興次兵衛(船頭)誅せ

らる

(太閤下) 三〇七

○義正公

(田舎上) 一九

飯盛	(日記) 五三
妓樓	(日記) 五四
○よし田(水戸家の老女)	(書翰) 四九
○吉田出雲箕作城を守る	(太閤上) 三二
○義隆(脇屋)	(燕石) 三九
同(大内)	(淨上) 四七
○吉田小女郎(はやり歌)	(近代) 四六
同(所作)	(近代) 五六
○吉田琴子(松月鈔)	(近代) 六一
○吉田神社	(日記) 五三
○吉田松陰の妹	(書翰) 五四
○義植	(田舎下) 一三
○吉田神社	(淨上) 一八九
○吉田連宣の詩	(詩集) 五三

○吉田の社	(田舎下) 九
○吉田村	(平賀) 五八
○吉田屋	(淨中) 三五
○耳親(繪師)	(古今著) 四六
○義親(内匠頭源)	(淨上) 八
○義綱公(冠者太郎)	(淨下) 一
○義經(九郎御曹子)	(淨下) 二三
ひらがな盛衰記	(淨下) 三〇
御所櫻堀河夜討	(淨下) 三〇
闇魔廳に於る訴訟	(雅文) 六七
陰徳を損ふ條々	(雅文) 六六
花ノ制札	(和漢) 三六
腰越狀	(書翰) 六
兵法劍術の指南	(黃表紙) 二三
島わたり	(御伽) 七
衣川の泡と消ゆ	(平賀) 四九
其所業	(百人) 七三

東國下りと宿の女房	(醒睡) 二六
○義連(鹿島三郎)	(淨上) 六
○義輝の最後	(太閤上) 一五
○義智(宗)明軍を夜討す	(太閤下) 三三
○義仲	(心學) 二〇
齊藤實盛に報ゆ	(淨下) 二八
ひらがな盛衰記	(御伽) 六
唐糸草紙	
○義長公(淺野彈正大)	
弱瀧澤が怠慢を怒る	(金澤) 二六
○よしなの我等が(今様)	(古代) 一六〇
○吉野	
よき人の歌	(萬葉上) 一三

○義昭公

美濃國へ動座

(太閤上) 二〇四

將軍宣下

(太閤上) 二五三

信長と不和

(太閤上) 四四

没落

(太閤上) 四三三

○義家(八幡太郎)

ころものたて

(古今著) 二九一

飛雁つらなやぶる

(古今著) 二九二

宗任を従ふ

(古今著) 二九三

法師の妻

(古今著) 二九五

奥州安達原

(淨上) 一八七

○よし都(盲人)お秋を

娶る

(曾呂利) 六〇

○善男(伴大納言高相の

夢)

(宇治) 一〇

○義興(新田、神靈矢口

渡)

(平賀) 四三

同(大内多々良之助、生

寫朝顔話)

(淨上) 五七

同(新田、碁太平記白石

嘶)

(淨中) 五八

○良香(都)

竹生島辨才天

(古今著) 一〇四

竹生島にて句を得

る事

(宇治) 五〇

羅城門にて句を得

る事

(宇治) 五二

○能員(比企判官、鎌倉

三代記)

(淨中) 一

同(比企判官、近江源

氏先陣館)

(淨中) 一四

○義賢(帶刀先生)

其墓

(江戸二) 二三

備、惟則のいさか、

ひ

○義勝

(古今著) 四一

○吉川紋之丞

(田舎上) 二〇四

○吉川の桃

(脚上) 四〇

○義清(村上左衛門)

(淨上) 二六〇

○良清

(田舎上) 五三

○義景(秋田城之介)舊

館地

(江戸一) 四六

○義定(大宮先生)

(古今著) 一六二

○義貞(新田)勾當の内

侍を賜はる

(平賀) 四四

○芳澤春水の傳

(江戸著) 四七

○義助(藏人所の所司)

(宇治) 一三

○頼澄(兵衛尉藏人源)

○吉田

(宇津上) 一〇〇

關東四大橋

(日記) 一五

花火

(日記) 五二

○興九郎 (脚上) 七

○餘慶院殿玉征が冤罪

を宥す (金澤) 三八〇

○餘慶僧正〔觀音院〕空

也上人の臂をなほ

す (宇治) 三三七

○横尾時陰豐原兼秋と

兄弟の契 (雅文) 四四

○横櫛に富

(脚下) 四九五

○横雲

(田舎上) 一四二

○横雲將軍〔天內之助義弘〕

(淨上) 元

○よこ車

(花月) 五五

○横座

(狂言下) 四

同

(宇津上) 四六

○横島眞雁

(女房) 一六

○横須賀軍内

(淨下) 一四二

○横藏〔慈悲藏の兄、後

に山本勘助暗義〕 (淨上) 三三

○横田郷

(風土記) 四六

○横田甚右衛門

(窓の) 一八四

○横笛

(宇津上) 六

同

(御伽) 二五

○横淵官左衛門

(淨下) 元一

○横淵九平太

(脚上) 六二

○興五平

(脚下) 一六

○横溝唯七の忠誠

(窓の) 三三

○横山城の合戦

(太閤上) 三三

○興五郎〔大工〕

庄屋の娘に早に通ず (大久保) 九

釣天井の事を早

に語る (大久保) 二二

○興五郎〔月田〕

山城守を脊打ち (大久保) 三六

御加増 (大久保) 三九

○興五郎〔伊豆屋〕 (脚下) 四八

○興三右衛門〔三組町〕の

釣好 (琦行傳) 六〇

○興佐の山 (宇治) 三五

○よさく〔端歌〕 (近代) 二六三

○興作二代目〔當流あづ

ま淨留利〕 (近代) 三三

○興三郎

(脚下) 三六

同〔源氏店の撥呵〕 (脚下) 四三〇

○興三郎〔中間〕福の神 (醒睡) 四

○興三兵衛〔赤山〕 (淨中) 五八

○寄波御前〔石堂大領

の後室〕 (淨中) 四六

○興惣次〔お專の父〕 (大岡) 二六一

○興次〔玉屋の〕 (淨上) 五五

妖術

(田舎下) 二六三

○陽春〔麻田連〕の詩

(詩集) 四三三

○養生

其の祕訣

(禪林) 三〇〇

其の至要

(禪林) 四八八

女色の禁

(禪林) 五五

忠孝は身の養生

(心學) 一七〇

四少三安

(閑田) 三〇〇

○陽成院

瀧に道則術を習ふ

話

(宇治) 二四三

妖物の事

(宇治) 三六

其御略傳逸話

(百人) 二五

○ようでう〔横笛〕

(閑田) 一五

○陽徳陰徳

(淨中) 四三

○養福寺〔補陀山〕

(江戸三) 二七五

○要文集序〔許六〕

(風俗) 二三

○容貌

心の持ちやう

(心學) 一五

君子の容貌

(禪林) 一三

人面と哭笑

(禪林) 二〇六

服の衣

(石川) 三七

男子の容貌と女子

の容貌

(八文字) 九七

○楊方亨

日本に使う

(馭戎) 一六

沈惟敬等と伏見城

に到る

(太閤下) 三六五

○陽明學

佐藤剛齋より三宅

尙齋へ

(書翰) 二六一

中江藤樹と門人の

問答

(崎人傳) 一六三

○用明天皇

(古事記) 二九六

○陽明門院〔禎子〕

(古今著) 一八八

○養由

(淨上) 八八

○楊雄〔病關索〕酔て藩

巧雲を罵る

(水滸二) 五五

○羊遊齋

(和合人) 三六

○楊柳觀世音

(淨上) 一八一

○涌蓮

(崎人傳) 三〇〇

○養和のみかどのあや

しの傳

(遊京) 四七〇

○横河〔比叡の山〕

(宇治) 四七

○横川の僧都

(狹衣) 一六〇

○夜著頌

(鶉衣) 六六

○よきの天神

(日記) 四九

○慾

多慾と無慾

(禪林) 二五

鳴の話

(大久保) 三七

鮑貝の金

(窓の) 三六

○興一兵衛〔油屋〕

(琦行傳) 八三

○宵の口の千太郎

(脚下) 三六

○夜居の僧

(狹衣) 二三

同

(石川) 二六

○妖怪〔怪異、幽霊參照〕

姫路にゐさかへ赤

手のごひ

(平賀) 三三

眞如院明屋敷妖怪

の事

(金澤) 三〇

狐

(一休) 四七

○陽岳寺〔長光山〕

(江戸四) 三二

○羊羹のいたづら

(七偏人) 四一

○様器

(宇津下) 四二

○容儀

(禪林) 二三

○養氣の法〔藤田東湖〕

り友人某へ)

(書翰) 四三

○楊貴妃

(醒睡) 三八

同

(淨中) 四三

同

(宇津上) 六八

○揚揮豆賦〔毛執〕

(風俗) 五四

○楊弓

(田舎上) 三三

同

(淨上) 二八

同

(平賀) 二七

○楊弓踊

(近代) 四六

○楊香虎口の難をまぬ

がる

(御伽) 二二

○用經〔紀〕あらまきの

事

(宇治) 四九

○謠曲

謠の難論

(八文字) 四九

三輪と百萬

(八文字) 五六

○猿玉院〔金光山〕

○楊元沈惟敬を捕ふ

(江戸三) 四四

○楊錦園を解いて王城

に退く

(太閤下) 四三

○陽光院〔圓明山〕

(江戸一) 五五

○養光寺〔海榮山〕

(江戸一) 四九

○影向の松

(大久保) 五二

○腰鼓兄弟

(骨董集) 三三

○羊祜の故事

(禪林) 五六

○鷹山〔上杉〕より老臣

へ

(書翰) 一九

○養子

(心學) 九六

○楊志〔青面獸〕

汴京城に刀を賣る〔水滸一〕 三九

金銀櫓を押送す〔水滸一〕 三九

○陽勝仙人靜觀僧正に

逢ふ

(宇治) 二四

○用心股引

○楊枝村

(和合人) 三五

○妖術

(淨中) 四一

神樂歌、採物 (古代) 九三

鳴弦を以て怪病を

治す (窓の) 三三

弓矢の喰 (禪林) 五七

○弓之助〔秋月〕 (淨上) 五四

○弓取の法師うみ柿に

首を打たれし話 (古今著) 三六

○弓屋俊雄 (雅文) 五八

○夢

印度傳説の食物 (出定) 五七

怪夢 (石川) 一七五

夢の契 (石川) 二三

帝の御夢 (石川) 二五

我子の夢 (石川) 二六

靈夢 (八文字) 五八

元日の夜 (醒睡) 四

伴大納言の高相の

夢 (宇治) 二〇

晝寝の夢 (宇治) 二六八

夢を買ふ人、夢解き

の女 (宇治) 三七〇

直衣の袖と櫻の絲 (宇治) 四二

ゆふしでのきれ (宇治) 四三

猿と立文と歌 (宇治) 四三

清水の地主より御

文と歌 (宇治) 四四

紫式部と歌 (宇治) 四九

徳大寺大臣通夜の

夢 (古今著) 一九

しばらく時政が子

となれとの詫宣 (古今著) 二四

下賀茂の御告げ (古今著) 二六

夢占ひ (田舎下) 五八

夢語 (宇津上) 一六

聖人無夢辭 (和漢) 三八

夢、辨 (鶉衣) 五八

夢人記 (鶉衣) 八三

○夢の通路ひらくくず

し〔よし原小歌〕 (近代) 一九

湯本 (淨上) 九五

○湯元〔箱根〕 (黃表紙) 九〇

○熊野權現 (淨上) 八八

○愛百合序〔東乙文〕 (和漢) 三三

○百合子 (崎人傳) 三八

三

○興右衛門〔實は絹川〕 (脚下) 六五

○夜居 (宇津上) 五四

○興市〔淺利〕 (淨中) 二〇

同〔道具屋〕 (淨中) 二六

同〔八艘飛、海賊〕 (大岡) 四一

作

(近代) 五九

○行平道行〔當流所作〕(近代) 五八

○行文〔背奈王〕の詩 (詩集) 五七

○雪平 (淨下) 五一

○行政〔兵衛佐良岑〕 (宇津上) 一五

○行通〔修理大夫〕大藏

癩になりたる時 (古今著) 四九

○雪見賦〔癡乙子〕 (和漢) 二三

同 (鶉衣) 八二

○慶野婁蓑を替めて北

斗星に祈る (御伽) 三〇

○雪山 (狹衣) 一六

同 (宇津下) 七三

○遊行忌 (日記) 六三

○遊行上人 (曾呂利) 六三

○行能〔綾小路三位入

道〕 (古今著) 二四

○幸長〔淺野〕明軍と戦

ふ (太閤下) 四三

○行成〔大納言〕

實方中將の亂暴 (宇治) 五三

大納言齊信警蹕を

なす (古今著) 九〇

○行餘波〔宴曲〕 (古代) 四三

○遊佐河原之進國助 (田舎上) 一六

○湯篠やぶ (日記) 四九

○遊山船 (八笑人) 二五

○湯島天満宮 (江戸三) 二〇

○汧坏 (宇津下) 二二

○湯錢 (骨董集) 二三

○ユソタヤアイスの幻

法祕印 (淨中) 五三

○油單 (宇津上) 三八

○湯漬 (宇津上) 三〇

○湯漬の振舞 (大久保) 三三

○湯津爪櫛 (古事記) 二〇

同 (古事記) 四三

○湯殿 (宇津上) 五〇

○湯殿山 (日記) 三三

○湯野の小川 (風土記) 四九

○弓立〔神樂歌、明星〕 (古代) 二四

○指の用 (心學) 二九

○袖富郷 (風土記) 五三

○湯槽 (宇治) 四四

○袖富峯 (風土記) 五三

○弓端の調 (古事記) 一四

○湯卷 (宇津上) 五七

○弓

弓工 (雅文) 五五

紀關守の靈弓白鳥

に化す (雅文) 二六

○雪

和漢朗詠集、冬

(古代) 三七

新撰朗詠集、冬

(古代) 三七

宴曲

(古代) 四四

雪の興

(年々) 二〇四

雪の故事縁語

(石川) 四七四

雪の山の遊び

(狭衣) 一六

雪佛

(石川) 三三

雪の名所

(江戸四) 四八五

僧惠南雪の香をか

ぐ

(崎人傳) 六七

水の上にふる雪

(宇津上) 六九

雪の山の遊び

(宇津下) 七三

雪見賦

(和漢) 二四

同

(鶴衣) 八〇

雪を見る辭

(うけら) 二七四

雪をめづる記

(琴後) 六七

○雪の朝(琴歌)

(近代) 六六

○靱

(古事記) 三〇

同

(宇津上) 五九

○ゆきあひの餅

(田舎上) 四九

○靱編郷

(風土記) 五五

○行市山の合戦

(太閤中) 五〇

○靱負(河村)

(大久保) 九五

正純に献策

(大久保) 二〇三

大工等を殺す

(大久保) 二五

召捕られ白狀

(淨上) 三三

○雪折竹

(琴後) 六三

○行かひぶり(春海)

(江戸二) 三三

○雪ヶ坂

(夷曲) 一

○行風(古今夷曲集)

(石川) 三五

○行兼五節の舞を學ぶ(石川)

(湯口熊治の若氣の過(窓の)) 二六七

○靱負の命婦

(宇津下) 二四

○弓削道鏡(道鏡參照)

宮中に於ける祈禱(雅文) 四六

高野天皇の寵を受

く

(雅文) 四三

○雪請序

(鶉衣) 六六

○行澄(源)

(宇津上) 一〇〇

○行忠(中納言)

(宇津上) 九

同(内舍人)

(宇津上) 二四

○諡吉(福澤)より中上

川彦次郎へ

(書翰) 五七〇

○行綱(家綱の弟)

(宇治) 一五

○行經(伊豫の)

(宇津上) 五九

○行遠(左衛門尉源)

(宇治) 三〇

○雪朝(ひなの曲)

(近代) 六六

○雪の谷(孫市が妻)

(淨中) 九

○行平

(百人) 一四

○行平地獄物語(當流所

歌舞に巧なる遊女(雅文) 二三

俠氣ある遊女 (雅文) 二七

江口の遊女 (禪林) 一九

烏石 (武野) 元七

にまつ傳 (武野) 四三

江戸の遊女町 (窓の) 二〇〇

遊女の誠 (窓の) 三三五

大橋 (畸人傳) 二六

遊女某尼 (畸人傳) 三三〇

鷗洲 (畸人傳) 四七

憐小傾城 (和漢) 二九二

遊女泣老(伊東怨)(和漢) 三三

神崎の遊女の長者(宇治) 五八

○祐性(石泉法師)すゝ

を遣す歌 (古今著) 五九

○有識 (宇津上) 八〇

○遊女の松 (江戸二) 二九

○由誓(二茶の述懐) (書翰) 三八

○祐善 (狂言下) 五

○祐仙(萩の) (淨上) 五七

○遊仙譚(宴曲) (古代) 四六

○勇藏(瓜生) (淨上) 五九

○遊僧拍子歌 (古代) 五七

○夕立

其角の句について(燕石) 三六

夕立と琵琶法師 (石川) 三五

○木綿作(神樂歌、明星)(古代) 二三

○木綿付島 (宇津上) 六九

○ゆふづつの清濁 (閑田) 三

○祐天寺(明顯山) (江戸二) 二五

○祐天上人 (窓の) 一四七

○夕映 (宇津下) 六五

○右範(憐小傾城) (和漢) 二九

○いう原小二郎 (黄表紙) 九二

○熊斐 (畸人傳) 六二〇

○夕日ヶ岡 (江戸二) 九七

○勇婦おさん (大久保) 元九

○郁芳門 (淨上) 一

○雄略天皇

其御一代 (古事記) 二六

吳國への使者 (馭戎) 五

○幽靈

大岡越前守の裁許(大岡) 六八

幽靈の姿 (石川) 三〇三

幽靈の容貌 (石川) 三六

幽靈のいろく (閑田) 五

幽靈、説 (鶉衣) 六七

松風村雨の幽靈 (醒睡) 三七

○湯尾峠 (日記) 二四三

○湯瀧場二右衛門 (脚下) 二六

○ゆかり (田舎下) 二五

大臣の嘘

(八文字) 一六九

大臣遊び

(八文字) 一九一

大晦日の踊

(八文字) 一九三

遊興の果の隠者

(八文字) 一九五

粹

(八文字) 五三

遊興の真意

(禪林) 一九〇

遊樂はさせるの脂(心學) 一七

月に一二度の遊興(心學) 四九

○遊京漫録

(遊京) 三六五

○夕ぐれ、明ぐれ、たそ

がれ、かはたれ

(年々) 三四三

○夕ぐれ〔長歌〕

(近代) 二六

○遊藝

踊道樂

(八文字) 四四

奢り娘の遊藝

(八文字) 二九

女の小鼓

(八文字) 二九三

内の心懸專一

(八文字) 五三

踊好

(八文字) 五四

人の一藝

(八文字) 五九

商人と遊藝

(石川) 五二

○與有功子書

(鶉衣) 七七

○熊谷寺

(鶉衣) 八五

○憂國の語

(花月) 五六

○遊君

(淨上) 一九二

○夕さればといふ詞

(年々) 二九五

同

(年々) 三四三

○木綿志天〔神樂歌、大

前張〕

(古代) 九

○木綿しで

(淨上) 三〇

○ゆふしでのきれ〔女房

の夢〕

(宇治) 四三

○祐子内親王家紀伊

(百人) 四七〇

○遊子の情

(書翰) 二六九

○遊女

和漢朗詠集、雜

(古代) 二七九

新撰朗詠集、雜

(古代) 三九三

詩經の句

(平賀) 四三

女郎の仕懸

(八文字) 一六九

傾城の愛

(八文字) 四六

傾城の誠

(八文字) 五四

遊女の放屁

(石川) 三一

同

(石川) 三七

傾城の縁語

(石川) 三六

新宿の遊女

(石川) 四八

遊女の縁語

(石川) 四四

吉原十二時

(石川) 五七

古薄雲の傳

(江戸著) 四二

勝山の傳

(江戸著) 四五

奥州の傳

(江戸著) 四七

遊女の氣性

(雅文) 二二

兄弟三人の遊女

(雅文) 二三

○鍵彈正

(淨上) 三三

○遣手ばゝ

(黃表紙) 二八〇

○鐘のいろく

(淨上) 一五

○鎗祭(王子權現)

(江戸四) 四九

○贊補破茶碗辭

(鶉衣) 六四

○野老(ところ)

(醒睡) 四七

○治郎帽子

(平賀) 二七三

○八幡

(淨上) 二三

同

同(駿河)

(日記) 一八七

同(裏組)

(近代) 一八六

○八太

(日記) 四〇九

○八幡不知森

(江戸四) 三八

○八幡賀

(狂言下) 三六四

エ

○抽(ゆ)その切りかた

(古今著) 五四

○湯(ぬる湯あつ湯)

(田舎上) 二七五

○湯居(千本松原)

(日記) 二七

○由井

(日記) 二九

○由比が浦の大佛

(日記) 七

○由井が濱

(淨中) 四

同

(八文字) 四九

同

(日記) 四一

○ゆひ鞍

(字津上) 三五

○ゆいこくといふ手

(字津上) 三

○遺言(遺書參照)

(扇屋助次郎の葬儀(一休) 四九五

好色侍妻の遺言

(石川) 三三

醜女の遺言

(石川) 三四

商人の遺言

(八文字) 四四

○ゆいこんの手

(字津上) 六〇

○唯識

(出定) 六八

○唯識論

(禪林) 三

○結柴小紋

(田舎上) 二九

○夕(宴曲)

(古代) 四三

○木綿

(閑田) 二七

同

(字津上) 一五

○夕顔の下涼み

(石川) 四八

○夕顔の巻

(田舎上) 一八

○夕顔觀音堂

(江戸四) 二七

○夕顏棚

(淨中) 二三

○遊廓(花扇邯鄲枕)

(淨下) 三七

○結城七郎(下手繪師の

物語)

(八文字) 五八

○宵經山

(太閣下) 四八

○湧金門

(水滸四) 四九

○夕霧

(淨中) 三五

○夕雲の誠情

(江戸著) 五三

○遊興、遊樂

(田舎上) 四一

○山伏

その由來 (大岡) 三

けいたう房船を祈

りかへす事 (宇治) 八七

其出で出ち (田舎上) 一七

鞍馬の山に籠る (宇津上) 一九三

同宿の鑄物師を利

用して女を犯す(古今著) 四九

山ぶし歌踊 (近代) 四七

山伏塚の由來 (雅文) 二三四

山伏の話 (心學) 四二〇

山伏の獨言 (石川) 三六四

山伏法師 (宇治) 二

○山路 (宇津上) 五三

○山部赤人 (百人) 五

○山部大橋連の死刑 (古事記) 二四

○山部連小橋[志自牟が

新室の宴 (古事記) 二七

○山郭公[古今ぶし] (近代) 四八

○山靈袖 (淨上) 四三

○山宮官兵衛破門兵衛

と義絶の事 (窓の) 三六

○山村通庵の奇行 (崎人傳) 三九五

○山室榮藏 (脚上) 三六

○山本勘助 (淨上) 三五

○楊桃^{やまもも} (宇津上) 三九〇

○山守 (宇津上) 一〇

○山守樵夫に返歌し得

ざる事 (宇治) 五

○山もり風[第四の琴の

名] (宇津上) 一九

○山屋 (和合人) 三五

○山屋の豆腐 (平賀) 八

○闇雲先生の狂詩 (川柳) 四〇

○闇の黒八 (淨中) 三二

○闇の夜のなにがし (宇津上) 三三

○闇論[岸倚彦] (和漢) 四三

○やんちや坊 (用捨箱) 七五

○夜明珠[名玉] (淨上) 三

○鰥夫^{やもめ} (宇津上) 二六

○やもめ鳥 (淨上) 五

○也有[横井]

其俳句俳文 (鶉衣) 五二

言行一致 (崎人傳) 五六

○彌生 (脚上) 四八〇

○彌生姫 (脚上) 一八六

○八代曾河岸^{やよすがし} (江戸) 五

○行馬[矢來] (淨上) 五三

○やらすの森 (黄表紙) 三三

○やり梅宗治の妻 (淨中) 七

○やりをどり[さわぎ] (近代) 三二

○大和介 (宇津下) 六〇四

○東文忌寸獻部 やまとのふみのいみきかともの

横刀時咒 (祝詞) 三五四

○大和眞名詩賛(東花坊) (和漢) 二七五

○大和眞名詩序(東華坊) (和漢) 二七三

○山鳥 (宇津上) 六四

○大和聯句序(渡白狂)

○山名音川の合戦 (和漢) 三六八

○山中(箱根) (田舎上) 六〇二

○山中(箱根) (遊京) 四三四

○山中鹿之助

上月城の先鋒す (太閤上) 五五五

毛利先鋒の由來 (太閤上) 五〇八

義死 (太閤上) 五四三

索性 (太閤上) 五四四

狼之助を討つ (太閤上) 五〇八

○山中城の敗 (太閤下) 六三

○山中の温泉(觀音堂) (日記) 二四〇

○山中の色紙(吉野) (日記) 五五三

○山中平九郎(鬼女の辨)

○山名宗全 (江戸著) 四九八

○山名の塚 (田舎上) 六〇

○寄山祝(宴曲) (田舎下) 一六六

○山猫 (古代) 四七

○山の主俊蔭に遇ふ (平賀) 八五

○山の井 (宇津上) 一四

○山の芋 (宇津下) 六六

○山の王 (黄表紙) 一六

○山の神雅明の御子を (宇津上) 三三

取る (宇治) 五三三

○山之手奴踊 (近代) 四九八

○山の部の親王 (淨中) 三三九

○山横川(賀能地藏の事) (宇治) 一六八

○山蜂 (淨上) 二五

○山八煙草 (七偏人) 四八三

○山鳩 (淨上) 四四六

○山彦 (宇津上) 二九

○山彦源四郎(江戸節三絃の元祖)

○山蛭(洞入) (武野) 三三三

○山蛭(洞入) (淨上) 六二

○山蛭(洞入) (武野) 三三三

○山蛭(洞入) (淨上) 六二

○山蛭(洞入) (武野) 三三三

○山蛭(洞入) (淨上) 六二

○山蛭(洞入) (武野) 三三三

○山蛭(洞入) (淨上) 六二

○山吹御前(駒若の母) (淨下) 二九

○山吹の里 (江戸二) 五一

○山科御陵 (萬葉上) 一六

○山階寺 (宇治) 三七

○山城(催馬樂、邑) (古代) 一三

○山城二十五首(國風) (近代) 四

○山城守(山中)書を成田

下總守に送る (太閤中) 七

○山代 郷 (風土記) 四四

○山城之助(直江) (淨上) 二八

○山末之大主神 (古事記) 六

○山菅(りうのひげ) (宇津下) 六八

○山田(伊勢) (遊京) 四三

同(客舎) (日記) 六五

○山だしの下女 (心學) 二五

○八俣大蛇 (古事記) 四

○山田里 (風土記) 五四

○山田左兵衛と吉祥寺

吉三郎 (江戸著) 四四

○山田之曾富騰 (古事記) 六四

○山路將監

返忠 (太閤中) 四七

妻子親族生捕らる(太閤中) 五九

○山路彈正偽つて信長

に降る (太閤上) 一九

○山づくし(長歌) (近代) 三五

○山づと序(春海) (琴後) 六六

○山手白人(徳和歌後萬

載集序) (徳和歌) 四二

○山寺(和漢朗詠集、雜) (古代) 二六

同(新撰朗詠集、雜) (古代) 三三

同(宴曲) (古代) 四一

○大和(乳女) (狹衣) 一五

○やまと歌(和歌參照) (花月) 五二

○大和宇智川佛像

倭畫巧名盡 (遊京) 四二

○やまとなとりのおた

ふきやう(二節切證

歌) (近代) 二七

○大和川 (日記) 六

○大和源氏 (淨中) 二

○日本琴 (萬葉上) 三三

○倭建命

出雲建征伐 (古事記) 一六

十二道討伐 (古事記) 一六

相摸國造に欺かる(古事記) 一七

國思の歌 (古事記) 一六

薨去 (古事記) 一六

御子 (古事記) 一八

辭世 (靈能) 三五

○大和魂(平田篤胤の

説) (古道) 四八

○大和二十五首 (近代) 四

○山岡慶藏 (脚上) 二三

○山岡玄蕃之允 (淨上) 五七

○山岡道阿彌(大津の座

頭) (醒睡) 三九

○山蕨 (淨上) 七〇

○山蔭の三位中將 (御伽) 三三

○山鹿毛平馬 (脚下) 三五

○山形主計頭 (脚上) 三八

○山縣周南 (先哲) 二七

○山家鳥蟲歌(天中原長

常) (近代) 元

○山がつ (宇津上) 一三

○やまかづら(長歌) (近代) 七二

○山鹿の庄(筑前國) (宇治) 二六

○山家屋太郎右衛門 (脚上) 哭

○山雀(再生の恩に感

ず) (崎人傳) 四一

同 (宇治) 四九

○山鴉 (淨上) 七

○山口 (日記) 一八

同 (日記) 一六

同(周防) (淨上) 六一

○山口右辨 (脚上) 三〇

○山口觀音堂 (江戸三) 一三〇

○山口郷 (風土記) 四四

○山口郷 (風土記) 四四

○山崎 (淨上) 三

同 (宇治) 六七

同(羽柴明智の備配) (太閤中) 三七

○山崎闇齋 (先哲) 五一

○山崎がよひ(丹前古今

ぶし) (近代) 四三

○山崎宗鑑(しるのまは

しと兵主殿) (醒睡) 三三

○山崎の合戦 (太閤中) 二四

同 (淨上) 四三

○山前王(刑部卿の詩) (詩集) 五三

○山幸彦 (古事記) 九

○山里 (狹衣) 三一

高野の冬 (禪林) 三八

白幽先生の巖窟 (琴後) 五七

山里の梅をめぐる (琴後) 六六

記 (うけり) 二七

山里記跋 (花月) 五二

山里人のもとへ (宇治) 一四

山里の月の文 (日記) 三五

或山里の魚の禁破 (日記) 三六

れし話 (宇治) 一四

○山科 (日記) 三五

同(故事) (日記) 三六

同(鏡の山) (日記) 三六

やまのことばり
○養父郡

(風土記) 五五四

○やぶれ子持

(宇津下) 五七五

○彌平の烟曲

(琦行傳) 八〇二

○矢部正子

(崎人傳) 四三三

○夜發やほつ

(淨上) 五〇八

○谷保天神社

(江戸二) 三七五

○ヤボといふ詞

(年々) 二九五

○山(和漢朗詠集、雜)

(古代) 二四六

同(新撰朗詠集、雜)

(古代) 二六一

○山あらしの門十(非人頭)

(脚下) 五三三

○病

(脚下) 五三三

痢病

(石川) 五二

戀病

(石川) 一九八

假病

(石川) 二〇四

食へたき物

(石川) 三三三

戀病

(石川) 三六四

蟲腹

(石川) 四〇七

瘴持

(石川) 四二一

疝氣持

(石川) 四二一

毒と病

(禪林) 二六六

病と悟

(禪林) 二六九

百一の病

(禪林) 三五一

病中の修業

(禪林) 四〇四

禁物は若き女中衆(禪林)

(禪林) 五五八

止聲病

(淨上) 二七〇

癰の蟲

(淨中) 四九六

健忘

(淨下) 三〇

落架風

(淨下) 三九

えやみ(疫)

(花月) 五九

久病

(花月) 五九

病を得る事

(花月) 五九

脚病

(宇津上) 三三三

暑氣

(宇津下) 四〇四

病を歡樂といふ事(年々) 二五三

はしか(癩疹) (年々) 三二一

敏達天皇の御代の

疫疾 (雅文) 一九二

娘時代の病 (八文字) 二五八

泣病 (八文字) 二六〇

沈痾自良文 (萬葉上) 二七一

腹鳴の病 (醒睡) 二七九

内損 (醒睡) 二九二

癖ぜにがら (醒睡) 二九三

喘息 (曾呂利) 六四四

痲病 (平賀) 四九六

薬用と祈禱 (年々) 三六〇

○山犬(仲頼に仕へる男

子) (宇津下) 五〇一

○山芋説(吾仲) (風俗) 九五

○山姥(八木とうく) (醒睡) 三〇三

ぐ

(女太平) 四六

六萬石に立身

(女太平) 四六

所々の傾城を請出

す

(女太平) 四六

諸侯婚姻を望む

(女太平) 四六

大老職になる

(女太平) 四六

松平の苗氏を賜る

(女太平) 四六

諸國の名士を抱へ

る事

(女太平) 四七

頼智御褒美の事

(女太平) 四〇

名畫の譽

(女太平) 四四

百萬石の御墨附

(女太平) 三三

大阪に藏屋敷を建

つ

(女太平) 三三

關所の申付

(女太平) 四四

百萬石の御墨附を

召上げらる

(女太平) 一六九

○柳澤淇園

(崎人傳) 三〇七

○柳澤騷動

(女太平) 一

○柳橋

(狂言下) 三〇一

同

(淨中) 四九一

○胡録やなぐひ

(宇津上) 三〇

○籠やなぐひ

(宇治) 一八五

○柳の精

(淨上) 一四一

○柳屋〔酒の高値〕

(曾呂利) 五七一

○柳原封疆

(江戸一) 一〇六

○家主

家主の言

(石川) 三〇八

邪見なる家主

(八文字) 四六三

實意ある家主平兵衛

衛

(大岡) 六〇〇

公事好の家主長助

やぬのさと

(大岡) 三九五

○八野郷

(風土記) 四七九

○屋根船

(平賀) 五二

○彌之介踊

(近代) 四三三

○野坡〔番椒序〕

(風俗) 一七〇

○矢矧

(日記) 六〇

同

(日記) 八三

同

(日記) 二五七

○矢剝の橋

(淨中) 四四

同

(脚上) 四八六

同

(日記) 五五

○矢筈の紋

(淨下) 三〇三

○野盤子〔練、流歌〕

(和漢) 三六

○彌兵衛〔足輕木戸〕

(伊達) 四七〇

○八尋鰐

(古事記) 九

○藪醫者解〔紋村〕

(風俗) 九九

○藪入

(燕石) 四六七

○藪入の例話

(心學) 二六〇

○藪小路

(江戸一) 二二七

○屋船神

(靈能) 二〇五

○彌忠太〔鈴木〕（淨上）三五

○八千矛神〔大國主神〕（古事記）四

○八千代〔若狹の局の

妹女郎、淺芽の事〕（淨中）二六

同〔遊女〕（日記）五七

○八尾〔河州〕の合戰（大久保）一七

○八尾の里〔河内〕（淨中）四四

○八束水淤美豆奴神（靈能）二七

○奴小萬の傳（日記）六五

○八ッ橋（日記）二

同（日記）一七

同（日記）二五

同（日記）三八

同（日記）三九

同（閑田）五

同〔賤の方の召使〕（淨上）二四

同〔遊女〕（江戸著）五〇

○八橋集序（鶴衣）六三

○八橋の鐔（淨下）三五

○八橋流〔琴歌くみの

名〕（近代）二七

○谷山〔やつやま〕（江戸一）三四

○やつり川（日記）四三

○八若〔義家の一子〕（淨上）三七

○宿かり貝（心學）四〇

○房錢〔やどせん〕（骨董集）三五

○夜刀の神〔麻多智〕（風土記）五六

○やどもり風〔一つの琴

の名〕（宇津上）一九

○宿屋飯盛〔石川雅望を見よ〕

○やどり木（宇津下）七六

○柳箱〔やないばこ〕（淨上）二六

○柳川檢校〔柳川流〕（近代）二九

○柳川調信〔德馨命と江

上に會す（太閤下）一八〇

○柳

柳のむろし枝（石川）六一

柳の故事縁語（石川）四三

柳の縁語（石川）四六

和漢朗詠集、春（古代）一六

新撰朗詠集、春（古代）三七

柳の絲（宇津上）二二

柳は縁（醒睡）三九

鳥巢を移す（古今著）五九

柳の精（淨上）四一

○柳〔やなぎがさね〕（宇津上）三九

○柳澤〔彌太郎、吉保、出羽、美濃、

下野、甲斐〕

牧野へ立入る（女太平）一五

初めて加増（女太平）一九

御臺所へ藝子を上

子、内記聖人 (宇治) 五三

○康嗣[刀利]の詩 (詩集) 五三〇

○泰時[北條]の人物評 (平賀) 四六六

○保名[安部]狐と夫婦 (平賀) 三二〇

○泰長[成田下總守] (江戸二) 二三

同[丹波守] (大久保) 六六

○泰憲[民部卿] (古今著) 二九

○安秀[鳥海の前司] (淨上) 三三三

○安兵衛堀部[高田馬場] (窓の) 八四

良雄より輕舉を戒 (書翰) 六七

○保昌[藤原] (宇治) 六六

○保昌[藤原] (宇治) 六六

致經が父の下馬せ (宇治) 三五

ざる事 (宇治) 三五

弟保輔を勘當 (石川) 一三

弟及び甥を討つ (石川) 二〇

○保昌[橋の]和泉式部 (御伽) 三五五

と契る (脚下) 六七

○安松伊平太 (脚下) 六七

○安松數馬の女房弓[實] (淨中) 一

は十郎兵衛の妻 (淨中) 一

○安麻呂[大神朝臣]の (詩集) 五二

詩 (安珍[百川の子]後に) (淨中) 一

○安珍[百川の子]後に (淨中) 一

出家[安珍] (淨中) 二四二

○康頼[府生狼] (宇津上) 三三五

○休ひ祭 (心學) 三九五

○八瀬[釜風呂] (曾呂利) 六三三

○瘦法師[醉このみ] (醒睡) 七

○夜船閑話 (禪林) 三二一

○彌惣[百姓] (彌惣太[直方の家來]) (淨上) 三六

妻の離縁狀 (一休) 五九

○八十氏人 (宇津上) 二四四

○八十神 (古事記) 四九

○八十神の迫害 (古事記) 四九

○八十島 (宇津上) 六六三

○耶蘇提字子 (太閤上) 五五三

○八十建の征伐 (古事記) 一二三

○八十禍津日神 (古事記) 二五

同 (靈能) 二五八

○八咫鳥 (古事記) 一〇八

○彌多七[松田] (淨中) 五三〇

○八田城の合戦 (太閤上) 一八九

○矢立の松 (日記) 二六

○八田間[大室] (古事記) 五三

○八田若郎女 (古事記) 三六

妻の所業 (一休) 五八

○八田若郎女 (古事記) 三六

○八田若郎女 (古事記) 三六

○矢口村〔武藏荏原郡〕（平賀）四三

○役人の盲目（大久保）三六七

○疫病神やぐびやうがみ（淨上）一五八

同（淨上）二三

○藥用と祈禱（年々）三六〇

○厄除大師（七偏人）六六六

○除厄大師堂（江戸一）四六七

○除厄太子堂やけのさと（江戸三）四四四

○益氣里（風土記）五三三

○彌五左衛門の移東城（窓の）三三〇

○彌五原三平（脚上）六三

○彌五郎〔船頭〕

引導と米俵（一）休四六

鶉と芋魁うしがしら（一）休五三

○校舎〔狩谷〕書學の狀（書翰）三八

○彌左衛門〔紺屋〕（淨中）五三

○彌左衛門〔國府〕の孝

行やさかのまがたま（窓の）六二

○八尺勾やさかのまがたま瓊の五百津いはつ（古事記）三〇

の美須麻流みすまるとるの珠たま（古事記）三〇

○彌三郎〔衣川〕（淨上）四二

○彌三松〔彌三郎の子〕（淨上）四三

○八汐〔渡會銀兵衛妻〕（淨下）五九

○八汐千松を刺す（淨下）七〇

○八瀧折の酒やしはをり（古事記）四三

○八島士奴美神やしはじぬみのかみ（古事記）四三

同（靈能）二七二

○八島牟遲能神やしはむぢのかみ（古事記）六三

○夜叉丸（石川）四八

○野相公〔小野篁〕（宇治）五七

○彌正平〔後宗清〕やしやうめ（淨上）一五七

○彌二郎〔娑婆で見た

彌二郎かといふ語の起源〕（醒睡）一六

同〔田舎人と麩子〕（醒睡）三三四

○矢代家騒動の由來（大久保）三六四

○矢代忠重〔越中〕（大久保）三六四

○屋代郷（風土記）四三三

同（風土記）四九八

○社の風ひろかた（曾呂利）六〇五

○屋代弘賢〔弘賢を見よ〕

○康家〔豐島太郎〕墳墓（江戸三）三七一

○安居の森（淨中）六六

○安方町やすき（淨上）三八

○安來郷（風土記）四三三

○彌助（脚下）六六

○保輔〔丹後守保昌が

弟、盗人袴垂〕（宇治）三〇四

○保胤やすたね（古今著）一〇六

時輩の文章
陰陽師賀茂忠行が

○八百屋 (淨中) 五七九

○八百屋お七

其傳 (江戸著) 四三二

吉祥寺吉三郎と通

ぜずとの説 (江戸著) 四三四

中山勘解由の詮義

の次第 (江戸著) 四三八

鈴ヶ森にて火炙 (江戸著) 四四五

芝居の狂言 (平賀) 二九九

○八百萬の神 (古事記) 三七

○八尾六(紺屋の下人實

は師泰の家來) (淨中) 五三三

○矢數 (淨上) 一八三

○野干(狐) (淨上) 一四三

○家持(大伴)

鷹を放つ (雅文) 五七

泰澄法師に逢ふ (雅文) 五八

兵糧を白山に贈る(雅文) 五三

其略傳、逸話 (百人) 六

酒を讃めたる歌 (石川) 三三

○箒 (淨上) 一三〇

○矢河枝比賣 (古事記) 六三

同 (古事記) 二〇〇

○焼繪 (宇治) 四六五

○燒畫記(春海) (琴後) 五七四

○彌吉 (脚下) 八四

○やき米(庄野) (日記) 二九一

○燒米の俵(庄野) (日記) 二〇〇

○やきみそう太夫すみ

なり (黄表紙) 二二〇

○燒餅坂 (平賀) 四九八

○藥王寺(三療山) (江戸一) 六三〇

同(稻荷) (江戸二) 四六一

同(七寶山) (江戸二) 四六五

同(東光山) (江戸三) 一四三

○藥王樹(大内家の重

寶) (淨上) 五七

○屋久貝 (宇津下) 六六八

○八雷神 (古事記) 三〇

○藥師寺 (宇治) 四六六

○藥師寺別當(僧都) (宇治) 二四

○藥師堂(茅場町) (江戸一) 四八

同(靈岸島) (江戸一) 一七〇

同(伊皿子) (江戸一) 二八〇

同(金澤) (江戸一) 六三〇

同(長尾) (江戸二) 三三七

同 (石川) 三六五

○藥師如來 (禪林) 一五

○藥師の十二の(今様) (古代) 一六一

○藥師佛 (宇津下) 六八

○矢口の渡 (平賀) 四九〇

○諸兄〔橋〕

(雅文) 五四

○諸折戸

(宇治) 四六

○師方〔大監物中原〕

(古今著) 二六

○衆樹の宰相

(宇治) 五〇

○もろこし〔端歌〕

(近代) 二六〇

同〔端歌〕

(近代) 六〇五

○唐土臨潼の會

(淨上) 三五

○唐土船

(宇津上) 三

○師季〔大外記〕

(古今著) 六一九

○師眞直講の詩

(古今著) 二二三

○師實〔攝政右大臣〕

(淨上) 八一

○師澄〔兵衛佐源宰相〕

(宇津上) 九

○諸足〔高向朝臣〕の詩

(詩集) 五四

○師遠〔中原攝津守〕

(宇治) 五五

○師時〔中納言〕法師の

玉莖檢知の事

(宇治) 二

○師直〔左衛門尉藤原〕

(宇津上) 二四二

○茂侶神社

(江戸四) 三七五

○師泰〔高〕

(淨中) 五五

○師頼〔春宮大夫、參議〕

亡後その子師能に

告ぐ

(古今著) 二五七

大廟に入りては事

毎に問ふ

(宇治) 五五

ヤ

○焼米

(宇津下) 五〇

○彌市〔道具中買〕

(淨中) 六六

○彌一〔山中〕の勇死

(大久保) 三六

○焼津

稱呼の由來

(古事記) 一七一

草薙の故事

(日記) 一八八

○刃〔太刀を見よ〕

○屋裏郷

(風土記) 四八

○八重梅

(田舎下) 一〇四

同〔長歌〕

(近代) 二〇五

同〔二上り〕

(近代) 六三九

○八重垣〔濱成の姉娘、武

國の妻〕

(淨中) 二七五

○八重垣踊

(近代) 四四四

○八重垣姫〔景勝の妹〕

(淨上) 三八二

○八重重

(日記) 二〇三

○八重言代主神〔事代主

神〕

(古事記) 七

○八重菊〔禿〕

(脚上) 一〇四

○八重櫻

(御伽) 六三九

○八重幡姫〔義家の妹〕

(淨上) 二〇一

○八重山吹

(宇津下) 二九三

○八尾地藏

(狂言下) 二四四

○八乎止女〔風俗〕

(古代) 一五三

○八百屋〔店仕舞〕

(一休) 四七九

○茂兵衛〔井筒屋〕

(大岡) 五九

○喪屋

(古事記) 七三

○母屋

(字津上) 二六四

○喪山

(古事記) 七三

○貫聲

(狂言上) 二二

○森岡の樺火

(閑田) 五三

○森花仙〔兼好法師贊〕(和漢)

二八

○森川〔太鼓持〕

煎餅の菓子

(醒睡) 一八三

餅と能の太鼓

(醒睡) 二六五

○森金吾の奇行

(崎人傳) 二九一

○盛重〔長門守〕薄色の

狩衣

(古今著) 五五

○守重〔近藤〕古河古松

軒へ變地蹴涉につ

いて書信

(書翰) 三〇一

○森下金五郎の信義

(大久保) 四八一

○森唐意軒

(脚上) 四七

○杜といふ語

(閑田) 一五

○森勝藏大田切に上杉

勢を破る

(太閤中) 三八

○もりづくし〔長唄〕

(近代) 五七

○盛綱〔佐々木三郎兵衛〕

衛

(淨中) 一四二

○森傳助

織田に降る

(太閤上) 五〇三

怪異の事

(太閤上) 五〇四

○守長〔小津〕

(遊京) 四三

○母理郷

(風土記) 四三三

○盛廣〔度會の神主〕つ

くしつびの話

(古今著) 四九四

○守部清麻呂の跡を追

ふ

(雅文) 四九五

○守屋〔物部〕

蘇我馬子に亡さる(平賀) 三四五

佛法退治

(出定) 五五三

○守屋義貞

(燕石) 六二九

○盛之

(石川) 二九九

○盛雅〔右府の前驅參河

權守〕

(古今著) 九三

○守光〔大監物藤原病

餘釋奠にまゐる

(古今著) 四九

○森蘭丸

信長との情話

(太閤中) 六五

素性

(太閤中) 六五

信長公に試みらる(太閤中)

光秀を惡む

(太閤中) 六六

討死

(太閤中) 二五

六月朔日の段

○もる山

(淨中) 五三

○諸擧〔神樂歌〕

(日記) 三三

(古代) 九七

○萩 (宇津上) 三二

○もみ助〔黄金屋番頭〕(女 房) 六五

○紅葉もみぢ〔コノ部紅葉参照〕

其美 (年々) 三二

楓、銀杏 (年々) 三八

露にぬれたる (宇津上) 二四

紅葉を見る記 (季 後) 六〇三

黄葉をめぐる辭 (うけり) 三七

紅葉狩 (田舎上) 二四五

眞間の紅葉 (江戸四) 四六

秋葉大權現の紅葉(江戸四) 四七

瀧野川の紅葉 (江戸四) 四七

海晏寺の紅葉 (江戸四) 四七

東海寺の紅葉 (江戸四) 四七

目黒の紅葉 (江戸四) 四七

正燈寺の紅葉 (江戸四) 四七

○紅葉の賀 (宇津上) 四五

同 (田舎上) 二四三

○紅葉の名所 (江戸四) 四六

○木綿取返の裁判 (大岡) 六三

○桃

桃子 (古事記) 三

桃實を大加牟豆美

命と稱す (古道) 四九

和漢朗詠集、春 (古代) 一七

桃の實生と寡婦 (雅文) 六〇

外山成山桃の僻 (奇行傳) 六六

桃園の桃 (江戸四) 三九

流山の桃 (江戸四) 三九

吉川の桃 (江戸四) 三九

大師河原の桃 (江戸四) 三九

御薬園の桃 (江戸四) 三九

○桃井求馬時房 (淨下) 五八〇

○百井塘雨 (崎人傳) 五三

○百枝〔田邊史〕の詩 (詩集) 五二

○百川〔參議中の衛の大

將藤原〕 (淨中) 三九

○百川〔左中辨藤原〕 (宇治) 五〇五

○百敷も、しき (宇津上) 五〇九

○百敷といふ事 (年々) 二八一

○桃園〔中野〕 (江戸二) 四九七

同〔桃の名所〕 (江戸四) 三九

○桃園觀音堂 (江戸二) 四九七

○桃園大納言〔忠平の男

師氏〕 (宇治) 一七三

○桃太郎 (燕石) 四六

同 (田舎下) 一六六

○もうちどり (閑田) 一三三

○桃の名所 (江戸四) 三九

○桃山隱士の奇行 (崎人傳) 二七三

○喪服 (年々) 二二四

○物眞似

(八文字) 五五

○物忘翁傳

(鶉衣) 六八

○紋

素袍の紋所

(田舎下) 一〇七

ねひづるの紋

(宇津下) 一四

形木の紋、折鶴の

紋

(宇津上) 三〇

三つ鱗〔北條〕

(淨中) 一四

菊水

(淨中) 四八

丸に二つ引

(淨中) 五八

矢筈の紋

(淨下) 三〇

紋所に蚤

(大久保) 三八

○門院様〔通陽門院〕

(淨上) 六

○文覺上人

袈裟御前を殺して

發心す

(平賀) 三三

その歌

(宇治) 四六

○文覺上人〔當流所作〕〔近代〕 五九

○紋看板

(平賀) 二五

○文珠もんじゅ

(宇治) 三九

同

(禪林) 一九

同

(宇津上) 一六

○文珠の化身〔清範律師

の事〕

(宇治) 五二

○文正つれなか〔はじめ

文七〕

(御伽) 一

○文章生

(宇治) 五七

同

(宇津上) 四三

○文章博士

(宇津下) 五八

○文書もんじ

(宇津下) 一〇

○紋太夫〔藤井〕柳澤に

親む

(女太平) 六四

○聞中上人を送る歌の

序

(琴後) 六六

○もんつくつ踊 (近代) 四六

○主水〔花井〕

駿府に於て申譯の

事

(大久保) 六

信州に新田を作る(大久保) 九

石見守に任ぜらる(大久保) 一〇

忠隣に大久保の姓

を名乗らんこと

を願ふ (大久保) 二

○問答河岸 (江戸一) 三六

○門戸兵衛 (淨下) 四四

○文人もんじん (宇津上) 二三

○紋之丞〔小姓〕 (脚上) 二

○門ばしら〔三下り〕 (近代) 二九

○文武天皇

御詩 (詩集) 五三

御陵 (日記) 四五

○本滋〔催馬樂、呂〕（古代）一四〇

○元輔〔内藏亮、清原〕

其略傳、逸話（百人）二九四

落馬の事（宇治）二五四

○基澄〔皇太后宮太夫〕（宇津上）二〇〇

○基俊

其略傳、逸話（百人）四九五

やしろ堂（古今著）二三

○髻（淨上）二四

○もとの更衣（宇津下）二五

○求馬〔小川〕百姓との

對決（太閤上）九

○求女子歌〔東遊〕（古代）一四

○元松〔侍從〕（宇津上）二七

○元良親王（百人）一六四

○舊吉原の雨中のさま〔骨董集〕一六

○元結（宇津上）三六

○元行〔右近中將在原〕（宇津上）二五

○元行〔左京太夫橋〕（宇津上）六六

○戻り橋の算者（一休）五三

○物忌（宇治）一四

同（宇津上）二九

○物を賞して伽羅とい

ふ（用捨箱）六〇

○物語（宇津下）一八

○物語と花（花月）五九

○物語書中の美男（石川）三八

○物かはの藏人（宇治）五七

○物くさ太郎ひぢかす（御伽）一四

○物師（淨上）二

○物怪〔怪異參照〕（石川）二五

同（田舎上）三一

○物の名（燕石）二九

○物の名の語原（年々）二四

○物のふし（宇津上）二二

○物部尾輿佛教奉信の

非を論ず（出定）六八

○物部郷（風土記）五八

○物部守屋

排佛（雅文）一九

殘生を草莽に引く〔雅文〕一九

馬子との争ひ（出定）六〇

討死（出定）六三

○物の見かた（花月）五九

○物見車（狭衣）三三

同（宇津上）三七

同（宇津下）四三

○斥候塚（江戸二）六三

○物貰〔實は手代助右衛門、乞食參照〕

（淨中）二七

○物云舞〔雜藝〕（古代）一五

- 木樂子の念珠 (宇治) 三七
 ○帽額^{もくろく} (年々) 三七
 ○帽額の簾 (宇津下) 六八四
 ○藻鹽草〔長歌〕 (近代) 三〇三
 ○文字藝者 (心學) 五三
 ○文字摺〔定倉の娘〕 (淨下) 八三
 ○もじの〔禿〕 (脚上) 一五二
 ○門司の關 (日記) 一五六
 ○茂治兵衛 (脚上) 八三
 ○茂助〔算博士〕 (宇治) 二九一
 ○餅 (醒睡) 五
 しんかうの稱 (平賀) 一三三
 もちの色々 (石川) 三六
 餅と大佛 (七偏人) 五二
 餅の滑稽 (鴉衣) 五七三
 餅ノ辭 (淨下) 五五五
 ○持氏廻

- 持廉^{もちかど} (田舎上) 三五九
 ○以言〔白駒紅葉〕^{もといこ} (宇治) 五三
 ○餅米の横取 (大久保) 五〇〇
 ○餅酒 (狂言下) 一五九
 ○用枝〔俗人〕^{もちし} (古今著) 二〇四
 ○餅搗 (淨中) 六五五
 ○望月 (宇津下) 三九
 ○望月三郎 (雅文) 二六一
 ○望月立三無妻の話 (崎人傳) 六四四
 ○以長〔橘大膳亮大夫〕 (宇治) 三〇
 ○もちの木 (古今著) 五七四
 ○餅ノ辭 (鴉衣) 五七三
 ○持丸屋長次郎 (女房) 二七五
 ○用光〔筆樂師〕 (古今著) 三六六
 ○もちろん〔端歌〕 (近代) 六五五
 ○餅屋の看板 (用捨箱) 六六八
 ○本居太平の噺 (日記) 六五五

- 本居宣長 菅笠日記 (日記) 四〇七
 皇學に關する諸説〔直毘靈〕 一
 同 (馭戎) 二七
 妹子入唐の論 (馭戎) 六
 加藤清正を評す (馭戎) 一九〇
 吉水院の申し子 (日記) 四四四
 其略傳 (古道) 元二
 古事記傳編纂由來〔古道〕 四二
 古今集遠鏡 (年々) 六五五
 眞淵よりの來書 (書翰) 三〇二
 長瀬眞幸への手紙〔書翰〕 三〇六
 小説手枕 (雅文) 六五五
 ○元方〔右近少將〕 (宇津上) 二六六
 ○本木藥師如來 (江戸三) 一五
 ○元次〔實は兒島元兵衛〕 (淨下) 二五三

法事を修す

(太閤中) 一五

○めりやす

(日記) 六六

同

(平賀) 五〇

モ

○藻

(字津上) 三六

○裳

(古事記) 三三

○毛執

揚揮豆賦

(風俗) 四

宵惑を嘲る説

(風俗) 六六

○蒙古

昔日本に責め来る(平賀) 三七

龜山天皇文永六年

使を遣す

(馭戎) 二〇九

淺茅が浦に寇す

(馭戎) 二二三

弘安四年來襲

(馭戎) 二二三

弘安の役の敗北の

評

弘安の役

(馭戎) 二五

日本に來襲す

(馭戎) 二六

○猛虎の飢

(古道) 四六

○官者の言

(脚下) 一五

○孟嘗君

(花月) 五五

人を使ふ道

(窓の) 七四

藝ある食客

(八文字) 五九

○孟宗母を養うて冬竹

子を求む

(御伽) 一九七

○孟宗竹

(淨上) 四六

○毛物子(試筆)

(和漢) 二六四

○まうれんこゐん「命蓮」

又は明練小院

(宇治) 三七

○最上川

(日記) 三三

同(仙人掌)

(日記) 三三

○もがり竹

(淨中) 五〇

○裳著(裳著の後の態)

度)

(石川) 五七

○木魚講

(和合人) 六四

○百草八幡宮

(江戸二) 四七

○木曾官(車騎將軍)

(淨上) 四三

○木導(天狗、辯)

(風俗) 一七

○木工の君

(字津上) 二五

○奎之進(浦邊)

(淨中) 六九

○木工亮(藏人)

(字津上) 五五

○奎之助(阿波)木村常

陸介と議論す

(太閤下) 五七

○木馬(小栗の判官の馬

術指南)

(黃表紙) 二八

○奎兵衛(庄屋)

(脚下) 五五

同(駒形)

(淨中) 五〇

○木母寺(梅柳山)

(江戸四) 三五

○奎彌(山中)の戦死

(大久保) 三六

○明子〔染殿〕近習の選

擇 (窓の) 七

○名所の國郡の相違 (閑田) 四

○名所戀〔宴曲〕 (古代) 四〇

○名所の眞偽 (年々) 三六

○明德の玉 (心學) 三七

○姪の濱 (日記) 一五

○名馬揃〔當流所作〕 (近代) 五四

○冥府〔人魂の所まる

所〕 (靈能) 三六

○伽羅先代萩 (淨下) 一

○明和時代の川柳 (川柳) 一

○牝牛 (字津上) 二六

○目を閉づる事 (禪林) 一九

○妾奉公の引札 (日記) 六五

○目癖 (字津下) 五八

○廻文 (字津上) 二四

○めくら仙人目明仙人〔黃表紙〕 三

○目比 (骨董集) 二四

○目黒の蛸薬師 (花月) 五六

○目黒の餅花 (骨董集) 三六

○官と壁と壁 (心學) 三二

○目黒不動堂 (江戸二) 二〇

○官の提灯 (心學) 二七

○飯〔以一飯代人〕 (禪林) 三三

○女島の生成 (古事記) 二二

○飯盛 (日記) 五三

同 (平賀) 五三

○目白不動堂 (江戸二) 六〇

○女嵩山 (風土記) 四四

○撮千魚 (平賀) 六六

○米多郷 (風土記) 五五

○目玉の入かへ (心學) 一四〇

○目近大名 (狂言上) 四二

○目付 (伊達) 四三

○めつた彌太郎 (黃表紙) 三八

○愛丸 (石川) 八

○目なしどち軒の雀 (骨董集) 二三

○瑪瑙 (字津上) 三三

○芽の紅白 (花月) 五一

○めのと (字津上) 三七

○めのとまゝ (黃表紙) 二九

○目剝如來 (淨中) 三七

○面向不背の玉 (心學) 三七

○毛受勝助柴田の馬印

○面桶 (太閤上) 四六

○面道 (淨上) 二三

○妻まきぐるひ〔女ぐる

ひ〕 (字津下) 四六

○面與上人信長父子の

(字津下) 四六

○むらきん〔御神樂の召

人〕

(宇津上) 二四一

○紫〔人名〕

(石川) 一九九

同

(田舎上) 一六四

○むらさきの考

(年々) 三三九

○紫革足袋

(骨董集) 一〇三

○紫海苔

(宇津上) 二五六

○紫式部

其略傳、逸話

(百人) 三七六

同

(曾呂利) 二五五

觀音の化身

(田舎上) 二〇九

源氏物語となもあ

みだ佛

(宇治) 四七九

其評論

(平賀) 三六三

源氏物語五十四帖

を作る

(御伽) 五二七

○紫野

(宇治) 四九

○紫野大徳寺の葬禮

(太閤中) 四四四

○むらさめ

(宇津下) 六七三

同〔二上り〕

(近代) 二七四

○むら田〔二上り〕

(近代) 六三一

○村竹〔窓の〕

(琦行傳) 六四

○村田たせ子〔琴後集

の序〕

(琴後) 二五三

○村田春海

賀茂家集の概言

(賀茂) 五

其歌文の集

(琴後集) 三三

庚子道の記の序

(日記) 三三

小説竺志船

(雅文) 五五

○無量寺〔佛寶山〕

(江戸三) 三〇五

○無量壽佛

(平賀) 一四六

○室津

(日記) 二四八

同

(日記) 三〇九

○室戸

(狹衣) 二六

○牟婁郡〔紀伊國〕

(宇津上) 三二

○室の八島の由來

(日記) 三八

○室町

(田舎上) 一三

同

(八文字) 四六

○宗町宗甫の陰徳

(崎人傳) 四八

○室町御所

(淨上) 二七九

○目赤不動堂

(江戸三) 二九三

○明快座主

(宇治) 二四一

○明覺寺〔騰雲山〕

(江戸二) 四九

○名歌曲

(閑田) 一八三

○明眼宗

(禪林) 二九三

○名月〔歌比丘尼〕

(脚上) 四三

○明月記

(百人) 七二

○鳴弦

(年々) 二〇六

○名作青本略記

(黄表紙) 二九八

- 宗治〔清水長左衛門〕(淨中) 七〇
 ○宗彦 (石川) 二四六
 ○宗久〔三笠兵衛〕 (淨上) 一七四
 ○宗平〔相撲〕時弘を投ぐ (古今著) 三四
 ○宗行〔壹岐守〕の郎等虎を射る事 (宇治) 三五〇
 ○宗行〔中御門中納言〕 (古今著) 四三三
 東海道菊川の事 (日記) 二〇
 同
 ○宗良〔左馬頭源〕 (宇津下) 六三
 ○宗能卿の萬秋樂の序(古今著) 二三三
 ○夢人ノ記 (鶉衣) 八三三
 ○無の見 (八文字) 五三〇
 同 (心學) 二九
 ○無能 (崎人傳) 一七三
 ○牟倍 (閑田) 一三九

- むまかた(さわぎ) (近代) 二九三
 ○無名指 (心學) 二九
 ○無名次 (黃表紙) 二五
 ○むめあした〔長歌〕 (近代) 五八
 ○むもれ木〔三下り〕 (近代) 六二
 ○匹〔布十匹〕 (宇津上) 一五〇
 ○村井長庵 惡計 (大岡) 三三四
 町奉行所へ呼出の事 (大岡) 三四
 欺いてお富を賣る(大岡) 三六
 金五十兩騙取る事(大岡) 三六
 千太郎を打擲す(大岡) 三七三
 召捕らるゝ事(大岡) 四〇三
 忠兵衛富と對決(大岡) 四〇九
 三次と對決(大岡) 四一五
 三次に罪を負せる

- 事 (大岡) 四三
 惡言の事 (大岡) 四三六
 白狀の事 (大岡) 四三九
 ○村井長門守の家人 (太閤中) 九四
 ○無頼の僧 (閑田) 九七
 ○村荻 (田舎上) 八四
 ○村を名といふ事 (閑田) 六三
 ○村蔭〔目、春日〕 (宇津上) 三五
 ○村上等鎧 (崎人傳) 四七五
 ○村上帝 清涼殿に琵琶の曲を受け給ふ (宇治) 四九一
 宣耀殿の女御と歌(宇治) 五二
 主殿寮の松明率分 堂の草 (古今著) 八二
 ○村君 (日記) 八九
 ○むらきみ〔漁者の長〕(宇津上) 三六

心中娘 (八文字) 二九九
 浮氣娘 (八文字) 三〇九
 山雀娘 (八文字) 三一九
 いたづら娘 (八文字) 三二七
 からくり娘 (八文字) 三三七
 貞を守りし出世嫁 (八文字) 三三七
 ○夢窓國師 (醒睡) 三三四
 同 (禪林) 三五六
 ○夢想枕 (用捨箱) 三七二
 ○夢想流髪 (用捨箱) 三七二
 ○武玉川選 (川柳) 三〇七
 ○六田 (日記) 四五一
 ○謝無驪走辭 (鶉衣) 三八一
 ○無腸句集 (上田秋成) (俳句集) 五五五
 ○櫻祿 (字津上) 五八二
 ○六繼里 (風土記) 五二二
 ○陸奥國歌 (萬葉下) 三三五

同 (萬葉下) 三三三
 ○陸奥の國風 (近代) 八一
 ○陸奥葛賀(琴後集序) (琴後) 三三三
 ○六浦 (江戸一) 六六五
 ○六浦川 (江戸一) 六六八
 ○昵(兵衛尉) (古今著) 三〇五
 ○無動寺(叡山) (字治) 四三八
 ○胸形(宗像)の三神 (古事記) 三三
 ○無南(僧)の飄逸 (窓の) 二四六
 ○宗家大納言の北の方 (古今著) 一六八
 の歌 (江戸三) 六九
 ○宗岡宿 (字治) 五三四
 ○宗像明神 (伊達) 五九六
 ○宗勝(兵部少輔)の流罪 (伊達) 五九六
 ○宗清(彌平兵衛、始彌正平) (淨上) 一七九

○統清 (田舎上) 八四
 ○宗重(伊達安藝參照) (伊達) 四四五
 ○棟上踊 (近代) 四三六
 ○宗澄(南瀬六郎) (平賀) 四四四
 ○宗輔(京極太政大臣) の陵王の一曲 (古今著) 三六六
 ○胸つき (狂言上) 八四
 ○致經(大矢左衛門尉) (字治) 三三五
 ○宗任(安倍三郎) (淨上) 一八八
 ○宗任法師(頼時の子) (字治) 四三七
 ○宗俊(昔日の貧を忘れず) (窓の) 一九〇
 ○宗俊(中御門大納言) 笙を懷中す (古今著) 二〇三
 箏 宮のふたを拍子 (古今著) 二〇五
 統の殿 (古今著) 二〇七
 (田舎上) 二一八

惡人は親の仕業 (八文字) 二二

武藝を好む息子 (八文字) 二五

放蕩息子 (八文字) 三〇

放蕩息子の狂言 (八文字) 三四

儒者ぶる息子 (八文字) 三〇

放蕩息子 (八文字) 二四

相撲道樂の息子 (八文字) 二四

人形廻しを樂む息

子 (八文字) 二四

和歌道樂の息子 (八文字) 二五

上戸形氣 (八文字) 二五

客嚮息子 (八文字) 二四

嘘を樂む息子 (八文字) 二七

商家の三人息子 (八文字) 二五

遊興に飽ける息子 (八文字) 一九

發明なる息子 (八文字) 三〇

娘氣質參照 (八文字) 二七

器用不器用 (八文字) 二九

酒家奉公 (八文字) 四〇

○産靈神 むすびのかみ

其成立 (靈能) 三四

天地造化の神たる

證 (靈能) 三五

○結び松 (萬葉上) 三

同 (字津下) 七五

○むすび物 (字津下) 二九

○むすび袋 (字津下) 二九

○娘

娘一人に婿八人 (醒睡) 一四

九々の詞と質屋の

娘 (醒睡) 三〇

親の娘自慢 (八文字) 七〇

女形の風俗 (八文字) 七三

花魁道中の風俗 (八文字) 七四

出世娘 (八文字) 九

息子氣質參照 (八文字) 二七

娘氣質 (八文字) 三〇

娘氣質の變遷 (八文字) 三〇

祕藏娘の花嫁 (八文字) 三三

奢娘 (八文字) 三八

歌好きの娘 (八文字) 三六

武士の娘 (八文字) 三四

娘時代の病 (八文字) 二六

哀傷を好む娘 (八文字) 二九

嫉妬深き娘 (八文字) 二七

娘の子は一代の損 (八文字) 二七

不器量な娘 (八文字) 二六

佛臭き娘 (八文字) 二九

姉妹娘 (八文字) 二八

器用不器用 (八文字) 三三

美貌娘 (八文字) 二九

武藏野 (日記) 一六九

同〔月の名所〕 (江戸四) 四三

同〔逝水〕 (雅文) 六

同〔秋の千草〕 (田舎下) 二六九

同〔大盃の異稱〕 (和合人) 二六一

○武藏國總社六所明

神社 (江戸二) 三五一

○武藏國歌 (萬葉下) 三三四

○武藏國造兄武日命館

舊跡 (江戸二) 三六一

○武藏野紀行 (鶉衣) 八八八

○牟佐神社 (日記) 四七三

○武藏坊辨慶の素性〔辨

慶參照〕 (閑田) 七九

○蟲

靈虫傳 (風俗) 一七三

百蟲譜 (鶉衣) 六四一

無間地獄の蛭 (平賀) 三八

嵯峨野より取る (古今著) 六〇四

和漢朗詠集、秋 (古代) 二二〇

新撰朗詠集、秋 (古代) 三三九

毒蟲いろく (宇治) 二二三

蟲と糊 (禪林) 一七三

蟲づくし (七偏人) 二八八

蟲撰の詞〔千蔭〕 (うけら) 二六七

○蟲明の瀬戸 (狹衣) 二〇三

同 (日記) 一六六

○蟲のたれ絹 (骨董集) 三三一

○蟲の垂絹の古圖 (骨董集) 三三四

○蟲のたれ絹の追考 (骨董集) 二四六

○蟲麻呂〔箭集宿禰〕の (詩集) 三三四

詩

○蟲麻呂〔下毛野朝臣〕 (詩集) 三三九

の詩

○武者修業と歌修業の

趣向 (七偏人) 五〇五

○武者修業の大閉口 (七偏人) 五三三

○無常〔人生參照〕

幻の世 (禪林) 五三

無常文 (禪林) 五九

東岱北邙 (禪林) 五〇

和漢朗詠集、雜 (古代) 二八九

新撰朗詠集、雜 (古代) 四〇三

宴曲 (古代) 四三三

○むじやうのあらし〔さ

わぎ〕 (近代) 六四九

○席田〔催馬樂、呂〕 (古代) 一三九

○夢輔〔瀧〕の奇行 (琦行傳) 七四

○息子

息子氣質 (八文字) 二〇七

正直息子 (八文字) 二〇九

○向の岡

(江戸二) 四九

○昔の威儀

(骨董集) 六

○むかしがたり

(花月) 五三

○昔の人

(花月) 五〇

○蜈蚣島

(風土記) 四三

○蜈蚣の比禮

(古事記) 五二

○行膝

(字治) 一八五

同

(字津上) 六三

○向日神

(古事記) 六六

○むかへ湯

(字津上) 六二

○無記

(禪林) 三三

○無木

(骨董集) 二二

○麥〔其生成〕

(古事記) 四〇

同

(字津上) 一三

○麥粉

(曾呂利) 六〇九

西行法師

(醒睡) 三六

西行と七瀬川

(醒睡) 三六

○夢のかうちせうく

(黄表紙) 三三

ありかれ

(七偏人) 五八

○夢湯の見世

(平賀) 一三

○夢飯

(淨上) 八三

○夢藁笠

(古事記) 五三

○椋の實

(平賀) 四八〇

○鼯鼠

(脚下) 三二

○むぐりの勘太

(黄表紙) 一〇三

○無間の鐘

(心學) 三五〇

○無間の業

(日記) 三四

○武庫

(日記) 三〇五

同〔沖の嵐〕

(宇治) 二四

○智

男小藤太をねどす(宇治) 二四

ねとゞの御智の君

だち

誠實なる智の話(窓の) 一〇九

誠實なる智の話(窓の) 一〇九

○むこ川(はやり歌)

(近代) 四九

○むこがは(端歌)

(近代) 六八

○向疵の興三郎(興三郎を見よ)

(八笑人) 四〇

○向島

(江戸四) 三六

同〔椿〕

(江戸四) 四六

同〔櫻〕

(心學) 三三

○向の明神の繪馬

(大岡) 五三

○向見ず〔三吉〕

(宇治) 三六〇

○鼯鼠

(江戸一) 元

○武藏

(近代) 六六

同〔國風〕

(字津上) 二四三

同

(平賀) 三八

○武藏鎧

(閑田) 一五

同

(江戸二) 三八

○武藏野

(石川) 一七五

同

(石川) 一七五

同

(石川) 一七五

る

○名詮自性

(宇治) 四九三
(燕石) 六三七

○妙禪寺の上人

(八文字) 五〇九

○名雙寺の由來

(田舎下) 三二五

○明尊大僧正

(古今著) 二

○女めをとくわん夫丸

(淨上) 三四六

○女夫坂

(淨上) 一五三

○妙福寺(天川山)

(江戸四) 二七七

○妙法寺(日圓山)

(江戸二) 五〇三

○明法道

(年々) 二二七

○名目よみ

(禪林) 一八二

○妙譽西岸信士(三平の

(淨上) 四三〇

戒名)

○名利渡世と道

(禪林) 一六三

○三善清行、橘逸勢の

(閑田) 八一

訓

○三好長慶

(太閤上) 一九三

○三好義次

將軍の味方に參ず(太閤上) 二五九

最後

(太閤上) 四八八

○三好義長の曲水の宴(太閤上) 一九四

海松色

(宇津上) 四二三

○海松杣の松五郎

(脚下) 三九九

○見る目(首ばかりの地

獄の役人)

(平賀) 一七〇

○彌勒

(禪林) 一九

○彌勒講

(田舎上) 二二七

○彌勒寺(石上山)

(江戸二) 三七四

○同(萬徳山)

(江戸四) 四九

○彌勒菩薩

(黄表紙) 一七〇

○同

(宇治) 四三八

○美呂浪神

(古事記) 六三

○三輪(地名の由來)

(古事記) 一九

○三輪河

(萬葉上) 四七七

○三輪神社

(日記) 四二

○三輪執齋

(先哲) 九五

略傳

酒井侯に報ぜし書

の一節

(畸人傳) 四六

○三輪の山

(宇津上) 一五四

ム

○無惡善(さがなくて

(宇治) 二一五

よからん)

○夢庵(元三の發句)

(醒睡) 一六九

○無逸

(畸人傳) 一七四

○向坂次郎右衛門の妻

(窓の) 三〇〇

の仁慈

○向溝八左衛門義を重

んず

○むかひ山(さわぎ)

(窓の) 三四

(近代) 六四六

○深雪^{みゆき}(秋月の娘) (淨上) 二四四

○みゆき(奥方) (脚上) 四四

○みゆきの巻 (田舎下) 五七四

○御湯殿の儀式 (狭衣) 四三

○妙安寺(行方山) (江戸一) 四三

○妙井渡 (日記) 二

○明惠上人 (心學) 三八

○明王院(松樹山) (江戸二) 六

○同(萬徳山) (江戸三) 五五

○妙音院入道 (古今著) 四七三

○麥飯に鯛 (古今著) 四七三

○貞敏をつれに吾祖 (古今著) 四七三

○師守官令と呼ぶ(宇治) 四九一

○妙音寺(醫王山) (江戸四) 二六五

○茗荷(とんこん草) (醒睡) 二三

○同 (石川) 三九

○妙覺山 (禪林) 三

○妙閑信女 (石川) 四四

○妙義山 (日記) 三九

○妙龜塚 (江戸三) 五三

○妙義まうて茶番武者 (七偏人) 五八

○修行 (日記) 三八

○妙見山 (江戸四) 一六

○妙源寺(正覺山) (江戸三) 一七

○妙顯寺(長誓山) (江戸二) 八

○妙見大菩薩 (江戸四) 一四

○同 (鶉衣) 八四

○妙見宮^{みづみやう} (宇津下) 六九

○名香 (江戸二) 三六〇

○妙光院(本覺山) (淨中) 四九

○妙國寺(泉州) (太閤中) 一三

○妙山寺(不傳の説法) (燕石) 三九

○苗字 (燕石) 六三

○同(或問)

○妙心寺 (淨中) 八七

○同(光秀軍勢を宿す)(太閤中) 一四四

○明神の森(奥州白坂)(淨中) 四三

○妙術 (淨上) 八

○妙正池 (江戸四) 三九

○妙勝寺(本覺山) (江戸四) 二六

○妙正大明神祠 (江戸四) 三九

○妙節(おはなの母) (女房) 六四

○妙船(尼)頭上より光明を放つ (崎人傳) 五九

○明退(僧) (宇治) 二七七

○笛を賜はる (宇津) 二七七

○放鷹樂を傳ふ (宇治) 四九三

○放鷹樂を是季に授く (大般若の御讀經に出でてて笛を賜はる)

○く (宇治) 四九三

○大般若の御讀經に

○出でてて笛を賜はる

○く

みかけのくは

○官家國〔百濟國の稱〕（馭戎） 九

○みやこ塚 （日記） 四〇

○都鳥

（日記） 一〇九

同

（古今著） 六三

同

（宇津上） 三七

同

（江戸四） 二三

○宮處野 みよこぬ

（風土記） 五八

○都の町青物踊

（近代） 四六

○都はしづくし踊歌〔近代〕 四六

○みやこ風〔第八の琴の

名〕

（宇津上） 一九

○みやこ坊主

（武野） 三四

○都松の來歴

（鶴衣） 八四

○宮坂八幡

（江戸二） 二四

○宮崎左衛門督〔國守〕（御伽） 六三

○宮里〔宮城野の新造〕（淨中） 五七

○宮柴〔宮城野の新造〕（淨中） 五七

○宮島

（淨下） 二四

同

（日記） 一五

○宮雀 みやすどころ

（淨上） 一八

○御休所 みやすどころ

（宇津上） 六八

○美夜受姫の婚姻 みやずひめ

（古事記） 一七

○みやぢ

（日記） 三七

○宮路山

（日記） 六〇

同

（日記） 三九

○宮地山の落城

（太閤中） 四

○宮田の町

（淨上） 三七

○宮津

（日記） 一四

○宮津青山侯の臣の大酒

（畸人傳） 六三〇

酒

○宮寺の建立の奉加

（心學） 五八

○宮戸川

（和合人） 二六

○宮の君

（宇津下） 六八

○宮の建築

（古事記） 九

○宮左衛門某

（古今著） 五五

○宮の下〔箱根〕

（黃表紙） 九

○宮の亮〔權のかみ〕

（宇津下） 四三

○宮の大進

（宇津上） 五二

○宮の瀧

（百人） 一七

○宮の中將

（狹衣） 三四

○宮はた〔祐澄の子〕

（宇津下） 二七

○みや濱

（宇津下） 五九

○みやび〔風流〕

（花月） 五八

○宮人〔神樂歌、大前張〕（古代） 九

○宮まゐり みやまがら

（田舎下） 一五

○深山鳥 みやまがらす

（平賀） 二七

○深山宗喜一休に狂歌

（一休） 五七

所望

○深山路〔端歌〕

（近代） 二四

○宮本武藏の致仕を乞ふ書

（書翰） 七

○美作みまさか〔催馬樂、呂〕 (古代) 一三七

同 (字津上) 二四三

○美作五首〔國風〕 (近代) 九五

○任那みまさかの朝貢 (馭戎) 三三

○みづく〔鷺の門番〕〔黄表紙〕 一〇

○耳塚 (日記) 五九

○耳塚の由來 (太閣下) 五四

○蚯蚓の語 (禪林) 一八一

○耳あしの池 (日記) 四一

○耳梨山みなり (萬葉上) 七

○耳成山 (日記) 四七

○耳はさみ (宇津下) 一四

○微妙みんぐん〔盛綱、高綱の母〕〔淨中〕 二〇

○明軍日本の軍粧に驚

き敗軍す (太閣下) 二〇

○明軍國に歸る (太閣下) 二六八

○眠五み〔説東花坊〕 (和漢) 四五

○耳の垢取 (骨董集) 三元

○明使日本に渡海す (太閣下) 二六八

○民部卿〔實正〕 (宇津上) 一〇三

○民部卿の宮の北の方〔宇津上〕 一〇〇

○民部少輔〔戸田〕〔清正の陣押に驚く〕 (太閣下) 二六八

○民力 (花月) 五二

○三室體 (百人) 七八

○御室戸僧正 (宇治) 二六一

○三圍神社 (江戸四) 一六九

○三圍稻荷

社地の杜若 (江戸四) 四四三

雪の名所 (江戸四) 四八九

○御諸山の神 (古事記) 五五

○みもり田 (宇津上) 六七一

○宮〔ある宮ばらの〕 (古今著) 二七三

○宮筠園 (騎人傳) 一八三

○宮あこまろ〔宮あこ、君〕 (宇津上) 一四二

○みや川〔二上り〕 (近代) 六六八

○宮川町〔男倡奉公〕 (平賀) 二二六

○宮川の歌合 (百人) 六六七

○みやぎ〔童〕 (宇津下) 六八四

○宮本〔遊女〕 (宇治) 五三

○宮城 (田舎上) 二六四

○宮城野〔姉妹達大磔〕〔脚上〕 三三三

同〔著太平記白石噺〕〔淨中〕 五〇一

○三宅郡次 (脚) 下 三〇五

○三宅尙齋 (騎人傳) 一九七

○三宅石庵 (騎人傳) 四六七

○三宅庄左衛門の仁政〔窓の〕 一〇七

○三宅丹治獄中の奇行〔窓の〕 二八五

○土産の鏡 (狂言上) 三六

○三宅の渦 (萬葉上) 五〇

○三根郷みねのさと (風土記) 五七

○峯の城 (太閤中) 四五

○峯野原 (日記) 一四

○峰の薬師〔三河國風來

寺〕 (女太平) 一

○峰湯泉みねのふ (風土記) 五七

○峰平〔奴〕 (脚下) 六三

○峰松〔慈悲藏の子〕 (浄上) 三〇

○峰松琴次郎 (女房) 一七四

○簀笠の森 (日記) 二八

○簀笠の老人〔偽時政〕 (浄中) 三四

○みの借りにやる文

〔春海〕 (琴後) 六一

○簀作〔車つかひ〕 (浄上) 二九八

○簀作〔百姓〕 (浄上) 三三五

○巳之助〔政右衛門子〕 (脚上) 二六

○美濃守〔養老の瀧の

事〕 (古今著) 二五九

○美濃國てしやこ踊 (近代) 四三

○美濃の〔國風〕 (近代) 七三

○簀虫 (宇津下) 六七三

○簀虫説〔素堂〕 (風俗) 八〇

○身の持方〔澤庵より

弟へ〕 (書翰) 七四

○箕面の瀧 (遊京) 三九

○みの山〔催馬樂、呂〕 (古代) 一四〇

○みのわ笠鳥〔實方の

塚〕 (日記) 三五

○みのわ堂 (宇治) 五七

○御帶刀みはかし (宇津上) 三〇

同 (浄上) 一六

○三橋〔賤の方の腰元〕 (浄上) 二六三

○水原みづはら (田舎上) 三〇

○壬生みぎ (宇津上) 七六

○三淵大和守二條城の

死守みぎとち (太閤上) 四二

○壬生寺 (浄上) 二八三

○みふね (脚上) 三六

○三船山 (萬葉上) 九〇

○御船山 (日記) 四八

同 (日記) 四三

○壬生忠見 (百人) 二八八

○壬生忠岑 (百人) 四四

○壬生の二位〔蓮の實〕 (古今著) 五九

○三保神社〔宮司の家〕 (日記) 三六

○御穗神社みほとち (江戸一) 三五六

○御陰井みかげい (日記) 四七五

○美保郷みほのさと (風土記) 四三五

○三保の羽衣の松 (日記) 一八三

○三保の松原 (日記) 二七九

同〔よしにせよ〕 (醒睡) 七

大日本史其他編輯

の事業 (古道) 三八

紋太夫を御手討の

事 (女太平) 八三

南谷への手狀 (畸人傳) 五三

今出川内府へ大日

本史草稿進覽 (書翰) 一六

○三屋郷 (風土記) 四一

○みどり(二上り) (近代) 七三

同(禿) (脚下) 二五

○綠丸(平太郎の子) (淨上) 一九

○皆川山城守 (大久保) 三九

○皆川紙縷 (大久保) 三五

○美薮郡 (風土記) 五八

○水口 (日記) 三〇三

同 (日記) 二五

同(組葛籠) (日記) 二九三

○水無瀬川 (宇津上) 三〇三

○水無瀬殿 (宇治) 三五九

○水瀬の社 (百人) 七三

○水瀬山 (曾呂利) 六五

○六月月次 (祝詞) 三五

○六月月次祭 (祝詞) 三六

○六月晦大祓 (祝詞) 三九

○湊(由良兵庫助信忠が

妻) (平賀) 四七

○湊稻荷社 (江戸一) 一七一

○湊江善平 (脚上) 二四

○湊田(神樂歌、小前張)(古代) 二六

○湊川 (淨中) 四九

○みなのか (日記) 一〇三

○南浦日向寺 (日記) 四八

○源斐雄(桂園一枝序)(桂園) 五二

○源兼昌 (百人) 五二

○源重之 (百人) 三〇

○源資忠(潮田出羽守)

の墓 (江戸三) 一七三

○源孝範(木戸三河守)

第宅舊跡 (江戸三) 四八

○源俊頼朝臣 (百人) 四三

○源廣 (石川) 三六

○源宗子朝臣 (百人) 三六

○源義朝

其の歿 (閑田) 八

父の首を斬る (百人) 五五

○水馴棹 (宇津上) 三六

○敏馬浦 (萬葉上) 二九四

同 (萬葉上) 三三

○美濃里 (風土記) 五八

○三根郡 (風土記) 五五

○峰の嵐の(今様) (古代) 一六三

信長を恨む (太閤中) 六九

再び信長を恨む (太閤中) 六八

三たび信長を恨む (太閤中) 六九

妻照子髪を斷つて酒

を沽ふ (太閤中) 八三

本能寺を圍む (太閤中) 九六

二條の城を攻む (太閤中) 二三

妙心寺にて自害せ

んとす (太閤中) 一四

將軍宣下 (太閤中) 一六三

參内 (太閤中) 二六

秀吉と天王山を爭

ふ (太閤中) 二六

敗軍 (太閤中) 三三

生害を止まる (太閤中) 三五

小栗栖野にて落命 (太閤中) 三七

彦山權現誓助劔 (淨上) 四七

繪本太功記 (淨中) 四九

○光廣卿(烏丸)の寛活 (日記) 五九

○密夫の詮議 (大岡) 六六

○水茨 (宇津下) 四〇

○水落 (宇津上) 三〇

○瀬豆麻岐神 (古事記) 六七

○光當(横會根次官) (淨上) 八九

○光政朝臣の奇才 (窓の) 一八五

○三派 (江戸一) 一六

○三派の月 (江戸四) 四二

○光安(明智) (淨中) 六

○光行(海道記) (日記) 一

○光慶(明智)

繪本太功記

病死 (淨中) 五

○角髪 (太閤中) 三〇

○幣帛 (古事記) 三

○御堂關白(又、御堂殿、

御堂の入道、道長)

業遠朝臣に遺言せ

しむ (宇治) 一五

御犬、晴明等きど

くの事 (宇治) 四四

愛犬に難を救はる(宇治) 五二

清範律師を試む (宇治) 五二

大井河の逍遙 (宇治) 五三

法興院入道葬送の

夜 (古今著) 四六

○三處郷 (風土記) 四六

○御年神 (古事記) 六

○水戸中納言(綱條卿)越

前守へ再吟味取計

ひの事 (大岡) 一六

○水戸光圀卿

○水猿曲みづのえんきよ〔雜藝〕

(古代) 二七

○水尾みづのを

(宇津上) 三〇〇

同〔所の名〕

(宇津上) 四八三

○水尾の帝〔清和天皇〕

(宇治) 三三七

○水之神

彌都波能賣神

(靈能) 三六

其生立

(靈能) 二四三

○三つの車〔當流所作〕

(近代) 五〇

○三津郷

(風土記) 四六

○御津前みつのさき〔御綱柏〕

(古事記) 三六

○水野重兵衛の棺桶

(大久保) 三三

○水の關

(太閤下) 一五

○水野忠春の具足始め

の話 (窓の) 四

○光延〔閨〕女へ訣別の

狀 (書翰) 二八

○水野元朝子をまびく

惡風を改む

(窓の) 二四〇

○三ツの山

(淨上) 九五

○三ツ橋

(江戸一) 一六三

○蜜蜂

(平賀) 三六

○彌都波能賣神みづのはのめのかみ

(古事記) 一五

同

(靈能) 三六

○水齒別命の墨江中王

誅戮 (古事記) 二四二

○光春〔明智〕

信長の首を遠慮す(太閤中) 一三〇

二條城の天守を石

弩火鐵にて打崩

す (太閤中) 一五

浮橋を造りて勢田

を渡す (太閤中) 一四

馬にて琵琶湖を涉

す (太閤中) 三五

唐崎より坂本城に

入る (太閤中) 三三七

狩して白狐を獲 (太閤中) 三四

入江小七郎を誑せ

し狐を捕ふ (太閤中) 三五

寶器を秀吉に呈す(太閤中) 三六

生害 (太閤中) 三六

○光久朝臣祕藏の老馬(窓の) 三六

○光秀

其素性 (太閤上) 三六

信長に謁す (太閤上) 三六

鷹打嶽を攻め落す(太閤上) 四六

上月の後詰を拒む(太閤上) 五九

丹波の國を賜はる(太閤上) 六一

丹波の國平均 (太閤上) 六四

信長を強諫して辱

しめらる (太閤中) 五

流れ瀧頂

(心學) 四〇〇

○水上

(淨上) 三〇

○三井餐安

(略人傳) 六六

○光氏

(田舎上) 四二

○光氏の新聞

(田舎下) 四九

○三嬉敷(古今ふし)

(近代) 四四

○光興(問)より母への

手紙

(書翰) 一三〇

○水鏡の天神の像

(閑田) 七〇

○光景(姉尾平次左衛

門) 舊館地

(江戸二) 一七

○光方廷尉佐降雨に扇

をさす

(古今著) 七

○水瓶

(宇治) 三八

○自名づく説

(鶉衣) 五七

○水木(菩提樹の種)

(平賀) 一四

同(井彈正が妻)

(平賀) 四八

○貢(福岡)

(脚上) 五四

○光清(八幡の別當)

(宇治) 四七

○密教の教旨

(出定) 六五

○水莖

(宇津上) 四九

○光圀(水戸光圀を見よ)

○水汲新發意

(狂言下) 二九

○箕作城の合戦

(太閤上) 三三

○見附

(日記) 六六

○御厨子所

(宇津上) 四八

○水島

(萬葉上) 九一

○光季(舞人狛)

(古今著) 二三

○三瀬川(はやり歌)

(近代) 四九

同(長歌)

(近代) 五六

○水雜炊

(黃表紙) 一五九

○光高(絹笠三位)

(淨下) 二六

○光忠(明智)

負傷

(太閤中) 三五

自害

(太閤中) 三二

○水鐵砲、花火のいた

づら

(和合人) 三八

○光任(惟弘の親)

(淨上) 二〇

○光遠(大井、甲斐國の

相撲)

(宇治) 三七

○光遠の妹強力の事

(宇治) 三七

○光時

胡録

(古今著) 三三

春鶯轉

(古今著) 三三

○光俊(明智左馬助)

(淨中) 五

○水鳥の喩

(大久保) 一六

○御綱柏

(古事記) 三六

○三成(石田三成を見よ)

○躬恒

略傳、逸話

(百人) 三九

すみよしの歌

(宇治) 五〇

○通忠 (字津上) 二四

○通俊〔治部卿〕 (字治) 一九

同 (石川) 三二

○三千年〔琴〕 (字津上) 七四

○道長〔御堂關白を見よ〕

○通夏〔前大宮司〕 (淨下) 四三

○道成〔橘、入道教海〕 (淨中) 二四七

○道祖王 (雅文) 四九

○道公〔首名〕の詩 (詩集) 五四

○陸奥〔風俗〕 (古代) 一四九

○檀紙 (字治) 二〇三

○陸奥紙 (字津上) 一五

○道口〔催馬樂、律〕 (古代) 二七

○陸奥の絹 (字津上) 八六

○道之助〔藤崎道十郎の孝心〕 (大岡) 六七

○道之長乳齒神 (古事記) 三

○道則〔瀧口〕 (字治) 二四

○通憲〔少納言、後に信西〕 (字治) 五七

○道雅 (百人) 四九

○三千丸が家の記 (石川) 四一

○道行

越後獅子 (淨上) 四九

親子の友衛 (淨上) 一五三

千里の岩田帶 (淨上) 二五三

似合の女夫丸 (淨上) 三六

歸り咲き吾妻の路

草 (淨上) 六四九

若狹の局、まよひの

すがたゑ (淨中) 三五

旅路の濡衣 (淨中) 一七三

塗分鞘 (淨中) 二八五

思ひの富士 (淨中) 三九

いはねいろぎぬ (淨中) 五二

妹背の走書 (淨中) 六三

夏野のさらし井 (淨下) 四九

君が後紐 (淨下) 一五一

山路の響蟲 (淨下) 二八〇

伊勢土産 (淨下) 三五〇

涙のあみ笠 (淨下) 四三〇

旅賫の添乳歌 (淨下) 四九六

戀の幻 (淨下) 六〇四

比翼の袖 (平賀) 五三

しんじう煙管金性〔黄表紙〕 二五〇

○水附漁夫〔和漢朗詠集、雜一〕 (古代) 二四九

同〔新撰朗詠集、雜一〕 (古代) 三六三

○水

功德水 (禪林) 三三

水の源 (禪林) 二二六

○御田 (江戸二) 二六〇

○三田 (江戸一) 二六〇

○御臺様(繁氏の室) (浄上) 六

○御臺所(將軍の) (女太平) 一五四

御諫言の事 (女太平) 一五四

賢女劔を以て國を (女太平) 一五四

護る (女太平) 一五四

○御臺所の御不例 (大久保) 一五九

○御臺所役人の追放 (大久保) 一五九

○御嶽社の梅 (江戸四) 二五三

○御嶽詣 (宇津上) 二五八

○彌陀たのむ(當流所 作) (近代) 二五四

○三谷 (浄上) 二六〇

○三田八幡宮 (江戸一) 二六三

○鎮魂齋戸祭 (祝詞) 二五三

○美談郷 (風土記) 二七

○御弓 (宇津上) 二五八

○御手洗川 (曾呂利) 二六八

○亂髮(義綱傳家の寶 刀) (浄下) 二五

同(二上り) (近代) 二七四

○みだれぐさ(長歌) (近代) 二五九

○道 一切の道 (禪林) 二五

虚無の道 (禪林) 二五

道と名利渡世 (禪林) 二五

諸道の始中終 (禪林) 二五

大道を明むる便 (禪林) 二五

人の道 (心學) 二五

無理のない本心 (心學) 二五

須臾も離るべから (心學) 二五

ず 聖人の道 (直毘靈) 五

先王の道 (直毘靈) 六

道の有無 (花月) 二五三

○みち(岡本)より父母へ (書翰) 一九八

の遺書 (祝詞) 二五九

○道(饗祭) (祝詞) 二五九

○道(准后)廻國雜記(日記) 七七

○道(清土佐判官代) (字治) 四三

○道(定藏)人の兵衛尉(古今著) 二五

○道(眞管丞相) (古今著) 二五

御衣 (百人) 二五

其略傳逸話 (宇津上) 二五

○路芝 (近代) 二五

同(長歌) (浄下) 二五

○道芝 (狹衣) 二五

○道季 (狹衣) 二五

○道武朝臣(菅原)舊館 (江戸二) 二六〇

- 水分神 みくまりのかみ (古事記) 一三
 ○御倉板舉之神 みくらたなのかみ (古道) 四九
 ○みくりや みけぬのみこと (日記) 一五
 ○御毛沼命 みけぬのみこと (古事記) 二〇
 同 (靈能) 二七
 ○御氣人 みけひと (古事記) 七
 ○眉間尺 みまわら (淨上) 三七
 ○御子君(梨壺の) みかうのこ (字津下) 七六
 ○御神子(巫) みかうのこ (字津上) 四三
 ○操(貞節を見よ) (淨上) 七三
 ○操(弓之助の妻) (淨上) 七三
 ○操櫻(木匠の妻の貞操) (閑田) 九七
 ○操の方(光秀の妻) (淨中) 五
 ○みさなのまへ忍の段 (淨代) 三五
 ○あづま淨留利 (淨下) 五三

- 御塙山 みさこ (風土記) 四七
 ○睚鳩 みさこ (石川) 二〇六
 ○鶡 みさこ (字津上) 五九
 ○みさこ(料理方、鶡)家 みさこ 老どもに叱らるゝ(黃表紙) 六
 ○三島 (遊京) 三八
 同 (遊京) 四〇
 ○三島(名稱の由來) (日記) 一七
 ○三島明神 (日記) 二五
 同 (日記) 三八
 同(佐野の大貳の額) (字治) 五三
 ○三島明神社(駒形) (江戸三) 四四
 ○三島山(牛込) (江戸二) 五四
 ○すみ組(裏組) (近代) 一七
 ○みすの紙 (平賀) 四七
 ○御頸珠の考證 みすまると (靈能) 二六
 ○見世棚 (骨董集) 二六

- 見世物(兩國の見世物) (石川) 三七
 ○味噌 (平賀) 二八
 同 (字津下) 二九
 同 (字津下) 二九
 同 (字治) 四〇
 同 (字津下) 七三
 ○御衣架 みぞかけ (字津上) 三九
 ○禊 みそぎ (江戶四) 四七
 ○荒和祓(眞崎稻荷大明神) (田舎上) 五五
 ○御禊の人影 (狹衣) 三八
 ○御禊の日 (古事記) 三三
 ○禊祓の起原 (鶡衣) 七一
 ○寄米足齋歌 みそぎうた (淨中) 一五
 ○鶡 みそぎうた (淨中) 一五
 ○みそのの尼 (字治) 四七
 ○みぞろが池 (淨上) 三三

○三重采女の歌	(古事記) 二七四
○箕尾谷の四郎國時	(淨下) 四二
○落標の卷 <small>みをつくし</small>	(田舎下) 二〇五
○御大の御崎	(古事記) 六三
○未開紅	(田舎上) 一〇三
○見かへり露者 <small>みかへり</small>	(琦行傳) 七三
○瓶落 <small>みかおち</small>	(風土記) 五三
○御鏡の池	(日記) 四八
○御垣守	(禪林) 五五
○御神樂	(狹衣) 三二
○御影山	(日記) 四三
○三笠	(脚上) 五二
○水嵩 <small>みかさ</small> そふ里	(花月) 五二
○三笠山	(宇津上) 一〇九
○御炊屋	(宇津上) 四八
○三方ヶ原	(日記) 三九
○御方里	(風土記) 五五

○三形の沙彌	(古今著) 一六三
○三方(山田史)の詩	(詩集) 五四
○箕かづき	(狂言上) 四八
○三月月堂記	(鶉衣) 六五
○三月月賦(管三品)	(和漢) 三三
○身勝手 <small>みかどまつり</small>	(心學) 五九
○御門祭	(祝詞) 三七
○御門守 <small>みかぬし</small>	(宇津下) 六四
○甕主日子神 <small>みかぬしひこのかみ</small>	(古事記) 六三
○三香の原	(萬葉上) 一六
○三香原荒墟	(萬葉上) 三〇
○三日の夜の事 <small>みかほやひのかみ</small>	(狹衣) 二六
○甕速日神	(古事記) 一七
○三上山	(日記) 二九
同	(日記) 六一
○密柑と狐	(大久保) 三四
○三河三首(國風)	(近代) 三

○三河守(波多野)大に 李舜臣と戦ふ	(太閤下) 四一
○三河國	(日記) 一五
○三河國の銅鐸	(閑田) 三
○三河入道(三河守定基、 法名寂昭)	(宇治) 一五
○三木城の合戦	(太閤上) 五三
○神酒陶と土器	(大久保) 五六
○三木藏(享主) <small>みきのかみ</small>	(脚上) 五五
○造酒正信久(白馬節會 の習禮)	(古今著) 九八
○右橋 <small>みくしげどの</small>	(江戸二) 五七
○御匣殿	(宇津上) 八四
○三國峠の合戦 <small>みくしげど</small>	(太閤中) 三五
○御國禪	(狹衣) 四四
○三熊花顔の略傳 <small>みくまり</small>	(崎人傳) 四九
○水分	(日記) 四八

○眞弓〔出海左衛門の

妻〕

(淨下) 二六〇

○眞弓の方

(田舎上) 四四

同〔音成の奥方〕

(淨上) 四一

○撞まゆみの紙

(宇津上) 五五

○迷

迷と悟

(禪林) 二八

迷の生ずる因

(禪林) 二六

迷の根本

(禪林) 五五

○迷まよひがみ神

(宇治) 五七

○目弱王まよわのみにての復讐

(古事記) 二五

○鞠蹴鞠参照

(宇津下) 四五

○鞠蹴座頭

(狂言下) 四一

○まりこ〔吾妻淨瑠璃〕

(近代) 三〇三

○丸子

(日記) 三五

○魔利支天

(淨上) 四三

○麻里布の浦

(萬葉下) 二七

○鞠術の名目

(大久保) 四九

○鞠場の植物

(閑田) 一六七

○丸龜

(日記) 二四

○丸子渡口

(江戸二) 二六〇

○丸木橋

(淨上) 七

○圓木の盤もひ

(宇津上) 五五

○丸づくしの文様

(骨董集) 一〇五

○丸福頭布踊

(近代) 四二

○丸屋の新宅

(石川) 四三

○丸屋仁兵衛

(脚下) 二八

○圓山〔京都〕

(遊京) 四九

同〔料理茶屋〕

(日記) 五六

○麻呂〔紀朝臣〕の詩

(詩集) 五三

○丸まるといふ名

(年々) 二九

こ

○御生祭みあれのまつり〔加茂の祭を

見よ〕

○三井寺

梅法師

(醒睡) 三

宗祇と宗長の見物〔醒睡〕

(三三)

古鐘

(日記) 四七

○御井神みゐのかみ

(古事記) 五

○三井の門流

(宇治) 一六二

○木乃伊みいち取りが木乃伊

になる

(平賀) 六二

同

(平賀) 二六〇

同

(淨上) 五一

○身請盗人

(武野) 五四

○三浦大介

(石川) 四七

○三浦大介戦死の年

(閑田) 八七

○三浦屋

(脚下) 六三四

○三浦屋才助

(淨下) 三

○見えざるを慎む

(花月) 五四〇

萬願寺(醫王山)

(江戸二) 三三

○萬歲五常樂

(宇津上) 四三

○萬歳の畫賛

(鶉衣) 七三

○萬歳樂

(宇津上) 八

同

○卍山の高徳

(宇治) 四三

○萬子(愛梅説)

(崎人傳) 五六

○まんじゆ峠

(風俗) 九三

○まんじゆ峠

(曾呂利) 六三

○曼珠沙華

(淨中) 四三

○萬壽の姫

(御伽) 九四

○蠅指

(田舎上) 七

○除蝮蛇神符

(江戸二) 三三

○曼陀羅供養

(袂衣) 三七

○政所

(宇治) 一六

○政所君が畑

(閑田) 二

○饅頭(満仲の舞)

(醒睡) 三八

同

(淨下) 四七

○饅頭食

(狂言下) 四三

○まんぢうや

(田舎下) 七

○萬年山青松寺

(江戸一) 二四〇

○萬年屋(川崎)

(和合人) 四二

○萬野(中居)

(脚上) 四三

○萬八(手代)

(淨下) 六五

同(飴賣)

(淨中) 四九

同(ぶつたくりの)

(平賀) 五五

○萬八樓書畫會

(書翰) 三六

○萬福寺(慈眼山)

(江戸一) 四三〇

○まん丸踊

(近代) 四三

○萬三つの辨七(嘘つき

のあだ名)

○満面紅潤

(八文字) 一七四

○萬世(藝子)

(花月) 五六

○萬葉佳調跋(春海)

(脚下) 一七〇

○萬葉佳調跋(春海)

(琴後) 六四

○萬葉五卷抄

(遊京) 四八

○萬葉集

(淨上) 四六

○萬葉集佳調序(千蔭)

(うけら) 二九六

○萬葉集後讀記序(春

海)

○萬葉代匠記

(琴後) 六三

○萬葉集莫囂圓隣解

(古道) 三九

○萬里(藤原朝臣)の詩

(詩集) 四三

○萬里(藤原朝臣)の詩

(詩集) 五九

○豆(煎豆を食ふ事)

(禪林) 二七

○大豆

(古事記) 四〇

○豆賣の阿爺

(七偏人) 五八

同

(七偏人) 五九

○豆がらの話(徒然草)

(心學) 三七

○豆の粉

(淨上) 一九

○守の奇特

(田舎上) 一五六

○摩耶が嶽

(淨上) 五二

○眉止之女(催馬樂)

(呂)(古代) 一四二

○眞弓(宗左衛門の妻)

(淨中) 二五

〔端歌〕

○馬刀助 まてすけ

○萬里小路の里の字 まてのこうち

○政所 まんどころ

○圓野比賣の投身 まどぬひめ

○的弓 まとゆみ

○魚板 まないた

同

○魚板の古製

○組板銘〔岸昨囊〕

○眞子の庄司が後家〔清

姫の母〕

○無間勝間の小船 まなしかつま

○眞名鶴〔後に尼紫雲〕

○眞龍の香爐

○まな文

○學ぶ道と教ふる禮

(近代) 六〇三

(田舎上) 三三五

(閑田) 二

(宇津上) 六六

(古事記) 一五六

(宇治) 二九

(淨上) 四六

(宇津上) 一五

(骨董集) 九〇

(和漢) 五九

(淨中) 二五

(古事記) 六二

(娘節用) 三〇

(脚下) 三三

(宇津下) 二二

(閑田) 一八三

○眞字平家物語

○間部越前守 まにあひがみ

○間合紙

○摩尼珠山眞福寺

○間曳

○馬牽澤舊跡

○眞淵〔加茂〕

本居宣長への狀

岡部の家出

○まふりで〔津守國基〕〔百人〕

○間部氏の足輕と未進〔窓の〕

○眞間

紅葉の名所

同

○まゝき〔眞卷弓〕

○繼子

○繼子の孝心

(遊京) 四四

(女太平) 一五〇

(淨上) 三九

(江戸一) 三七

(畸人傳) 三三

(江戸二) 一九三

(書翰) 三二

(日記) 三三

(百人) 四三

(窓の) 二九

(江戸四) 四六

(平賀) 四九

(宇治) 四〇

(宇津下) 四二

(心學) 六七

○眞間浦

○眞間於須比

○眞間井

○眞間の入江

同

○眞間繼橋

○眞間の手兒名

同

○眞間手兒名の舊蹟

○繼母

○繼母の惡念

○眞間漬

○まゝよ〔めのと〕

○まみ穴

○幔

○萬阿彌〔義政將軍〕

○満願寺〔致航山〕

(江戸四) 三七

(江戸四) 三九

(江戸四) 三三

(淨上) 三五

(江戸四) 三八

(江戸四) 三九

(萬葉上) 一四

(萬葉上) 五二

(江戸四) 三二

(宇津上) 七

(心學) 六二

(江戸四) 三八

(黃表紙) 三六

(年々) 三五

(宇治) 四九

(醒睡) 二七三

(江戸二) 一三

素性

主従の生害

○詠戀松墓〔東花坊〕

○まつにござれ〔葉手〕

○松歌

○松の落葉〔扇徳〕

○松の皮、藁、土を食す

る法

○松の枝五六本

○松野金助

○松の木蔭に〔今様〕

○松、讀〔豆風曲〕

○松の精

○松の葉〔秀松軒〕

○松の實

○松橋辨財天社

○まつばら〔二上り〕

〔太閤上〕四九七

〔太閤上〕五〇三

〔和漢〕二六六

〔近代〕一七五

〔鶉衣〕七一九

〔近代〕三三三

〔心學〕九九

〔大久保〕三五四

〔脚上〕二四三

〔古代〕一六三

〔和漢〕二九七

〔狂言下〕六一

〔近代〕一六五

〔字津上〕四七

〔江戸三〕三三

〔近代〕六三七

○松原小路

○松ばらのかはり〔端

歌〕

○松兵衛

同〔唐崎〕

○松前伊豆守海北友竹

の言に感ず

○松前屋五郎兵衛之傳

〔五郎兵衛參照〕

○贈松本射山

○松本駄堂の奇行

○松山

○松山新吾犬千代と戰

ふ

○松代〔乳人〕

同〔孫市の娘〕

同〔禿〕

〔江戸一〕五一

〔近代〕六五

〔脚下〕三九

〔淨中〕四八

〔窓の〕二六二

〔大久保〕二三

〔鶉衣〕九七

〔崎人傳〕三九八

〔字津上〕二六六

〔太閤上〕一三

〔淨中〕三

〔淨中〕九四

〔脚上〕八九

○待宵〔吾妻淨瑠璃〕

○待宵侍従

○松ゆづり葉

○松浦鴻

○松浦河

○まつらぎぬた〔長歌〕

○松浦君川越の若者を

賞す

○松浦郡

○松浦五島〔筑紫の國主

城主〕

○松浦佐用姫

同

○政事といかのぼり

○祭の使

○祭の日落橋のさわぎ〔花月〕

○松はゆたかのかはり

〔近代〕三〇三

〔曾呂利〕五五

〔狂言下〕九〇

〔田舎下〕三五

〔萬葉上〕二五

〔近代〕五七

〔窓の〕二九

〔風土記〕五〇

〔淨上〕三四

〔萬葉上〕二六

〔古今著〕一五

〔花月〕五三

〔字津上〕三九

〔花月〕五九

○松平越中守乗物の棒

黒塗の由來

(大久保) 二四

○松平信勝の奇才

(窓の) 三六

○松平信孝の御書院番

任命

(窓の) 三〇八

○松平信綱(伊豆守)

家光に諫言

(大久保) 一五四

政治

(大久保) 一五九

秋山に彦左衛門を

諷諫せしむ

(大久保) 一六〇

政治の要を説く

(大久保) 一六五

才智

(大久保) 一四九

吹上上覽所の裁き(大久保) 三〇五

天一坊の諸役人に

對面

(大岡) 一〇五

○松平忠昌の立身

(大久保) 一八七

○松平伯耆守(重藏より)

の書

(書翰) 三〇三

○松平輝綱武功の士を

客とす

(窓の) 一六

○松竹(宴曲)

(古代) 四三

○松茸(木にて作りたる

物)

(平賀) 三二

松茸狩(松丁牧)

(和漢) 二九三

松茸狩[所作]

(近代) 五〇

松茸の比喩

(心學) 一八五

○松田彌太七

(脚上) 五四

○松太郎(出海左衛門宗

貞の子)

(淨下) 二六七

○眞土山

(江戸三) 五三

○待乳山(雪の名所)

(江戸四) 四九〇

同(戸田茂睦)

(江戸四) 四九〇

○まつち山

(萬葉上) 一〇四

同

(日記) 一〇八

同[考證]

(石川) 二〇

○松千代(梶原)

(太閤中) 二四

○松づくし踊

(近代) 四三九

○松戸堤

(江戸四) 二八三

○松殿(某房)

年中行事の繪に押

紙

(古今著) 三五四

思ひし女房の髪と

歌

(宇治) 四六六

○松戸津

(江戸四) 二八三

○松永霜臺(珍らしき

鉢)

(醒睡) 二八八

○松長久秀

東山を圍む

(太閤上) 一九四

三好と確執

(太閤上) 一九八

降参

(太閤上) 二五三

謀叛

(太閤上) 四九六

來迎松

(江戸四) 四三

酒井雅樂頭の事

(大久保) 三五

御里附

(大久保) 二二

老僧と少人

(醒睡) 三三

松柏の縁

(雅文) 二二

羽衣の松

(日記) 一八

高砂の松

(石川) 二六

三友

(石川) 四六

結び松

(萬葉上) 五

松と薦

(心學) 三七

松歌

(鶴衣) 七九

松賛

(和漢) 二九

貞木

(古今著) 五三

まつ江

(浄上) 四九

松枝

(田舎下) 二〇

松江藏人

(脚上) 二四

○松右衛門〔實は樋口

兼光〕

○松岡恕庵

(浄下) 一七

○松尾の神

(崎人傳) 四三

○松が浦〔奥州〕

(古事記) 六

○まつがえ〔長歌〕

(浄上) 一七

○松枝節之助

(近代) 五九

○松が岡殿

(浄下) 二〇

○末格〔晚望〕

(御伽) 二

○松風

(和漢) 二七

同〔小うた〕

(字津上) 三八

○松風の謠

(近代) 五三

○松風の卷

(田舎下) 四四

○松方〔左近尉〕

(田舎下) 六

○まつがみ

(字津上) 二四

○松吉

(字津上) 五五

○松下加兵衛〔日吉丸を

見る〕

(太閤上) 二

○松下嘉兵治〔人の生

膽〕 (大久保) 三三

○松下禪尼〔北條時氏の

室〕より時頼へ佛法

の信仰の事

(書翰) 二

○松下豐長の復讐

(崎人傳) 五七

○松坂

(遊京) 四四

○松島

(日記) 三八

同

(浄上) 五〇

同

(浄上) 二六

同〔伊達明衡の女〕

(浄下) 七

○松島の上人

(字治) 四五

○松島賦〔芭蕉〕

(風俗) 三五

○松助

(脚上) 四五

○抹香屋

(八文字) 二六

○眞先稻荷明神社

(江戸三) 五九

○松平右京太夫の仁心〔女太平〕

二四

○政道〔松田太郎左衛門〕

門〕

(淨中) 二三

○正光〔學士〕

(宇津上) 三三

○政宗〔伊達〕

羅馬法王への手紙〔書翰〕 五

由緒の事

(伊達) 三九

○正宗の刀

(脚上) 一七

○正宗の刀詮議

(脚上) 三三

○正盛〔佐倉侍從〕

茶器 (窓の) 二三

寛恕

(窓の) 三六

○正之〔宇治兵部之助、山城の浪人〕

(淨中) 四一

○當吉〔横曾根平太郎〕〔淨上〕 八

○正頼 (宇津上) 九

○眞柴 (田舎上) 五七

同〔久吉を見よ〕

○間島の館

(田舎上) 八三

○間島知義の後室

(田舎上) 二九

○まじわざ〔禁厭〕

(宇治) 二九三

○升

(宇治) 五三

○升形山

(江戸二) 三三

○眞菅〔太宰帥滋野〕

(宇津上) 一四

○升子〔神方〕へ景樹より詠草のたぐ書

(書翰) 三三

○升五郎〔團十郎の弟子〕

(黄表紙) 一四

○樹池

(風土記) 三六

○ませのうちなる〔今様〕

(古代) 一六一

○眞袖が原〔狐の妖怪〕〔一休〕

四九

○又三郎〔武谷〕萬の蟲を食ふ

(琦行傳) 七四

○亦四郎の髭

(琦行傳) 七三

○又助〔野路井〕大槻と密謀の事

(金澤) 二五

○麻多知〔夜刀の神〕

(風土記) 三六

○又兵衛〔後藤〕

本能寺の塀重門を打碎く

智を以て光秀が勢を殺す

(太閤中) 九

贛輜車を作る

(太閤中) 三五

虎を斬る

(太閤下) 二六

○またらきぬ〔班絹か〕〔宇津下〕

六〇

○町飛脚

(淨中) 四八

○町奉行借屋の請人

(大久保) 二五

○松

和漢朗詠集、雜新撰朗詠集、雜

ひかり松

(古代) 三三

新撰朗詠集、雜

(古代) 三五

ひかり松

(江戸四) 四二

○眞幸〔長瀬〕へ宣長より

の書

〔書翰〕二〇六

○眞拆

〔古事記〕三七

○正木〔白拍子〕

〔脚上〕三八

○正木典膳

〔脚上〕三七

○眞崎稻荷大明神〔荒

和祓〕

〔江戸四〕四七

○麻跡里

〔風土記〕五四

○正清〔加藤虎之助〕

〔淨上〕五一

同

〔淨中〕七

○正國〔金江勘兵衛〕

〔淨中〕四八

○政子

閨魔廳に於る訴訟〔雅文〕六七

靜に舞所望〔近江源

氏先陣館〕

〔百人〕七三

○眞砂君〔實忠の息〕

〔宇津上〕五二

○政資〔多嶋のむなぞ

り

○雅經〔二條宰相〕

〔古今著〕二〇三

略傳、逸話

〔百人〕六六

賀茂大明神信仰の

事

〔古今著〕二六

○正行〔楠〕へ正成より

訣別の狀

〔書翰〕二四

○雅俊〔源大納言〕一生

不犯の僧をして鏡

を打たする話〔宇治〕二〇

○雅朝親王七歳の萬歳

樂

〔古今著〕二五

○まさなり〔中納言兼左

衛門督〕

〔宇津上〕六二

○正信、士の脇差にて僕

を斬りたる者を退

く〔窓の〕二九

○正儀〔楠〕

同

〔燕石〕三七九

○正尙

〔平賀〕四四

○政秀〔平手〕死諫の書〔書翰〕三九

○當平〔主計頭小槻〕

〔宇治〕二九三

○匡房〔中納言大江〕

略傳、逸話

〔百人〕四七五

道理の舟沈没す

〔古今著〕八五

高麗國へ返牒

〔古今著〕二〇六

竟宴の序

〔古今著〕二〇六

あづまのこと

〔古今著〕二六二

北向の大門ある事〔宇治〕五六

文章博士

〔黄表紙〕一三三

○まさみち〔長唄〕

〔近代〕一九四

○正通〔異國へ思ひ立

つ〕

〔古今著〕二二

○雅通〔柳の歌〕

〔古今著〕二〇

議

- まきもくの歌 (宇治) 五五 (閑田) 一三三
- まき山新治 (脚上) 六三 (浄上) 五九
- 眞葛が原 (日記) 五二 (宇津上) 一三四
- 同
- 枕〔樽の頭〕 (日記) 五五 (年々) 三七 (用捨箱) 七六
- 枕詞
- 枕簞笥
- まくらづくし〔二上り〕 (近代) 六三三 (百人) 四七
- 枕の草子 (曾呂利) 五三 (浄上) 三
- 枕の伽 (狂言下) 四九 (浄中) 九三
- 枕物狂
- 孫市〔鱈〕
- 孫一郎〔加藤〕賤ヶ岳

の高名

- 孫右衛門〔道具屋〕 (太閤中) 五四 (浄中) 六二
- 誠〔天の道、人の道〕 (心學) 一八三 (信の左大臣) 二七三
- 誠の道〔篤胤の論〕 (古道) 四七
- 孫八〔竹下〕 (浄中) 二六
- 孫八左衛門〔竹下〕 (浄中) 二
- 孫兵衛〔貴田〕元夏哈にて戦死す (太閤下) 一七
- 同〔はじめ毛谷村六助〕 (浄上) 五二
- 孫兵衛〔坪内〕源次郎 (書翰) 五四 (浄上) 四二
- 馬込八幡 (浄上) 三
- 眞菰 (江戸一) 八三
- 菰が淵 (江戸一) 八三
- 孫六〔鈴木〕の趁跛踊 (太閤中) 一七

○まさ〔遣手〕

- 正明〔中納言平〕 (浄中) 五七 (宇津上) 一〇五
- 雅明の御子 (宇治) 五三
- 政右衛門〔高桑〕の最期 (金澤) 三六
- 政右衛門〔行水〕の僻と長壽 (琦行傳) 八六
- 政氏〔雅樂大夫戸部〕 垣代の笛 (古今著) 三九
- 政岡のまゝたき場 (浄下) 六
- 正勝〔吾勝勝速日天之忍穗耳〕命 (古事記) 三
- 正勝〔蜂須賀〕日吉丸の智を試す (太閤上) 二七
- 將門〔平〕 (浄上) 一〇七 (御伽) 三九〇
- 同
- 正鹿山津見神 (古事記) 六

野路井又助を拷問

の事

(金澤) 三三四

曲者に仇せらる

(金澤) 三五六

○前田利家

父子勝敗を算る

(太閤中) 四九三

末森の城の後詰す

(太閤中) 六二三

卜者に軍の吉凶を

占はしむ

(太閤中) 六二三

氏直を降す

(太閤下) 八二

○前波九郎兵衛信長に

降参す

(太閤上) 四九六

○前野但馬守盜難に遭

ふ

(太閤下) 三三三

○前原崎

(風土記) 四一

○眞顔(北川)石井夏海

(歌よみ等の噺)

(書翰) 二九八

○眞顔(鹿津部、四方歌

垣]

(石川) 四〇〇

○摩訶迦葉

(出定) 五三

○まがき(端歌)

(近代) 二八

同[さわぎ]

(近代) 六四四

○籬が島

(日記) 一四六

○摩訶止観

(禪林) 三六

○まが玉

(心學) 三六

○福津日神

(古事記) 二五

同

(直毘靈) 二三

○禍津日神直毘神の説(靈能) 二六〇

○眞金吹(催馬樂、呂) (古代) 一三三

○摩訶般若心經讀誦の

僧の不思議

(一休) 五七

○碗

(宇津下) 三八

○望理里

(風土記) 五二

○まき(布を擣つ具)

(宇津上) 三九

○麻貴、茅國器と蔚山の

○擲手を攻む

(太閤下) 四〇〇

○捲上髪

(平賀) 三一

○蒔繪

(宇津上) 一〇八

○蒔繪師(こもちをまき

かけての間違)

(古今著) 四八〇

○蒔繪の置口の箱

(宇津上) 五八

○まき江の兄弟

(黄表紙) 二八

○蒔繪の棚

(宇津上) 四三

○卷絹

(田舎上) 四三

○まきの板戸

(宇津上) 四三

○槓尾

(曾呂利) 五九

○牧の方(石動丸の母)(淨上) 二〇

○牧の方

(百人) 六五

○牧野備後守

柳澤彌太郎と相談(女太平) 一五

御役御免の事

(女太平) 五四

○眞備(吉備)立太子の

○堀兼井

(日記) 二〇

同

(江戸三) 二九

○堀久太郎行市山に佐

久間と戦ふ

(太閤中) 五〇

○堀川

(宇治) 一五四

○堀川〔侍賢門院の〕

(宇治) 四〇

○堀河院

明退に笛ふかせ給

ふ

(宇治) 二七

明退に笛を賜ふ

(宇治) 四九

皇帝の曲

(古今著) 二五

艶書合せ

(百人) 四七

○堀川右大臣

(古今著) 九〇

○堀川太政大臣〔基經〕

(宇治) 四三

○堀川の大匠

(袂衣) 四

○堀河左大臣〔俊房〕

紫雲を見る

(古今著) 五

道満をして呪詛せ

しむ

(宇治) 五三

○堀川の段

(浄下) 四九

○堀河中將

(宇治) 三〇

○堀川六條〔爲義の館〕

(浄上) 二〇九

○堀藤次の藝人談

(八文字) 五七

○堀内山王權現宮

(江戸一) 四六

○堀秀政の智略

(太閤下) 六三

○堀部綱兵衛

(崎人傳) 五九

○波爾杜瓦人種ヶ島に

て鳥銃を試む

(太閤下) 四三

○母衣

(浄下) 四八

○梵論字

(浄上) 五三

○舞

舞の書

(閑田) 一五四

舞に關する話

(醒睡) 三五

酒飲まぬ男の舞

(雅文) 三七

○舞子の評

(日記) 五〇

○蒔田城跡

(江戸一) 五三

○舞鶴〔遊女〕

(女房) 六八

○舞の意

(宇津上) 五三

○舞人

(宇治) 四四

○舞人陪從

(宇津上) 二六

○舞催歌〔延年唱歌〕

(古代) 五八

○賣僧頭

(浄上) 三

○前島

(日記) 二

同

(日記) 六

○前田家〔加州〕太平に

治まる事

(金澤) 三五

○前田土佐守

一騎關を踰ゆる事(金澤) 二六

江戸に移る(金澤) 三三

ず

召捕らる

切腹仰付けらる

○本多正信

由緒

江戸市中平定

○凡兆(柴賣説)

○本朝二十四孝

○本詰

○梵天王(高皇産靈神の

印度の稱)

○梵天王の姫

○梵天國

○本傳寺(天法山)

○梵天帝釋孝子大しう

に七草を教ふ

○本阿彌光悦

(大久保) 二七

(大久保) 二三

(大久保) 二六

(大久保) 四

(大久保) 四

(大久保) 四

(風俗) 三

(淨上) 二九

(日記) 五六

(古道) 四三

(御伽) 二三

(御伽) 三〇

(江戸二) 六二

(御伽) 三二

(崎人傳) 四一

○本阿彌の劔の鑑定

○煩惱

○煩惱心

○本能寺

同

○本納寺(妙永山)

○本能寺の追福

○本能寺の變

同

○ほむのが原(泰時と

柳)

○本箱(銘(菅師冬)

○凡夫

○雪洞びんぼりわた綿

○本末

本を勤む可き事

本末を誤る勿れ

(窓の) 一四三

(禪林) 四三

(淨上) 五二

(淨中) 六二

(太閤中) 六

(江戸二) 六二

(太閤中) 四三

(太閤中) 九

(淨上) 四一

(日記) 六一

(和漢) 五三

(禪林) 三三

(淨下) 三六

(禪林) 一六

(心學) 二九

○盆祭(京都)

○本妙法華經寺(正中

山)

○本牧十二天宮

○本門寺(長榮山)

○本來の面目

○母夜叉(孫二娘)孟州

道にて人肉を賣る(水滸二)

○鰯はち

○ぼら吉

○堀尾茂助

岩倉山に力戦す (太閤上) 八〇

秀吉を稻葉山城内

に導く

森山城に使す

多藝谷城に入る

齋藤内藏介を捕る(太閤中) 三六五

(日記) 五一

(江戸四) 四二

(江戸一) 五九

(江戸一) 五九

(禪林) 四三

(女房) 三六

(年々) 三三

(年々) 三三

(年々) 三三

(年々) 三三

(年々) 三三

(年々) 三三

(年々) 三三

(年々) 三三

(年々) 三三

(年々) 三三

(年々) 三三

- 郭公文臺記 (鶉衣) 六〇
はとのさと
 ○穗門郷 (風土記) 五〇
 ○ほどの説 (石川) 四六
 ○ほとんどぶし(端歌)(近代) 六四
 ○ほうれんほうのつう
 だ左衛門 (黄表紙) 一八四
 ○骨皮新發意 (狂言下) 四八
 ○本院侍從 (宇治) 二六
 ○本覺寺切通 (江戸一) 五五
 ○本覺禪寺(青木山) (江戸一) 五五
 ○本覺坊(治部卿) (醒睡) 五
 ○本願寺 (淨上) 一八三
 同(淺井に與す) (太閤上) 四三
 ○本願寺建立 (太閤中) 一七
 ○本願寺顯如三好之三
 老臣を説く (太閤上) 一六
 ○本久寺(照本山) (江戸四) 一六

- 本光寺(經王山) (江戸一) 五二
 ○本國寺の合戦 (太閤上) 二七
 ○本行寺(長久山) (江戸三) 二六三
 ○本卦 (閑田) 九〇
 ○盆山 (狂言下) 三六四
 ○本三位の本の字 (閑田) 一九
 ○本重(貸本屋) (淨中) 五二
 ○本淨寺(大野山) (江戸二) 六五
 ○本莊助太夫 (脚下) 一
はむすびのかみ
 ○火産靈神 (靈能) 三六
 ○本尊をとりかへく
した僧の話
 ○本銀町封疆 (心學) 二〇八
はんしりかねちやうどて
 ○本誓寺(當知山) (江戸一) 七六
 ○盆石ノ記 (江戸四) 四〇
はんせんじ
 ○品川寺(海照山) (鶉衣) 六七五
 ○ぼん太 (江戸一) 三四
 (淨中) 三〇

- 本田あたま (平賀) 一〇三
 ○本多重次大釜を破る(窓の) 一〇三
 ○本多次郎近經 (淨下) 四七
 ○本田の二郎(棒澤六郎
 と追剝のまれ) (黄表紙) 一〇〇
 ○本多正純
 理を盡して秀忠を
 すゝむ (大久保) 五
 家康に大久保を讒
 す (大久保) 五
 忠長卿を稱揚す (大久保) 八〇
 祕密の言上 (大久保) 八一
 平岩と密謀を談ず(大久保) 八二
 釣天井の奇計を構
 ふ (大久保) 九四
 將軍を出迎ふ (大久保) 一〇七
 板倉の勧めに従は

法華宗

(心學) 三九

○法華淨土の宗論

(心學) 一八九

同

○法華の眞の面目

(禪林) 四一

○沒遮欄(穆弘)及時雨

を追ふ

(水滸二) 三七

○堀田正清士臣の防火

を咎む

(窓の) 一三四

○堀田備中守秀言の事(女太平)

三

○穗積里

(風土記) 五四

○最手(大關)

(字津上) 八五

○布袋庵風客句集序

(鶉衣) 七五

○布袋贊

(鶉衣) 八七

○ぼてふり

(淨中) 五五

○ぼてん瓜

(醒睡) 六

○火照命(海幸)

(古事記) 八九

○程ヶ谷

(平賀) 四九

○程ヶ谷新町

(江戸一) 五七

○缶

(字津上) 五六

○佛(佛教を見よ)

○佛市兵衛(羅字屋)の

惡事

○佛が原(加賀)

(大岡) 六九

○佛が峯

(日記) 八二

○佛佐吉

(日記) 四四

同

(心學) 四三

○佛奉(菊歌(苗宰陀))

(崎人傳) 四六

○佛の數とお猿の數

(和漢) 三〇

○佛の方便(今様)

(黃表紙) 一六

○佛濱

(古) 代 一七

○佛孫右衛門

(風土記) 四〇

○佛孫兵衛

(禪林) 三九

○佛又右衛門

(脚下) 二二

○佛も昔ば(今様)

(八文字) 四一

○ほととぎす

雜藝

(古代) 一六

和漢朗詠集

(古代) 一九

新撰朗詠集

(古代) 三九

宴曲

(古代) 四九

念佛組

(黃表紙) 九

宗祇と彦兵衛

(醒睡) 四

仲澄と少納言との

唱和

(字津上) 一七

講る歌

(年々) 三七

郭公の名所

(江戸四) 四八

時鳥を聞く文(千

蔭)

(うけり) 六二

其異名

(江戸四) 四六

加賀千代入門の句(崎人傳)

郭公を聞く文(春

海)

(琴後) 七五

柴田滅亡の狂歌 (太閤中) 五二

○細川與八郎妻女を離

縁す (太閤中) 一五

○細川頼之

○ほそき煙

○細長

○臍の緒

○細野忠兵衛菅大膳と

對決 (窓の) 三四

○細脛

○細布

○ほそりづくし(よし原

小唄) (近代) 三

○菩提

○菩提院入道

○菩提講

同 (宇治) 一四

○菩提樹(善光寺如來の

奇瑞) (平賀) 一元

○菩提樹の數珠

○牡丹(桐壺)

○愛(牡丹(伊東怨)

○牡丹臺の戰

○牡丹の名所

○螢

東人の歌 (宇治) 三七

歌と詩 (宇治) 四三

和泉式部の歌 (宇治) 五三

和漢朗詠集、夏 (古代) 一九

新撰朗詠集、夏 (古代) 三九

秀吉の發句、紹巴の

わき (太閤下) 四三

鳴く聲の有無 (曾呂利) 五六

宇治川 (曾呂利) 五六

六曜の占の外 (醒睡) 三五

螢の故事 (石川) 三七

螢の名所 (江戸四) 四〇

螢狩 (淨上) 五三

○はたるの巻 (田舎下) 四九六

○没羽箭(張清)石を飛

せて英雄を打つ (水滸三) 三四四

○渤海の入貢 (歌戎) 三五

○北京(清國の首都) (平賀) 三二

○發句塚 (日記) 六六四

○發句塚、序 (鶉衣) 六九七

○法華狂ひ (八文字) 八

○法華三昧 (禪林) 四七

○法華寺(妙法山) (江戸二) 一六

○法花寺(孝謙天皇の建

立) (宇治) 五五

○法華宗 (醒睡) 一六〇

○鉢〔神樂歌、採物〕（古 代） 九五

○菩薩

二十五の菩薩（禪 林） 九

日光菩薩（禪 林） 二六

月光菩薩（禪 林） 二六

菩薩の威儀（禪 林） 三七

俊蔭、琴一つづつ奉

る（宇津上） 一八

○星

星を打落す事（石 川） 三三

月星さわぐ（宇津上） 四〇

星の説〔篤胤〕（鑑 能） 三七

地におつ（古 今） 五八

○星合團九郎（脚 上） 一四

○乾飯（宇津上） 七〇

同（宇津下） 五〇六

同（宇 治） 二八

○晡時臥之山（風土記） 四〇五

○星月壽庵（田舎上） 四二

○千棗（宇津下） 二九

○保科寺（田舎下） 九

○戊申の告諭〔靜寛院宮

より臣下へ〕（書 翰） 四六三

○星谷の井舊地（江戸二） 六五

○暮春〔和漢朗詠集、春〕（古 代） 一六

同〔新撰朗詠集、春〕（古 代） 二九

○甫春〔頭大〕（用捨箱） 八二

○火須勢理命（古事記） 八九

○細井廣澤（崎人傳） 五四

○ほそを風〔一つの琴

の名〕（宇津上） 一九

○細川（日 記） 四三

○細川越中守扱ひの

事（女太平） 一〇三

○細川刑部大夫光秀と

絶交す（太閤中） 一五

○細川家の家臣へ宮本

武藏より致仕を乞

ふ文（書 翰） 七

○細川藤高

本願寺に三好家を

説かしむ（太閤上） 一九

忠志（太閤上） 一九

信長に降る（太閤上） 四七

○細川幽齋〔玄旨法印〕

仲間の大佛（曾呂利） 六四

手習の雙紙（醒 睡） 三八

見附の國府と富士（醒 睡） 三三

井戸茶碗（醒 睡） 三三

紹巴を誠む（崎人傳） 四六〇

九州道の記（日 記） 一四九

- 坊丸〔春長の家來〕 (淨中) 六六
 ○法明〔百濟の尼〕 (宇治) 五四
 ○法明寺〔威光山〕 (江戸二) 六九
 ○棒持の綿 (宇津下) 五一
 ○朋友
 互に知らぬが佛 (八文字) 三四
 宴曲 (古代) 四〇
 友に交る道 (花月) 五七
 ○放鷹樂 (宇治) 二七
 同 (宇治) 四三
 ○蓬萊山 (石川) 一六〇
 同〔今様〕 (古代) 一五
 ○鳳來寺峯の藥師 (江戸一) 四三
 ○蓬萊の山 (宇津上) 一六八
 ○法樂の舞 (田舎上) 四七三
 ○法樂俳諧序 (鶉衣) 七九
 ○法蘭〔花を降らす〕 (出定) 六四

- 火達理命〔山幸〕 はをりのみこと (古事記) 八九
 ○方笠庵記 (鶉衣) 七五
 ○法輪寺 (田舎下) 二六
 ○方略の宣旨 (宇津上) 四六
 ○寶蓮寺〔東林山〕 (江戸四) 一八
 ○炮烙はかり、賛 (鶉衣) 五七
 ○行器 はかり (宇治) 一五
 同 (宇津上) 四八
 ○卜都檢校〔琵琶の自漫〕 ぼくいち (醒睡) 二六
 ○北海〔江村〕の詩 はくきん (詩集) 一三
 ○北京 (水滸一) 三〇
 ○北京城 (水滸三) 二〇三
 ○北齋〔葛飾〕より書店の主人へ (書翰) 四六
 ○北枝〔仁不仁〕論 (風俗) 二五
 ○北七里〔豆腐〕賦 (和漢) 二五

- 睦州城 うらなひ (水滸四) 五五
 ○卜筮〔占參照〕 (武野) 四七
 ○ほくそ頭巾 (淨上) 六
 ○木導〔出女説〕 (風俗) 八
 ○牧童傳〔支考〕 (風俗) 一六
 ○卜養〔牛井〕居宅地 (江戸一) 一四
 ○木履、説 (和漢) 四〇
 同 (鶉衣) 五六
 ○法華經 (醒睡) 四三
 同 (醒睡) 三六
 同 (禪林) 五
 同 (禪林) 四九
 同 (出定) 六七
 同 (宇治) 一七
 同 (平賀) 二六
 ○讀法華經〔秋之坊〕 (和漢) 三三
 ○保元の亂 (百人) 五三

熊本の餅屋に奉公

す

(太閤) 三七

吉兵衛と改名す

(大岡) 四三

○法持寺

(醒睡) 八

○寶重寺

(日記) 一五

○法住寺〔普賢山〕

(江戸三) 六二

○北條氏直

今川と富士川に戦ふ

(太閤上) 三

ふ

利家に降る

(太閤下) 八三

○北條氏規秀吉に謁す〔太閤下〕

五

○北條氏房浮田秀家よ

り酒肴を贈らる

(太閤下) 六

○北條氏政

瀧川と神奈川に戦ふ

(太閤中) 四二五

ふ

其家系

(太閤下) 五

自害

(太閤下) 八三

○北條氏輝の自害

(太閤下) 八三

○北條氏康の狐の話

(曾呂利) 五七

○方丈記〔長明〕

(宇治) 五七

○北條氏論〔宣長〕

(馭戎) 二六

○傍眺亭記

(鶉衣) 七五

○北條時政の閨魔廳に於ける訴訟

(雅文) 七

○頰杖

(淨上) 一九

○棒つかひ

(石川) 二二

○方天定

(水滸四) 四六

○寶塔

(淨上) 四

○坊の津〔よし原小歌〕〔近代〕

六

○法然上人

敦盛の子を拾ひて育つ

(御伽) 一六六

育つ

大佛供養の説法

(御伽) 三五

其至言

(禪林) 四六

稻岡の庄に赴く

(曾呂利) 五八

○坊の帶刀〔東宮坊付の武官〕

(宇津上) 一四三

○忘八〔遊女屋の亭主〕

(平賀) 六三

○寶引〔福引參照〕

(平賀) 二七四

○暴風雨

(田舎上) 五五

○法服

(宇津上) 二五二

○望夫石〔幽明錄としらら物語〕

(古今著) 一五

○ぼうふり

(黄表紙) 一五

○方便

(禪林) 五

○方便品

信心する人の功德〔出定〕

六九

謗る人の罪報

(出定) 六三〇

○方便や無名次

(黄表紙) 二四六

○謗法雜行

(心學) 二六九

求む (書翰) 一五二

寶藏主へ老學者の

意氣 (書翰) 一五三

○方十園記 (鶉衣) 七六

○房州砂を齒磨に入れ

る (平賀) 二六

○寶珠寺 (水滸一) 四三

○ほうせう〔步障か〕は

うせうひかせ給へ

り (宇津下) 七七

○ほうせう院〔西三條實

隆の室〕姫君へ嫁入

の訓辭 (書翰) 三〇

○放生會〔男山八幡〕 (宇治) 五四

○法勝寺 (宇治) 三〇

○法成寺 (宇治) 五〇

○寶生寺〔不動山〕 (江戸二) 六二

○法勝寺執行 (宇治) 四四

○法性寺と道成寺 (黃表紙) 三〇三

○法性寺殿〔關白忠通〕

武正の參向 (宇治) 三三

武正の川意 (宇治) 四九

殿々門々の額を書

す (宇治) 五六

内宴に詩を奉る (古今著) 九四

知足院の屏風 (古今著) 三三

おこしごめ (古今著) 五九

○法性寺の入道〔はやり

歌〕 (近代) 五三

○法性寺入道前關白太

政大臣 (百人) 五四

同 (黃表紙) 一六

○望歸亭記 (鶉衣) 九〇

○坊城の右の大殿〔師

輔〕 (宇治) 四

○坊主〔僧參照〕 (平賀) 二九三

○法漸 (醒睡) 五

○法泉寺〔大谷山〕 (江戸二) 四三

○寶仙寺〔明王山〕 (江戸二) 四九

○寶泉寺〔禪英山〕 (江戸二) 五五

○法禪寺〔日照山〕 (江戸四) 四

○彭祖〔和神導氣の法〕〔禪林〕 三五七

○寶藏寺〔珠玉山〕 (江戸一) 二九

○法藏僧都〔東大寺〕 (宇治) 四三

○寶藏の名劔 (田舎上) 八〇

○豐太閤〔秀吉を見よ〕

○寶澤〔感應院の弟子〕

毒藥を盗む (大岡) 三

お三婆を縊殺す (大岡) 三七

紀州を出て九州へ

下る (大岡) 三

○法眼 (畸人傳) 五〇

○方言

關東の方言

東歌

○傍言

○法源寺〔歸命山〕

○保元亂の大略

○奉公

娘の出世

酒家奉公

奉公人の心掛

飯焚のお杉

奉公人の心掛

女中の色々

奉公持

○方廣寺大佛殿

○茅國器の従軍

(燕石) 四五

(萬葉下) 二七

(花月) 五三

(江戸三) 五三

(太閤上) 五九

(八文字) 九六

(八文字) 四四

(心學) 一〇八

(心學) 四三

(禪林) 二四

(雅文) 五七

(淨上) 一五

(大久保) 三

(太閤下) 四一

○豐國神〔豐臣秀吉の神

號〕

○坊婚家一宿

○烹茶樵書序〔春海〕

○酸醬を吹きならす事〔骨董集〕

○厚朴の木

○鷗齋〔龜田〕の詩

○房山寨

○法三章

○法師

中納言師時を欺か

んとす

花の白河わたるに

は

西念の事

瓢箪をかけて樹下

に白湯を煮る

(馭戎) 一五

(俳句集) 五二

(琴後) 六〇

(宇津上) 六〇

(詩集) 一七

(水滸四) 三九

(平賀) 九四

(宇治) 二

(宇治) 四一

(石川) 七

(太閤下) 三九

法師に戀せし人 (年々) 三〇

○ほうし〔なげぶし〕 (近代) 三五

○帽子〔女子の帽子〕 (日記) 五六

○寶志和尚 (宇治) 二八

○榜示杭〔武藏相摸の國境〕

(平賀) 五六

○帽子叟孔子と問答の事

(宇治) 一七

○棒縛

(狂言下) 二〇

(太閤下) 四三

○望津城

○法深房

竹のうきれ

よつの緒

○法師物狂

○寶珠

○芳洲〔雨森〕

新井白石へ推舉を

(古今著) 一九

(古今著) 二六

(狂言上) 二五

(淨上) 二

- 辨財天の靈驗 (崎人傳) 四七三
- 邊州〔唐土〕 (宇治) 三四九
- 遍照心院 (崎人傳) 五七〇
- 變生王〔地獄の役人〕 (平賀) 一六九
- 辨正〔釋〕の詩 (詩集) 五七七
- 偏袒右肩 (年々) 二四七
- 偏つき (田舎上) 四二七
- 篇つきの説 (田舎上) 四三八
- 辨天の祠 (田舎上) 四三三
- 辨當 (淨上) 二二
- 辨兼成 (脚上) 四七九
- 辨の中將 (脚上) 二三
- 辨の乳母 (狹衣) 四三三
- 便々館狂歌集の序 (石川) 四六四
- べら坊 (平賀) 二八

ホ

- 布衣^{はい} (宇津上) 四三一
- はいたけ棒 (骨董集) 一四八
- 陪堂^{はいだう} (淨中) 二五五
- はいく踊 (近代) 四七三
- 法 法は嗣ぐ可らず (禪林) 三三九
- 妙法一心に歸す (禪林) 四三〇
- 施庵〔金森〕〔星廬より
の來書 (書翰) 三六八
- 法印〔山伏〕 (淨上) 三六〇
- 奉盈〔筑山〕〔山陽より
の來書 (書翰) 三六五
- 鳳凰 (宇津上) 一五
- 同 (黃表紙) 一三六
- 法皇の御鞠 (古今著) 三七〇
- 鳳凰の茶屋 (黃表紙) 一四〇
- 報恩寺〔高龍山〕 (江戸三) 四四〇

- 同〔平河山〕 (江戸四) 一五七
- 同 (狹衣) 五二五
- 法恩寺〔平河山〕の寒
菊 (江戸四) 四七七
- 方外道人の狂詩 (川柳) 五四
- 望嶽樓記 (鶉衣) 六六七
- はうかそう〔三下り〕 (近代) 六四〇
- 同〔吾妻淨瑠璃〕 (近代) 二九九
- 放下僧道行〔あづま
淨留利〕 (近代) 三四一
- 法眼〔法橋の上位〕 (宇治) 四六六
- 奉加帳 (大久保) 一九五
- 同 (心學) 五五九
- 伯耆〔國風〕^{やふきのさと} (近代) 九三
- 法吉郷 (風土記) 四六
- 簪傳〔井童平〕 (和漢) 五三
- 望玉蟾の飄逸 (崎人傳) 六二

○蛇

島の明神に出て來

る

(古今著) 一五

南都の初瓜

(古今著) 二四

針に恐る

(古今著) 六二

釘に打たれて六十

餘年

(古今著) 六二

熱湯をあびせし女(古今著) 六七

はやなといふ蛇

(古今著) 六二

耳ある蛇熊鷹に殺

さる

(古今著) 六九

僧と本妻

(古今著) 六三

伶人助元還城樂の

破を吹く

(古今著) 六六

恩を思ふ

(宇治) 二九

觀音經

(宇治) 一六

高野の神

(宇治) 六三

晉の承廣

(近代) 三

眞蛇

(近代) 一元

惡をふくめる毒蛇

(宇津上) 八

二女の毛髮

(淨上) 三

小蛇首にまどふ

(閑田) 六

蛇化して章魚とな

る事

(閑田) 一二

瘡の守

(大久保) 三六

懷中より小蛇の形

(淨中) 四三

毒蛇の口

(平賀) 五四

蛇の室、蛇の比禮

(古事記) 五

蛇隱居の話

(琦行傳) 七九

蛇喰八兵衛の話

(琦行傳) 七〇

○邊鄙以知吾

(禪林) 四七

○へびいちごの説

(禪林) 四八

○へびりの判官代

(古今著) 四二

○へ妙

(女房) 五八

○卞和が璧

(淨上) 四

○變化(怪異參照)

仲忠は仙人の轉生(宇津上) 五

○人の心をまどはす

(古今著) 五九

○辨慶

御所櫻堀河夜討

(淨下) 三六

同

(淨下) 三八

めくら仙人目明仙

人

(黃表紙) 三

借用證文

(石川) 四七

同

(淨下) 一八

義經の難を救ひし

事

(閑田) 八〇

○汴京城

(水滸) 三九

○辨慶橋

(江戸) 二〇

○辨財天社

(江戸) 四

同(行徳)

(江戸) 二〇

死す

(黄表紙) 三三

○平太夫〔三宅〕渡瀬小

次郎を討つ

(太閤下) 六〇

○平太郎の母〔光當の

妻〕

(淨上) 六

○平仲〔平貞文〕

好色

(石川) 三九

同

(宇治) 二六

同

(田舎上) 三〇二

○平八郎〔本多〕留守宅

への短文

(書翰) 五

○平八郎〔大鹽〕へ一齋

より王學に關する

手紙

(書翰) 三三

○平兵衛〔家主〕實意の

事

(大同) 五五

○兵法

町人の兵法稽古

(八文字) 六

兵法の奥の手

(八文字) 五九

平手木下の兵法争

ひ

(太閤上) 二〇六

菊水の巻

(脚上) 三四三

兵は今日にあり

(花月) 三四

○平馬〔岩淵〕

(淨上) 二

○平樂寺

(田舎下) 五二

○平林禪寺〔金鳳山〕

(江戸三) 八三

○霹靂火〔秦明〕夜、瓦爍

場^ばに走る

(水滸二) 二四

○可^べ内〔奴〕

邊疎^{へぎかくのかみ}神

(古事記) 二四

○臍^へ頤

(鶉衣) 六六

○臍^へ説

○別納^{べつな}

(宇津下) 二四〇

○へちまの皮

(醒睡) 九

同

○絲瓜^へ辭

(平賀) 二八

○別所長治

素性

(太閤上) 五二

信長に叛す

(太閤上) 五四

○別所治定の討死

(太閤上) 五五

○別所治長より淺野彌

兵衛への手簡

(太閤上) 五三

○別所賀相の變心

(太閤上) 五五

○別首座

○邊津甲斐辨羅神

(古事記) 二四

○別當〔黒龍寺の〕

(宇治) 二〇二

○別當といふ俗語

○邊津那藝佐昆古神

(古事記) 二四

○臍^へ脂^{あぶら}繪寶

○紅の花

(平賀) 四七

○紅筆

(田舎下) 二二

愚人の放屁

(石川) 三七

屁の恩賞

(石川) 三七

放屁論並故事

(石川) 四二

放屁論

(平賀) 三

放屁男

(平賀) 五

昔語花咲男〔放屁

男〕

(平賀) 六

放屁藥

(平賀) 六

女放屁の事

(宇治) 八五

説經師の屁とはこ

(宇治) 四七

佛供養の折から

(宇治) 四七

屁ひりの判官代

(古今著) 四一

佛になる法

(一休) 五三

屁づくし

(七偏人) 四二

○米菴〔市河〕より進庵

へ

(書翰) 三八

○平あんどやう草花づ

くし〔あづま淨留

利〕

(近代) 三六

○米華〔中島〕の詩

(詩集) 一六

○閉關説〔芭蕉〕

(風俗) 八三

○平家の炎上

(風治) 二六

○平五大夫

(宇治) 三六

○平次〔梶原〕

(黃表紙) 二六

○瓶子〔銀の瓶子〕

(石川) 三九

同

(宇津下) 四三

○丙辰紀行〔林道春〕

(日記) 一六

○平洲〔紀〕の詩

(詩集) 四三

○平洲〔細井〕

立原甚五郎へ遺し

て文を論ず

(書翰) 一六

おさめへ貞女の噂〔書翰〕一六

樺島公禮へ上杉燦

山公に相見の事〔書翰〕一九

○陪從べいじゆう

(宇治) 一五

○平壤

落城

(太閤下) 一八

行長沈惟敬との會

見

(太閤下) 二六

新年の壽

(太閤下) 三二

七星門を吳惟忠が

勢に破らる

(太閤下) 三三

○平城天皇

(淨上) 九五

○平助手柄立身の事

(女太平) 二九

○平泉寺村の百姓の話〔心學〕

六六

○平藏〔浪人荒濱〕

(女太平) 九六

○平太〔關口〕

(淨中) 二四

○平太觀世音を念じて

一女子を得る事

(黃表紙) 二七

○平太の妻その娘に鉢

をかぶらせ置きて

和漢朗詠集、冬

(古代) 三三

新撰朗詠集、冬

(古代) 三三

武陽官邸記

(鶉衣) 七二

ぶらり火の説

(太閤中) 六四

振袖

(淨上) 一八

ぶりく

(骨董集) 二九

古市(伊勢)

(遊京) 四三

古市の總評

(日記) 六二

古市の芝居の噂

(日記) 六四

古川

(日記) 六〇

古川十内

(脚上) 三

古川義平次

(脚上) 一五

古川樂師如來堂

(江戸一) 四三

古巢

(宇津下) 四四

古金買難儀のこと

(大久保) 一四七

古き高殿

(花月) 七二

ふるき都(今様)

(古代) 一五

ふるきかはぎぬ
貂の裘

(宇津下) 二三

古塚

(近代) 八四

古家を發く事

(年々) 二九三

古町街道

(江戸一) 七三

布留瀟

(大久保) 一

古麻呂(紀朝臣)の詩

(詩集) 五二五

同(調忌寸)の詩

(詩集) 五八

同(鹽屋連)の詩

(詩集) 五四

同(伊支連)の詩

(詩集) 五四

ふるや五郎

(黄表紙) 六

古谷久語深く史實に

通す

(畸人傳) 五七

不例

(宇津上) 一四

武烈天皇

(古事記) 二八

不老不死(宴曲)

(古代) 四七

風呂の稱

(年々) 三五

風呂場の失策

(七偏人) 四七

風呂屋

(骨董集) 二三

風呂轆轤

(骨董集) 二四

不破行宮

(萬葉上) 三三

不和河内守

(太閤上) 四九

不破數右衛門傳九郎

を斬らんとす

(江戸著) 四七

不破の明神

(宇治) 四六

ふはのもちくぬすぬの
布波能母遅久奴須奴

神

(古事記) 四

同

(靈能) 二七

不破伴左衛門名古屋

三左草履打

(江戸著) 四五

〃

〃

瓶

(宇津上) 四八

尻

妹背の契と放屁

(石川) 三一

○文藏〔原澤村百姓〕

關所破り

(大岡) 五四

大金を奪はるゝ事(大岡) 五九

夫婦吟味の事

(大岡) 五七

○文藏〔野田〕の算術

(大岡) 六八

○文臺

(宇津上) 四六

○文太夫〔伊知地〕志岐林

專に斬らる

(太閤下) 一九

○文臺の記〔春海〕

(琴後) 五七

○文治〔善知鳥安方〕

(淨上) 二三

○文時〔菅三品〕

白氏文集第一の詩(古今著) 二〇二

鬼神の禮儀

(古今著) 二〇五

○樺の緣語〔下帶參照〕

(石川) 四六

○文〔賦〕〔東花坊〕

(和漢) 二四

○文之丞〔金五郎の親〕〔娘節川〕

五

○分倍河原

(江戸二) 三六

○文插ふんげさみ

(宇津上) 五九

○文武〔宴曲〕

(古代) 五九

○文武二道萬石通ふしふにたうまんきくどほし

(黃表紙) 七

○分福茶釜

(八笑人) 二四

○贈分平庵文

(鶉衣) 六五

○文正〔中納言中宮太夫源〕

(宇津上) 六二

○文屋ふんや

(宇津上) 七六

○文彌〔舞子〕

(脚上) 三四

○文彌節

(平賀) 四二

○文屋康秀

(百人) 一九

○文屋朝康

(百人) 三五

○文祿の役

(馭戎) 一七

豐臣秀吉

(馭戎) 一七

講和の顛末

(馭戎) 一四

其論評

(馭戎) 一六

○文繼〔鹽川〕

(書翰) 二六

○文林郎裴世清日本に

使す

(馭戎) 六五

○普門院〔福聚山〕

(江戸四) 二九

○文屋童ふやわらこ

(宇津上) 四八

○冬

和漢朗詠集

(古代) 三四

新撰朗詠集

(古代) 三四

宴曲

(古代) 四三

冬の行事

(石川) 四四

○蟬蛸〔かたつぶりの角先〕

(一休) 四四

○冬毛

(宇津上) 二九

○冬籠

(年々) 三七〇

○冬草〔長歌〕

(近代) 三〇三

○冬嗣〔閑院贈太政大臣〕

(宇治) 五五

南園堂を建つ

(宇治) 五五

○冬夜

(宇治) 五五

○文ことば〔當流淨瑠璃〕

璃

(近代) 三六七

同〔當流所作〕

(近代) 三三三

○文庫

(字津下) 二

○文相撲

(狂言下) 六

○文月の月

(閑田) 四

○文の道

(字津下) 六四五

○文爽

(宇治) 三〇九

○文ひろげ狂女

(畸人傳) 二六五

○文まけ孫左踊

(近代) 四四四

○書見るは病のもと

(花月) 三六

○文山賊

(狂言上) 一七

○文〔琴譜〕

(字津上) 六七五

○韻韃車〔後藤又兵衛〕

(太閤下) 二六六

○文右衛門〔原澤村百姓の子文藏の事〕

(大岡) 五九

○文を作る事

(花月) 五九

○文を論ず〔細井平洲よ〕

(書翰) 一八六

り立原甚五郎

(書翰) 一八六

○文學談〔佐久間象山よ〕

(書翰) 五〇〇

り綿貫東陽

(書翰) 五〇〇

○文荷齋

(太閤中) 五四

○文化時代の川柳

(川柳) 二九

○文閑〔火事の噺〕

(醒睡) 三九

○文魚先生〔大通の元々〕

(平賀) 三

メ

○分限

(平賀) 三

身分を顧みよ

(心學) 二〇七

分相應

(心學) 三〇六

貴賤の次第

(心學) 五六

○豊後五首〔國風〕

(近代) 二〇四

○豊後風土記

(風土記) 五三

○文五郎と橋彌の交情〔心學〕

二二

○文詞附遺文〔和漢朗詠集、雜〕

(古代) 二四三

同〔新撰朗詠集、雜〕

(古代) 三三

○文次〔齊藤〕の噓譚

(日記) 五九

○文次郎〔金五郎の養父〕

(娘節用) 五

○文正

(田舎下) 一六〇

○文政時代の川柳

(川柳) 一六〇

○文藏

(狂言上) 二〇七

○汝邨

(風俗) 二七

南都賦

(風俗) 二七

閑居賦

(風俗) 二七

九花亭記

(風俗) 二〇八

雲華園銘

(風俗) 二四〇

公平傳

(風俗) 一七一

手足、辯

(風俗) 一八九

○不動尊

(宇治) 三

同

(宇治) 四六

○不動明王

(禪林) 元

同

(平賀) 三〇

同

(浄上) 三三

○文所

(宇津下) 九

○懷島

(日記) 三

○鮎

(宇治) 四六

同〔妙藥〕

(窓の) 一六

同〔源五郎鮎〕

(日記) 四七

同

(宇津上) 四六

○太かたびら

(宇津上) 四四

○布刀玉命

(古事記) 三

天安河原の會

(古事記) 三

天孫供奉

(古事記) 八三

○太祝詞

(古事記) 三

○舟あそび〔吾妻淨瑠璃〕

瑠璃

(近代) 三三

○府内城清正に陥れらる

(太閤下) 二四

○舟うた〔さわぎ〕

(近代) 二六

同

(宇津上) 五三

○船岡〔子の日の遊び〕

(百人) 三三

○船岡山

(石川) 九

○船木

(閑田) 元

○舟子

(宇津上) 四六

○舟指踊

(近代) 四八

○舟田

(江戸二) 二五

○舟玉様

(浄上) 二二

同

(浄下) 一六

○舟出〔朝霧〕

(田舎下) 一七

○鮎の包裹焼

(宇治) 四三

○ふなのはや介〔鮎〕

(黄表紙) 九

○船橋

(江戸四) 三三

同〔端歌〕

(近代) 三五

○船帆郷

(風土記) 五七

○船鰻頭

(平賀) 四

○船宿熊〔實は熊川三平〕

(浄中) 五四

○布怒豆怒神

(古事記) 四五

○船

宴曲

(古代) 四六

舟のいろく

(浄上) 二〇

飛驒匠の作の舟

(石川) 二四

船の喩

(禪林) 四九

○舟ふな

(狂言上) 一八

○史〔藤原朝臣〕の詩

(詩集) 五八

○父母の慈悲

(心學) 一六

○父母の喪

(年々) 二七

○ふみ〔清兵衛の娘〕の

祕密の音信

(書翰) 二六

大乘小乘 (心學) 四三

佛法と儒教 (心學) 五〇

佛説の誤れるを説

く (靈能) 二四

安土の宗論 (太閤中) 二四

佛の道 (一休) 四〇

佛の教 (花月) 五七

佛も昔は「今様」 (古代) 二五

佛の方便「今様」 (古代) 二七

嘲「佛骨表」其角 (風俗) 一九

讀「佛骨表」厚爲 (風俗) 二〇

信仰について松下

禪尼より時頼へ (書翰) 二三

結夏の行 (年々) 二四

佛法類「東齋隨筆」 (宇治) 五四

○佛行坊 (崎人傳) 二九

○佛山「村上」の詩 (詩集) 四一

○佛師 (狂言上) 一三

同「地藏を作る」 (宇治) 二二

○佛事

和漢朗詠集、雜 (古代) 二五

新撰朗詠集、雜 (古代) 三五

尊勝法 (宇治) 五九

大般若の御讀經 (宇治) 三七

四十九日の佛事 (宇津下) 八

佛供養 (宇治) 二五

佛跡をほむる歌の

碑の跋「春海」 (琴後) 六四

○佛頂面

○布都主神

同 (古道) 四〇

○佛名 (宇津下) 一五

同「和漢朗詠集、冬」 (古代) 三〇

同「新撰朗詠集、冬」 (古代) 三六

○筆「昨龔」 (和漢) 二九〇

○筆柿 (百人) 四

○筆捨山 (日記) 六六〇

○筆のいのち (花月) 五七

○布帝耳命 (古事記) 四

○普天「僧」 (淨中) 五

○普傳「楠原」 (淨中) 四七

○不傳建部大脇を誡し

む (太閤中) 一八

○ふでや「禿」 (脚上) 一五

○筆結 (宇津上) 二六

○ふとぬ川の考證 (石川) 二九

○武都頭「武松を見よ」

○不動院「下總」巧の願

の事 (大岡) 六六

○不動坂 (淨上) 七

○不動像 (一休) 四四

本來の面目

(禪林) 三

柏樹子の話頭

(禪林) 三

萬法不侶

(禪林) 六

本有圓成

(禪林) 六

孤帆掛けさる時は

如何

(禪林) 五

三要三玄

(禪林) 六

臨濟の四喝

(禪林) 六

三寶

(禪林) 六

百丈野狐の話

(禪林) 七

三業

(禪林) 七

稱名

(禪林) 七

念佛

(禪林) 七

愚痴

(禪林) 八

因縁因果

(禪林) 八

煩惱即菩提

(禪林) 八

信施を食ふ事

(禪林) 九

佛者と乞食

(禪林) 一三

律

(禪林) 一三

因果の意義

(禪林) 一四

佛道と財寶

(禪林) 一四

佛法の教化と未入

道者

(禪林) 一五

佛氏の全體作用

(禪林) 一六

寂滅

(禪林) 一六

慈悲

(禪林) 一七

因縁

(禪林) 一七

佛氏と老莊

(禪林) 一八

教化

(禪林) 一七

法は嗣ぐ可らず

(禪林) 一八

正像末

(禪林) 一四

禮のこと

(禪林) 一四

百尺竿頭進一步

(禪林) 一四

空侍者

(禪林) 一五

佛心

(禪林) 二五

他心通

(禪林) 二五

佛心は不生

(禪林) 二六

正法

(禪林) 二六

法成就

(禪林) 二五

人は皆佛心あり

(禪林) 二六

不生の佛心

(禪林) 二七

佛心

(禪林) 二四

自力と他力

(禪林) 二六

一遍の題目と一則

の話頭

(禪林) 二九

諸宗優劣なし

(禪林) 二四

禪門と淨家

(禪林) 二七

守部馬子の論争

(雅文) 二九

信心

(窓の) 二七

宗門の争ひ

(心學) 二九

宗旨

(心學) 四七

一切經	(字津上) 二〇七
御讀經	(字津上) 二五四
理趣經	(字津上) 四一
孔雀經	(字津上) 四一
最勝王經	(字津下) 六九
提婆品	(字津下) 六九
須陀洹果	(字治) 一七
受戒	(字治) 三三
四卷經〔金光明經〕	(字治) 三三
尊勝陀羅尼	(字治) 二四一
佛性	(字治) 三四
維摩經	(字治) 五四
最勝王經	(字治) 五〇
仁王經	(字治) 四四
八宗と八句	(醒睡) 二四
發心	(石川) 三八
念佛嫌	(八文字) 五

凝固り	(八文字) 三
法華淨土の宗旨爭	
ひ	(八文字) 九〇
佛道に關する篤胤	
の説	(出定) 四四
過去七佛	(出定) 五〇
五藏結集	(出定) 六五
大乘と小乗の差別	(出定) 六九
苦集滅道	(出定) 六二
五部律	(出定) 六三
十二部經	(出定) 六三
研究の法	(出定) 六七
佛法の傳來	(出定) 六六
日本へ傳播の變遷	(出定) 六八
佛の字義	(出定) 六四
禪林法話集	(禪林) 一
佛鬼神	(禪林) 九

過去の我身	(禪林) 三
現世の罪と來世	(禪林) 四
死後	(禪林) 四
佛の意義	(禪林) 四
入の始	(禪林) 四
道心	(禪林) 四
出家と還齋	(禪林) 四
死後	(禪林) 四
不生不死の藥	(禪林) 四
眞の佛法	(禪林) 四
大光明藏三昧	(禪林) 五
善男善女	(禪林) 五
三熱の苦	(禪林) 五
一大事	(禪林) 五
女人の成佛	(禪林) 五
色即是空空即是色	(禪林) 六
大正覺	(禪林) 六

藤壺 (狭衣) 二六七

同 (狭衣) 吾一

○藤壺弘徽殿うはなり

打 (近代) 三七

○藤壺の女御〔あて宮〕 (宇津下) 四三

○藤戸 (太閤上) 二八四

○藤戸の佛 (窓の) 六六

○武朝保の狂詩 (川柳) 四七四

○藤波 (宇津下) 二九一

○藤浪左膳 (脚上) 五八

○藤の方 (田舎上) 四六

○淵之助〔中川〕 (太閤中) 四〇

○藤の森〔前野但馬守

の奇禍〕 (太閤下) 三三三

○蘭〔和漢朗詠集、秋〕 (古代) 二四

○藤ばかまの巻 (田舎下) 六三六

○藤房〔萬里小路〕

其人物論 (平賀) 四九

後醍醐帝を諫む (雅文) 九

○藤原家隆卿老後佛に

歸す (靈能) 三〇

○藤原宇萬伎を送る辭

〔千蔭〕 (うけら) 二七九

○藤原興風 (百人) 二五八

○藤原清輔朝臣 (百人) 二五四

○藤原倉麿 (雅文) 四六

○藤原爲家 (百人) 七四

○藤原實方朝臣 (百人) 三八

○藤原季光 (石川) 七

○藤原敏行朝臣 (百人) 一五

○藤原齊明 (石川) 二三

○藤原仲光 (窓の) 二〇

同 (石川) 七

○藤原の君〔一世の源氏

正頼〕 (宇津上) 九五

○藤原基俊 (百人) 四九五

○藤原宮 (萬葉上) 二一

○藤原道信朝臣 (百人) 四六

○藤原義孝 (百人) 三〇

○藤原保輔〔後に袴垂〕 (石川) 三

○物價の標準 (心學) 四八九

○佛教

四句の偈 (出定) 五八

後生の道 (淨上) 三

一切經 (淨上) 三

繁氏出家の動機 (淨上) 三

妻子珍寶不隨者 (淨上) 六

棄恩入無爲の誓 (淨上) 七一

受戒灌頂六根清淨 (淨上) 七九

有漏無漏 (淨上) 九五

草木成佛 (淨上) 一四一

○二見の禪尼 (一休) 五五

○二見文臺、繪、序〔張昇

角〕 (和漢) 三九

○二見屋 (田舎上) 一五

○二見山 (禪林) 五六

○二村山 (日記) 六〇

○二山彌三郎妻の貞節(窓の) 二八

○二荒 ふたあら (日記) 二九

同 (日記) 三六

○補陀洛 ふたらく (淨上) 三三

○補陀落世界 (宇治) 一九

○補陀落山〔行基建立の

靈地〕 (日記) 三三

○武太六〔とつげ株〕 (淨中) 四〇

○藤

和漢朗詠集、春 (古代) 一九

新撰朗詠集、春 (古代) 三三

藤の花 (花月) 八八

藤の名所 (江戸四) 四三

藤の花の宴 (古今著) 一九

○藤井〔能登〕 (日記) 八四

○藤井長政信長と佐和

山に會す (太閤上) 二四

○藤井の宮 (宇津上) 三九

○藤植檢校の鼓弓 (武野) 四三

○藤生野〔催馬樂、呂〕 とちふの (古代) 一八

○斑馬 (宇津上) 四六

○藤枝 (日記) 二二

同 (日記) 二二

同 (日記) 三五

○藤掛伊織きほひ組に

家敷を圍まる (窓の) 一六

○藤葛 (淨上) 八

○藤川 (日記) 三九

同 (日記) 六四

○藤咲く門 (一休) 四五

○藤澤 (日記) 二四

同 (日記) 三七

○藤田軍吾 (脚上) 三一

○藤田東湖〔東湖を見よ〕

○藤女〔山口〕の遺書 (書翰) 三四

○府中〔駿河〕 (遊京) 四五

○腐腸伐性 (花月) 五三

○藤津郡 (風土記) 五五

○藤高〔細川〕富士山の

由來を説く (太閤中) 九

○藤綱〔青砥左衛門尉〕

眼を開ちて訴訟を

聞く (大岡) 四七

古今稀なる廉士 (平賀) 四六

○藤壺〔あて宮〕 (宇津上) 五九

打つ (水滸二) 二〇七

都監張蒙方に陥れ

らる (水滸二) 二一九

大に飛雲浦を開す (水滸二) 二三

夜、蜈蚣嶺を走る (水滸二) 一六〇

酔て孔亮を打つ (水滸二) 一七四

○不祥組〔本手〕 (近代) 一七二

○不生の氣 (禪林) 三三五

○不性者 (淨上) 三四

○ふずく〔粉熟〕 (宇津上) 五〇

○武助 (脚下) 八四

○衾〔蠶の糞〕 (石川) 三六一

○布施 (宇津上) 二五七

○豊前三首〔國風〕 (近代) 二〇四

○不美庵、記 (鶉衣) 七〇

○布施ない (狂言下) 二四七

○布勢郷 (風土記) 四六

○布勢の湖〔越中國〕 (閑田) 四七

同 (萬葉下) 三六二

同 (萬葉下) 四七

同 (萬葉下) 四四

○武藏寺〔筑紫〕 (宇治) 三六

○不掃地、論〔東花坊〕 (和漢) 四五

○扶桑樂 (宇津上) 二五四

○蕪村〔谷口〕 (書翰) 二四八

几董へ句會不參の

狀 (書翰) 二四八

俳友へ百句立の發

句の事 (書翰) 二五二

門人へ重陽祝儀 (書翰) 二五三

春泥句集序 (俳句集) 六二七

俳諧玉藻集 (俳句集) 八三

○蕪村句集 (俳句集) 三六

○二藍がされ (宇津上) 三六

○文題 (宇津下) 五八一

○武大郎淫婦潘金蓮に

藥煬せらる (水滸二) 二

○二川 (日記) 二八

○二上山 (萬葉上) 六〇

同 (萬葉下) 三八〇

同〔雲母〕 (近代) 五

同〔當麻寺〕 (日記) 二二〇

○兩兒島 (古事記) 三

○布多里 (江戸二) 二九六

○札の辻の人 (大岡) 三九

○布多天神社 (江戸二) 二九八

○二葉 (田舎上) 六

同 (宇津下) 二

○杈榼杖 (宇治) 三九八

○二俣川の軍立 (百人) 六五七

○二見の浦 (遊京) 四〇一

死の藥を求めし

む (黄表紙) 八三

細川藤高山の由來

を説く (太閤中) 九

名稱の由來 (日記) 六

人口に膾炙せる若

干の詩句 (日記) 一七

其景 (日記) 二七五

農男 (日記) 五三

雨中の景 (日記) 五三

人穴 (黄表紙) 八三

○富士山を透したる簾(田舎上) 一四七

○伏柴の加賀 (宇治) 五三

同 (古今著) 一四七

同 (百人) 四〇

○富士淺間社 (江戸一) 五六

同(駒込) (江戸三) 二九

同(千佳) (江戸三) 五九

○富士禪定[所作] (近代) 五二

○柴漬^{ふしづけ} (石川) 七五

○武士道の問答 (心學) 四六

○富士沼の故事 (日記) 一七

○富士之嵐[古今ふし] (近代) 四四

○藤森稻荷社 (江戸二) 五五

○富士の山[雪の遊び] (狭衣) 一七

○富士松 (狂言上) 三三

○不死身 (脚上) 二七

○伏見 (日記) 二五三

同 (日記) 二九六

同[撞木町の妓樓] (日記) 六〇三

同[夜泊] (日記) 六六

○富士見坂 (江戸二) 一七

○伏見城 (太閤下) 二九

○富士見塚 (江戸二) 三三

○伏見常盤 (田舎下) 二八三

○伏見の里 (宇津上) 一七

○伏見修理大夫[宇治殿

の御子] (宇治) 一四七

○伏見中納言 (宇治) 四三

○富士詣[長歌] (近代) 一五

○腐儒 (閑田) 七

○府生[海賊射かへす

事] (宇治) 四〇

同 (宇津上) 六

○武松[行者]

景陽岡に虎を打つ(水滸一) 五〇

關て西門慶を殺す(水滸二) 五

十字坡にて張青に

遭ふ (水滸二) 七

威、安平寨を鎮む(水滸二) 八三

醉ながら蔣門神を

○福祿壽

同

○袋^{ふくろ}贊^{さん}

○梟^{ふくろき}山^{さん}伏^{ふく}

○福渡

○富家入道〔忠實〕

○武家の禮式

○武家の禮服

同

○普賢

○普賢寺〔日照山〕

○普賢女

○普賢菩薩

同

同

○普賢菩薩の乗物

○不孝〔孝行參照〕

〔石川〕四三

〔平賀〕一三九

〔鶉衣〕七四

〔狂言下〕二四

〔狂言上〕五

〔宇治〕四九五

〔閑田〕一五

〔書翰〕三七

〔書翰〕三八

〔禪林〕一九

〔江戸四〕六三

〔禪林〕一九

〔宇治〕三六

〔宇治〕五八

〔狹衣〕二三

〔田舎上〕二八

婿に勧めて母を殺

さす

〔窓の〕三〇八

不孝者の悔悟

〔心學〕一六

不孝者の孝行眞似〔心學〕

一六四

不孝の報

〔閑田〕九五

○普光院殿〔御影の和歌

と狂歌〕

〔醒睡〕一七三

○甲不幸文

〔鶉衣〕六三

○春之助

〔田舎下〕三三

○豐後の介の愛女

〔宇津上〕一五

○普濟禪寺〔玄武山〕

〔江戸二〕六一

○總前〔藤原〕の詩

〔詩集〕五五

○ぶざ國〔しんござ國〕〔平賀〕三〇

○房野

〔脚下〕二九

○豐山長谷寺本願院

〔田舎下〕四七

○釜山浦〔小西行長に陷

れらる〕

〔太閤下〕一三

○ぶさた知了房

〔古今著〕五六

○總茂〔近江守〕溝水にて

腰板を洗ふを戒む〔窓の〕六五

○附子

〔狂言下〕三七

○ふじから〔端歌〕

〔近代〕三〇

○富士川

〔日記〕二七

同

〔日記〕二八

同

〔日記〕二八

同

〔日記〕二八

同

〔日記〕二八

○不二權現〔淺間の社〕〔平賀〕三七

○富士山

赤人の歌

〔萬葉上〕二〇九

富士賦〔嵐蘭〕

〔風俗〕二

猿拔にて形を取ら

んとす

〔平賀〕三四

重忠計りて不老不

文兵衛吟味

(大久保) 三〇〇

○吹上の漢〔紀伊國〕

(宇津上) 三二三

○不朽堂

(石川) 四七六

○贈不及法師文

(鶉衣) 六二

○蔭の薙

(淨上) 三九

○吹物

(宇津下) 四四

○武行者〔武松を見よ〕

(宇津上) 五八

○服〔喪服〕

(淨上) 三三

○鰻ふぐ

(石川) 三五

○河豚ふぐ

(八文字) 二六

○不器量娘

(八文字) 二六

○不具〔身の不具、心の不具〕

(心學) 六一

○福井

(日記) 三三

○福井の籠城

(大久保) 三九

○福井貞政

(太閤上) 六二

○福右衛門の文官

(醒睡) 二六

○福岡貢

(脚上) 五五

○吹風戀〔宴曲〕

(古代) 四九

○福島

(日記) 三四

○福島

(鶉衣) 八三

○福島正則〔市松〕

(太閤上) 二九五

清正との間柄

(太閤上) 二九七

其傳

(太閤中) 五五

賤ヶ岳の高名

(近代) 三二

○福神出端〔丹前古今ふし〕

(近代) 四一

○福助初踊

(近代) 四二

○福助のかつら

(和合人) 四三

○ふくたい

(宇治) 三九

○福大黒

(淨上) 三三

○福田村舊跡

(江戸一) 六

○ふくとん踊

(近代) 四四

○福富平左衛門

(太閤上) 七

○福永長女繼子を慈愛す

(崎人傳) 五三

○福の神

(狂言下) 四三

○福ノ神ノ賛〔鷺洲〕

(和漢) 四四

○福之山踊

(近代) 四九

○ふぐのふくとび助〔河豚〕

(黃表紙) 四

○福原新吾

(脚上) 三五

○福引

(田舎上) 五

同

(平賀) 二六

○ふくべ〔うばか年代記〕

(醒睡) 二六

○禍屋〔茶屋〕

(淨上) 三五

○ふくろふ

(日記) 八七

○梟〔物祝ふ侍の夢〕

(醒睡) 五三

同〔鷺姫と契る〕

(御伽) 四二

○袋井の乞食

(日記) 二五

辻切の風
(窓の) 一九
櫓に入る
(窓の) 三〇九

見世先の格子
(窓の) 二五

息遊子の教
(窓の) 二六六

平家谷
(窓の) 二六六

昔人の質朴
(骨董集) 八

昔の祭禮
(用捨箱) 六六三

風俗或問
(燕石) 六二七

○夫婦(結婚參照)

娘氣質(參照)
(八文字) 二〇七

妻自慢
(八文字) 三二

女房に養はるゝ亭

主
(八文字) 三六

嫉妬深き夫
(八文字) 二七〇

若後家の習はし
(八文字) 三九

初世帯
(八文字) 四三三

夫婦喧嘩と説法
(禪林) 三〇

夫婦の別
(花月) 五九

○風來仙人
(平賀) 二八五

○風羅念佛
(俳句集) 三九

○風羅坊[幻住庵賦]
(和漢) 二六五

○風鈴
(鶉衣) 六六

○風鈴五郎七の傳
(武野) 三六〇

○笛
(宇治) 二七

明暹の話
(石川) 三五

横笛
(近代) 二四

切り様
(窓の) 三八

○深井忠太の妻の弟
(平賀) 八二

○深川
(江戸四) 四

○舞樂[稻河大夫]
(日記) 二四

○ふかくさ[端歌]
(近代) 六三

○深草少將
(百人) 二〇

○不角千翁の妻の傳
(武野) 四七

○不角の俳諧
(武野) 四八

○深淵之水夜禮化神
(古事記) 四

同
(靈能) 二七

○深見翁年賀集序
(石川) 四三

○草路[えでんらく]
(近代) 六八

○不義
(窓の) 一九

浪人の妻
(窓の) 三九

旗本の息女
(浄上) 二五

○ふきあげ
(江戸一) 五二

○吹上御庭
(江戸三) 五二

○吹上觀音堂[下新座村]
(大久保) 二五〇

○吹上上覽所
(大久保) 二五

吟味
(大久保) 二五

疵口吟味
(大久保) 二九

對決
(大久保) 二九

母子對決の模様
(大久保) 二九

義經より腰越狀 (書翰) 六

閻魔廳に於ける訴

證 (雅文) 八七

物語 (八文字) 四八五

入道とうげん (淨中) 一六三

○廣山里 (風土記) 五三三

○枇杷の撞木杖 (大久保) 四六六

○琵琶 (宇津上) 八

同 (宇治) 四九一

同 (田舎下) 三三三

同 (八文字) 五三三

同 (近代) 一三九

同(調子) (近代) 一四〇

同(玄象牧馬の曲) (百人) 四六一

○琵琶借座頭 (狂言下) 三〇四

○琵琶湖 (遊京) 三九七

同 (太閤中) 三三五

同 (日記) 五五

○檜皮の宿 (日記) 三三四

○琵琶之助 (田舎上) 三五〇

○枇杷丸 (石川) 四二〇

○琵琶亭記(許六) (風俗) 一〇九

○檜皮葺 (宇津上) 三三〇

○檜判籠 (宇津上) 三三五

フ

○武悪 (狂言上) 三二四

○無爲軍 (水滸二) 四四五

○風月 (田舎上) 三六一

同(女巫) (御伽) 五〇

○風箏誤 (石川) 三九八

○風俗

歌 (古代) 一四七

世の風習 (閑田) 九

男の鐵漿染むる事(閑田) 一八七

京の女兒 (日記) 五三

太夫天神 (日記) 六三

時代と風俗 (禪林) 六

江戸の風俗 (石川) 三六九

娘の風俗 (八文字) 三二〇

女の風俗 (八文字) 三二

娘の風俗 (八文字) 三六

風俗の變遷 (窓) 三二

湊屋六櫛巻を始む(武野) 三九

日傘表紙の傘の由 (武野) 四四

來

柳の葉を鏡裏に入 (江戸著) 四七〇

れし由來 (窓) 一三

下民上を輕んず (窓) 一四〇

風俗の變遷 (窓) 一四〇

風俗の推移 (窓) 一四三

○蛭(蚊)の血を嘔ふこ

と)

(禪林) 二三

○蜃顔

(田舎上) 一五

○蛭が小島

(淨中) 一四

同

(日記) 一六

同

(日記) 二五

○水蛭子ひるこ

(古事記) 九

○蜃鳶(吞空法師)

(一休) 四四

○蜃腹ノ解ひるめのうち(得巴兮)

(和漢) 四四

○蜃目歌ひるめのうち(神樂歌、明)

星]

(古代) 二三

○比禮

(古事記) 五二

○褶振山

(風土記) 五二

○廣家(吉川)

漢南軍を破る

(太閤下) 四三

清正より馬印を與

へらる

(太閤下) 四八

○廣江(越智直)の詩

(詩集) 五七

○廣岡長者

(石川) 一七三

○弘賢(屋代)

小河民作へ少年の

夙成を戒む

(書翰) 三三

松岡辰方へ武家の

禮服に就いて

(書翰) 三七

辰方より武家の禮

服を問ふ

(書翰) 三八

○廣廉

○博定ひろさだ(大鼓と壺)

(古今著) 二〇

○廣澤長孝

(崎人傳) 三五

○廣澤の池

(曾呂利) 九五

○廣澤の僧正(寛朝)

(宇治) 三六

○廣書院

(淨上) 三七

○廣純(右大辨紀)

(淨中) 三九

○廣瀬才二

(崎人傳) 四九

○廣瀬大忌祭

(祝詞) 三二

○廣貴ひろたか(藤原)閼魔堂に召

さる

(宇治) 一〇

○弘高(金岡)が曾孫の地

獄變の屏風

(古今著) 三四

○廣田小太夫

(女房) 三九

○廣田の社

(古今著) 一一

○廣繼(右近少將)龍馬

を買ふ

(古今著) 五五

○廣成(丹墀真人)の詩

同(葛井連)の詩

(詩集) 四一

○廣庭(安倍朝臣)の詩

○廣教(中野五郎)

(淨中) 一

○廣庇

○廣文屋鋪ひろぶんやしき

(淨上) 三二

○廣丸

○廣元(大江)

(石川) 四三

二上りの俗語

(近代) 二六九

勝山鶴を逃す

(古今著) 四六六

家隆と隆祐

(古今著) 六三〇

家隆の歌

(古今著) 六三二

〇日和下駄

(平賀) 四七〇

〇平足駄

(石川) 三五四

〇平和泉

(日記) 三三〇

〇平岩主計正親吉

立身

(大久保) 九二

本多と密謀

(大久保) 九三

切腹

(大久保) 一九

〇平岩若狹守死刑執行

の用意

(窓の) 二二二

〇平賀源内の手紙

(書翰) 二四七

〇枚方ひらかた

(日記) 六三三

〇枚方里ひらかたのさと

(風土記) 三三一

〇ひらがな盛衰記

(淨下) 二二二

〇平川天満宮

(江戸二) 二三

〇平澤村の取調

(大岡) 一六四

〇平田篤胤〔篤胤を見よ〕

〇國津神の説

(古道) 四三三

〇平壘

(江戸二) 四九

〇平井〔丹波國篠村に多

く生ず〕

(宇治) 三

〇平田彈右衛門

(大久保) 五五

〇平塚城趾

(江戸三) 三〇九

〇平塚明神社

(江戸三) 三〇八

〇平坏ひらつぎ

(宇津下) 二九

〇平手監物秀吉と兵法

を戦はす

(太閤上) 二〇六

〇平手政秀

諫死

(太閤上) 四

織田信長へ死諫の

書

(太閤上) 元

〇平戸島藏

(脚上) 四八一

〇枚野里ひらぬの

(風土記) 五六

〇平野金華の略傳

(先哲) 二三

〇平野國臣の父〔國臣よ

りの遺書〕

(書翰) 五四三

〇平野の行幸

(狹衣) 五五

〇平野社

(年々) 三九

〇平野村の取調

(大岡) 一六四

〇平野祭ひらぬり

(祝詞) 三二

〇平張

(宇津下) 七五

〇比良夫〔采女朝臣〕の

詩

(詩集) 五三

〇比良美村ひらみ

(風土記) 五四

〇比良や小松〔葉手〕

(近代) 一七六

〇比良山

(宇治) 四八

〇平山城の合戦

(太閤上) 五六

〇檳榔毛の車

(宇津上) 二四

○兵介〔田中〕の報恩 (太閤下) 三六

○兵助〔石川〕の戦死 (太閤中) 四三

○憑司〔上臺〕

村役罷免 (大岡) 二四三

奸計 (大岡) 二四九

夫婦一應吟味の事 (大岡) 二六七

れ早等が悪事の緒

口 (大岡) 二八〇

親子の悪事露顯 (大岡) 三〇五

○兵太〔笹目〕の (平賀) 四六

○表太の奇行 (崎人傳) 三三三

○瓢箪、辭〔ひさ〕の條參

照 (風俗) 二二

○兵太夫〔玉島〕 (淨中) 五九

○平等院 (古今著) 四三

同 (宇治) 五六

同 (宇治) 四三

同 (淨上) 五三

○平等院僧正 (古今著) 一三一

○平等王〔地獄の役人〕 (平賀) 一六七

○兵藤太 (田舎上) 五四

同〔妻の姦通〕 (石川) 三六

○兵内〔横田〕 (淨上) 二九七

○豹の皮 (宇津上) 三〇四

○瓢箪並序〔天草吹〕 (和漢) 五六

○鉄乗物 (淨上) 二

○評判記 (平賀) 二七四

○屏風 (宇津上) 二六

同〔七小町の屏風〕 (石川) 四八

○兵部〔伊達〕

出生の由來 (伊達) 三七三

後見となり逆意を

振ふ (伊達) 四八

評定所へ召出さる (伊達) 四六

甲斐と相談 (伊達) 四八

評定所へ召出さる (伊達) 四九五

同〔板垣〕 (淨上) 二九九

同〔秋月〕 (淨上) 六四八

○兵部卿の宮 (狹衣) 五九

同 (宇津上) 一三

○兵部少輔〔伊勢〕 (太閤下) 四六

○兵部尙書石星文祿の

役の講和を計る (馭戎) 一七四

○表裏 (禪林) 一三

○火除場〔興行物の沿

革〕 (窓の) 九

○日吉山王神社 (江戸二) 九

○日吉の二宮 (宇治) 一六

○日吉丸〔秀吉の條を見よ〕

○日吉社 (宇治) 四三

○ひよどり

○百如律師の法語

(閑田) 二〇〇

○百八塚

(江戸二) 五五五

○百萬遍

(狹衣) 三五〇

○百味圓

(禪林) 三三三

○百味の飲食

(宇津上) 五二

○百物寶

(淨上) 一九

○百談話

(七偏人) 五九八

同

(七偏人) 六八

同

(淨上) 三四八

同

(窓の) 二〇四

○百物語序〔岩司鱸〕

(和漢) 三七二

○白癩人

(宇治) 一四三

○白瑠璃

(宇津下) 五二

○百話亭解

(鶉衣) 七三

○ひやしる椀〔酒の誓〕〔醒睡〕 二二三

○日向勾當

(淨下) 五三

○日向三首〔國風〕

(近代) 一〇六

○日向の國

(黃表紙) 三三

○日向國の風俗

(崎人傳) 五〇四

○日向の高千穂のくじ

ふる嶽

(古事記) 八四

○燧が城

(日記) 二四三

○兵衛〔あて宮の侍女〕〔宇津上〕 五八

同〔上西門院の〕

(宇治) 四六〇

○兵衛の君〔あて宮の

御乳母子〕

(宇津上) 二〇三

○病關索〔揚雄〕

長街に石秀に遇ふ〔水滸二〕 五七

大に翠屏山を鬧す〔水滸二〕 五四

○兵庫

(日記) 二四九

○兵庫の浦〔珍しき大

魚〕

(醒睡) 二七五

○飄齋〔平塚〕

山陽よりの書

(書翰) 三七四

淺野中務少輔へ御

陵の頽廢を訴ふ〔書翰〕 四四三

○苗宰陀

佛奉菊歌

(和漢) 三二〇

蚤辭

(和漢) 三九

愛鶯辨

(和漢) 四三

○兵左衛門〔前田〕山賊

を亡ぼす

(金澤) 三六五

○廂山の櫓

(太閤中) 一八八

○標照〔山口〕墓碑

(琴後) 七三

○病床に虱をとる辨〔玄

峯〕

(俳句集) 三〇六

○評定所にて彦左衛門

の噂

(大久保) 一六三

○評定所の對決

(大久保) 三七三

○兵助〔原田、毛利家藩

士〕

(大岡) 一七

窮鬼

(石川) 三六

富と壽命

(石川) 三五

貧者の従者

(石川) 三四

貧乏神

(醒睡) 四六

小唄と錢

(醒睡) 二六九

貧になる人は奇特

也

(禪林) 一八

貧福論

(大久保) 一三

細き煙

(年々) 三四七

福神賛

(和漢) 四四

○貧ノ圖〔堂請川〕

(醒睡) 二四

○氷室の節會

(淨中) 五

○ひめ〔ひめ粥〕

(宇津下) 一七

○姫〔平太の娘〕

(黃表紙) 二六

○姫瓜節供

(骨董集) 二七

○姫君〔涼の女〕

(宇津下) 六六

○姫君〔西三條實隆の〕〔書翰〕 三〇

○姫君〔淺野の〕

(書翰) 一四〇

○姫社郷

(風土記) 五三

○姫小松〔はやり歌〕

(近代) 五〇三

○姫島

(萬葉上) 八五

○日女島

(古事記) 二五三

○姫路

(日記) 一六

○同〔糝糊〕

(太閤中) 四九

○糝糊

(狂言上) 六

○姫松

(宇津上) 七六

○姫桃

(宇津上) 三九〇

○氷日矢

(古事記) 五〇

○ひも鏡

(年々) 三三

○火田〔火葬場〕

(淨上) 三四

○百阿佛〔鬚鏡傳〕

(和漢) 五八

○百阿房〔七夕姫〕

(和漢) 三二

○百花園

梅の名所

(江戸四) 三九三

七草の名所

(江戸四) 四九

○百花譜

(風俗) 六九

○百魚譜

(鶉衣) 六三

○百句立の發句

(書翰) 二五一

○白狐

(心學) 三五三

同〔諏訪明神の神使〕

(淨上) 三四九

○白虎堂

(水滸一) 二二

○百谷嶺

(水滸四) 二一〇

○百首百杯

(年々) 三三一

○百姓一揆

(心學) 三六八

○百藏

(脚下) 三三

○白檀

(宇津下) 六四〇

○百蟲譜

(鶉衣) 六四一

○百内〔お廐の下郎〕

(淨上) 三一

○百日懺法

(宇治) 三三〇

○百人上臈〔英一蝶〕

(江戸著) 三五五

○比婆之山
ひばの山 (古事記) 一七

○樋速日神
ひはやひのかみ (古事記) 一七

○雲雀 (字津上) 二九

○雲雀の乾鳥 (字津上) 二九

○狝々ひくの怪 (雅文) 三六

○琵琶庵ひば記記(土方堅) (和漢) 四九

○響ひびの灘 (日記) 二八

○日比谷稻荷祠 (江戸一) 三四

○蚺ひよ蟬くめ (淨中) 五七

○比比丘女ひよくめ (骨董集) 二七

○火吹竹ひふき「五戒を破る」(一休) 五五

○碑文谷八幡宮 (江戸二) 三七

○ひぼし (字津下) 三

○卑彌呼ひみこ「支那にて人名と間違ふ」 (馭戎) 四

○日見の宴 (和合人) 三九

催ひなの相談 (和合人) 三三

宴ひなの模様 (和合人) 三四

○東河ひんがしかは「加茂川」 (字津上) 三三

○貧家錢内 (平賀) 一六

○備後備後「醫師時成が女」(古今著) 四九

○備後五首備後「國風」 (近代) 七

○備後守備後「大宮の御乳母」 (字津上) 二八

○閔子騫 (石川) 三九

○鬢鬢四間の洒落 (御伽) 一七

○繼母繼母を感ぜしむ (御伽) 一七

○貧僧貧僧「老母の爲に殺生禁制を犯す」 (古今著) 二五

○貧俗貧俗「觀じて佛性を富める事」 (宇治) 三九

○鬢多々びんたたら「良(雜藝)」 (古代) 一六

○貧富 (貧富)

貧貧讚讚「惟然」 (俳句集) 三七

貧窮問答の歌 (萬葉上) 二六

神田邊の貧乏人の話 (心學) 三三

窮すれば濫す (心學) 三四

清貧 (八文字) 二〇

貧福は天地の道具 (八文字) 一九

貧家と女子 (八文字) 二八

貧乏神と福の神との物語 (八文字) 二一

貧富と人生 (八文字) 三七

小富と大富 (八文字) 三六

金持 (八文字) 三六

福者と賢愚 (八文字) 四三

兄弟の貧福 (八文字) 四四

貧乏神 (八文字) 四九

貧報の冠者 (石川) 三五

のいろく

雛の調度

(骨董集) 一五

雛の繪櫃

(骨董集) 一七

唐土の鎌人

(骨董集) 一七

享保の比の土雛

(骨董集) 一五

雛の使

(骨董集) 一六

雛の折敷

(骨董集) 一七

雛の枕

(骨董集) 一七

姫瓜の雛

(骨董集) 一六

贖物の比々奈

(骨董集) 三七

天和貞享頃の雛人

形

雛遊

(骨董集) 二四

同

(字津下) 六四

雛祭

(石川) 四六

雛祭の由來

(脚上) 一七

芥子人形

(江戸著) 四三

○部歌

(風俗) 一五

○比那ヶ島

(日記) 二四

○雛形姫

(脚上) 三三

○雛次(侍女)

(金澤) 二五

○ひなち(錢藏の妻)

(女房) 六四

○ひなづる(長歌)

(近代) 五八

○日名照額田毘道男伊

(近) 五八

許知邇神

(古事記) 六

○雛鳥

(字津上) 一五

○夷振

(古事記) 六

○比奈良珠命

(風土記) 三八

○比那良志毘賣

(古事記) 六

○日に新なれ

(花月) 六四

○非人の六

(淨上) 三九

○火の宅

(字津下) 五五

○丙午

(燕石) 二三

○ひのへの口上とりつ

ぐ

○火之炫毘古神

(古事記) 一五

○火之迦具土神

(古事記) 一五

○日の神

(燕石) 二五

○肥河上

(古事記) 四〇

○扁柏

(平賀) 九四

○檜木の長へぎ

(心學) 二三

○檜前松光

(石川) 一五

○火の車

(字治) 一六

○樋の酒

(狂言下) 一六

○日野大納言勅旨を以て三家を和せしむ(太閤上)

三九

○日野中納言資朝卿の

(年々) 三五

日記

○日の丸の扇

(淨下) 一五

○火之夜藝速男神

(古事記) 一五

○日幡山の合戦

(太閤中) 五〇

- 人達の裁判 (大岡) 六七
 ○一ツ目熊右衛門 (女房) 四六
 ○一柳千古(春海より) (琴後) 六七
 ○一つ家の老婆(岩手、
 實は頼時の妻) (淨上) 二五
 ○贈人俳席定 (鶉衣) 七三
 ○樋殿(便所) (宇治) 四七
 ○人柱 (崎人傳) 五八
 ○一尋鰐 ひとひらわね (古事記) 九七
 ○一ふしある方 (年々) 三〇
 ○一ふりの關 (日記) 三七
 ○一臍 (宇津下) 六四
 ○人麿 (百人) 五四
 影供 (百人) 五四
 人麿塚 (百人) 五四
 影供の祭田 (百人) 五四
 和歌の祖 (曾呂利) 六一

- 人麿供 (古今著) 一五
 人麿の歌 (花月) 五四
 人麿の繪 (石川) 三三
 人丸の社 (田舎上) 五三
 ○人丸姫(景清がむすめ) (黄表紙) 二五
 ○人丸娘(景清の息女) (淨下) 五四
 ○人丸明神(淺草)境内の萩 (江戸四) 四二
 ○人目の關(よし原小歌) (近代) 二六
 ○葱の詩 ひともじ (一休) 五八
 ○囚獄 ひとや (宇治) 四四
 ○ひとよざり(よし原小歌) (近代) 一九
 ○一節切尺八 (近代) 二三
 來歴

- 大森宗君 (近代) 二三
 切りやう (近代) 二四
 吹き様 (近代) 二五
 ○一節切證歌 ひとよづか (近代) 二八
 ○一夜塚 (江戸三) 四三
 ○火取 (宇津上) 二八
 ○ひとりれ(あづま淨留利) (近代) 三六
 ○獨臥 ひとりふし (宇津下) 七〇
 ○獨神 ひといかみ (古事記) 六
 ○雛 ひいなひいのな (骨董集) 三七
 假名遣 (骨董集) 一五
 雛遊のはじめ (骨董集) 一五
 雛社 (骨董集) 一五
 雛合 (骨董集) 一五
 古書に見えし雛遊

諸大將を率ゐて筑

紫に赴く

(太閤下) 二三

大廳の薨御を哭く(太閤下) 二三

四海に難風に逢ふ(太閤下) 二六

名護屋陣中に瓜島

を開く

(太閤下) 二七

伏見城を築く

(太閤下) 二八

吉野花見

(太閤下) 二九

大明の璽書を怒る(太閤下) 三〇

再び朝鮮征伐の人

數を定む

(太閤下) 三六

醍醐の花見

(太閤下) 四三

行長を怒り嘉明を

賞す

(太閤下) 四六

夫婦の爭言

(太閤下) 五三

大政所への手紙

(書翰) 四二

朝鮮征伐

(歌戎) 一五

朝鮮遠征軍への手

紙

(歌戎) 一六二

秀吉の手紙に對す

る宣長の評

(歌戎) 一六三

沈惟敬の手紙

(歌戎) 一六六

秀吉の沈惟敬への

手紙に對する宣

長の評

(歌戎) 一六七

秀吉の大谷等へ賜

ひし文書に對す

る宣長の評

(歌戎) 一七三

朝鮮征伐の由來

(歌戎) 一八三

其の慘酷

(閑田) 一八五

其靈を加州へ祭る

濫觴

(金澤) 一八四

發句と紹巴

(崎人傳) 四九

○秀頼公大久保を草津

驛に響應す

(大久保) 五五

○人馬

(狂言下) 一八七

○人賣

(淨上) 五五

○單衣

(字津上) 五七

○人置眞鮪の訴訟

(雅文) 五五

○尾藤二州の推薦狀(賴

春水)

(書翰) 四九

○人を知ること

(花月) 五九

○人を責むる事

(花月) 五九

○一木原

(江戸二) 一四

○ひとこ

(字津下) 五五

○一言主大神

(古事記) 二七

出現

其の容貌

(閑田) 七五

○等

(百人) 三八

○人魂

(字治) 五七

○人足[中臣朝臣]の詩(詩集) 五三

赴く (太閤上) 二六

信長に見参 (太閤上) 三三

藤井又右衛門の女

を娶る (太閤上) 六〇

清須城普請奉行 (太閤上) 六四

上島と鎗の長短試

合 (太閤上) 六七

菊水の陣を破る (太閤上) 二〇

改名の由來 (太閤上) 二七

鎗の指物を作る (太閤上) 二四

信長の危急を救ふ (太閤上) 二六

計略を以て堺の町

人を説く (太閤上) 二六

興業補助の腹心 (太閤上) 二九

後殿軍配 (太閤上) 三三

金ヶ崎の大捷 (太閤上) 三六

智を以て淺井朝倉

勢を破る (太閤上) 三六

亂舞 (太閤上) 四三

播州出陣 (太閤上) 五三

兄部川を堰きて高

松城を浸す (太閤中) 四七

一騎京都に馳す (太閤中) 二〇

尼ヶ崎危難 (太閤中) 二七

光秀と天王山を爭

ふ (太閤中) 二九

参内 (太閤中) 三〇

三法師君に謁す (太閤中) 三六

大徳寺にて信長の

葬禮焼香の順序 (太閤中) 四六

大軍を以て瀧川を

討つ (太閤中) 四六

賤ヶ岳に陣を張る (太閤中) 四六

大阪城を築く (太閤中) 五〇

根來寺征伐 (太閤中) 五五

四國征伐 (太閤中) 五五

長曾我部を幕下に

屬せしむ (太閤中) 六〇

關白に任ぜらる (太閤中) 六二

豐臣と姓を改む (太閤中) 六三

大佛殿の經始 (太閤中) 六三

五人の本室 (太閤中) 六六

圍中の二將軍 (太閤中) 六六

利休の娘綾に戯る (太閤下) 九

行狀 (太閤下) 四〇

大軍を以て小田原

を攻む (太閤下) 五

東山の花見 (太閤下) 九

諸侯を集め朝鮮征

伐を議す (太閤下) 二二

書を琉球に遣す (太閤下) 二七

○備中五首〔國風〕（近代） 六

○備中の守されたか（御伽） 二七

○ひづめの橋（宇治） 二八〇

○秀忠

本多正純を尊敬す（大久保） 三

直政に家督譲の當

否を尋ね（大久保） 八三

不例として將軍歸

城（大久保） 一〇八

御他界（大久保） 一五

仁心（大久保） 三九七

憤怒（大久保） 四〇四

大相國拜任（大久保） 四〇

獻上の品々（大久保） 四三

政道（大久保） 四七

政道の過を悔ゆ（大久保） 四三

夫婦の和（大久保） 四四

○秀忠御臺所へ家康よ

り子供のそだて方

を諭す書（書翰） 四三

○秀近〔明智〕の討死（太閤中） 三〇

○秀次〔豊臣〕

行狀（太閤下） 二九六

三成の姦計に陥る（太閤下） 二九

花見（太閤下） 三〇〇

惡行（太閤下） 三〇四

臣下の進退（太閤下） 三〇八

比叡山に狼藉す（太閤下） 三〇九

戯れに道行男女を

打殺す（太閤下） 三九

謀叛露現す（太閤下） 三〇

徳善院幸藏主に説

かる（太閤下） 三六

生害（太閤下） 三七

君達及び女房達斬

らる（太閤下） 三六

○秀貫〔多々羅新洞左衛

門〕（浄上） 三

○秀遠〔舞の師〕（宇津上） 二四

○秀時〔竹澤監物〕（平賀） 四〇

○秀衡〔佐藤〕（御伽） 四三

○秀丸（浄上） 四九

○秀盛〔和田兵衛〕（浄中） 一九〇

○秀義〔佐々木源藏〕（浄中） 二四

○秀吉

誕生（太閤上） 二

幼時寺中の惡戯（太閤上） 二四

岡崎橋小六に遭ふ（太閤上） 二五

松下加兵衛の宅（太閤上） 三〇

初陣の高名（太閤上） 三

尾州に鎧を需めに

○肥前五首〔國風〕 (近代) 二〇五

○美髯公〔朱全〕

智をもつて插翅虎

を穩にす (水滸一) 四六

誤て小衙内を失ふ (水滸二) 六六

○備前叛 (一休) 五三

○備前長光 (脚下) 六

○肥前風土記 (風土記) 五二

○比曾〔比曾寺〕 (宇津上) 五八

○祕藏の皿と人の命 (閑田) 八四

○祕色の坏 (宇津上) 一五

○火たき屋 (狭衣) 六

○火焼屋の衛士 (石川) 二五

○日高川 (淨中) 三〇

○日田川 (風土記) 五四

○飛彈組〔本手〕 (近代) 一七

○飛彈三首〔國風〕 (近代) 七

○直垂 (宇津上) 二四

○常陸 (淨上) 六

同〔風俗〕

○常陸帶 (淨上) 五

○常陸國司解 (風土記) 六七

○常陸四首〔國風〕 (近代) 七

○常陸の太守の親王 (宇津下) 五五

○常陸國歌 (萬葉下) 三八

同 (萬葉下) 三七

○常陸國人 (石川) 六三

○常陸風土記 (風土記) 六三

○常陸介〔木村〕

秀吉を討たんとし

て伏見城へ忍び

入る (太閤下) 三〇

石川五右衛門と奇

を談ず (太閤下) 三一

阿波李之助と議論

す (太閤下) 三七

野中清六に諫めら

る (太閤下) 三七

○常陸之助國雄 (淨下) 一四

○敏達天皇 (古事記) 二四

○日田郡 (風土記) 五四

○飛彈の匠 (石川) 二五

○日給の簡 (宇津上) 六六

○左衽 (年々) 二九

○左に關する故事緣語 (石川) 五三

○ひしがき雨 (宇津上) 五八

○筆策

合奏 (宇津上) 三〇

木こる童 (醒睡) 一七

○火附盜賊人違の事 (大岡) 五五

○羊〔女の生れがばり〕 (宇治) 三七

○日子番能邇々(藝命) ひこばんに、ずのみこと	(古事記) 八〇
○日子穗穗手見命 ひこは、てみのみこと	(古事記) 一二
○緋金錦 ひこんぎん	(宇津上) 三四
○膝折里	(江月三) 六
○久清(院)の左將曹秦	
敦文に勝つ	(古今著) 三八
思ひかけぬ乗物	(古今著) 四五
○提子 ひさひ	(宇津下) 二九
○匏 ひやく	(宇治) 二〇
○杓(神樂歌、採物) ひやく	(古代) 六
○瓢	
仙人の瓢	(石川) 一三
風に鳴る瓢	(石川) 一七
産屋に降る	(石川) 三三
瓢の種	(宇治) 二九
瓢花挿頭	(宇津上) 六三
瓢箪辭(許六)	(風俗) 三二

瓢銘並序(天章吹)(和漢)	五六
○瓢長者傳 ひやくし	(鶉衣) 八七
○庇 ひ	(年々) 三七
同	(宇津上) 三四
○久季(左近將曹大名)	(古今著) 九二
○久孝(玄蕃頭)	(宇治) 三〇
○久の松	(百人) 五八
○久松(親の見舞とすばり)	(醒睡) 二九
同(油屋の丁稚)	(淨上) 三七
○久吉(彦山權現暫助)	
○劔	(淨上) 四三
同(繪本太功記)	(淨中) 四四
同(蝶花形名歌島臺)	(淨下) 二九
○菱	(宇津上) 三〇
○非時 ひしは	(宇津上) 三五
○鹽	(宇津上) 三八

○鎮火祭 ひしづめのまつり	(祝詞) 三七
○非時の膳(三毒の教化)	(一休) 五九
○杓子(鬼の耳搔)	(醒睡) 一七
○毘沙門	(宇治) 四六
○毘沙門天(廣尾)	(江月二) 五
○毘沙門(鞍馬)の開帳(曾呂利)	五七
○毘沙門天	(宇治) 一五
同	(石川) 二五
同	(石川) 三六
○毘沙門堂(金杉)	(江月一) 二六
同(高田)	(江月二) 五三
○聖 ひじり	(宇津上) 三二
○聖の姉	(宇治) 三七
○聖の神	(古事記) 六
○聖の坂	(石川) 三九
○備前(國風)	(近代) 六

○比企判官の腐儒の物

語

(八文字) 四三

○引舟

(淨中) 三四

○曳船

(田舎上) 二九

○引目〔墓目〕

(宇治) 三一

○墓目の式

(田舎上) 二九

○墓目の法

(田舎上) 五九

○彈物

(宇津下) 七五

○飛脚〔實は飴賣萬八〕

(淨中) 四三

○ひきよく〔よし原小

歌〕

(近代) 二五

○燧白、燧杵

(古事記) 七九

○ひくう〔信濃國〕

(宇治) 二四

○比丘貞

(狂言下) 二六

○樋口次郎兼光

(淨下) 一五

○比丘尼〔曲昨囊〕

(和漢) 三一

○比丘尼の物語

(禪林) 四三

○檜隈〔御陵〕

(日記) 四六

○曳馬

(日記) 三三

○檜隈川

(日記) 四四

○引馬野

(石川) 三五

○同

(日記) 三九

○蛸

(宇津上) 四三

○髭男

(骨董集) 二〇

○髭鏡、銘〔百阿佛〕

(和漢) 五八

○髯廉

(田舎上) 三五

○髯籠

(宇津下) 六〇

○髯人參

(淨下) 三五

○彦九郎〔高山〕より祖

母への手紙

(書翰) 二九

○彦左衛門功蹟之記〔大

久保彦左衛門參照〕〔大久保〕 四三

○彦坂九郎兵衛の沈著〔窓の〕 二五

○彦三郎〔彦兵衛倅〕 (大岡) 四三

同〔坂東薪水〕

(平賀) 二二

○彦三郎〔山住〕舊址

(江戸) 二七

○彦山〔豊前國〕

(淨上) 四四

○彦山權現

(淨上) 四四

○彦山權現 暫助飯〔淨上〕 四九

○肥後三首〔國風〕

(近代) 一〇六

○彦次郎〔中上川〕

(書翰) 五〇

○日子遅神

(古事記) 五八

○彦根野公臺の瀧水に

贈る詩

(先哲) 一元

○肥後の右衛門入道

(宇治) 四八

○彦兵衛〔小間物屋〕

(大岡) 四八

同〔大島屋〕

(琦行傳) 六八

同〔大塚〕

(醒睡) 六四

○彦星〔たなばたの條參

照〕

(宇津上) 一六〇

同

(宇津上) 四三

○日置郷

(風土記) 四六

○檜垣

(宇津上) 一三〇

同(濱成の妹娘)
ひかけ

(淨中) 二七六

○ひが事(考證)

(古事記) 七〇

○檜笠

(日記) 二五四

同

(宇治) 哭一

○東坂本

(宇治) 哭一

○東三條院

(宇津上) 五五五

○東三條殿

(宇治) 哭六

○東三條の池

(宇治) 二九

○東銘(支考)

(古今著) 四七〇

○東本願寺(新堀端)

(風俗) 一三九

○東堀(大阪)

(江月三) 四六〇

○東山(大文字の火)

(淨上) 四七〇

同

(日記) 五九

同

(田舎上) 一三

同(秀吉の花見)

(太閤下) 九三

同

(平賀) 哭八

同

(宇治) 哭七

○東山の將軍塚

(閑田) 六四

○東山八景(長唄)

(近代) 三三〇

○日金山

(近衣) 八四三

○日金の峰(相摸)

(花月) 五四四

○彼岸

(宇津下) 四七三

○彼岸櫻名所

(江月四) 四〇四

○ひかり松(穴八幡社)

(江月四) 四八三

○光る君

(田舎上) 四〇

○新川の原

(江月三) 一六三

○日河比賣

(古事記) 四四

○氷川明神社(麻布)

(江月二) 四四

同(廣尾)

(江月二) 六二

同(赤坂)

(江月二) 一五九

同(澁谷)

(江月二) 一六五

同(駒場)

(江月二) 一八七

同(大藏村)

(江月二) 二二

同(北見村)

(江月二) 三三

同(高田)

(江月二) 五二

同(女體の宮)

(江月二) 五四

同(小石川)

(江月二) 五九六

同(小石川)

(江月三) 二六

同(五ヶ村)

(江月三) 六三

同(宮本)

(江月三) 一六一

同(大宮)

(江月三) 一六三

○ひきがへる(實賢の渾名)

(宇治) 四六六

○ひき車(長唄)

(近代) 二九

○引田部赤猪子

(古事記) 二六五

○引出物

(宇津上) 四六六

○ひきのまき人

(宇治) 三七〇

○ひきはだといふ詞

(年々) 二九五

同〔今様〕

(古代) 一六三

○はるのはな〔端歌〕

(近代) 六〇一

○晴信〔武田大膳大夫〕〔淨上〕 二九

○春の館

(田舎下) 四四

○春の山ぶみ〔春海〕

(琴後) 八三

○春の山ぶみの文〔千

蔭〕

(うけり) 一五

○はるのやまゝ〔端

歌〕

(近代) 六三

○春野遊〔宴曲〕

(古代) 四七

○春夜〔新撰朗詠集、春〕〔古代) 二九六

○春久〔片岡造酒正〕

(淨中) 一四

○晴秀〔大納言〕

(太閤中) 六三

○春姫

(淨下) 二六

○春道列樹

(百人) 三五

○晴義〔山本勘助〕

(淨上) 三三

○春若丸

(田舎上) 三三

○春はさくらの〔今様〕〔古代) 一八

○晴和漢朗詠集、雜〕〔古代) 三三

同〔新撰朗詠集、雜〕〔古代) 三三

ヒ

○火

不滅の火

(禪林) 二九

燄火

(古事記) 九

火忌

(靈能) 二五

○氷

ひどろ

(字津上) 四〇

○硝子

ひいな草

(平賀) 一四

○ひいな草

(骨董集) 一九

○ひいなの名義ひいな

の假名

(骨董集) 一五

○非違の尉

ひいらぎ

(字津上) 二〇

○柊

ひいらぎ

(日記) 二九

○比比羅木之其花麻豆

美神 みのかみ

○柊明神

(古事記) 三

○火打箱

(日記) 二九

○火打袋

(平賀) 二九

○火打山

(石川) 三

同〔由來〕

同〔秀次の狼藉〕

(淨上) 二八

同

(太閤上) 四四

同〔考證〕

(太閤下) 三九

同

(日記) 二四

同

(日記) 二

同

(字津上) 一三

同

(古事記) 六

同

(字津上) 四〇

同

(字治) 一六

同

(淨上) 八

同

(田舎上) 八

○未央殿〔鐘〕

(近代) 四

○未央柳

(淨上) 一五

孕女〔流され人を慕ひ

て焼死す〕

(宇治) 四七〇

○馬關亭

(石川) 四六六

○婆羅門

法種

(出定) 五三〇

學問の方法

(出定) 五三〇

治心の教

(出定) 六九四

○原山津見神

(古事記) 一八

○張革

(宇津上) 五八

○張鮎

(狂言下) 二七三

○針立雷

(狂言上) 二九六

○張拔の虎

(心學) 五五

○張札〔芝居〕

(平賀) 二五

○播磨湯

(田舎上) 四〇

○播磨風土記

(風土記) 五〇九

○播磨六首〔國風〕

(近代) 四

○張物

(宇津上) 三三〇

○春

春のはじめ〔今様〕(古代) 一五

同 (古代) 一六三

和漢朗詠集 (古代) 一七二

新撰朗詠集 (古代) 二九三

宴曲 (古代) 四〇五

春の朝 (石川) 九

春の行事 (石川) 四六

初春の景色 (年々) 三三

はつばる〔長歌〕 (近代) 五六

春の館 (田舎下) 四九

○春秋之繪櫃 (用捨箱) 七六

○春風 (淨上) 五

同〔巴の名馬〕 (淨下) 二四

同〔長歌〕 (近代) 三二

同〔人名〕 (石川) 四〇

○はるくさ〔長歌〕 (近代) 五三

○春子〔じゃがたら文〕(書翰) 九

○はる駒〔長歌〕 (近代) 三六

○春駒踊 (近代) 四〇

○春雨 (宇津上) 二七

○春孝〔尾田〕 (淨中) 九

○春忠〔尾田城之助〕 (淨中) 三

○春近下部に雪佛を作

らす (石川) 三三

○春次〔駒澤三郎〕 (淨上) 六三

○春時〔修理太夫〕 (淨上) 四八

○春永〔小田〕 (淨上) 四二

○春長〔内大臣尾田〕 (淨中) 四

○榛名山 (日記) 三〇

○春氷〔和漢朗詠集、冬〕(古代) 三九

同〔新撰朗詠集、冬〕(古代) 三〇

○春の野〔雜藝〕 (古代) 一六

○春の初〔今様〕 (古代) 一五

○林田の里 (風土記) 五三

○はやしといふ語 (年々) 二三

○拜志郷 (風土記) 四三

○林羅山

略傳 (先哲) 二〇

其詩 (詩集) 四

○早助(安達大助) (脚上) 四九

○早瀬(盛綱の妻) (浄中) 三三

○早瀬九平太 (脚上) 四二

○速濡里 (風土記) 五〇

○速玉之男神 (靈能) 三五

○早飛脚 (浄上) 三五

○速總別王仁德天皇 (古事記) 二三

に伐たる (近代) 一八四

○はや舟(裏組) (古事記) 一八

○羽山津見神 (古事記) 六

○羽山戸神 (古事記) 六

○速瀧之多氣佐波夜遲 はやみかのたけさるはやち (古事記) 三

奴美神 ぬみのみ (風土記) 五二

○遠見郡 (脚下) 二六

○早物半助 (浄上) 元

○隼人(關口) (太閤上) 四〇

同(永井) (伊達) 五〇

同(片山) はやりうた (武野) 四三

○時花唄(五十ぞく) (日記) 五三

○ばやり神 (原井伊豫守[町奉行] 政道に托して藤右衛門の願ひを斥く (大久保) 三三

子の愛に引かれ愚謀に與す (大久保) 三六

藤右衛門の内意を諾す (大久保) 三六

○切腹す (大久保) 二六

○祓 はらへ (宇津上) 二七

○祓戸の神 (宇治) 三三

○ばらなの草履 (平賀) 五〇

○腹唐秋人の狂詩 (川柳) 四六

○原澤村一件の落著 (大岡) 四四

○原總右衛門の母[總右衛門へ遺書] (書翰) 二三

○原田甲斐 出生の由來 (伊達) 三七

伊達安藝を切る (伊達) 五八

○原田軍平 (浄下) 五九

○腹たてず (狂言上) 二四

○腹に穴のある人 (黄表紙) 二六

○腹の中 (心學) 五九

○腹巻 (浄上) 九

○孕女 (浄上) 二七

○伴善左衛門の鷹の話(窓の) 三九
○變船土佐の國に漂著

す

(太閤下) 三九五

○椽 (宇治) 三四〇

○半藏 (脚下) 四四五

○伴僧 (宇津上) 四四三

○伴大納言(善男)應天門

を焼く

(宇治) 二七三

○半太夫節 (平賀) 四七七

○はんぢよ(端歌) (近代) 六六六

同(三上り) (近代) 六六九

○變地跋涉 (書翰) 三〇一

○番町の夜相撲 (大久保) 四九三

○坂東 (宇治) 三〇七

○坂東の八平氏 (淨中) 二〇〇

○伴内(米田) (女太平) 九三

同(岩倉) (淨中) 二四三

○般若經の主旨 (出定) 六二五
○般若多羅尊者 (一休) 四四四

○般若丸(明退が賜はり

し笛)

(宇治) 四九三

○牛之丞(小野) (窓の) 一四

同(須原) (曾呂利) 六三〇

○パンの製法 (書翰) 四九六

○番場忠太(ひらがな盛

衰記)

(淨下) 一三五

同(御所櫻堀河夜討)(脚下) 二九六

同(めくら仙人目明仙

人)

(黃表紙) 二六

○晚望(未格) (和漢) 二九七

○萬里居士寓居地 (江戸三) 四九一

○蟠龍寺(靈雲山) (江戸二) 九七

○はめや (古事記) 五〇

○刃物の目利 (八文字) 三九六

○速秋津日子(神) (古事記) 二三
○速秋津比賣(神) (古事記) 二三

○早歌(神樂歌、小前張)(古代) 二〇七

○早漆 (狂言下) 三三八

○早起の滑稽 (七偏人) 六五七

○早勝(亘新左衛門尉)居

住舊址

(江戸一) 四六六

○はや河(湯本) (遊京) 三六六

○速來門 (風土記) 五九

○早咲梅踊 (近代) 四五一

○林有琴(鏡岩詠四

季)

(和漢) 二九四

○林讀耕齋略傳 (先哲) 三三

○林道春

丙辰紀行 (日記) 二九

和栗山氏詩 (和漢) 二九

神社考の一節 (靈能) 三五四

○濱成式

はまのまこと

(百人) 二七〇

○濱里

(風土記) 四三〇

○濱町〔細川奥方〕

(脚上) 一八六

○濱松

(日記) 二六一

同

(日記) 二六六

○濱松の夜雨

(日記) 二六五

○濱村屋吉次

(江戸著) 四七五

○濱木綿

(宇津下) 四二

同〔直方の妻〕

(淨上) 二二七

○濱床〔帳臺〕

(宇津上) 二二七

同

(宇津下) 二四〇

○萬庵〔釋〕の詩

(詩集) 二六六

○晩夏〔和漢朗詠集、夏〕

(古代) 一六六

同〔新撰朗詠集、夏〕

(古代) 二二七

○挽歌〔渡白狂〕

(和漢) 三二二

○蕃客のたはむれ

(古今著) 九六

○潘金蓮

(水滸二) 二六

○範久阿闍梨

(宇治) 一五二

○悼反喬舎文

(鶉衣) 八三五

○盤溪〔大槻〕の詩

(詩集) 三九〇

○半夏婆々の傳

(武野) 四一九

○范古

(閑田) 一〇四

○潘巧雲楊雄に罵らる〔水滸二〕 三五五

○伴蒿蹊

(閑田) 一〇四

眞淵の歌の評

(崎人傳) 二七二

續近世崎人傳の題

(崎人傳) 二七二

言

(崎人傳) 四四四

春海が許よりの書〔琴後〕 六三三

○變國の文字

(花月) 五七三

○反魂香

(平賀) 二六五

同

(淨上) 二五五

○半左衛門〔中井〕

(淨中) 五四

同〔堀〕

(書翰) 六六

○榛澤六郎

(黃表紙) 二〇〇

○番七〔花川月〕

(淨中) 四九〇

○汎神論〔平田篤胤〕

(古道) 四九六

○判じ物

(淨上) 八

○羽武者の説

(禪林) 五三三

○伴十郎平藏を切る事〔女太平〕 七四

○播州浪人

(淨上) 一五

○萬松寺

(鶉衣) 八七〇

○番匠ヶ谷

(江戸二) 四〇八

○半四郎〔林〕の勇戰討

(太閤中) 三三四

死

(太閤中) 三三四

○半次郎〔後二代目から〕

(女房) 三九六

○幡隨院〔神田山〕

(江戸三) 四六五

○幡隨院長兵衛

(脚下) 二

○伴助

(脚下) 五三

○反正天皇

(古事記) 二四四

○萬歲樂

(宇治) 二七九

○はなもり〔長歌〕 (近代) 五九
 ○はなわの松 (宇津上) 六八
 ○赤土 (古事記) 三三
 ○羽生田貴良〔春海が許より〕 (琴後) 六四
 ○埴夜須毘古神 (古事記) 一五
 同 (靈能) 三六
 ○埴夜須毘賣神 (古事記) 一五
 同 (靈能) 三六
 ○羽根川丹下 (淨下) 八〇
 ○羽川珍重 (燕石) 五四
 桔 檉 (淨中) 六四
 齒の固き男 (花月) 五三
 ○馬場 (江戸一) 二〇七
 ○朱櫻 (古事記) 三七
 ○掃持 (古事記) 七三
 ○嬬子山 (風土記) 五五

○馬場先踊 (近代) 四三
 ○母代 (狹衣) 六六
 ○馬場求馬 妻を湖に沈む (雅文) 三五
 亡妻の怨靈 (雅文) 三〇
 ○母の片腕 (閑田) 九四
 ○母の丹精 (七偏人) 六三
 ○はゝ矢 (古事記) 六九
 ○馬符、文〔荒木山城守〕 (和漢) 四七
 ○葉二つ〔笛の名〕 (宇治) 四九
 ○はぶ、はぶつかひ (閑田) 一四〇
 的部里 (風土記) 五九
 ○濱川風流〔丹前ふし〕 (近代) 四二〇
 ○蛤 春豪房の功德 (古今著) 六二〇
 主計頭師員の放生〔古今著〕 六二〇

俚歌 (鶉衣) 八七
 ○蛤門戦争 (書翰) 五五
 ○濱田 (日記) 一五
 同〔泉州〕 (淨中) 五九
 ○濱田彌兵衛臺灣の關官を懇す (古道) 四七
 ○濱千鳥 (宇津上) 三七
 ○濱名 橋上の夕景 (日記) 一五
 風景 (日記) 六二
 濱石川 (日記) 三一
 橋 (日記) 三七
 橋の考證 (日記) 三七
 ○濱成〔和氣の前司〕 (淨中) 三九
 ○濱成〔檜熊〕淺草親音を 得 (平賀) 二六
 同 (江戸三) 四二

○花散里の巻 (田舎上) 四一

○花机 (宇津上) 二五

○鼻取相摸 (狂言下) 一五

○花に雨風 (花月) 三五

○戯花〔岩長羽〕 (和漢) 二四

○花の井〔傾城、三十石艦始〕 (脚上) 八

同〔森國の妻、御所櫻堀〕

河夜討 (淨上) 三〇

○花の宴 (宇津上) 一四

同〔長歌〕 (近代) 二七

同 (田舎上) 三五

同 (古今著) 四

○はなの香〔長歌〕 (近代) 五

○花の方 (淨下) 六

○鼻、箴 (鶉衣) 八

○花の御所 (田舎上) 一三

○鼻 はなのしたながもの 下長物語 (黃表紙) 一七

○花、制札〔義經〕 (和漢) 三六

○花の節會 (年々) 四七

○花火〔玉屋が手ざば、鍵屋が趣向〕 (平賀) 一八

○花菱〔武田の印〕 (淨上) 二八

○鼻ひたといふ事 (禪林) 二二

○花袋 (用捨箱) 七

○英〔志賀崎生駒之助〕 はな (淨上) 一八

○英一蝶

百人上臈にて遠流 (江戸著) 五

淺妻船の繪 (江戸著) 五

其の墓 (江戸二) 七

石燈臺 (畸人傳) 六

○英一蜂〔邊摩傾城の畫〕 (武野) 四六

○花見〔花參照〕

長歌 (近代) 三八

娘自慢の花見 (八文字) 三九

向が岡の花月 (石川) 一七

上野の花見 (江戸四) 四三

御城中の花見 (大久保) 四二

花見酒 (淨上) 二

花見車〔はやり歌〕 (近代) 四七

花見小袖 (江戸四) 四三

花見茶番 (八笑人) 二〇

飛鳥山の花見 (八笑人) 二〇

隅田川の花見 (八笑人) 二四

○花みつ〔岡部の〕 (御伽) 四七

○花滿憲法 (脚上) 九

○花滿將監 (脚上) 五九

○花滿中將 (田舎上) 四

○花滿縫之助 (脚上) 五

○花水川 (日記) 二五

花、制札〔義經〕

(和漢) 三八

櫻の美

(花月) 四七

花に雨風

(花月) 五五

花の開落

(花月) 五四

花の散る事

(花月) 五八

物語と花

(花月) 五八

時ならず咲く

(古今著) 五八

百花譜

(風俗) 六九

花を惜む詞〔千蔭〕

(うけら) 二四

花を見る記〔春海〕

(琴後) 五〇

花を惜む記〔春海〕

(琴後) 五五

○鼻

柘榴鼻

(田舎上) 二八

大鼻の男

(石川) 三八

鼻箴

(鶴衣) 五八

○洩^{はな}

○花軍〔當流所作〕

(近代) 五二

○花生、簪〔蓮二房〕

(和漢) 四六

○花浦〔傾城〕

(脚上) 二

○花賣

(淨中) 一八

同〔吾妻淨瑠璃〕

(近代) 三四

○花扇邯鄲枕

(淨下) 三三

○花扇屋

(淨下) 四七

○花扇屋才兵衛

(脚下) 六五

○花折

(狂言下) 三九

同〔二上り〕

(近代) 六三

○花笠〔端歌〕

(近代) 二五

○花がつみ

(百人) 四二

○花木外記の剛勇

(窓の) 二五

○花城天満宮

(江戸二) 六七

○花桐

(田舎上) 二六

○花桐の霊

(田舎上) 五三

同

○はなとどき〔長歌〕

(近代) 五九

○鼻藏人〔惠印の異名〕(宇治) 三三

○鼻毛 (淨上) 三一

○花子 (狂言上) 三〇

○花坂 (淨上) 七

○花咲翁 (燕石) 五四

○花郷 (田舎上) 四四

○花園〔殿上童〕 (宇津上) 一三

○花園おとゞ (宇治) 五二

○花園左大臣家の侍の

歌 (古今著) 一四

○花園の左のおとゞ〔有

仁〕 (宇治) 四六

○花園風〔第六の琴の

名〕 (宇津上) 一九

○花橋〔和漢朗詠集、夏〕(古代) 一九七

同〔新撰朗詠集、夏〕(古代) 三七

○鼻垂先生の狂詩 (川柳) 四四

○八反掛の大廣袖 (平賀) 三三

○ばつたり道七 (淨中) 三二

○服部中庸

三大考 (靈能) 三六

其思想 (靈能) 三七

皇國外國成立の説(靈能) 三三

○服部南郭

春臺の墓記 (先哲) 二三

略傳 (先哲) 二六

小野周南の碑文 (先哲) 三六

眞淵の説に感服す(崎人傳) 三七

其詩 (詩集) 九

春臺よりの手紙 (書翰) 一七〇

○服部左京蟹江を攻む(太閤上) 一五

○八ちく草履 (淨上) 三〇

○謝初茄子(土方堅) (和漢) 二六

○はつ音(さわぎ) (近代) 二六

○初音ヶ原 (日記) 三八

○初音の巻 (田舎下) 四三

○初花 (田舎下) 一三

○初春の景色 (年々) 三三

○はつばる(長歌) (近代) 五六

○八體付方 (鶉衣) 八七

○八百坊記 (鶉衣) 六九

○初物食ひ (心學) 四七

○初雪の句 (骨董集) 四七

○初夢漬 (和合人) 四九

○初夢の話 (七偏人) 四三

○はつり(麻にて造りたる縫絲) (字津上) 四

○はで片撥 (近代) 二八

○はてくせ揃(はやり歌) (近代) 四〇

○破天連 (大久保) 一

○伴天連 (太閤上) 五三

○鳩

鳩ふく秋 (宇治) 四三

三枝の禮 (淨上) 三九

餌ばみの爭 (淨中) 六

○馬刀 (田舎下) 三六

○馬頭觀音 (八文字) 五八

同 (宇治) 一六

○鳩七(鷺のうちの子飼) (黄表紙) 八

○花

和漢朗詠集、春 (古代) 一八

新撰朗詠集、春 (古代) 三六

宴曲 (古代) 四〇

秋の花 (石川) 三五

花の噂(白石) (書翰) 一四

花は櫻 (年々) 三〇

同〔北島〕

〔日記〕四九五

同

〔田舎上〕四〇〇

同

〔浄上〕一八九

○八幡太郎

〔燕石〕三六五

○八幡の袈裟御子

〔宇治〕四七五

○八幡洞ヶ峠

〔太閤中〕一六三

○鉢娘

〔黄表紙〕二六四

○八幡詣出端〔丹前古今
ぶし〕

〔近代〕三五四

ぶし

○八文字屋

〔日記〕六〇三

○八町礫の喜平治

〔脚下〕五二三

○八葉の峯

〔浄上〕七〇

○蜂龍の盃

〔江戸一〕四七三

○八郎〔横溝〕の墳墓

〔江戸二〕四三〇

○八郎〔鷺森〕

〔浄中〕六六

○八王寺の落城

〔太閤下〕七〇

○はつ

〔石川〕四〇九

○罰〔神罰冥罰〕

〔譚林〕二〇六

○はつあらし〔長歌〕

〔近代〕三六〇

○初卯

〔七偏人〕五二三

○初卯詣

〔七偏人〕四九五

○薄荷圓のいたづら

〔和合人〕四二

○羽束師の森

〔曾呂利〕五九

○初鐵漿

〔田舎下〕五七九

○跋伽仙人と釋迦との

問答

問答

〔出定〕三三

○初松魚

〔平賀〕三〇〇

○麴鼠

〔浄上〕四八

○初雁を聞く辭〔千蔭〕〔うけら〕二六五

○初雁を聞く記〔春海〕〔琴後〕六〇二

○初雁の里

〔日記〕二九

○悼八龜辭

〔鶉衣〕七六

○戲八龜

〔鶉衣〕七六

○初菊〔十次郎の云號〕〔浄中〕八

○幡豆倉

〔日記〕三二

○八句連歌

〔狂言上〕二五

○八九郎〔質屋〕

〔一休〕四三

○八景

〔石川〕四七

○八講

〔宇津上〕一七四

同

〔狹衣〕三七

○八歲童孔子と問答の

事

〔宇治〕三八

○初芝居

〔平賀〕二九

○初瀬

〔石川〕七

同

〔日記〕四七

○初瀬觀音

〔石川〕三四

同〔大慈の告夢〕

〔醒睡〕三八

同

〔田舎下〕四〇〇

○はつせ川〔牛太夫ぶ
し〕

○八多喜平

〔近代〕六五

〔脚上〕三七

○波多横山 (萬葉上) 二

○鉢〔飛びて物を入る〕(宇治) 三三

○八右衛門〔家主〕出訴(大岡) 五〇

○八識頼耶 (禪林) 三九三

○はちかづき姫 (御伽) 三七

同 (田舎下) 一六〇

同〔平太の娘〕 (黄表紙) 二七九

○八月十五夜〔和漢朗詠

集、秋〕 (古代) 二七

○八國山 (江戸三) 二〇二

○八左衛門〔石川〕

智計 (大久保) 二〇

忠勇 (大久保) 二三

大手御門 (大久保) 二三

賞罰の事 (大久保) 二三

○八丈〔絹布の名〕 (宇治) 八

○八條太政大臣

院の拜禮 (古今著) 三

齋宮と歌の贈答 (古今著) 一三

蜂集 (宇津下) 一六九

蓮御前 (御伽) 六

○蜂須賀小六正勝

日吉丸に遭ふ (太閤上) 三五

美濃勢と戦ふ (太閤上) 一六五

木津城の水の手を

斷ちて城兵を苦

しむ (太閤中) 五九八

○八代目團十郎の自殺〔書翰〕 四七

鉢叩 (閑田) 二〇八

鉢扣辭〔去來〕 (風俗) 一八

○八内〔若黨〕 (脚下) 二三

○蜂の比禮 (古事記) 五一

○八人座頭 (用捨箱) 七九

○蜂濱の合戦 (太閤上) 六四

○鉢蟹奴 (七偏人) 五三

○八兵衛〔米屋〕 (脚上) 六九

○八兵衛〔日雇〕子に乞食

をすゝむ (畸人傳) 五九四

○八兵衛〔蛇食〕

兩頭の蛇を食ふ (琦行傳) 七五二

○八幡

夢の神託 (古今著) 三

いはしみづの大菩

薩 (古今著) 一四八

其社 (宇治) 五〇〇

○八幡宮〔府中〕 (江戸二) 三四〇

同〔立川〕 (江戸二) 三九三

同〔目白〕 (江戸二) 五九九

同〔六月村〕 (江戸三) 五二五

同〔鶴ヶ岡〕 (日記) 一二三

同〔箱崎〕 (日記) 一五七

芭蕉庵の舊址

(江戸四) 四三

芭蕉翁、贊

(鶉衣) 六六

芭蕉像、贊

(鶉衣) 六六

○芭蕉句集

(俳句集) 九六

○柱時計

(淨中) 五九

○走井(催馬樂、律)

(古代) 二三

○走りを食はず

(心學) 四七

○走湯山

(日記) 一七

○蓮

和漢朗詠集、夏

(古代) 一九

新撰朗詠集、夏

(古代) 三八

詠蓮(其風子)

(和漢) 二五

蓮を見る辭(千蔭)

(うけら) 二六

蓮の名所

(江戸四) 四一

○贈巴水辭

(鶉衣) 八六

○葉末(正清の奥方)

(淨下) 三六

○蓮田市五郎の母(市五)

○耶より遺書

(書翰) 五三

○蓮若

(江戸四) 四三

○泊瀬

(宇津上) 二〇

○長谷

(宇津上) 三六

○長谷寺

三人のそでない合

點

(醒睡) 一五

參籠の男利生にあ

づかる事

(宇治) 二七

新祭興行の事

(金澤) 三三

○長谷の觀音

珠を准后にたまふ(古今著) 七五

金の榻

(宇治) 四四

○長谷部五郎藏

(脚上) 一六

○馬泉(團)贊

(和漢) 四三

○巴扇堂

(石川) 四二

○畑

(日記) 二七

○機織道具

(心學) 四八

○聖岡里

(風土記) 五七

○礪島

(江戸一) 九九

○幡ヶ谷不動明王

(江戸二) 五八

○はたけといふ詞

(閑田) 一四

○畠山重忠(重忠を見よ)

○畠山靱負之丞重篤

(田舎上) 五一

○旅籠

(宇津上) 三三

○旅籠ぶるひ

(宇津上) 四二

○旅籠屋の下女に専

(大岡) 三三

○はだし馬の助

(百人) 五三

○畑介

(淨下) 五八

○波多郷

(風土記) 四九

○旗鋒

(宇津下) 六三

○肌見ゆるを恥ぢし事(年々) 三二

○旗下(御旗本中心得)

書

(書翰) 三一

○箸塚 (閑田) 三

○橋爪肥前守 (大久保) 三六

○橋のふし穴から杖を

落した話 (心學) 三三

○橋場 (江戸三) 三七

○羽柴秀長西丹波平定(太閤上) 六八

○はし風(夢の名) (宇津上) 二三

○初の巳の日 (宇津上) 五九

○橋本 (日記) 六

同 (日記) 六

○橋本稻荷社 (江戸一) 二七

○橋本宗興寺 (江戸一) 五五

○橋本少將 (書翰) 四一

○橋彌

其の乳母 (心學) 一〇一

よき心掛 (心學) 二〇

○巴雀木兒三吟十二表

長歌行の奥書 (鶉衣) 七三

○馬術 (大久保) 四六

芝連駈、千鳥掛

馬術の稽古 (黃表紙) 一三〇

○はじり (古事記) 七

○芭蕉 (日記) 三〇七

野ざらし紀行

れくの細道 (日記) 三七

柴門辭 (風俗) 二

松島賦 (風俗) 三

閉關說 (風俗) 八

幻住庵、記 (風俗) 二〇三

十八樓記 (風俗) 二〇五

曠野集序 (風俗) 二八

銀河序 (風俗) 二六

机銘 (風俗) 一六

座右銘 (風俗) 一四

嵐蘭誄 (風俗) 一四

甲古戰場文 (風俗) 一三

東順、傳 (風俗) 一七

壺碑 (風俗) 一八〇

月見、賦 (和漢) 三六

白髮、吟 (和漢) 三六

關口、聯 (和漢) 四七

紙衾、記 (和漢) 四七

澁笠、銘 (和漢) 五六

其角の美酒を戒む(書翰) 一五

去來へ借金 (書翰) 一六

歸省の感 (日記) 二〇九

大和記行 (日記) 二一〇

等裁訪問 (日記) 二二三

翁の俳句 (江戸著) 四六

菖蒲の句解 (江戸著) 四七

物いへばの句 (江戸著) 四九

其養生法

○白鹿庵

(禪林) 三三
(淨上) 一七

○白龍石(硯)

(淨上) 一四

○白龍廟

(水滸二) 四九

○羽黒權現

(江戸二) 二六〇

○馬喰町の光景

(石川) 三七六

○白鷺亭

(遊京) 三九五

○はくろば(今様)

(古代) 一五〇

○羽黒山

(日記) 二三三

○馬麿のいろく

(古今著) 三九

○剃毛目の茶碗

(脚下) 一八八

○馬検所

(字津下) 七六

○妖物(怪異參照)

浦島が子の弟

(字治) 三八

妖物論

(鶉衣) 六〇

主殿司の氣絶

(古今著) 五四

化物の趣向

(七偏人) 六〇一

○化物茶番の大騒動

(七偏人) 六七

○はく(大便)

(字治) 四七

○羽子板

(骨董集) 一四〇

○坡谷齋

(醒睡) 六〇

○箱崎

(日記) 一五

同

(田舎下) 五五

○箱根

權現

(日記) 七

其沿革

(日記) 一五

權現、關所

(日記) 二七四

關所

(日記) 三八

湖水

(日記) 三六

雨の日

(日記) 五二

東福寺の釜

(日記) 六六

湯治

(平賀) 五二

七湯

(黄表紙) 八

○宮根權現社(六浦)

(江戸一) 六五

○箱の池

(江戸三) 二九

○箱根山

(日記) 二六

同

(日記) 二七

同

(日記) 三六

同

(淨上) 三七

○馬才人

柳後園、晝寐

(和漢) 二九

去者日疎

(和漢) 三〇

○間光興之母(光興はさまみつおき)

よりの書狀

(書翰) 三〇

○挾箱

(淨上) 二四

○挾箱の布施

(醒睡) 二九

○櫛

(字津下) 六九五

○端鹿里

(風土記) 五四

○波斯國

(字津上) 四

○箱

(字津上) 四

○橋立(信俊の女房)

(淨上) 三七

白人

(燕石) 三〇七

同

(日記) 六三三

○栢車〔市川雷藏〕

(平賀) 二四三

○白秀英

(水滸二) 六三九

○白士霖

(太閤下) 四八

○白水翁

(雅文) 一四

○麥水句集拾遺

(俳句集) 五三

○白青舎ノ記

(鶉衣) 七三

○白石〔新井〕

其の詩

(詩集) 二三

室鳩巢へ火事見舞

(書翰) 一四

佐久間洞巖へ花の

囀

(書翰) 一四

芳洲より推舉を求

むる書

(書翰) 一五

澹泊より國史の三

大疑

(書翰) 一八

○白藏主

(平賀) 六四

○白藏主ノ贊

(鶉衣) 七三

○博打

博奕

(石川) 二七

吉祥天を祈りて福

を得

(石川) 三五

河豚食ふ事

(石川) 三五

惡漢長七郎に博奕

をすゝむ

(大久保) 一四

博打簞入の話

(宇治) 二七

賭物ないましむ

(古今著) 三七

博奕と雙六

(閑田) 一五

ばくちうちとひま

ん〔肥満〕の語

(年々) 三〇七

○白鳥〔宛名手の靈〕

(風土記) 五三

○はくてうしろ八〔白

鳥〕

(黃表紙) 六

○撲天鵬〔李應〕

(水滸二) 六一

○伯の母〔神祇伯康資王の母〕

世にめでたき歌人〔宇治〕 六

佛供養の事

(宇治) 九

○白波〔賊〕

(燕石) 六六

○白馬寺

(出定) 六三

○白髮吟〔芭蕉〕

(和漢) 三六

○博物志〔書名〕

(淨上) 四

○はくもん王〔羅刹國の

王〕

(御伽) 三三

○はくやう〔博奕〕

(閑田) 一五

○白幽子

白隱禪師の病を癒

す

(崎人傳) 四三

補遺

(崎人傳) 六五

白隱が謁せし時の

記事

(禪林) 三六

曲亭一風京傳張 (黃表紙) 三七

壬戌癸旅漫錄 (日記) 五一

櫟亭琴魚へ自著小

説の批評 (書翰) 三九四

石井夏海へ助言 (書翰) 三九六

某へ萬八樓書畫會

について (書翰) 三九八

○破鏡(曲翠の妻) (崎人傳) 三五

○萩原 (日記) 四五

○萩原榮輔の寢車 (琦行傳) 六七一

○萩原源兵衛 (窓の) 三六

○萩原藤治 (淨下) 八〇

○萩原の里 (風土記) 五七

○白(新撰朗詠集、雜) (古代) 四三

○伯夷叔齊 (燕石) 六三

○白隱禪師

其人物と居常 (禪林) 三三

夜船閑話 (禪林) 三七

遠羅天笠 (禪林) 三三

其自傳 (禪林) 四七

邊鄙以知吾 (禪林) 四七

參禪手引草 (禪林) 五五

さし藻草 (禪林) 五三

脱俗の工夫の爲め

に病となる (崎人傳) 四二

○箔打(七條の) (宇治) 四七

○栢庭(市川)

五郎時宗の役 (平賀) 六六

略傳 (琦行傳) 六一

○白翁(前名假名家文字

之進) (娘節用) 八

○博雅三位

天に音楽 (古今著) 三〇〇

盗人その筆集に感

ず (古今著) 三六四

流泉啄木の曲 (百人) 一〇八

延喜の御孫克明親

王の子 (宇治) 四九三

筆譜の奥書 (宇治) 四九四

朱雀門にて笛を取

りかふ (宇治) 四九四

○白起の白蟻蚣 (禪林) 三八〇

○白狂(渡)

賛鳥羽繪之蒲萄

吸 (和漢) 二六三

驚 (和漢) 二九三

挽歌 (和漢) 三二

○白山(白山禪定) (日記) 八二

同 (雅文) 五三四

○白山神社(小石川) (江月三) 三四

○白人 (八文字) 三六

○梅天禪師法語 (禪林) 五四

○寶貫の道(商業參照) (心學) 四九五

○梅芳軒(八景の記) (石川) 四七

○梅北善左衛門に刺さる

(太閤下) 二八三

○俳優 (日記) 六三四

○梅林坂 (江戸一) 五一

○梅嶺和尚 (閑田) 八三

○蠅

延喜聖主の御衣の

上 (宇治) 五〇三

蠅取豆 (八文字) 五五

蠅打、銘、序(崎一

秋) (和漢) 五四

蠅拂子 (琦行傳) 六七

○感齒落辭(東花坊) (和漢) 三一

○墓

墓の大小 (閑田) 一八五

古塚を發く事 (年々) 二九三

葬地の吉凶と子孫

の盛衰 (雅文) 二〇四

○馬鹿(賢愚を見よ)

○博多(袖の湊) (日記) 一八

○はかま (古事記) 二四

同 (宇津上) 七

○袴著 (宇津下) 六六

同 (田舎上) 三

同 (袂衣) 三三

同 (金澤) 三三

○袴垂

女を奪ひて身の代

を取る (石川) 一四

醫師盛之 (石川) 二九

小屋の番人 (石川) 三九

保昌に逢ふ (宇治) 六

○袴の襦 (淨上) 三五

○萩

和漢朗詠集、萩 (古代) 二二三

新撰朗詠集、萩 (古代) 三三

はぎてら 胡枝花寺の萩 (平賀) 四九

萩の返咲(秀衡の遺

愛、千代萩) (淨下) 八七

萩の名所龍眼寺 (江戸四) 四〇

萩をめづる記(春

海) (琴後) 五九

○萩一凶事を豫知す (窓の) 三七

○剝三郎 (田舎下) 四七九

○芳宜園大人を祭る文

(春海) (琴後) 七五

○萩大名 (狂言上) 三

○馬琴(曲亭)

頼朝より出陣中の

訓令

(書翰) 四

木曾征討

(淨下) 二三

○狼煙のろし

(淨上) 二四

同

(淨中) 五三

同

(平賀) 五五

○野分

(字津下) 一七三

○野分と鼠と桶の話

(石川) 三三

○野分の巻

(田舎下) 五三

ハ

○梅因(佐志枕辨)

(和漢) 四六

○梅翁宗因句集

(俳句集) 一

○梅翁發句追加

(俳句集) 二三

○鷄はいたか

(字津上) 五二

○俳諧

瀧野瓢水の吟

(畸人傳) 五七

柏原捨女の吟

(畸人傳) 五九

加賀千代の吟

(畸人傳) 六一

歌川の吟

(畸人傳) 六四

田舎侍長陣の慰み(醒睡)

(醒睡) 一六三

老夫婦と成人の男(醒睡)

(醒睡) 二五三

物言へばの句解

(江戸著) 四九三

まざゝの句

(江戸著) 五七

俳諧頌(李由)

(風俗) 二〇

○俳諧歌

(鶉衣) 八七一

○俳諧求韻序説(土方

堅)

(和漢) 三三三

○俳諧師朔花の洒落

(年々) 二五四

○俳諧玉藻集(蕪村)

(俳句集) 八五五

○俳諧の句を狂歌と誤

る

(用捨箱) 七九三

○梅外[長]の詩

(詩集) 四六六

○俳諧體の古今の相違(曾呂利) 六二三

○梅花宴ウヰ梅の條參照(古今著) 一九六

○沛艾馬

(淨上) 九

○俳諧發願文(浪化)

(風俗) 一五

○波比岐神はひぎのかみ

(古事記) 六六

○梅薫女

(脚下) 五七

○賣茶翁

(畸人傳) 三七

○俳儀梅(大江丸)

(俳句集) 六九

○梅心鬼頭を訪ふ

(太閤中) 四四

○梅松秀吉より受祿

(太閤下) 四三

○配所返狀(澤庵和

尚)

(和漢) 四四

○俳席之掟

(鶉衣) 五四

同

(鶉衣) 七二

○珮川(草場)の詩

(詩集) 三六三

○梅窓院(長青山)

(江戸二) 一五四

○裴如海

(水滸二) 五八

○延槻河はいつきは

(萬葉下) 四〇二

千秋萬歳の夢 (醒睡) 三六

政秀よりの死諫の

狀 (書翰) 元

○信房卿〔後吉宗公〕 (大岡) 三

○延光〔枇杷大納言〕夢に

御製に和す (古今著) 二七

○信安〔縫殿頭〕 (古今著) 五〇

○信義〔傳雅の子〕 (古今著) 三〇〇

○野風爐 (淨上) 三

○野邊の松蟲 (宇治) 四二

○能保野の原 (雅文) 五二

○登之助〔近藤〕

五色の葛 (大久保) 一七九

大久保と問答 (大久保) 一八三

○野間三竹〔丈山の墓誌

銘〕 (先哲) 四三

○蚤

紋所 (大久保) 三八

愚なもの (淨中) 六三

性空聖人、客の懷中

の蚤を知る (宇治) 五九

蚤、辭〔苗宰陀〕 (和漢) 三九

○能美郷^{のみの} (風土記) 五六

○乃美元信宮地山を守

る (太閤中) 四三

○のんやほぶし〔端歌〕 (近代) 四九

○のんやほし踊 (近代) 四三

○野もせにすだく蟲の

音 (宇治) 四三

○野もせの姫 (御伽) 四二

○糊〔糊と蟲〕 (禪林) 一七三

○乗合舟 (心學) 四三

○則氏〔奥州の流人〕 (淨上) 二〇四

○教氏〔桂中納言〕 (淨上) 二〇五

○則員〔的弓の上手〕 (宇治) 三九

○範賢〔妻木〕羅風に遇

ふ (太閤中) 三九

○則國〔桂の中納言〕 (淨上) 一八七

○範貞〔藏人判官藤原〕 (古今著) 四六七

○のりしげ〔箱崎の太

夫〕 (宇治) 四〇四

○梁尻^{のりじり} (宇津上) 二七七

○乘濱^{のりみづ} (風土記) 三九三

○周光〔大監物〕 (古今著) 九四

○則光〔陸奥前司橋〕 (宇治) 三六

○則宗〔兵庫介〕 (古今著) 四八

○乘邑〔和泉守〕の才氣〔窓の〕 一五二

○賭弓^{のりゆみ} (古今著) 三三

同 (宇津上) 二五九

同 (宇治) 四三〇

○範賴〔源〕

を斬る

(太閤上) 三二

岩倉城を攻む

(太閤上) 三六

七箇所の砦を築く

(太閤上) 二三

桶狭間の戦

(太閤上) 二六

美濃へ發向

(太閤上) 四〇

竹中半兵衛に破ら

る

(太閤上) 一四

上洛將軍義輝に謁

す

(太閤上) 一六

齋藤龍興を攻む

(太閤上) 一七

勢州發向

(太閤上) 一八

義昭公を迎ふ

(太閤上) 二〇

長政に妹を嫁す

(太閤上) 二二

上洛して足利家を

再興す

(太閤上) 二四

再び上洛

(太閤上) 二六

怒つて堺の町を焼

かんとす

(太閤上) 二六

禁裡室町御所造督

(太閤上) 二七

淺井との不和の基

(太閤上) 二七

人を用ふる大度

(太閤上) 二九

朝倉征伐

(太閤上) 三二

江州發向

(太閤上) 三三

淺井朝倉と對陣

(太閤上) 三三

長島表出張

(太閤上) 四三

比叡山を焼く

(太閤上) 四〇

義昭と不和

(太閤上) 四四

上洛して室町を圍

む

(太閤上) 四七

小谷城を圍む

(太閤上) 四七

蘭奢待を切る

(太閤上) 四七

越前の民を虐殺す

(太閤上) 四九

安土山築城

(太閤上) 四八

久秀を欺く

(太閤上) 四八

秀吉の行列を笑ふ

(太閤上) 五三

舊臣等改易

(太閤上) 六七

光秀を打擲す

(太閤中) 八

妙國寺の蘇鐵樹を

安土へ移す

(太閤中) 二

淨土日蓮宗の賞罰

(太閤中) 四

光秀に響應使を命

ず

(太閤中) 六

關丸との情話

(太閤中) 空

關丸を試む

(太閤中) 六

本能寺に陣す

(太閤中) 八

生害

(太閤中) 二六

凶夢の事

(太閤中) 二六

高野山衆徒に調伏

せらる

(太閤中) 二七

上京放火の騒動

(醒睡) 三

秀吉の祝ひ

(醒睡) 三六

秀吉の祝ひ

(醒睡) 三六

秀吉の祝ひ

(醒睡) 三六

○能登四首〔國風〕 (近代) 七

○祝詞^の (宇津上) 三三

○能登瀬川 (閑田) 四

○能登の國 (宇治) 二三

○野中〔三上り〕 (近代) 二六

○野中の里 (田舎上) 一四

○野中の松〔雲助〕 (平賀) 五二

○野の市 (日記) 八

○野の宮 (田舎上) 四六

○野々宮宮内^{ののみやのさよ} (脚上) 三〇

○野宮^{ののみや}左府 (古今著) 二三

播磨の相人 (古今著) 二三

内裏の女房 (古今著) 二七

○野火留 (鶴衣) 八五

同 (江戸三) 七

○野火留塚 (日記) 一四

○信〔鑿子〕の傳 (日記) 六九

○延章〔前所衆〕 (古今著) 三二

○信雄〔北畠〕 (古今著) 三二

梅心を遣して鬼頭

を伺はしむ (太閤中) 四四

秀吉を亡さんと計

る (太閤中) 五一

瀧川と蟹江に戦ふ〔太閤中〕 五一

○信方〔藏人少將〕 (宇津下) 七四

○信實〔左京權大夫〕御幸^{の繪卷} (古今著) 三六

○野伏^{のふせり} (浄上) 五一

○信澄〔織田〕の滅亡 (太閤中) 一四

○信隆〔伊豫守〕神の祟 (古今著) 二九

○信孝〔織田〕

柴田勝家に救を求

む (太閤中) 四三

自害 (太閤中) 五三

○信忠〔坊門大納言〕 (古今著) 三三

同〔由良兵庫助〕 (平賀) 四四

○信忠〔織田〕

半途より二條城に

入る (太閤中) 二四

生害 (太閤中) 二七

○信輝〔侍從〕大佛を以て

錢を歸る (窓の) 一六

○信俊〔執權監物太郎〕 (浄上) 三

○信友〔伴〕 (書翰) 二〇

○信長

家系 (太閤上) 四〇

初陣 (太閤上) 四二

平手政秀の死諫 (太閤上) 四

正徳寺に齋藤道三

と會す (太閤上) 四七

奇謀堀田春日兩士

秋の結果

農夫

農夫の業

○能阿彌〔初雁の壺〕

○能因法師

其傳、逸話

秋風ぞ吹く白川の

關

雨乞と白川の關

○納經塚

○能見堂

○能順の連歌

○能宣入道〔雨乞の歌〕

○能仁寺舊跡

○能滿院〔海運山〕

○能樂山人の狂詩

○能樂亭

(心學) 三〇九

(禪林) 三二

(禪林) 四〇

(醒睡) 三四

(百人) 四三

(平賀) 三三

(古今著) 一四

(江戸一) 元一

(江戸一) 六三

(崎人傳) 四七

(宇治) 五二

(江戸一) 六六

(江戸一) 五五

(川柳) 五三

(七偏人) 四六

○納涼

和漢朗詠集、夏

新撰朗詠集、夏

兩國橋

同

同

井中の涼み

同

○野銅

○のがはの觀世音

○軒端の梅

○鋸山

○残れる菊の宴

○野崎村

○野ざらし紀行〔芭蕉〕

○野汐〔藝子〕

○野島

(古代) 一九五

(古代) 三六

(江戸四) 四三

(平賀) 一六

(八笑人) 一六

(石川) 七二

(崎人傳) 六六

(宇津上) 六〇

(淨上) 五〇

(淨上) 六二

(日記) 六

(宇津上) 三三

(淨上) 五二

(日記) 二〇七

(脚上) 六九

(江戸一) 六九

○野島渡

○野介

○野雪隱

○野田

○野田の玉川

○後生

○後の岡部日記〔眞淵〕

○野路の篠原

同

○後の千金

○後中書王〔具平親王〕

○後の鑑

○後のもの〔後産〕

○後世に縁ある人縁な

き人

○野寺

同

(江戸一) 六〇

(脚上) 三三

(大久保) 三七

(日記) 四四

(日記) 三七

(宇津下) 三三

(日記) 五九

(閑田) 三

(日記) 二九四

(宇治) 四六

(古今著) 四二七

(骨董集) 一六

(宇津下) 一四

(閑田) 七

(日記) 二四

(閑田) 七

○根之堅州國

(古事記) 二六

同

(靈能) 二三

○根の國

(古道) 四三

○子の子

(田舎上) 四九

○子日(和漢朗詠集、

春)

(古代) 一七五

同(新撰朗詠集、春)

(古代) 二九六

○子の日離遊

(骨董集) 三七

○子の日の松(當流淨

瑠璃)

(近代) 二七

○涅槃の意義

(禪林) 三〇一

○寢惚先生の狂詩

(川柳) 三九

○ねまち(十九夜の月)(宇津上) 二六三

○根井大夫

(淨下) 四九

○年號文化

(年々) 三五

○年始、狀(新年の條參

照)

(和漢) 四三

○年始の茶番

(和合人) 三二

○念誦堂

(宇津下) 六六

○年中行事(宴曲)

(古代) 四六

○年中行事の狂文

(石川) 四六

○合歡木の名所

(江戸四) 四六

○念佛

さもあみだ佛

(古今著) 五〇一

念佛の意義

(心學) 五二

念佛の僧の魔往生(宇治) 三七

○念佛宗

源空

(出定) 六五

瘡の祈禱

(曾呂利) 五七

○根本佳胤が碑の銘

(うけら) 二九四

○根本橋

(江戸四) 三八

○寢物語後序

(鶉衣) 八〇

○寢屋の月(長歌)

(近代) 五二

○れりあひ(越中)

(日記) 八四

○れりぎぬ

(宇津下) 三五

○練、渡歌(野盤子)

(和漢) 三六

○練馬城趾

(江戸三) 六三

○籠

(宇治) 三七

○能安玖(西洋人種の

(靈能) 三六

○能

考證

(閑田) 一五四

清涼殿の能

(淨上) 七

關東に於ける能嘶

子の始め (大久保) 四七三

音色と身代

(醒睡) 三五

能の番附

(一休) 五二五

○農

農に精き人の心掛(心學) 二〇四

○猫

- 飛驒匠が猫 (石川) 二六
から猫 (石川) 三八
觀敎法印の守刀 (古今著) 五〇
鼠など取れど食は
ず (古今著) 六五
宰相中將の乳母 (古今著) 六五
薄雲の愛猫恩に報
ゆ (江戸著) 四三
猫塚 (江戸著) 四四
銀の猫と西行 (百人) 六九
猫の忠 (花月) 五三
放ちがひ、うりかひ
停止の事 (御伽) 二一
淺之丞猫の靈に惱
まざる (窓の) 二三
御懷の猫 (狹衣) 三〇

音羽橋酒屋夫婦

(一休) 四二

祭猫文(支考)

(風俗) 一六〇

猫と鼠の酒盛

(心學) 三六

猫の引導

(一休) 五三

○腹聲

(狂言上) 四七

○猫自畫賛

(鶉衣) 五九

○猫の蜚取

(骨董集) 四三

○猫狸橋

(江戸三) 三〇

○猫山三毛藏

(田舎上) 二七

○根來寺

(秀吉に征せらる

秀吉に征せらる

(太閤中) 六九

五右衛門寶塔を栖

とす (太閤下) 三四

とす

(近代) 五七

○れざめ〔長歌〕

(花月) 五八

○寢覺の里

(心學) 六六

○寢小便の笑話

(古事記) 一七

○根拆神

○鼠

鳴鏑を大國主命に

(古事記) 三

奉る

(古今著) 六三

海中より綱に罹る

(御伽) 二四

夢に和尚に訴ふ

(石川) 四四

鼠と盗人

(石川) 四四

暴風と鼠

(近代) 四六

鼠の晝寢〔古今ふ

(風俗) 四七

し〕

鼠賦〔去來〕

(醒睡) 二九

鼠の足

(石川) 八〇

○鼠啼

(宇治) 四三

○れずなき〔鼠鳴〕

(風土記) 六一

○鼠蟻窟

(日記) 三三

○鼠の關

(田舎上) 四六

○鼠の嫁入の繪草紙

(江戸三) 二六〇

○根津權現社

○縫之介

(淨下) 四二

○縫殿の陣

(宇津上) 六三

○縫物

(宇津上) 三五〇

○零餘子

(宇津上) 二九

同

(宇治) 四三

○糠塚の合戦

(太閤上) 四三〇

○ぬかり者(佛果と地獄)

(一休) 四三

獄

○貫河(催馬樂、律)

(古代) 二三

同(催馬樂)

(日記) 三九

○拔殻

(狂言上) 二六

○幣(神樂歌、採物)

(古代) 九一

同

(宇津上) 三七

○塗師平六

(狂言下) 一三五

○盜人連歌

(狂言下) 二六

○盜み、盜人(盜賊を見よ)

○野椎神(野の神) (古事記) 二四

○沼河比賣(大國主命と唱和)

(古事記) 五

○布忍富鳥鳴海神

(古事記) 六

○ぬのたゝみの來歴

(日記) 二六

○布引の櫻

(日記) 四三

同

(日記) 四三

○奴婢の子

(燕石) 二七

○沼尾池

(風土記) 四三

○沼田郷

(風土記) 四九

○沼津

(日記) 二五

○沼の藤六

丹波の桂賣と油屋

の亭主

(醒睡) 四二

四句の文

(醒睡) 三三

○ぬり笠(さわぎ)

(近代) 二五

○塗籠

(狭衣) 三五

同

(田舎上) 四二

同

(宇治) 四七

同

(宇津上) 三

同

(淨上) 三七

同

(淨上) 三〇

同

(宇津下) 二六

同

(淨上) 六

水

○寧海軍

(水滸四) 四四

○宋江孝を弔す

(水滸四) 五三

○宋江に取らる

(水滸四) 五三

○根岸の里

(江戸三) 四九

同(鶯)

(江戸四) 六九

○禰疑野

(風土記) 五七

○禰宜の太夫

(宇津下) 七四

○禰宜山伏

(狂言下) 一五

○仁和寺 (宇治) 三六

○仁和寺法親王 (宇治) 三六

○忍辱の袂 (宇津上) 二九三

○仁明天皇 (宇治) 四九七

○人面獸心 (心學) 二五

○若衆道(男色參照) (醒睡) 二六四

○入學ノ賛(許六) (風俗) 二七

○入道前太政大臣 (百人) 六九五

○入道殿 (宇治) 五三

○入道の君

俊平の弟 (宇治) 四九

仲頼の稱 (宇津下) 七一

○入道の宮(二の宮) (狹衣) 一八九

○入耳蟲 (淨中) 七一

○如意庵の詩 (一休) 五九

○女一宮 (狹衣) 三六

同(朱雀院の) (宇津上) 七三

○如意寶珠 (禪林) 三

○如意寶珠連事(延年唱

歌) (古代) 五八

○如意輪寺 (日記) 四六

○女官繪島 (窓の) 一四五

○女護が島 (平賀) 三九

○女三の宮 (狹衣) 一六

○女三の宮(兼雅の妻) (宇津上) 七

○女人禁制 (淨上) 七

○女人堂 (淨上) 七

○如法と殊勝 (禪林) 二二

○女犯 (宇治) 五二

○如來(釋迦參照) (心學) 三〇

同 (宇治) 三〇

○如來寺(歸命山) (江月) 二九〇

○俄(吉原の年中行事の

一) (平賀) 九

○俄道心 (狂言上) 四九

○戲俄道心(東花坊) (和漢) 二七

○鶴鶴 (平賀) 三〇

同(伊非諾伊非冊の二

神) (古今著) 六四

○庭高津日神 (古事記) 六

○丹波長秀磯野に降を

勤む (太閤上) 四〇二

○庭つくり (花月) 五九

○庭津日神 (古事記) 六

○にはとり煮賣屋(鶏) (黃表紙) 三

○鶏聲 (狂言下) 三四

○庭生(催馬樂律) (古代) 三四

○庭のつくり (花月) 五三

○庭燎(神樂歌) (古代) 六

又

日本の國風

(閑田) 七

●日本書紀の論

(古道) 四〇五

○日本紀、古事記の訓

(年々) 三九

○日本紀の局

(百人) 三二

○日本左衛門

(窓の) 三九

○日本志

エンゲルバルトケ

ンフル

日本人の雜談

(古道) 四七一

○日本信陽太宰純

(古道) 四〇

○日本堤

(年々) 三〇五

○日本刀の説

(江戸三) 三九

○日本橋

(古道) 四二

○日本法華驗記

(江月一) 六〇

○二本松

(字治) 一七

○人界

(日記) 三四

○仁戒上人〔山階寺の

(淨上) 三

僧

(宇治) 四一

○人魚

鳥と和睦

(黃表紙) 一八

伊勢國別保の浦

(古今著) 六五

○人形〔雛參照〕

(石川) 三四

○人間

其一生

(心學) 五

人さまの氣質

(心學) 三〇

が皆入用

(心學) 三〇

四大六根

(心學) 三九

人になれ人

(心學) 三三

人の仕業

(禪林) 三

上中下の人

(禪林) 三

人如薪盡火滅

(禪林) 二九

人の所得

(禪林) 三九

人の五味

(禪林) 一五

人の始中終

(禪林) 一六

○仁賢天皇

(古事記) 二七

○人參

(大久保) 三六

同

(淨上) 二三

同

(平賀) 三六

○人參〔辯許六〕

(風俗) 一〇

○忍術

(金澤) 二八

○仁俊〔世導寺阿闍梨〕

(古今著) 一〇

○忍笑〔和田〕

(書翰) 一四

○人相の書

(宇津下) 八

○忍耐

辛抱

(心學) 九

養子の辛抱

(心學) 九

堪忍の一つ

(心學) 三五

○人長

(狹衣) 三三

同

(宇治) 四四

○仁德天皇

(古事記) 三〇

○仁德天皇の仁政

(禪林) 五〇

硝子の魚

(一) 休 三六

壽の狂歌

(一) 休 四〇

○^{に、ぎのみこと}遍々杵命

高千穂へ降臨

(古事記) 八四

天孫と申す由來

(古) 道 四九

御降臨の模様

(古) 道 四三

竹島に都し給ふ

(古) 道 四一

○二人大名

(狂言上) 一九〇

○二の宮

(狹衣) 二四

○二木踊

(近代) 四三

○二方樓(記)相左角

(和漢) 四一

○日本

生成

(古事記) 二

支那と交通の考證(馭戎) 三六

魏志の記事の考證(馭戎) 四三

國々の名稱に付て(馭戎) 四八

隋書の日本記事の

誤謬

(馭戎) 六〇

唐と交を絶つ

(馭戎) 七三

明史に依り支那と

の關係を論ず

(馭戎) 二七

神國

(馭戎) 二七

萬國に勝る所由

(直毘靈) 一

連綿の基礎

(直毘靈) 一

皇統の無窮の所以(直毘靈) 二三

世界の宗國なれば

人心直し

(靈能) 二〇七

萬國の宗國

(靈能) 二〇七

國土の建設

(靈能) 二六

外國に勝れる由來(靈能) 二三

外國に比して小な

る由來

(靈能) 二三

天に向へる國なり

との問答

(靈能) 三四

神國の稱に付て (古道) 四二

神國と稱する濫觴 (古道) 四四

神代説と支那古傳

説の類似

(古道) 四四

外國より優れし所

以

(古道) 四七

位置

(古道) 四七

文明の他に遅れし

所以

(古道) 四九

皇統連綿は神道の

大本

(古道) 四〇

國民と皇室との關

係

(古道) 四一

氣風と日本志

風土の調和

(古道) 四三

豐葦原

秋津國

(淨上) 八一

○日輪寺(神田山) (江戸三) 四二

○日蓮宗 (太閤中) 一九

法論 (出定) 六六

其宗旨

○日蓮上人 (書翰) 七

日朗への手紙 (書翰) 七

信者等への書 (書翰) 七

某へ貰物の禮 (書翰) 七

無常文 (禪林) 五九

畫像の讚 (一休) 四二

○日蓮大菩薩 (江戸三) 四五

○日期(日蓮よりの書)(書翰) 七

○日荷上人(荒井妙法)加

持水 (江戸一) 六七

○につき勘定すみかた(黄表紙) 三七

○仁木川次郎 (田舎上) 八三

○仁木君吉 (田舎上) 四三

○仁木喜代之助 (田舎上) 八一

○仁木將監 (淨下) 五三

○仁木彈正左衛門 (脚下) 六七

○仁木武者之助 (淨下) 二五

○日經上人 (崎人傳) 五九

○日光 (日記) 九七

同(裏見瀧) (日記) 三〇

同(二荒權現の祭) (日記) 三六

○日光山(二荒) (日記) 二九

○日坂(西坂の一名)の蔵 (日記) 二九

もちひ (日記) 二五

○日瞬金龍の法を修す(太閤下) 五五

○日初の奇行 (崎人傳) 二九

○興日節庵文 (鶉衣) 六四

○仁田郡 (風土記) 四五

○新田大明神 (平賀) 四三

○新田大明神社 (江戸一) 四八

同 (江戸一) 四八〇

○新田の庄 (平賀) 四八七

○新田秀忠(雁の汁) (醒睡) 三五

○入唐の名士 (閑田) 七

○日本橋(大阪) (淨上) 四四

○日暮里 (江戸三) 三七

○荷文 (狂言上) 三三

○荷ひ風呂 (用捨箱) 七九

○蜷川新右衛門親當 (一休) 三六

一休を問ふ (一休) 四六

寂滅と三尊 (一休) 四〇

引導と龜 (一休) 四〇

妻を教化す (一休) 四二

妻の離別 (一休) 四三

謎にて手紙 (一休) 四〇

對句 (一休) 四二

○蜷川新右衛門の子

○錦木 (淨中) 四七

同〔裏組〕 (近代) 一八三

○にしきざのかはり〔端

歌〕 (近代) 六〇九

○錦所利部 (淨下) 三

○錦戸鷺五郎〔又、五郎〕〔淨下〕 八九

○錦の浦 (日記) 一五〇

○錦の前 (淨中) 二四二

○西窪八幡宮 (江戸一) 二四六

○西河^{にしかう} (日記) 四〇

○西坂のわらび餅 (日記) 一九二

○西三條の右大臣 (宇治) 三三

○仁科信盛の討死 (太閤上) 六九

○西生永濟^{にしなり} (畸人傳) 二四〇

○西の對〔あて宮の殿〕〔宇津下〕 四三九

○西の洞院 (田舎下) 二六六

○西の宮たいじん〔上〕

かな、鯛 (黃表紙) 四

○西宮殿〔高明〕 (宇治) 二六

○西、銘〔許六〕 (風俗) 一五九

○西八條 (淨上) 二二

○西本願寺〔築地〕 (江戸一) 一八九

○西村嘉卿〔春海よりの

書〕 (琴後) 六四四

○西山物語 (雅文) 三五五

○廿四孝狐會〔當流所

作〕 (近代) 五八

○二十四孝 (淨上) 三四五

○二條院 (宇治) 五七

○二條院讀妓 (百人) 六九

○二條行幸 (大久保) 四四五

○二條家の歌道 (百人) 七四

○二條城〔光秀の來襲〕〔太閤中〕 一三三

○二乗聲聞の自了偏枯

の修行 (禪林) 三七

○二條の大宮 (宇治) 一五四

○二條后 (宇治) 五八

○二條の御所 (淨中) 三

○似繪^{にせゑ} (古今著) 三五九

○似せ法師 (石川) 二七二

○贗物 (淨上) 三六

○假李逵の剪徑〔李鬼〕〔水滸二〕 四八六

○二雙の屏風 (大久保) 四七四

○二足三文 (骨董集) 一〇〇

○二代目から四郎 (女房) 四六〇

○仁田四郎^{にたんの} (平賀) 四八八

○にた山通^{やまつう} (淨中) 四九二

○日藏上人

吉野山にて鬼に逢

ふ (宇治) 三三

延喜帝の科 (平賀) 三七三

○苗代

(宇治) 二七

同

(宇津上) 三〇

○繩だら料理

(淨上) 六

○苗村介道

其逸話

(崎人傳) 三三

妻の奇行、詠歌

(崎人傳) 三三

二

○新潟

(日記) 三六

○二位尼

(雅文) 八七

○二位禪尼の影堂

(江戸) 三三

○二位の中將〔後大將〕

(御伽) 二〇

○二位の中納言〔中將〕

(御伽) 四三

○新治郡

(風土記) 三八

○仁右衛門〔岡井〕

(書翰) 三六

○贊〔日次の贊〕

(宇津上) 三八

○贊持の子

(古事記) 二八

○鳴には

(宇津上) 二五

○匂の局

(田舎上) 五二

○匂の花

(燕石) 三八

○二王

(狂言下) 四六

○仁王

(淨上) 三〇

○仁王講

(宇治) 二四

○二王塚

(江戸二) 四七

○仁保の關

(日記) 一五

○夢二客賦

(鶉衣) 七二

○苦井

(宇津下) 五二

○二月堂

(日記) 二四

○膠の船

(平賀) 四三

○饒石河

(萬葉下) 四三

○熱田津

(萬葉上) 六

○饒速日命

參向

(古事記) 二五

天磐船にて飛行

(靈能) 三六

○二九十八

(狂言下) 四一

○肉食は穢か

(年々) 三〇

○遊彈正

(淨上) 三三

○遊水はなみづ

(燕石) 三三

同

(雅文) 六

○尼公〔唐絲の母〕

(御伽) 六

○螺〔夢に小き尼とな

る〕

(古今著) 六三

○西市村の次左衛門

(心學) 一五

○西扇屋花紫

(遊京) 四〇

○西風

(花月) 三四

○西が原

(平賀) 一三

○西河〔桂川〕

(宇治) 五三

○四川求林齋

天文説

(古道) 四七

日本水土考

(古道) 四八

枕繪

(江戸著) 五七

○成上者なりあがりもの (狂言上) 三八

○齊昭(徳川)

臣下へ (書翰) 四四

佐藤一齋へ (書翰) 四六

よし田へ (書翰) 四五

○ならはし (花月) 五五

○成蔭(けたうの大辨藤

原) (宇津上) 四八

○鳴鐘なりかね (古事記) 五三

同 (古事記) 六

○成佐(故式部權少輔) (古今著) 四八

○鳴高なりたかし(風俗) (古代) 一五

○成田下總守 (太閤下) 七

○業遠朝臣の蘇生 (宇治) 一五

○なりひさ (宇津下) 一三

○業平

其略傳、逸話 (百人) 一四

春の心 (宇治) 四六

其評論 (平賀) 五五

歌の名人 (御伽) 五九

○業平蜺(龍宮城の下

郡) (平賀) 一五

○業平塚 (曾呂利) 五八

○業平天神社 (江戸四) 六三

○業平、晝餐(桃花仙) (和漢) 二八

○成道(參議)

師頼の言に閉口す(宇治) 五六

雲林院の雨やどり(古今著) 三三

鞠の精 (古今著) 三二

臺盤の上、清水寺の

高欄 (古今著) 三五

○成光(鶏の繪) (古今著) 三六

○業村(相撲) (宇治) 三

○なる川(二上り) (近代) 六三

○なるさの入道 (百人) 六一

○成川民部 (脚下) 六五

○成子乘圓寺の彼岸

櫻 (江戸四) 四四

○鳴澤 (日記) 一七

同 (日記) 三七

○鳴瀧 (曾呂利) 五五

○なるとの中將 (古今著) 二五

○鳴原なるはら (遊京) 三三

○鳴海 (日記) 三五

同 (日記) 二九

同 (日記) 三八

同 (脚上) 一四

○鳴海征伐 (太閤上) 一〇

○馴れし熊 (閑田) 二六

○馴れて忘る (花月) 五九

○繩しりがい (宇津上) 一八

○南部の狐隊 (閑田) 三三

○南兵衛(車錢の) (淨上) 三二四

○南畝(四方赤良參照)

留守宅へ(大阪より)

一 (書翰) 三六

留守宅へ(大阪より)

二 (書翰) 元二

留守宅へ(大阪より)

三 (書翰) 二六九

留守宅へ(長崎より)

一 (書翰) 二九三

留守宅へ(長崎より)

二 (書翰) 二九六

○なんほく踊

○南北朝

同

○南溟(龜井)の手紙 (書翰) 二六一

○南錄 (平賀) 一三〇

同 (淨中) 四九八

○男郎(又遊男)

○男郎(又遊男) (平賀) 三三〇

○行方郡 (風土記) 三五五

○行方彈正忠明連宅地(江戸一) 四三三

○滑狭郷 (風土記) 四九七

○なよし(裏組) (近代) 一八九

○なよしぼら右衛門 (黃表紙) 四

○なよ竹 (字津上) 七七

○なよ竹の女房 (古今著) 二六

○奈良(南都參照) (遊京) 三九〇

同 (字津上) 一三〇

○奈良團圓(也有) (鶉衣) 五三

○奈良貸 (太閣下) 二八

○奈良落 (淨上) 四

○奈良漬 (醒睡) 六

○檜の小川 (百人) 七九

○寧樂の故郷 (萬葉上) 三四

同 (萬葉上) 三五

○平城の故宅 (萬葉下) 三五

○檜原里 (風土記) 四三

○奈良の庭竈 (骨董集) 二五

○寧樂宮 (萬葉上) 三

○檜林山仙 (畸人傳) 五三

○雙が岡 (遊京) 三九三

○雙の岡 (狹衣) 二四九

同 (曾呂利) 五九四

○奈良麻呂徒を集めて (雅文) 五二

白山に籠る (近代) 五二四

○奈良名所盡(當流所作) (萬葉上) 一〇五

○寧樂山 (近代) 四三

○成相(丹前古今ふし) (近代) 四三

○なまの八〔非人〕

(淨中) 五四

○奈末不利〔風俗〕

(古代) 一五〇

○生麥村

(平賀) 五三四

○浪内

(田舎上) 五七

○浪内の出家姿

(田舎下) 三三四

○並木宗輔〔荊萱桑門筑

紫轅〕

(淨上) 一

○波切不動尊

(江月二) 六二五

○涙

愛水

(禪林) 一九三

紅の涙

(字津上) 四二〇

なみだ川〔端歌〕

(近代) 六三三

涙川

(字津上) 五五

○涙法師かな法師

(用捨箱) 七三

○涙法師の追考

(用捨箱) 八二六

○浪之進〔音羽〕

(淨中) 五二

○竝則〔下野の〕

(字津上) 五二

○波平〔奴〕

(脚下) 六三

○南無阿彌陀佛〔六字の

註釋〕

(平賀) 二六

同

(淨上) 六四

○なむかくの聲

(字津上) 六三

○南無妙法蓮華經

(心學) 三九〇

○南海〔祇園〕の詩

(詩集) 七

○南海道

(字津上) 五三

○南郭〔服部南郭を見よ〕

○南嶽大師の再來と厩

戸太子

(出定) 六三

○南京のあやつり

(石川) 三六

○南原

(太閣下) 四三

○南原城

(太閣下) 四三

○南行紀

(風俗) 二四

○南谷

(畸人傳) 五七〇

○南洲〔西郷〕某へ所懐

談

○南泉和尚

(書翰) 五二

○頼蘇

(禪林) 六

○南藏院〔大鏡山〕

(江月二) 五七〇

○難陀龍王

(平賀) 一七

○なんだ樓

(石川) 四三

○南天竺

(宇治) 一九〇

同

(字津上) 六三

○南殿の櫻

(宇治) 四九七

○南都の衆徒

(淨上) 一三四

○南都賦〔汶邨〕

(風俗) 七

○難波海〔催馬樂、呂〕

(古代) 一三

○難波長吉踊

(近代) 四三

○南蠻國

(大久保) 一

○南蠻寺

(大久保) 二

○南蠻の火術

(田舎下) 三三

○なん風〔夢の名〕

(字津上) 一三

○與某文 (鶉衣) 七九

○賀某^ノ謝髮文 (鶉衣) 七六

○仍某^ノ求作序 (鶉衣) 七五

○某別墅^ノ記 (鶉衣) 八六

○某州^ノといふ事 (年々) 二〇四

○某^ニ鷹^ニ丸^ニ某彦といふ

名 (年々) 二〇八

○某陽^ニといふ事 (年々) 二〇五

○難波 (萬葉上) 四八

同 (太閤中) 五八〇

同 (淨上) 一五四

同 (日記) 二九

○難波江^ノ大阪 (遊京) 五八

○難波湯^ノ神樂歌、大前

張 (古代) 九

○難波雀 (日記) 六三

○難波田^ノ彈正城址 (江戸二) 三三

○難波津 (宇津上) 二九

○難波津壺論^ノ丹前古今

ぶし (近代) 三六

○浪花鶴女の貞操 (畸人傳) 五二

○難波宮 (萬葉上) 二八七

同 (萬葉上) 二九六

同 (萬葉上) 三〇

○浪華^ニの妓院 (日記) 六三

○難波の夜發 (遊京) 四六

○難波堀江の妓樓 (日記) 六五

○難波女 (宇津上) 五三

○神馬藻^ノ醫^ノ禁好 (禪林) 一七

○名張川 (日記) 四三

○並河天民の議論と逸

話 (畸人傳) 三五

○鍋島直茂

軍の形勢 (太閤下) 二〇

元平山に朝鮮軍を

破る (太閤下) 三三

○鍋取の古製 (用捨箱) 六七

○鍋蓋額^ノ賛 (鶉衣) 五三

○生女 (宇津上) 三九

○海鼠 (古事記) 一八六

○生海鼠^ノ箴^ノ長鷺洲 (和漢) 四五

○腥物 (狂言下) 三七

○波まくら^ノ長歌 (近代) 二八

○生侍 (宇治) 一七

○餘

別當の餘になりた

る (宇治) 三六

孔子 (近代) 七

怪異 (近代) 六

○なまづぬら介 (黃表紙) 四

○なまの牛藏 (脚上) 五〇

曉

納涼

夏夜〔和漢朗詠集、

夏〕

○夏犬

○夏神樂

○名瀧

○名次山

○夏草〔長唄〕

○夏衣

○なつころもの考

○夏島

○夏高津日神

○夏野

○夏之賣神

○夏の館

○夏引〔催馬樂、律〕

(狭衣) 三〇

(狭衣) 二八〇

(古代) 一九四

(字津上) 五七〇

(淨中) 六三三

(字津上) 二一六

(閑田) 三三

(近代) 三三〇

(字津上) 二一六

(年々) 三三三

(江戸一) 六六六

(古事記) 六七

(田舎上) 六六

(古事記) 六七

(田舎下) 四四四

(古代) 三三

○夏引の絲

○夏祭浪花鑑

○夏箕の里

○夏海〔石井〕

眞顔より歌よみ等

の噺

馬琴より助言

○夏見廚

○夏蟲

○葉貞信公の手植

○夏目左衛門味方原

の殊勳

○名取川

同

同

同

同

(宇治) 四六六

(淨中) 五七七

(日記) 四四〇

(書翰) 三九六

(書翰) 三九六

(江戸四) 三六一

(字津上) 一六四

(古今著) 五七四

(窓の) 二一六

(宇津上) 一六四

(日記) 三三六

(日記) 一四七

(字津下) 二二

(狂言下) 三六

○名取川の狂言

○七色賣

○七草

○七草の一揆

○七草の名所

○名なしの大將

○七瀬川

西行と麥粉

同

○七瀬の旅

○七瀬の祓

○七十賀〔日吉禰宜成

茂宿禰〕

○七つ道具〔踊歌〕

○七つ森織右衛門

○七不思議、後序

○七曲坂

(心學) 四二

(用捨箱) 四一

(石川) 三六六

(淨中) 四四四

(江戸四) 四九

(百人) 五七〇

(曾呂利) 六〇九

(醒睡) 三六

(宇津下) 四一七

(田舎下) 二〇九

(古今著) 四四四

(近代) 四四八

(心學) 三六三

(鶉衣) 六四

(江戸二) 五七四

風俗其他の觀察 (日記) 五八

繪卷物 (日記) 五九

芝居 (日記) 五八

天王祭 (日記) 五七

十五夜 (日記) 六三

○名護屋

陣中の結構 (太閤下) 一二四

御陣の形勢 (太閤下) 一二

陣中の軍評定 (太閤下) 二八〇

朝鮮軍より虎と象

を送り来る (太閤下) 二八

○名古屋帶 (骨董集) 六二

○名護屋山三

所作 (近代) 五三

不破伴左衛門草履

打 (江戸著) 四八五

○名古屋の靈 (御伽) 六四

○梨壺〔女御、兼雅の女〕(宇津下) 四三

○梨花名所 (江戸四) 四六

○なしま〔奈島〕 (宇治) 一四

○梨本集〔戸田茂睡の家

集〕 (畸人傳) 三六

○那須

黒羽 (日記) 三〇

雲岸寺 (日記) 三二

古跡 (日記) 三二

殺生石 (日記) 三三

○茄子 (鶴衣) 六八

○茄子にて月をたゞく

仕掛 (和合人) 五八

○茄子の莖に錢をつく〔畸人傳〕 四六

○那須の興一 (狂言上) 一五

○奈須の興市の扇の的〔花月〕 五三

○謎

藤の枝 (淨上) 八

鍵投出し (淨上) 二七

鳥羽の水 (淨上) 二三

判の奥手 (一休) 五七

西と云ふ字 (一休) 五七

謎語 (閑田) 一九〇

なぞのうた〔古今ふ

し〕 (近代) 四三

○納蘇利 (宇治) 四六

○彎刀 (平賀) 五九

○鉈 (醒睡) 三六

○夏

和朗朗詠集 (古代) 一三

新撰朗詠集 (古代) 三三

宴曲 (古代) 四八

夏の行事 (石川) 四九

初夏の夕 (狭衣) 一

忠節 (窓の) 二九

其子恩を報ず (窓の) 一四〇

○中村内藏之助の輕卒

騷奢 (窓の) 二五

○中村座 (平賀) 二五

○中村少長〔驛路の辨〕 (江戸著) 四三

○中村宗三一節切の調

子は大森宗君に學

ぶ (近代) 二九

○中村惕齋 (先哲) 九

○中村藤吉郎〔秀吉の條を見よ〕

○中村龍袋 (畸人傳) 二九〇

○那賀郡 (風土記) 四〇五

○中山太政入道〔花山院左府〕

松煙〔墨〕 (古今著) 九五

箱文の説 (古今著) 九六

○長森稻荷社 (江戸二) 二三

○長屋王〔右大臣〕の詩〔詩集〕 五〇

○長屋原 (萬葉上) 三

○長屋之竹島〔邇々驛

命の都〕 (古道) 四二

○なかやま〔さわぎ〕 (近代) 六六

○長山宵子 (畸人傳) 一五

○長能 (古今著) 一六

○仲頼〔右近少將源〕 (字津上) 二六〇

○仲頼の少將の妹 (字津下) 一五

○長柄の橋 (字治) 九

○なからき (宇治) 一四

○流れ瀧頂 (心學) 四〇〇

○ながれの森〔越中〕 (日記) 八

○流山の桃 (江戸四) 三九

○棚人體を顯す (淨上) 七七

○泣尼 (狂言下) 五

○渚〔娘〕 (脚下) 一四

○渚の院 (字津上) 三六

○泣澤女神 (古事記) 一七

同 (靈能) 二六〇

○長刀踊 (近代) 四七

○薙刀坂 (日記) 八七

○哭女 (古事記) 三

○なくかはづ〔さわぎ〕 (近代) 六六

○奈久四郎 (女房) 六四

○なぐさの櫓 (字津上) 四八

○長押 (字津下) 六四

○投節 (田舎下) 二四

○那古 (日記) 三六

同 (日記) 九五

○名子の浦〔越中國〕 (閑田) 四七

○夏越 (字津上) 三七

○名古屋 (日記) 五七

其言葉訛

長門〔忠澄の乳母〕

(宇津上) 一四

○長門印籠

(淨中) 一五

○長門島

(萬葉下) 二七

○長門の浦

(閑田) 三

○長門前司の女

(宇治) 二六

○中臣鎌子連をカマス

ノムラジと訓む事(年々) 二七

○中臣の門人

(宇津上) 二

○中臣壽詞

(祝詞) 三七

○なかとり

(宇津上) 六六

○中野

(江戸二) 四九

○中院右大臣

胡飲酒の童 (古今著) 二三

柑子を箸にさして

梓にす

(古今著) 五〇

○中院前内府

(窓の) 三〇

○中關白

高内侍に通ふ

(古今著) 二六

車の内に酒饌を設

く

(古今著) 五五

○中大兄皇子鎌足と因

を結ぶ

(百人) 一七

○中郷八幡宮

(江戸四) 一六

○中延八幡

(江戸一) 四五

○中の君

(宇津下) 一五

○中の橋

(宇津下) 三五

同〔孫玉〕

○中野七塔

(江戸二) 四九

○中の橋

(江戸一) 四七

○永範〔式部大輔〕

素輝紅淚

内宴の時の序

○長羽織

(古今著) 一〇

○長幡部之社

(宇治) 五七

○長濱

(平賀) 三二

同

○長濱城

(淨下) 五三

○長濱の浦

(太閤中) 四二

○なかばより

(萬葉下) 四三

○仲平〔批把左大將〕

(燕石) 六二

○長房〔高山〕の敗走

(宇治) 四二

○仲文〔平〕

(太閤中) 三〇

○長盛〔増田〕

(曾呂利) 八三

○長正〔帶刀〕

(太閤下) 五九

○長政〔能登前司橋〕

(宇津上) 二五

○長町

(宇治) 四六

○長光

(淨上) 四〇

○長光の刀

(狂言上) 三七

○長峰〔古市町の古名〕

(脚 下) 八

○中村勘兵衛

(遊京) 四三

君命を帯びて島原

城に忍ぶ

(窓の) 一六

○中倉忠宣

奇行

妻の貞操

○中黒の旗

○長崎〔葉手〕

○長崎節〔端歌〕

○長崎餓人

奇人

事蹟補遺

○長崎柱餅

○長澤

○中澤道二

○長篠

○中仕の子

○中島辨財天

○長島湊

○仲澄〔侍従源〕

〔畸人傳〕二四九

〔畸人傳〕二五一

〔平賀〕五四

〔近代〕一七

〔近代〕二六

〔畸人傳〕二八

〔畸人傳〕六六

〔骨董集〕二七

〔日記〕一六

〔心學〕七

〔燕石〕四三五

〔心學〕四九

〔江戸三〕二五

〔江戸四〕三〇三

〔宇津上〕二〇

○長洲の濱

○長角櫃

○長雪隠解〔許六〕

○長背眞幸を送る序

○中空

○なか田〔富士の眺望〕〔日記〕九〇

○永田觀鷺の十二韵の

詩

○永田權左衛門

○仲忠〔清原〕

幼くして母を養ふ〔宇津上〕五〇

母、大宮と京極に籠

居す

〔宇津下〕六四

○永田徳本

友人に家を賜ふを

乞ふ

○長田里

〔畸人傳〕三八

〔風土記〕五一

同

○永田馬場山王御旅所〔江戸一〕一四

○長周〔左近衛下野〕〔古今著〕五三

○中務

○中務景恒

○中務の宮の少將

○中務の宮の北の方

○なが月〔半太夫ぶし〕〔近代〕六六

○九月神嘗祭

○中筒之男

○中津綿津見神

○永手〔左大臣藤原〕

白壁王を立てんと

す

塔婆を造る

○長門〔國風〕

同〔さわぎ〕

〔淨上〕五〇

〔古今著〕五三

〔狹衣〕四〇

〔太閤上〕三五

〔狹衣〕三〇

〔狹衣〕三〇

〔宇津上〕二〇

〔近代〕六六

〔祝詞〕三六〇

〔古事記〕三五

〔古事記〕三五

〔古事記〕三五

〔宇治〕五五

〔宇治〕五五

〔近代〕九八

〔近代〕六六

〔宇治〕五五

○内膳山 (江戸四) 三一

○内藤新宿 (江戸二) 二七四

○内藤如安〔飛騨守〕の

人物

(馭戎) 一七五

○内藤耳左衛門

(崎人傳) 二〇三

○絢房

(宇津下) 六三

○直明〔大和介〕

(宇津上) 二四二

○直會祭

(近代) 六二

○直方〔平の僊杖〕

(淨上) 一九〇

○直弼〔井伊〕

(書翰) 四九

○直助權兵衛

(脚下) 一八一

○直孝朝臣

惣廓の義に反對す(窓の) 二八〇

執政の心得を説く(窓の) 二八八

○直高〔井伊〕伊達正宗の

(窓の) 七〇

神文を焼く

(窓の) 七〇

○直毘神

(古事記) 二五

○直正〔宰相〕 (宇津上) 二五五

○直松〔宮内少輔源〕 (宇津上) 二四二

○直鈴〔橋〕の中文 (宇治) 五八

○直入郡 (風土記) 五九

○長家の大般若一筆書

(古今著) 七五

寫

○中泉 (日記) 一九二

○長一〔森〕 (太閤中) 四〇三

○永井某へ東湖よりの

書狀 (書翰) 四七四

○長井浦 (萬葉下) 二七〇

○長芋〔解〕室山流 (和漢) 四七三

○中江藤樹

(窓の) 二六四

高徳 (窓の) 二六五

其廟 (先哲) 四

略傳 (崎人傳) 一五九

逸話 (崎人傳) 一五九

○長岡 (宇治) 五七

○長岡神社 (風土記) 五三

○長岡大臣〔内鷹〕 (宇治) 五二五

○長岡の都の舊跡 (閑田) 五〇

○中垣 (田舎上) 二六四

○長方〔左大辨〕 (古今著) 八七

○なががたな〔二上り〕 (近代) 六三

○仲兼〔近江守〕 (古今著) 五九

○中川 (江戸四) 二五三

○中川の館 (田舎上) 八三

○中川の宿 (曾呂利) 五九三

○中川里 (風土記) 五三

○中川瀨兵衛

和田伊賀守を討つ(太閤上) 四三

九度敵兵を追退く(太閤中) 五二六

討死 (太閤中) 五二八

○ながき夜〔長歌〕 (近代) 五九七

○鳥形山

(日記) 四〇

○鳥髪の地

(古事記) 四〇

○鳥組

(近代) 一六九

○鳥越の里

(日記) 二〇九

同

○鳥越明神社

(江戸三) 四三三

○鳥さし

(江戸三) 四三九

同

○鳥鳴海神とりなるみのかみ

(浄上) 一九三

○鳥之石楠船神とりのいはくすねのかみ

(古事記) 六三

○鳥の舞

(古事記) 一五

○鳥部野

(宇津上) 四六三

同

同

○鳥部山

(宇治) 一六六

○鳥羊とりやぎ〔鶴の宛字〕

(田舎上) 三二

○鳥耳神とりみみのかみ

(田舎上) 四〇四

○鳥目とりめ
○鶴〔鳥羊の宛字〕

(浄上) 二九
(一休) 三三

○鶴と蠅の噺とりのうた

(心學) 三五

○採物〔神樂歌〕

(古代) 六〇

○鶏鳴〔催馬樂律〕

(古代) 一六

○泥藏

(田舎上) 二五

○泥坊と犬と談判

(黄表紙) 一六〇

ナ

○名

名は實か假か

(心學) 五二

名詮自稱

(燕石) 三七

唐人の命名

(閑田) 八二

彦丸の名

(年々) 二〇八

居所に名づくる事(年々) 二四三

實名を字音によぶ

(年々) 三三〇

事

○地震なると

(宇津下) 六五

○内宴

(宇津上) 一八〇

○内觀

(禪林) 三五

○内觀の潜修

(禪林) 二六

○内觀の眞修

(禪林) 三七〇

○内記上人〔寂心〕

法師陰陽師の紙冠

(宇治) 三三四

を破る事

内記慶滋保胤の出

家

○内教坊

(宇治) 三三

○内侍のかみ

(宇津上) 六八五

○内侍のすけ

(宇津上) 六八三

○内侍所

(宇津下) 七〇

神鏡奉安の事

(古今著) 四

内侍所の御神樂

(閑田) 一五四

○内膳

(宇津上) 六八四

○豐受宮の九月神嘗祭(祝詞) 三六二

○豐前王(刑部卿)

大和守 (宇治) 二八九

○豐崎文庫 (遊京) 四七

○豐崎文庫の尙書 (遊京) 四三

○豐徽の前 (田舎上) 二三

○豐玉毘賣命

御婚儀 (古事記) 九四

御産 (古事記) 九

○豐臣秀吉(秀吉を見よ)

○豐就

・老儒の諫 (窓の) 一七三

娘を道祖神に奉る(雅文) 四七

○とよのあかり (宇津上) 二六

○豐原兼秋琴聲を聴き

分く (雅文) 三

○豐日別 (古事記) 二

○豐布都神 (古事記) 一七

○豐御毛沼命(神武) (古事記) 二〇二

○豐浦里 (日記) 四〇

○豐浦の宮 (日記) 一五

○虎 鰐をとりたる事 (宇治) 九三

宗行の郎等 (宇治) 三〇

遣唐使に殺さる (宇治) 三〇

清正に打殺さる (太閤下) 二四一

熊斐の虎の畫法 (畸人傳) 六二〇

○とらが石(平太夫ぶし)

○とらが石(平太夫ぶし)

○虎柏神社 (近代) 六七

○虎御前山の合戦 (江戸二) 三〇〇

○寅童子 (太閤上) 四二

○寅童子 (女太平) 一

○虎の皮 (宇津上) 四

○虎の皮の胴著 (田舎上) 二八

○虎の子 (淨上) 三

○寅藥師如來 (江戸二) 一九

○とられん坊 (用捨箱) 七七

○鳥 籠の鳥 (田舎上) 一五

百鳥譜 (風俗) 六〇

鳥づくし (七偏人) 五九

○鶏合(闘鶏) (淨中) 四三

同 (古今著) 六〇六

○華表 (平賀) 五九

○鳥居清信 (平賀) 一六

○鳥居忠恒 (大久保) 一三

○鳥井孫右衛門の子 (窓の) 一九〇

○鳥追 (淨中) 三

同 (平賀) 二九七

○とりかへばや物語の

新舊二本 (閑田) 一八六

富田屋〔猿曳門出風〕〔脚上〕六八

○頓智

宿直の士 (窓の) 一七

わたり小姓 (窓の) 二六

農家の少女 (窓の) 三八

伊豆守信綱 (大久保) 一六

彦左衛門 (大久保) 三二

○とんとこの九助〔乞

食〕 (淨上) 三九

○高〔初聲で酒を飲む〕〔黄表紙〕一五

○傾兵衛〔姉妹達大礎〕〔脚上〕五三

同〔神靈矢口渡〕 (平賀) 五三

○食慾

食慾の過 (石川) 三一

食慾なる家司 (石川) 三一

人我的隔 (心學) 五九

奢と食は酷の兩般〔禪林〕六五

○留奇南^{とめき}

○知家〔朝臣〕

○兎毛〔早川〕

○巴御前

○友七〔暫間〕

○巴正^{ともしやう}

○伴助

○友三〔九條のけいせ

い屋文字屋の〕

○友高〔神祇官〕

○友千代〔由良兵庫助

信忠の一子〕

○友に交る道

○友平〔一味齋の家來〕

○友正〔下太〕

○朝光〔閑院大將〕

○ともよ〔力婦〕

(田舎上) 一〇三

(古今著) 一八九

(淨上) 四七

(淨下) 二〇

(脚上) 六八

(和合人) 三三

(脚下) 三八

(淨上) 一九

(淨中) 二四

(平賀) 四七

(花月) 五七

(淨上) 四三

(古今著) 四九

(宇治) 五八

(平賀) 六七

○どもり

○外山成山^{とやまつのかみ}

○戸山津見神^{とやまつのかみ}

○豐葦原水穗國^{とよいしほのかみ}

○豐石窓神^{とようけのかみ}

○登由宇氣神^{とようけのかみ}

○豐宇氣毘賣神^{とようけのかみ}

同

○豐岡大膳亮

○豐蔭〔大藏の丞〕

○豐川〔三河〕

同

同

○豐國神^{とよくにのかみ}

○豐斟淳神^{とよくみのかみ}

○豐雲野神^{とよくみのかみ}

○豐受宮

(狂言下) 七一

(琦行傳) 六七

(古事記) 一八

(古事記) 六

(古事記) 八三

(古事記) 八三

(古事記) 一五

(靈能) 三六

(脚上) 三八

(宇治) 二九

(日記) 一四

(日記) 六三

(遊京) 三〇

(取戎) 一七

(靈能) 三三

(古事記) 六

(祝詞) 三六

白く描く

(古今著) 三三

○鳥羽殿行幸

(古今著) 二三

○騰波江

(風土記) 元一

○鳥羽屋三左衛門

(武野) 三三

○戸張

(田舎上) 二四

○薦(飛驒匠の作の薦)

(石川) 一九

○飛梅

(百人) 二七

同

(浄上) 八八

同

(曾呂利) 五二

○飛越新發意

(狂言上) 二五

○飛前(素戔嗚尊の舊跡)

(閑田) 三三

○飛道具

(浄上) 六五

○薦の子

(花月) 五六

○都鄙問答

(心學) 四九

○どぶかつちり

(狂言上) 二二

○とぶ車

(宇津上) 五三

○戸平(横口)

(浄上) 一四

○月平次

(浄下) 四七

○土方堅

謝初茄子

(和漢) 六一

俳諧求韻ノ序説

(和漢) 三三

琵琶庵ノ記

(和漢) 四五

○富(くも助)

(脚下) 一六

○富吉

(脚下) 三五

○富澤町

(石川) 五九

○跡見茂樹

(萬葉上) 三八

○富々岡八幡宮

(江戸四) 七

○富永伴意

豫言

(窓の) 二三

某藩醫を戒む

(窓の) 二四

町奴を苦む

(窓の) 二四

○富永仲基

(出家) 六一

○登望驛

(風土記) 五三

○富小路大臣(顯忠)

(宇治) 二五

○富の札

(浄中) 四九五

○登美毘古の征伐

(古事記) 二三

○富世の前

(田舎下) 五九四

○頼阿の内裏見物

(醒睡) 三三

○頼海日蓮宗を罵る

(武野) 三一

○泥龜

(浄上) 三六

○頼宮神の由來

(江戸四) 四三一

○吞空法師

(一休) 四七四

○トンクルケリキヤ

〔天眼鏡〕

(浄中) 四六

○頼五郎

(田舎上) 三四

○頼齋先生の狂詩

(川柳) 五五

○鈍才坊

(浄中) 五九

○食臍痴

(禪林) 五三

○食臍痴の三惡道

(心學) 三九

○富田屋〔五大力戀絨〕

(脚下) 八二

十握の劔

(淨中) 二二

○獨鉗かまくび

(百人) 五〇

同

○咄々房挽歌

(百人) 六三〇

○鳥取城

(鶴衣) 七三

○捕鳥部萬の頓智

(太閤上) 六五二

○土手助〔俠詞花川月〕

(出定) 六六三

同〔傾城阿波の鳴門〕

(脚下) 六六

○土手藏

(淨中) 四六六

○渡天の僧

(脚上) 四六五

○土手節

(字治) 三六五

○渡唐天神の像

(用捨箱) 七三三

○留餘波〔宴曲〕

(閑田) 六九

○ととや煎餅

(閑田) 六九

○鳥取造

(古代) 四三〇

○蟲御坊

(日記) 六九

○蟲の橋

(年々) 三七五

○月無駕籠

(淨下) 四七三

○戸無瀬の瀧

(田舎上) 三五五

○菟名手白鳥と化す

(田舎下) 二六

○舍人親王

(風土記) 五七三

神道の意を没して

異國の道に泥む〔直毘羅〕 一七

日本記を撰定す

(古道) 四四

天地開闢の説

(心學) 五五六

佛鼻負

(出定) 六四四

○舍人相撲

(字津上) 六八

○舍人廻

(風土記) 四四

○殿様の様と殿

(黃表紙) 二〇〇

○殿といふ詞

(年々) 三二〇

○主殿司

(字津下) 二六

○主殿頭〔石川〕

(日記) 二九七

○殿守〔あて宮に仕ふ

る老人〕

(字津上) 一五〇

○鳥羽〔戀塚〕

(日記) 二五三

同

(會呂利) 六九

○鳥羽院

千僧供養に御幸

(字治) 三三

御座の覆をかくる

竿

(字治) 五〇九

勝光門院御幸

(古今著) 一三四

○鳥羽繪・贊

(鶉衣) 五七

○贊鳥羽繪之蒲藷吸

〔渡白狂〕

(和漢) 二八三

○渡白狂

大和聯句・序

(和漢) 三六

聯句歌仙行

(和漢) 三五

○鳥羽僧正〔法輪院覺猷〕

國俊と戯る

(字治) 八九

米の俵辻風に吹き

あげらるゝを面

宇治殿(頼通)の子(宇治) 一〇三

宇治關白と讃岐守

橋俊遠が子 (宇治) 吾九

水上月 (古今著) 一六二

同(眞子新左衛門尉)(淨中) 二四二

○俊成(としなり)〔しゅんぜいを見よ〕

○利延迷神にあふ (宇治) 三六七

○利仁(將軍)の薯蕷粥(宇治) 三三

○俊平(丹後前司高階)(宇治) 四二七

○利昌(前田)織田秀親

を切害す (窓の) 八

○豊島(としまのうさぎ) 聯 (江戸三) 三六七

○としま八景(あづま淨)

留利 (近代) 三二

○豊島正就井上主計頭

を切害す (窓の) 九

○俊盛(讃岐三位) (宇治) 四七五

○利休(としやす)〔千利休〕

○俊康〔小松〕

○敏行〔朝臣〕

其略傳、逸話

經をかく

○俊頼

其略傳、逸話

經信の歌と躬恒の

歌

法師子の稻

○年寄役

同

○年の市

○鳥樺郷(とす)

○都卒天

同

○都卒の内院

(淨中) 一六

(宇津上) 二四二

(百人) 一五三

(宇治) 三九

(百人) 四三

(宇治) 五〇

(古今著) 五二

(八文字) 三九

(心學) 一六

(花月) 五二

(風土記) 五四

(宇津上) 一六

(宇治) 四八

(宇治) 四八

○戸田旭山

○倭鉛鍍金(とたんめつき)

○戸田茂睡

其逸話、歌論

待乳山の歌

○析の實の團子

○とち目

○とちめん坊

○どちばぐれ

○どちやう〔豆藏〕

○月塚

同

同

同〔高田在〕

○十握の劔

同

同

(畸人傳) 三七三

(平賀) 三五

(畸人傳) 三七五

(江戸四) 四九〇

(心學) 九

(醒睡) 二

(用捨箱) 七五

(狂言上) 四三

(淨中) 四九

(日記) 二七

(日記) 三〇

(平賀) 五〇

(江戸二) 五四

(古事記) 一七

(靈能) 二四

(淨上) 一八

○德兵衛〔四谷怪談〕（脚 下）三〇

同〔一寸〕（淨 中）六八

○徳町〔富める市女〕（宇 津 上）二六

○徳松君〔將軍家御令

嗣〕の逝去（女 太 平）四

○毒藥〔藥參照〕一國殺

し（淨 中）五七

○名徳利説（鶉 衣）五九

○徳利論〔張昇角〕（和 漢）四〇

○毒龍の戯（宇 治）四

○徳若屋萬左衛門（女 房）三九

○土圭（淨 上）一七

○戸越八幡（江 戸）一六

○常夏（宇 津 上）元九

○常夏の巻（田 舎）五七

○鈍根草（狂 言 上）二三

○常世の國（古 事 記）六四

同（宇 津 上）三三

○野老（宇 津 上）三

同（曾 呂 利）六二

○ところ澤（日 記）一八

同（江 戸 三）三八

○ところてん（淨 上）二五

同（淨 中）五九

○土佐（日 記）四三

○土佐繪と唐繪（年 々）二四

○土作（脚 上）五三

○土佐七首〔國風〕（近 代）一三

○土佐日記（百 人）二六

○土佐國幡多郡（宇 治）二七

○土佐の芝居（平 賀）一四

○土佐坊昌俊〔源家の

忠臣〕（淨 上）二五

同〔御所櫻堀河夜討〕（淨 下）二四

○土佐坊正尊〔堀川の

そら起請〕（曾 呂 利）六三

○俊明卿白河院を諫む（宇 治）五九

○利氏〔浦邊山三郎〕（淨 中）六九

○俊蔭〔清原の〕（宇 津 上）二

○俊蔭女〔後内侍の督〕（宇 津 上）二六

同〔内侍のかみ〕（宇 津 下）六〇

○利勝朝臣

老臣の心得を教ふ（窓 の）四

寛仁（窓 の）四

○屯食（宇 津 下）二五

○祈年祭（祝 詞）二九

○俊遠〔橘〕（宇 治）一三

俊綱の養父（宇 治）一三

伏見修理大夫の養

父（宇 治）一四

○俊綱〔伏見修理大夫〕

○時頼〔北條〕

松下禪尼より佛法

信仰について (書翰) 一二

過不及の振舞 (平賀) 四三

同〔瀧口〕横笛と契り

後出家す (御伽) 六五

○常盤 (狭衣) 二六

○常磐井御前〔信玄の妻〕

(淨上) 三八

○常磐木 (宇津下) 七

同〔傾城〕 (脚上) 三

○常磐の塚 (日記) 三二

○常磐橋 (江戸一) 三

同 (江戸二) 一六

○徳

明徳 (心學) 五

中の徳、和の徳 (心學) 三六

眞の學問

讀書家と道義 (心學) 五三

徳を惜むべし (禪林) 一〇三

○徳庵鼓の狂歌 (禪林) 二五

○徳安堤 (窓の) 三五

○徳右衛門〔伊達競阿國戲場〕 (淨上) 三五

同〔生寫朝顔話〕 (脚上) 六三

○徳願寺〔海巖山〕 (淨上) 六三

○徳川家康〔家康を見よ〕 (江戸四) 二九

○徳川家存立の議 (書翰) 四一

○徳川四天王 (大久保) 四九

○徳川の三傑 (大久保) 四九

○徳馨命 (太閤上) 一八〇

○徳次 (脚上) 六五

○徳島岩次 (脚上) 五五

○木賊にて木竹を磨く

事 (禪林) 二〇七

○徳壽丸〔新田義興の息〕

(平賀) 四七

○讀書

讀書家と道義 (禪林) 一〇三

古人の糟粕 (禪林) 二〇九

○得錢子〔神樂歌、明星〕 (古代) 二三

○徳善院幸藏主 (太閤下) 二六

○徳大寺右大臣の茶碗

の枕 (古今著) 一六

○徳大寺左大臣〔入道〕

右大將になる事 (古今著) 六

中院右大臣との間〔古今著〕 四六

○徳太郎君〔後吉宗公〕

の不行跡 (大岡) 六

○得巴兮〔晝寢、解〕 (和漢) 四七

○遠狩 (宇津上) 四三

○遠き慮 (花月) 五三

○遠江三首〔國風〕 (近代) 六三

○遠江國歌 (萬葉下) 二九

同 (萬葉下) 三三

○遠忠〔兵衛目〕 (宇津上) 二五

○遠正〔右衛門輔藤原〕 (宇津上) 二四

○融大臣 (淨中) 五七

○融の左大臣 (宇治) 五七

○とかげ (宇津上) 二九

○とがし城〔當流所作〕 (近代) 四二

○梅尾の明惠上人 (心學) 三六

○梅平 (淨下) 九

○砥上原 (日記) 三九

○時秋〔豐原〕 (古今著) 二〇九

○時を失ふ (花月) 五二

○時置師神 (古事記) 四

○時蔭〔左兵衛尉〕 (宇津上) 四二

○辰方〔松岡〕 (書翰) 三七

弘賢よりの來書 (書翰) 三八

弘賢への手紙 (書翰) 三八

○時重〔上總守〕千部の

法華經讀誦 (古今著) 九

○時澄〔北面の守護武

者所〕 (淨上) 八

○時綱〔高坂彈正〕 (淨上) 三四

○齊名とさなの東北院の念佛 (古今著) 三二

○時の鐘 (燕石) 二六

同 (燕石) 六三

同 (江戸一) 六

○ときとさの鳥 (黄表紙) 三

○時、非時 (宇治) 一三

○時姫〔時政の娘〕 (淨中) 一四

同〔實は造酒正の娘、

住の江〕 (淨中) 一八

○時弘みづから利牛を

引く (古今著) 三四

○時平〔藤原〕の濫行 (百人) 一八

○時政〔北條相摸守〕

近江源氏先陣館 (淨中) 一四

もる山のいちご (古今著) 一八

大惡十四條 (平賀) 四三

茶人の失策の物語 (八文字) 五七

○時宗〔よしむれの〕 (宇津下) 七四

○時持〔近江掾よしむ

れの〕 (宇津下) 七四

○時元 五常樂 (古今著) 二六

蘇合序 (古今著) 三三

○ときやう (日記) 六四

○吐玉泉 (江戸二) 四七

○東福寺の紅葉 (田舎上) 三三

○豆腐屋三郎 (脚下) 六一

○東平府誤て九紋龍を

陥る (水滸三) 三四

○藤兵衛〔三宅〕光秀の生

害を止む (太閤中) 三五

○藤兵衛〔具足師〕 (淨中) 五二

○當辨〔延年唱歌〕 (古代) 五四

○東方朔の滑稽 (平賀) 五二

○東北院 (字治) 一三

○唐本の讀み方 (八文字) 四三

○藤馬〔落合〕 (淨上) 三四

○道摩法師〔蘆屋道滿〕 (字治) 四六

○唐饅頭 (七偏人) 五九

○道滿法師〔蘆屋道滿〕 (字治) 五二

○道命阿闍梨

和泉式部と同車 (古今著) 二六五

そまむぎ (古今著) 五五

和泉式部が密夫 (平賀) 五七

和泉式部の許にて

讀經 (字治) 一

和泉式部の許にて

老翁を見る (字治) 五九

むかし捨てられし

その母と契る (御伽) 二五

○道明寺 (田舎上) 四三

同 (曾呂利) 六七

○胴脈 (脚上) 二六

○胴脈金兵衛 (脚上) 五〇

○銅脈先生の狂詩 (川柳) 五七

○遠目鏡 (淨中) 二三

○東野先生の墓 (江戸三) 五三

○藤彌太〔靜の兄〕 (淨下) 三四

○道融〔釋〕の詩 (詩集) 五五

○東陽〔綿貫〕 (書翰) 五〇

○銅陽 (琦行傳) 七四

○登萊城 (太閤下) 二三

○とうらく踊 (近代) 四四

○とうりう寺 (宇津上) 二三

○洞理軒〔普傳の前名〕 (淨中) 四三

○通町 (江戸一) 六八

○切利天 (宇津上) 二〇

○湯隆〔金錢豹子〕 (水滸三) 五三

○燈籠 (宇津上) 一六四

同 (日記) 五八

○螳螂 (淨中) 一五

同 (平賀) 五三

○燈籠踊 (骨董集) 四七

○燈籠の大臣 (平賀) 三九

○藤六〔藤原輔相〕 (字治) 九

同〔與話情浮名横櫛〕 (脚下) 三六

○藤堂和泉守

(大久保) 一五

○唐土を尊ぶ事

(年々) 二四三

○贈所訪不遇人文

(鶉衣) 六九

○堂童子

(宇津上) 二五

○東桐舎、辨蓮二房

(和漢) 四六

○藤堂高虎加藤と戦功

を論ず

(太閤下) 一八

○藤堂樂庵

(崎人傳) 五二

○道徳(徳及び道を見よ)

○道頓堀の芝居

(日記) 六六

○洞取

(淨上) 五〇六

○藤内だんじり出端

(近代) 三三

○藤内太郎冠者踊

(近代) 四八

○童男卯女

(宇津上) 五二

○道兒の疝氣

(曾呂利) 六四

○道念(坊主)

(平賀) 三六

○塔の會

(宇津上) 二三

○塔の澤(箱根)

(黄表紙) 三

同

(遊京) 四〇

○頭の少將(夏則)

(宇津上) 二二

○頭中將(仲忠)

(宇津上) 四六

○藤中將(仲忠)

(宇津上) 四六

○湯の盤の銘

(心學) 二五

○多武峯

(宇治) 三六

○塔婆

(宇治) 五五

○東坡居士(徑山寺の

詩)

(一休) 四二

○藤巴雀

大小、聊

(和漢) 五〇

四季扇賛

(和漢) 四七

○藤八

(脚下) 四三

○銅八

(淨上) 五五

○堂鳩

(醒睡) 三六

○豆腐

田樂と祖師の名

(醒睡) 三六

京都の豆腐

(日記) 五七

豆腐づくし

(淨下) 三三

豆腐田樂

(骨董集) 三三

豆腐上物

(骨董集) 三三

豆腐、賦(北七里)

(和漢) 三六

豆腐、辯(許六)

(風俗) 一八

豆腐の紅葉

(骨董集) 三

○道風(朝臣小野)

弘法大師の書を離

ず

(古今著) 二四〇

眞草の額

(古今著) 二四二

直幹が申文を清書

す

(宇治) 五八

○豆風曲(松讃)

(和漢) 三九

○唐夫人姑に孝行

(御伽) 三〇〇

○動物器物に丸の名

(年々) 二〇九

盗を誠しむ (崎人傳) 四七一
 小萬の主を奪はん
 とす (崎人傳) 五七七
 盗人になる経路の
 一例 (心學) 四一
 盗人の心理 (心學) 四九
 盗人女の行義に感
 じたる話 (心學) 二〇三
 盗人のばじまり (心學) 二九〇
 盗人清九郎の正直
 に呆る (心學) 三三三
 盗人の根源 (心學) 三三五
 盗みと乞食 (心學) 四四四
 盗人と佛心 (禪林) 二五八
 盗人孫右衛門 (禪林) 三三八
 朱雀門に住む女賊 (古今著) 三八
 檢非違使別當の上

萬女房 (古今著) 三九
 盗人の歌 (古今著) 三九五
 同 (古今著) 三九六
 盗人灰を食ふ (古今著) 三九七
 強盜淨藏が八坂の
 坊を襲ふ (宇治) 二七九
 巻物と挾箱 (醒睡) 三三三
 鈍な男と取られ損 (醒睡) 三三四
 鈴鹿の山賊 (日記) 三〇二
 ○道祖神祠(小石川) (江戸二) 五八六
 ○藤太(片山) (淨中) 七
 ○東大寺
 總追捕使の菩提を
 弔ふ (淨中) 一四
 田舎法師の受戒 (宇治) 三三三
 華嚴會 (宇治) 三三七
 大佛殿の再興 (淨下) 四七

○唐太宗
 日本へ使者を遣す(取戎) 三
 善政 (禪林) 五七七
 ○十圓子 (日記) 二八〇
 同 (日記) 二七
 ○遠津待根神 (古事記) 三
 とはつまつちねのかみ
 とはつやまさきだちのかみ
 ○遠津山岬多良斯神(生
 成) (古事記) 三
 ○道中師 (和合人) 四四
 ○道中雙六 (平賀) 二九八
 ○どうでのかばり(端
 歌) (近代) 六六
 ○東堂
 寒夜に焼き燭す一
 束の柴 (醒睡) 三三〇
 左近の太郎 (醒睡) 三三三
 ○桃洞(小池)の手紙 (書翰) 一八三

○刀刃斷々環 (心學) 一七

○唐人笛 (和合人) 四三

○道者〔實は久吉〕 (淨上) 四一

○藤樹〔中江〕

大洲侯に奉る書置(書翰) 夫

佃氏へ治心の要(書翰) 七

○道十郎〔浪人藤崎〕の牢

死 (大岡) 三六

○東順ノ傳〔芭蕉〕 (風俗) 一七

○道昭火葬を始む (出定) 六三

○闘爭 (古今著) 四六

○道成寺 (淨上) 二三

同 (淨中) 三三

同 (心學) 六二

同〔吾妻淨瑠璃〕 (近代) 三七

○道成寺現在蛇鱗なうじやうじんさいうろこ (淨中) 三九

○東照大權現宮 (江戸二) 三三

○道慈律師 (宇治) 五五

○藤四郎〔富士行者〕 (崎行傳) 七四

○桃水 (崎人傳) 一七

○道誓〔島山入道〕 (平賀) 四四

○當世かゝぶし (近代) 一七

○當世小歌揃 (近代) 一五

○當世といふ事 (禪林) 九七

○動靜の二境 (禪林) 三三

○唐制模倣の弊 (直毘靈) 八

○盜跖孔子と問答 (宇治) 四六

○稻川〔山梨〕の詩 (詩集) 二九

○東禪寺〔佛日山〕 (江戸一) 三〇

○禱善寺〔普命山〕 (江戸二) 三一

○東漸寺〔正保山〕 (江戸三) 四四

○東山道 (淨上) 三五

○藤藏〔春風〕 (淨上) 四〇

○盜賊

日本左衛門 (窓の) 二九

指扇源次郎 (窓の) 三三

武田無二右衛門 (窓の) 三三

老人の早業 (窓の) 二九

士の詞に感じて士

を見送る (窓の) 二九

袴垂 (石川) 一四

兵を富ます良策 (石川) 一四

盜人と鼠 (石川) 四四

新參の追剥 (石川) 五五

女を賣る (石川) 八四

袴垂 (石川) 二九

弟子への教訓 (石川) 三三

盜人の警戒 (石川) 三五

盜賊の捕手 (大久保) 二七

念佛の美人 (大久保) 二九

龍造寺兵馬舊僕の

○春宮大夫〔賴宗〕 (宇治) 四六六

○春宮の御女〔十市皇女〕

(宇治) 四三三

○東宮の學士 (宇津上) 二〇

○道具屋の語 (心學) 二二〇

○道見〔禪門〕 (醒睡) 五九

○道源によしの傳 (武野) 四〇〇

○鄧元覺陸州城に射ら

る (水滸四) 五五

○道玄坂 (江戸二) 一七九

○道玄物見松^{ものみ} (江戸二) 一八三

○投壺 (平賀) 二六

○東湖〔藤田〕

晶山よりの狀 (書翰) 四三三

某へ養氣の法 (書翰) 四七三

永井某へ大鹽平八

郎一件 (書翰) 四七四

關藤藤蔭へ講武所

設置 (書翰) 四八八

象山より下田開港〔書翰〕 四八八

○東國屋伊兵衛の器量

自慢 (武野) 三六九

○藤五郎〔鶴見〕京中を亂

暴す (太閤上) 三六

○唐齋の奇行 (琦行傳) 六三三

○東齋隨筆 (宇治) 四二

○頭宰相の北の方 (宇津上) 二〇〇

○藤左衛門〔庄屋〕

娘に早與五郎を戀

慕す (大久保) 九七

娘に早の自害 (大久保) 二〇四

訴人 (大久保) 二〇五

○藤左衛門〔谷江〕の横

死 (金澤) 二〇八

○たうさかのさ〔齋の

神〕 (宇治) 三六

○道三〔齋藤入道〕 (淨上) 三七三

○藤三徑〔木履〕説 (和漢) 四〇〇

○東三條院の撫子合 (古今著) 二六

○道三橋 (江戸一) 五三

○東寺〔京〕 (日記) 三三三

○導師 (宇津上) 三三七

○童子格子 (平賀) 四

○島子考或問 (燕石) 六三二

○たうしせうず〔人名〕 (宇治) 四〇七

○藤侍從 (宇津上) 三六

○唐詩選の解 (年々) 二六五

○道慈〔釋〕の詩 (詩集) 四三三

○唐人相撲 (狂言下) 六九

○唐人歌〔さわぎ〕 (近代) 二九〇

○唐人踊 (近代) 四四

○東海紀行〔井上通女〕（日記）二五五
○東海寺〔萬松山〕の紅

葉

○東海禪寺〔萬松山〕（江戸一）三三

○東海道（日記）六五

○東郭急先鋒功を争ふ〔水滸一〕三四〇

○東覺寺〔明王山〕（江戸四）二五

○堂々島〔箱根〕（黄表紙）九四

○登華殿〔式部卿の宮の

女〕

○踏歌後宴（字津下）四七

○踏歌の節會（古今著）一九七

○桃花石の記（淨上）一

○東花坊（鶉衣）八三

文、賦

大和眞名詩、序（和漢）二六

大和眞名詩、贊（和漢）二五

詠懸松葬（和漢）二六

賀雪中、柳（和漢）二六

戲俄道心（和漢）二七

謝贈菊紙、入（和漢）二六

扇、歌（和漢）二七

感齒落辭（和漢）三一

鑑亭、聯（和漢）三三

逍遙遊、序（和漢）三七

剃髮、文（和漢）三七

招隱、文（和漢）四八

三類贊（和漢）四七

眠五、説（和漢）四五

不掃地、論（和漢）四五

壺中園、記（和漢）四三

築然、傳（和漢）五八

浪化公終焉、記（和漢）五八

○陶侃（窓の）七

○道灌〔太田〕（淨上）三七

○童貫〔樞密院使〕（水滸三）五〇

○洞殿〔佐久間〕（書翰）一四六

○東關紀行〔源親行〕（日記）五

○道灌山（江戸一）五五

同（江戸三）二八〇

○道灌山の蟲（江戸四）四四

○蕃椒〔たうげら〕（淨上）一九

○番椒序〔野坡〕（風俗）二七

○同氣相求む（心學）三八

○東光院樂王山（江戸三）四三

○東光禪寺〔大宮山〕（江戸三）一七

○東吉耶〔松田〕（書翰）五八

○東京〔とうきん〕（字治）三九

○唐牛兒處婆に打たる〔水滸一〕五〇

○春宮〔とうぐう〕（狹衣）四

同（字治）四三

寺の月次の修行 (年々) 三九

○寺井玄溪 (崎人傳) 二三

○寺小屋 (心學) 四九

○寺島(怪談藝の梅幸)(和合人) 三六

○寺戸 (宇治) 三七

○寺西閑心 (脚下) 二五

○てる月(二上り)
てるてのひめのまつ (近代) 三七

○照天姫松 (江戸一) 六二

○照日塚 (江戸三) 六三

ト

○土井大炊頭

智を以て姫君に謁

す (大久保) 四二

秀忠へ諫言 (大久保) 四四

家光を諷諫す (大久保) 四九

○土肥二三 (崎人傳) 三四

○土肥次郎

香久山勾當の物語(八文字) 四八五

藪醫者の物語 (八文字) 五六

平家と大手の木戸

口 (醒睡) 四四

○土肥の千次郎 (黄表紙) 四四

○土肥の彌太郎 (黄表紙) 四三

○といわら壺 (醒睡) 三三

○東夷 (平賀) 三六

○擣衣(和漢朗詠集、秋)(古代) 三三

○當位即妙 (禪林) 一五七

○董一元 (太閤下) 四九三

○東乙文(愛百合序)(和漢) 三七三

○藤蔭(關藤) (書翰) 四八八

○探韻 (宇津上) 四六

○洞院上 (袂衣) 三三

○道因法師

其略傳、逸話 (百人) 五七

俊惠法師と歌合せ(曾呂利) 六四

○桃雲寺(醫福山) (江戸一) 三八

○董永 (御伽) 三三

○藤英(藤原季英) (宇津上) 四〇

○東叡山の櫻 (江戸四) 三九

○道益(大場) (伊達) 四七

○道悦(田中) (大久保) 四七

○東圓(軍書讀) (田舎下) 四一

○道圓道春との參會を

辭す (窓の) 三〇

○藤右衛門(内藤)

試合 (大久保) 三二

妻お里の自害 (大久保) 二四

○踏歌 (宇津下) 三七

○東涯(伊藤)の詩 (詩集) 五七

○燈盞 (宇津上) 四九

の段

- 天人 (脚上) 二九〇
 (浄上) 二九〇
 同 (狭衣) 三
 ○天人の五衰 (平賀) 二七一
 (宇津上) 二〇
 ○天女 (田舎上) 四四〇
 (江戸一) 六三〇
 ○天然寺 (石川) 四四〇
 (宇津下) 六三
 ○天の樂 (太閤中) 二九〇
 (醒睡) 二六六
 ○天王山 (宇治) 四四九
 同 (日記) 六三三
 (年々) 二五一
 ○點の圖 (浄中) 六三三
 (浄下) 六三
 ○傳兵衛〔井筒屋〕
 ○傳兵衛〔近頃河原達〕

引

- (浄下) 二九七
 ○傳兵衛〔猿曳門出調〕(脚上) 六八
 ○傳法屋妙眞 (脚上) 二八
 ○てんばの皮 (浄上) 二
 ○天覺 (浄上) 五三
 同 (宇治) 四七
 ○天満説教を唄ひ始む(窓の) 二〇
 ○天満宮 (江戸二) 一八七
 ○天満天神の祭禮 (日記) 二九
 ○天命
 一盞の燈油の如し(禪林) 一五三
 天命論 (石川) 四三三
 貧富壽夭 (八文字) 四三九
 ○天明時代の川柳 (川柳) 九〇
 ○天目〔茶碗〕 (一休) 四七三
 ○天目山〔甲斐〕 (浄上) 四三
 同 (太閤上) 六〇

○典藥頭

- (宇津下) 四三〇
 ○展翼峯 (江戸二) 四四七
 ○轉輪王〔地獄の役人〕(平賀) 一六三
 ○天曆の御宇 (宇治) 四九
 同 (宇治) 五八
 ○天龍川 (日記) 六四
 同 (日記) 六六
 同 (日記) 三三
 同 (日記) 三三
 ○天龍寺〔護本山〕 (江戸二) 二七五
 ○天祿獸 (燕石) 五二
 ○寺
 山寺〔和漢期詠集〕(古代) 二五
 同〔新撰期詠集〕(古代) 三七
 同〔宴曲〕(古代) 四二
 廢れたる寺 (田舎上) 一三〇
 慈心寺の深秋 (狭衣) 四七

○天照皇太神宮〔伊勢及

びアマテラス參照〕〔淨上〕 三

○殿上逍遙 〔古今著〕 四二

○殿上人 〔宇治〕 四三

同 〔宇津上〕 六五

○殿上童 〔宇津下〕 七〇

○傳介〔脇屋〕靈興上人に

法問す 〔太閤中〕 二六

○傳藏〔大槻、長玄改〕

昇進の事 〔金澤〕 一九五

刺客の謀計 〔金澤〕 一九九

廣島へ急書を送る〔金澤〕 二四

同〔蘆柄〕 〔淨上〕 五七

○天孫降臨 〔古事記〕 八〇

○天帝釋〔帝釋天〕 〔宇治〕 一四

○天台宗の起源 〔出定〕 六二

○天地

天地開闢 〔古事記〕 六〇

天地の御商賣 〔心學〕 二九

天地開闢の説 〔心學〕 五五

天地の化育 〔禪林〕 八三

天道 〔禪林〕 八六

天地と人の性 〔禪林〕 一〇五

氣質の分 〔禪林〕 一六九

天地泉の解 〔靈能〕 二〇九

○田地〔上田下田〕 〔心學〕 四四

○天竺

國名及び地形 〔出定〕 五〇〇

風俗、氣候 〔出定〕 五〇三

諸禮儀 〔出定〕 五七五

留志長者の話 〔宇治〕 一七五

天竺の冠者 〔古今著〕 三九

天竺の人 〔宇治〕 三八

天竺の四日市 〔淨上〕 六六

○天智天皇

御略傳、逸話 〔百人〕 一五

御陵 〔日記〕 三六

上天の説 〔閑田〕 六

○田中山西應寺 〔江戸一〕 二六

○傳通院〔無量山〕 〔江戸三〕 六

○天帝

京傳が草の戸を叩く

〔黃表紙〕 一六三

高皇產靈神の支那の稱呼

〔古道〕 四二

○天道 〔雅文〕 八四

同 〔宇津上〕 五九

○天堂 〔淨中〕 四八

○天堂と地獄 〔禪林〕 五二

○天道念佛 〔江戸四〕 三三

○傳内〔やつい〕櫻田旅宿

賊難を遁れ故郷へ

歸る (大岡) 三三

證據の品を失ひ金

子を騙取らる (大岡) 三八

に専と夫婦になる (大岡) 四〇

無實の罪を請く (大岡) 四九

一家繁榮 (大岡) 三三

○傳教大師宇佐宮に法

華經を講ず (古今著) 四〇

○天狗

法勝寺の塔の上 (古今著) 三四

東大寺の聖人青舜

坊 (古今著) 三五

唯蓮坊の信力 (古今著) 四一

もみの木の上に法

師一人 (古今著) 五一

百姓法師清水の鐘

樓に搦めらる (古今著) 五二

天狗の髑髏 (平賀) 二〇

溝飛天狗 (平賀) 二〇

木の葉天狗 (平賀) 二〇

天狗の親玉太郎坊 (平賀) 二六

鬼得院の怪業 (田舎上) 五九

氏仲の夢物語 (田舎下) 六三

木の葉天狗 (近代) 六三

天狗と細工人の話 (心學) 三三

天狗の性質 (靈能) 三四

天狗辯木導 (風俗) 一七

天狗に欺かる (宇治) 三三

天狗とは何ぞ (閑田) 一四

天狗に化したる僧 (閑田) 一四

○天愚孔平 (琦行傳) 六一

○天狗頼母子 (八文字) 四六

○天狗の面 (黄表紙) 二四

○天狗俳諧 (田舎下) 五三

○田慶 (御伽) 三九

○天花寺の城址 (日記) 四九

○田廣 (御伽) 三九

○傳五右衛門(轟) (淨上) 四六

○傳五郎(藤田)の自殺 (太閤中) 三七

○天子の稱 (年々) 三七

○田眞 (御伽) 三九

○天人一理 (花月) 五七

○天神五代 (古事記) 六

○天神七代地神五代論 (古道) 四三

○天神のかしかり (日記) 六三

○天神橋上の大茶番 (七偏人) 五四

○天神森 (江戸二) 二九

○殿舎佛寺の建築 (閑田) 一六

○天守臺(關戸) (江戸二) 四六

○傳授の無意義 (心學) 五六

○手鞠歌

(平賀) 二九八

同

(田舎上) 三六

○天

天の命

(心學) 一七〇

天と人

(禪林) 三二

○天韋吹〔瓢銘並序〕

(和漢) 五〇

○天一〔常樂院天忠の

弟子〕

(大岡) 六九

○天一坊〔吉兵衛〕

將軍家の御落胤と

稱す

(大岡) 七三

大阪表へ出張

(大岡) 八九

京都諸司代に對面〔大岡〕二〇〇

八山に著す

(大岡) 二五

越前守御役宅へ來

る

(大岡) 三七

八山へ歸る

(大岡) 四八

一味の者と共に御

仕置落著

(大岡) 一八

○天一坊實記

(大岡) 一

○田家〔和漢朗詠集、雜〕〔古代〕二五

同〔新撰朗詠集、雜〕〔古代〕三七

○天海僧正

將軍の式代

(大久保) 四六

花見請待

(大久保) 四三

將軍致仕の諫言

(大久保) 四三

○田樂

同

(石川) 一七

同

(石川) 四

同

(醒睡) 二〇

○天嶽院〔光明山〕

(閑田) 一五

○てんがぢや屋〔さわ

ぎ〕

(近代) 六四

○田家、戀〔蓮二房〕

(和漢) 六五

○天冠

(田舎上) 三〇

○天眼鏡

(淨中) 四六

○天冠寺

(出定) 五〇

○田貫僧都

(田舎下) 三三

○天眼通

(一休) 四九

○天眼の鏡

(黃表紙) 一六

○傳吉〔越後〕

孝行

(大岡) 一七

江戸に奉公に出づ

る事

(大岡) 三三

柏原にて破屋に泊

り孝女に專の心

に感ず

(大岡) 三六

江戸吉原三浦屋に

奉公す

(大岡) 三三

歸國の道中惡漢に

出逢ふ

(大岡) 三九

○提賀里てがのさと

(風土記) 三六

○敵國降伏の勅額

(花月) 五七

○出來島屋

(脚下) 一六

○狄仁傑と呂尚

(花月) 五三

○手杵はやり歌

(近代) 四一

○笛浦野田の詩

(詩集) 三〇五

○手車

(狂言下) 四三

○手車賣の親仁の辭世(心學) 二五六

○手車翁

(畸人傳) 二七五

○てけの手

(字津上) 六七

○でだなの番頭太かれ

(黃表紙) 三三

○手番てっかひ

(字津上) 三三

○鐵眼てつがん

(畸人傳) 一九

○調布てつぷ

(字津上) 三八

○てつくり丸

(石川) 三二

○鐵札地獄の罪科を

記す札

(平賀) 一六三

○鐵城和尚法然をそし

る

(武野) 三三

○鐵扇

(七偏人) 五六

○手筒峰の合戦

(太閤上) 三三

○鐵兜河野の詩

(詩集) 三六

○鐵の大綱

(淨上) 二

○鐵之丞淺田の忠死(女太平) 一三〇

○鐵之助松前

忍の者を防ぎ捕ふ(伊達) 四三五

武勇の事

(伊達) 四九

白石の城へ飛脚

(伊達) 五七

○鐵平

(脚下) 五九

○鐵砲

(淨上) 二九三

○鳥銃てつぱうの傳來

(太閤下) 四三

○鐵砲鍛冶

(淨下) 三二

○鐵砲組の男作

(淨下) 二四

○鐵炮洲

(江戸一) 一七四

○鐵蔓尼

(田舎下) 三六

○鐵木耳

(馭戎) 二五

○手と足

(花月) 五九

○手取釜

(畸人傳) 五九

○手名椎

(古事記) 四一

○手習書參照

(字津上) 二七

○手習嫌ひの女童

(石川) 三〇

○手習の師に書きて與

へし聯句

(鶉衣) 八七〇

○での字義

(閑田) 一九

○出羽二首國風

(近代) 八一

○手振供人陪從

(字津上) 三七

○出方第の狂詩

(川柳) 五三〇

○手間山てまやま

(古事記) 四九

○手鞠

(骨董集) 三六

同端歌

(近代) 二六四

法師の連歌を譽む(宇治) 四三

あけばまたの歌(宇治) 四〇

小倉式紙の眞偽(古道) 四三

容貌黒し(曾呂利) 五五

略傳、逸話(百人) 七〇

哀傷の歌(古今著) 四二

櫻のつぎ木(古今著) 五八

定家の五輪の塔(日記) 四九

其家集(拾遺) 一九

○定家怨癩(所作)(近代) 五三

○程己(草字藤説)(風俗) 九三

○泥牛庵(江戸一) 六五七

○ていこや踊(近代) 四七一

○貞佐船辨慶を誦ふ(閑田) 九

○貞信公(藤原實賴)(宇津下) 一四六

○貞信公(忠平)

宗像明神(宇治) 五四

略傳、逸話(百人) 三五

○貞崇法師

稻荷の言葉聞く(古今著) 六

火雷天神を見る(古今著) 四

○貞節、貞操

貞女の話(八文字) 三七

に石(心學) 三三〇

中倉忠宣の妻(畸人傳) 三二

浪花鶴女(畸人傳) 五二

佐々木志津摩の女(畸人傳) 五九六

奥平傳八の妻(窓の) 三六七

貞女の噂(書翰) 一八九

貞婦の事蹟(書翰) 一九五

貞女のしるし(淨上) 三四

貞説(中原)(古今著) 三二

○鄭大尉の孝行(宇治) 三九

○貞徳の柿園(閑田) 六

○名亭説(鶉衣) 八三二

同(鶉衣) 八八

○名亭辭(鶉衣) 八八九

○貞晚(僧正)苛政を難

ず(窓の) 三九

○訪剃髮辭(鶉衣) 五九

○剃髮(文)(支考)(風俗) 一六〇

同(東花坊)(和漢) 三七七

○剃髮(辨)(鶉衣) 六五四

○出入(喧嘩)(平賀) 四九

○貞柳(鯛屋)(日記) 六三

○丁蘭(御伽) 一六

○手負山賊(狂言下) 五

○出女(日記) 三四

○出女説(木導)(風俗) 八

○手鑑(石川) 四七

○手形印形(淨上) 一六一

物

宰相の北の方	(大久保) 一五五
和漢朗詠集、雜	(御伽) 五九五
新撰朗詠集、雜	(古代) 三三九
御祝言御見舞	(古代) 三五六
敦賀〔越前〕	(黄表紙) 三二
鶴が岡	(宇治) 二四九
同	(淨上) 一八九
鶴岡靈威〔宴曲〕	(淨中) 二三
敦賀の女	(古代) 四九七
鶴ヶ谷	(宇治) 二四九
〇劔〔神樂歌、採物〕	(江戶二) 一六九
〇劔澤	(古・代) 四四
〇劔の池	(日記) 二二八
〇鶴喜代丸の病氣、正	(日記) 四七〇
岡の苦忠	(淨下) 五九
〇鶴の毛衣	(宇津下) 一八六

〇鶴の一聲	(淨上) 六五
〇鶴脛	(宇津上) 四四八
〇つるぶち	(宇津上) 六六一
〇釣瓶	(宇治) 四三三
〇鶴見川	(江戶一) 四九六
〇鶴峰皮申の推薦狀	(書翰) 四三三
〇弦卷川	(江戶二) 六五一
〇弦卷郷	(江戶二) 三〇八
〇弦めそ	(閑田) 一〇八
〇つれ／＼草の評	(年々) 三六
〇釣	
海の幸	(古事記) 九〇
釣道樂	(八文字) 三三
釣道樂	(心學) 一〇三
釣遊	(石川) 三〇九
〇釣女	(狂言上) 一六三
〇釣天井	(大久保) 九四

〇釣殿	(宇津上) 二七
〇釣船	(宇津上) 三三七
同	(淨上) 一九五
〇釣舟踊	(近代) 四四八
〇釣船の三ふ	(淨中) 六〇〇

テ

〇手合相撲踊	(近代) 四六八
〇手足辯〔汶村〕	(風俗) 一八九
〇出居	(宇治) 一五七
〇帝王附法皇〔新撰朗詠集、雜〕	(古代) 二九九
同附女帝法皇行幸	
〔新撰朗詠集、雜〕	(古代) 三三三
〇定家〔藤原〕	
西行より歌合の判	
につきて	(書翰) 一

○坪坂直好の蕎麥喰社

の辨

(閑田) 二四

○壺池

つばのいしよみ

(日記) 六七

○壺碑

(日記) 三七

同

(百人) 六九

同

(閑田) 五一

同〔芭蕉〕

(風俗) 一八〇

○津保宮

(江戸二) 五六

○壺焼の鮑

(宇津下) 一八四

○妻戀大明神社

(江戸三) 二〇四

○妻籠の由來

(雅文) 二二七

○都麻里

(風土記) 五四〇

○妻の稱呼

(年々) 三八〇

○罪〔天つ罪國つ罪の

被〕

(祝詞) 三三三

○積物〔芝居の〕

(平賀) 二五五

○づんがらもんがら踊〔近代〕 四三

○つんと坊〔はやり歌〕〔近代〕 四九五

○聾座頭

(狂言上) 三六二

○聾と盲と聾

(心學) 一三

○栗花落〔梅雨〕

(淨中) 六三

○露〔和漢朗詠集、秋〕

(古代) 三三

同〔新撰朗詠集、秋〕

(古代) 四一

○露草

(宇治) 三〇〇

○露時雨

(宇津上) 四三

○露の前舟路〔あづま

淨留利〕

(近代) 四三

○通夜物語、表〔渡部

狂〕

(和漢) 三六〇

○つらいく〔はやり

歌〕

(近代) 四九三

○連澄〔右衛門佐源〕

(宇津上) 九

○頼杖

(宇津下) 七七

○頼那藝神、頼那美神〔古事記〕 三

○貫之

軒端の梅

(日記) 四七

大井川行幸和歌の

序

(古今著) 四七

歌の事

(宇治) 三六

其娘の勅なればの

歌

(宇治) 五〇

蟻通の明神

(宇治) 五四

略傳、逸話

(百人) 二六三

逸話

(曾呂利) 五六八

梁簡銘

(閑田) 四三

○釣釣の爭

(古事記) 九

○鶴

十番獻上

(淨上) 一八

哀に鳴きて渡る

(宇津上) 四

飛驒匠の木鶴

(石川) 三九

彦左衛門の鶴の吸

三舟に乗る	(古今著) 一四〇
住吉の松	(古今著) 一四〇
牧馬と玄象	(古今著) 二〇六
敦末の空馳	(古今著) 四六六
ねきつ風の歌	(宇治) 五〇九
北野の社前にて下	
車せず	(宇治) 五三四
三船に乗る	(宇治) 五三三
○常則	
繪の上手	(古今著) 三四五
人丸の繪	(石川) 三三三
○恒政〔兵藤大夫〕 つねんど	(宇治) 二六三
○常人	(石川) 一六
○經盛〔修理大夫〕	
たかさこ	(古今著) 一八〇
直實より敦盛の首	
を送る	(書翰) 八

梅の花と頼政	(宇治) 四九八
○經行卿	(淨下) 二二
○常世久光に勝つ	(古今著) 三三三
○經賴〔左大辨宰相〕	(古今著) 二六六
○經賴〔相撲〕	(宇治) 三九八
○角	
鬼の角	(石川) 一〇五
角に關する考證	(石川) 一〇六
○攝津守 つのかみ	(宇津下) 七六
○攝津國の田蓑の島 つるくに	(宇津上) 二二五
○角田簡	
羅山の略傳	(先哲) 二九
關齋の略傳	(先哲) 五五
○つのもじ序 つばいもち	(鶴衣) 七七
○椿市 つばいもち	(石川) 三四
○椿餅 つばきもち	(宇津下) 三三〇
○海石榴市	(風土記) 五九

○椿の名所 つばきはくべし	(江戸四) 三九八
○椿類燕脂	(用捨箱) 七三〇
○椿山 はくら	(江戸四) 三九八
○燕	(平賀) 二八三
○つばくらめ つばな	(宇治) 四七
○美 つばな	(淨中) 三
○都夫多都御魂 つふたつみたま	(古事記) 八五
○づぶ六	(脚下) 一七
○壺	
結果の壺	(石川) 三三
金米糖の壺	(心學) 一五
○壺井の御所	(淨上) 二三〇
○坪内多傳	(脚上) 五四
○壺折姿	(田舎上) 二七
○壺坂	(宇津上) 二二〇
○壺坂寺	(淨中) 二五
同	(日記) 四三

山崎合戦に於ける

群書の異同 (太閤中) 三〇六

三法師君の織田の

相續たるを説く(太閤中) 四二

行市山に佐久間と

戦ふ (太閤中) 五〇〇

繪本太功記

(淨中) 一七

○都筑の岳

(江戸二) 四一

○鄺躅(和漢朗詠集、春)

(古代) 一九一

同〔新撰朗詠集、春〕

(古代) 三二

同

(宇津上) 三六

○つゝじづくし〔長歌〕

(近代) 五五

○鄺園の名所

(江戸四) 四六

○鼓

(宇津上) 四〇

○鼓の瀧

(遊京) 三九

○鼓山

(風土記) 五五

○九十九折

(淨上) 一三

○苞山伏

(狂言上) 六三

○綱(渡邊)

(淨中) 五七

○綱條卿(水戸中納言)

(大岡) 一八

○御明察の事

(書翰) 一四〇

○綱長(淺野)姫君へ訓

(脚上) 四四

○綱宗(伊達)

(伊達) 三五

○三谷通の事

(伊達) 三九

○高尾を身請の事

(伊達) 三九

○隠居の事

(伊達) 三三

○津波

(窓の) 二八

○綱吉公(將軍)

(女太平) 四四

諸大名能興行上覽

の事

牧野本庄兩屋敷へ

御成

菊の花上覽の事

(女太平) 五八

○都奴賀(海豚)

(古事記) 一九三

○角鹿の津

(萬葉上) 二三

○角杭神

(古事記) 六

同

(靈能) 三三

○角の浦

(萬葉上) 四八

○恒有〔大納言源〕

(宇津上) 三二

○經家(綴喜の平太)惡

馬に乗る (古今著) 三六

○經國(佳吉神主)歌を

惜む (宇治) 四四

○經仲(進士判官藤原)

白鳥節會に兒を糺す (古今著) 九一

○經信(帥民部卿)

略傳、逸話 (百人) 四八

○作物所 つくもどころ
 ○付合 つけあひ
 ○漬豆
 ○番(源次馬九)
 ○廚子
 ○辻占
 ○辻君
 同
 ○辻切
 ○つじ風
 同
 ○辻の字
 ○辻法師
 ○對馬淺茅浦
 ○對馬三首(國風)
 ○津島の生成
 ○津島の渡

(宇津上) 三四
 (平賀) 四七
 (宇津上) 三九
 (古今著) 二七
 (宇津上) 二六
 (淨上) 四九
 (鶴衣) 八六七
 (淨上) 五七
 (大久保) 四三
 (古今著) 五八
 (宇津上) 二
 (閑田) 一六
 (淨下) 一八四
 (萬葉下) 二九三
 (近代) 二八
 (古事記) 二
 (閑田) 三

同
 ○津島まつり〔さわぎ〕(近代) 二八
 ○對馬祭
 ○圖書
 ○都勢野山 つせいのやま
 ○薦(五色の薦)
 ○津田一清
 ○薦の葉(はやり歌)
 ○頭陀八(奴)
 ○薦平
 ○津田伴之進
 ○葛柁 つちあ
 ○土居 つちいみ
 ○土忌
 ○土粥の製法
 ○土殿
 ○土之神(壇夜須毘古、)

(日記) 九
 (近代) 二八
 (狂言下) 三九
 (脚上) 二
 (風土記) 四四
 (大久保) 一七四
 (崎人傳) 六七
 (近代) 四五
 (脚上) 三七
 (脚上) 六五
 (脚上) 三
 (淨上) 一四
 (宇津下) 六
 (狹衣) 八
 (心學) 一〇〇
 (宇津下) 二九〇

壇夜須毘古 つちのよみ
 ○土之御祖神
 ○土橋政長
 ○槌松(順禮の孫)
 ○土御門院
 なれにし月
 即位
 ○土御門右府(源師房)
 ○土屋の三郎(芝居の眞似)
 ○土屋の三郎もとすけ(御伽)
 ○土山
 ○つちゆいふけつ(僧)
 ○筒井順慶
 家中の評議
 洞が峠へ出張す
 光秀が陣を裏切す(太閤中)

(靈能) 三六
 (古事記) 六
 (田舎上) 八
 (淨下) 一五
 (古今著) 一八
 (百人) 六八
 (宇治) 五六
 (黃表紙) 九
 (日記) 二〇
 (宇治) 四八
 (太閤中) 一五
 (太閤中) 一六
 (太閤中) 三三

○月影のみ〔今様〕

(古代) 一五

○月神

(靈能) 三五

○衝立船戸神

(古事記) 三三

○次手馬

(淨上) 三三

○月面〔風俗〕

(古代) 一五〇

○槻

(古今著) 五八四

○調神社

(江戸三) 一五

○繼之助〔河井〕の手紙〔書翰〕

(書翰) 五四

○つきの布

(宇津上) 四六

○月の輪

(日記) 三四

○月光〔岡部の〕

(御伽) 四六

○頭巾

がんだう頭巾

(平賀) 四八

二見の禪尼の話

(一休) 五五

○繼目の繪旨

(淨下) 五三

○月詣集跋

(琴後) 四六

○月も同じ〔今様〕

(古代) 一五

○槻弓

(閑田) 一五

○月夜見神

(古事記) 二

同

○月夜烏

(平賀) 三〇

○木鬼〔狂歌〕

(曾呂利) 六六

○机銘〔芭蕉〕

(風俗) 一三

○筑紫

(萬葉下) 二八

同

同

○土筆が原

(宇津上) 一五

○筑紫觀音寺の古壺

(閑田) 二

○筑紫琴

(田舎下) 五三

○筑紫島の生成

(古事記) 二

○筑紫松浦黨

(淨上) 七

○佃氏〔藤樹よりの書〕

(書翰) 七

○佃島

(江戸一) 一五

同

(江戸四) 四四

○築土八幡宮

(江戸二) 五〇

○津久土明神社

(江戸二) 五七

○筑波岳

(萬葉上) 一三七

同

○筑波郡

(風土記) 三九〇

○筑波御前

(風土記) 二九

○筑波根

(平賀) 四六七

○筑波山

(宇津上) 七二

同

同

同

同

同〔風俗〕

(日記) 一〇三

○つくまの鍋

(日記) 三四九

○筑摩の湯〔信濃國〕

(萬葉上) 四七六

○つくもがみ〔長歌〕

(萬葉上) 四九〇

○つく物揃〔はやり歌〕〔近代〕 四八

同〔茶店〕

〔淨上〕 五三

○通辭

〔字津下〕 五九

○通人舞

〔淨中〕 五九

○つうだ左衛門

〔黃表紙〕 一九六

○通天〔紅葉の名所〕

〔淨上〕 二八三

○通天橋

〔田舎上〕 二九三

○ヅウフワ

〔和合人〕 三九五

○通明觀

〔江戸二〕 一六三

○通陽門院

〔淨上〕 一

○杖〔神樂歌、採物〕

〔古代〕 九二

同〔老人に杖を許さるる事〕

〔禪林〕 一四九

○塚

〔宇治〕 一〇七

○塚穴〔老翁の話〕

〔日記〕 四七三

○司つかさ

〔田舎上〕 二五二

○官を賣らるゝ事つかさ

〔年々〕 二五八

○つかさの佐

〔宇津上〕 三二七

○樛木つがのき

〔年々〕 三四四

○柄つかまき卷屋

〔一休〕 三三三

○柄祭前つかまつりまへ

〔一休〕 三三三

○津輕越中守〔老中の書狀〕

〔大久保〕 二七

〔脚上〕 四七

○津輕官兵衛

〔書翰〕 三四〇

○月

○月

和漢朗詠集、秋

〔古代〕 二〇九

新撰朗詠集、秋

〔古代〕 三六

宴曲

〔古代〕 四二

其光景

〔花月〕 四九六

月なき夜半

〔花月〕 五九

水のほとり

〔年々〕 二〇四

十三夜の月見

〔平賀〕 三〇二

根堅州國

〔古道〕 四三三

冬ふゆの月

〔狹衣〕 一六四

桂男

〔狹衣〕 四九一

月の名所

〔江戸四〕 四一

月の宴の歌の序に

〔うけら〕 三八一

擬へる文

〔和漢〕 三三五

月花つきはな賦

〔和漢〕 三七

月見つきみ賦

〔宇津下〕 四一五

月の桂

〔田舎上〕 五六

須磨の秋月

〔石川〕 四六六

月の故事縁語

〔近代〕 三四

月見〔長歌〕

〔近代〕 三九

月づくし踊

〔近代〕 五九一

月づくし〔長歌〕

〔琴後〕 五九七

月の宴の記

〔琴後〕 七〇八

月を見る記

〔琴後〕 七〇八

月に對ひて

〔琴後〕 七〇八

月花のあはれをこゝ

〔琴後〕 七〇九

とわる詞

〔琴後〕 七〇九

○張良 (淨上) 三三

○趙良弼日本に使す (馭戎) 二〇九

○頂禮 (禪林) 二四四

○張禮 (御伽) 二〇八

○丈六の佛 (宇治) 二四二

○長鸞洲〔生海鼠ノ箴〕 (和漢) 四四五

○千代ヶ崎 (江戸二) 二二四

○猪牙^{ちよき} (平賀) 二九〇

○貯金〔堪忍箱〕 (心學) 三三九

○勅願所〔文武天皇の〕 (淨中) 三三五

○直言 (窓の) 二八〇

○猷廟士を賞す (窓の) 二八〇

○徳川齊昭より臣下 (書翰) 四四四

○敕使 (石川) 二八六

○同 (宇津上) 六五一

○直指傳〔許六〕 (風俗) 二六

○直不疑の故事 (石川) 三三

○女子男子に變ず (窓の) 二七三

○除日の惑 (年々) 三三三

○千代田村舊跡 (江戸一) 六

○千代鶴〔禿〕 (脚上) 六

○如亭〔柏木〕の詩 (詩集) 一七三

○樗蒲一〔地獄獄卒の賭博〕 (平賀) 一六二

○千代もと (醒睡) 六〇

○千世萬代 (年々) 三七三

○叙留 (年々) 三六六

○地雷 (淨上) 三三〇

○ちらし〔長歌〕 (近代) 五五五

○塵穴 (和合人) 四九

○塵取 (淨上) 一八

○ちりばうきの守 (黄表紙) 二二〇

○雄鯉鮒 (日記) 三

○散るぞめでたき (年々) 三三一

○ちろ〔地爐〕 (宇津下) 五九

○治郎兵衛〔土方〕の殉死 (太閤中) 一四〇

○治郎兵衛 (崎人傳) 五九

ツ

○費といふ事 (花月) 五九四

○衝重 (宇津上) 四四四

○朔日^{ついたち} (宇津上) 二五九

○築地 (平賀) 四六六

○同 (宇津上) 三六七

○衝立 (宇津上) 一五五

○對待^{つしまつ} (淨上) 三三三

○續松 (宇津上) 三三三

○通圓 (古今著) 五五五

○同 (狂言下) 二六

これんいつはりな

し

(江戸著) 四六九

提灯で餅つく

(平賀) 二三

挑灯吟〔陳素六〕

(和漢) 二九

○鳥中の曾參

(醒睡) 三五

○手水鉢ノ銘

(鶉衣) 五九

○張天師祈て瘟疫を禳

ふ

(水滸一) 二三

○晁天王〔蓋〕

義を東溪村に認む(水滸一) 三九

私に宋公明に放た

る

(水滸一) 四〇

曾頭市にて箭に中

る

(水滸三) 三九

○張都監〔蒙方〕血を鴛鴦

樓に灑ぐ

(水滸二) 二七

○長徳寺〔恭敬山〕

(江戸一) 三七

○町人の侍行儀

(八文字) 六

○町人の息子

(黄表紙) 二九

○朝拜

(字津下) 二七

○長八〔塙〕久藏の功を顯

はす

(太閤上) 三九

○蝶花形

(淨下) 二九

○蝶花形てよはながためいかのしまだい名歌島臺

(淨下) 二二

○丁半〔賭博〕

(淨中) 四七

○長肇國

(平賀) 三五

○長福寺

(田舎下) 三七

○調伏丸

(石川) 一四

○長兵衛〔百姓〕闇に光秀

を突く

(太閤中) 三六

○長兵衛〔入江〕明智左馬

介より黄金を賜は

る

(太閤中) 三三

○長兵衛〔百姓〕實は四王

天田島頭

(淨中) 二〇

同〔加賀屋〕

(大岡) 五八

○眺望〔和漢朗詠集、雜〕〔古代〕 二五

同〔新撰朗詠集、雜〕〔古代〕 三九

○長松〔幡隨院長兵衛

悴〕

(脚下) 二

○長明〔加茂の〕

方丈記をかく

(平賀) 三九

同

(宇治) 五七

蟬の小川

(曾呂利) 六九

○長命丸

(平賀) 一六

○長命寺〔寶壽山〕

(江戸四) 一八

○長命寺の雪

(江戸四) 四八

○長命密寺〔谷原山〕

(江戸三) 五四

○張蒙方〔都監〕武松を

陥る

(水滸二) 二九

○重陽の祝儀

(書翰) 三五

二見文臺繪序 (和漢) 二九
德利論 (和漢) 四〇

○長昌寺〔深榮山〕 (江戸三) 五五

○長昭寺〔期羽山〕 (江戸一) 四六

○長松寺 (日記) 八六

○疊翠軒記 (遊京) 四六

○長助〔家主〕 (大岡) 三八

○丈助 (脚下) 五六

○張青〔菜園子〕十字坡に

て武松に遇ふ (水滸二) 七

○張清〔沒羽箭〕

縁、瓊英に配す (水滸四) 二四

瓊英と雙功を建つ (水滸四) 二七

○長生殿 (字津上) 六三

○朝鮮

李成桂の建國 (取戎) 三

三韓王統の變遷 (取戎) 三

文祿の役 (取戎) 一五

文祿の役の由來 (取戎) 一三

尉山の戰 (取戎) 一三

官使來朝す (太閤下) 一〇六

朝鮮の兩太子許さ

れて歸る (太閤下) 二六

土民山林に遁る (太閤下) 四〇

人民餓死す (太閤下) 四九

五色の葛 (大久保) 一四

○朝鮮征伐に於ける高

虎と嘉明の不和 (窓の) 三

○長泉律院〔高峰山〕 (江戸二) 二四

○長藏〔鹽賣〕 (淨中) 一七

同〔寢言〕 (平賀) 四九

○丈草

新道心に贈る辭 (風俗) 一六

芳野賦 (風俗) 三

詩歌俳諧、辯 (風俗) 一三

清操 (崎人傳) 三六

三上、辨 (和漢) 四〇

○趙宗道妻子と共に節

に死す (太閤下) 四九

○丈艸、文、跋 (鶴衣) 八六

○丈草發句集 (俳句集) 三五

○丈艸誄〔去來〕 (風俗) 一四

○長曾我部元親 (太閤中) 五九

經歷

秀吉の幕下に屬す (太閤中) 六〇

○長太〔海士〕 (淨上) 二八

○帳臺の宿直 (字津下) 二四

○長短、解〔也有〕 (鶴衣) 五五

○挑灯

其考證 (骨董集) 六

再考 (骨董集) 三三

○貞觀格式 (百人) 一八九

○長吉〔腕の〕の無法 (大岡) 六七三

○長脚國 (平賀) 三三四

○長九郎 (脚下) 三八

○長慶〔六波羅の別當〕 (古今著) 四四

○長玄〔大槻〕の森邪 (金澤) 一六

○澄憲法印山賊を教化

す (古今著) 三六

○長源禪寺〔安松山〕 (江戸三) 五

○張孝 (御伽) 二八

○張公驤 (心學) 三五

○定光上人鎌倉大佛の

造立 (日記) 七

○彫刻 (八文字) 五七

○長恨歌〔宴曲〕 (古代) 四七三

同 (田舎下) 一五八

○長左衛門〔清水〕の切

腹 (太閤中) 一九

○丈左衛門〔林〕 (淨中) 六

○丁山〔お文〕 (大岡) 四〇

○長谷寺〔普陀山〕 (江戸二) 一六三

○丈山〔石川〕の詩 (詩集) 六

○銚子 (字津上) 一六

同 (淨上) 三

○丁子 (字津上) 三四

○長七郎の流浪 (大久保) 一四

○聽箴〔許六〕 (風俗) 一五

○長眞〔法眼〕 (古今著) 五七

○長者 (字治) 二七〇

○趙州 (禪林) 六

○長秋〔皇后の宮殿〕 (字治) 三二

○鳥獸魚虫の掟 (鶉衣) 八一

○鳥獸の鳴聲 (年々) 三三

○趙州の無の字 (禪林) 四五

○鳥獸類〔東齋隨筆〕 (字治) 五〇

○長十郎〔建具屋〕 (大岡) 六九

○長壽の益 (閑田) 八

○張順〔浪裡白跳〕

黃文炳を活捉る (水滸二) 四三

夜、金沙渡を鬧す (水滸三) 一五七

鑿て海鯨船を漏し

む (水滸三) 五七

夜、金山寺に伏す (水滸四) 三二

湧金門に神を歸す (水滸四) 四七

魂、方天定を捉ふ (水滸四) 四八

○定眼〔一乘院大僧都〕

の白骨なほ法華經

を誦ず (古今著) 五〇

○張昇角

擬古 (和漢) 二九〇

堪忍、聯 (和漢) 三三

○重三郎と高尾の道行(淨下) 五〇

○中山(神) (宇治) 二八三

○忠臣藏五段目 (八笑人) 一七三

同 (七偏人) 五七二

同 (田舎上) 六三三

○注釋(ちゅうさく) (年々) 三六六

○中州(行長に陥れら

る) (太閤下) 一四九

○中書王の前後 (宇治) 五二三

○忠助(伊豆屋の老僕) (脚下) 五三三

○中禪寺 (日記) 六九

○忠三(藥店の手代)訴訟

の事 (大岡) 六四三

○重藏(近藤)の手紙 (書翰) 三〇三

○中大冠者(馬介入道の

中間男) (古今著) 四八五

○中納言朝忠 (百人) 三〇二

○中納言の君 (宇津下) 七三三

○中納言の内侍 (狹衣) 二二三

○中納言行平 (百人) 一四七

○忠仁公(良房) (宇治) 二七三

○中の徳 (心學) 三六六

○仲媒 (宇津上) 一四三

○重箱 (骨董集) 七〇七

○中風 (淨上) 一六六

○忠兵衛(瀬戸物屋) (大岡) 三六七

○重兵衛(笹) (大久保) 三三四

○中飽病 (曾呂利) 六八八

○中庸の勘違へ (心學) 一七三

○中良(森島) (琦行傳) 七四四

○ちゆつちゆら踊 (近代) 四三二

○千代(下司) (醒睡) 二五九

同(加賀) (俳句集) 八五五

○趙員外 (水滸一) 一二三

○趙雲 (平賀) 四九八

○長英(高野)

茂木茂恭へ老母の

身の上を頼む (書翰) 四六六

家郷へ身の上 (書翰) 四七〇

○澄惠僧都

そば盗人を詠む (古今著) 四〇七

しらなみの歌 (古今著) 四〇七

○晁蓋(天王)

梁山に小き泊を奪

ふ (水滸一) 四九七

梁山泊の義士に尊

まる (水滸一) 五〇四

○鳥海山 (日記) 三三六

○鳥海の三郎(宗任) (宇治) 四七〇

○朝觀(志賀寺) (平賀) 三五四

○張管營(世開) (水滸四) 三三〇

○茶壺 (狂言上) 八九

○茶摘(はやり歌) (近代) 四〇

○茶の通ひ (田舎上) 八五

○茶の子 (琦行傳) 七六

○ちやのみ時のかはり

〔端歌〕 (近代) 六四

○茶の湯(吾妻淨瑠璃) (近代) 三三

○茶平(牽頭) (淨中) 五八

○矮鷄^{ちやば} (淨中) 四三

○定茶名(文) (鶉衣) 七九

○茶飯時(古今ふし) (近代) 四九

○茶碗を磁器の通稱な

りといふ事 (年々) 三八

○茶碗の價 (石川) 三三

○茶碗銘(嵐雪) (風俗) 一四〇

○忠(孝行參照)

飲食と忠孝 (禪林) 一四二

忠孝の説 (花月) 五二

同 (花月) 五四

大阪の繼母の忠誠(窓の) 四三

足輕の忠 (窓の) 一六三

忠臣娘を賣て故主

を救ふ (窓の) 三二

忠僕遠島の供を顧

ふ (窓の) 三三〇

大久保忠隣の忠志(大久保) 七三

大久保彦左衛門の

忠勤 (大久保) 七五

八左衛門の忠勇 (大久保) 一二三

文兵衛の忠 (大久保) 二九七

忠僕又八 (大久保) 二五五

料理人小兵衛の忠(大久保) 三九六

忠臣安部豊後守 (大久保) 五四四

若狹綱子主の子を

助く (崎人傳) 一七

婢小萬の忠 (崎人傳) 五六

乳母の忠節 (心學) 一〇三

○仲哀天皇 (古事記) 一八四

○仲胤僧都

こぶしの花 (古今著) 五六二

地主權現說法の事(宇治) 一六六

連歌の事 (宇治) 四二

○忠右衛門(大岡)江戸町

奉行越前守となる(大岡) 一二

○中華の稱 (閑田) 六

○忠義堂石碣に天文を

受く (水滸三) 三九

○中宮 (淨上) 五五七

同(朱雀院の後) (宇治下) 四五六

○忠三郎(鶴野)山路將監

を説く (太閤中) 五〇四

同

(田會上) 五三

○珍内花笠踊

(近代) 四〇

○沈の男

(宇津上) 二八〇

○沈の插櫛

(宇津上) 五四

○ちんばの語源

(醒睡) 五

○趁跛踊(鈴木孫六)

(太閤中) 一七〇

○ちんば引くといふ事(禪林) 一八一

○陳皮(密柑の皮)

(平賀) 二〇七

○沉約(詩文の八病)

(崎人傳) 四九三

○陳璘(藤堂脇坂等と水

戰

(太閤下) 四三

○陳李琳の狂詩

(川柳) 四七

○陳和卿(實朝に謁す)

(百人) 六一

○地名あまべの考

(閑田) 一六

○地名の唱と文字と異

なるもの

(閑田) 二〇

○地名の訛謬

(燕石) 四〇〇

○除目

(宇津下) 一六八

同

(宇治) 二九〇

○乳守の廊(堺)

(淨中) 五八

○ちや(犬宮の乳母)

(宇津下) 六八

○茶、茶式

宇治の里

(曾呂利) 五五

茶會

(石川) 四七三

茶舗不朽堂

(石川) 四七

茶の故事縁語

(石川) 四七

茶事の誤解

(八文字) 二九

茶人の俄慙慙

(八文字) 五七

素人の茶の湯の失

策

(八文字) 五九

茶の湯の心懸

(八文字) 五三

茶の湯の功能と狂

歌

(醒睡) 三六

茶の禮と居眠り

(醒睡) 三三

古今萬葉の壺

(醒睡) 三三

茶の態の益

(閑田) 一七

茶禮に心得がたき

事

(閑田) 一七

茶事を廢せし事

(閑田) 一七

茶事と宗易

(花月) 五三

秀吉の茶會

(太閤下) 九

茶の湯

(心學) 三三

茶會話のしくじり(和合人) 三六

○茶方の雪隠

(心學) 三六

○茶粥

(淨上) 三八

同

○茶盞拜

(狂言下) 一九

○茶人の掃除ずき

(心學) 二七

○名茶杓辭

(鶴衣) 六八

○茶箋丸北畠家に餐は

る

(太閤上) 三九

○血に泣くといふ事 (閑田) 一九四
 ○血の道の薬 (黄表紙) 一五九
 ○千葉家古城趾〔板橋〕 (江戸三) 四三
 同 (江戸三) 五〇
 ○ちはやぶる神〔今様〕 (古代) 一六三
 ○千引石〔道反大神〕 (古事記) 三三
 ○治部卿〔俊蔭〕 (宇津下) 七三〇
 ○地福踊 (近代) 四七
 ○痴福は三世の冤 (禪林) 五一
 ○乳房 (宇津上) 一四
 ○治兵衛〔紙屋〕の墓 (日記) 六六
 ○尼鳳山名雙寺 (田舎下) 三三
 ○持法坊〔田樂と兒〕 (醒睡) 三八
 ○粽 (平賀) 三〇〇
 同 (古今著) 五八
 ○ちまき馬 (骨董集) 二四
 ○道侯神 (古事記) 二四

○沈^{ちん} (宇津上) 二六
 ○沈惟敬 鄭四に日本の話を聞く (太閣下) 三二
 平壤に來つて小西に見ゆ (太閣下) 二六
 再び日本軍の陣中に来る (太閣下) 二五
 小西に罵らる (太閣下) 二六
 明の群臣に笑はる (太閣下) 二四
 清正の書を見て恐怖す (太閣下) 四七
 獄に下る (太閣下) 四九
 ○陣街道 (江戸二) 三六
 ○陳璘〔諫官〕 安撫に陞る (水滸四) 二六
 宋江同く捷を奏す (水滸四) 二七

○鎮關西魯提轄に打たる (水滸一) 九二
 ○陳橋驛に涙を滴て小卒を斬る (水滸三) 六三
 ○枕山〔大沼〕の詩 (詩集) 四九
 ○鎮三山〔黃信〕青州道を鬧す (水滸二) 二六
 ○鎮守府の印 (脚上) 三七
 ○陳涉〔楚人〕 (平賀) 六六
 ○陳情表〔支考〕 (風俗) 二〇
 ○鎮西八郎〔保元の亂〕 (百人) 三三
 ○陣扇 (平賀) 四六
 ○陳素六〔搔餅〕説 (和漢) 五八
 ○沈地の机 (宇治) 二四
 ○ちんくぶし〔二上り〕 (近代) 二七
 ○鴉毒 (淨上) 二七

○地主權現 (宇治) 一六六

○智證大師の御起文 (古今著) 四二

○帙寶 (宇津下) 八

○地藏堂〔豊島〕 (江戸三) 三七四

○智藏〔釋〕の詩 (詩集) 五二〇

○地藏菩薩 (宇治) 七

尼に拜まる (宇治) 二〇

多田の郎等を助く (宇治) 二〇

四の宮河原 (宇治) 一〇

みづから勤化に出

づ (黄表紙) 一五三

出來合の地藏尊 (淨中) 四六

錫杖は衆生也 (心學) 三六

○地藏祭〔京都〕 (日記) 五三

○知足庵〔平春海〕 (琴後) 五二

○知足院 (古今著) 二七

狐を祭る (古今著) 二七

萬秋樂 (古今著) 二三

筆おのづから鳴る (古今著) 四八

侍の勘當に千秋萬

歳 (古今著) 四六

中納言宗輔に筆を

習はす (古今著) 五七

中原師遠と笏 (宇治) 五五

○智多星〔吳用〕が蓋郡

を打つ密計 (水滸四) 一五

○千足の眞言が古郷へ

行くを送る詞 (うけら) 二七

○祖父祖母之物語 (骨董集) 二〇

○知々々々〔風俗〕 (古代) 一五

○千束姫〔石堂大領の

娘〕 (淨中) 四六

○地擔踊〔所作〕 (近代) 五五

○昵近の諸士 (脚上) 一八

○ちつべい〔小童〕 (淨上) 五

○持統天皇 (百人) 六

○千年篋の跋〔春海〕 (琴後) 六三

○千歲筵の序〔千蔭〕 (うけら) 三五

○千年屋 (淨下) 一九

○千鳥〔鎌田清次の女〕 (淨下) 一九

同 (田舎上) 五

同〔御香のしきに〕 (宇治) 四〇

○千鳥掛の馬術 (大久保) 四六

○千鳥が淵 (田舎下) 二六

○千鳥の香爐 (太閣下) 三五

同 (太閣下) 四七

同 (淨上) 四八

○千鳥の前〔繁氏の妾〕 (淨上) 一

同〔吾妻淨瑠璃〕 (近代) 三〇

○千鳥の名所 (江戸四) 四八

○地並 (日記) 六三

○竹林院 (日記) 四三

○竹林寺〔淨瑠璃〕 (近代) 五六

○畜類の長壽 (閑田) 二五

○見 (宇治) 四一

同 (宇津下) 二七

同〔比叡の山〕 (宇治) 三

同〔叡山のちこと三井

寺の兒〕 (醒睡) 三三

○兒が原 (日記) 二四

○地獄

閻王の地獄説 (雅文) 一八

地獄と極樂 (禪林) 一五

地獄に墮つる者 (禪林) 四

眼前これ地獄 (禪林) 五

達磨大師の解 (禪林) 六

地獄の説相 (禪林) 一六

地獄の有無 (禪林) 三三

地獄の語 (禪林) 五八

劍樹地獄 (淨上) 七九

八寒地獄 (淨上) 三九

地獄の迎へ (宇治) 二六

無間地獄 (宇治) 一六

賣春婦 (平賀) 八五

地獄のいろく (平賀) 一六〇

地獄〔遊女〕と一休と

の問答 (一休) 五五

○持國坂 (江戸四) 三三

○ちご宮 (宇津上) 一〇〇

○千里〔高尾より後朝の

文〕 (書翰) 三

同〔荒妙の娘實は菊

姫〕 (淨上) 六〇

○致仕を乞ふ (書翰) 七

○致仕の大臣 (宇津上) 五〇

○知識〔賢愚參照〕

一官衆官を引く (禪林) 二七

實知に非ざれば味

なし (心學) 五九

聖知と私知 (心學) 五八

小智は大道の敵 (閑田) 三〇

○道數大神 ちしきのおほかみ (古事記) 三

○ぢじとづ〔濁音〕 (年々) 三九

○致仕の大納言 (狹衣) 四五

○地神七代 (古事記) 六

○地震

一人前の大地震 (淨上) 三

地震知らぬ宿直 (石川) 三〇

地震に竹藪 (心學) 五

元祿の大地震 (窓の) 八九

○千島萬太郎 (脚下) 八三

○千島堵庵 (畸人傳) 三五

其傳 (日記) 六九

和田忍笑へ葛粉を

送る (書翰) 二四

某へいもせ海苔を

送る (書翰) 二七

○近道 (心學) 一四

○ちかみつ〔主殿のか

み〕 (宇治) 一七

○親行〔東關紀行〕 (日記) 三

○主税〔淺井〕の女 (金澤) 三〇

○力石 (淨上) 二九

○主税之助〔山野邊〕の器

量 (大岡) 二六

○力自慢 (七偏人) 五五

○無ちからなきかへる力 蝦〔催馬樂、

呂〕 (古代) 二四

○地火爐 (骨董集) 五〇

○直訴 (大久保) 三九

○知久ちきう

手柄 (一休) 五五

天下大平國土安穩 (一休) 五八

○地球の説明 (古道) 四四

○知行盜人 (大久保) 三八

○乳切木ちぎりき (狂言下) 三三

○竹外〔藤井〕の詩 (詩集) 三〇

○竹谿禪師 (太閤下) 三六

○筑後五首〔國風〕 (近代) 二〇

○千草〔局〕 (淨中) 三三

○ちぐさ〔端歌〕 (近代) 六四

○千種ちじさありこと有功 (遊京) 四七

○千種濱 (日記) 九

○筑紫樂〔玄淨〕 (近代) 一六

○畜生塚の由來 (太閤下) 三九

○筑前五首〔國風〕 (近代) 二〇

○筑前の尼君 (狹衣) 三三

○筑然〔傳〕〔東花坊〕 (和漢) 三八

○地口歌 (和合人) 三六

同 (和合人) 三六

○竹田〔田能村〕

伊藤喜市郎へ噂話 (書翰) 三三

門人へ修業に就て (書翰) 三六

○竹生島 (狹衣) 三四

同 (宇治) 三〇

○竹生島明神の靈現 (太閤上) 三〇

○竹生島詣 (狂言下) 三六

○竹夫人〔傳〕〔良壺峰〕 (和漢) 三三

○蓄米の議 (書翰) 三九

○筑摩郡〔信州〕 (淨上) 三三

○筑摩の御社 (淨上) 三四

○千酌驛 (風土記) 四六

○竹羅山人の狂詩 (川柳) 四九

死

(太閤中) 二二

○太郎作(庄ヤ)

(淨中) 二〇四

○太郎次郎

(用捨箱) 八三

○太郎助(かゝ昇)

(脚下) 一六〇

○太郎助(百姓)秀吉に

越瓜を献ず

(太閤中) 二三四

○太郎兵衛(家主)

(脚下) 六一

同(河内屋)

(琦行傳) 七六

○倭(米倭)

(八文字) 四六

○田原(天智天皇)

(日記) 三六

○同

(宇治) 四三

○田原の御栗

(宇治) 四六

○倭藤太(秀郷)の百足

退治

(御伽) 三七

子

○ちいちやこもちの童

諸

(用捨箱) 六六

○知雨亭記

(鶺鴒衣) 六三

○知雨亭後記

(鶺鴒衣) 七四

○智慧(賢愚、知識参照)

虎狼野干の作意

(醒睡) 三六

赤兒の分別

(心學) 一四

○治右衛門(浦田)

(琦行傳) 七九

○地黃煎

(宇津下) 二九

○智恩院

(日記) 五三

○智海法印

(宇治) 一四

○道反大神(千石引)

(古事記) 三

○近方(多)元政と狛笛(古今著) 三六

○智覺院幼幻童子(小四

郎の戒名)

(淨中) 三七

○千蔭(右大臣橘)

(宇津上) 二

○千蔭が新百人一首色

紙跋(平春海)

(琴後) 六三

○千蔭古今集序墨帖序

[平春海]

(琴後) 六七

○千景の方

(田舎上) 三三

○近頃河原達引

(淨下) 六一

○親澄(源)

(宇津上) 一〇

○近武(隨身中臣)

(古今著) 四六

○親經(本田二郎)

(淨上) 七

○ちかなか(因幡國の

前の國司)

(宇治) 二〇

○血鹿の鹽竈

(淨中) 五七

○知河島

(古事記) 三

○值嘉島

(風土記) 五三

○千賀之助(明衡が一

子)

(淨下) 三〇

○近治

(宇津上) 二四

○近正(左近尉)

(宇津上) 九〇

○近松門左衛門

○田村鷹峨天皇を護

る

(古今著) 二六七

○檀林皇后

(禪林) 六〇

○爲家(播磨守)

侍佐多を追ひ出す(宇治) 二〇〇

其略傳、逸話

(宇治) 七四

○溜池

(江戸二) 三二

○爲井權之丞(乘馬の

達人)

(窓の) 二〇五

○多目周防守宅地

(江戸一) 五五

○ため助(後に黄金屋

爲右衛門)

(女房) 六二

○爲永

(八笑人) 二五三

○爲憲(朝臣)の土象

(古今著) 二〇四

○爲俊(あつみの三郎)

(古今著) 五二〇

○爲朝(鎮西八郎)

弓の指南

(黄表紙) 二三

島廻り

(脚下) 五〇六

○爲義(陸奥の冠者源)

(浄上) 二〇五

○田安の臺

(江戸一) 八五

○太夫

(浄上) 一八九

○太夫のかしかり

(日記) 三二

○大輔の君

(宇津下) 六四

○大輔の乳母

(宇津下) 八九

○太夫元

(平賀) 二九

○たより(禿)

(脚下) 六

○託羅郷

(風土記) 五六

○多羅集

(出定) 六〇〇

○他力坊(如來寺の弟

子)

(浄中) 二六七

○多利思比孤の考證

(取戎) 六三

○たるゐのれせん(あづ

ま淨留利)

(近代) 三四

○だる盃

(醒睡) 三三

○達摩

蘆葉達摩

(石川) 四九三

般若多羅尊者と變(一)

(休) 四四

僧と碁

(醒醒) 二七

天竺の僧行を見る

事

(宇治) 三九

地獄極樂の解

(禪林) 六

○足水翁墓碑

(琴後) 七三

○樽賀

(狂言下) 四七

○樽屋れせん狂女跡(淨

瑠璃)

(近代) 三九

○太郎(笠原)

(浄中) 二六

同(四の宮)

(浄中) 二〇

○太郎(兄弟の望)

(醒睡) 二九

○太郎の故事縁語

(石川) 四五

○太郎君

(宇治) 三七

○太郎左衛門(伴)の討

江戸男色細見の序(平賀) 二五

陰陽不自然の事(平賀) 一六三

若衆(平賀) 二四六

弘法大師(平賀) 三三三

男色と能(八文字) 三三

男色と女色(八文字) 三四

男色と親父氣質(八文字) 一五

天海の物語(大久保) 四八

男子は二君に仕へず(大久保) 三三

○丹介(臺七の家來)(淨中) 四七

○團助の内偵(大久保) 二七

○團扇(軍配團扇)(淨上) 三六

○丹前清玄(吾妻淨瑠璃)

(近代) 三八

○檀所だんそ(宇津上) 四六

○淡窓(廣瀬)の詩(詩集) 三九

○團藏(荒濱)五兵衛夫

婦を殺す(女太平) 七四

○丹頂の池(江戸四) 三六

○男女變性(閑田) 二〇一

○丹田

丹田氣海(禪林) 三六

金液還丹(禪林) 三四

丹田に元氣を收む

る功(禪林) 三六

壽算を保護するの

城府(禪林) 三七

○團頭(燕石) 四六

○檀特山(宇津上) 三六

○檀那(燕石) 三七

○檀浦兜軍記(淨下) 三四

○多武峯たむのみね(日記) 四四

○丹波(宇津上) 四六

○澹泊(安積)新井白石

へ國史の三大凝(書翰) 一八三

○丹波五首(國風)・(近代) 七〇

○團八(蛇河の)(淨中) 三五

○たんびら(淨上) 六四

○短文の例

本多平八郎より留

守宅へ(書翰) 六

宇佐美瀧水より某

へ(書翰) 一八二

岩瀬忠震より介堂

へ(書翰) 四四

○端文仲春莊帖の一節(崎人傳) 五一

○段平(脚下) 三四

○團平(脚下) 三五

○團友(蟹)(俳句集) 七三

○田村將軍の塚(閑田) 四〇

○田村堂(日記) 二九

○綾たん

(宇津上) 四三

○坦庵〔江川〕

某へ婦道を示す

(書翰) 四七

忠俊よりパンの製

法

(書翰) 四九

華山より交誼

(書翰) 五〇

○丹以之〔笠〕

(和漢) 五九

○團右衛門〔黒崎〕の素

性

(太閤中) 四四

○膽をれる事

(花月) 五九

○淡海公

(閑田) 七四

同

(宇治) 五四

○丹花の屑

(淨上) 三三

○短氣の解

(禪林) 二四七

同

(心學) 四三

○談義僧

(心學) 八九

○湛空上人

(古今著) 九

○旦九郎

(醒睡) 二三

○丹下〔切石〕

(淨中) 四四

○手向野たむけの

(江戸三) 四四

○斷絃〔文〕許六〕

(風俗) 一六三

○丹後

(宇津上) 二五

○端午〔新撰朗詠集〕夏〔古代〕三五

○饅だんごのね仙

(平賀) 二五

○丹後の少將

(御伽) 四二

○團子といふ字

(年々) 二四

○丹後殿前

(江戸一) 九

○丹後入道

(宇治) 四七

○端午の袈裟

(骨董集) 一八五

○端午の小人形

(骨董集) 一八五

○端午の茅卷馬

(骨董集) 一八五

○端午の頭巾

(骨董集) 一八五

○丹後六首〔國風〕

(近代) 九

○短冊

(淨上) 三

同

(平賀) 五五

○短籍たんざく

(宇津上) 四〇

○短冊翁の舊地

(江戸三) 三八

○團七〔魚屋九郎兵衛〕

(淨中) 五三

○禪正〔木山〕清正に斬

る

○彈正〔難波田〕舊館地〔江戸三〕五

○彈正〔徹塵〕

(淨上) 五六

○彈正式

(宇治) 五四

○彈正親王小弓のまけ

(古今著) 三〇

わざ

○誕生八幡宮

(江戸二) 八九

○團十郎〔市川〕

(平賀) 九二

後家との關係

(平賀) 九二

江戸に隠れなし

(平賀) 四九

略傳

(琦行傳) 九二

○男色

同〔端歌〕

(近代) 六〇三

同〔宣長の小説〕

(雅文) 六三三

○玉琴傳

(江月著) 四九

○玉笹〔加州家の老女〕

お良の方の不品行

を窺ふ

(金澤) 二四三

謀計を遺して江戸

に赴く

(金澤) 二四四

路次に勇を顯す

(金澤) 二七

再び密書を奪ふ

(金澤) 三〇四

○玉すだれ

(宇津下) 七四

○玉垂〔風俗〕

(古代) 一四七

○玉造〔大阪〕

(淨中) 四六

○玉作の小野

(宇治) 五八

○玉章〔金五郎の母〕

(娘節用) 五

○玉津島

(淨上) 一五二

同

(宇津上) 三三

○玉津寶 たまつたから

(古事記) 二四

○玉露〔宗治の妹〕

(淨中) 六九

○玉鶴姬

(御伽) 六三〇

○玉の争ひの話

(心學) 三三七

○玉の一

(女房) 四七

○玉の浦

(閑田) 三

○玉の緒〔端歌〕

(近代) 二四四

○玉 たまのきやのみこと
祖命

天安河原の會

(古事記) 三

天孫供奉

(古事記) 八三

○たまのさかづき〔端

歌〕

(近代) 六二

○玉之助〔原田〕

(大岡) 七

○玉橋の局

(淨上) 五七

○玉房御前〔重忠の室〕

(淨下) 四八

○玉淵久馬

(脚上) 四〇

○玉ぼこ

(宇津下) 六九

○魂祭〔貧家の魂祭〕

(八文字) 三七

○玉みくり〔三稜草〕

(宇治) 四八

○玉水の前

(御伽) 五七六

○玉蟲

(宇津下) 四四

○玉藻

(宇津上) 二五

○玉藻集序〔千代女〕

(俳句集) 八三

○たまよの姫

(御伽) 三三

○玉依毘賣命 たまよりひめのみこと

(古事記) 一〇〇

同

○田丸の家斷絶

(古道) 四九

○玉若殿〔四位の侍従〕

(御伽) 三三

○民作〔小河〕

(書翰) 三二五

○民ノ詞〔各東羽〕

(和漢) 二九三

○田簀の島

(田舎下) 二〇九

同

○田宮〔童〕髪を切らる(曾呂利) 五八五

○民谷伊右衛門

(脚下) 一八六

○烟草の奇藝 (琦行傳) 八二
 ○煙草の喻 (心學) 三五
 ○煙草屋喜八之記 (大岡) 六九
 ○田畑八幡宮 (江戸三) 二九
 ○旅(秋別、送別、羈旅參照)

○足袋の縁語 (石川) 四三
 ○旅薦僧勝助 (淨中) 五五
 ○旅僧(實は久吉) (淨中) 二四
 ○旅路のうちざき (遊京) 四一
 ○旅人(大伴宿禰)の詩(詩集) 五三
 ○旅のなぐさ(一名西歸) (日記) 三五

○玉葛の御裳著 (曾呂利) 六三
 ○玉葛の君が庵の跡 (日記) 四九
 ○玉川 (石川) 二八
 ○玉川の里 (淨中) 五一
 ○玉川 (江戸二) 三四
 ○玉川松之介 (曾呂利) 五七
 ○手纏 (古事記) 二四
 ○手巻 (田舎上) 六〇
 ○玉木衛門之助 (淨中) 三四
 ○環の宮 (淨上) 一九
 ○玉くしげ(長歌) (近代) 二三
 ○玉葛の素性 (田舎下) 三八
 ○玉くづれ(貫) (和合人) 四三
 ○手枕(長歌) (近代) 二八

旅中の情 (日記) 八
 旅中の感 (日記) 三
 旅の心得 (日記) 六四
 憎むべきもの (日記) 六四
 旅人 (石川) 三〇
 旅人の色々 (石川) 三〇
 無名次の旅 (黄表紙) 二五
 貴人の旅 (花月) 四五
 旅賦 (風俗) 五〇
 同 (鴉衣) 五三
 旅論 (風俗) 二〇四
 同 (鴉衣) 八三

○旅の日暮(はやり歌)(近代) 四五
 ○多比理岐志麻流美神(古事記) 六三
 ○たふ(栲布) (字津上) 八四
 ○多寶の塔 (字津上) 二〇七
 ○珠 (字治) 四〇四
 ○毬 (字津上) 三七
 ○玉 (字津上) 四三
 同(伊弉那邪命の御頸) (古道) 四九
 ○玉池 (江戸二) 一七

○玉葛の御裳著 (曾呂利) 六三
 ○玉葛の君が庵の跡 (日記) 四九
 ○玉川 (石川) 二八
 ○玉川の里 (淨中) 五一
 ○玉川 (江戸二) 三四
 ○玉川松之介 (曾呂利) 五七
 ○手纏 (古事記) 二四
 ○手巻 (田舎上) 六〇
 ○玉木衛門之助 (淨中) 三四
 ○環の宮 (淨上) 一九
 ○玉くしげ(長歌) (近代) 二三
 ○玉葛の素性 (田舎下) 三八
 ○玉くづれ(貫) (和合人) 四三
 ○手枕(長歌) (近代) 二八

京都の七夕祭

(日記) 五三

○田邊

(日記) 一四九

○谷會山

(風土記) 四七

○谷風

(宇津下) 五〇三

○谷風梶之助

(琦行傳) 七五

○多邇具久

(古事記) 六三

○谷五郎(金江)

(淨中) 四七五

○谷橋渡

(女房) 一七三

○谷原檢地割の事

(伊達) 四三

○田野(餅と白鳥)

(風土記) 五三

○田沼氏室の仁慈

(窓の) 一四八

○狸

頼度化物を生捕る(古今著) 五八

仲俊光の中の姥を

捕ふ

(古今著) 五九

助康狩して古き堂

に宿る

(古今著) 五八

つぶて雨の如し(古今著) 五九

草津の宿屋(窓の) 一五三

化けたるをあらは

す

(宇治) 二四

狸のきん玉八疊敷(平賀) 三三

多くしてとめる(宇津上) 五七

狸好きの卜者(琦行傳) 七六

○田貫

(田舎下) 二三

○田之怪(狸)

(燕石) 五七

○狸入道

(淨上) 六二

○狸寝入

(淨上) 二四

○狸のいたづら

(和合人) 三八

○狸囃子

(八笑人) 三三

同

○種子(仁の味)

(八笑人) 三三

○種が島(薩州)

(禪林) 一九三

○種が島大藏

(淨下) 二四

○種武(下野)

(古今著) 四七

○種綱(直江山城介)

(淨上) 三三

○胤綱(千葉介)

(古今著) 四六

○胤直(千葉之介)

(淨中) 二〇

○多邇郷

(風土記) 四九三

○種松(神南備)

(宇津上) 三一

○種實(陸奥守)

(宇津上) 二五

○種村大藏

(太閤上) 三六

○頼母(龍澤)の自殺の事

(金澤) 二九

○頼母子(天狗頼母子)

(八文字) 四六

○煙草

(淨上) 一五

同

○煙草入(女)

(淨上) 四三

○黃若(箴吾仲)

(和漢) 四七九

○煙草の御馳走

(心學) 一七九

○煙草説

(鶉衣) 六四

○疊くふ虫

(平賀) 三

同

○伊達競阿國戲場

(平賀) 一六三
(脚下) 六二

○伊達家

系圖の事

(伊達) 三九

安堵の事

(伊達) 五九

○だて小袖(二上り)

(近代) 六三

○作姿(風俗)

(淨上) 八五

○伊達助(草履取)

(淨中) 四六

○楯縫郡

(風土記) 四六

○楯縫郷

(風土記) 四三

○楯の浦

(日記) 一六

○達の大木戸

(脚上) 三六

同

(日記) 三五

○伊達の家臣

(伊達) 三七

○館林廻(右馬頭綱吉)

(女太平) 三

○豎文

(宇津下) 六三

同

○建部紹智の法間

(宇治) 四七三
(太閤中) 二六

○建部凌岱

其逸話

(畸人傳) 六六

西山物語

(雅文) 三五五

○建部郷

(風土記) 四六

○伊達政宗

小田原に参る

(太閤下) 三

家士の異風出立

(太閤下) 三三

○伊達陸奥五色の葛

(大久保) 一七四

○達六太郎

(脚上) 三五

○伊達頼兼

(脚下) 六四

○帶刀(島津)

(窓の) 一六

同(冷泉)

(淨上) 五八

○帶刀陣の十番の歌

合

(古今著) 一八

○たとへ(おいらん)

(黄表紙) 二四四

○疊紙

(宇津上) 五四

○他戸の皇子

(淨中) 三九

○田中井戸(催馬樂、呂)

(古代) 一四一

○手末の調

(古事記) 一四三

○棚橋

(宇津上) 三六〇

○七夕

和漢朗詠集、秋

(古代) 二〇三

新撰朗詠集、秋

(古代) 三三

長歌

(近代) 二九

其歌

(萬葉上) 五五〇

同

(宇津上) 二

棚機祭

(宇津上) 一五八

同

(宇津下) 七七

喜七夕、晴(池二

川)

(和漢) 二六七

七夕姫、和讃(百阿

佛)

(和漢) 三三

たちりふと

○多馳里

(風土記) 五六

○太刀奪

(狂言上) 二六

○橘

(字津上) 二三

同〔和漢朗詠集〕

(古代) 一七

同〔新撰朗詠集〕

(古代) 三七

同

(字治) 五〇

同

(古事記) 一五

○立花〔加賀〕

(日記) 八二

○橘寺

(日記) 四六

○橘大夫

(字治) 四九

○橘の小門の阿波岐原〔古事記〕

三

○橘の樹

(宇治) 四九

○橘の姓

(萬葉上) 三三

○橘千蔭

(うけらが花) 五

賀茂家集の序

(賀茂) 一

○橘の名所

(江戸四) 四七

○立花飛彈守宗茂

(大久保) 五〇

○橘姫の故事

(江戸四) 四六

○橘姫神廟

(江戸二) 四九

○立花宗茂

(大久保) 五二

○橘安世

(石川) 一六

○橘明神社

(江戸二) 四四

○多遲麻毛理〔ときじくのかくの木實〕

(古事記) 一五

○立山

(萬葉上) 一八

○辰〔くも助〕

(脚下) 一八

○龍

(宇治) 三三

同

(宇津上) 二三

○辰五郎〔浣屋〕

用金を申付らる

手水鉢

(女太平) 一五

○龍田〔端歌〕

(日記) 六六

○立田

(近代) 二五

○立田

(田舎上) 四六

○龍田の前

(田舎下) 一三

○立田姫

(宇津上) 四三

○龍田風神祭

(祝詞) 三五

○辰内〔奴〕

(脚上) 六六

○手綱濱

(萬葉上) 四八

○立浪

(田舎上) 五五

○龍の口

(歌戎) 二三

同

(江戸一) 三

○立野舊跡

(江戸三) 六五

○辰平〔奴〕

(脚下) 三

○巽の館

(田舎下) 四六

○桶〔竹束の由來〕

(大久保) 五〇

○伊達〔風俗〕

(淨上) 四〇

○伊達安藝〔安藝を見よ〕

(江戸四) 二五

○立石

(宇津下) 六八

同

(宇津上) 一四

○たてき〔長門の孫〕

(宇津上) 一四

○忠度〔薩摩守〕 (宇治) 四三

○忠敬〔駿河守〕の節儉 (窓の) 二三

○忠平〔中納言〕 (百人) 三〇

○忠雅〔兵衛佐藤原〕 (宇津上) 三〇

○忠政〔越名彈正〕 (淨上) 三五

○忠昌の警固 (窓の) 二五

○忠まろ法師 (宇津上) 五七

○疊 (宇治) 三四

○疊へ諸道具をくつつ

けるいたづら (和合人) 二六

○忠峯〔酒井河内守〕 (女太平) 三〇

○たゝみ綿〔美濃の國産〕 (宇津上) 二六

○直轄〔橋〕

雲千里鳥一聲 (古今著) 二〇

申文 (古今著) 二三

○忠盛〔平〕

白河院の仰 (古今著) 二七

祇園女御九重錦 (淨上) 八一

○多田藥師堂 (江戸四) 一七

○忠康〔彈正宮〕 (宇津上) 二九

○忠保〔宮内卿在原〕 (宇津上) 二六

○忠之〔侍從〕 (窓の) 一四

○忠行朝臣の君臣合體 (窓の) 二六

○忠義の息女 (窓の) 二三

○忠良〔栗生左衛門尉〕

の塚 (江戸一) 四九

○尹良親王 (雅文) 三〇

○踏鞴 (宇津上) 三九

○だゝら大臣ひろむれ

〔西の國百萬石の

太守〕 (黃表紙) 二七

○多々羅の濱 (淨上) 五一

○たゝら山 (閑田) 五三

○遷却〔祭〕 祟神

祭 (祝詞) 六七

○館〔國司の廳〕 (宇治) 二三

○太刀〔刀參照〕

太刀のためし斬り (石川) 三四

楠正成の太刀 (雅文) 三六

太刀合せ (雅文) 三六

古刀の怪 (雅文) 三七

研屋 (八文字) 三六

斬魔切邪の劔 (八文字) 三六

○太刀魚 (淨上) 三九

○太刀懸の松〔六條堀川〕 (曾呂利) 五九

○手力男神

天安河原の會 (古事記) 三七

天孫供奉 (古事記) 八三

信州戸隠 (古道) 四三

- 太政大臣〔藤原某〕（字津上） 二六
- 太上の宮〔彈正の宮〕（字津上） 二六
- 太四郎（淨中） 三五
- 藤がけの御はかま（字津下） 四六
- 黄昏^{たそがれ}（淨上） 三三
- 同（田舎上） 二四
- だゝアがアま〔父母〕（淨中） 五八
- 忠明〔檢非違使〕（字治） 三六
- 忠家〔藤大納言〕（字治） 八五
- 忠臣〔主計頭〕（字治） 三三
- 忠方〔多〕の勸賞（古今著） 三八
- 忠勝〔内膳〕
- 永井尙長を切害す（窓の） 八〇
- 信綱朝臣頼智を難^ず（窓の） 三九
- 忠清の寛大（窓の） 三六
- 忠實

東宮の花の宴に召

さる

- 源兵衛佐の装束（古今著） 三五
- 唯七〔武林〕（書翰） 二三
- 多田新發意郎等（字治） 二〇
- 糺〔瓜割四郎〕（淨上） 二七
- 糺〔加茂の〕（字治） 四三
- 忠季〔頭中將〕雪の夜道の繪（古今著） 二七
- 忠相〔大岡越前守參照〕
- 糺の橋（田舎下） 一九
- 糺の館（田舎上） 二七
- 忠澄〔左大辨源宰相〕（字津上） 九
- 忠常〔仁田四郎〕（淨中） 二〇
- 忠經〔左大臣源〕（字津上） 二二
- 忠恒〔隨身〕
- わりある隨身の姿（字治） 二九

頼信にせめらる（字治） 三七

○忠輝の昇進（大久保） 五

○忠遠〔内藏允平〕（字津上） 二四

○忠俊〔右衛門督殿〕（字津上） 二七

○忠俊〔柏木〕江川坦菴へ

パンの製法（書翰） 四九

○忠長卿

後見等の立將軍の

謀計（大久保） 八〇

御生害（大久保） 一三

○忠震〔岩瀬〕介堂への短

文（書翰） 四四

○たゝにまき（日記） 四〇

○多田の奇童（遊京） 四三

○多太郷（風土記） 四二

○多田の關〔二人の人

足〕（醒睡） 五一

由來

(石川) 二九〇

○竹芝坂

(石川) 一六六

○竹芝山人

(石川) 一七三

○武女〔庚子道の記〕

(日記) 三七

○武田勝頼

將士離散

(太閤上) 六六

木曾征伐

(太閤上) 六九

父子天目山に死す(太閤上) 六二

本朝二十四孝十種

香の場

(淨上) 五五

○多藝谷城の地形

(太閤上) 三三

○竹束の論争

(大久保) 五四

○竹垂木

(曾呂利) 六三

○武田無二右衛門辻切

夜盜を防ぐ術

(窓の) 三三

○高市

(風土記) 四九

○竹帙の筥の裏に記せ

る辭井長歌

(遊京) 四〇〇

○高市社

(日記) 四九

○高市麻呂〔大神朝臣〕の

詩

(詩集) 五四

○竹千代〔家光〕

(大久保) 九

○竹採の翁

(平賀) 六四

同

(萬葉下) 三三

○竹鐵炮

(禪林) 三〇〇

○竹中織部

(書翰) 三三

○竹中氏一谷の冑

(窓の) 三五九

○竹中半兵衛

軍略

(太閤上) 一四二

信長を破る

(太閤上) 一四四

信長に降る

(太閤上) 一四四

○竹中重治

閑居を洲股に移す(太閤上) 一七三

寺僧を以て岩成等

を服せしむ

(太閤上) 二五六

秀吉に信長の心裡

を説く

(太閤上) 五九

病死

(太閤上) 五七〇

○武成〔檜熊〕淺草觀音を

得

(平賀) 五六

同

(江戸三) 四二三

○竹の内ぜいたく

(脚上) 一九四

○竹子爭

(狂言上) 五四

○竹の子婆の傳

(武野) 四八

○多氣の里

(日記) 四八四

○竹の下

(日記) 三五

○たけの太夫〔平維幹〕(宇治) 六六

○竹の園生

(淨上) 三六

○竹の葉

(宇津上) 四三三

○たけのぶ〔大矢のすけ〕

(宇治) 八五

○多枝郷 たきのさと

(風土記) 四八〇

○瀧の橋

(江戸一) 五五五

○瀧の畑

(日記) 四三三

○瀧野瓢水

(崎人傳) 五〇六

○瀧の社

(江戸二) 三四〇

○瀧不動(王子)

(江戸三) 三三三

○瀧本坊三十六人歌合

墨帖跋

(琴後) 六五〇

○多記理毘賣命 たきりびめのみこと

(古事記) 三三

同

(古事記) 六一

○澤庵(品川東海寺)

弟への手紙

(書翰) 七四

聖人無夢辭

(和漢) 三八

配所返ノ狀

(和漢) 四四

遊女の賛

(日記) 六一

東海夜話

(禪林) 七

○宅右衛門(お藏米の間)

屋

(脚上) 四八五

○宅悦(按摩)

(脚下) 一九三

○謫居の友

(書翰) 四八

○琢玉齋(よし原小歌庵)

(近代) 一五

○の子

(近代) 一五

○手草 たぐさ

(古事記) 三

○托塔天王(晁蓋)夢中聖

(水滸三) 二四三

○高來郡 たかくのこほり

(風土記) 五九

○多熊法眼(輕薄醫者)

(淨上) 二〇〇

○工匠 たくみ

(宇津下) 六四〇

○内匠(京極) たくみ

(淨上) 四三

○濯老井(賦)

(葛衣) 六一

○竹

和漢朗詠集、雜

(古代) 三三

新撰朗詠集、雜

(古代) 三四

地震に竹藪

(心學) 九三

三友

○竹馬

(石川) 四八

○竹馬踊

(骨董集) 七

○武景(下野)

(近代) 四七

○建借間命 たけかしまのみこと

(古今著) 四八三

○竹河(催馬樂、呂)

(風土記) 三九

○竹吉(無賴漢)

(古代) 一五

○武國(和氣藏人)

(女房) 二四九

○武隈(實方の墓)

(淨中) 三三

同

(日記) 一四

○竹隈の松

(宇津上) 六〇

同

(宇治) 五〇

○竹五郎

(日記) 三六

○建内宿禰

(脚上) 五九

○竹敷の浦

(古事記) 一八

○竹柴寺

(萬葉下) 二九

舊址

(江戸一) 二七

○鷹山(催馬乗、呂) (古代) 二二七

○高山右近勝入齋と先

陣を争ふ (太閤中) 二二八

○高山彦九郎(彦九郎を見よ)

○敬義(董堂) (琦行傳) 六九

○隆頼(勸學院學生) (古今著) 二〇

○寶の笠 (狂言上) 三三

○寶の鎚 (狂言下) 三九

○寶船 (七偏人) 三三

同 (田舎下) 三四

○寶物 (字津下) 八

○竹原 (字津下) 三九

○瀧井山三郎 (用捨箱) 七三

○瀧川一益

服部左京を欺く (太閤上) 一五〇

桑名を奪ふ (太閤上) 一五三

仁政を施す (太閤上) 一五五

信長より名馬を賜

はる (太閤中) 三

三國峠大田切より

亂入す (太閤中) 三六

軍中に猿樂をなす (太閤中) 四二

北條と神奈川に戦

ふ (太閤中) 四四

織田の舊臣を會し

て秀吉勝家の和

を計らんとす (太閤中) 四三

秀吉の大軍に討た

る (太閤中) 四八

桑名へ敗走す

(太閤中) 四九

蟹江に信雄が勢と

戦ふ (太閤中) 五一

○薪 (禪林) 四二

同 (字津下) 七〇

○彈碁代 (字津下) 三

○瀧口左内(近頃河原達

引) (淨下) 六一

同(猿廻門出諷) (脚上) 六六

○瀧櫻 (日記) 四〇

○多藝志の小濱 (古事記) 七

○當藝志美々命の謀 (古事記) 二九

○多喜太(岩代) (淨中) 五

○太吉(岸田) (淨中) 二九

○たき女人柱に立つ (畸人傳) 五八

○多岐都比賣命 (古事記) 三

○瀧浪(時姫のお側女

中) (淨中) 一四

○多藝の行宮 (萬葉上) 三三

○瀧の尾 (日記) 九七

○瀧野川の紅葉 (江戸四) 四七

○鷹の蟲

(花月) 五六

○高階氏

(宇治) 四六

○高橋圖南

(畸人傳) 三七

○高橋手力二王を救ふ(雅文)

五二

○孝博月たかひろに乘じて琵琶

を彈ず

(古今著)

三〇

○高間(高間寺)

(宇津上) 三八

○高たか比賣ひめ命のみこと

(古事記) 六二

同

(古事記) 七三

○多賀豐後守

鼠は盗人なり

(醒睡) 一四〇

乞食に釜を與ふ

(醒睡) 一四三

○高天原

統治の命

(古事記) 二七

所在の説明

(靈能) 二六五

平田篤胤の辨

(古道) 四三三

○高松(加賀)

(日記) 八三

○高松城

(淨中) 六

○高松城の合戦

(太閤中) 一八

○高松城の水攻

(太閤中) 一八

○高松の濱

(風土記) 四三

○高松頼重(光國卿の兄)

(窓の) 二九

○高間傳兵衛の米價調

(窓の) 一三七

節たかまど

○高圓山

(萬葉上) 三〇

同

(日記) 四三〇

○高麻山

(風土記) 五〇

○孝道(木工權頭)

(古今著) 一八

よつの緒

(古今著) 五八

僧の期詠

(古今著) 四三

○孝通朝臣啄木の曲

(古今著) 四三

○高御座巢日神

(古事記) 六

御生成

中國へ使節の議(古事記) 六九

其靈萬物を成す(直毘靈) 一六

神骨企命の別稱(靈能) 二三

天地の造物者(古道) 四九

支那の上帝・天帝(古道) 四一

印度の梵天王(古道) 四三

○篁(小野)

略傳、逸話(百人) 二〇

其廣才(宇治) 二五

○篁千古が七十の賀の

歌の跋(琴後) 六五三

○高基(衛府策中納言三春)

(宇津上) 二七

○高森正因(畸人傳) 五〇九

○鷹屋(宇津上) 三三〇

○高柳の宰相の姫(御伽) 五七三

○高家里(風土記) 五三四

○高館 (日記) 三〇

○高館市之正 (脚上) 三九〇

○高館大學 (脚上) 三九〇

○高田天満宮 (江戸二) 五五五

○高田屋嘉兵衛の手紙(書翰) 二七三

○高田彌兵衛の剛勇 (窓の) 二六〇

○高田の螢狩の狂言 (八笑人) 一五九

○高田八幡宮 (江戸二) 五四四

○高田馬場 (江戸二) 五七七

○高田富士山 (江戸二) 五五三

○舉周〔式部權大輔〕 (古今著) 二五四

○高千穂峯天孫降臨 (古道) 四四四

○高千穂宮 (古事記) 二〇一

○高坪 (宇治) 四三三

同 (宇津上) 五五五

○高槻城 (太閤上) 四三三

○高辻、室町 (宇治) 二〇六

○高綱〔佐々木高綱を見よ〕

○孝經法深房の嫡女 (古今著) 四五五

○高角山 (萬葉上) 四九

○隆貫〔左少辨〕 (淨中) 四三三

○高遠城 (太閤上) 六七四

○高燈籠 (用捨箱) 七九

同 (淨上) 二六二

○孝時〔藤兵衛尉〕

朗詠 (古今著) 五五五

大花 (古今著) 五九〇

○竹柄 (古事記) 三〇

○喬朝朝臣〔但馬守〕の

猿樂を呼ぶ心得 (窓の) 二七一

○高虎〔藤堂〕

私怨を捨てて嘉明

を推薦す (窓の) 三

具足の説 (窓の) 二六〇

○高取山 (日記) 四三三

○高直 (田舎上) 六九

○高輪〔雪の名所〕 (江戸四) 四六五

○高輪大木戸 (江戸一) 二六八

○高輪が原 (江戸一) 二六八

○高輪八山 (大岡) 二〇〇

○高嶺の雪 (花月) 五〇〇

○鷹子〔備馬樂、律〕 (古代) 二六

○多珂郡 (風土記) 四九

○託賀郡 (風土記) 五三九

○高野天皇〔孝謙天皇〕

遺詔 (宇治) 五五五

弓削道鏡を寵愛し

給ふ (雅文) 四五

○高野の犬櫻 (曾呂利) 五八

○鷹野の直訴 (大久保) 五九

○隆信朝臣の歌 (古今著) 一六

○彌が峯

(曾呂利) 六三

○彌狩

(萬葉下) 三六

同

(宇津上) 三〇

同

(古今著) 四六

○高木右馬之助

仕童を叱る

(窓の) 一六

剛力

(窓の) 三二

○高岸郷

(風土記) 四九

○高木神〔高御産巢日

神〕

(古事記) 七一

○高木の里

(日記) 八一

○隆國〔宇治大納言〕

臨時の倍從

(古今著) 九一

放生會上卿

(宇治) 三四

○高倉下たかくらじの夢物語

(古事記) 二〇六

○高倉曾平

(脚上) 三五

○高倉院

嚴島御幸御願文の

事

(古今著) 三

風月の御才

(古今著) 二五

○隆景〔小梅川〕

(淨中) 七四

○多賀御傳來孫嫡子〔所

作〕

(近代) 五四

○高砂

(日記) 三九

同〔催馬樂、律〕

(古代) 一三〇

同

○高砂の謠

(田舎下) 四四

○高砂の浦

(日記) 一六七

○高師

(日記) 三六

○高島

(石川) 一二

同

(淨上) 四九

○高志山

(日記) 一五

○高師山

(日記) 三二

同

(日記) 三九

○孝定〔尾張守〕

(古今著) 三六七

○隆季〔大宮大納言〕

(古今著) 三三七

○隆祐〔侍從〕

明義門院を悼む歌〔古今著〕 四八

橘長政の歌に感じ

て詠める歌

(宇治) 五八

○隆資卿〔四條大納言〕〔平賀〕 四八

○高須町〔堺〕の遊女地

獄

(一休) 五八

○高瀬ぶね〔端歌〕

(近代) 二四三

○誰袖たがそで

(川捨箱) 七四七

○高田稻荷神社

(江戸二) 五九

○高田敬輔

(畸人傳) 六三

○高田七面堂

(江戸二) 五九

○高忠〔越前守〕

帷子

(醒睡) 一八

侍に歌をよます

(宇治) 三四

○第六天祠 (江戸二) 二三

○大六天祠〔中郷〕 (江戸四) 一六七

○臺灣〔濱田彌兵衛の事

蹟〕 (古道) 四七五

○田歌 (日記) 三三三

○當麻寺〔萬法藏院〕に

て曼陀羅を織る事〔古今著〕 三三

○當麻里 (風土記) 三九

○太右衛門〔油屋、お染

の親〕 (淨上) 四四

○たなやめ御前〔義晴の

北の方〕 (淨上) 二七九

○鷹

鷹飼の男の話 (宇治) 一七九

しらせう (宇治) 三三三

家持の放てる鷹 (雅文) 五五

ひぢの檢校豊平の

話 (古今著) 五七

宗季唐土の鷹を得〔古今著〕 六〇五

○多賀 (古事記) 二六

○高胡床 (淨上) 二九

○高あしだ (古今著) 四七

同 (淨上) 三

○高石明神社 (江戸四) 三九

○高井戸 (江戸二) 二九四

○尊氏〔足利〕

義晴の先祖 (淨上) 二七九

一旦天に勝つ (平賀) 四七

北朝の將軍 (平賀) 四四

○鷹右衛門〔代官、鶴の

目〕 (淨上) 三二

○高尾〔紅葉の名所〕 (平賀) 四八

○高雄 (淨上) 三

同 (宇津上) 四三

○高尾〔三浦屋の遊女〕

千里へ後朝の文 (書翰) 七

綱宗に三股にて手

打にせらる (伊達) 三九

伊達競阿國戲場 (脚下) 六四

其亡靈 (脚下) 六七

同〔邑屋の太夫〕 (淨中) 三四

同〔島原の遊女〕 (淨下) 一

同〔さわぎ〕 (近代) 二九三

同〔さわぎ〕 (近代) 六四

○高岡里 (風土記) 五八

○高岡城の合戦 (太閤上) 一八

○高湊加美神の生立 (靈能) 二八

○高雄山 (遊京) 三三

○鷹飼觀音經の化身に

助けらるゝ話 (宇治) 一七九

○隆方〔權左中辨〕 (古今著) 八五

- 大兒彌五六郎 (田舎下) 二六六
 ○大寧寺〔大内義隆〕 (日記) 一五五
 同〔海藏山〕 (江戸一) 六七
 ○對の屋姫 (御伽) 四〇〇
 ○提婆達多釋迦に焼き殺さる (出定) 五七七
 ○大八〔馬かた〕 (脚上) 二七
 ○だいばの仁三 (女房) 三六五
 ○提婆菩薩 (字治) 三三〇
 ○大般若 (字津上) 八
 同 (狂言下) 四七〇
 ○大般若經 (字津上) 二五四
 ○大瓢〔菊池〕の意見書〔書翰〕 四〇〇
 ○大福長者田地帳面の喩 (禪林) 四三三
 ○大佛 (淨上) 二八三
 ○大佛再建 (大久保) 三

- 大佛殿〔京都〕の造營〔太閤中〕 六三三
 ○大佛堂の話 (心學) 四〇〇
 ○大佛と餅 (石川) 三六
 ○大佛餅 (日記) 五八
 同〔其碩〕 (日記) 六四
 ○太平〔たいへいらく〕〔近代〕 六三
 ○太平樂 (字津上) 四三
 ○大便をしながら辨當を使ふ話 (心學) 一四七
 ○大法寺〔寶珠山〕 (江戸四) 一五
 ○松明 (字津上) 九〇
 同 (字津上) 三二
 ○大名貸し (八文字) 一四
 ○大名の能〔天人の玉子〕 (醒睡) 三〇
 ○大名の物語 (花月) 四一
 ○題目踊圖詩繪香合 (骨董集) 一〇九

- 大物の浦 (淨中) 二八
 ○大文字の火 (日記) 五九
 ○鯛屋〔櫻の間〕 (石川) 四八
 ○たいらくの平馬の丞〔黃表紙〕 九三
 ○平兼盛 (百人) 二六三
 ○平惟盛の墓 (江戸二) 四〇
 ○平時忠 (淨下) 二九
 ○平俊方〔女房おいぬの灸治〕 (曾呂利) 五八
 ○平務廉〔琴後集の序〕〔琴後〕 五六
 ○大力女の話 (武野) 三九五
 ○内裏焼失 (古今著) 八六
 ○内裏御賀 (古今著) 四九
 ○大遼宋公明に破らる〔水滸三〕 六六
 ○大丁院殿喜山大居士 (淨上) 三〇三
 〔頼時の法名〕 (江戸三) 四三
 ○第六天神社

梁山泊、假信を傳し

む

(水滸二) 四〇七

錦豹子に逢ふ

(水滸二) 五三

智をもつて公孫勝

を取る

(水滸二) 六六

計を定めて蕭讓を

賺す

(水滸三) 五五

○大藏(原田)

兄弟籠城の評議

(伊達) 五五

兄弟擒となる

(伊達) 五〇

兄弟の切腹

(伊達) 六〇

○大宗寺(霞關山)

(江戸二) 二七四

○臺藏(臺七の弟)

(淨中) 四七

○大僧正行尊

(百人) 四三

○代太橋

(江戸二) 二九四

○大太郎(盜人の大將

軍)

(宇治) 八一

○大地周行の説

(古道) 四六

○太市真人(參議)

(宇治) 五五

○泰澄法師

(雅文) 五三

○大豆

(宇治) 一四

○大通

(平賀) 五七

○鯛亭記

(石川) 四四

○大天(人名)

(出定) 六四

○大唐西域記(玄奘法

師)

(出定) 四九

○大德

(宇津上) 一三〇

○大堂

(江戸二) 四四

○大同江

(太閤下) 一八

○大童子鮭をぬすむ

話

(宇治) 三五

○大德寺(紫野)の信長

の葬禮

(太閤中) 四四

○大内記(藤英の大内

記)

(宇津上) 五九

○大納言(正頼)

(宇津上) 九

○大納言公任

(百人) 三〇

○大納言大別當(清水寺

の僧)

(古今著) 二四三

○大納言經信

(百人) 四六

○大納言の君

(狹衣) 一七四

○大納言の女(あさか

山)

(古今著) 一五

○大貳(太宰)

(宇津下) 六四

○大貳三位

(百人) 三五

○大貳の乳母

(狹衣) 四六

○大目心王

(禪林) 二六

○大目堂

(江戸二) 五九

○大目坊

(淨下) 四二

○大日本史

(古道) 三八

○大日本史草稿進覽

(書翰) 一三

○對策 (字津上) 三

○大作〔相馬〕津輕侯へ

隱居勸告の狀 (書翰) 三四〇

○泰山王〔地獄の役人〕 (平賀) 一六八

○對山公

狩獵の詔 (窓の) 六九

久能參拜 (窓の) 二〇

○弘法大師高野山を開

く (淨上) 七

○大師嚴室 (江戸二) 三七

○大師河原

弘法大師の事 (平賀) 三〇〇

桃の名所 (江戸四) 元九

○大師講 (淨上) 六

○大慈寺〔普門山〕 (江戸二) 六八

○太子堂 (江戸一) 元二

同〔北本所〕 (江戸四) 一六九

○大師參り

同

○大進〔東宮の〕

○大神宮〔伊勢參照〕

同

○諦眞繫緣

○大人國

同

○諦眞止

○大盡姿

○大人先生

○大人と小人

○帝釋

○帝釋天王〔梵天〕

○大しう〔楚國の孝子

の物語〕

○大舜〔瞽叟の子〕

(和合人) 四三

(七偏人) 六六

(字津下) 三六

(江戸一) 五三

(江戸二) 二九

(禪林) 五六

(黃表紙) 六六

(平賀) 三三

(禪林) 五五

(田舎上) 五二

(燕石) 四二

(心學) 二六

(字治) 一六

(江戸四) 二七

(御伽) 二三

(御伽) 一五

○大織冠〔舞〕

○大織冠の家

○大嘗會

○大乘經〔酒の異名〕

○大聖寺

○大小ノ聯〔藤巴雀〕

○大小見踊

○大膳〔赤川〕

(醒睡) 三七

(宇治) 五四

(字津上) 一八〇

(醒睡) 一三三

(日記) 二四〇

(和漢) 六〇

(近代) 四九

吉兵衛を止宿さす (大岡) 四

惡事、素姓 (大岡) 三

吉兵衛に一味す (大岡) 五

手下を毒殺す (大岡) 六

同〔加賀見山舊錦繪〕 (淨下) 五九〇

同〔熊谷〕 (太閤下) 三六

○戴宗〔神行大保〕

梁山泊に吳川に擧

げらる

(水滸二) 二九七

瓜のかばりに大般

若

米、餅、柿の歌

ちまきうま

○大學寮の猪鹿の廟供

を止む

○對嶽樓

○大雅堂

○代官所

○大吉〔茶道具屋〕

○太祇發句選

○大饗

同

○大行院〔雜司ヶ谷〕

○大工〔能見物〕

○大宮司〔鹿島明神の

神主〕

〔古今著〕 五七

〔古今著〕 五六

〔古今著〕 五九〇

〔古今著〕 一三

〔遊京〕 四〇三

〔日記〕 五六

〔淨上〕 三三

〔女房〕 三八

〔俳句集〕 四二

〔宇治〕 三五

〔宇津下〕 四三

〔江戸二〕 六二

〔醒睡〕 三〇

〔御伽〕 一

同〔後編の勸當〕

○大工甚が削りたる箸〔鶉衣〕 七五

○大愚

女形の滑稽

定九郎

百談話

氣絶のさわぎ

○大九郎〔井上〕

○大結制

○大玄谷神

○太原城

○待賢門院堀川

○太湖

○幣間

○醍醐喻

○大こう〔鳥〕

○大孔王〔穿胸國主〕

〔宇治〕 一〇三

〔鶉衣〕 七五

〔七偏人〕 五三〇

〔七偏人〕 五七三

〔七偏人〕 六三五

〔七偏人〕 六四五

〔太閣下〕 四二〇

〔禪林〕 六三

〔淨上〕 九

〔水滸四〕 二六〇

〔百人〕 五五

〔水滸四〕 四七

〔日記〕 六六

〔出定〕 六三

〔一休〕 四四

〔平賀〕 三八

たいごく

○大曲

○大黒

同

○大黒天の倭秀吉に割

らる

○大黒柱の喻

○大黒舞

同

同

○大黒屋〔神奈川〕

○後醍醐天皇〔延喜帝を見よ〕

○大鼓橋

○大根賣

同

○大根を浮石にて洗ふ〔一休〕 五二

○大根ノ頌〔沼潜柳〕

○醍醐山城守

〔宇津上〕 三

〔石川〕 四九三

〔平賀〕 五〇五

〔太閣中〕 二六

〔心學〕 二七四

〔淨上〕 二八三

〔淨中〕 二五

〔平賀〕 二九七

〔和合人〕 四〇七

〔江戸二〕 九七

〔心學〕 一三

〔醒睡〕 一六

〔和漢〕 四六

〔大久保〕 三四〇

○染草

(字津上) 八四

○染付屋佐良右衛門

(女房) 二三

○染殿の後

(宇治) 四六

○染之丞(夕霧の禿)

(淨中) 三九

○そよ侍女)の忠死

(窓の) 三三

○徂徠(荻生)

其の詩

(詩集) 三

聖人の道の説

(書翰) 一六三

歴史を知るの要を

説く

(書翰) 一六七

居宅地

(江戸一) 一四九

墓

(江戸一) 二七五

其傳學

(大岡) 六八

○空答

(字津下) 四八

○空薫物

(字津下) 三九

○反橋

(字津上) 二七

○疎漏庵の狂詩

(川柳) 四三

○候べくい

(用捨箱) 七七

○曾呂利

元親黄金の間の鑾

應に狂歌を詠ず(太閤中) 六四

狂歌を詠みて松の

枯れしを祝す

秀吉の耳を嗅いで

福を得

寓言

タ

○攤

(字津上) 五八

○對

(字津上) 一六

○内

(字津下) 一三

○たひ(袈裟)

(字津下) 四〇

○鯛

赤女

(年々) 二七

赤海鯽魚

(古事記) 六

頼朝の日

(醒睡) 二七

犬とととの頭

(醒睡) 五一

商人の藏の口

(醒睡) 五七

鯛の故事縁語

(石川) 四六

煉鰯魚

(平賀) 一九三

○大安公(鶴を取りたる狐の語)

(窓の) 三二

○大安寺

(宇治) 五二五

○大安寺別當

(宇治) 三六八

○大威徳明王

(禪林) 元

○泰雲寺(黃龍山)

(江戸二) 五七

○大學(豐後の友方)

(淨上) 三

○大覺寺

(田舎下) 一八三

○大覺調御

(禪林) 三六

○大學の衆

(字津上) 一三

○泰覺法印

○衣通姫 (百人) 九三

○卒都婆小町 (淨上) 一五九

○卒都婆に血つきて大

山崩れ海となる老

婆の話 (宇治) 七三

○外が濱(陸奥) (淨上) 二六

○磯馴松 (江戸一) 三九三

○翠鳥 (古事記) 七三

○曾根孫六 (太閤下) 一八

○曾根好忠 (百人) 三三

○曾尼之驛 (風土記) 三六

○園木覺太郎 (崎人傳) 五三

○彼杵郡 (風土記) 五七

○其駒(神樂歌、明星) (古代) 二六

同 (字津上) 五九

○園女(女俳人、四世) (書翰) 二三

漁の妻の手紙

○其蜩そのひぐらし庵杜口の根氣(崎人傳) 四〇二

○備(黃文連)の詩 (詩集) 五八

○蘭生 (石川) 一六

○園生の方 (淨上) 五七

○園部之介(花岡) (淨中) 三二

○蕎麥 (琦行傳) 八三

お園の事

蕎麥の種類故事縁

語 (石川) 四二

蕎麥の故事縁語 (石川) 四九

蕎麥屋の引札 (石川) 四九

蕎麥切、頌(雲鈴) (風俗) 三二

蕎麥論(許六) (風俗) 二六

○曾婆加里 (古事記) 三三

○曾平(鬼山) (淨中) 一六

○曾平太(堀口) (淨上) 四〇

○曾富理神そはりのかみ (古事記) 六

○杣千代越前家相續 (大久保) 三八

○杣山踊 (近代) 四四

○尊惠(慈心坊)閻魔王宮

に到る (古今著) 六〇

○孫叛敖楚の蕞王を諫

む (古今著) 六四

○ぞんぞりこ踊 (近代) 四一

○孫新(小尉遲) (水滸二) 六八

○尊正寺 (淨中) 三七

○尊正寺和尚 (淨中) 三七

○尊勝陀羅尼 (字津上) 一七

○損料借 (心學) 五二

○孫立(病尉遲) (水滸二) 六八

○染井つゝじ (平賀) 五九

○染色盡(淨瑠璃) (近代) 三四

○染川 (日記) 一八

同(長歌) (近代) 五三

○俗呪方

(燕石) 五七

○俗字或間

(燕石) 六五

○續々鳩翁道話

(心學) 一六九

○俗名〔成功の名殘〕

(年々) 二六一

同〔寶買〕

(年々) 二六三

○則祐入道の山伏塚

(雅文) 二九

○そげ〔横藏の亡妻〕

(淨上) 三三

○素卿二子を唐土に携

ふ

(雅文) 二七〇

○蘇合〔帖の数〕

(古今著) 三三

○そこにへ〔隆景と汁〕

(醒睡) 二六六

○底倉〔箱根〕の遊興

(黃表紙) 九六

○内傷眼病の話

(心學) 一四〇

○底筒之男命

(古事記) 三五

○底津綿津見神

(古事記) 三五

○底度久御魂

(古事記) 八五

○楚辭

(平賀) 四六三

○膂肉韓國

(古事記) 八四

○蘇州

(水滸四) 四〇〇

○蘇州城

(水滸三) 六四

○素俊法師の秀句

(古今集) 二七

○蘇珊貫

(心學) 三九

○素性法師

其略傳、逸話

(百人) 一七三

夏衣の歌

(醒睡) 二六三

○租稅〔賦稅課役〕

(禪林) 五八

○祖先の勞苦

(心學) 三三

○龐相者

(淨上) 二五

○曾谷妙見尊

(江戸四) 三九

○帥の君

(字津下) 七三

○帥の平中納言

(狹衣) 二六

○帥の親王

(字津下) 八四

○そで君〔實忠の女〕

(字津上) 五二

○袖内〔奴〕濱松明神の

場

(脚下) 三

○袖くらへ

(宇治) 一四

○袖子

(遊京) 四四

○袖乞

(淨上) 三八

○袖すり松

(淨中) 二八

○蘇鐵

(淨中) 四

○蘇鐵樹の怪異

(太閤中) 一〇

○袖頭巾

(用捨箱) 八三

○袖の浦

(江戸一) 五八

○そでの香〔長歌〕

(近代) 五九〇

同

(田舎下) 四九

○そでのつゆ〔長歌〕

(近代) 五七

○袖萩〔首の袖乞に袖〕

(淨上) 三三

○袖振山

(日記) 四三

○袖宮〔正頼の十三女〕〔字津上〕二〇〇

○素堂〔義虫説〕

(風俗) 八〇

○素堂句集

(俳句集) 一七〇

- 僧坊 (字津上) 二六六
 ○像法轉の〔今様〕 (古代) 一六一
 ○宗養〔堤の祈禱の點〕〔醒睡〕 二六七
 ○草木
 其の枝 (禪林) 一六六
 木の枝垣壁の方へ
 伸びざる事 (禪林) 二〇〇
 草木類〔東齊隨筆〕〔宇治〕 四九七
 ○増譯采覽異言〔山村才助昌永の著〕 (古道) 四七〇
 ○宗良親王陣營舊址 (江戸二) 五五三
 ○早良親王種繼を殺す〔百人〕 六九
 ○草履下駄 (平賀) 四九
 ○雙林鎮
 燕青故に遇ふ (水滸四) 二二〇
 燕青雁を射る (水滸四) 三七

- 泣なり笑ふなり (心學) 三〇
 葬禮蟲 (入文字) 二六〇
 京都の風 (日記) 五九五
 桑名の風 (日記) 六六一
 くらんぼの方法 (出定) 五五
 釋迦の發心 (出定) 五七
 天若日子の葬 (古事記) 三
 ○草廬〔龍〕の詩 (詩集) 一六
 ○宗六〔大福屋亭主〕 (脚上) 四三
 ○惣六〔大福屋の亭主〕 (淨中) 四九
 ○孫王の君 (字津上) 三二
 ○楚王の墓伍子胥にあはかるゝ話 (太閤中) 二三
 ○素外〔梅翁句集序〕 (俳句) 一
 ○曾我かけ物揃〔あづま淨留利〕 (近代) 三五
 ○曾我五郎〔丹前古今

- ぶし〕 (近代) 四〇七
 ○蘇我馬子 守屋との爭 (出定) 六六〇
 惡逆 (出定) 六六五
 叛亂 (出定) 六七五
 ○曾我物語 (淨中) 五二五
 ○悼楚巾子文 (鶉衣) 七四四
 ○承香殿女御 (字津下) 四七三
 同 (字治) 四九六
 ○續飯 (字津下) 三
 ○續一休咄〔來世〕 (一休) 五五五
 ○續鳩翁道話 (心學) 八五
 ○續狂言記 (狂言上) 二五七
 ○續後朗詠集〔跋〕 (鶉衣) 七四九
 ○粟散國 (字津上) 三六四
 ○俗字解 (燕石) 四八
 ○俗事紛々 (花月) 五五

増上寺

(日記) 二七

同[瑞軒の奇智]

(琦行傳) 六九

○増上寺の僧士を救ふ(窓の) 二九四

○僧正遍昭

其逸話

(百人) 二七

其評論

(平賀) 三六

○僧正坊

(田舎下) 六三

○惣助[請人の]

(浄上) 一九

○宗全徒黨一味の連判(田舎上) 五三

○雙鎗將[董平]

(水滸三) 三四

○滄桑の變

(閑田) 八

○嗽石香[箱人齒磨]

(平賀) 二五

○蒼髯公九錫俳諧文

[并名、連]

(和漢) 三九

○總泉寺[妙龜山]

(江戸二) 五一

同[椿の名所]

(江戸四) 三六

○さうだんべい[ばや

り歌]

(近代) 五〇〇

○總持寺[五智山]

(江戸三) 五五

○掃除坊

(用捨箱) 七四

○宗椿

(田舎下) 二三

○宗長

(醒睡) 四

藻

杵の神參詣

(醒睡) 六二

下帶を忘る

(醒睡) 一九

俳諧の發句

(醒睡) 三五

○宗帝王[地獄の役人]

(平賀) 一六

○聖天の法

(字津上) 五二

○さうとうしき[忠遠]

(字津上) 四二

○雜煮

(平賀) 二六

○題像文

(鶉衣) 七六

○宗入

(田舎上) 七三

○宗入の館

(田舎上) 六四

○相人

(字治) 三四

○總寧寺[安國山]

(江戸四) 三八

○壯年と立身

(禪林) 一九

○僧の古鏡に示す辭

[李由]

(風俗) 一五

○宗栢寺[一樹山]

(江戸二) 五四

○宗廟

(江戸二) 二二

○箏譜

(字治) 四四

○草風誄

(鶉衣) 九四

○想夫戀の情

(書翰) 六三

○總兵衛[辰巳屋]

(琦行傳) 七二

同[衣笠]

(太閤下) 三六

○送別の歌[訣別參照]

(遊京) 四三

同

(遊京) 四二

同

(遊京) 四三

○送別の詞

(石川) 四三

同

(石川) 四四

同

(石川) 四三

敗る

(水滸三) 六六

蘇州城を打つ

(水滸三) 六二

夜、益津關を度る

(水滸四) 二七

大に幽州に戦ふ

(水滸四) 二七

夢に玄女の法を授

る

(水滸四) 六六

五臺山に參禪す

(水滸四) 二四

兵、黄河を渡る

(水滸四) 二三

忠、后土を感ず

(水滸四) 一九

喬道清の術に破ら

る

(水滸四) 一九

大に紀山軍に勝つ

(水滸四) 三四

智をもつて潤州城

を取る

(水滸四) 三九

大に毗陵郡に戦ふ

(水滸四) 四六

寧海軍にて孝を弔

す

(水滸四) 四四

智をもつて寧海軍

を取る

(水滸四) 五三

大に烏龍嶺に戦ふ

智をもつて清溪洞

を取る

(水滸四) 五三

錦を著て古郷に歸

る

(水滸四) 五九

神、龔兒注に聚る

(水滸四) 六七

○相左角「二方樓」記

(和漢) 四二

○曾參

(御伽) 一九

○宗參寺「雲居山」

(江戸二) 五五

○莊子

(宇治) 四四

同「木と雁」

(古今著) 六三

○冊子

(宇津下) 二四

○障子

(宇津上) 二四

○曹司

(宇津上) 二七

○雑色

(宇津上) 三六

○插翅虎「雷横」

美髯公に穩にせら

る

(水滸一) 四八

拳をもつて白秀英

を打つ

(水滸二) 六九

○草字藤説「程己」

(風俗) 三

○草子此主

(石川) 四八

○草紙の讀初

(用捨箱) 六五

○正身さうじみ

(宇津上) 二〇

○僧正が谷

(淨上) 二六

○早秋「和漢朗詠集、秋」(古代) 三三

同「新撰朗詠集、秋」(古代) 三三

○早春「和漢朗詠集、春」(古代) 一七

同「新撰朗詠集、春」(古代) 二四

○宗順阿闍梨「宇治」姿

の池

(古今著) 一六

○増上寺「三緣山」

(江戸一) 三三

○宗鑑〔山崎〕

寶寺の花

(曾呂利) 六六

小鍋詠歌

(和漢) 三〇五

○宗祇

山中行逢ひの三人〔醒睡〕 三三七

宗祇の蚊帳

(骨董集) 二七

春長の茶道

(淨中) 五

○ソウキセイの一藥

(脚下) 三二

○早道大臣

(燕石) 六四

○筆曲新譜序

(琴後) 六三

○僧綱

(宇津上) 三五四

○宗君流〔尺八の手の

數〕

(近代) 二七

○宗慶〔總持院の十禪

師〕

(宇津上) 二二〇

○宗慶寺〔吉水山〕

(江戸三) 一七

○送月堂〔記

(鶉衣) 七八

○宗湖〔堀池と質〕

(醒睡) 一九三

○さうかう院の貧窮阿

闍梨

(黃表紙) 三三

○宋公明〔宋江、及時雨、

呼保義〕

私に晁天王を放つ〔水滸一〕 四〇

怒て閻婆惜を殺す〔水滸一〕 四四

義をもつて朱全に

釋さる

(水滸一) 五一

夜、小敷山を看る

(水滸二) 三〇六

揭陽嶺にて李俊に

遇ふ

(水滸二) 三六

神行大保に會す

(水滸二) 三五九

潯陽樓に反詩を吟

ず

(水滸二) 三九〇

智をもつて無爲軍

を取る

(水滸二) 四四

還道村にて三卷の

天書を受く

(水滸二) 四六

九天玄女に遇ふ

(水滸二) 四六

祝家莊を打つ

(水滸二) 五〇

大に連環馬を破る〔水滸三〕 五

四岳華山を闢す〔水滸三〕 二二

宋江が兵北京城を

打つ

(水滸三) 二〇三

雪天に索超を擒に

す

(水滸三) 二三

夜、曾頭市を打つ

(水滸三) 三〇二

義をもつて雙鎗將

を識る

(水滸三) 三三四

九宮八卦の陣を排

ぶ

(水滸三) 四七

高太尉を敗る

(水滸三) 五九

詔を奉つて大遼を

○芹川

(曾呂利) 三六

○芹川の古跡

(田舎下) 二六

ソ

○相

異相の意義

(禪林) 二八

乞兒の相

(雅文) 一六三

餓死の相

(雅文) 一六三

高師直の相

(雅文) 一六三

變相

(雅文) 一六四

○僧

法師と宮司との闘

諍

(石川) 三六

文字知らぬ出家

(石川) 三五

琵琶法師夕立に逢

ふ

(石川) 三五

無頼の僧

(閑田) 九七

出家氣質

(八文字) 一三四

相撲好の和尚

(八文字) 四九六

比丘の看板の五百

戒

(八文字) 五七

和漢朗詠集、雜

(古代) 六三

新撰朗詠集、雜

(古代) 三七

出家と還齋

(禪林) 四七

的傳の僧

(禪林) 二七

沙門の言行

(禪林) 一五

出家の衣食住

(禪林) 一五

出家と美食

(禪林) 一四

出家を苾芻といふ

(禪林) 三三

○そう「古今百首なげ

ぶし」

(近代) 三八

○簫

(字津上) 五九

○象

(太閤下) 六八

同

(宇治) 三六

同「普賢菩薩の乗物」(宇治) 五九

○草鞋

(字津上) 五九

○棕櫚(中島)の詩

(詩集) 五一

○増圓「法眼」の蹴鞠

(古今著) 四四

○宗圓「禪寺」(八幡山)

(江戸二) 一九七

○宋遠淑「廬山公九錫

俳諧「文」

(和漢) 三六

○總右衛門「原」の母の

遺書

(書翰) 一三

○相應和尚

(宇治) 四六

○總嫁

(石川) 三八

同

(日記) 五九

同

(日記) 六四

○造花の藤

(田舎上) 三五

○僧快全の園基

(武野) 四四

○増賀上人

(宇治) 三八

○造化の功

(燕石) 六四

○仙洞の桃	(宇津上) 三三
○千度詣	(宇治) 一七
○扇徳[松の落葉]	(近代) 三三
○沾徳[水間]	(書翰) 二七
○千那[近江八景序]	(風俗) 三三
○千生瓢箪の由來	(太閤上) 一五
○千生瓢の馬印	(淨中) 三三
○仙人	
俄仙人	(八文字) 四
日本の仙人	(八文字) 五二
蓬萊山の仙人	(石川) 一五
男女の仙人の破戒	(石川) 一五
謫仙	(石川) 二五
仙となりて昇天	(石川) 三三
仙家請狀	(石川) 四二
大そんばむな	(宇津上) 一七
種々の仙術	(平賀) 四三

仙人のまれ	(花月) 一五
叡山源七	(畸人傳) 五三
○善忍[少將入道]	(古今著) 五六
○千人供養	(淨下) 三七
○先王の意義	(年々) 三四
○千利休	
妻の奇才	(太閤中) 六六
娘綾	(太閤下) 七
北野の大茶會	(太閤下) 三四
松田宗左衛門の改	
名	
○善福寺[麻布山]	(淨中) 一五
○善平	(江戸二) 一五
○錢別[和漢朗詠集、雜]	(脚) 九
○回[新撰朗詠集、雜]	(古代) 二六
○饑法	(古代) 三〇
○儀法	(宇津下) 五八
○千本通	(淨中) 一五

○千松[正岡御殿の場]	(淨下) 六五
同[歌の六儀]	(醒睡) 二五〇
○千幡君	(淨中) 五
○前磨山賦[支考]	(風俗) 四四
○善妙寺[悲願山]	(江戸二) 三四
○扇彌[醫者]	(脚下) 一八〇
○善養寺[藥王山]	(江戸三) 四七五
○宣耀殿	(狭衣) 一四
同	(宇津上) 五三
○宣耀殿の女御	(宇津下) 四七三
同	(宇治) 五三〇
○仙里紅[摺小木、箴]	(和漢) 四七六
○禪林寺僧正	(古今著) 五五六
○川柳	(八笑人) 二六
○川柳選	(川柳) 一
○泉龍寺[雲松山]	(江戸二) 三五
○宣令[刀利]の詩	(詩集) 五八

同 (淨中) 四六

同〔三國傳來〕 (江戸二) 四〇

○千手陀羅尼 (宇治) 四一

○千住大橋 (江戸三) 五九

○仙術〔分身隱形の法〕〔雅文〕 七五

○全舜法橋〔行願寺〕 (古今著) 四六

○禪定寺 (宇治) 三四

○扇子 (淨上) 五七

○泉水 (淨上) 三七

○扇子賣妙藥を製す (窓の) 一七

○千手陀羅尼 (宇津上) 一九

○扇子の曲〔琴歌〕 (近代) 六五

○千秋萬歲 (閑田) 二〇

○泉藏〔小野〕 (書翰) 三八

○淺草庵の狂歌會 (石川) 四九

○千僧供養 (宇治) 三〇

○淺草寺〔金龍山〕 (江戸三) 三七

同〔緣起〕 (江戸四) 四二

同〔淺草觀世音〕 (平賀) 二六

同 (日記) 二八

同 (脚下) 一六

○淺草寺太神宮と立花

家の家例 (大久保) 三三

○寶藏主 (書翰) 一五

○喘息 (曾呂利) 六四

○千束池 (江戸一) 四五

○千束ノ郷 (江戸三) 四八

○仙臺 (日記) 二六

○せんだいうた〔三下

り〕 (近代) 六三

○千體荒神堂 (江戸一) 三五

○仙臺靜謐の事 (伊達) 五九

○仙臺騒動 (伊達) 五三

○仙臺の諸士

江戸へ來着 (伊達) 三三

暇乞の事 (伊達) 四四

○先代萩 (淨下) 九

○千駄ヶ谷觀音堂 (江戸二) 三八

○千駄ヶ谷八幡 (江戸二) 三九

○梅檀 (宇津上) 四

○專太夫〔林〕 (淨中) 二四

○千太郎〔甲州屋の悴〕 (大岡) 三八

○先陣宇治川踊 (近代) 四六

○禪珍内供鼻の長さ (宇治) 五

○船中の英雄 (花月) 五七

○仙女香 (田舎上) 五三

○千疊鋪 (淨上) 二八

○善通寺〔眞光山〕 (江戸四) 三五

○仙洞 (淨上) 八

○全唐詩翻刻 (書翰) 三八

○專當法師〔黑龍寺の〕 (宇治) 二二

○洗玉硯

(田舎上) 三九

○千家

(日記) 一五

○淺間淵

(江戸三) 五四

○淺香

(宇津上) 三六

○專光寺〔日光山〕

(江戸一) 六八

○善光寺

如來再び信州に移

さる

(大久保) 三

祖父に姥

(醒睡) 三五

同〔南命山〕

(江戸二) 一五

○善光寺修行〔宴曲〕

(古代) 四三

○善光寺如來の出開張〔平賀〕

一三九

○定先後辯〔支考〕

(風俗) 一八五

○泉谷寺〔松龜山〕

(江戸一) 五七

○戰國時代諸候の質素〔閑田〕

一八四

○千石通

(黄表紙) 八八

○千石堀の落城

(太閤中) 五九

○千歲神樂歌、小前張〔古代〕

二〇七

○前裁〔和漢朗詠集、秋〕〔古代〕

二五

同〔新撰朗詠集、秋〕〔古代〕

三五

同

(年々) 二五

同

(年々) 三八

同

(宇津上) 八四

同

(古今著) 五八

○前裁合

(古今著) 五五

○瞻西上人

(宇治) 四五

○船山〔小島〕

(書翰) 三七

○剡子鹿の乳を得んとす

(御伽) 二五

○禪師

(宇津上) 二五

○宣旨

(淨上) 三

○宣旨書

(狹衣) 四九

同

(宇津下) 二四

○善信尼

(出定) 五二

○煎じ物賣

(狂言下) 一四〇

○千字文

(宇津下) 六八

同

(古事記) 三六

○千住

(日記) 三八

○千手院〔西塔の〕

(宇治) 四

同〔三明山〕

(江戸二) 五七

○千手院僧正〔靜觀〕

(宇治) 二二

○千手院力王の刀

(淨中) 六五

○千秋庵

(石川) 四九

○專修寺〔一行山〕

(江戸二) 一四

○撰集に入る事

(閑田) 一七

○善住坊

信長を打たと計る

(太閤上) 三〇

信長を打ち損ず

(太閤上) 四二

○千手觀世音

(江戸二) 一九

同

(淨上) 三五

内觀の要諦	(禪林) 五〇
内觀潜修の功	(禪林) 五一
禪定	(禪林) 五九
寂靜無事の處	(禪林) 七三
眞正參禪の古實	(禪林) 六一
禪林の諸聖	(禪林) 六三
正念工夫の不斷坐	
禪	(禪林) 三八
修行者の覺悟	(禪林) 四四
話頭と稱名	(禪林) 四〇
傳燈歴代の祖師	(禪林) 四七
念佛と公案との優劣	
禪家と法語	(花月) 五四
禪意	(花月) 五五
禪宗の教義	(出定) 六四
〇善惡	

善人惡人	(禪林) 三三
性の善惡	(禪林) 三七
小惡と天理	(禪林) 一五
萬事は皆純善	(禪林) 一六
善惡と堪忍	(禪林) 一七
善人の惡人と成る	
事	(禪林) 一八
善惡は雙對也	(禪林) 一五
積善	(禪林) 一七
善と年齡	(禪林) 一九
至善に止る	(心學) 一四
至善は我なしの勸	(心學) 一四
善を舉げよ	(心學) 三五
善惡應報車輪の事	(大岡) 四七
〇示先以辭	(鶴衣) 七六
〇善應寺	(江戸一) 六八
〇仙家附道士隱倫	(和)

漢朗詠集、雜	(古代) 二五
同〔新撰朗詠集、雜〕	(古代) 三八
〇線鞋靴	(宇津下) 四三
〇泉岳寺〔萬松山〕	(江戸一) 六九
〇船火兒〔張横〕	(水滸二) 三七
〇宣化天皇	
其御一代	(古事記) 元二
舊都	(日記) 四四
〇仙家道〔宴曲〕	(古代) 四三
〇千眼	(日記) 二四
〇千竿亭記	(鶴衣) 八八
〇千貫樋	(脚上) 四六
〇千觀内供の阿彌陀和讃	
〇全姜〔菊池の陶〕	(古今著) 四九
〇穿胸國	(淨上) 三四
〇宣教師の派遣	(平賀) 三八
	(書翰) 五五

○雪踏 (淨中) 六〇

同 (日記) 六四

○贊雪中柳〔東花坊〕 (和漢) 二六

○攝津二十二首〔國風〕 (近代) 五

○利帝利之王となるへ

き所以 (出定) 五九

○拙堂〔齋藤〕の詩 (詩集) 三六

○節度使 (萬葉上) 三三

○節分 (石川) 三六

同 (狂言上) 五七

○節分の鰻と狗骨むらぎ (平賀) 三九

○節分庵、記 (鶉衣) 六六

○節分賦 (鶉衣) 六三

○瀬戸 (江戸一) 六〇

同〔順風〕 (日記) 三八

○瀬戸川 (日記) 三四

○瀬戸坂兵藏 (淨下) 二六

○瀬戸崎 (日記) 一四

○瀬戸橋 (江戸一) 六〇

○瀬戸辨財大 (江戸一) 五三

○瀬戸明神社 (江戸一) 六〇

○瀬戸物屋 (黄表紙) 二三

○勢南地繁昌の狂詩 (川柳) 五五

○錢かけ松 (近代) 六〇

○錢瓶橋 (江戸一) 五三

○錢獨樂の流行 (用捨箱) 七〇

○錢藏 (女房) 五八

○勢能山 (萬葉上) 六

同 (萬葉上) 二二

○是非齋銘〔許六〕 (風俗) 一四

○是佛房〔極樂寺、牧〕 (和漢) 五九

○蟬〔和漢朗詠集、夏〕 (古代) 二〇

同〔新撰朗詠集、夏〕 (古代) 三〇

○蟬、引 (鶉衣) 七五

○蟬の小川 (曾呂利) 六九

○蟬丸 (百人) 一〇五

其略傳、逸話 (日記) 五八

相坂山 (近代) 三〇

吾妻淨瑠璃 (燕石) 七四

其考證 (宇治) 四三

盲目、琵琶 (日記) 五八

○蟬丸の社 (日記) 五八

○禪 (禪林法話集) (禪林) 一

禪の公案 (禪林) 三

禪の種類 (禪林) 二六

栢樹子の話 (禪林) 二三

古人の古則話頭 (禪林) 二六

疑團 (禪林) 二六

禪師の苦心 (禪林) 二六

禪病 (禪林) 二六

禪病 (禪林) 二六

○關の地藏 (日記) 二九二
 同 (淨下) 三二
 同〔開眼〕 (一休) 元一
 ○關の月〔櫻井主膳の妻〕 (淨中) 三三
 ○赤髮鬼〔劉唐〕 (水滸一) 三九
 ○關原甚内 (淨下) 四九
 ○石筆 (淨下) 八
 ○關文左衛門の伯父 (窓の) 二六
 ○關兵衛〔花守〕 (淨上) 三六
 ○關迎へ (田舎下) 三〇
 ○關屋里 (江月四) 三七
 ○關山 (日記) 七
 ○節供 (字津上) 二六
 ○女術誘拐の一例 (窓の) 一四
 ○是源寺の由來 (女太平) 一
 ○世親〔唯識宗〕 (出定) 六二

○膳所 (日記) 二九六
 ○世尊〔釋迦參照〕 (心學) 四六
 ○世尊寺 (宇治) 一七三
 ○世尊寺中納言 (太閤中) 三九
 ○勢田 明智左馬介浮橋を造る (太閤中) 二九
 朝景色 (日記) 四
 長橋 (日記) 三
 大伴皇子の故事 (日記) 二三
 ○世態人情〔人世を見よ〕 (江月二) 二八
 ○世田ヶ谷八幡 (字津上) 一九
 ○せた風〔第五の夢の名〕 (宇津上) 三六
 ○節約 (閑田) 一九
 ○雪隠〔廁〕 (閑田) 一九

○雪隠の珍趣向 (心學) 五
 ○節季々々の腹立 (心學) 三八
 ○節季の苦 (心學) 四〇
 ○説教 (平賀) 五五
 ○説教師の話 (宇治) 四七
 ○節儉〔儉約を見よ〕 (水滸四) 五〇
 ○浙江 (夢後) 六四
 ○雪岡禪師 (平賀) 三四
 ○雪舟 (心學) 四三
 ○殺生 (女太平) 五二
 ○殺生禁制の御觸 (日記) 三三
 ○殺生石 (宇治) 四一
 ○攝政殿〔後京極良經〕 (一休) 四七
 ○殺生人引導の狂歌 (禪林) 三〇
 ○絶食 (禪林) 三六
 ○雪山の苦行 (禪林) 四六
 ○拙僧踊 (近代) 四六

○西洋人の日本稱讃 (靈能) 二三

○精里(古賀)の手紙 (書翰) 三二

○性理の問答 (心學) 四九

○清立院(御嶽山) (江戸二) 六〇

○清涼山 (宇治) 三五

○青龍寺城の合戦 (太閤上) 二四

○清涼水 (宇治) 三九

○清涼殿 (淨上) 七

同 (宇津上) 六八

○青蓮院の座主 (宇治) 四二

○清六(野中)常陸介を諫む (太閤下) 三七

○清和源氏 (淨中) 八

○世界 (宇津上) 一四

○權 (宇津上) 三三

○瀬川(傾城) (淨上) 五三

生寫朝顔話

其逸話 (武野) 六一

○瀬川采女妻(小野菊) (書翰) 三

同 (武野) 四六

○瀬川菊之丞(路考) (平賀) 六一

○瀬川路考の傳 (江戸著) 四七

○關右衛門(羽根倉) (淨中) 五二

○關口官藏 (脚下) 二三

○關口、聯(芭蕉) (和漢) 三三

○關口八幡宮 (江戸二) 六二

○關口平太 (脚上) 四〇

○石秀(拵命三郎) 法場を劫して攫む 跳ぶ (水滸三) 一九三

病關索に遇ふ (水滸二) 五七

智をもつて斐如海 (水滸二) 五八

を殺す (心學) 二九

○關所 (武野) 六一

○石將軍(勇) (水滸二) 六七

○關助(秋月家の奴) (淨上) 五六

○石星獻に下る (太閤下) 四〇

○關所の諸所 (淨上) 三八

○石將軍(勇) (水滸二) 六七

○關助(秋月家の奴) (淨上) 五六

○石星獻に下る (太閤下) 四〇

○節季候 (七偏人) 六三

○關路(左近妻) (脚下) 三三

○せきづくし(長歌) (近代) 八一

○釋真 (宇治) 五五

○石塔の珍らしきもの(八文字) 五七

○石塔六助 (脚下) 六

○關戸空左衛門の沈勇(窓の) 六三

○關の石門 (百人) 四六

○せきのこまん(二上) (近代) 六三

○關の清水屋 (淨下) 一五

○咳の高きを自負といふ事 (閑田) 一四

てなす

(直毘靈) 二

仁政

(石川) 二九

政治の大本

(太閤上) 五八

政道の誠

(大久保) 三三

政道類〔東齋隨筆〕

(宇治) 五三

治國の道

(花月) 五五

戸富み家足る

(花月) 五六

政事といかのぼり

(花月) 五三

治民の策

(書翰) 五八

厩戸皇子の仁政

(雅文) 一九

水野元朝の仁政

(窓の) 二四〇

○聖堂

(江戸三) 一七

○聖堂を湯島に建つ

(女太平) 五

○井童平

何尾亭記

(和漢) 四八

簪傳

(和漢) 五三

○清德聖

(宇治) 四

○清寧天皇

(古事記) 二六

○勢之助殿〔に良の方腹の若殿〕

押籠の事

(金澤) 三八

變死の事

(金澤) 三七

○清八〔手代〕

(脚下) 三〇

○清範律師

(宇治) 五二

○聖廟靈瑞誓〔宴曲〕

(古代) 四三

○せいひ

(宇津上) 六二

○清風寮

(水滸二) 二九

○棲碧〔妻木〕の手紙

(書翰) 四五

○清兵衛〔加藤〕の勇智

(太閤下) 四八

○清兵衛〔ふみの父〕

(書翰) 六三

○歳暮〔和漢期詠集、冬〕

(古代) 三五

同〔新撰期詠集、冬〕

(古代) 三四

○聖寶僧正

(宇治) 三四〇

○成務天皇

(古事記) 一八三

○晴明〔安倍〕

藏人の少將を封ず〔宇治〕 六〇

僧に心みらる

(宇治) 三五

呪詛をトふ

(宇治) 四四

同

(宇治) 五〇

式部を使ふ

(出定) 四八

○晴明神をろし〔淨瑠璃〕

璃

(近代) 三七

○せいめいが瀧

(日記) 四三

○青面獸〔楊志〕

北京にて武をあら

そふ

(水滸一) 三〇

寶珠寺を雙奪す

(水滸一) 四三

○誓文

(淨上) 三一

○西門慶

王婆に計囁まる

(水滸二) 一八

武松に殺さる

(水滸二) 五

○誓文祓

(淨下) 三七

○星合寺	(脚上) 一五
○齊國	(淨上) 三五
○省察の工夫	(心學) 三三
○晴山「三村」	(書翰) 五八
○生死	
死後	(禪林) 四二
同	(禪林) 四九
同	(禪林) 五九
生死即涅槃	(禪林) 四四
生死の砌	(禪林) 一六
死の心掛	(禪林) 五六
生死一也	(心學) 三七
禪僧の教示	(心學) 五四
千人の死千五百の	
生	(古事記) 三
天皇の御壽命	(古事記) 八
人の命數	(閑田) 九

壽夭の天命	(閑田) 三
人の死穢	(年々) 三八
臨終の覺悟	(八文字) 九
○誓紙「起請參照」	(淨上) 三三
○清七「道具屋の手代」	(淨中) 六三
○制止の聲	(花月) 五五
○聖人	
何故復生せざる歟	(禪林) 二七
聖人の樂	(花月) 五七
聖人の道	(書翰) 一六
○聖人無夢辭「澤庵	
和尙」	(和漢) 三八
○誠心院「和泉式部が	
影」	(曾呂利) 五四
○勢州屋質兵衛「堅氣	
の老人」	(八笑人) 一七
○清少納言	

其逸話	(百人) 四一
古墳	(閑田) 三
○清水寺「觀世音菩薩」	(江戸三) 四三
○清水寺の繪馬	(心學) 一九
○清助	(淨下) 三九
○星夕ノ賦	(鶉衣) 七六
○性善説	(心學) 四九
○清泰院殿の貞節	(窓の) 三五
○清濁と平上去	(年々) 二五〇
○政治	
酷吏の害	(禪林) 四九
政治精論	(禪林) 五一
至無欲至公の德	(禪林) 五二
苛政虎よりも猛し	(禪林) 五三
酷吏の害	(禪林) 五八
鯉の喻	(心學) 二五
天神の御心に從ひ	

七

○性

性の善惡

(禪林) 一七

天の命これ性

(心學) 一六

性善説

(心學) 四九

性の字義

(出定) 六四

○晴雨

(花月) 五三

○晴雨の豫言

(花月) 五三

○靜雲閣主人〔若みどり〕

(近代) 五一

り

○青雲禪寺〔淨居山〕

(江戸三) 二七

○靜圓僧正

(宇治) 五三

○西王母

(閑田) 二〇

○惺窩〔藤原〕

(先哲) 二二

○青海波

(田舎上) 二四

同

(石川) 一六

○井華集〔几董〕

(俳句集) 五九

○星巖〔梁川〕

(書翰) 三八

金森龜菴へ

(詩集) 二七

其の詩

(詩集) 二七

○蛻巖〔梁田〕の時

(詩集) 九四

○栖岸院〔村高山〕

(江戸二) 一八

○靜寛院宮〔親子内親王、和宮〕

(江戸二) 一八

橋本少將へ徳川家

(書翰) 四一

存立の事

(書翰) 四一

臣下へ戊申の告諭〔書翰〕

(書翰) 四一

○誓閑寺〔龜鶴山〕

(江戸二) 四二

○誓願寺

(淨上) 三二

同〔田島山〕

(江戸三) 四〇

同〔豐徳山〕

(江戸三) 五〇

同

(淨下) 四二

○成願禪寺〔多寶山〕

(江戸二) 四八

○清閑寺智眞

(琦行傳) 六九

○聖觀音

(宇治) 二九

○棲霞丁養信士〔與茂作の戒名〕

(淨中) 五五

作の戒名

(遊京) 四四

○世義寺

(禪林) 三六

○精氣神の三物

(脚下) 四九

○清吉

(脚下) 四九

○靜區〔宇津木〕の父へ

(書翰) 四六

遺書

(水滸四) 五三

○清溪洞

(日記) 二九

○清見寺〔膏藥〕

(太閤下) 八五

同〔秀吉の話〕

(太閤中) 二九

○栖賢寺〔秀吉の剃髮〕

(燕石) 五九

○西江月

(江戸三) 三七

○清光寺〔醫王山〕

(江戸一) 五五

○西向寺〔青木山〕

(江戸二) 四六

○西迎寺〔紅葉山〕

(江戸二) 四六

○董の名所

(江戸四) 四〇

○寸善尺魔

(大久保) 三六七

○順の舞

(宇津下) 三六七

○駿府二丁街

(日記) 三二五

○皇産靈神の名義

(古道) 四二七

○相撲

業村強力の學士に

逢ふ

(宇治) 三二五

還鑾

(宇津上) 八三

相撲道樂

(八文字) 三

和尚と神主

(八文字) 四九六

勸進相撲

(八文字) 四九六

最手、占手

(古今著) 三三三

深更密々にとる

(古今著) 三三六

家光の語

(大久保) 四七

相撲の古圖

(閑田) 一五七

關相撲

(淨上) 五八

博士に書を借らん

とす

(石川) 三〇

釋迦ヶ嶽と一寸法

師

(古道) 四七

相撲取黒船

相撲の喩

○すもり

(燕石) 五九

○すもりこ

(心學) 三三

○籠

(宇津上) 一〇三

○摺狩衣

(宇津下) 一〇六

○摺小木箴(仙里紅)

(宇津上) 三三

○修理職

(和漢) 四六

○摺鉢傳

(宇津上) 九

○受領

(鶉衣) 五八

○駿河

(宇津上) 三六

○駿河歌(東遊)

(宇津上) 三〇四

○駿河國歌

(古代) 一四

同

○駿河三首(國風)

(萬葉下) 三三

○駿河臺

(近代) 六

同(淺之進の假庵)

(江戸一) 八五

○駿河大納言

(平賀) 三九

○駿河の次郎

(大久保) 四七

○駿河文庫

(淨下) 三二

○素浪人

(日記) 一八四

○洲羽海(諏訪湖)

(淨上) 六

○諏訪效驗(宴曲)

(古事記) 七

○諏訪社(立川)

(古代) 四八

○諏訪の湖

(江戸二) 三九

○諏訪法性の兜

(淨上) 三六

○諏訪明神

(淨上) 三六

○諏訪明神社(小石川)

(淨上) 三六

同(日暮里)

(江戸三) 二六

同(駒形)

(江戸三) 四六

○須磨の詫住 (田舎上) 五四

○炭(白き灰を尉といふ

事)

○墨 (禪林) 二二

○墨をする法 (淨上) 三四

○すみねり藁 (禪林) 二〇八

○墨染 (宇津下) 一九七

○墨染 (宇津下) 望三

○墨染櫻 (醒睡) 一八九

○墨染寺の櫻 (曾呂利) 五七

○隅田河 (江戸四) 一九

○隅田河 (江戸四) 四九

○隅田河 (日記) 一〇八

○隅田河 (日記) 一七三

○隅田河 (日記) 五〇四

○隅田河 (石川) 二〇九

○隅田河 (石川) 三七

○隅田河 (近代) 四四

同(千陰) (うけり) 二六三

同 (和合人) 二六四

○隅田川涼賦 (鶴衣) 五九

○隅田河堤 (江戸四) 二〇七

○隅田堤の狂言 (八笑人) 七四

○隅田川の花見 (八笑人) 七四

○隅田川花のしがらみ

〔狂言〕 (八笑人) 望

○隅田川渡 (江戸三) 五四

○隅田宿 (江戸四) 二三

○炭取 (宇津下) 三九

○炭取瓢箪銘 (和漢) 五四

○墨塗女 (狂言上) 三〇三

○住の江(片岡が娘) (淨中) 一四七

○墨江中王

謀逆 (古事記) 三九

水齒別命に誅戮せ

らる (古事記) 二四二

○墨江の三前の大神 (古事記) 二六

○角倉丁以の河川の改

頁 (崎人傳) 四七四

○すみもの (宇津上) 五七〇

○住吉 (日記) 六八

同(顔つゝみし男) (醒睡) 一八二

同(松齋庵) (醒睡) 三四

○住吉四社 (淨上) 四九

○住吉の御門 (心學) 三一

○住吉の神慈覺大師に

託宣 (古今著) 七

○住吉の社 (宇治) 四四

○住吉明神社(佃島) (江戸一) 一八三

○住吉明神の御利生 (曾呂利) 六四

○筆 (年々) 三三

○董野 (田舎下) 八七

雀の字

○雀が浦

(閑田) 三六
(江戸一) 六七五

○雀島

(風土記) 五八

○雀の宮

(淨上) 三四

○硯

(淨上) 三四

同

(宇津上) 二七一

同

(石川) 三三三

○硯巖文

(鶉衣) 七三三

○硯箱

(醒睡) 三八

○硯蓋

(骨董集) 九七

○須勢理毘賣大穴牟遲

(古事記) 五二

神の婚姻

(古事記) 五二

○呪詛

(宇津上) 三四

○須田河原

(江戸四) 二七

○筋違橋

(江戸一) 八五

○筋屋

(和合人) 三五四

○鼈の執念

(閑田) 一三九

○捨すて(人名)

(田舎下) 二四一

○捨小舟端歌

(近代) 二二三

○捨子

(近代) 二二三

捨子と老尼の間違(石川) 三六

三州藤川宿の捨子(大風) 四四

捨子の話

(心學) 二八〇

○捨てあるといふ小歌(用捨箱) 七二

○崇徳院

(百人) 五二六

御略傳

(百人) 五二六

白河僧正増智

(古今著) 五二七

○砂尾不動院

(江戸三) 五五〇

○砂平

(脚上) 四四五

○勝當

(淨上) 九

○脛蓋

(狂言上) 二四七

○簀子

(宇津上) 二八

○すのまた川

(石川) 三〇

○洲股の砦城

(太閤上) 一六一

○洲股の渡(美濃國)

(宇治) 四三四

○酢薑

(狂言上) 元

○洲濱(島臺)

(宇津上) 二二〇

○洲濱川(加賀)

(日記) 八二

○條布里

(風土記) 四三

○須比知邇神

(古事記) 六

同

(靈能) 三三三

○角櫃

(宇津下) 一九

○聲出藥

(七偏人) 五五

○須磨

(日記) 一六八

同

(日記) 三八

同

(淨上) 四九七

○須磨硯記

(鶉衣) 八〇六

○須磨の浦

(田舎上) 五四〇

○須磨曲(琴歌)

(近代) 六三

○須磨の巻

(田舎上) 四九八

○須磨の別れ

(田舎下) 三三

暴戻 (古事記) 三
 道放 (古事記) 元
 八俣蛇退治 (古事記) 四
 大國主命を苦しむ (古事記) 二
 天照大御神との誓 (靈能) 二六
 宇氣母智神を斬る (靈能) 二七
 大蛇退治 (靈能) 二七
 須佐郷 (風土記) 四九
 崇神天皇 御一代の記 (古事記) 一五
 四道將軍 (古事記) 一四
 任那の朝貢 (歌戎) 三
 鯖物 (宇津上) 五五
 崇峻天皇 御一代の記 (古事記) 二九
 猪 (出定) 六五
 錫 (淨上) 二七

鈴 (淨上) 九
 鈴鹿 (日記) 七
 同 (日記) 三三
 同 (日記) 二九
 鈴鹿の山賊 (日記) 二一
 鈴鹿山 (日記) 七
 同 (日記) 三三
 同 (日記) 二九
 同 (石川) 一五
 鈴之川 (催馬樂、呂) (古代) 一四
 鈴鹿川 (日記) 七
 鈴が森八幡宮 (江戸一) 三五
 すゝき (燕石) 四三
 薄の切腹 (御伽) 六九
 すゝきの前 (鱸) (黃表紙) 四
 鱸庖丁 (狂言上) 三四
 涼 (源) (宇津上) 四三
 生絹 (宇治) 二六

生絹の袋 (宇津上) 四〇
 鈴堀山 (風土記) 五〇
 鈴蟲 (宇津上) 四九
 同 (よし原小歌) (近代) 二六
 鈴蟲松蟲 (花月) 五八
 雀 (古事記) 三
 確女 (宇治) 二八
 恩を報ゆる事 (宇治) 二八
 實方中將の執心雀 (宇治) 五三
 になる (近代) 八〇
 軒端の雀 (近代) 八〇
 實方朝臣 (近代) 八〇
 雀の道 (禪林) 一五
 雀の梅干食ふこと (八文字) 四六
 唐齋雀を愛す (琦行傳) 六四
 繼母と子 (醒睡) 二六
 雀の子 (閑田) 二六

- 菅笠踊 (近代) 四二
 ○菅笠日記〔本居宣長〕(日記) 四七
 ○すげ笠ぶし〔一節切證歌〕 (近代) 二八
 ○資賢〔朝臣〕 (古今著) 三六
 ○助兼〔伴〕 (淨上) 一八九
 ○助川 (風土記) 四九
 ○祐清〔伊藤九郎〕 (黃表紙) 九
 ○助左衛門〔糟屋〕 (太閤中) 四六
 ○佐實 (古今著) 五七
 ○助十〔駕籠舁〕 (大岡) 四六
 ○祐澄〔右近中將源〕 (宇津上) 九
 ○佐國祭主になりて配流の事 (古今著) 三
 ○助大盡 (淨上) 五九
 ○菅大膳の陰謀 (窓の) 三四
 ○輔親〔祭主三位〕 (宇治) 五三

- 祐親〔伊藤〕 (窓の) 九五
 ○助綱〔左衛門尉平〕 (古今著) 三八
 ○資仲郷〔藏人頭〕 (宇治) 五三
 ○佐法印〔仁和寺〕 (古今著) 八二
 ○相規〔安樂寺作文序〕 (古今著) 二〇
 ○助八 (脚下) 五二
 ○助仁〔荆〕の詩 (詩集) 五九
 ○祐宗〔少將〕 (宇津上) 一八四
 ○資通〔大貳〕 (古今著) 三三
 ○助六〔總角の〕 (平賀) 二四
 ○助六後日〔あづま淨留利〕 (近代) 三七
 ○雙六 (宇治) 一七
 ○雙六 (曾呂利) 六三
 ○同 (宇津上) 三三
 ○同 (淨上) 二〇
 ○同 (和漢) 三四
 ○雙六行〔華表人〕

- 雙六僧 (狂言下) 二七
 ○雙六盤 (淨上) 二二
 ○寸莎すさ〔瑞軒の新工夫〕〔琦行傳〕 六七
 ○須佐川 (風土記) 四四
 ○洲崎 (江戸一) 六四
 ○洲崎の千鳥 (江戸四) 四六
 ○洲崎辨財天 (江戸四) 三
 ○洲崎明神祠 (江戸一) 五三
 ○朱雀院 (宇津上) 九
 ○朱雀門 (宇治) 七
 ○同 (宇津下) 六三
 ○須佐之男命 誕生 (古事記) 二六
 ○追放 (古事記) 二八
 ○子生の誓 (古事記) 三〇
 ○所生の神 (古事記) 三三

○洲乾辨財天祠	(江戸一) 五八
○菅幸良(風俗)	(古代) 一五
○すがりといふ語	(閑田) 二三
○須賀川	(日記) 三三
○菅原(能登)	(日記) 八三
○菅原道真(菅公參照)	
紅梅殿	(曾呂利) 五二
其の宛	(閑田) 六六
○菅原櫛	(平賀) 二九
○菅原孝標	(石川) 三〇
○洲河原桃林	(江戸一) 四七
○菅原や伏見の里	(字津上) 一六
○杉(鍵人)	(淨中) 三九
○還魂紙 <small>すがへし</small>	(平賀) 一五
同	(淨中) 五三
○すき米	(字津上) 四四
○次田溫泉 <small>すきた</small>	(萬葉上) 二九

○杉田の梅	(江戸四) 五七
○杉戸	(田舎上) 一七
○杉の門序	(鵜衣) 六七
○杉の木	(字津上) 五三
○杉のしづえの序(干藤)	(うけり) 二九
○杉の森	(淨中) 九三
○杉の屋(能登)	(日記) 八四
○杉生 <small>すきはえ</small>	(田舎上) 一六
○すきばこ	(字津上) 一五
○杉本	(日記) 八八
○杉本甚内	(脚上) 四七
○杉森稻荷	(江戸一) 二五
○數寄屋御門勤番の模様	(大久保) 三四
○すきやてぬぐひ(半太夫ぶし)	(近代) 六五

○杉山加右衛門	(窓の) 三六
○杉山檢校	(崎人傳) 四三
○杉山神社	(江戸一) 五九
○杉山半六	(江戸著) 四九
○杉山明神社(久本)	(江戸二) 三三
○誦經(布施)	(字津上) 三〇
○宿世	(字津上) 三三
○宿世燒	(骨董集) 二五
○少名毘古那神 <small>すくなびしなのかみ</small>	
國土定治	(古事記) 三
外國經營	(靈能) 二四
外國を治む	(靈能) 二九
○村主 <small>すくら</small> 豐丸角丸の骸を燒く	(雅文) 四〇
○助右衛門(奥村)	(太閤中) 六二
同(粹屋別家の手代)	(淨中) 三七
○菅笠	(田舎上) 三九

○水練〔竹生島のお僧〕(古今著) 四九五
 ○水論智 (狂言下) 二五
 ○數〔物の數〕 (禪林) 三七
 ○醉賣の翁〔僧桃水〕 (崎人傳) 一七三
 ○季明〔左大臣〕 (宇津上) 三三三
 ○季兼〔備後前司〕 (古今著) 三三四
 ○末茂〔紀〕の詩 (詩集) 五七
 ○季武 (古今著) 三〇三
 ○末武〔卜部〕 (淨中) 五七
 ○季親〔漏剋博士〕 (古今著) 五三三
 ○季綱〔春日の社の神人〕 (古今著) 五五
 ○末摘花の容貌 (曾呂利) 六二
 ○季直少將 (宇治) 三四三
 ○季仲〔太宰帥藤原〕 (淨上) 八一
 ○末の松山 (閑田) 五三
 同 (日記) 三八

○すゑ額 (宇津上) 五五四
 ○末ひろがり (狂言上) 九
 ○末廣松 (江戸一) 四七
 ○季英〔藤原〕^{すゑふさ} (宇津上) 四四
 ○居風爐 (日記) 六九
 ○居風呂船 (骨董集) 二五
 ○末平藏 (古道) 四七五
 ○季通〔駿河前司橋〕 (宇治) 六三
 殃に逢はんとす (宇治) 三六
 其父則光 (宇治) 三六
 たけくまの松 (宇治) 五〇
 ○末森母子の自害 (太閤中) 五七
 ○末吉不動堂 (江戸一) 四九六
 ○素襖落 (狂言上) 五〇
 ○周防四首〔國風〕 (近代) 九
 ○蘇枋簾 (宇津下) 四四
 ○蘇枋の長櫃 (宇津上) 五六

○周防内侍 (百人) 四七
 ○周防内侍の家 (宇治) 四八〇
 ○醋貝〔頌壺天〕 (和漢) 四三
 ○すがゝきかはり〔さわざ〕 (近代) 六七
 ○すがゝきのうた〔さわざ〕 (近代) 六四
 ○すが子にかはりて (琴後) 五七
 〔春海〕 (淨中) 四二
 ○姿繪 (江戸二) 五七〇
 ○姿見の橋 (川柳) 四六五
 ○鄒可潭の狂詩 (窓の) 三
 ○菅沼喜左衛門 (宇治) 一三三
 ○すがれ〔素鐵〕 (風土記) 五八
 ○周賀郷 (古事記) 四三
 ○須賀の宮 (淨上) 三〇五
 ○菅養

○師走坊主

(用捨箱) 七三

ス

○素足

(淨上) 五

○隨意車

(石川) 二九〇

○翠雲樓

(水滸三) 二六三

○水音舍ノ記

(鶉衣) 九二

○西瓜

(淨上) 三

○瑞岩寺

(日記) 三〇

○水干裝束

(宇津上) 七

○醉龜亭

(石川) 四〇

○醉龜亭酒百首の序

(石川) 四三

○醉鶴亭ノ記

(鶉衣) 九九

○隨求陀羅尼

(宇治) 二

○隨見屋鋪

(江戸一) 一六三

○隨高坊〔智積院〕

(女太平) 一五

○悼水國公〔蓮二房〕

(和漢) 二六六

○水國の發句

(江戸著) 四四

○水滸後傳

(日記) 三三

○推古天皇

(古事記) 二七

○隨身

(宇治) 四四

同

○水神社〔目白〕

(宇津上) 一八

○水心亭の記

(遊京) 三八

○醉人と花子の長

(閑田) 一二

○水晶

(平賀) 二六

○瑞聖寺〔紫雲山〕

(江戸二) 七

○水晶簾

(淨上) 三

○隨時樓の記

(琴後) 五三

○綏靖天皇

(古事記) 三

○すゐぜい塚

(日記) 四六

○水仙

(石川) 三三

○水仙の名所

(江戸四) 四七

○水陳人

○戲影法師

(和漢) 二八一

○薊の花

(和漢) 二九八

○吸付け烟草

(黃表紙) 二四八

○水道橋

(江戸一) 八五

○垂仁天皇

(古事記) 一四四

○隨八百

(醒睡) 四

○水破兵破の二つの矢〔平賀〕

(醒睡) 四

○水飯

(宇津下) 四〇五

同

○隨筆の姿

(宇治) 二〇四

○水豹

(年々) 三三五

○睡眠

(淨下) 二四

○睡の故事縁語

(石川) 四七〇

○睡るも佛心覺むる

(石川) 四七〇

○佛心

(禪林) 三三五

○瑞林寺〔慈雲山〕

(江戸三) 二六〇

○水龍〔笛の名〕

(宇治) 四九三

○死靈

(田舎上) 三六四

○しる谷越

(日記) 五九二

○知るといふ事

(禪林) 二五

○しるはの磯

(日記) 三八

○悼子禮文

(鶴衣) 六六

○四郎(岩淵の和田)

(淨上) 八五

○次郎(縣)

(淨上) 一八九

同(新開)

(淨中) 一五

○次郎冠者踊

(近代) 四三

○次郎君(光氏)の骨相

(田舎上) 三

○四郎左衛門(三浦屋)

(大岡) 二六

同(糟谷)

(御伽) 三六

○師勞之

(石川) 五七

○白澤様(雜藝)

(古代) 一六

○四郎正尙

(田舎上) 二二

○素人の地

(平賀) 五四

○次郎の君

(田舎上) 三

○銀の狛犬

(宇津上) 三四

○白猪

(古事記) 一七

○次郎吉(樽拾)

(脚下) 四九

同(小兵衛忤)

(脚下) 二八

同(料理人、實名峰松)

琴次郎

(女房) 一四

同(實は足利松壽君)

(淨上) 三九

○代小川

(江戸二) 五七

○白小袖淺黄の上下

(年々) 三五

○白粉地藏

(七偏人) 六三

○白子屋一件裁許申渡(大岡)

五五

○白子屋お熊

仇名の辨

(江戸著) 四六

不義

(江戸著) 四〇

養父の毒殺を企つ(江戸著)

四四

○白子屋阿熊之記

(大岡) 五九

○次郎左衛門(駒澤)

(淨上) 八六

○二郎作(船頭)

(淨中) 三四

○白鹿

(古事記) 一七

同

(淨上) 一五

○次郎助

(脚上) 五五

○二郎太夫(百姓)

(醒睡) 二八

○四郎兵衛(番頭)

(大久保) 二八

同(小池)

(女太平) 三九

○次郎兵衛(膏藥)字の

由來

由來

(窓の) 一八〇

○白無垢

(大久保) 三六

○白女(丹後守玉淵が

女)

城山

(古今著) 一七

同(關戸)

(江戸一) 二四

○しろりんず(半太夫

ぶし)

ぶし)

(近代) 六七

○白蠟

(宇津上) 三四

○白妙 (雅文) 三二
 ○白川夜舟 (淨上) 二〇
 ○白雲 (淨上) 五
 ○しらげ〔精米〕 (宇津上) 一五
 ○白鷺 (宇治) 四六
 ○白洲 (淨上) 五五
 ○白須賀 (日記) 六八
 ○白菅 (日記) 三〇
 ○白砂 (淨上) 四
 ○白たま〔吾妻淨瑠璃〕 (近代) 三〇
 ○白栢組 (脚下) 六
 ○しらつゆ〔二上り〕 (近代) 六八
 ○しらつるばみの唐衣〔宇津上〕 三三
 ○白鳥郷 (風土記) 四四
 ○白鳥の御陵 (古事記) 一八〇
 ○白鳥の關の名の由來〔雅文〕 二九
 ○白根嶽 (日記) 三三

○白幡〔源氏の〕 (淨上) 一八九
 ○白旗塚 (江戸三) 五五
 ○白旗八幡宮 (江戸一) 四九七
 ○白鳩裂 (淨下) 三三
 ○白羽の鐙矢 (淨上) 三〇
 ○白張はかま (宇津上) 五八
 ○白髭明神社 (江戸三) 三九
 同 (江戸四) 一五
 ○白拍子〔延年唱歌〕 (古代) 五九
 同〔大磯の白拍子〕 (八文子) 四六
 ○白拍子の歌〔延年唱歌〕 (古代) 五七
 ○白日別〔筑紫〕 (古事記) 二
 ○しらま弓 (宇津上) 三三
 ○風 須佐之男命頭の風〔古事記〕 三
 道行風の妹背坊 (平賀) 二八

花見風 (平賀) 二九
 風の手品 (石川) 三七
 風のいろく及び 其故事 (石川) 四三
 狂歌 (曾呂利) 六四
 ○白蟲〔柱の中に一年〕〔古今著〕 六三
 ○白峯〔甲斐〕 (日記) 三
 ○白山〔新三、角力取〕 (淨上) 一六
 ○しら雪〔二上り〕 (近代) 三七
 ○自力と他力 (禪林) 三八
 ○尻久米細しりくめなほ (古事記) 三
 ○しり暗い觀音 (用捨箱) 六五
 ○尻精 (宇津上) 三二
 ○尻取り〔言葉の〕 (平賀) 四七〇
 ○しりへの位〔後宮〕 (宇津上) 五四
 ○絲綸一聲〔延年唱歌〕〔古代〕 五八
 ○二龍山 (水滸一) 四七

初冬〔新撰朗詠集、

冬〕

(古代) 三四

○徐寧〔金鎗手〕

(水滸三) 三三

○徐福蓬萊山に不死の

藥をもとむ

(平賀) 三五

○初發心

(淨上) 七〇

○しもじ〔土御門家

支配の標〕

(閑田) 二〇

○所勞

(淨上) 三

○白猪道祖王を匿ふ

(雅文) 四六

○白井權八

(脚下) 四

○白石

(日記) 三五

○白石嘶

(淨中) 五五

○白糸

(田舎上) 四

○しらいと

(日記) 五〇

○白梅

(淨下) 四三

○しら髪の翁〔高良の

神使實は一味齋〕

(淨上) 四九

○白髮畑の恠

(遊京) 四六

○新羅

(宇治) 九三

同

(宇津上) 二八

○白菊猿掛の岸に怪

骨を射る〕

(雅文) 三五

同〔清姫の娵〕

(淨中) 二七

同〔端歌〕

(近代) 二六

○新羅組

(宇津上) 三五

○新羅國の后

(宇治) 四三

○白木の琴

(宇津上) 一九

○新羅舞

(宇津下) 六九

○白樫踊

(近代) 四八

○白壁王〔大納言〕

(宇治) 五〇

○白壁大藏の大夫うり

すゑ

(黄表紙) 三四

○白河

(日記) 一

同

(淨上) 三五

同

(宇津上) 六八

同〔乞食〕

(曾呂利) 六六

○白河院

物にそはれさせ

給ふ

(宇治) 一四

賢子中宮を御寵愛〔宇治〕 五八

箏と鐘の聲 (古今著) 二四

雪見の御幸 (古今著) 四三

大雪 (古今著) 四三

寵童と樂の祕事 (古今著) 四四

○白川峠 (日記) 五九

○白川の關 (百人) 四五

同 (日記) 一四

同 (日記) 三三

○白川法皇 (淨上) 七九

○白河法皇 (宇治) 三〇

○正丁緑の説 (禪林) 二五

○精靈祭 (心學) 二五

○聖靈祭文(李由) (風俗) 二六

○淨瑠璃

一中節の初 (窓の) 二二

説教 (窓の) 二二

豊後節 (窓の) 二三

正本 (平賀) 二三

○淨瑠璃本刊行の初 (用捨箱) 二六

○上るり御せんやりを

とり(あづま淨留

利) (近代) 二六

○淨瑠璃づくしの地口(七偏入) 二二

○精靈(柳と柳) (淨上) 七

○正蓮(中野長者)墳墓(江月二) 四九

○乘蓮寺(孤雲山) (江月三) 二六

○松蓮壽昌禪寺 (江月二) 四二

○上六大夫とう(鶴)を

射る (古今著) 二六

○しよがえぶし(二上

り) (近代) 二六

○鋸花生簾 (鶴衣) 二七

○諸葛臥龍 (淨上) 三〇

○諸葛孔明の木馬 (石川) 二四

○書畫の眞偽 (書翰) 二六

○書契 (古今著) 二〇

○初江王(地獄の役人) (平賀) 二六

○觸穢しよくえ (字津下) 二六

○職業

紙帳賣 (用捨箱) 七三

家業を厭ふ心 (心學) 二七

家業の心掛 (心學) 四二

○蜀山人(四方赤良を見よ)

○職人盡歌合中の名目(閑田) 二五

○植物化して魚となる

事 (閑田) 二四

○食物(飲食參照)

大氣津比賣神の作

製 (古事記) 二九

食物と色このみ (年々) 二七

○書寫山(播磨國) (字治) 二八

○書寫上人

闇魔宮よりの訴へ(古今著) 八〇

寫影と地震 (古今著) 三三

遊女宮木の歌 (字治) 三三

○處生(人生を見よ)

○諸大夫 (年々) 三五

同 (年々) 三八

同 (字津上) 四四

○諸天善神 (淨上) 六三

○初冬(和漢朗詠集、冬)(古代) 三四

連歌

繰繰を免がる

(太閤上) 二四
(太閤中) 三二

○小親王(周通)

(水滸一) 一五

○正八幡宮

(浄上) 二四

同・

○浄飯王

(出定) 五九

○菖蒲〔あやめ参照〕

(宇津上) 一七

○菖蒲冑

(骨董集) 一四

同

○菖蒲刈踊

(近代) 四七〇

○菖蒲草

(浄上) 一六六

○菖蒲草馬肝

(琦行傳) 六七七

○笙吹音取の相論

(古今著) 三九

○正福寺玉念の説法

(太閤中) 一六

○勝福寺舊址

(江戸一) 四九四

○正平太〔奴〕

(脚下) 二六

○庄兵衛〔溝尾〕の自殺〔太閤中〕 三九

○小便

女兒の立小便

(日記) 五六

小便と酒の間違

(七偏人) 四七

小便所の制札

(大久保) 一六六

小便所の再建

(大久保) 一六六

しとの滑稽

(古今著) 四六

○聖寶僧正

(古今著) 四六

○勝曼〔茶屋〕

(浄上) 四七

○稱名

(禪林) 四七〇

○稱名寺〔金澤山〕

(江戸一) 六〇八

同〔諸源山〕

(江戸二) 三七三

○稱名寺の三重の塔の

由來 (日記) 一二三

○稱名寺の中納言爲相

短冊 (醒睡) 一六六

○常明寺兼好書

(遊京) 四四

○證文の一例

(雅文) 五八

○蔣門神

(水滸二) 一〇七

○莊屋

(金澤) 三五

○常夜燈

(浄上) 二六四

○庄屋の庄左〔はやり

歌〕

(近代) 四八

○昭陽殿〔季明の長女〕

(宇津上) 五三

○逍遙遊序〔東花坊〕

(和漢) 三七

○常樂院〔天忠日信〕

(大岡) 六

同〔寶王山〕

(江戸三) 四七四

○勝樂寺〔辰爾山佛藏

院〕

(江戸三) 一三三

○小李廣〔花榮〕

梁山に雁を射る

(水滸二) 二九〇

軍威を振ふ神箭

(水滸四) 一四三

○勝林山金地院

(江戸一) 二四二

○昌林寺〔補陀山〕

(江戸三) 三八

○常林寺

(平賀) 二六四

合せ

佛又右衛門

興三右衛門

正直米屋

○正直正太夫

○小竹〔篠崎〕の詩

○松竹梅天和政要

○小智は大道の敵

○椒女〔養由が娘〕

○賀小女〔辭〕

○勝定院

○蕉中長老

○正貞〔梵妻〕

○松丁牧〔松茸狩〕

○聖天供

○聖天宮

○淨土〔極樂を見よ〕

(八文字) 四〇

(八文字) 四一

(琦行傳) 七六

(大久保) 二六

(脚上) 五四

(詩集) 三三

(江戸著) 四六

(閑田) 二〇

(平賀) 四五

(鶉衣) 八六

(馭戎) 一三

(崎人傳) 五五

(淨中) 三八

(和漢) 二九

(宇津上) 五三

(江戸三) 五九

○松濤〔家里〕の手紙

○松塘〔鍾〕の詩

○常燈

○正燈寺〔東陽山〕

○正燈寺の紅葉

○聖德太子

○厩戸皇子の御名

○南嶽大師の再來

○天地開闢の説

○其評論

○病難

○佛法をひろめ給ふ〔古今著〕

○淨土寺〔平河山〕

○淨土宗

○日蓮宗と宗輪

○念佛

○少納言の君

(書翰) 三〇

(詩集) 四六

(宇津上) 二三

(江戸三) 四四

(江戸四) 四五

(出定) 六六

(出定) 六七

(心學) 五六

(平賀) 三八

(禪林) 五

(江戸二) 四三

(太閤中) 二〇

(心學) 五三

(宇津上) 一七

○小楠〔横井〕の手紙

○城南寺祭

○少人

○小兒をあやすにバア

といふこと

○少輔入道〔寂蓮〕

○淨念寺〔化用山常

照院〕

○少年の夙成

○庄野

○燒米の俵

やき米
しやうのふえ

○笙

○紹巴

○案山子

○一遍上人の尼

(書翰) 五〇

(曾呂利) 六三

(淨上) 七〇

(骨董集) 三〇七

(宇治) 四八

(江戸三) 四四

(書翰) 三二

(日記) 二〇〇

(日記) 二九

(古今著) 一三

(宇治) 二〇四

(醒睡) 六三

(曾呂利) 六〇

住人

(古今著) 五

○少將の命婦

(狭衣) 一五

○少將の内侍

(狭衣) 一五

○昌次郎(憑司の忤)

(大岡) 三〇五

○祥葉和尚

(騎行傳) 六七

○庄助(鷹匠)の立功

(大久保) 四三

○勝助(毛受)の勇戦討

(大久保) 四三

死

(太閤中) 五九

○上手の意義

(禪林) 三〇七

○昌西法師竹生島の祈

(太閤上) 三〇

願

(宇治) 四六

○上西門院

(宇治) 四六

○正雪(由井)の墳

(日記) 五二四

○小旋風(柴進を見よ)

(和漢) 四六

○沼津柳(大根、頌)

(和漢) 四六

○將曹(市垣)

(淨中) 五七

○淨藏

死人の手より獨鈷

を得

(古今著) 四

八坂の坊に強盗入

る事

(宇治) 二七九

雲居寺草創

(平賀) 五八

同(めでたき笛吹)

(宇治) 四六

○松操庵記

(鶴衣) 八六

○正藏院(藥龍山)

(江戸二) 五三

○承兌秀吉をなだむ

(厭戎) 一八三

○戯談から駒

(大久保) 四六

○生智(僧)

(古今著) 七

○正直

(古今著) 七

龜田久兵衛

(崎人傳) 一九三

位田鑑兵衛

(崎人傳) 二七四

山科の農夫

(崎人傳) 二七六

宇谷の龜

(崎人傳) 二七六

八幡の老農

(崎人傳) 二七六

長命寺旅舎の主

(崎人傳) 二七九

三熊生

(崎人傳) 二七九

原田長兵衛

(崎人傳) 四六九

治良兵衛

(崎人傳) 五九八

室町燭

(崎人傳) 六〇七

乞食の話

(窓の) 三〇

芝浦の魚屋

(窓の) 三〇

商家の僕

(窓の) 一六三

足輕座頭を救ふ

(窓の) 一六六

辰巳屋の祖父

(窓の) 二四三

士盜みし金を返す

(窓の) 二四四

川越の若者

(窓の) 二九八

愛久津彌太郎

(窓の) 三三三

人の心は眞直なも

(心學) 四〇

の

(心學) 四〇

清九郎の正直

(心學) 三三三

正直の頭に宿る仕

(心學) 三三三

○庄三郎〔白子屋〕

(大岡) 五七

○上座法師

(宇治) 三四

○象山〔佐久間〕

藤田東湖へ

(書翰) 四八

綿貫東陽へ

(書翰) 五〇

姉へ

(書翰) 五〇

三村晴山へ

(書翰) 五八

山寺常山、三村晴

山へ

(書翰) 五五

其の詩

(詩集) 四八

○晶山〔鍋田の手紙〕

(書翰) 四三

○常山〔山寺〕

(書翰) 五五

○淨三真人〔文室〕

(宇治) 五〇

○せうしさわぎ

(近代) 二九

同〔端歌〕

(近代) 六四

○庄司〔佐藤の舊跡〕

(日記) 三四

○情死〔心中を見よ〕

○尙齒會

(閑田) 八七

同

(古今著) 一九

同

(百人) 五五

○庄七〔古手屋〕

(脚下) 二四

○障子のたてつけ

(心學) 九七

○性信〔二品親王〕

(古今著) 五二

○少進〔東宮の〕

(字津下) 五三

○小人と大人

(禪林) 二三

○精進の工夫

(禪林) 三五

○聖信房〔くゝたち〕

(古今著) 五七

○淨心寺の阪東薪水の

墓

(平賀) 二七

○淨心寺〔大覺山〕

(江戸三) 三八

同〔法苑山〕

(江戸四) 三六

○淨眞寺〔九品山〕

(江戸二) 二七

○成就院

(遊京) 四六

同〔新田山〕

(江戸一) 四六

○尙州

(太閤下) 一四

○松秀寺〔冬嶺山〕

(江戸二) 六一

○松壽君〔假の名次郎〕

吉

(淨下) 三四

○松壽丸〔小倉〕の討死

(太閤中) 一〇四

○丞相附執政〔和漢期〕

詠集、雜

(古代) 二七

同〔新撰期詠集、雜〕

(古代) 三六

○蕭讓〔聖手書生〕

(水滸三) 五五

○猩々

(淨上) 四七

○小乘阿含部

(出定) 六二

○猩々庵原松

(畸人傳) 二九

○正上座〔行快〕海賊を

射伏す

(古今著) 三九

○靜勝寺〔自得山〕

(江戸三) 三三

○證誠殿

(淨上) 一五

○少將の聖〔大原山の〕

は立たぬの眞義(心學) 四八八

商人の心得 (心學) 四八六

物祝ひする商人 (醒睡) 三八八

そら贅文 (曾呂利) 六三〇

○上行寺〔六浦山〕 (江戸一) 五五九

○承香殿 (宇津上) 五三三

○承香殿の御息所 (宇津上) 五三三

○性空上人 (武野) 四〇五

白象の語 (武野) 四〇五

生身の普賢菩薩を 見る (宇治) 五八

○上宮太子堂 (江戸三) 四四四

○將軍〔和漢朗詠集、雜〕(古代) 三七四

同〔新撰朗詠集、雜〕(古代) 三七七

○將軍塚 (江戸三) 六六

○庄九郎〔粹屋の番頭〕(浄中) 三六四

○淨慶〔僧〕(浄中) 三六〇

○松月庵 (和合人) 三三三

○松月院〔萬吉山〕 (江戸三) 四八

○松月鈔〔吉田邑琴子〕(近代) 六一

○照月の一幅 (脚下) 一八四

○將監〔赤橋〕 (浄中) 四七

○上弦下弦 (閑田) 四

○正眼假名法語 (禪林) 二四七

○松源寺〔蒼龍山〕 (江戸二) 五七

○聖護院 (浄上) 五七三

同 (浄下) 四三

○常光寺〔光照山〕 (江戸一) 三九

同〔長立山〕 (江戸二) 一九八

同〔西歸山〕 (江戸四) 一三四

同〔來迎松と龍燈松〕(江戸四) 四八三

○淨興寺〔龍龜山〕 (江戸四) 二六六

○召公夷の甘棠の故事〔日記〕 六一

○勝光禪院〔延命山〕 (江戸二) 二〇六

○正五九月 (燕石) 二七一

○正五九月辨補 (燕石) 六三〇

○相國拜賀の御能番組〔大久保〕 四六〇

○淨居天〔悉陀の發心〕(出定) 五二八

○上古の海道 (江戸一) 三七五

○招魂賦〔支考〕 (風俗) 七

○庄五郎の孝行 (窓の) 九一

○庄五郎〔岡野〕 (書翰) 二六二

○遣庄五郎書〔楠正成〕(和漢) 四〇四

○尙齋〔三宅〕

秦山より神道につ

いて (書翰) 一五五

剛齋より陽明學に

ついて (書翰) 一六二

○常在〔中間法師〕 (古今著) 一九三

○庄左衛門の問答 (一休) 五三三

○尙左堂 (石川) 四五三

商人の兵法稽古 (八文字) 二七

商賣と宗旨 (八文字) 二七

商家の息子氣質 (八文字) 二七

商賣と詠歌 (八文字) 二七

商人の手本 (八文字) 二七

三人の子の試験 (八文字) 二七

蜘蛛の教訓 (八文字) 二七

買置のは非 (八文字) 二七

掘出し癖 (八文字) 二七

商人軍配圖 (八文字) 二七

商人の貧福 (八文字) 二七

客置なる商人 (八文字) 二七

古手形 (八文字) 二七

色道に踏込みし律 (八文字) 二七

氣商人 (八文字) 二七

廢物利用の富 (八文字) 二七

金の溜るも峠あり (八文字) 二七

成上り者の教訓 (八文字) 二八

商人の刃物目利は (八文字) 二八

大疵の基 (八文字) 二八

一代の胸算用 (八文字) 二八

女の鑑の後家酒屋 (八文字) 二八

渡世の品玉 (八文字) 二八

梅子より工夫 (八文字) 二八

針積つて金の山 (八文字) 二八

儲くる道 (八文字) 二八

買置の儲 (八文字) 二八

兄弟の商法 (八文字) 二八

天命 (八文字) 二八

兄弟の貧福 (八文字) 二八

正直の頭に宿る仕 (八文字) 二八

合せ (八文字) 二八

紙商賣 (八文字) 二八

商賣と無妻 (八文字) 二八

出水より金儲 (八文字) 二八

二代の長者 (八文字) 二八

道に背きし活業 (八文字) 二八

茶器商人の自慢 (八文字) 二八

隣同志の兩長者の (八文字) 二八

由來 (八文字) 二八

商人と家主 (石川) 二八

刀の鋸商ふ男 (石川) 二八

商人茶碗を碎く (石川) 二八

柑子の價 (石川) 二八

貧商の妻の諫言 (石川) 二八

番頭の異見法事 (石川) 二八

商人の道 (心學) 二八

商人の學問 (心學) 二八

商業道德問答 (心學) 二八

實利は商人の道 (心學) 二八

商人と屏風は直に (心學) 二八

書學について

(書翰) 三八

市川米庵の書論

(書翰) 三八

背頁守しよひまもり

(田舎上) 三三

書院

(淨上) 三〇

笙

(宇津上) 六

箏

(宇津上) 六

簫の切りやう

(近代) 一五

正一位子明神社

(江戸二) 一五

祥一郎(駒澤)

(淨上) 五九

正一位鷲大明神社

(江戸三) 五三

松陰寺(仙鶴山)

(江戸一) 五二〇

松陰(吉田)の妹への

(書翰) 五三四

手紙

松陰(後藤)の詩

(詩集) 三五三

招隱文(東花坊)

(和漢) 四八

祥雲寺(瑞鳳山)

(江戸三) 二四

祥雲禪寺(瑞泉山)

(江戸二) 五四

○庄右衛門(年行司)

(淨上) 三六

○商鞅の族刑

(窓の) 三五五

○紹鷗の墓

(日記) 三三

○稱往院(一心山)

(江戸三) 四三

○松翁道詒

(心學) 二五三

○象海和尚

(閑田) 八三

○上覺(出雲寺別當)

(宇治) 三六

○聖覺法印

後鳥羽院に答へ奉る

(古今著) 七五

後鳥羽院四十九日

(古今著) 七五

の御導師

(古今著) 四四

にやまきはらまき(古今著) 四三

○正月(新年を見よ)

(江戸一) 四七

○成願寺(醫王山)

(江戸一) 四七

○正觀世音

(江戸二) 一六五

○靜觀僧正

(江戸二) 一六五

雨を祈る

(宇治) 四

大嶽の岩を祈る

(宇治) 四

仙人に逢ふ

(宇治) 二四

○祭嘯花文

(鶉衣) 七三

○嘯花誄

(鶉衣) 九三

○鍾馗(戸守)

(日記) 五三〇

○將基

(平賀) 三六七

同

(平賀) 四四

○鍾馗畫讃

(鶉衣) 六六

○鍾馗大臣(一休の讃)

(一休) 四七五

○鍾馗の讃

(石川) 四七

○正休(稻葉)

(窓の) 八

○承久亂

(百人) 七五

○上卿

(年々) 三六二

○商業、商賈、商人

(八文字) 四

商上手

(八文字) 四

茶屋の亭主

(八文字) 三〇

○春秋の論

(古道) 四〇〇

○潤州城

(水滸四) 三九

○順聖「大夫阿闍梨」

(古今著) 五八

○俊乘の蓮華臨羯の話(畸人傳) 二六

○俊乘坊東大寺建立 (古今著) 二四

○春水「頼」

其の詩

(詩集) 一七

尾藤二洲の推薦狀(書翰) 三九

○しゆんせう坊踊

(近代) 四九

○俊成

略傳、逸話

(百人) 七七

定家の勅勸

(古今著) 一六七

鑰あづかり

(古今著) 四六

○順藏「浅井」

(淨上) 六一

○春臺「太宰」

其の詩

(詩集) 六

服部南郭へ

(書翰) 一七

○春泥發句集

(俳句集) 六七

○春濤「森」

松濤より

(書翰) 三〇

其の詩

(詩集) 四三

○順德院

其御傳、逸話

(百人) 七四

高陽院行幸

(古今著) 三七

○淳和天皇

(御伽) 二三

○駿馬塚

(江戸三) 五二

○須彌山

(淨上) 三七

○春夜「和漢朗詠集、春」(古代) 一七四

○順興和尚

(武野) 三七

○順禮

(淨上) 五〇

同

(淨中) 四九

同

(心學) 三八

○順禮歌

(淨中) 四九

○順禮踊

(近代) 四三

○順禮道者

(淨上) 八九

○順禮與左衛門に子を

託す

(畸人傳) 四七

○壽夭の天命

(閑田) 三

○聚樂の第

(太閤下) 三〇

○修羅の巷

(淨上) 二八

○修理「板倉」

(窓の) 九三

○鐘樓しゆろう

(淨中) 三三

○壽老人「贊」(正親町公

通)

(和漢) 三五

○櫻欄の毛の成佛

(一休) 五三

○書

古筆鑑にも載らぬ

珍品

(八文字) 五二

小野道風の中風前

の書

(八文字) 五七

千里の面目

(古今著) 三九

○壽源寺〔普照山〕

(江戸二) 三五

○壽光先生傳

(鶴衣) 八六

○秀才

(宇津上) 三

○儒士憲法

(禪林) 五三

○呪師小院〔童〕

(宇治) 一六三

○主人の行狀の是非

(心學) 五三

○朱雀帝

(淨上) 一〇七

○朱壽昌

(御伽) 三〇五

○衆生

(宇津上) 二

○殊勝の意義

(禪林) 一六四

○拄杖^{しゆちやう}

(狂言下) 二二

○述懷

松平樂翁より某へ(書翰) 三九

俳諧寺一茶より由

誓へ

(書翰) 三八

和漢朗詠集、雜

(古代) 二四

新撰朗詠集、雜

(古代) 三六

夜咄する衆の中間(醒睡) 二九七

○出家の功德

(宇治) 三六

○出產

難產の滑稽話

(心學) 一四

御產の古式

(石川) 三二

藤壺の女御の男子

御產

(狹衣) 五七

○出水と深山の男

(花月) 五二

○術道〔百濟國舶來の書〕

(古今著) 二九

○壽亭ノ記

(鶴衣) 八〇

○朱廸〔酒德ノ頌〕

(風俗) 二三

○酒吞童子

(御伽) 二九

同

(八文字) 三九

○朱全〔美髯公〕

(水滸一) 五一

○衆道〔男色を見よ〕

(風俗) 二三

○酒德ノ頌〔朱廸〕

(風俗) 二三

○從二位家隆

(百人) 七九

○修入〔驗者〕

(古今著) 四八

○壽福禪寺〔仙谷山〕

(江戸二) 四三

○俊惠法師

略傳、逸話

(百人) 五三

道員法師と歌合

(曾呂利) 六四

○春嶽〔松平〕

(書翰) 五六

○俊寛

俊寛の跡目

(八文字) 五九

女よりの手紙

(書翰) 一〇

○春鹿樓〔審夢〕

(石川) 四七

○順欽

(醒睡) 五九

○順慶町の夜見世

(日記) 六四

○春興〔和漢朗詠集、春〕(古代) 一七三

同〔新撰朗詠集、春〕

(古代) 二九五

○峻山和尚

(琦行傳) 八二

○壬申の亂

(萬葉下) 四九三

險崖の嶺

(禪林) 四三

勸發菩提心偈

(禪林) 五五

學問の眞義

(心學) 一六

身の養ひ

(心學) 五三

書物と本心

(心學) 四〇

修行の功

(心學) 五五

學ぶの道

(田舎下) 一七

治心の要

(書翰) 七

○十羅刹女堂

(江戸三) 三

同〔板橋〕

(江戸三) 四九

○十郎秩父

(浄上) 一八九

同〔はんがへ〕

(浄中) 三三

○十六〔宴曲〕

(古代) 五五

○十郎兵衛

(浄中) 三三

○宗論

(狂言上) 三五

同〔安土の大會合〕

(太閤中) 二四

○宗論人

(平賀) 四八

○首夏〔和漢期詠集、夏〕(古代) 一九

同〔新撰期詠集、夏〕(古代) 三四

○受戒 (字治) 三三

○儒學〔學問參照〕

氣の清濁と賢愚 (禪林) 八三

儒學と音曲 (八文字) 四六

腐儒の智恵自慢 (八文字) 四三

儒道の評 (直毘靈) 二〇

佛學と儒學との廣

狹 (古道) 六四

儒學と和學 (年々) 五五

儒者と詩文 (心學) 四六

○宋貴〔旱地忽律〕 (水滸一) 二九

○修行

娘が追福の爲の四

國修行 (石川) 六六

素直なる修行者 (石川) 三三

○修行者

百鬼夜行に逢ふ (字治) 二九

梅の花笠 (字治) 四一

幽玄なる僧を見る (字治) 四五

宇都山 (日記) 三四

○祝家莊

宋公明に打たる (水滸二) 五七

南宋公明に打たる (水滸二) 五二

三たび宋公明に打

たる (水滸二) 六三

○祝家店

宿光寺〔定家卿〕 (曾呂利) 六六

○宿坂關の舊跡 (江戸二) 五七

○宿執 (古今著) 四〇

○宿太尉〔元景〕 (水滸四) 二〇

○夙といふ種類 (閑田) 二二

○宿曜の勘文 (字治) 五九

○祝言寺〔萬年山〕 (江戸三) 四三五

○衆虎心を同して水泊

に歸す (水滸三) 八九

○周光山濟海寺 (江戸一) 三六五

○十五夜〔新撰朗詠集、

秋〕 (古代) 三七

同 (宇津上) 六八九

○主殺・親・ころしの例 (年々) 三九四

○宗參寺〔瑞龍山〕 (江戸一) 四八九

○十三塚 (江戸二) 三四五

○秋色櫻 (江戸四) 四〇三

○執著 (心學) 三九一

同 (心學) 三九四

○舅卯右衛門の勘忍 (心學) 一九〇

○秀松軒〔松の葉〕 (近代) 一五五

○十助 (淨下) 四三三

○十節度使議して梁山

泊を取らんとす (水滸三) 五三

○秋千居記 (鶉衣) 八〇〇

○十藏〔いげの〕 (黄表紙) 三九

○秋邨〔柴〕の詩 (詩集) 三九

○十内〔小野寺〕

妻へ復讐の決意 (書翰) 九五

妻へ江戸下著後 (書翰) 九

同〔加賀見山舊錦繪〕 (淨下) 五三

○十南〔畫師〕 (脚上) 六四八

○十二獸 (燕石) 二七三

○十二獸追考 (燕石) 六六七

○十二神將 (禪林) 一五

○十二所權現社 (江戸二) 四四五

○十八樓記〔芭蕉〕 (風俗) 二〇五

○秋晚〔和漢朗詠集、秋〕 (古代) 三六

同〔新撰朗詠集、秋〕 (古代) 三三五

○賛秋風像〔蓮二房〕 (和漢) 二六〇

○秋風樂 (宇治) 四三

○十兵衛〔伊賀越乗掛

合羽〕 (脚上) 二八八

同〔五大力戀絨〕 (脚下) 二五

○十兵衛娘文を身賣の

事 (大岡) 三四

○入雲龍〔公孫勝〕

法を聞はしめて高

廉を破る (水滸三) 二

百谷嶺を圍む (水滸四) 二二〇

○秋夜〔和漢朗詠集、秋〕 (古代) 三六

同〔鞠ヶ瀬〕 (淨中) 五六

○修養〔學問參照〕

學と祿 (禪林) 一四〇

氣を丹田に收む (禪林) 三五四

眞正の參禪 (禪林) 三六一

病中の修業 (禪林) 四〇四

○舍警挽歌 (鶉衣) 七二

○奢侈

娘の奢 (八文字) 二八

女の奢侈 (八文字) 二九

奢の果 (八文字) 三三

奢侈と惡心 (禪林) 一六

身の榮耀 (禪林) 三五

酷は奢の影なり (禪林) 六三

奢侈を禁ず (石川) 五〇

○射衛〔弓參照〕 (石川) 二六

○鯁 (淨中) 一四

○しやちほこのつゝ熊(黃表紙) 一七

○車匿釋迦との別れ (出定) 五〇

○娑婆 (宇治) 一七一

○娑婆世界 (宇津上) 二三

同 (淨上) 四七

○邪法の鏡(佛) (脚上) 五〇

○沙彌島 (日記) 三一

○三味線〔さみせん〕參照

證歌 (近代) 一四

石村檢校 (近代) 一五

習ひやう (近代) 一四

絲合せ習ひやう (近代) 一四

種々の歌に對する

三味線引やう (近代) 一四

調子を聞き習ふこ

と (近代) 一五

たがやさんの三味

線 (黃表紙) 四

都の商人と宿の女

房 (醒睡) 二五

香久山勾當の話 (八文字) 四六

○舍利 (宇治) 四六

○舍利講 (古今著) 三七

○しやれけんの繪圖 (黃表紙) 一四

○體 (一休) 四六

○洒落姿 (淨上) 三〇

○しやれの塊 (黃表紙) 一六

○呪 (淨上) 九

○主一無適 (禪林) 一五

○十一面觀音 (宇治) 二九

○十一屋 (淨下) 四六

○秀海長老 (醒睡) 一六

○藏鞠〔けまり〕を見よ

○秋興(和漢朗詠集、秋)(古代) 二四

同〔新撰朗詠集、秋〕(古代) 三四

同〔宴曲〕(古代) 四二

○十五 (日記) 二三

○十玉院 (江戸三) 四

○秀句大名 (狂言上) 六三

○祝言〔宴曲〕(古代) 四五

其妄説 (靈能) 三六

出山の語 (禪林) 四三

五十年の説法 (禪林) 三三

五千卷の大藏 (禪林) 一七三

雪山の苦行 (禪林) 四六

其大悟 (禪林) 四五

涅槃會と誕生會 (石川) 三六

入滅 (淨上) 八

○釋迦ヶ嶽と一寸法師(古道) 四七

○じゃがたら文 (書翰) 九

○釋迦堂(雜司ヶ谷) (江戸二) 六九

○邪鬼執念 (淨上) 三三

○射御ノ辭(許六) (風俗) 一九三

○笏 (淨上) 四

同 (石川) 一三六

同 (宇治) 五五

○寂阿(春海より送られ

し書) (琴後) 六六

○借金(金錢參照)

松尾芭蕉より向井

去來へ (書翰) 二六

蒲生君平より岡井

仁右衛門へ (書翰) 二七

○釋教(宴曲) (古代) 四八

○杓子(今出川の齋) (一休) 四〇

○石神井城址 (江戸三) 三

○石神井明神祠 (江戸三) 三

○釋氏憲法 (禪林) 四六

○杓子の古製 (用捨箱) 六七

○杓子ノ頌(伊東恕) (和漢) 四三

○杓子ノ銘 (鶴衣) 八八

○石神社 (江戸一) 三〇

○寂照上人(三河入道) (宇治) 三六

○寂靜坊 (醒睡) 三三

○積善院 (醒睡) 四八

○尺田の神事能 (醒睡) 三七

○石塔といふ祈禱のわ

ざ (年々) 三六

○尺八 (近代) 二七

同 (宇治) 四三

同 (淨上) 五三

○尺八の手 (近代) 三

○尺八の音取 (近代) 三五

○尺八吹きやう (近代) 二九

○寂寞阿闍梨 (田舎上) 一六

○寂蓮法師

瓜と皆空の法問 (古今著) 六四

略傳、逸話 (百人) 六九

○石榴風呂 (醒睡) 三

○碑碣 (宇津上) 三三

○與舍整子文 (鶴衣) 六九

立皇

〔古事記〕 二五

○神馬

〔宇津上〕 二五

○神明宮〔早稻田〕

〔江戸二〕 二六

同〔深川森下〕

〔江戸四〕 二六

同〔龜戸〕

〔江戸四〕 二四

同〔行徳〕

〔江戸四〕 二二

○新もしほぐさ〔長歌〕

〔近代〕 二四

○潯陽江

〔水滸二〕 二七

○潯陽樓

〔水滸二〕 二五

○新吉原

〔江戸四〕 四九

同

〔淨中〕 二〇

○新吉原遊女町

〔江戸三〕 二九

○森羅亭〔中良〕の滑稽

〔琦行傳〕 七四

○親羅丸〔後親羅聖人〕

〔淨上〕 二二

○新羅明神の託宣

〔古今著〕 六

○親鸞

肉食妻帯の宗旨〔出定〕 六六

信行一致の説

〔書翰〕 二九

○申位日本兵を恐る

〔太閤下〕 一四七

○親類の女づきあひの

弊害

〔八文字〕 三五

○興晉路辭

〔鶴衣〕 六九

○親和〔三井〕

〔琦行傳〕 六九

○親和染

〔琦行傳〕 六九

○しめじが原

〔百人〕 四六

同

〔淨上〕 二五

○濕米野

〔曾呂利〕 五三

○霜〔和漢朗詠集、冬〕

〔古代〕 三六

同〔新撰朗詠集、冬〕

〔古代〕 三六

○下總三首〔國風〕

〔近代〕 七一

○下總國歌

〔萬葉下〕 二七

同

〔萬葉下〕 三六

○下加茂

〔淨上〕 二八

○下河邊長流

〔崎人傳〕 二五

○下川原

〔淨上〕 二八

○しもさほそり〔葉手〕

〔近代〕 一六

○下飯訪

〔淨上〕 二八

○下田開港

〔書翰〕 四八

○下野詞の訛

〔近代〕 八〇

○下野三首〔國風〕

〔近代〕 九

○下野國歌

〔萬葉下〕 三三

○下の關節〔はやり歌〕

〔近代〕 四三

○下村道瑞の詩文音伴

〔崎人傳〕 四九

論

○蛇

〔禪林〕 三

同

〔淨上〕 二八

同

〔淨中〕 三三

同

〔古今著〕 五三

○釋迦〔佛、佛教參照〕

其一代の事業及評

論

〔出定〕 五一

神道類〔東齊隨筆〕〔宇治〕五三

○神道〔田徑の名〕〔江戸二〕三七

○神童〔閑田〕一〇三

○神道源八〔脚上〕四〇

○新道心に贈る辭〔丈草〕

〔風俗〕六

○進藤野守之助〔脚上〕一九四

○信徳院〔慶喜の母堂〕〔書翰〕五五五

○慎徳公〔書翰〕四一九

○新利根川〔江戸四〕三三

○新飛〔立花の〕〔平賀〕四

○甚内〔杉本〕〔淨中〕四七三

同〔脇坂〕〔太閤中〕五八

○新なげぶし〔近代〕一五

○新日暮里〔江戸二〕二七九

○眞如堂〔田舎下〕九

○新年

其光景

六條の新館

正月の行事

新年の賀

新年の料理

○親王附王孫〔和漢朗詠集、雜〕

〔古代〕三七

同〔新撰朗詠集、雜〕

○甚野右衛門〔藏本〕

○神農、像讃〔涼菟〕

○秦の始皇

○新之丞〔百姓〕

○心奪

○晉伯清正に斬らる

○新場九郎兵衛

○新橋

○甚八

〔田舎上〕二七九

〔田舎下〕四六

〔石川〕四六

〔太閤中〕四九

〔七偏人〕五七

〔古代〕三七

〔古代〕三五

〔太閤下〕三六

〔風俗〕二六

〔淨上〕四

〔一休〕五三

〔狂言下〕五八

〔太閤下〕四〇

〔武野〕三六

〔江戸一〕三二

〔脚下〕三三

○新版歌祭文

○新日吉の社

○眞佛房

○辛抱

○神木の祟

○新米大阪

○新米非人

○新町橋〔大阪〕

○人民

民力

土農工商

百の御寶

民詞

○神妙劍の一巻

○進命婦

○神武天皇

東征

〔淨上〕三九

〔閑田〕六

〔淨上〕二八

〔心學〕四

〔閑田〕五〇

〔脚下〕六

〔淨中〕五三

〔日記〕六三

〔花月〕五二

〔禪林〕四七

〔禪林〕六二

〔和漢〕三九

〔脚下〕四

〔宇治〕二七

〔古事記〕一〇三

○新藏^{あたら}〔大佛〕

(淨上) 九

○任藏〔樓〕

(書翰) 三九

○身體

四大六根

(心學) 一九

身を軽く持つ可し

(禪林) 一五五

身宅の六門

(禪林) 三五

人體の生成

(禪林) 三五〇

○深大寺〔浮岳山〕

(江戸二) 三〇四

同〔蕎麥〕

(江戸二) 三三

同〔城跡〕

(江戸二) 三三四

○新宅の披露

(石川) 四三

○心中

無名次たとへ

(黃表紙) 二四九

心中違ひ

(八文字) 三〇三

はつ磯五郎

(石川) 四〇九

心中論

(石川) 四〇〇

情死

(燕石) 五九〇

○心中江戸三界〔はやり〕

歌

(近代) 四一

○心中しゆん〔はやり〕

歌

(近代) 四〇

○心中立

(淨上) 三

○新中納言

(字津下) 三七六

○鎮鑰屋の金魚

(用捨箱) 七九

○神通

(出定) 五四

○神通川の合戦

(太閤中) 六三〇

○震天雷日本軍を驚かす

(太閤下) 三三

○新太郎〔賀次〕九度の

弓

(古今著) 三〇六

○神道〔神參照〕

天照大神の受け賜

ふ道

(直毘靈) 一六

舍人親王異國の道

に泥む

(直毘靈) 二七

日本神道と支那神

道の差違

(直毘靈) 二七

儒道に依り解釋す

るの非を論ず

(直毘靈) 三三

老莊との類似

(直毘靈) 三四

名稱の起り

(直毘靈) 四六

深遠計り難し

(靈能) 二五

佛法を加味す

(靈能) 三六

神道に對する篤胤

の所信

(靈能) 三七

神道の説明

(古道) 四三

日本水土考の説

(古道) 四六

垂加の中祖

(先哲) 五二

谷泰山の説

(書翰) 一五

桶屋の神道と加々

美櫻塙

(畸人傳) 四九

○甚五左衛門の剛勇 (窓の) 三二

○親嚴(僧正) (古今著) 七四

○眞言院 (字津上) 四六

同〔百螺山鳳閣密寺〕(江戸二) 一五

○眞言宗

其起源 (出定) 六三

祕密の極意 (出定) 六八

阿字觀 (出定) 六三

○新五郎〔進藤〕 (女太平) 七

○甚五郎〔立原〕 (書翰) 一六

○新五郎長龍〔齋藤〕 (太閤中) 二三

○仁齊〔伊藤〕の詩 (詩集) 一

○新宰相〔實賴〕 (字津下) 三六

○新左衛門〔井上〕 (淨上) 三三

同〔古郡〕 (淨中) 三二

○甚三郎〔岩井〕 (金澤) 二九

○秦山〔谷〕の手紙 (書翰) 一五

○篠^{しんし} (淨中) 五四

○神事

其解説

火忌の説

○進士の間

○神社の位階

○眞宗

○晉州城の合戦

○信州善光寺燈明

○新十郎〔戸部〕 (江戸三) 四七

○新宿

○新嘗會

○新少將

○心昌の辭世

○新庄のや踊

○人事類〔東齋隨筆〕 (宇治) 五五

○薪水〔坂東彦三郎〕 (平賀) 二三

○眞崇禪師 (古今著) 四

○甚助〔代官陣張〕 (淨中) 一四

同〔湯淺〕 (太閤中) 一四

○眞濟〔柿本紀僧正〕 (平賀) 三四

○人世

哀世間難住歌

無常を悲む歌

人の一生

世の中に危ふきも

の (八文字) 三九

世の中の吉凶 (八文字) 三七

不定世界と胸算用(八文字) 三五

福澤の處生訓 (書翰) 五七〇

○人星の術 (心學) 四二

○神泉苑 (字津上) 四五

○神仙水 (江戸二) 一七

○新撰期詠集 (古代) 二九

○仁

其本義

(心學) 三

仁は草木の實

(禪林) 二四

富商の戒

(窓の) 二四

仁不仁論

(風俗) 二五

○進庵

(書翰) 三八

○仁爲の狂詩

(川柳) 三四

○新院(崇徳天皇)

(古今著) 一五

○神影の奥義

(脚上) 四九

○新右衛門(辻)

(淨上) 四九

○新大橋

(江戸一) 一五

○心學

(心學) 八〇

心を知るの道

(心學) 八〇

隙のない人の學問(心學) 一三四

其本旨

(心學) 四三〇

○秦覺(風流棚にこしを

れ)

(古今著) 四八三

○眞觀(入道右大辨)

(古今著) 一五三

○神祇(宴曲)

(古代) 四八

○新奇を尊ぶ習

(閑田) 二九

○申詰小西を逐ふ

(太閣下) 一七三

○新客

(脚上) 五三

○神行大保(戴宗)

(水滸二) 三九

○新宮の濱

(淨上) 八七

○新熊野社

(閑田) 六五

○信玄(武田入道)

(淨上) 二六

○新吾(櫻井)

(淨上) 四一

○新古庵記

(鶴衣) 五二

○信仰

信心親父

(八文字) 九二

卯右衛門の信心の

徳

(心學) 一九二

心の迷

(花月) 五〇

日蓮上人より信者

へ

(書翰) 六

吉田松陰より妹へ(書翰) 五四

信行一致

(書翰) 二九

○心光院

(江戸一) 二四

○神功皇宮

新羅征伐

(取戎) 三

朝鮮征伐

(古事記) 一八五

御産

(古事記) 一八九

酒の歌

(古事記) 一九四

○新光寺(遊石山)

(江戸三) 一四三

○新高野山の懸僧今弘

法

(武野) 三五

○深谷の鶯

(花月) 五一

○神國の説

(古道) 四一五

○新吾左

(平賀) 六三

○新吾左衛門(石倉)

(平賀) 三〇

○甚五左衛門(深井)

(平賀) 二八三

- 鮪と眞黒 (年々) 三六
 ○志毘臣〔歌垣〕 (古事記) 三八〇
 ○溺器 (石川) 一八一
 ○痺 (狂言下) 三三三
 ○澁柿樽めきと問答 (平賀) 一三〇
 ○澁笠／銘〔芭蕉〕 (和漢) 五六
 ○澁紙 (平賀) 三三三
 ○澁溪崎 (萬葉下) 四三三
 ○詩佛〔大窪〕の詩 (詩集) 二六
 ○事物地名の古訓 (閑田) 二
 ○詩文〔沉約の八病〕 (畸人傳) 四九三
 ○史文恭 (水滸三) 三四
 ○澁谷八幡 (江戸二) 一七〇
 ○澁谷長者の墳墓 (江戸二) 一六三
 ○四方田但馬守〔四王天を見よ〕
 ○指峰堂記 (鶉衣) 七六
 ○柿本寺 (百人) 五一

- 志摩五首〔國風〕 (近代) 五九
 ○島田 (日記) 二六一
 ○島田〔大井の神〕 (日記) 三三四
 ○島田川留 (日記) 五七
 ○島田の宿 (淨上) 六三
 ○しまだゆひ〔さわぎ〕 (近代) 六五
 ○しまづくし〔長歌〕 (近代) 五九四
 ○島津薩摩守 (女太平) 一〇三
 ○島津忠恒 (太閣下) 四九〇
 ○島津帶刀 (窓の) 四七
 ○島津義久 (窓の) 三五
 ○島津義弘 (太閣下) 四九三
 ○島根郡 (風土記) 四三三
 ○島の勘十郎 (琦行傳) 六八二
 ○志摩國 (宇治) 四三三
 ○島の庄 (日記) 四三三
 ○島の明神〔周防國〕 (古今著) 一五

- 島原 (八文字) 三七一
 同 (日記) 五五五
 ○しまぶ寺 (日記) 三六
 ○島廻色爲朝 (脚下) 五〇六
 ○島山の合戦 (太閣下) 四九〇
 ○清水稻荷社 (江戸三) 四三三
 ○清水坂 (江戸二) 三三
 同 (江戸三) 三七
 ○清水仙右衛門 (脚上) 一六四
 ○清水谷 (日記) 四三三
 ○清水堂 (窓の) 二五
 ○清水如水宅地 (江戸一) 二五
 ○清水濱臣
 ことじり文の詞 (琴後) 三〇五
 春海が許より (琴後) 六七五
 ○慈明寺 (日記) 四七四
 ○晋〔國〕 (淨上) 三四

名稱の研究

(閑田) 一五四

不破名古屋草履打

の根元

(江戸著) 四八五

道頓堀

(日記) 六四六

○芝居破り

(田舎上) 二四四

○四梅廬賦(李由)

(風俗) 五五

○芝浦

(日記) 二〇九

同

(江戸一) 二四九

○柴賣説(凡兆)

(風俗) 八三

○司馬溫公の故事

(心學) 二二六

○柴垣

(田舎上) 三三九

○柴刈風流(所作)

(近代) 四四五

○芝さまやの狂言

(心學) 四二五

○柴田勝家

諸士を勵ます

(太閤上) 二一八

齊藤方の夜襲

(太閤上) 一六四

日野城を攻む

(太閤上) 三三九

佐久間信盛と青龍

寺城を攻む

(太閤上) 二四四

水瓶を破つて承禎

と戦ふ

(太閤上) 三三九

鐵砲に當る

(太閤上) 四〇六

北の庄に籠る

(太閤上) 四〇〇

秀吉と争つて志を

云ふ

(太閤上) 四八八

北國亂入

(太閤中) 三二六

迫つて秀吉に酒を

飲ましむ

(太閤中) 四二九

秀吉を討たんとす

(太閤中) 四三七

賤ヶ岳の陣

(太閤中) 四九六

北の庄の城に籠る(太閤中) 五二三

三人の女子を秀吉

に贈る

(太閤中) 五五五

自害

(太閤中) 五五六

○柴田勝久佐久間盛政

を誅す

(太閤中) 五七八

○柴田匠作杉津口の城

を攻む

(太閤上) 四七四

○司馬達

(出定) 六五〇

○柴土

(宇津上) 二二〇

○司馬法の話

(太閤中) 二二四

○しび(魚)

(日記) 五九

○慈悲

慈悲の光明

(心學) 二四

身を忘れて人を助

く

(心學) 四四五

誠の大慈悲

(禪林) 二八九

○慈悲右衛門

(黄表紙) 二六三

○慈悲心鳥

(閑田) 二三三

○慈悲藏

(淨土) 三三三

○試筆(毛物子)

(和漢) 二八四

- 信濃國聖 (宇治) 三三
- 信濃國人 (石川) 三三
- 信濃の七黨 (淨中) 一〇
- 信濃羽子板 (骨董集) 二五
- 死活裁許の事 (大岡) 五二
- 四の君 (字津下) 六六
- 篠清 (田舎上) 六五
- 篠崎三哲 (武野) 六六
- 信太郡 (風土記) 六一
- 信田の古巢 (淨上) 一四
- 信太の森 (石川) 三四
- 篠塚稻荷社 (江戸三) 四三
- 凌晨^{しのめ} (田舎上) 二三
- 東雲^{しのめ}(長歌) (近代) 二六
- 不忍池 (江戸三) 二五
- しのび組〔本手〕 (近代) 一七
- 忍の術 (田舎上) 一四

- 忍人 (宇津下) 二九
- 信夫〔姉妹達大噺〕 (脚上) 四〇
- 同〔基太平記白石噺〕 (淨中) 五七
- 同〔御所櫻堀河夜討〕 (淨下) 五八
- しのぶ〔繪本太閤記〕 (淨中) 六三
- 忍が岡 (日記) 一〇九
- 忍ヶ岡の雪 (江戸四) 四四
- しのぶ戀〔小うた〕 (近代) 五四
- しのぶ草 (閑田) 一四
- 同 (宇治) 四〇
- 同 (宇津上) 二八
- 同 (宇津下) 六四
- 忍ぶの里 (日記) 三四
- 葱屋 (田舎上) 一六
- 四の宮 (日記) 三五
- 四の宮河原 (日記) 五四
- 同 (醒睡) 一七

- 同 (宇治) 一四
- 篠村〔丹波國〕の平茸 (宇治) 三
- 篠原 (日記) 五
- 芝居〔狂言參照〕
- 手代の惡心を額
- す (心學) 二九
- 實良なむすこの
- 惑心 (心學) 三〇
- 其本旨 (心學) 三六
- 席の喧嘩の話 (心學) 三六
- 其雜用 (心學) 四七
- 芝居と娘 (八文字) 二四
- 役者の戀 (八文字) 三五
- 比丘の芝居見物 (八文字) 五一
- 芝居は水物 (平賀) 二四
- 舞臺で役者の家々
- そのまゝ (黃表紙) 一四

九世の月の文珠

(醒睡) 五

○四德齋

(醒睡) 六

○しとんと踊

(近代) 四四

○しどの雨

(古今著) 四六

○四斗兵衛(駕籠舁)

(淨中) 一六

○尿前しとまへの關

(日記) 三三

○支那

日本との交通の考

證

(駁戎) 元

英國日本との交通

に就て

(駁戎) 三

唐日本と交を絶つ

(駁戎) 七

日本との關係

(駁戎) 一七

鹿苑院との關係

(駁戎) 二四

勝定院との關係

(駁戎) 二三

天地開闢説の妄

説

(靈能) 二七

星の吉凶の説

(靈能) 三八

天命の非を論ず

(直毘靈) 二〇

帝位の變ずる原因

(直毘靈) 一五

王統の興亡

(直毘靈) 三

其傳説と日本神代

説との類似

(古道) 四四

支那人の殘忍

(閑田) 八

○階香取しながどり(神樂歌、大前

張)

(古代) 一〇

○品川

(江戸一) 三九

同

(江戸四) 四四

同

(日記) 二七

同

(日記) 三六

同

(遊京) 三七

同

(和合人) 四九

○品川碓磤右衛門ゆで

高

(脚下) 四四

○品川の旅住居

(年々) 二〇

同

(年々) 二六

○品川の名物

(武野) 三三

○品川の遊女

(平賀) 八

○志那都しなつひこのかみ比古神

(古事記) 一四

同

(靈能) 三〇

○志那戸しなとへのかみ辨神

(靈能) 三〇

○信濃

(宇津上) 四

○品野坂

(江戸一) 五三

○信濃蕎麥

(淨上) 三〇

○信濃煙草

(淨上) 三五

○信濃梨

(宇津下) 一九

○信濃にあるなる〔今

樣〕

(古代) 一六

○信濃國歌

(萬葉下) 三八

○信濃國歌

(萬葉下) 三六

○信濃三首〔國風〕

(近代) 七

○信筑之川

(風土記) 五九四

○日月の旗

(淨下) 二二

○實賢(醍醐大僧正)

(古今著) 五九

○十軒店

(江戸一) 六八

同

(平賀) 二九

○倭文子(伊香保の道)

行きぶり

(日記) 三三

○實語教

(燕石) 五六

○室山(流長芋解)

(和漢) 四七

○七傷

(和合人) 三〇〇

○實城寺

(日記) 四二

○十柱香

(淨上) 三三

○實相院(鶴松山)

(江戸二) 二八

○實相房僧正(心譽)

(宇治) 一八

○悉達(釋迦參熟)

(出定) 五二

○嫉妬

荊萱發心の動機

(淨上) 三

吝氣の女

(田舎上) 七

其惡業

(禪林) 五〇

北の方童田宮の髻

なきる

(曾呂利) 五五

嫉妬深き娘

(八文字) 二七

媚妬の教訓

(八文字) 二九

嫉妬深き夫

(八文字) 二七

唐帝の後

(醒睡) 二六

須勢理毘賣命

(古事記) 一六

石之日賣命

(古事記) 三三

みみの嫉妬

(女房) 三三

○實と權

(禪林) 一四

○漆沼郷

(風土記) 四六

○失念(さわざ)

(近代) 二七

○靜の殿屋

(閑田) 三

○賤の方

(淨上) 二二

○賤機

(田舎下) 四九

○賤機山

(日記) 二六〇

同

(日記) 三五

○志津原の里人

(曾呂利) 六三

○十返舎

(八笑人) 三五

○實母繼母の詮議

(大岡) 六五

○實名を字音によぶ事(年々) 三〇

○閑野(神樂歌、小前張)(古代) 一〇三

○四手掛の社

(日記) 四七

○しててん奴踊

(近代) 四六

○死出の山

(宇津上) 五八

○四天王

(宇津) 五七

○志道軒の軍談

(平賀) 六二

○四道將軍

(古事記) 一四〇

○止動方覺

(狂言下) 三三

○しとき

(宇治) 一三

○二徳

太閤臆病の祈願 (醒睡) 六三

○七助〔葦太平記白石

嘶〕

(淨中) 四七三

同〔興話情浮名横櫛〕(脚下) 五〇〇

○七星丸〔寶刀〕

(淨下) 二七三

○七大寺

(宇治) 四〇三

○七大夫

(太閤上) 二九四

○七條

(宇津上) 一一〇

○七條院權大夫

(古今著) 四九〇

○七條堤

(淨上) 三三八

○七黨〔出羽の七黨〕

(雅文) 一三六

○自知と自得

(禪林) 一三三

○七半〔食しき格勤者〕(古今著) 三七三

○七福神

(平賀) 四八八

○七佛藥師如來

(江戸二) 四四

○七兵衛〔行人〕

(琦行傳) 七三〇

○七本杉

(一休) 四六六

○七宮

(宇治) 四二

○慈鎮和尚

後京極殿を悼む

(古今著) 四三三

吉水前大僧正

(宇治) 四九〇

○慈鎮石

(曾呂利) 五七三

○七面大明神社

(江戸二) 四八八

同

(江戸三) 二七五

○質屋の看板

(用捨箱) 七五

○四條

(宇津上) 一三五

同〔芝居〕

(日記) 五九

○四條川原

(淨上) 二八三

同

(淨下) 四〇三

○四條河原涼八景

(近代) 六一

○四條大納言〔公任參

照〕

(宇治) 三六

○七葉亭

(石川) 四七

○四條院

左大臣右大臣の支

度

崩御

(古今著) 三七一

○使廳の結縁經

(古今著) 四六

○四條の橋

(古今著) 七

○四條宮〔關白賴實の

女〕

(醒睡) 三八

○爾住庵ノ説

(宇治) 五三

○七郎左衛門〔萱野〕

(鶉衣) 七五

○七郎兵衛〔庄屋〕

(書翰) 一一〇

○賤〔裏組〕

(淨中) 四六

○實因〔奥房僧都〕

(近代) 一八一

○染園

(宇治) 一四

○靜御前

(田舎下) 四七三

○賤ヶ岳の戰

(淨下) 三五

○賤ヶ岳の七本槍

(太閤中) 四七四

○十千十二支の地口

(太閤中) 五五一

○十騎社

(七偏人) 四五四

(江戸一) 四八

○四絶文章序(李由) (風俗) 二三

○時遷(鼓上臙)

吳用に命ぜられて

甲を盗む (水滸三) 四〇

火をもつて翠雲樓

(水滸三) 二六三

○神泉苑 しせんえん

(宇治) 三三

○指扇源次郎 させんげん

(窓の) 三三

○二千石

(狂言上) 七〇

○四川城の合戦

(太閤下) 四九三

○四相

(禪林) 四九

○紙燭

(宇津下) 五八

○慈尊院

(淨上) 五三

○字體

(燕石) 四八

○四大

(禪林) 四九

○次第司

(宇津下) 五三

○四大聲聞(今様)

(古代) 一六一

○戀山 したひやま

(風土記) 四八八

○史大郎(史進) したうづ

(水滸一) 八八

○磯

(宇治) 一七四

同

(宇津上) 四一五

○下帶

(醒睡) 二六八

若衆と僧

(八文字) 四八

下帶せぬ事

(用捨箱) 七九

手綱といふ

(年々) 四三

○下かき

(燕石) 四九五

○舌切雀

(宇津上) 四六

○下鞍(鞍わほひ)

(古事記) 六二

○下照姫

(古事記) 六九

同

(淨上) 二九六

同

(古代) 一四八

○之太乃浦(風俗) したのうら

(宇津上) 八五

○紫檀の机

(江戸三) 四七一

○下谷稻荷社

○下谷岡 したら

(江戸三) 四七一

○持游

(骨董集) 二二

○七

(石川) 四七

七の縁語故事

(七偏人) 四九

七づくし

(八文字) 二五

○實

妻の入實

(宇津上) 三〇

御帶刀

(日記) 一四〇

○七覺山

(狂言上) 四四

○七騎落

(鶉衣) 七七

○七景ノ記

(淨中) 三三

○七賢

(八文字) 二五

○七賢の似非者

(田舎上) 一八四

○七高山の阿闍梨

(武野) 四八

○七國將基

(伊達) 四三

○七十郎(伊藤)

(心學) 三五

○七情

定先後辯

陳情、表

和漢文操

○始皇〔秦〕

○慈光院〔龜命山〕

○慈安寺〔井口山〕

○四五右衛門〔滑川〕

○自在鍵頌

○試策

○四座の印鑑

○刺史〔和漢朗詠集、雜〕〔古代〕二七五

同〔新撰朗詠集、雜〕〔古代〕二八八

○四時

○獅子踊

同〔二上り〕

○紫芝岡〔贊〕〔許六〕

○志士の覺悟

〔風俗〕一八五

〔風俗〕二〇〇

〔和漢〕二三五

〔字治〕四四

〔江戸四〕一四

〔江戸二〕五八

〔淨中〕三三

〔鶉衣〕六五

〔宇津上〕四三

〔脚下〕一九〇

〔古代〕二七五

〔古代〕二八八

〔心學〕一七〇

〔田舎上〕三九

〔近代〕六七

〔風俗〕二七

〔書翰〕五五

○四時代謝しじのゆきかひ

○鹿狩し、がり

○磁石

同

○卿々舞岩

○與自若庵〔文〕

○死者の蘇生

○四十からの引導

○蜺〔雪山蜺を海に放つ話〕

○瀨田しじみ

○志深里

○慈心寺

○詩人の囀

○慈心坊尊慶

○四少三安の養生

○侍從川

〔燕石〕四三

〔狂言上〕四七

〔狂言上〕五六

〔平賀〕五九

〔日記〕四四

〔鶉衣〕八八

〔窓の〕二九

〔一休〕四三

〔崎人傳〕元一

〔日記〕五八

〔風土記〕五八

〔狹衣〕四六

〔書翰〕元〇

〔平賀〕三七

〔閑田〕三〇〇

〔江戸一〕六九

○侍從太郎

○四州亭記

○四十の賀

○侍從の君

○侍從の局

○十種香

○自首狀〔山口藤女の遺書〕

○自證院〔鎮護山〕

○しぐら〔天竺摩迦多國の孝子〕

○しぐらの女房

○四睡の繪の狂文

○辭世

○四聲をさす事

○辭世〔詞〕〔宇治圓通〕

○師說〔許六〕

〔淨下〕三九

〔鶉衣〕六五

〔閑田〕九〇

〔宇津下〕六八

〔御伽〕一八

〔淨上〕三五

〔書翰〕三一

〔江戸二〕四六

〔御伽〕一七

〔御伽〕一七

〔石川〕四九

〔鶉衣〕八九

〔年々〕二九

〔和漢〕三九

〔風俗〕八四

○重澄〔前大和守藤原〕(古今著) 三七

○重三〔重三郎〕(淨下) 三

○重隆〔二條右衛門佐〕

歿期冥官となる (古今著) 四八

○重忠〔畠山〕

鎌倉三代記 (淨中) 七

伽羅先代萩 (淨下) 二〇二

ひらがな盛衰記 (淨下) 二三

壇浦兜軍記 (淨下) 四七三

諸藝袖日記 (八文字) 五七

文武二道萬石通 (黃表紙) 八〇

英草紙 (雅文) 八七

大力長居に勝つ (古今著) 三三

○重昭公〔加賀守中將〕(金澤) 三五四

○重知〔板倉内膳正〕(伊達) 四四

○重虎〔篠塚八郎〕(平賀) 四七

○重長〔左京太夫〕(古今著) 九六

○重成〔木村〕

猪飼左馬之介

妻よりの遺書

同〔饅喜多の頭〕

○繁野〔舞子〕

○重信〔上野介〕

○茂久最久の剛直

○重秀〔藥師〕

○茂正〔竹村〕

○重通〔大納言〕

○四言教〔三輪執齋の歌〕

歌

○慈眼堂

○重茂

○重盛〔小松内大臣〕

○繁盛之市踊

○重保〔賀茂神主〕の尙

齒會

○茂恭〔茂木〕

○重保〔秩父六郎〕

○しげり〔禿〕

○重若〔饅〕

○支考

秋之坊に示す辭

前磨山賦

招魂賦

百鳥譜

柳後園に宴する序

東銘

落柿先生、挽歌

剃髮、文

祭猫文

牧童傳

五郎四郎傳

(古今著) 一七

(書翰) 四六

(淨中) 三

(淨中) 五〇

(淨中) 四

(風俗) 一四

(風俗) 四

(風俗) 五

(風俗) 六

(風俗) 一三

(風俗) 一五

(風俗) 一六

(風俗) 一六

(風俗) 一六

(風俗) 一六

(風俗) 一六

(風俗) 一七

四季よはん節

○史記

(近代) 四七
(字津上) 七三

○鳴(もゝしぎ)

(醒睡) 三三

○信貴(河内國)

(字治) 三六

○敷居鴨居と障子の喰(心學) 九七

○色紙

(字津上) 五五

○色紙簽

(花月) 五〇

○式神

(字治) 三五

○敷妙御前

(淨上) 一九

○しきたへの考

(年々) 三〇

○鳴たつ澤

(字治) 四三

同

○式成(宮道)の的弓

(字治) 二九

○四季の御屏風

(古今著) 三六〇

○職の尉(東宮職)

(字津上) 五六

○職の曹司(皇后宮職)(字津上) 八三

○失禾郡しきはの

(風土記) 五三

○式部卿の宮

(狹衣) 五

○式部の大輔

(狹衣) 七

○櫓しきり

(八文字) 三七

○紫金鏡

(七偏人) 六四

○敷物

(字津下) 八七

○志藝山津見神しやまつみのかみ

(古事記) 一八

○敷山主神しきやまぬしのりみ

(古事記) 六三

○信貴山の落城

(太閤上) 四九

○四休居士の詩

(一休) 三五

○詩經

文字遣

(年々) 三三

周南關雎篇

(年々) 三四

周南樛木篇

(年々) 三四

○色欲(好色を見よ)

○仕切證文しきれ

(淨中) 五〇〇

○尻切

(字津上) 一三

○時雨(長歌)

(近代) 三三

○時雨の岡

(江戸三) 四八四

○夙夜忠(宴曲)

(古代) 四七

○時雨の松

(近代) 五一

○重明親王

絃たえて猶彈ずる

話

(古今著) 一九七

南殿の櫻

(字治) 四九八

○滋家(藏人在原)

(字津上) 一八三

○慈惠僧正

(醒睡) 三七

○四藝賦

(鶉衣) 四九

○繁氏(加藤左衛門尉)

(淨上) 一

○重員しげかず

(田舎上) 五二

○滋坂破門

(田舎上) 一四二

○重次郎(黑澤)

準人に諫言

(大久保) 一九

焼印を當てらる

(大久保) 三

訴人

(大久保) 三

山にさわぐ鹿 (宇津上) 三六三

多田の郎等に追は

る (宇治) 二〇〇

鹿の音をきく寓話(心學) 三六

龍門の聖 (醒睡) 二二六

くゝりと矢 (古今著) 五〇九

○詩歌の吉凶 (燕石) 三三三

○志賀 (宇津上) 一七〇

○試樂(臨時祭の) (宇治) 四九

○慈覺大師 (醒睡) 六

ほてん瓜 (宇治) 三六三

額頼城に入る (宇治) 四九三

尺八と音聲 (脚上) 四〇

○志賀左近 (脚上) 一五六

○志賀島 (百人) 五五四

○詞花集 (日記) 三三八

○志賀須

○志賀鑿七(碁太平記

白石嘶) (淨中) 四四

同(姉妹達大噺) (脚上) 三四

○志方角兵衛 (脚上) 六三

○志賀谷五郎 (脚上) 三三

○鹿田庄(備前國) (宇治) 五五

○志方茂右衛門 (窓の) 三八

○鹿路(藝子) (脚上) 六四

○しが内(草履取) (黄表紙) 三三〇

○鹿内(奴) (淨上) 六七

○鹿野(白拍子) (脚上) 三三

○志賀の浦 (醒睡) 三六七

○鹿之助(毛受) (書翰) 五〇

○詩歌俳諧、辯(丈艸) (風俗) 一八三

○飭磨郡 (風土記) 五四

○鹿間塚 (淨上) 一七

○しがまつち(端歌) (近代) 二六三

○紙冠 (宇治) 三三四

○自寛(春海の書) (琴後) 六九六

○信樂現太夫 (田舎下) 三七〇

○柵(政道の妻) (淨中) 二三

同(腰元) (脚上) 一八六

同(端歌) (近代) 二五六

同(端歌) (近代) 六〇五

○柵浪右衛門 (女房) 一七三

○詩歌類(東齋隨筆) (宇治) 五〇九

○四季 (近代) 二〇四

長歌 (近代) 六三

琴歌 (和漢) 四一七

四季扇賛 (和漢) 三〇〇

四季詠 (和漢) 四〇〇

四季花鳥 (風俗) 三〇

四季辭 (近代) 四四五

四季花筵踊

利口

(古今著) 三二四

○次右衛門〔平石〕

(大岡) 一三

○慈圓

(百人) 六六

○鹽

(靜睡) 六

○四王天但馬守

秀吉を討たんとす(太閤中) 三八

彦山權現

(淨上) 四七

繪本太功記

(淨中) 五七

○鹽賣

(田舎下) 一六〇

○鹽釜

(淨上) 一五二

同

(日記) 一四

○鹽竈

(宇治) 一七

同

(淨中) 五九

同

(宇津上) 三六

○鹽釜明神

(日記) 三六

○汐〔しの松〕〔加賀〕

(日記) 三

○鹽椎神

(古事記) 九

○鹽尻

(日記) 三七

同〔書籍〕

(年々) 三六

○鹽尻峠

(淨上) 五三

○しをすさの聲

(宇津上) 五五

○鹽田川

(風土記) 五九

○鹽づつ

(宇津下) 六一

○鹽の山

(日記) 一四

○鹽濱

(江戸四) 二四

同

(江戸一) 四〇

○汐干觀世音菩薩

(江戸二) 二五

○鹽乾珠

(古事記) 九

○潮見坂

(日記) 二

同

(日記) 一三

同

(日記) 二五

同

(日記) 三〇

同〔芝〕

(江戸一) 二九

○鹽盈珠

(古事記) 七

○紫苑

(宇津下) 五

○芝恩

(醒睡) 三

○施恩〔金眼彪〕

義をもつて快活林

(水滸二) 八

を奪ふ

(水滸二) 八

重て孟州道に覇た

(水滸二) 一〇三

り

○慈恩寺

(日記) 一五

○しほや〔端歌〕

(近代) 二五七

同

(近代) 六六

○鹽燒王の遭難

(雅文) 四四

○鹽屋長次郎〔はやり

歌〕

(近代) 四〇

○鹿

和漢朗詠集、秋

(古代) 三二

新撰朗詠集、秋

(古代) 三四

龍門の聖の話

(宇津) 一四

○猿丸 (宇治) 二六三

○猿丸太夫 (百人) 六〇

○猿丸塚、猿丸峠 (石川) 一三三

○猿廻〔猿と犬〕 (曾呂利) 六四九

○猿廻門出諷 (脚上) 六四七

○猿蓑序〔其角〕 (風俗) 二九

○媛女君 (古事記) 八五

○澤井智明 (琦行傳) 五九

○澤井又五郎 (脚上) 一五二

○澤井城五郎 (脚上) 一八一

○澤菊 (田舍上) 一六六

○澤田川〔催馬樂、律〕 (古代) 二九

○澤の井〔お三婆の娘〕 (大岡) 六

○澤の井の墓詮議 (大岡) 一六

○澤村琴所 (畸人傳) 三六

○さはやけの汁 (宇津上) 四三

○佐原の十郎 (黄表紙) 九二

シ

○詩

詩句を吟味する

法 (禪林) 二四

詩と才 (禪林) 一四

詩を作る目的 (禪林) 一七

氏家伯壽の詠詩 (畸人傳) 五三

永田觀鷺の十二韵 (畸人傳) 六六

宇野醴水の詠 (畸人傳) 六三

石川丈山富士山詩 (先哲) 元

野公臺瀧水に贈る

詩 (先哲) 一元

一休 (一休) 五〇

硝子の魚 (一休) 五五

四休居士 (一休) 三五

詩の聲律 (書翰) 一七

徳川諸家の詩 (詩集) 一

我國上代の詩 (詩集) 五七

○死〔生死を見よ〕 (宇津上) 五三

○椎 (しるゐる) (風土記) 五七

○四位の宰相 (宇津下) 六六

○椎葉文〔惓然〕 (俳句集) 四八

○四韻の歌 (宇津上) 三三

○しうとめ〔ばやり歌〕 (近代) 四九

○紫雲 (浄上) 七

○似雲 (畸人傳) 三六

○紫雲、眞名鶴 (娘節用) 二四

○慈雲寺〔大峰山〕 (江戸四) 三六

○慈惠僧正

戒壇をつく (宇治) 一四

受戒の日延引 (宇治) 三三

賀緑阿闍梨の不實

○佐良太郎〔瀬戸物屋〕（女房）二四

○舍利（字津上）四三

○ざり〔小石〕といふ詞（年々）二九七

○佐理大貳

三島神社の額（古今著）四八

日本第一の能書（宇治）五三

○猿

琴の音をよるこぶ（宇津上）五七

飲酒と猿（雅文）三七

和漢期詠集、雜（古代）二四

新撰期詠集、雜（古代）三七

藍摺の水干きたる（宇治）四三

彦山權現誓助飰（淨上）四三

おしゆん傳兵衛（淨下）四〇

じゆくしたる柿（醒睡）二九

獼猴の生膽（燕石）五四

法華經を聴く（古今著）五九

烏を鶴（古今著）六四

如法經の助成（古今著）六五

武田信光に狩らる（古今著）六八

臥したる鹿を指す（古今著）六八

將軍の前に舞ふ（古今著）六七

射られて小猿を助

けんとす（古今著）六八

猿と鶴（心學）二五

猿の情（閑田）二六

猿箴（一空）（和漢）四三

○さるにんかた〔なげ

ぶし〕（近代）三八

○猿替勾當（狂言上）四三

○猿樂（字津下）三四

同（宇治）二五

同（太閤中）四五

○去我苦塚（江戸二）一六

○猿掛の岸の由來（雅文）二九

○猿蟹合戦（骨董集）二三

同（燕石）四〇

○猿冠者（淨中）七〇

○猿ヶ俣（江戸四）二六

○猿源氏（御伽）二五

○猿澤の記〔奈良〕（宇治）三三

○猿島（江戸一）六九

○猿江〔荒妙の手下〕（淨上）六二

○猿田毘古命

天孫嚮導（古事記）八三

三つの御魂（古事記）八五

○猿田彦太夫（脚上）五四

○猿智慧（淨上）八

同（心學）四三

○猿橋（日記）二九

○猿平（淨上）九

○さんやどてぶし (近代) 一五八
 ○三彌土手路踊 (近代) 四六
 ○三友の種類 (石川) 四六
 ○山陽〔頼〕
 其の詩 (詩集) 一八三
 出奔 (書翰) 三三
 母への手紙 (書翰) 三三
 筑山奉盆へ (書翰) 三六
 小野泉藏等へ (書翰) 三八
 小島船山へ (書翰) 三七
 知友へ (書翰) 三七
 平塚飄齋へ (書翰) 三六
 ○山梁雌雉時哉々々 (年々) 三五
 ○三論宗 (出定) 六一
 ○左女牛〔西洞院〕 (淨上) 一四
 ○鮫河橋 (江戸二) 二四
 ○鮫島藏人 (淨下) 二九

○鮫頭明神祠 さめづ (江戸一) 三五
 ○佐屋 (日記) 六六
 ○贈佐屋洗耳序 (鶉衣) 七三
 ○佐屋川 (遊京) 四四
 ○佐矢川合戦 (太閤上) 七
 ○小夜の中山 (日記) 一九
 同 (日記) 五
 同 (日記) 一九
 同 (日記) 二八
 同 (日記) 三三
 同 (日記) 三六
 同 (日記) 五八
 ○狹山 (江戸三) 一〇
 ○狹山の池 (江戸三) 六
 同 (石川) 二九
 ○狹山郷 (風土記) 五五
 ○狹山命 (風土記) 四三

○塞坐黃泉戸大神 さやりますすよみどのかみ (古事記) 三
 ○座右銘〔芭蕉〕 (風俗) 一四
 ○狹結驛 さかのうまや (風土記) 四八
 ○早百合 さよきね (田舎上) 二六
 ○小夜衣〔た富〕 (大岡) 四三
 尋問 (大岡) 三三
 千太郎へ戀 (大岡) 三三
 ○小夜ごろも〔長歌〕 さよのてはり (近代) 二二
 ○讀容郡 さよりのみこと (風土記) 五〇
 ○狹依毘賣命 (古事記) 三
 ○さら煙管といふ渾名(心學) 一六
 ○更々越 (太閤中) 六六
 ○晒〔長歌〕 (近代) 三三
 ○晒賣踊 (近代) 四三
 ○更科 (田舎下) 一六
 同〔乳母〕 (御伽) 九
 ○更科の片山里 (淨上) 三四

式

○三陀羅法師

(太閤下) 三九
(石川) 四九

○散杖

(宇治) 元九

○三條中納言朝成

(宇治) 二四

○三類(圖賛(東華坊))

(和漢) 四七

○三途川の姥

(平賀) 一六〇

○三毒

(禪林) 六一

同

(一休) 五八

○三士挽歌

(鶉衣) 七五

○棧留の羽織

(和合人) 三三

○三なめかけたが三か

けたひつちくでつ

ちくほうれんぼう

のつうだ左衛門

(黄表紙) 一七

○三人片輪

(狂言上) 五三

○三人百姓

(狂言下) 一八

○山王

(宇治) 四七

○山王權現社(丸子)

(江戸二) 三七

○山王威徳(宴曲)

(古代) 四九

○三の君(孫王)

(宇津下) 三五

○三之丞(吉岡)

(淨上) 四九

○三の宮

(宇津上) 三八

○三馬(式亭)の手紙

(書翰) 四七

○三番曳踊

(近代) 四八

○三部經(己心の彌陀

唯心の淨土)

唯心の淨土)

(禪林) 七

○三平(萱野)

(禪林) 七

大石瓦雄へ遺書

(書翰) 二九

父へ遺書

(書翰) 二〇

同(熊川)

(淨中) 五五

○三寶

(宇津上) 二〇

同

(宇治) 八

○三忘

(淨下) 三九

○三ぼう荒神

(黄表紙) 三三

○三法師君

(太閤中) 四三

同

(淨中) 六二

○三寶寺(龜頂山)

(江戸三) 六

○三寶寺の池

(江戸三) 六

○三本柱

(狂言下) 一

○三本松

(日記) 四四

○三味

(狹衣) 四七

○三味堂

(狹衣) 二四

同

(田舎上) 六三

○三味堂の勸

(田舎下) 一九

○三藐院殿の櫻

(醒睡) 三四

○三位大進

(宇治) 四八

○三位の中將

(御伽) 二三

○殘霧妙養信女

(淨中) 五五

○さんや踊(長歌)

(近代) 一七

○さんやがへり(さわ

ぎ)

(近代) 六二

吟味

(大岡) 四五

○三十石 燈始 (脚上) 一

○さんさぶし(二上り) (近代) 二七

同(端歌) (近代) 六七

○三使問答 (伊達) 五三

○三十三間堂 (淨上) 一五

同 (淨上) 六三

同 (黃表紙) 一七

同(深川) (江戸四) 二

○三洲(長)の詩 (詩集) 四二

○三十六歌仙 (百人) 六七

○三種の神器 (古事記) 八三

同 (淨上) 二五

同 (淨中) 二四

同 (古今著) 四

同 (太閤下) 三〇

○三笑(朝食) (日記) 五六

○山椒 (淨上) 一九

同(妻夫いさかひ) (醒睡) 二五

○三條 (袂衣) 四四

○三條院 (百人) 四三

○三條右大臣 (百人) 三三

○三條皇太后 (宇治) 三六

○三條小橋 (淨上) 六三

○三條の宰相 (御伽) 六四

○三條左大臣(入道) (古今著) 六

○三條中納言の大食 (古今著) 五七

○三條の辻(聚樂の法度) (醒睡) 三三

○三上(辨(丈草)) (和漢) 四〇

○三條堀川 (宇津上) 七

○三所權現 (淨上) 一八

○山水(和漢朗詠集、雜) (古代) 二四

同(新撰朗詠集、雜) (古代) 三三

○山水の繪を見る文 (うけり) 二七

○山水の繪を見る記 (夢後) 五六

○山水譜(許六) (風俗) 七

○三世 (禪林) 三七

○三世相 (淨上) 三六

○參禪手引草 (禪林) 四四

○三千人塚 (江戸二) 五七

○三艘が浦 (江戸一) 六二

○三藏結集 (出定) 五九

○山賊(盜賊參照) (雅文) 六二

眉鱗王 (崎人傳) 四〇

佛佐吉に感ず (宇津上) 三三

○山陽道 (日記) 五七

○醒ヶ井 (脚下) 三六

○三太(丁稚) (淨中) 四三

○サンダマル (淨中) 四三

○三太夫(百地)の妻に

〔狂〕 (和漢) 五〇

○參會和曾我道行〔あづ

ま淨留利〕 (近代) 三九

○三月三日附桃〔新撰期

期集、春〕 (古代) 二九

○三月盡〔和漢期詠集、

春〕 (古代) 一九

同〔新撰期詠集、春〕 (古代) 三〇

○三月盡の宴 (古今著) 一九

○三月三日〔和漢期詠集、

春〕 (古代) 一七

○三月三日の舞遊 (骨董集) 一七

○三韓八道 (淨上) 四〇

○算勘聲 (狂言上) 五二

○さんがらが踊 (近代) 四〇

○參議 (年々) 三八

同 (年々) 三七

同 (宇津上) 四八

○參議臺 (百人) 二〇

○三吉〔俠詞花川戸〕 (脚下) 四〇

同〔向見ずの〕 (大岡) 五九

○三歸の里 (鶉衣) 八〇

○參議等 (百人) 六二

○參議雅經 (百人) 六六

○産經 (宇津下) 二〇

○山居之僧〔所作〕 (近代) 五三

○殘切髮 (淨上) 一五

○三九〔按摩、實は官兵

衛〕 (脚上) 四三

○三九郎〔花井〕の立身 (大久保) 三

○三家 (大久保) 四〇

○懺悔 (心學) 三八

○殘月堂の記 (石川) 四七

○懺悔の行 (田舎下) 三七

○三阮〔三兄弟、小二、小

五、小七〕 (水滸一) 三七

○三阮歌曲解 (近代) 六三

○さんこ〔白拍子〕 (脚上) 三六

○三合といふ災歲 (年々) 三七

○山谷 (御伽) 二九

○三國玉屋踊 (近代) 四三

○三國福平〔後の放屁

男〕 (平賀) 三

○三五郎〔吉田〕 (大岡) 一五

○三左衛門〔山本〕 (太閤中) 二二

○三左衛門〔神並〕 (伊達) 四三

○三作 (田舎下) 六九

○三山〔二龍山、梁山、桃

花山〕 (水滸三) 六

○三次〔早乗の〕 (大岡) 五三

れやすを欺く

○散飯さば

(狹衣) 五八

○娑婆さば

(宇津上) 一三〇

○佐麥士(恨別)

(和漢) 三三三

○さはし

(田舎下) 二九一

○鯖野

(日記) 三四

○鼗鼻(王の鼻)

(曾呂利) 六八

○さび杖づゑ

(宇津上) 一三四

○佐比の里

(閑田) 三三

○さひ持神

(古事記) 九七

○左府入道破子の沙汰(古今著) 五三

○三郎(朝比奈)

(黄表紙) 五

同(宇佐美)

(黄表紙) 九〇

同(あいかうの)

(黄表紙) 九〇

○三郎兵衛(島田)

(淨中) 五六

同(古部) 淺香の親、

後に 戎えびす 屋徳右衛

門]

(淨上) 六三〇

同(疊屋)

(大岡) 六八

○三郎統清

(田舎上) 八四

○佐兵衛

(淨下) 五七

○沙本毘古の陰謀

(古事記) 一四七

○佐保姫

(宇津上) 二八四

○さほ姫と立田姫

(年々) 三六

○さまが便り(はやり)

(近代) 四三

歌]

○左馬頭殿(甲府宰相綱重)

(女太平) 一六

亂酒短慮

(女太平) 三

生害

(女太平) 三

○左馬權頭の連歌

(宇治) 四四

○左馬之介(猪飼)

(書翰) 五九

同(松田)

(太閣下) 七

同(加藤)

(太閣下) 一八七

○座摩明神

(淨上) 三九

○さまも心も(今様)

(古代) 一八

○さまは天人(はやり)

(近代) 四九四

歌]

○三絃(しやみせん) 參

(平賀) 二九〇

照]

○三線の古製

(骨董集) 一〇〇

○五月雨(二上り)

(近代) 六三

○三絃宮

(日記) 五〇

○狹岑島

(萬葉上) 八三

○三(雲助)

(脚下) 一七

○算

(宇治) 四七

○三惡道

(禪林) 三五三

同

(心學) 三八

○三鴉集(序)

(鶉衣) 六七

○三依道人

(雅文) 二五

○山家(和漢朗詠集、雜) (古代) 二五五

同(新撰朗詠集、雜) (古代) 三七〇

○祭(三界萬靈文) 渡部

如來の大悟 (禪林) 四五
大疑の下に大悟有

り (禪林) 四二

物さまざまの大悟(心學) 五六

信心不及 (心學) 四三

色道の悟 (八文字) 五九

俗家の悟道 (八文字) 五〇

○左内〔俗醫者〕 (脚上) 三六

○左内〔橋本〕の手紙 (書翰) 五八

○早苗 (淨中) 四六

○佐那縣さながた (古事記) 八三

○眞田侯〔幸貫、松代藩主〕 (書翰) 三三

○眞田昌幸の奇謀 (太閤上) 六六

○讃岐六首〔國風〕 (近代) 二二

○實賢〔法橋〕 (宇治) 四五

○實方

奥州下向 (宇治) 四九
插頭の花に吳竹の

枝 (宇治) 四九

行成の冠を打落す(宇治) 五三

略傳、逸話 (百人) 三四

みのわ道祖神 (日記) 三五

雀となる (近代) 八〇

○實國 (古今著) 一七九

やみの錦 (古今著) 一八〇

こゝろの花 (古今著) 一八〇

二條院を偲び奉る(古今著) 四三〇

清暑堂の御神樂 (古今著) 四四〇

○實重賀茂の御正體を拜す (宇治) 一四二

○實資〔小野宮右府〕の好色 (宇治) 五九

○實忠〔宰相源〕 (宇津上) 二〇二

○實綱〔三條中納言〕 (古今著) 一四二
○實萬さねつ〔三條〕の公武合體説 (書翰) 四九

○實朝 金槐和歌集 (金槐) 五三

○實房 近江源氏先陣館 (淨中) 一四二

○實持 (宇治) 一三三

○實頼 (石川) 三三三

○佐野 (宇津上) 二〇三

○佐野 (日記) 一四四

○佐野 (日記) 三四四

○佐野次郎左衛門 赤穂杜若の傳 (江戸著) 五〇〇

○佐野 八橋を斬る (江戸著) 五〇四

○佐野の源左衛門 (淨上) 三三九

○鯖 (黄表紙) 二三

同 (宇治) 三三七

略傳逸話

(百人) 四四

○皐月〔光秀の母〕

(淨中) 六七

○五月玉の由來

(曾呂利) 五八

○さつきの名所

(江戸四) 四六

○さつくわ

(狂言下) 四七

○雜藝

(古代) 一五

○薩埵山

(日記) 一八

同

(日記) 二六

同

(日記) 六六

○雜説

(風俗) 九一

○さつま〔三下り〕

(近代) 六四

同〔國風〕

(近代) 一七

○薩摩五郎信忠

(淨下) 四七

○薩摩淨運淨瑠璃節を

(窓の) 二〇

初む

○薩摩綱貴諸土に同情(窓の) 三九

○薩摩守 (狂言上) 二三

○薩摩ぶし〔二上り〕

(近代) 二九

○さと〔成田屋〕の手紙(書翰) 四七

○里犬(仲頼に仕ふる

男子)

(字津上) 五二

○茶道〔茶參照〕

(閑田) 一七

○座頭香久山勾當

(八文字) 四六

○佐藤一齊〔一齊を見よ〕

○佐藤近宗

(百人) 五四

○佐藤直方

政道を説く

(窓の) 四

君を直諫す

(窓の) 一六

經濟

(窓の) 一六

政治論

(窓の) 二六

○佐藤興茂七

(脚下) 一九

○佐渡狐

(狂言下) 三六

○佐渡五首〔國風〕

(近代) 八

○佐渡七〔牽頭〕

(淨中) 三六

○里姿

(字津上) 六八

○里雀

(淨上) 五

○里成〔阿波守〕

(字治) 二八

○佐渡國

金の事

(字治) 一三

流されし文學上人(字治) 四六

○佐度島

(古事記) 二

○佐渡平〔中間〕

(淨中) 三五

○里村紹巴

(畸人傳) 四五

○悟

ならひはじめ

(禪林) 元

大悟

(禪林) 六〇

大解脫

(禪林) 六三

悟と迷

(禪林) 二八

悟の證據人

(禪林) 二八

忽然として落節

(禪林) 三六

得悟の實例

(禪林) 三五

○さゞれいし〔長歌〕（近代）五五

○さゞれ石の宮〔後にい

はほの宮〕

（御伽）一六七

○佐助〔若い者〕

（脚上）五四

○佐介賦金の免許

（窓の）一五六

○佐世郷

（風土記）四九六

○左仙〔柴〕

（淨上）四七三

○左遷

（禪林）一六六

○坐禪〔禪を見よ〕

○座禪豆

（平賀）五三

○佐陀

（日記）一五〇

○佐多〔播磨守爲家の

侍〕

（宇治）二〇〇

○貞〔大納言源〕

（宇治）三六三

○定家〔ていか〕を見よ〕

○佐常山〔白杵〕説〕

（和漢）四三三

○左大將殿〔源正頼〕

（宇津上）八三

○佐太川

（風土記）四四〇

○定倉〔和泉小治郎〕

（淨下）一七

○定九郎〔山口〕

（淨中）三六

○さだしげ〔大夫〕

（宇治）四四〇

○定高〔二條中納言〕

雪の歌

（古今著）五八

馬を借る歌

（古今著）六三〇

○貞孝〔藏人〕の頓死

（宇治）二九

○定嗣〔前中納言〕の詩

歌

（古今著）四八

○定繼の下人

（古今著）四八

○貞綱と怏と勇

（古今著）三〇〇

○貞任〔安倍〕

（淨上）一八

○貞敏〔承和遣唐使掃部

頭〕

（宇治）四九

○貞弘〔播磨府生〕

（古今著）三三五

○貞文〔兵衛佐平〕の好

色

（宇治）二六

○貞松〔番長大倭〕

（宇津上）三三五

○定光〔白井〕

（淨中）五七

○定茂〔進士志〕

行藤のかたゝ

（古今著）四六五

夏の袍とわが車

（古今著）四六六

○定基〔三河守〕

なれにし影

（古今著）一六九

出家して寂昭

（宇治）五三

○貞盛〔上平太〕

（淨上）二〇七

○貞保親王

（古今著）一九五

○佐大夫

（宇治）二八〇

○貞行〔右近將曹伴野〕

（古今著）一九七

○貞慶〔大進將監〕

（古今著）一九九

○定頼〔中納言〕

女を訪ひて經を讀

（宇治）六

宇治川の先陣の後

日語

(八文字) 五六

近江源氏先陣館

(淨中) 一四三

ひらがな盛衰記

(淨下) 二六

○佐々木丹右衛門

(脚上) 一六六

○佐々木明神社

(江戸一) 四九三

○大角豆

(宇津上) 一三三

○篠寺

(江戸二) 二六八

○篠波(神樂歌、小前張)(古代) 二〇四

○泊^{さ、なみしや}泊舎の記

(琴後) 五六八

○佐々成政

更々越逆落し

(太閤中) 六二六

神通川にて愛妾を

殺す

(太閤中) 六三五

秀吉に降参す

(太閤中) 六三八

肥後國を賜はる

(太閤中) 六三七

榮達^の由來

(太閤中) 六三九

生害

(太閤下) 六

黒百合を献ず

(太閤下) 七

○笹野三五兵衛

(脚下) 八二

○小竹葉

(古事記) 三〇

○笹丸

(石川) 四九

○茶山(菅)の詩

(詩集) 二七

○篠山侍從

刑政の一例

(窓の) 三五三

臨終

(窓の) 二八五

桐壺と云ふ牡丹の

話

(窓の) 三五五

逸話

(窓の) 三六

○篠山城の合戦

(太閤上) 六二

○笹山先君の寛大

(窓の) 六四

○笹山の祖君の寛恕

(窓の) 三九

○座敷

來客と座敷

(禪林) 一五七

南向の座敷

(禪林) 一九五

○棧敷

(宇津上) 一五六

同

(古事記) 四三

○插櫛(催馬樂、律)

(古代) 二六

○刺國大神

(古事記) 四四

○刺國若比賣

(古事記) 四四

○指添

(淨上) 一五

○さしでの磯

(日記) 一四〇

○絹繩

(狂言上) 二五一

○指貫

(宇治) 六九

同

(宇津上) 七〇

○佐次兵衛(狩人)猿と

なる

(平賀) 二二

○佐志枕(辨梅因)

(和漢) 四八

○さし藻草

(禪林) 五五三

○佐四郎(山家屋)

(淨上) 三七九

○さしら踊

(近代) 四七四

○鮭

酒の故事縁語	(石川) 四六
酒を贊むる詞	(石川) 四六
酒を戒むる詞	(石川) 四六
酒道樂	(八文字) 五
酒癖	(八文字) 一六
飲酒と佛説	(八文字) 二九
舊蒲酒	(八文字) 四三
酔ひ泣きする男	(雅文) 三七
酒を讀むる長歌	(雅文) 六三
大酒の爲に追放	(畸人傳) 六三
大酒の戒	(書翰) 一五
酒を「にやけ」	(醒睡) 二五
譬	(大久保) 二八
八鹽折の酒	(古事記) 四三
斷酒、辯	(鶉衣) 六〇
酒徳頌	(風俗) 二三

引導

大童子に盜まる

(一休) 三〇
(宇治) 三五
(宇津下) 三六

○邪氣

○酒賣爐

(遊京) 四五

○酒賣翁

(曾呂利) 五〇

○提緒(刀の)

(淨上) 三〇

○酒飲(催馬樂、呂)

(古代) 一四

○提籃

(平賀) 八五

○提重

(淨上) 二

○さけはさかや(ばや

(近代) 四五

り歌)

○佐五平(姉妹達大礎)

(脚上) 三六

同(彦山權現誓助劍)

(淨上) 四六

○左近(鳥)

三成に謀を示さる(太閤下) 一五

長刀拜領

(太閤中) 二三

淀殿に謁す

(太閤下) 二六

○左近(恩地)

(淨中) 四六

○狹衣(狹衣物語の主

人公)

(狹衣) 五

○狹ころも(長歌)

(近代) 二三

○狹衣物語

(百人) 三六

同

○篠神樂歌(採物)

(古代) 三

○笹市(加藤正清の子)

(淨下) 二六

○拳螺(龍宮城忍びの

役人)

(平賀) 一七

○榮螺の寓話

(心學) 三

○笹尾(丹右衛門妻)

(脚上) 一六

○笹岡市正

(崎行傳) 六六

○さしがに

(宇津上) 一七

○佐々木志津摩の女の

貞操

(畸人傳) 五九

○佐々木高綱

有馬涼及の話

(畸人傳) 三六

散るを見て泣く

(宇治) 三

枝垂の鉢植

(大久保) 三五

○櫻諍

(狂言上) 四九

○櫻井主膳

(淨中) 三三

○櫻井濱

(日記) 三

○櫻ヶ井

(江戸二) 二五

○櫻狩

(淨上) 一八

○櫻川

(日記) 三九

同

(江戸一) 三七

同

(和合人) 三三

○櫻川の三孝

(和合人) 三四

○櫻川善孝

(和合人) 三六〇

○櫻木(白拍子)

(脚上) 三三

○櫻木踊

(淨上) 四

○櫻木の宮

(日記) 四六

○櫻兒

(萬葉下) 三一

○櫻子(白拍子)

(淨中) 三六

○櫻島大隅守忠信

(宇治) 三六

○佐倉少將利勝茶道の

質素

(窓の) 三〇

○櫻草の名所

(江戸四) 四〇

○櫻田

(江戸二) 三

○櫻田林左衛門

(脚上) 二二

○さくら盡(長歌)

(近代) 三三

同(あづま淨留利)

(近代) 三三

○櫻の宴

(田舎上) 三三

○櫻の觀音

(江戸四) 四〇

○櫻の句、小序

(鶉衣) 六三

○櫻の宮

(遊京) 三六

○櫻人

(田舎上) 二五

同

(日記) 三六

同(催馬樂、呂)

(古代) 二〇

○櫻姫ごばん人形(あ

づま淨留利)

(近代) 三六

○石榴風呂

(骨董集) 三〇

○酒

和漢朗詠集、雜

(古代) 二四

新撰朗詠集、雜

(古代) 三〇

宴曲

(古代) 四三

讚酒歌

(萬葉上) 二六

名づくし

(七偏人) 四六

返目の大事

(醒睡) 二〇

つくる川水

(花月) 三三

酔ふに變りなし

(心學) 一八〇

酒を試むる法

(禪林) 二四

清酒の甘味酸味

(禪林) 一五

酒後に柿を食ふ事(禪林)

(禪林) 三七

酸味ある酒

(石川) 三三

三年の禁酒

(石川) 三三

酒は狂藥

(石川) 三〇

同 (太閤中) 二四

○佐久間象山(象山を見よ)

○佐久間曾平の義氣 (窓の) 一九三

○佐久間信盛

洲股の砦を築く (太閤上) 一六二

柴田勝家と青龍寺

城を攻む (太閤上) 二四

天王寺を追はる (太閤上) 六七

○佐久間盛政

大聖寺を攻む (太閤上) 四四

秀吉を拒む (太閤中) 四八

秀吉を害せんとす (太閤中) 四七

長濱街道に放火す (太閤中) 四七

行市山に順慶と戦

ふ (太閤中) 五〇

大岩山の砦を攻む (太閤中) 五〇

柴田が下知に戻る (太閤中) 五〇

一騎秀吉の本陣を

襲ふ (太閤中) 五三

秀吉の伏兵に生捕

らる (太閤中) 五三

柴田勝久に誅せら

る (太閤中) 五六

○佐久間立齋の止戈辨

論 (窓の) 二四

○櫻

櫻の故事縁語 (石川) 四七

同 (石川) 四八

櫻會 (石川) 四三

同 (石川) 四〇

雲林院 (曾呂利) 五六

清水寺 (曾呂利) 五七

墨染寺 (曾呂利) 五七

南殿の櫻 (古今著) 五七

移植 (古今著) 五二

花を合す (古今著) 五七

金光院に植う (古今著) 五三

南殿の櫻 (宇治) 四九

上野の櫻 (江戸四) 一九

糸櫻 (江戸四) 四三

イヌ櫻 (江戸四) 四三

秋色櫻 (江戸四) 四三

彼岸櫻 (江戸四) 四三

江戸に於ける其名

所 (江戸四) 四六

右衛門櫻 (江戸四) 四九

金玉櫻 (江戸四) 四〇

延命櫻 (江戸四) 四二

二十八品の名稱 (江戸四) 四二

櫻の花漬 (花月) 五七

櫻のいろく (浄上) 一八

- 酒水 (風土記) 五六
- 坂間傳兵衛 (淨下) 五四
- さかもと (日記) 三七
- 坂本 (字津上) 二三
- 坂本の落城 (太閤中) 三五
- 月代 (淨上) 四
- 酒屋の壺役 (年々) 三二
- さがら殿〔北の方〕 (琴後) 七一
- さがり松 (淨上) 二五
- 逆櫓 (淨下) 二七
- 逆櫓の松 (淨下) 二四
- 逆川 (日記) 二
- 佐賀輪 (田舎下) 四
- 坂和田喜六の墨跡 (日記) 六五
- 佐川田喜六難波の役〔崎人傳〕 四三
- 逆鰯口の箸 (年々) 三四
- 鷺 (淨上) 六五

- 同 (古事記) 七
- 鷺と鴉 (禪林) 二七
- 崎一秋〔蠅打、銘、序〕 (和漢) 五四
- 佐其玉〔讀、隱逸傳〕 (和漢) 五〇
- 前玉比賣 (古事記) 六
- 鷺、贊〔金李潭〕 (和漢) 四二
- 鷺の四郎八 (淨中) 二六
- 鷺の巢 (一休) 四三
- 前大僧正慈圓 (百人) 六六
- 鷺森神明宮 (江戸二) 六
- 鷺平〔飛脚〕 (脚上) 三九
- 防人悲別之心 (萬葉下) 五五
- 左京〔藤井〕吉兵衛に一味す (大岡) 六
- 左京大夫青常の君と異名せらる (字治) 三〇
- 左京大夫顯輔 (百人) 五三

- 左京大夫道雅 (百人) 四九
- 左京廣康 (田舎上) 三九
- 作右衛門〔木戸〕 鷺山の搦手を襲ふ〔太閤下〕 一四
- 水關を破る (太閤下) 一六
- 作藏〔岩井村百姓〕 (大岡) 三五
- 作者の面目 (書翰) 四七
- 作城〔酒と羹〕 (醒睡) 二七
- 作治 (脚下一) 一七
- 昨葉〔岸〕 (和漢) 二五
- 笠、賦 (和漢) 二九
- 筆 (和漢) 二九
- 比丘尼、曲 (和漢) 三二
- 組板、銘 (和漢) 五九
- 作文 (書翰) 三一
- 作平〔有竹〕 (淨中) 五四
- 作兵衛〔安田〕 (淨中) 六七

○嵯峨院 (宇津上) 六

○逆井村 (淨中) 四七三

○榮御前〔梶原景時の室〕

(淨下) 七

○佐賀右衛門 (淨中) 五九

○逆さ柱 (田舎) 三

○同 (淨上) 三二

○同〔神樂歌、採物〕 (古代) 六

○同〔娘〕 (脚上) 五四

○同〔卷〕 (田舎下) 一元

○同 (田舎下) 四八

○同〔原家役人〕 (大岡) 二七六

○同〔原康勝〕 (大久保) 三七二

○同〔兵部〕 (淨下) 五九

○坂越の浦大酒社 (出定) 六七一

○酒田湊 (日記) 三六

○さかづき〔端歌〕 (近代) 二五

○嵯峨帝

無惡善の落書 (宇治) 二五

同 (宇治) 五七

筆の才を試み給ふ〔百人〕 二二

心經をかゝせ給ふ〔古今著〕 四〇

空海の手跡 (古今著) 三九

○酒殿泉 (風土記) 五三

○酒殿歌〔神樂歌、明星〕〔古代〕 二七

○さかなはうたづくし

〔よし原小歌〕 (近代) 一七

○嵯峨野 (宇津上) 四三

同 (狹衣) 一八四

同 (田舎上) 二七

同 (田舎下) 五七四

○嵯峨の院 (宇津上) 二四六

同 (狹衣) 三六

○坂上梅丸 (石川) 六

○坂上是則 (百人) 二五〇

○嵯峨の内君 (田舎下) 一五

○佐嘉郡 (風土記) 五九

○嵯峨の後室 (田舎上) 六

○さかの里〔因播國高草郡〕

(宇治) 二〇

○佐香郷 (風土記) 四六

○嵯峨の御堂 (田舎下) 三三

○嵯峨の宮 (狹衣) 一六

○相摸 (百人) 四九

○相摸國歌 (萬葉下) 三三

同 (萬葉下) 三三

○相摸三首〔國風〕 (近代) 六

○相摸臺 (江戸四) 二八三

○相摸川 (淨下) 五五

同 (日記) 三九

○相摸坊尊海 (雅文) 一四

百濟を救はせ給ふ(馭戎) 六

○祭文 (平賀) 五五

同〔さわぎ〕 (近代) 六五

同〔丹前古今ふし〕 (近代) 四三

○柴門辭〔芭蕉〕 (風俗) 二

○宰領 (淨上) 二

○幸木 (骨董集) 二七

○幸神祠 (江戸二) 六八

○早枚〔五大力戀絨〕 (脚下) 八

同〔加賀見山舊錦繪〕 (淨下) 五二

○才名のり (宇津上) 二四

○道祖神^{さえのかみ} (宇津上) 元

○佐右衛門二郎〔ときや〕 (近代) 二三

○左衛門〔松田〕圓右衛門を恥しむ (太閤中) 四

○左衛門の權佐 (狹衣) 二五

○左衛門尉〔年始ノ狀〕 (和漢) 四三

同〔千蔭の帶を知る〕 (宇津上) 一八

同〔朝日の影に髻〕 (古今著) 五三

○左衛門尉のぶより (御伽) 一〇

○左衛門の陣 (宇津上) 一八

○藏王堂 (日記) 四七

○さなしか〔三下り〕 (近代) 四二

○棹丸〔蘆屋〕 (石川) 一七

○佐保山 (宇津上) 四三

○嵯峨 (日記) 五〇

○さかひ〔端歌〕 (近代) 六八

○坂井右近 (太閤上) 三〇

○酒井雅樂頭 我意を振ふ (女太平) 三

偽言披露 (女太平) 六

切腹 (女太平) 三

下馬將軍の名稱 (女太平) 四

天一坊に出會 (大岡) 一〇五

内意を傳ふ (伊達) 五三

兵部少輔と密談 (伊達) 五八

○境川 (日記) 六三

同 (日記) 三八

○坂井郡の農民の愁訴〔金澤〕 三三

○酒井讃岐守 (大岡) 二六

○酒井忠勝の寛仁 (窓の) 三

○界地藏 (江戸一) 六九

○さかひのねはま〔三下り〕 (近代) 六四

○堺の町人 茶會にて鬭爭す (太閤下) 二八

禁獄せらる (太閤上) 二七

○堺の濱踊 (近代) 四七

○酒井八郎兵衛の剛勇〔窓の〕 三

○境部王〔治部卿〕の詩〔詩集〕 五四

○蔡順〔一期盡きざる

米と牛の腿〕

(御伽) 三六

○宰相〔兼右兵衛督〕鶴

と契る

(御伽) 五三

○最勝講

(古今著) 九三

○最勝寺〔牛竇山〕

(江戸四) 一六

○濟松寺〔蔭深山〕

(江戸二) 五三

○宰相中將

(狹衣) 三九

○宰相殿はちかづき姫

を娶る

(御伽) 三

○宰相の中將

(狹衣) 二五

○才藏〔蟹江〕

(淨中) 二五

○西藏院

(江戸三) 六

○採桑老

(宇津上) 二五

○咲いた櫻〔はやり歌〕

(近代) 四六

○さいたづま

(淨上) 二五

○歳旦の口號

(鶉衣) 七九

○最澄〔僧〕

(出定) 六三

○採茶庵舊蹟

(江戸四) 三

○齊藤新九郎

(醒睡) 一七

○齊藤道三

信長と正徳寺に會

す

(太閤上) 四

素性

(太閤上) 一六

○齊藤義龍親子の不和〔太閤上〕

一六

○さい鳥さし踊

(近代) 四三

○西念

(石川) 五

○妻念坊氣絶のさわぎ〔和合人〕

二六

○さいの川原

(日記) 六八

同〔古今ぶし〕

(近代) 四三

○濟範〔堂僧〕の臨終

(古今著) 四四

○催馬樂

(宇津上) 三五

同

(古代) 二九

同〔ぬき川の解〕

(日記) 三九

同〔其文字〕

(閑田) 一五

○前張〔神樂歌、大前張〕

(古代) 一〇〇

○西福寺〔藤林山〕

(江戸三) 三五

同〔三緑山〕

(江戸三) 五七

同〔東光山〕

(江戸三) 四九

○宰府天満宮〔龜戸〕

(江戸四) 二二

○才兵衛〔揚屋〕

(脚上) 二

○西芳寺

(曾呂利) 六八

○西方淨土

(宇津上) 三三

同

(宇津上) 六八

○裁縫道具

(心學) 四八

○祭卜〔法印〕

(淨中) 五三

○西明寺〔大唐〕

(宇治) 五五

○最明寺〔龍宿山〕

(江戸二) 三五

○齊明記童謠序

(琴後) 六三

○齊明天皇

御製の傳説

(閑田) 七一

圓位上人 (平賀) 三六〇
 俗話 (窓の) 一八〇
 西行忌 (石川) 四九五
 その子 (曾呂利) 六〇七
 麥粉 (曾呂利) 六〇九
 交野の老尼 (曾呂利) 六〇九
 宗南坊に従ひて大
 峰に上る (古今著) 六三
 法勝寺の花見 (古今著) 一二五
 御裳濯歌合 (古今著) 一八一
 鳥羽院を悼む (古今著) 四一九
 後徳大寺の薦公衡
 中將の櫻 (古今著) 四四〇
 白峰詣 (百人) 五四五
 略傳、逸話 (百人) 六〇四
 ○西行がへり (日記) 一四六
 ○西行櫻 (淨上) 二八三

○最教寺〔天松山〕 (江戸四) 一四六
 ○西行谷 (日記) 二〇九
 ○齋宮 (萬葉上) 三三
 同 (狹衣) 一四四
 同 (宇津上) 二二五
 ○細見嗚呼御江戸序 (平賀) 一四九
 ○罪業 (禪林) 三六〇
 ○定齋號序 (鶉衣) 八三三
 ○西光寺〔松榮山〕 (江戸一) 三六一
 同〔超越山〕 (江戸三) 四四五
 同〔眞覺山〕 (江戸四) 三三七
 ○西國八景〔所作〕 (近代) 五九
 ○在五中將の日記 (狹衣) 三三
 ○さいころぶし〔二上
 リ〕 (近代) 二七
 ○財産〔貧富參照〕
 財寶の盡くる事 (禪林) 二六

財寶と佛道 (禪林) 一四六
 財と施與 (禪林) 三三七
 人の一生と身代 (八文字) 一六六
 ○祭祀 (心學) 四三三
 同 (直比靈) 三三
 ○笄子 (宇津上) 三七六
 ○才十 (田舎下) 一八一
 ○柴進〔小旋風〕
 門に天下の客を招
 く (水滸一) 三四三
 横海郡に客を留む (水滸一) 五七
 高唐州に失陷す (水滸二) 六四四
 黒旋風に救はる (水滸三) 一九
 花を簪して禁院に
 入る (水滸三) 三六七
 砲を藏して賊を討
 つ (水滸四) 三八八

○ころばずといふ下駄(骨董集) 三三

○五郎八(鮎屋) (女天平) 二四

○五郎兵衛(井上) (太閣下) 三九

同(古手屋) (脚上) 六〇

同(松前屋)

追放 (大久保) 二五

藤右衛門と試合 (大久保) 三三

召捕らる (大久保) 三九

處刑の日延 (大久保) 三〇

太助問答 (大久保) 二五

宅盜難 (大久保) 二六

吹上上覽所對決 (大久保) 二六

○ころんぼの奇習 (出定) 五〇

○衣(宴曲) (古代) 四八

○更衣 (宇津上) 三四

同 (田舎上) 六五

同(催馬樂、律) (古代) 三七

同(和漢朗詠集、夏) (古代) 一九

○衣ヶ關 (日記) 一四

○衣川 (紀行) 三〇

同 (日記) 四六

同(袈裟御前の母) (書翰) 九

○衣箱 (宇津上) 一六

同 (田舎上) 二七

○ころもづくし(長歌)(近代) 五五

○古渡こわたり (石川) 四三

○聲色づかひ (石川) 三三

サ

○齋院 (袂衣) 一九

○齋院の御わたりの日(袂衣) 二〇

○齋院大納言 (古今著) 八三

○塞翁馬 (燕石) 五五

○四音法師(平時實) (古今著) 一八

○西園寺 (百人) 六九

○西鶴 其人物 (燕石) 五五

好色本作者 (平賀) 八一

其墓誌 (日記) 六三

○西鶴句集 (俳句集) 三

○才覺坊 (淨中) 三九

○西花坊(五字、聯) (和漢) 六四

○佐伯の出家 (御伽) 二九

○西行

山家集 (山家) 一

七瀬川と麥粉 (醒睡) 三六

ことに身にしむの 歌 (宇治) 四三

鳴たつ澤の歌 (宇治) 四三

藤原定家へ歌合の 判 (書翰) 一

○五欲六塵

(禪林) 六八

○曆踊

(近代) 四五

○小餘綾こよろぎのやえ磯

(遊京) 三八

○吾樂庵ノ記

(鶉衣) 八六

○垢離

(石川) 三七

○小りう〔繁氏奥方の

埜〕

(淨上) 一八

○こりざほ〔人夫〕

(古今著) 一八

○悟丁軒泥坊の狂詩

(川柳) 四九

○五龍山

(水滸四) 二〇四

○御寮人

(淨上) 三六

○御陵の頽廢

(書翰) 四三

○古鈴一口

(江戸四) 二九〇

○伊衡の勅使

(百人) 一七

○維風侍從

(宇津上) 二八三

○惟方〔別當〕配所の歌〔古今著〕

一六

○惟吉これきち

(田舎上) 五三

○伊實〔中納言〕

(古今著) 三〇

○維輔〔平〕

(宇津上) 二四一

○是季

放鷹樂を習ふ

(宇治) 二七

同

○惟任將軍〔光秀〕

(淨中) 二三

○維時〔大江大將〕

(淨上) 一七

○以長〔大膳亮大夫橘〕

(宇治) 一四

○伊成〔小熊權守伊達の

息〕

(古今著) 三六

○維則〔右近尉平〕

(宇津上) 二四一

○是則の略傳

(百人) 二五〇

○惟弘〔大宅四郎太夫〕

(淨上) 一〇五

○維房〔右中辨〕

(宇津上) 二三三

○伊房〔帥中納言〕

(古今著) 二四八

○以政〔前攝津守橘〕

(古今著) 二四

○是政村

(江戸二) 六四

○伊通公〔參議〕

(古今著) 一四三

○惟光の放屁

(石川) 三七

○維元〔木工助〕

(宇津上) 二八

○五郎〔中野〕

(淨中) 一九

○五老井〔許六を見よ〕

○答五老井狀〔蓮二

房〕

(和漢) 四三

○五郎左衛門〔惟任〕

(太閤中) 五七

○五郎左衛門

(大久保) 二三

○五郎晴命はるのり

(田舎下) 四六五

○五郎正宗

(淨上) 五九三

○五郎丸

(八文字) 五九三

○ころく〔さわぎ〕

(近代) 二九三

○小六郎重員

(田舎上) 六一

○古呂故天神社

(江戸二) 一四三

○五郎四郎傳〔支考〕

(風俗) 一七三

○五郎太船の婆様

(淨上) 六四

○權六〔車遣ひの惡者〕〔淨 上〕二九
 同〔筑紫〕〔太閣下〕三五
 同〔赤川〕〔伊 達〕五三
 同〔惡行〕〔大 岡〕六〇
 ○米
 出水の濡米〔八文字〕四九
 稻種の生成〔古事記〕四〇
 實屋と米〔醒 睡〕三二
 白き米、搗稻〔宇津上〕四
 米の値〔花 月〕五七
 ○米蝶〔武 野〕三九
 ○こめ舞〔宇津下〕二四
 ○米屋家中の改め〔大久保〕二九
 ○米屋治兵衛〔溺死者の
 人違ひ〕〔窓 の〕八
 ○米屋の女隠居〔大 岡〕四三
 ○吳猛〔御 伽〕二七

○薦かぶり〔淨 上〕三三
 ○枯默上人の詠歌〔八文字〕五七
 ○虛無僧〔淨 上〕五三
 ○虛無僧寺〔江 戸〕二九
 ○虛無僧尺八〔近 代〕二四
 ○薦野記〔鶉 衣〕六六
 ○薦枕〔神樂歌、小前張〕〔古 代〕一〇三
 ○子守神社〔日 記〕四〇
 ○故藥師院〔醒 睡〕三七
 ○子安貝〔宇津上〕六九
 ○子安觀世音〔江 戸〕一
 ○子安清水〔江 戸〕一六二
 ○子安藥師如來〔江 戸〕二
 ○小山神明宮〔江 戸〕一六二
 ○御油〔日 記〕三九
 ○古遊散人のなだ卷評〔平 賀〕七
 ○小弓御曹子墓〔江 戸〕四二六三

○小弓の會〔古今著〕三〇
 ○小由流支〔風俗〕〔古 代〕一〇
 ○こゆるぎの磯〔日 記〕三八
 ○吳用〔智多星〕
 生辰綱を智をもつて取る〔水滸一〕四三
 梁山泊に戴宗を舉ぐ〔水滸二〕二九七
 時遷をして甲を盜しむ〔水滸三〕四
 金鈴吊掛を賺す〔水滸三〕一〇三
 玉麒麟を賺す〔水滸三〕一四
 大名府を取る〔水滸三〕三七
 計、鄆梨を鳩す〔水滸四〕二四
 ○後陽成院の聚樂行幸〔太閣下〕二六
 ○五葉の松〔宇津上〕三〇

○金剛大師 (宇津上) 三三

○金剛童子 (淨上) 二二

○金剛坊 (太閤上) 四二

○金剛力 (淨上) 九

○混江龍(李俊)

水を太原城に灌ぐ(水滸四) 二六〇

太湖にて小く義を

結ぶ (水滸四) 四七

○金色菩薩 (淨上) 二九

○良齋(安積)の詩 (詩集) 二九

○權左衛門(生駒) (金澤) 三五

○權七(悪者) (淨上) 六〇

○金神長吉 (脚下) 四六

○金神長五郎 (女房) 二七

○根生密院(金剛寶山)(江戸三) 二四

○權四郎 (淨下) 一六

○權助(伊賀越乘掛合)

羽 (脚上) 二六

○權助(與話情浮名横

櫛) (脚下) 四六

○權三(駕籠舁) (大岡) 四六

○權太(惡漢) (女房) 三五

○權太夫(曾根) (女太平) 三七

○譽田内記 (脚上) 三〇

○輝中庵 (石川) 四六

○紺忠新宅 (石川) 四二

○權中納言定頼 (百人) 四四

○權中納言匡房 (百人) 四七

○權中納言定家(定家^{ていか})

の條參照) (百人) 七〇

○近藤登之助 (大久保) 一六

○混沌庵送別歌 (遊京) 四三

○混沌圓 (禪林) 三三

○今度屋踊 (近代) 四七

○金毘羅大權現社 (江戸二) 二四

○昆布賣 (狂言下) 二九

○昆布道成寺 (近代) 二七

○昆布布施 (狂言上) 三三

○權平(平野) (太閤中) 四六

○權兵衛(家主) (脚上) 六九

○金米糖の壺 (心學) 二五

○根本無作の戒體 (禪林) 四〇

○權内助(下津) (太閤上) 四九

○莧蕪論(廣達支) (和漢) 四九

○權之助踊 (近代) 四三

○紺屋 (醒睡) 三〇

○紺屋の白袴 (骨董集) 七

○後村上天皇 (平賀) 四三

○小紫(倭詞花川戸) (脚下) 二七

○同(伊賀越乘掛合羽) (脚上) 二二

○小むらさき(長歌) (近代) 三三

○駒返〔二名、犬もどり〕(日記) 三二七

○駒がへり (日記) 八五

○こまがた (宇津上) 三九

○こまかた明神 (日記) 三八

○駒形堂 (江戸三) 四二

○駒形の螢 (骨董集) 四〇

○駒形の内田甚右衛門(和合人) 六三

○小巻(大場道益の妻) (浄下) 六二

○駒下駄 (田舎下) 一〇

同 (平賀) 四七

同 (浄上) 三三

○駒込鯉縄手の梅 (江戸四) 三九

○駒込神明宮 (江戸三) 二九

○高麗鈴 (宇津上) 四六

○小まち(三上り) (近代) 二七六

○小町〔小野小町参照〕 (石川) 四六

義に捨てたる我子

と契る (御伽) 五五

○小松が桐 (浄上) 三七

○小松菜 (大久保) 一七

○小松内府〔平重盛〕 (花月) 五三

○獨樂^{こまつぶり} (宇治) 六七

○駒留橋 (江戸二) 六四

○狼の樂 (宇津上) 三六

○護摩の壇 (田舎上) 三三

○駒の爪 (田舎下) 一〇

○古満野の物語 (田舎下) 五八

○駒場野 (江戸二) 一八

○駒林 (日記) 二〇

○駒牽 (宇津上) 六六

○高麗笛 (田舎上) 一八

同 (宇津下) 一四

○小間物屋 (浄中) 五二

○小間物屋彦兵衛之傳(大岡) 四七

○後磨山賦(去來) (風俗) 四〇

○五丸殿出世初め (窓の) 三四

○駒若(木曾長男) (浄下) 二七

○婚姻(結婚を見よ)

○近衛使の故實 (閑田) 一五

○こんくわい (狂言上) 五七

同(三下り) (近代) 三七

○狐會出端 (近代) 四六

○權梗坊 (醒睡) 二四

○權九郎 (脚上) 八二

○金剛院(行徳)廢址 (江戸四) 三九

○金剛山 (日記) 一七

同 (日記) 四七

○金剛寺(龍河山) (江戸三) 三五

同(高幡山) (江戸二) 四四

同(慧日山) (江戸二) 五九

このはなちるひめ

○木花知流比賣 (古事記) 一五

○五の宮の御室 (古今著) 三三

○木丸殿 (百人) 二四

○五馬山 (風土記) 五五

○木幡〔與三右衛門妻〕(脚上) 三二

○木幡の僧都 (狭衣) 二九

○五八 (脚下) 三三

○小判 (淨中) 四四

○碁盤 (字津上) 六五〇

○碁盤の喩 (心學) 四〇三

○こばんづくし踊 (近代) 四六

○小早川隆景

吉川等との軍評定(太閤中) 一八三

後向の備へ (太閤下) 三七

○小林のあんかう〔鮫

鱈〕 (黄表紙) 三

○小林の郷民 (淨上) 一八

○小春〔藝子〕 (脚下) 一七〇

○小人島 (平賀) 三三

○五百大阿羅漢禪寺〔天

恩山〕 (江戸四) 六

○五百羅漢堂供養と羅

漢の名 (一休) 四四

○昆布柿 (狂言下) 三九一

○吳服屋の養子 (心學) 九五

○吳服屋の手代の話 (心學) 二四

○こぶし〔辛夷〕の歌 (年々) 三三

○小藤 (田舎下) 三六三

同〔島廻色爲朝〕 (脚下) 五七

○溜取 (宇治) 四

同 (醒睡) 八

同 (醒睡) 二七四

○小ふる〔大舍人頭〕 (字津下) 六七四

○小兵衛〔四谷怪談〕 (脚下) 二三

○小兵衛の怨靈 (脚下) 二四

同〔料理人〕 (大久保) 三九六

同〔廣澤〕 (大久保) 四一

○五兵衛〔肝煎〕 (女太平) 六

同〔伊勢屋〕 (大岡) 三八

○小辨 (田舎上) 三六

○古法眼繪の狂歌 (一休) 三六

○五本松 (江戸四) 四三

○こぼれ幸 (醒睡) 六

○小堀遠州の眼識 (窓の) 三三

○獨樂 (閑田) 一九二

同 (淨上) 五六

○高麗 (字津上) 二八

○護摩 (淨上) 三

○狛江入道舊館地 (江戸二) 三〇三

○高麗人 (字津上) 二

○五枚眉 (淨上) 七

○戸富み家足る
（花月）三五
○興聖産靈神
（古道）四九

○小鳥合
（古今著）六〇三

○小鳥狩
（淨上）八七

○理のまこと
（花月）三五

○小鍋詠歌〔宗鑑〕
（和漢）三五

○こなへ粥のかみうは

ずみ〔掛取の城の

大將〕
（黄表紙）二〇

○五人曾我〔吾妻淨瑠

璃〕
（近代）三〇五

○小西彌九郎
（太閤上）五四

○小西行長

肥後半國を賜はる〔太閤下〕二六

渡海の砌諸將を透

す
（太閤下）二三

釜山浦を陥る
（太閤下）二三

登萊城を陥る
（太閤下）二三

尙州を陥る
（太閤下）二四

尙州に李鎰を破る〔太閤下〕二四

忠州を陥る
（太閤下）二四

加藤清正と先陣を

爭ふ
（太閤下）二四

臨津を渡す
（太閤下）二七

書を朝鮮城に送る〔太閤下〕二七

遼東の軍を破る
（太閤下）二九

平壤にて沈惟敬と

會見す
（太閤下）二六

平壤を棄て王都に

走る
（太閤下）三四

書を沈惟敬に送る〔太閤下〕二六

沈惟敬を罵る
（太閤下）二六

朝鮮國への文書、沈

惟敬への手紙の

評

○後二條殿
（駁戎）二五

○小西來山
（古今著）二五

○粉糠〔齋の飯〕
（崎人傳）二五

○子盗人
（一休）四三

○此糸
（狂言上）二六

○近衛
（脚下）二六

○近衛大殿
（宇津下）二四

○近衛殿
（古今著）二五

○近衛殿
（宇治）二三

○胡の國
（一休）二六

○此殿奥〔催馬樂、呂〕
（宇津上）二五

○此殿西〔催馬樂、呂〕
（古代）二五

○此殿者〔催馬樂、呂〕
（古代）二五

○木花開耶姬社
（江戶二）二五

○木之花佐久夜毘賣
（古事記）二五

同
（古道）二五

はうしやう (字津下) 七

きりかぜ (字津下) 七

曲の調 (字津下) 七

帽子叟孔子と問答(字 治) 一七

承香殿の女御 (字 治) 四六

爪音 (淨 上) 二四

つくし琴 (淨 上) 四一

引きやう、傳來 (近 代) 一八

調子合せ様 (近 代) 二九

すががき引きやう(近 代) 三三

りんぜつ引きやう(近 代) 三三

八橋流くみの名目(近 代) 二七

異名 (近 代) 六八

濫觴 (近 代) 六三

琴聴く愚者 (石 川) 三七

七絃琴 (畸人傳) 四三

○琴歌(松月抄) (近 代) 六五

○琴浦(お鯛茶屋の太

夫) (淨 中) 五九

○古道三 (醒 睡) 六六

○後藤甚三郎 (窓 の) 六一

○小藤太(源大納言定

房の侍) (字 治) 二四

○小藤治(谷村) (淨 中) 三九

○兒島兵衛政次 (淨 下) 二四

○古道論 (古 道) 三六

○琴木岡 (風土記) 五八

○後徳大寺左大臣

春日社參詣 (古今著) 一九

四十の春 (古今著) 二四

住吉社頭月 (古今著) 一四〇

花見に通清を誘ふ(字 治) 四三

大納言時代 (字 治) 四六

略傳、逸話 (百 人) 五〇

○ことじり文の詞(清

水濱臣) (琴 後) 三五

○事代主神 (古事記) 六三

同 (古事記) 六

○小舎人 (字津上) 一八

○小舎人童 (字 治) 三

○小殿平六(強盜の棟

梁) (古今著) 三九

○官の葉 (田舎上) 一七

○任 事 社 (日記) 三二

○後鳥羽院

御鞠無雙 (古今著) 三七

定家卿を愛し給ふ(百 人) 七四

御略傳 (百 人) 七三

○言葉どがめ (花 月) 五二

○琴引山 (風土記) 四四

○ことぶき(長歌) (近 代) 五三

山芋説 (風俗) 九五
 飯作銘 (風俗) 一四三
 和漢文操假名序 (和漢) 三三五
 葭菈嚴 (和漢) 四七九
 ○壺中國記〔東花坊〕 (和漢) 四九三
 ○こてふ (御伽) 五五五
 同 (宇津上) 三六六
 ○五丁〔幣間〕 (脚下) 二五五
 ○五町〔幣間〕 (淨中) 四九〇
 ○五條 (宇治) 二八〇
 ○五條車〔はやり歌〕 (近代) 四七六
 ○五條坂 (淨下) 四七六
 ○五條天神宮 (江戸三) 四七一
 ○五條道祖神 (宇治) 一
 ○五條の右大臣たかふ
 ぢ (御伽) 三二
 ○五條の天神 (宇治) 八〇

○五條の橋の千人ぶち〔黄表紙〕 一二四
 ○胡蝶の巻 (田舎下) 四六六
 ○悼五條坊文 (鶉衣) 七九六
 ○贈五條房畫賛 (鶉衣) 八二二
 ○小柄の定紋 (淨中) 五五五
 ○小づかひ丁太郎ひと
 とち〔霍所奉行〕 (黄表紙) 三〇九
 ○克己 (禪林) 一九七
 ○小机城跡 (江戸一) 四六六
 ○乞丐人〔乞食參照〕 (窓の) 三三三
 ○牛頭天王 (曾呂利) 六二二
 ○牛頭天王社 (江戸一) 三三二
 同 (江戸二) 六四四
 同 (日記) 四九九
 ○ゴツド (靈能) 三三三
 ○骨董 (心學) 三二〇
 ○こつば權〔非人〕 (淨中) 六三三

○こつぶ (田舎上) 六八三
 ○小鶴〔藝子〕 (脚上) 六四六
 ○小手 (淨上) 九
 ○こて (宇津上) 二四六
 同 (古今著) 三七三
 ○小手差原 (平賀) 四八二
 同 (江戸三) 二二三
 ○小毬 (田舎上) 六九
 ○壺天〔醋貝〕頌 (和漢) 四三三
 ○小傳〔藝子〕 (脚下) 二〇五
 ○小傳次〔澤村〕 (平賀) 六二二
 ○御殿山 (江戸一) 三三二
 同〔牛込〕 (江戸二) 三三二
 ○琴 天詔琴 (古事記) 四
 枯野 (古事記) 三三七
 三人の彈琴 (宇津上) 四

屏風の上より大き

な人

(古今著) 三七

○譬女ひよ

(淨上) 六〇

○小瀬川

(淨上) 六四

○小瀬川筋

(淨下) 二四

○五節

(宇治) 四四

同

(宇津上) 八一

○五節の舞

(石川) 三四

○巨勢朝臣多益須の詩(詩集) 五四

○巨勢金岡

(古今著) 四三

○甲古戰場文芭蕉

(風俗) 一六三

○巨勢山

(雅文) 四六

○御即位

(宇津下) 四七

○こそでがへし(三下り)

(近代) 六三

り

○後醍醐天皇

(雅文) 八

藤房の諫言

(雅文) 八

狐の怪を見現し給

ふ

(太閤上) 三六

建武中興の大略

(太閤上) 六〇

○五臺山

(宇治) 三九

同

(水滸一) 一四

同

(水滸四) 二四

○小大進

(古今著) 一五

なき名

(古今著) 一五

歌よみ

(宇治) 四二

○五體佛

(淨上) 二八

○碁太平記白石嘶

(淨中) 四四

○五大力

(脚下) 一三

○五大力戀絨きたいりきこひのふうじめ

(脚下) 八一

○小鷹狩

(宇津上) 四三

○火燧

(骨董集) 五〇

同

(骨董集) 六四

同

(淨上) 三〇

○小辰(白拍子)

(脚上) 三六

○銚こたは

(淨上) 二

○小玉

(田舎上) 一六

○兒玉黨

(淨中) 一〇

○五壇の御修法

(田舎上) 四八

○小太郎(石堂)

(淨中) 四七

○小太郎(小澤)居宅著

(江月二) 四三

地

○護持院(舊地)

(江戸一) 九

同(筑波山)

(江戸二) 六三

○護持院僧正

(江戸二) 六三

御物頭に通行を拒

まる

(窓の) 三二

御祈願所

(女太平) 四

○巨智里

(風土記) 五六

○五智の都

(禪林) 三

○吾仲

○こしげ〔端歌〕（近代）六六

○小柴垣（浄上）二四

○越部里（風土記）三二

○故人庵茶歌〔蓮二房〕（和漢）三四

○古人を論ず（閑田）七

○古人の名におへる魚（年々）二七三

○五辛食ふ事（年々）三三

○燒（浄上）五

同（平賀）一九七

○五尺手拭〔はやり歌〕（近代）五〇〇

○古集（宇津下）二〇四

○小舅（浄上）二〇

○五十折の狂詩（川柳）三二

○五十駕籠の由來（大久保）三七四

○五十三次（平賀）四九

○五十三次宿づくし（七偏人）五二

○小十郎〔越智〕勇戰（太閤中）二六

同〔片倉〕（伊達）四四

○腰結（袂衣）三一

○五種香供（和合人）三四

○御朱印（浄中）四四

○御所（浄上）二

○古松軒〔古河〕（書翰）三〇一

○胡椒（浄上）一九

○古抄本三十六人集（遊京）四三

○御所が谷（江戸一）六六

○五所權現社（江戸二）三七

○御所櫻堀川夜討（浄下）二九三

○後白川院（浄下）二九三

日吉社へ御幸（宇治）四三

絶えて久しき事ど

も再興（宇治）五六

小侍従の懺悔（古今著）二六七

○小四郎泰時（黄表紙）七

○小四郎高重（浄中）二六

○小次郎〔渡瀬〕（太閤下）六〇

○五四六の七郎兵衛（脚上）三三

○湖水賦〔李由〕（風俗）六

○梢千鳥の前の姥（浄上）五

○小杉御殿地（江戸二）二五七

○小助〔あぶら屋の下人〕（浄上）三九

○五助〔松前屋〕（浄上）三九

劔術指南（大久保）三六

旗本に取立てらるる事（大久保）三六

○後朱雀院（浄上）一七

東夷（古今著）八

装束の寸法（宇治）一四〇

丈六の佛（宇治）一四〇

四天王示現（宇治）五七

○乞食

醉人と花子の長 (閑田) 二三

乞食する眞似 (宇津上) 二三

鉢かづきに救はる (黄表紙) 二六

施行 (一休) 四七

明地 (大久保) 三四

佛法の修行の法 (出定) 五〇

河太郎野伏と遊山

す (琦行傳) 七六

三井養安の慈悲 (崎人傳) 六九

乞食法師の豫言 (石川) 二五〇

ためし斬に遇ひし

乞食 (石川) 三四

賢き乞食 (石川) 三五

佛者と乞食 (禪林) 一三〇

乞食の言 (禪林) 一五

乞食の歌 (萬葉下) 三三

乞食の榮耀 (心學) 三三

乞食の喧嘩 (心學) 三〇

乞人の頭盜を戒む (心學) 四四

乞食女六の墓 (日記) 六七

乞食、晝餐 (鶉衣) 六三

○古事記

撰輯の由來

古事記傳

五色の鹿

五色の藁

○小式部内侍

天井の聲

いく野の道

略傳、逸話

定頼の經をめぐ

大二條殿と歌

夢の絲と櫻の絲

○腰組〔本手〕

○腰越狀

○小侍從

あかぬ別れの

いろはの連歌

藥師の利生

○伍子胥の故事

同

○吳子孫子

○越路

○小七郎〔入江〕

○古七太夫

○腰拔大名

○越の國

○古志郷

○五字ノ聯〔西花坊〕

○越の白山

(近代) 一七

(書翰) 六

(宇治) 四七

(古今著) 一六

(曾呂利) 五五

(太閤中) 一三

(淨上) 三

(淨上) 三六

(宇治上) 五三

(太閤中) 四四

(窓の) 二五

(大久保) 三五

(石川) 三三

(風土記) 四九

(和漢) 三四

(宇津上) 五〇

心と視聽 (禪林) 一六三
 心と興 (禪林) 一七四
 本心と血氣の差別 (禪林) 一八三
 心の比興 (禪林) 二二九
 眞心妄心 (禪林) 二三九
 佛心 (禪林) 二九六
 我慢の心 (禪林) 三三五
 精氣神の三物 (禪林) 三六六
 八識賴耶愚痴無明 (禪林) 三九二
 の間處 (禪林) 三九二
 心氣の勞疲を救ふ (禪林) 四六六
 處法 (花月) 五七
 心の誠 (花月) 五七
 心を用ふること (花月) 五七
 人の心 (花月) 五九六
 〇志と氣 (禪林) 三三四
 〇志と智 (花月) 五三

〇志の表現 (心學) 三七
 〇こゝろすゝし (三上り) (近代) 六四
 〇心の内には「今様」 (古代) 一六〇
 〇心のやみの「今様」 (古代) 一七〇
 〇心葉 (字津上) 一七
 〇こゝろふと「蒲原在」 (日記) 三三七
 〇心見觀音 (江戸二) 一五
 〇菟筵 (平賀) 一七
 〇小宰相 (狹衣) 三六
 同 (御伽) 三九
 〇小前張「神樂歌」 (古代) 一〇三
 〇小坂 (雅文) 一九
 〇後嵯峨天皇 (古今著) 一九
 雪の松 (古今著) 一九
 なよ竹の女房 (古今著) 二六
 〇五作「牽頭」 (平賀) 四七

〇小櫻 (田舎下) 一〇四
 〇小櫻をどし (平賀) 四七四
 〇小笹 (脚下) 四七七
 〇小三郎「盛清」 (淨中) 一九
 〇小さん「金五郎の情婦」 (娘節用) 吳
 〇五山「菊池」の詩 (詩集) 三三四
 〇湖山「小野」の詩 (詩集) 四九一
 〇虎山「阪井」の詩 (詩集) 三三〇
 〇後三條院 實政に賜へる御製「古今著」 二八
 御即位の時の玉冠「宇治」 五五
 〇巨山「龍峰讀宴曲」 (古代) 四九五
 〇小猿「肥前の」 (大岡) 五八三
 〇腰所 (狂言下) 三三
 〇甌 (石川) 三三
 同 (字津上) 四八

兵具くらへ

(禪林) 九

淨土と穢土

(禪林) 三

達磨の解

(禪林) 九

極樂の有無

(禪林) 三三

耳の干物、舌の干

物

(心學) 一五〇

富士の極樂

(琦行傳) 七四

關王の極樂說

(雅文) 一〇八

現世の極樂

(八文字) 一〇三

極樂の迎へ

(宇治) 二四

極樂淨土

(宇津上) 三

○極樂寺、教〔是佛坊〕

(和漢) 三九

○極樂寺の僧

(宇治) 四三

○極樂重三

(脚下) 三六

○黒龍寺

(宇治) 一〇二

○憐小傾城〔右範〕

(和漢) 三九

○苔丸殿

(御伽) 三三

○五鈷〔佛具〕

(宇治) 三八

○御光

(心學) 二三

○御幸塚

(太閤上) 二二

○胡國

(宇治) 四六

○護國女太平記

(女太平) 一

○護國寺〔神齡山〕

(江戸二) 六三

○護國寺のさつき

(江戸四) 四七

○五穀多寡

(燕石) 三四

○九日〔和漢朗詠集、秋〕(古代) 二〇

同〔新撰朗詠集、秋〕

(古代) 三〇

○九日寄服先生辭

(鶉衣) 七四

○古語の轉

(閑田) 三

○後小松院

(淨上) 一

○古今清濁の相違

(年々) 二五

○子籠〔胎内の子〕

(淨上) 二七

○心

心の紛失

(心學) 一五

孟子無名指の喻

(心學) 元

私心私欲

(心學) 八

心の洗濯

(心學) 一三

心の關守

(心學) 一九

性と情

(心學) 三五

本心と私心

(心學) 二六

腹の中の鬼

(心學) 三二

心の垢

(心學) 三六

心より大なる天地

なし

(心學) 三五

心は身の主

(心學) 四三

心の城郭

(禪林) 一七

華美と人心

(禪林) 一九

一念の力

(禪林) 一五

心雙

(禪林) 一四

奢侈と惡心

(禪林) 一六

心の不淨

(禪林) 一六

悼む

(古今著) 四二

○虚空

(心學) 三六

○國王

(宇治) 五三

○國家

世のいがみ

(心學) 二七四

治國の要道

(禪林) 四九五

天下は天下の天下

也

(禪林) 五九三

國土の大になれる

理

(靈能) 二三

國の尊卑

(古道) 四六

○國學論

(古道) 六四

○國學の研究

(年々) 五三

○後久我大相國

(古今著) 九三

○國歌の體裁

(閑田) 一七

○穀糞聖

(宇治) 三三

○黒龍

(心學) 六

○石字[米の]

(宇治) 五四

○國字

(閑田) 一六

○國史の三大疑

(書翰) 一八

○獄所

(宇津上) 三六

○黒旋風[李達]

浪裡白跳と闘ふ

(水滸二) 三七

沂嶺に四虎を殺す(水滸二) 四四

斧にて羅眞人を劈

る

(水滸三) 一

穴を探て柴進を救

ふ

(水滸三) 一九

元夜に東京を開す(水滸三) 三九

喬く鬼を捉ふ

(水滸三) 四〇

詔を扯て欽差を罵

る

(水滸三) 四九

夢に天地を開す

(水滸四) 一六

暴衆人を陥る

(水滸四) 一八

○穀倉院

(宇治) 五三

○穀斷の聖

(宇治) 三三

○獄中の弟子

(書翰) 二七

○獄中より

象山より山寺常山、

三村晴山へ

(書翰) 五五

松蔭より妹へ

(書翰) 五四

○極蕩山人の狂詩

(川柳) 四七

○極堂先生の狂詩

(川柳) 四九

○玉の帶とくろひ

(宇津下) 四〇

○國府

(宇治) 一六

○國府城址

(江戸四) 三〇

○國分寺

(宇津下) 七五

同(醫王山)

(江戸二) 三五

○國本論

(禪林) 五七

○小倉(豐國)

(淨上) 五四

○極樂

○久我大相國 (古今著) 三五

○小刀^(旅僧の狂歌) (醒睡) 三二

○金井橋^(こがねるはし) (江戸二) 五六

○金千兩 (宇治) 一六

○黃金花咲く (萬葉) 四三

○黃金の釜 (淨上) 三六

○金の花 (宇治) 一三

○金の札 (淨上) 三五

○小金森^(能登) (日記) 八四

○黃金屋爲右衛門 (女房) 六〇

○古歌の訛 (燕石) 三一

○五箇の聲 (宇津上) 八三

○五官王^(地獄の役人) (平賀) 一六

○後漢の明帝 (出定) 六二

○小鳥丸の名劔 (淨上) 一〇七

同 (田舎上) 八三

○吳加亮四斗五方旗を

布く (水滸三) 四七

○粉河 (宇津上) 三三

粉河寺 (日記) 一〇〇

同 (淨上) 五〇

○胡鬼板^(こきいた) (骨董集) 三六

○小菊 (田舎上) 一五

○小菊の鼻紙 (田舎上) 四二

○小吉^(牽頭) (平賀) 四七

○弘徽殿 (狹衣) 三〇

○同^(吾妻淨瑠璃) (近代) 三七

○弘徽殿女御 (古今著) 一三五

○胡鬼子^(こきの子) (骨董集) 三六

○小君^(兼雅の子) (宇津下) 六〇

○古今集 (窓の) 三一

傳授 (閑田) 一六

三條西家の祕本

祕訣の三鳥 (年々) 三四

古今集の序 (年々) 三四

○呼吸 (禪林) 三七

氣息の調節 (心學) 五三

天地の陰陽 (近代) 一五

音聲の調子 (近代) 一五

○小弓 (近代) 一五

○故宮附故宅^(和漢朗詠集、雜) (古・代) 二三

同^(新撰朗詠集、雜) (古・代) 三六

○鼓弓の古製 (骨董集) 一〇〇

○古京^(和漢朗詠集、雜) (古・代) 三二

同^(新撰朗詠集、雜) (古・代) 三六

○後京極攝政太政大臣^(百人) 六三

○後京極殿^(二位中將)

冷泉内大臣を悼む^(古今著) 四三

中宮權大夫家房を

○郡家 (淨中) 七一

○氷の塔 (古今著) 三七

○こほりの山〔下總〕 (日記) 九〇

○行旅〔和漢朗詠集、雜〕 (古代) 六七

同〔新撰朗詠集、雜〕 (古代) 六一

○孔亮武行者に打たる (水滸二) 一七四

○尤龍の悔 (大久保) 四三

○公禮〔樺島〕 (書翰) 一九一

○孝靈天皇 (古事記) 一六

○高廉入雲龍に破らる (水滸三) 二

○幸和〔醫者〕 (曾呂利) 五九

○聲 (淨上) 八

○小枝 (脚下) 六八

○呼延灼〔雙鞭將〕

連環馬を擺布す (水滸三) 三四

夜月關勝を賺す (水滸三) 三九

力、蕃將を擒にす (水滸四) 六

○御縁日 (淨上) 一五四

○五右衛門〔石川〕

木村常陸介と奇な

談ず (太閣下) 三二

幼時 (太閣下) 三八

名張山中に異人に

逢ふ (太閣下) 三九

忍術を以て女難を

のがる (太閣下) 三〇

盜賊となる (太閣下) 三一

贖奢 (太閣下) 三三

岩本城に到る (太閣下) 三八

根來寺の寶塔を栖

とす (太閣下) 三四

内裏に忍び入る (太閣下) 三五

召捕らる (太閣下) 三六

三條河原の釜茹 (太閣下) 三九

○五右衛門の銀十郎 (淨中) 三三

○牛王〔神符〕 (淨上) 一五一

○午王丸〔名劍〕 (淨下) 五七

○養蠶^{こがひ} (宇津上) 三四

○古歌一首 (花月) 五三

○古學

其心得 (靈能) 二六

振起の始 (古道) 三八

研究の歴史 (古道) 三八

○古樂 (閑田) 一五三

○五岳 (平賀) 三四

○吳學究〔用〕

三阮を説て撞簪せ

しむ (水滸一) 三三

連環の計を雙用ふ (水滸二) 六九

智をもつて文字縣

を取る (水滸四) 二九

男色の戯

(平賀) 三三

嵯峨天皇と手跡を

争ふ

(古今著) 三九

五筆和尚

(古今著) 三九

御影の賛

(一体) 四六

辭世

(禪林) 六

○香木記

(鶉衣) 七二

○貢米の船

(百人) 六二

○降魔の像

(石川) 三九

○光明

(心學) 三二

○光明院

(平賀) 三三

○光明皇后

評論

(平賀) 三九

故事

(太閤中) 四三

○光明山天德寺

(江戸一) 四二

○光明寺(大金山)

(江戸一) 四二

同

(江戸一) 四六

同(大綱山)

(江戸一) 四三

○弘明寺(瑞應山)

(江戸一) 六七

○光明峰寺入道の硯笥(古今著) 九七

○孔明

(淨上) 三五

○蝠蝠羽織

(骨董集) 一三

同

(平賀) 一六七

○蝠蝠安

(脚下) 四二

○高野

(淨上) 四

同(神)

(宇治) 三三

○高野笠

(醒睡) 三〇

○膏藥煉

(狂言上) 四三

○高野山

石童丸

(淨上) 五〇

衆徒信長を調伏す(太閤中) 二七

狹衣の參拜

(狹衣) 三九

山僧一休を罵る

(一休) 四六

山形の詩

(一休) 四六

弘法大師の像の賛(一休) 四六

○高野山宿寺

(江戸二) 七

○高野の御室と京の御

室の問答

(禪林) 五六

○交友(和漢期詠集、雜)(古代) 三五

同(新撰期詠集、雜)(古代) 六二

○更幽亭、記

(鶉衣) 七六

○紅葉(和漢期詠集、秋)(古代) 二六

同(新撰期詠集、秋)(古代) 三三

○高陽院

(宇治) 一八

○氷

和漢期詠集、冬

(古代) 三九

新撰期詠集、冬

(古代) 三七

袖の氷

(宇津上) 四三

寛延三年の降水

(窓の) 二九

泥酔者

(醒睡) 三八

○氷を貰ひし文(春海)(琴後) 六〇

○栲亭〔村瀬〕の詩

〔詩集〕一六五

○光傳寺〔常見山〕

〔江戸一〕六九

○弘道館設置

〔書翰〕四六

○神戶川

〔江戸一〕五三

○廣德寺〔圓滿山〕

〔江戸三〕四〇

○廣德神異錄

〔淨中〕一

○豪德禪寺〔大溪山〕

〔江戸二〕二〇〇

○孝德天皇

〔馭戎〕七四

○神浪山左衛門〔稻妻

郷助の前名〕

〔淨下〕三

○光仁天皇

〔淨中〕三九

○香の衣

〔淨上〕八

○鴻巣の烈女

〔窓の〕二〇

○かうの色紙

〔宇津上〕一四

○國府臺

〔江戸四〕五九

○國府臺の古戦場

〔江戸四〕三九

○香の調度と茶の器具〔閑田〕一七〇

○かうのとこの御つば

れ

〔宇治〕四三

○ここの鳥

〔黄表紙〕一八

○高師直

〔雅文〕一六三

○紅梅〔和漢朗詠集、卷〕

〔古代〕一八五

同〔新撰朗詠集、卷〕

〔古代〕三六

○紅梅をめぐる辭

〔うけり〕二六〇

○紅梅の檀紙

〔宇治〕四九

○幸八

〔脚上〕五七

○口痺の藥の高札

〔一休〕四六

○高表仁日本に使す

〔馭戎〕三

○公武合體

〔書翰〕四九

○弘福寺〔大井山〕

〔江戸一〕三三

○廣福寺〔松本山〕

〔江戸二〕三六

○光福寺

〔太閤中〕三七〇

○興福寺

〔宇治〕五四

○興福寺延年舞式披露

之詞〔延年唱歌〕

〔古代〕五三

○興福寺の僧の夢

〔古今著〕三

○弘福禪寺〔牛頭山〕

〔江戸四〕一八三

○講武所設置

〔書翰〕四八

○江風山月樓

〔江戸一〕一八三

○孝文帝の仁政

〔禪林〕六五

○黃文炳張順に活取ら

る

〔水滸二〕四三

○かうぶり柳

〔宇津上〕五三

○公平

〔窓の〕三三

○公平が傳〔汝村〕

〔風俗〕一七

○高辨上人

文學坊に相せらる〔古今著〕

定心石と繩床樹〔古今著〕

春日大明神の詫言〔古今著〕

○弘法大師

白の目

〔平賀〕一四

淀川の氾濫 (日記) 六一

外國の低く卑しき

由來 (靈能) 三六

川流の家財 (八文字) 四三

すのまた川の出水(石川) 三〇

關東の川々 (大久保) 五九

○香水 (宇津上) 五九

○幸助(幫間) (脚上) 九三

○好事の心得 (骨董集) 五

○幸清(八幡別當) (宇治) 二七九

○廣清(叡山千手院の僧) (古今著) 四三

○行成卿(侍從大納言) (古今著) 二四〇

美福門の額 (古今著) 二四〇

扇合 (古今著) 二四八

○黃石(岡本)の詩 (詩集) 四九

○黃石公 (淨上) 三三

○黃石山の合戦 (太閤下) 四八

○黃泉の説 (靈能) 三二

○剛藏(篠田) (書翰) 三三

○幸藏主 (醒睡) 二六

○香染の袈裟 (淨上) 三

○公孫勝(入雲龍) (淨上) 三

七星に應じて義に

聚る (水滸一) 六五

戴宗に智をもつて

取らる (水滸二) 六六

芒碭山に魔を降す(水滸三) 二八

○洪太尉(信)誤て妖魔

をばしらす (水滸一) 三

○高太尉(休)

大に三路の兵を興

す (水滸三) 二六

宋公明に敗らる (水滸三) 五九

○皇太后宮大夫俊成 (百人) 五七

○高臺寺 (淨上) 二八三

同 (太閤下) 五三〇

○香大受 (太閤下) 二四〇

○廣澤(細井) (書翰) 九三

○廣達支(菟弱論) (和漢) 四九

○小桂 (宇津上) 七〇

○剛直 (窓の) 一六二

高田の若士 (窓の) 一九二

薩摩の臣 (大久保) 四九七

青山伯耆守 (太閤上) 五〇八

○上月城の合戦 (近代) 三三三

○香盡(長歌) (近代) 五七九

同(長歌) (萬葉下) 三三

○上野國歌 (萬葉下) 三三

同 (萬葉下) 三三

○上野三首(國風) (近代) 七九

春秋と孔子

(古道) 四〇〇

孔子と周公

(年々) 二七四

孔子の道

(心學) 五〇三

○柑子

(石川) 三三三

同

○柑子俵

(狂言下) 四七三

○後室

(狂言上) 四九六

○庚子道の記〔武女〕

(田舎上) 一〇

○庚子道の記序〔春海〕〔琴後〕

(日記) 三七

○庚申〔和漢朗詠集、雜〕

(古代) 二六九

同〔新撰朗詠集、雜〕

(古代) 二六三

○後進を論ず

(靈能) 三六

○庚申堂

(江戸一) 二九二

○庚申の御遊

(古今著) 一九

○荒神の社

(日記) 四四

○講釋〔伊勢物語〕

(遊京) 四七

○香壽丸

(田舎下) 元

○剛柔の論

(禪林) 一七九

○更鐘

(燕石) 二六六

○興聖寺

(淨上) 五〇四

○興正僧都〔山階寺の別當〕

(宇治) 四三

別當

○口上書〔兵部、甲斐の惡心二十七箇條〕

(伊達) 四六

○孝昭天皇

(古事記) 二四

○好色〔男色參照〕

(石川) 三三

好色侍の妻の遺言

(石川) 三三

大鼻の某美女に遇ふ

(石川) 三八

好色男の自惚

(石川) 三八

商賣と遊蕩

(石川) 五三

好色親父

(八文字) 三〇

六十の手習

(八文字) 六〇

色狂を勧むる妻

(八文字) 二七

懺悔噺

(八文字) 三三

傾城買の指南

(八文字) 四七

異人の傾城買

(八文字) 五〇

平忠の好色

(宇治) 二六

好色類

(宇治) 五八

好色のいろく

(古今著) 二六

小話數篇

(古今著) 四四

椒房の費

(禪林) 五四

女色の諫言

(禪林) 五六

限なき色好

(宇津上) 一〇三

好色者

(宇津上) 一〇

○好色院粹客美男信士〔淨中〕

(淨中) 三九

○香煎湯のいたづら

(七偏人) 四三

○洪水

(日記) 四二

あへ川

(日記) 四二

近州

(日記) 五九

關東

(日記) 五三

お石の孝貞 (心學) 三三九

孝の徳 (心學) 二九六

孝悌忠信の外子細

なし (心學) 四四四

孝の問答 (心學) 四四九

親に仕ふる道 (心學) 四八八

嫁の孝行 (八文字) 三三九

孝子 (八文字) 四四〇

色難しの説 (年々) 二七五

孝女栗子 (崎人傳) 一七六

宮筠圃 (崎人傳) 一八三

木揚利兵衛 (崎人傳) 一八八

河内清七 (崎人傳) 一八九

大和伊麻子 (崎人傳) 一九二

近江新六 (崎人傳) 一九三

龜田久兵衛 (崎人傳) 一九四

佛佐吉 (崎人傳) 四四九

庄右衛門 (崎人傳) 四四三

庄右衛門新島に渡

る (崎人傳) 四四三

孝女いとめ (崎人傳) 四四九

高戸善七 (崎人傳) 四五〇

高砂屋清信 (崎人傳) 四五五

芝浦の魚屋 (窓の) 三〇

後藤甚三郎 (窓の) 六二

勝浦屋長太郎 (窓の) 二九八

治右衛門(浦田) (崎行傳) 九三

祿助 (崎行傳) 九五

乞食して親を養ふ(日記) 二五五

家光の孝心 (大久保) 一五五

孝女の一念 (大久保) 二七六

青山因幡 (大久保) 五〇九

北安居院の娘 (一休) 五八

狂歌 (曾呂利) 六三

孝と不孝 (禪林) 一〇四

五常百行之先也 (古今著) 二五四

○高皇觀音經 (禪林) 四九三

○光孝天皇 (百人) 一三六

○交合と夜光珠 (淨上) 吳

○かうこの箱 (宇津下) 四三七

○黃岡亭記 (鶴衣) 六七

○幸國寺(正定山) (江戸二) 五七

○剛齋(佐藤)の手紙 (書翰) 二六一

○高左把(詠梅) (和漢) 二九

○香山 (日記) 四八〇

○香山寺 (閑田) 二六

○孔子 (帽子叟に教へらる(宇治) 一八七

八歳童と問答の事(宇治) 三六八

鮎 (近代) 七

洛陽と童子 (醒睡) 三四

○廣韵〔書籍〕

〔醒睡〕三三

○項羽

〔平賀〕四一

○興雲院〔龍吟山〕

〔江月二〕六

○光圓寺〔中臺山〕

〔江月三〕一五

○郷右衛門〔鳴見〕

〔淨中〕三六

○郷右衛門〔實は伊勢

義盛〕

〔淨下〕三六

○好惡

人の好意と我好惡〔禪林〕二五

好惡に理なし

〔花月〕五〇〇

○興號說

〔鶴衣〕六九

○香をきく法

〔禪林〕二四

○剛臆の座

〔淨上〕三〇

○黃河

〔水滸四〕一三

○業海

〔禪林〕三六

○後悔〔悔悟を見よ〕

○豪海〔願行院〕

〔淨中〕一

○弁橋

〔江月二〕一六

○恒河沙

〔宇津上〕二

○かうかの木〔合歡〕

〔閑田〕二七

○贈交花堂

〔鶴衣〕四九

○光嚴寺〔瑠璃山〕

〔江月一〕三三

○厚顔抄補正序〔春海〕

〔琴後〕六四

○高官の人の刑罰

〔閑田〕七

○皇嘉門院別當

〔百人〕六五

○甲賀山

〔淨上〕二四

○幸菊

〔醒睡〕二五〇

○黃巾の賊

〔年々〕四三

○孝經

中江藤樹家學の基〔畸人傳〕一六三

孝經の註

〔石川〕三五〇

○洪教頭林冲に打たる〔水滸一〕二五

○香具師

〔八文字〕三四

○豪家

〔宇津上〕四五

○蒿蹊〔伴〕の手紙

〔書翰〕二六〇

○江家次第

〔百人〕四八〇

○江家次第春日使の條

の茶壇

〔年々〕三七

○高家衆

〔大久保〕二四五

○高家衆の由來

〔大久保〕四六

○額嶺

〔宇治〕六四

○額嶺城

〔宇治〕六三

○公顯〔法印〕

〔古今著〕六五

○向原寺

〔日記〕四七〇

同

○孝謙天皇

〔宇治〕五五

○孝元天皇

〔古事記〕一三八

○孝行〔忠孝參照〕

水解けて魚出づ

〔宇津上〕五一

繼子の孝心

〔心學〕六七

次左衛門の孝行

〔心學〕一五五

役者の戀

(八文字) 三五六

和漢朗詠集、雜

(古代) 二六七

新撰朗詠集、雜

(古代) 四〇〇

命懸け

(淨上) 三三

戀の順逆

(年々) 三九

戀の説

(鶉衣) 六一

○五位〔芋粥と利仁將

軍〕

(宇治) 三

○五位を大夫とよぶ事〔年々〕二六〇

○五噫歌

(燕石) 二八四

○戀風〔端歌〕

(近代) 二八

○戀絹〔九條の里の遊

女〕

(淨上) 二八

○こひ草〔長歌〕

(近代) 三三

○戀が窪

(日記) 二〇

同

(江戸二) 三六

○戀ころも〔長歌〕

(近代) 二〇

○小石川

(江戸三) 五

同

(日記) 二九

○小石川御館〔水戸中

納言〕

(大岡) 二六

○小市〔附間〕

(脚上) 六

○小一條

(宇治) 五四

○後一條院

(宇治) 五六

○戀塚

(日記) 二三

○戀歌づくし〔長歌〕

(近代) 二四

○小絲〔簞子〕

(脚下) 二九

同〔藝者〕

(女房) 三〇

○こひのきやうか〔長

歌〕

(近代) 五二

○鯉の喩

(心學) 二五

○戀の風流〔丹前古今

ぶし〕

(近代) 四二

○戀ばなし〔半太夫ぶ

し〕

(近代) 六三

○戀枕

(淨上) 六

○後院

(宇津下) 九

○御印文〔極樂海道の

切手〕

(平賀) 一四

○弘庵〔藤森〕の詩

(詩集) 三七

○高安護國禪寺〔龍門

山〕

(江戸二) 三七

○孝安天皇

(古事記) 二四

○弘安の役

(歌戎) 二三

同

(古道) 四六

○更衣〔新撰朗詠集、夏〕〔古代〕三三

○興意〔狩野〕墓

(江戸二) 一四

○厚爲〔讀佛骨表〕

(風俗) 二〇

○行爲と志

(心學) 三三

○孝九〔木戸〕の治民策〔書翰〕二六

○公胤〔三井寺の僧正〕〔古今著〕六

○玄峯集

(俳句集) 七二

○幻法守護神帝

(淨上) 四〇

○玄昉僧正

(平賀) 三〇

○幻魔君

(水滸四) 二〇四

○顯密

(禪林) 三三

○儉約

木俣氏

(窓の) 一七二

夢修の誠

(大久保) 一七六

儉約問答

(心學) 四三

天愚孔平

(琦行傳) 六二

京都の節儉

(日記) 一八八

客齋との別

(八文字) 一八二

○烟の藝

(埼行傳) 八二

○元隆(大橋)

(淨中) 三〇

○乾隆帝

(平賀) 三二

○獸づくし

(七偏人) 一八八

○毛谷村

(淨上) 四八

○下六藤踊

(近代) 四〇

○けはひ坂

(日記) 四七

コ

○雪

(宇津上) 三四

○海風

(古事記) 六六

○碁

源氏の宮と狹衣の

(狹衣) 九

母

村萩と空衣

(田舎上) 一〇二

王質の故事

(田舎下) 二三

碁打の死後

(平賀) 二六七

常悅と秋夜

(淨中) 三二

老僧二人

(宇治) 三九

有馬涼及

(崎人傳) 三六

法師寛蓮、碁勢

(古今著) 三三

久安元年列見式目(古今著) 三三

兩劫にかせう一つ(古今著) 三三

源五郎

(武野) 三四

○小敦盛

(御伽) 一五

○鯉

鯉の贅

(鵜衣) 八二

引導

(一休) 三三

白河仙洞に行幸

(古今著) 一六〇

腹の金

(崎人傳) 六七

○戀(好色參照)

山賤の子の逢瀬

(石川) 八〇

戀病

(石川) 一八

假初の逢瀬

(石川) 二五

戀死

(石川) 三六

宮も葦屋も隔なし(石川) 三八

戀と屁

(石川) 三二

戀病

(石川) 三六

娘と手代の戀

(八文字) 二九

詩才

其略傳

○源泉僧都

○源藏

○顯宗天皇

○玄宗皇帝

○還俗

○建駄邏國

○源太郎〔中尾〕討死

○建長寺

同

○幻住庵記〔芭蕉〕

○幼住庵、賦〔風羅坊〕

○遣唐使

同

同

同

(窓の) 三〇四

(畸人傳) 四〇〇

(宇治) 五二七

(淨下) 五二六

(古事記) 二八三

(淨中) 四三

(淨上) 五二

(出定) 六六

(太閤中) 二〇四

(日記) 二二三

(淨中) 一四

(風俗) 二〇三

(和漢) 二六五

(宇津上) 三

(百人) 七四

(宇治) 三五四

(萬葉上) 五〇四

○遣唐使、時、奉幣

○謙德公

○慳貪の神

○劍難の相
けんなんよけ

○除劔難日蓮大士堂

○元和三補の畫讃

○顯如上人石山城評議〔太閤中〕

○源之助〔貝田の一子〕〔淨下〕

○虔婆〔閻婆〕

○玄蕃〔新堀〕

同〔熊川〕

同〔山岡〕

○元伯の教

○源八〔志貴〕

○源八の率直

○源八兵衛廣綱

○源八郎〔建部〕

(祝祠) 三三

(百人) 三〇七

(宇治) 一七五

(花月) 五三四

(江戸二) 一九〇

(大久保) 四九一

(淨下) 七

(水滸一) 五〇

(江戸三) 一七

(淨中) 三五

(淨上) 六三

(閑田) 九

(淨中) 四六

(畸人傳) 四八

(淨下) 三一

(太閤上) 三八

○玄蕃允〔伊庭〕

○顯微鏡

○玄賓上人

位記を枝に挿む

山階寺に住せり

○元服

同

○元服曾我〔吾妻淨瑠璃〕

○見物左衛門

○源兵衛〔長久保〕

○源兵衛と茶め吉

○源兵衛の氣絶

○兼保の沈勇

○兼房〔佐々目〕

○玄峯〔病床に虱を取る辨〕

(曾呂利) 六〇四

(花月) 五〇

(古今著) 二三四

(平賀) 三六七

(田舎上) 六

(田舎下) 五九

(近代) 三〇四

(狂言上) 三三四

(書翰) 三九

(七偏人) 四八四

(七偏人) 六三九

(窓の) 一九九

(淨中) 四八

(俳句集) 三六

加州家御側役 (金澤) 三七三

深夜に曲者を掬ふ(金澤) 三三

同(高山)對決の證人(大久保) 三七三

○献殘屋 (和合人) 三七四

○源三位賴政の反逆 (百人) 六四〇

○源氏(宴曲) (古代) 四四四

同(物語) (宇治) 四三三

○源氏紫明兩榮花(宴曲)

(古代) 四四〇

○賢子中宮 (宇治) 五三八

○源氏君 (雅文) 六六六

○源氏の各書 (田舎上) 六七

○源氏の宮 (狹衣) 九

○源氏の御汁 (醒睡) 三七

○謙信(越越の長尾) (淨上) 二九

○元稹(菊花) (古今著) 二〇五

○源氏物語 (田舎上) 五

同 (百人) 三七七

同 (花月) 五七三

同(手枕) (雅文) 六三三

○源氏物語中の人物 (田舎上) 三三

○源氏物語と源平 (田舎下) 三七

○源氏物語の攤遊 (骨董集) 一五

○源氏物語の評 (花月) 五七

○玄砂の奇行 (畸人傳) 四八

○劔樹院等覺居士 (淨上) 四三〇

○源秀(和田) (淨中) 四三六

○劔術

稽古始め (大久保) 五二三

二流の爭 (八文字) 四二

天狗流 (八文字) 四二

○幻術 (田舎上) 五六六

○建春門院 (古今著) 二六

○見性 (心學) 四二

同 (禪林) 四四

○玄上(琵琶) (宇治) 四二

○玄象(琵琶) (古今著) 三五〇

同 (古今著) 五三

○玄淨(つくし樂) (近代) 二六

○玄獎三藏 (宇治) 六六

同 (出定) 四九

○見性成佛 (出定) 六三

○賢聖の障子 (古今著) 三四〇

○源四郎 (脚下) 二九

○源次郎(井戸) (大岡) 二六

同(内藤) (大久保) 三六四

同(梅田) (書翰) 四〇

○蜆子けんすの海老釣り (一休) 四三

○建穗寺 (日記) 一八七

○けんずいの字 (閑田) 一三

○元政上人

智者	(禪林) 二五
愚痴	(禪林) 八〇
氣の清濁と賢愚	(禪林) 八三
有智無智	(禪林) 二三
聖賢の語	(禪林) 二五
短才	(禪林) 二四
堅愚と運	(八文字) 二五
阿房の實例	(心學) 四三
馬鹿は多し	(大久保) 一八四
源空上人	(古今著) 六七
○獻穴(僧)	(淨中) 二八
○玄々皇帝	(石川) 二六
○源源支(有磯賦)	(和漢) 二六
○言語	
鼻ひたといふ事	(禪林) 二二
耐といふ語	(禪林) 二二
面白き綺語	(禪林) 二三

様といふ敬語	(禪林) 二四
美言惡言	(禪林) 一五
君子と良言	(禪林) 二五
言葉の進歩	(禪林) 三八
平話と漢語	(禪林) 三三
童の言	(石川) 三六
南陀	(石川) 四三
清濁と平上去	(年々) 二五〇
古今清濁の相違	(年々) 二五二
古語の轉	(閑田) 二三
唐音	(八文字) 五三
男は詞が大事	(八文字) 五七
言葉とがめ	(花月) 五〇
○源吾(大高)	
映別狀	(書翰) 二二
水間沾徳へ	(書翰) 二七
○元豪清正に捕へらる(太閤下)	二四

○玄輿和尚	(太閤上) 四一
○元興寺	(萬葉上) 三八
○兼好法師	
月花ノ賦	(和漢) 三五
閑居舊跡	(江戸一) 六九
徒然草	(平賀) 三三
○兼好法師贊(森花仙)	(和漢) 三八
○源吾しう(長歌)	(近代) 一六
○元興寺 <small>(さんざじ)</small> (琵琶)	(古今著) 三三
○源五兵衛踊	(近代) 四六
○源五郎附	(日記) 四七
○驗者(修驗者)	(字治) 一三
同	(字津下) 三九
同	(田舎) 三三
○現在熊坂(淨瑠璃)	(近代) 三五
○源宰相の君	(字津下) 五九
○源左衛門(和田)	

○月心(僧) (淨上) 二五三
 ○月水の穢 (年々) 二九
 ○月波樓 (江月一) 二六三
 ○潔癖なる茶人の話 (心學) 二七
 ○訣別
 楠正成より正行へ(書翰) 一四
 源吾より母へ (書翰) 二二
 間光延より女へ (書翰) 二六
 ○削水^{けづりひ} (古今著) 三三
 同 (宇津下) 四〇
 ○下馬將軍 (女太平) 四三
 ○檢非違使 (宇治) 一五四
 同 (淨上) 一八四
 ○檢非違使の下司 (石川) 三九
 ○氣比大宮 (萬葉下) 四二
 同 (日記) 二四三
 ○工匠平四郎^{けはう} (武野) 二四三

○蹴鞠 (淨中) 二七五
 同 (石川) 三八
 同 (崎人傳) 三三
 同 (閑田) 一六七
 同 (閑田) 一七〇
 同 (古今著) 二五一
 ○券 (宇津上) 一四四
 ○拳 (平賀) 二六
 ○劔(松倉郷) (太閤上) 一五四
 同(干將莫邪) (總の) 三九
 ○喧嘩
 芝居話から大喧嘩(心學) 二五四
 乞食の喧嘩 (心學) 二五〇
 鬭爭 (古今著) 四四〇
 亂醉者 (太閤上) 三三三
 喧嘩話 (和合人) 三三〇
 ○幻化 (禪林) 四二

○顯海寺 (日記) 四六
 ○源覺(僧正) (宇治) 二五二
 ○元均 (太閤下) 四二〇
 ○建久の御世 (宇治) 四二〇
 ○檢校 (淨上) 三三
 同 (宇津上) 二六八
 ○元亨利貞 (心學) 一七〇
 ○賢愚
 愚者の言 (石川) 三六
 同 (石川) 三三
 愚者の思ひ違ひ (石川) 三三
 博打と乞食 (石川) 三五
 愚なる親子三人 (石川) 三八
 愚者と笛 (石川) 三五
 愚なる姫 (石川) 三七
 愚童 (石川) 二五
 痴人龍宮に行く (石川) 二五

○袈裟

(八文字) 五七

同

(字津上) 五三

同

(出定) 五三

○袈裟懸松

(江戸三) 五三

○戯作者の評

(古道) 三九

○袈裟御前の遺書

(書翰) 九

○芥子人形

(浄上) 三八

○罌粟の花

(一休) 四一

○罌粟の花と實

(禪林) 一六

○罌粟坊主

(平賀) 三七

○下種

(字治) 九

○下種の子

(字治) 二七

○けす宮

(字津上) 一〇

○懸相人

(字津上) 二三

○懸相文

(閑田) 一九

同

(曾呂利) 六四

○外題

(字津下) 一四

○解脫上人

(古今著) 一八三

○解脫房

(古今著) 六

○氣多之前

(古事記) 四

○忤刀禰(狐)

(燕石) 二六

○缺

(字津下) 二

○結願

(字津上) 二四

○血氣

(禪林) 二六

○血氣と本心との差別(禪林) 一八三

○結句とあげく

(年々) 三一

○月溪(松村)

(書翰) 二六

○月桂寺(正覺山)

(江戸二) 四二

○結婚(娘氣質參照)

美人に數金

(八文字) 二三

泣病の花嫁

(八文字) 二二

美貌を望む結婚

(八文字) 二四

結婚のいろく

(八文字) 二九

二十七度の嫁入

(八文字) 三〇

嫁入したる女子の

覺悟

(心學) 九

金か人物か

(心學) 四

孝行の獨身

(心學) 一五

嫁は歸なり

(心學) 三五

聘禮

(石川) 三

位牌の花嫁

(石川) 三六

宿世の仙縁

(石川) 二七

狹衣一宮を娶る

(狹衣) 二九〇

三日の夜の事

(狹衣) 二九六

婚姻の本義

(淨上) 七

婚禮は禮のもと

(淨下) 二二

破綻の悲哀

(雅文) 三五

その禮

(田舎上) 四九

氏子の縁結

(女房) 三八

異母の妹を娶る事(年々) 二九〇

同姓結婚の禁制(直毘靈) 三〇

庭

○(石川)四二

京都の枕金

○(日記)五九

○慶主座秀吉に謁す

○(太閤中)三九

○けいせい〔なげぶし〕

○(近代)三九

○けいそく〔唐人〕

○(宇治)三四

○傾城淺間獄〔所作〕

○(近代)五三

○傾城阿波の鳴門けいせいあはなると

○(淨中)三三

○傾城因幡の松〔所作〕

○(近代)五八

○傾城ケ松

○(江戸二)三八

○傾城善の綱〔所作〕

○(近代)五九

○契情多賀の大祓〔所作〕

○(近代)五二

作

○(近代)五二

○契情誓の湖〔所作〕

○(近代)五二

○傾城塚

○(淨下)二九

○傾城花筏〔所作〕

○(近代)五三

○傾城佛の原〔所作〕

○(近代)五五

○契情夜明鳥〔所作〕

○(近代)五七

○繼體天皇

○(古事記)二九

○契沖

○(崎人傳)三七

其略傳

○(古道)二九

其事業

○(日記)六二

墓誌

○(年々)三五

○契沖が伊勢物語の解

き方

○契沖法師富士百首序

○(春海)

○慶澄注記の伯母

○(琴後)六四

○慶長役に對する宣長の評

○(古今著)二七

○擊天柱〔任原〕

○(水滸三)四九

○藝道に君臣の別なし〔大久保〕

○(駿戎)一九

○競馬〔くらへ馬參照〕

○(水滸三)四九

○高野御幸還御の道〔古今著〕

○(水滸三)四九

○主上太鼓をうたせ

○(水滸三)四九

○(水滸三)四九

○(水滸三)四九

○(水滸三)四九

○(水滸三)四九

給ふ

○(古今著)三〇

保延三年九月二十

三日

○(古今著)五九

競馬の勝負

○(石川)二六

五月の節

○(宇津上)三七

○刑部の錄

○(宇治)四二

○景陽岡

○(水滸一)五九

○慶養寺〔靈龜山〕

○(江戸三)五六

○揭陽嶺

○(水滸二)三六

○鷄立の江

○(狂言上)三一

○毛うち〔毛彫〕

○(宇津上)五九

○けがれ〔月經〕

○(宇津上)四

○外記左衛門

○(淨下)一六

○外宮

○(古事記)八三

○華嚴會

○(宇治)三七

○華嚴宗

○(出定)六三

○夏籠けこもり

○(年々)三七

○桑名

(日記) 一九

同

(日記) 二三

同

(日記) 二五

同

(日記) 二九

同

(日記) 六〇

○桑名の歌曲

(日記) 六一

○桑名の市中の喪

(日記) 六一

○桑名城の落城

(太閤中) 四七

○桑の弓

(淨上) 一五

ケ

○箭^け

(宇津上) 四七

○磐^{けい}

(宇津上) 三九

○桂庵〔立花〕

(淨上) 五九

○慶運寺〔吉祥山〕

(江戸一) 三九

○瓊英

先鋒と做る

(水滸四) 三六

張清に配す

(水滸四) 二八

張清と雙びて功を

建つ

(水滸四) 二七

○敬畏の心

(心學) 三四

○螢火〔五條の遊君〕

(御伽) 二七

○慶賀〔和漢朗詠集、雜〕〔古代〕 二六

同〔新撰朗詠集、雜〕〔古代〕 二八

○邢玠

大明の兵を率ひて

朝鮮を救ふ

(太閤下) 四〇

蔚山に押寄す

(太閤下) 四三

璽を築きて盟約を

成す

(太閤下) 四三

○慶覺君〔法師〕

(淨中) 九五

○慶喜〔徳川〕信徳院へ

の手紙

(書翰) 四五

○溪琴〔菊池〕の詩

(詩集) 四二

○輕舉を戒むる書

(書翰) 六

○螢巢

(燕石) 六四

○慶元寺〔永劫山〕

(江戸二) 二九

○藝子の枕金

(日記) 五九

○荊口〔團扇贊〕

(風俗) 二六

○稽古所

(黃表紙) 二八

○景行天皇

(古事記) 一六

○經濟の一法

(畸人傳) 四三

○敬して遠ざく

(心學) 四九

○敬神〔神、神道參照〕

情緒に依るべき論〔直毘靈〕 三

神職明神の爲に四

海にとく

(窓の) 七

伊賀侯の敬神

(窓の) 七

○藝者

鉢かづき姫

(黃表紙) 二八

藝者の色々と其家

○黒柿くろかき (字津上) 三三

○黒鹿毛くろかみ (字津上) 三三

○鐵くろがね (字治) 一三

○鐵取 (字治) 一三

○黒上主鈴 (脚上) 五〇

○黒髪山 (日記) 六

同 (日記) 三七

同 (脚上) 五四

同 (鞆衣) 八六

○黒革緘 (平賀) 四九

○黒川源太の得道 (雅文) 七

○黒澤官藏 (脚下) 六三

○黒澤左中 (淨上) 四七

○くろしま〔出雲國秋鹿郡〕 (古今著) 三六

○黒帥〔季仲の異名〕 (淨上) 八七

○黒田聊 (風土記) 四三

○黒田家奥女中の手紙〔書翰〕 一九五

○黒田如水秀次を諫む〔太閤下〕 二九七

○黒田長政

小早川が先陣を助

く (太閤下) 三六

全義館に解生と戦

ふ (太閤下) 四〇

川を渡して明兵を

破る (太閤下) 四三

○黒谷の方丈 (淨上) 元七

○黒塚 (近代) 六

同 (江戸三) 一七三

同 (淨上) 二六

同 (心學) 二

○黒づくし (七偏人) 四二

○九郎大夫〔山路〕 (太閤中) 四〇

○黒塗の眞弓 (字治) 一三

○黒人〔隠士民〕の詩 (詩集) 四四

○黒日賣くろひめ (古事記) 三三

○黒礎くろくべの話 (心學) 二六

○黒方くろばう (字津上) 一〇八

○黒星眼平 (女房) 四六

○くろんぼ

名稱の由來 (出定) 五〇

葬式の方法 (出定) 五五

○黒坊 (心學) 六三

○黒百合 (太閤下) 七

○慈姑 (平賀) 四七

○くはせ物の色々 (石川) 四三〇

○桑名屋嵐孝妻の傳 (武野) 四五

○桑原爲溪 (畸人傳) 四八

○桑原角右衛門 (心學) 六五

○桑原岳 (風土記) 四四

○桑原里 (風土記) 五三

○倉町	(宇津上) 七	○ぐりはま	(用捨箱) 七五	同	(宇治) 四六
○鞍馬寺	(宇治) 五七	○栗原丈五郎	(脚上) 四三	同	(田舎下) 一六〇
同	(田舎上) 一八四	○廚屋船 クルワンランテヤ	(宇津上) 四四	○吳竹根春 くれなる	(石川) 四〇七
○鞍馬山	(淨上) 二八三	○臥兒狼德 くるすの	(石川) 二五	○紅(清姫の腰元)	(淨中) 三五
○倉鷹	(雅文) 四〇	○栗栖野	(閑田) 六	同	(田舎上) 二七
○闇御津羽神 くらみつはのかみ	(古事記) 一七	同	(石川) 三八	○くれなるの考 くれ	(年々) 三八
○藏人(黒塚)	(淨上) 七	○栗栖里	(風土記) 五〇	○樽の足駄	(宇津上) 一三四
○藏人所	(狭衣) 二五	○栗栖山	(淨上) 二四	○吳羽(舞子)	(脚上) 三四
○藏人ノ傳 くらまづみのかみ	(鶉衣) 五六	○車海老の老爺	(琦行傳) 七三	○吳橋	(宇津下) 六三
○闇山津見神	(古事記) 一八	○車返し くるまがへしあみたばよらい	(日記) 七三	○九郎(三河房)	(古今著) 三八
○栗	(宇津上) 五三	○還車阿彌陀如來	(江戸三) 二五	○黒右衛門(鶉の羽)	(淨中) 五〇
同	(宇治) 四三	○車長持	(田舎上) 五	○九郎左衛門連龍	(太閤中) 五三
○くりからが谷	(日記) 三三	同	(淨中) 五五	○藏人(藤經尹)	(宇治) 四七
○久利加羅峠	(太閤中) 六八	○車婆々 くるま	(武野) 四三	同(神南備)	(宇津上) 三二
○栗坂の一戦	(淨上) 一八	○胡桃	(醒睡) 三七	○藏人所	(宇津上) 八二
○厨川の次郎(安倍貞 任)	(宇治) 四七	同	(宇津上) 三三	○藏人の五位	(宇治) 四六
		○吳竹	(宇津下) 二七	○藏人の少將	(宇治) 六〇

○雲傳

(字津下) 六一

○くもで

(閑田) 一四

○雲の興

(字津上) 一六

○雲の原

(字津下) 四七

○公文の從儀師

(字治) 四四

○雲分〔驛馬の名〕

(古今著) 三〇

○位山

(閑田) 四

○闇淤くらみのかみ加美神

(古事記) 一七

○藏老〔春日〕の詩

(詩集) 三七

○鞍懸松

(江月二) 二四

○くらが峠

(醒睡) 二四

○苦樂

眞の樂

(禪林) 九

苦と樂

(禪林) 二〇

碁盤に碁石

(心學) 四三

○水母くらげ〔龍宮城の家來〕

(平賀) 二九

○内藏寮くらづかさ

(字津上) 三九

○内藏之丞〔大槻、傳藏改〕

百姓等の騒亂を鎮

む (金澤) 三八

謀つて吉徳公の書

券を乞ふ (金澤) 三三

甘き詞を述べて玉

征を欺く (金澤) 二八

奸計を用ひて君を

弑す (金澤) 三九

隱謀露顯

罪に服す (金澤) 三七

獄舎に自殺す

(金澤) 三四

○藏之助〔齋藤〕

筒井が陣を遠見す (太閤中) 二四一

光秀に諫言す (太閤中) 二四二

馬士の馬を奪うて

堅田に走る (太閤中) 三二

堀尾に生捕られ斬

首せらる (太閤中) 三五

○内藏介〔鬼頭〕

安仲に本能寺の變

を聞く (太閤中) 四〇三

○鞍橋

○倉梯

○棕橋くらはしおりのかみ下居神

○暗部山

○競馬〔賀茂〕

同

同

同

○鞍馬

同

同

(日記) 四二

(日記) 四三

(字津上) 三六

(字津上) 三六

(字津上) 三六

(字津上) 三六

(字津上) 三六

(字津上) 三六

(字津上) 三六

(字津上) 三六

(字津上) 三六

(字津上) 三六

(字津上) 三六

(字津上) 三六

(字津上) 三六

(字津上) 三六

(字津上) 三六

君子の人を惡む事(禪林) 一八九

君子と小人 (心學) 三〇三

○郡司(歌を詠みて罪を

免る) (宇治) 二六六

○軍次(荒濱) (平賀) 四三三

○君臣

君道 (書翰) 四九

臣たる道 (禪林) 一六四

臣下は將軍の五官(禪林) 五五四

臣たる道 (心學) 四三三

○君臣父子道(宴曲) (古代) 四六六

○郡太(飯山) (淨上) 三九

○軍談 (石川) 三七三

○軍治(八藤) (淨中) 一六六

○郡内八丈(古今ふし) (近代) 四七七

○軍八(大坪) (淨上) 四四〇

○郡兵衛(小野田) (淨中) 三三八

○君平(蒲生)借金の手

紙 (書翰) 二六七

○群寮(黒塚) (淨上) 七

○軍六(笠原) (淨上) 二〇七

○久米川 (江戸三) 二〇六

○くめく川 (日記) 二九

○くめ子(春海の許よ

り) (琴後) 七〇

○久米寺 (日記) 四三三

○久米里 (日記) 四三三

○久米の仙人 (心學) 二五四

同 (平賀) 三二

○工面のなりたけ (黄表紙) 二七

○雲

雲魂雲情 (雅文) 一八二

雲の種類 (雅文) 一八三

飛雲老翁と化す (雅文) 二二九

和漢朗詠樂(雜 (古代) 二二

新撰朗詠樂(雜 (古代) 二五〇

宴曲 (古代) 四六〇

雨をもらす穴 (石川) 三〇六

雲に黒白なし (禪林) 一四四

○蜘蛛 (禪林) 二二

同 (宇津上) 一三七

○雲爲坂 (日記) 四七

○雲井の君 (田舎下) 三三三

○雲井之丞 (田舎下) 三三三

○雲井のろうさい(よし)

原小歌 (近代) 六

○雲井ろうさい(長歌) (近代) 一九

○雲切仁左衛門

三人の惡徒 (大岡) 五三

三人の成行 (大岡) 五七

○雲切仁左衛門之記 (大岡) 五九

蓮生法師

(大久保) 五四

小敦盛

(御伽) 一八六

平經盛へ敦盛の首

を送る狀

(書翰) 八

遺書

(和漢) 四六

○熊川源五兵衛

(淨下) 二〇

○熊毛浦

(萬葉下) 二七九

○熊坂長範の晩年

(禪林) 二七〇

○熊坂村〔伊豆國〕

(遊京) 四四

○熊澤蕃山

(先哲) 五九

略傳逸話

(先哲) 五九

佛を銷る

(畸人傳) 一六六

音樂を好む

(畸人傳) 四六

○くまたか〔みづく烏

の親分〕

熊谷郷

(黃表紙) 二三

熊手〔愁の熊手〕

(風土記) 四一

(八文字) 四三

○熊野

(字津土) 二九〇

○熊野久須毘命

(古事記) 三

○熊野權現

(古今著) 二六

同

(淨上) 七

同

(淨中) 二五

○熊野權現社〔飯倉〕

(江戸一) 二四六

同〔神奈川〕

(江戸一) 二五五

同〔澁谷〕

(江戸二) 一五五

同〔小石川〕

(江戸三) 四

同〔小塚原〕

(江戸三) 五八

同〔立石村〕

(江戸四) 二六三

○熊野權現山

(江戸一) 二五九

○熊野參詣〔宴曲〕

(古代) 四四

○熊の敷皮

(石川) 三三

○熊野の別當

(淨中) 五八

○熊野にまします〔今

樣〕

(古代) 一六三

○熊野の浦

(淨上) 一四〇

○熊野山

(淨上) 一四〇

山なりの詩

(一休) 四〇

一休の歌

(一休) 四二

○熊見川の合戦

(太閤上) 五三

○愚慢

(和合人) 三三

○愚慢と土場六の大立

(和合人) 三三

廻り

(和合人) 三九

○熊本辨之作

(脚上) 二〇

○熊本勇八

(脚上) 四四

○軍記〔雜掌、笠原〕

(淨上) 一七

○群玉庵の河漏

(平賀) 三三

○訓狐

(淨中) 八

○君子〔小人、德參照〕

(禪林) 一三

君子の容貌

(禪林) 一三

君子と良言

(禪林) 一六

君子と財寶

(禪林) 一六

○國忍くにしのとみのかみ富神

(古事記) 六三

○國臣くにのしん〔平野〕の遺書

(書翰) 四三

○國方くにのあた〔佐伯〕驛馬をひ

く

(古今著) 三四

○國貞くにのさだ〔進將監〕

(淨上) 二〇

○國助くにのすけ〔遊佐河原之進〕

(田舎上) 一七

○國妙くにのたか〔平太夫〕

(淨上) 二〇

○國津神くにのつみかみ〔平田篤胤の

説〕

(古道) 四三

○國次の刀

(淨中) 三九

○國時くにのとき馬の權助

(宇津上) 六〇

○國常くにのつね立神

(靈能) 三三

○國俊くにのとし〔陸奥前司〕

(宇治) 八九

○國の親

(宇津下) 四九

○國のかたくにのかた〔雜藝〕

(古代) 一六九

○國之久くにのく比賣母智神

(古事記) 一三

○國之くにの闇戸神

(古事記) 一四

○國之狹くにのさつちのかみ土神

(古事記) 一四

○久邇新京

(萬葉上) 三七

○國の稱號の正しき事

(年々) 二四

○國之底立神

(靈能) 三三

○國之常立神

(古事記) 六

○國之水くにのみくまりのかみ分神

(古事記) 一三

○國秀くにのひで〔鷲塚彈正〕

(江戸) 二三

○國文くにのふみ〔佐伯〕高遠に勝

つ

(古今著) 三〇

○國安明神祠

(江戸二) 四四

○國讓

(宇津下) 三六

同

(宇津下) 四二

○九年甫、八年甫

(心學) 六九

○久能山くねのやま〔補陀洛〕

(日記) 一八四

○久能の宮

(日記) 一八五

○薰衣くいのえ香

(宇津上) 四四

○九野豐後守

(淨中) 五

○九八くはち〔巴屋の亭主〕

(淨中) 三四

○頭落くびおちの瀧

(淨下) 二四

○首塚くびづか

(淨中) 四三

○頸峯くびのねの鹿

(風土記) 五八三

○首引

(狂言下) 三六

○愚佛ぐふつ先生の狂詩

(川柳) 四〇

○玖倍くべり理湯井

(風土記) 五八二

○弘法寺くわふぼうじ〔眞間山〕

(江戸四) 三三

○公方の辻

(大久保) 四八

○凹くぼ坏

(宇津下) 二九

○葉盤くはて

(宇津上) 六

○隱名くづな〔催馬樂、律〕

(古代) 二六

○熊

牝熊、牡熊

(宇津上) 三

獵師を救ふ

(窓の) 二七五

熊女

(石川) 三七三

○熊谷直實

○虞芮の民 (淨上) 二三

○弘誓房〔説經師〕 (宇治) 四七

○くせこゆくばらといふ曲

(宇治上) 三

○救世菩薩 (淨上) 二〇

○鸛の縁語 (石川) 四二

○くそとび〔佛に化ける〕

(宇治) 八〇

○球軍郷くたけのさと (風土記) 五七

○救軍峰くたけのみね (風土記) 五八

○下文くだしごみ (宇治) 四八

○玖潭郷くたみのさと (風土記) 四九

○百濟監 (宇津上) 五九

○百濟を救ふ (取戎) 六

○百濟王奉幣 (古事記) 二五

○百濟川成の考證 (石川) 二五

○百濟公和麻呂の詩 (詩集) 五三

○百濟人飛驒匠と驛道を試む

(石川) 四六

○朽木の柳 (日記) 一四

○くちなは〔蛇を見よ〕

(古今著) 四六

○口の香のくささ (狂言下) 三九

○口眞似聲 (淨上) 一八九

○九條の里 (古今著) 二五〇

○九條大相國 (平賀) 四七

○九條の町 (窓の) 一七

○九條殿〔師輔〕 (宇治) 二五

○鯨

魚の親方 (黄表紙) 二三

龍宮城の大老職 (平賀) 一八四

○鯨波 (日記) 六六

○沓切坂 (江戸二) 四三八

○くつしわた (日記) 五九

○沓藏 (淨上) 三二

○久都野くつぬ (風土記) 五三

○くつぬぎ (日記) 六七

○くつわ (淨上) 一九

○くづは五左衛門古金

〔掛取勢〕 (黄表紙) 二六

○工藤左衛門 (黄表紙) 八九

○くどき〔端歌〕 (近代) 二六五

同 (近代) 六二九

○久度古閑くどふるあき (祝詞) 三三

○宮内〔長島〕柴田右近を討つ

(太閤中) 三七

○宮内卿〔むばすての山〕 (古今著) 二七三

○宮内宰左衛門 (田舎下) 八二

○宮内の君 (宇津上) 一三五

○久那斗神くなのかみ (靈能) 二五三

○久隅守景

(崎人傳) 三二

○藥

巴豆 ハブ

(石川) 二六

同

(石川) 四九

不老不死の仙藥

(石川) 一六〇

金丹

(石川) 一六五

痴者の藥

(石川) 三〇六

藥賣

(石川) 三七四

長命・帆ばしら

(石川) 三七五

佛智藥

(禪林) 一八

不生不死の藥

(禪林) 四九

砒礪

(禪林) 一三〇

油を忌む事

(禪林) 一七五

平胃散の効能

(禪林) 二〇八

百味圓

(禪林) 二三三

心氣の勞疲を救ふ

處法

(禪林) 四六

壽命藥

(八文字) 五五

藥と金

(八文字) 六六

百杯丸

(八文字) 一五九

病と藥

(八文字) 四三五

彦前彦後の藥 ひこぜんのかき

(八文字) 五七四

癩の藥

(淨上) 二二〇

家傳葛城神靈丹

(淨上) 二五四

黑丸子

(淨上) 二五八

泥川の陀羅介

(淨上) 四七四

惚藥

(淨上) 五七一

大明祕法の目藥

(淨上) 六四四

一國殺し

(淨中) 五七〇

黒丸子 くろはうし

(淨下) 五九八

聲出藥

(七偏人) 五五五

ソウキセイの一藥(脚下) 二二

藥と病

(花月) 五三三

耳さとなる仙藥(花月) 五八

補藥

(花月) 五三三

袖の梅

(平賀) 二七〇

牛膝・鰐虱

(平賀) 三三〇

不老不死の藥

(宇津上) 四四七

風藥

(宇津下) 六六

銅をこそげて

(宇治) 一〇八

仙藥

(雅文) 三三三

口痺の妙藥

(一休) 四三五

癩風の藥

(一休) 五二八

藥品の優劣

(心學) 五三三

○藥賣

(淨上) 二五三

○藥香

(宇津上) 三四五

○藥湯

(宇治) 一八五

○楠原普傳

(脚上) 四九九

○癖

潔癖の話

(心學) 二二七

癖附

(心學) 一八三

○草見五右衛門

(脚上) 三二

○草餅〔青麩〕

(一休) 四八

○鎖帷子

(淨中) 四七

○櫛くし石窓神いしまどのかみ

(宇治) 四四

○櫛石窓神

(古事記) 八三

○醫の肝の祕符ひじり

(淨上) 三三

○久慈河

(風土記) 四七

○匣の内侍〔環の宮の乳母〕

(淨上) 二九

同〔實は義光〕

(淨上) 二七

○久慈郡くしきくにん

(風土記) 四六

○圖罪人

(狂言下) 二〇

○くしだ〔端歌〕

(近代) 三五

○櫛名田姫

(古事記) 四

○公事の禮〔正朔の節會除夜の追儼〕

(古今著) 六九

○孔雀

(宇津上) 二三

同

(黃表紙) 一八

○孔雀長屋

(和合人) 三三

同くしやたなのかみ

(淨中) 四八

○櫛八玉神

(古事記) 九

○公誦

(宇治) 一四

○俱生神〔地獄の役人〕

(平賀) 二六

○久代〔三澤〕

(淨中) 七

○國栖くさ

(日記) 四〇

○葛川の三瀧

(宇治) 四六

○九介〔車遣ひの惡者〕

(淨上) 二九

○葛粉〔近松門左衛門より和田忍笑〕

(書翰) 一四

○醫師書くすしふみ

(宇津下) 八

○楠武〔雅樂允〕

(宇津上) 二四

○藥玉

(宇津上) 三七

○くす玉を人のもとへ送るとて〔春海〕

(琴後) 六九

○楠〔連理楠〕

(脚上) 四八

○楠彈正左衛門

(雅文) 二五

○楠正成

(窓の) 七

○陣屋廻り

(窓の) 七

○櫻崎左兵衛の楠公

(雅文) 二九

論

○正成の亡靈

(雅文) 三七

同

(淨中) 四〇

○湊川討死最後の一念

(靈能) 三三

○湊川の碑

(平賀) 四九

○正行へ訣別の狀

(書翰) 一四

○遣庄五郎書

(和漢) 四四

○楠正具八田城を守る〔太閤上〕

(脚上) 二九

○楠流印可の卷

(脚上) 三三

○葛の葉〔よし原小歌〕

(近代) 二六

同〔葉手〕

(近代) 二六

() 空侍者 (禪林) 二五

○くうすけ〔法師〕 (宇治) 二六

○空青石 (淨上) 二六

○くうせいでん (淨上) 六

○空也上人

市の柱に歌をかき

つく (古今著) 四九

七歳の孤兒に逢ふ (古今著) 四五

餘慶僧正に曲れる

臂をなほさる (宇治) 三七

○空蓮 (崎人傳) 五三

○久遠寺 (田舎下) 二九

○句會不參の手紙〔蕪

村〕 (書翰) 二九

○九月盡〔和漢朗詠集、

秋〕 (古代) 二三

○公曉〔實朝を斬る〕 (百人) 六七

○久久紀若室葛根神 くくきわかむろつなねのかみ

○くくつ〔袋〕 (宇津下) 五七

○くくしのかみ くくしのかみ (古事記) 六七

○くくしのかみ くくしのかみ (古事記) 二四

○久下玄蕃 (脚下) 一

○公卿殿上人を王人と

書く事 (年々) 二五

○公卿と殿上人 (年々) 二八

○紵針 くみはり (宇津上) 四

○枸杞を井の廻に植う (崎人傳) 四九

○草〔和漢朗詠集、雜〕 (古代) 二六

○同〔新撰朗詠集、雜〕 (古代) 五五

○同〔宴曲〕 (古代) 四六

○草賣 くさうり (古今著) 一五

○日下部里 くさかべのさと (風土記) 五三

○草香山 (萬葉上) 四三

○草刈説〔露川〕 (風俗) 九四

○草刈笛 (宇津上) 二五

○草刈童 くささのこはり (淨上) 四九

○國崎郡 (風土記) 八四

○草摺引〔吾妻淨瑠璃〕 (近代) 三四

○くさざうし、戲作者名

寄 (黃表紙) 二七〇

○裨史億說年代記 くさざうしとじつねんだいぎ (黃表紙) 二六九

○裨史家不重寶記 くさざうしとじつねんだいぎ (黃表紙) 二六九

○草津

化物宿屋 (窓の) 一五三

相撲 (日記) 二〇三

○草津川 (日記) 二九三

○久佐奈岐〔燒津〕の故

事 (日記) 一八八

○草薙太刀 (古事記) 四三

○草 くさひら (宇津下) 五〇

○蘭山伏 くさひらやまふし (狂言下) 二九〇

飲食色欲箴

(風俗) 二九

聽箴

(風俗) 二八

四銘

(風俗) 二九

是非齋

(風俗) 二四

去來誄

(風俗) 二八

斷絃文

(風俗) 二八

直指傳

(風俗) 二八

豆腐辯

(風俗) 二八

人參辯

(風俗) 二八

射御辯

(風俗) 二八

雨乞表

(風俗) 二七

旅論

(風俗) 二四

蕎麥論

(風俗) 二八

入學贊

(風俗) 二七

紫芝岡贊

(風俗) 二七

○きよろりがみそ

(淨上) 三三

○吉良氏古城跡

(江戸二) 二四

○切られ八

(脚下) 一五

○切られ與三

(脚下) 四三

○桐

(宇津上) 五

○霧(和漢朗詠集、秋)

(古代) 三三

同(新撰朗詠集、秋)

(古代) 三二

○切懸

(年々) 三六

○霧が峯

(日記) 四六

○桐が谷の櫻

(曾呂利) 五八

○蜚きりくす神樂歌、小前張

(古代) 二六

○きりしまの名所

(江戸四) 四六

○霧島ばいの傳

(武野) 四六

○霧島山の由來

(古道) 四四

○切支丹の嚴禁

(大久保) 二

○桐壺

(狹衣) 三七

同

(宇治) 四〇

○切戸

(田舎上) 二二

○桐火桶

(宇治) 四九

同

(百人) 五九

○麒麟

(淨上) 二三

同

(黃表紙) 一四〇

○羈旅(宴曲)

(古代) 四八

○記錄所

(淨上) 六

同

(宇治) 五八

○きばだ(黃蘗)

(宇治) 二三

ク

○杭か人か

(狂言下) 四七

○愚醫國(又藪醫國)

(平賀) 三〇

○久比奢母智神くひさもちのかみ

(靈能) 三二

○株瀬川

(日記) 五七

○水雞(端歌)

(近代) 二五〇

○水鶏の名所

(江戸四) 四七

○空阿彌陀佛

(宇治) 四七

○空華の細念

(禪林) 四三

○清見關

(日記) 三五

同

(日記) 六九

同

(日記) 一八三

同

(日記) 三九五

同

(醒睡) 二七三

○清見瀉

(日記) 二七六

同

(日記) 三九

○淨見崎

(萬葉上) 一四四

○清光〔豐島權頭〕墳墓〔江戸三〕

三七二

○清水

(淨下) 四九

同

(遊京) 四六

○清水寺

鹿間塚

(淨上) 一七九

花摘の供養

(太閤下) 二

二千度參詣と雙六〔宇治〕

一七

御帳たまはりし女〔宇治〕

三三

櫻

(曾呂利) 五七

武者と女房

(古今著) 五二四

○清水詣〔甘茶〕

(醒睡) 三二

同〔長歌〕

(近代) 五七

○きよみづもち

(平賀) 三三

○清水藥師如來

(江戸三) 四

○清見原天皇〔天武〕

(宇治) 四三

同

(雅文) 一六三

○虛無の義

(禪林) 一五

○清盛〔太政大臣平〕

(淨上) 一七

○去來〔向井〕

芭蕉よりの手紙

(書翰) 一六

鉢扣辭

(風俗) 一八

後唐山賦

(風俗) 四

鼠賦

(風俗) 四

落柿舎記

(風俗) 二二

丈艸誄

(風俗) 一四

靈虫傳

(風俗) 一七

○去來發句集

(俳句集) 三六五

○魚籃觀音堂

(江戸一) 二七五

○御簾

(淨上) 二

○許六

・風俗文選

(風俗) 一

飄單辭

(風俗) 三

四季辭

(風俗) 三

鎌倉賦

(風俗) 三

旅賦

(風俗) 五

百花譜

(風俗) 六

山水譜

(風俗) 六

師說

(風俗) 八

獲麟解

(風俗) 九

長雪隱解

(風俗) 九

要文集序

(風俗) 一三

畫樓繪合序

(風俗) 一四

麻生後序

(風俗) 一六

○玉壺軒記

(鶴衣) 八五

○玉山〔秋山〕の詩

(詩集) 三二

○曲翠

(崎人傳) 二五

○玉窓寺〔崑崙山〕

(江月二) 一五

○旭莊〔廣瀬〕の詩

(詩集) 三三

○曲亭きょくてい一風いつふう京傳きやうでん

張はり

(黃表紙) 三七

○玉兔の明鏡ぎよくにょへん

(田舍上) 一五

○玉女ぎよくにょへん神

(淨上) 三

○清重稻荷祠

(江戸四) 三七

○虛實と實益

(閑、田) 一四

○居所に名づくる事

(年々) 二四

○清輔

和歌の尙齒會

(古今著) 一七

其略傳逸話

(百人) 八四

○清洲に織田家の公達

(太閤中) 三六

功臣等會す

(太閤中) 三六

○清澄〔式部丞源〕

(宇津上) 一〇〇

○清澄山

(日記) 九四

○御製の短冊

(田舍上) 一五

○御製の落句〔内裏密々〕

(古今著) 二四

の御作文〕

○清瀧川

(田舍上) 四三

同

(宇治) 三八

○清瀧川聖〔慢心を起す〕

(宇治) 三八

す〕

○清忠〔著太平記白石〕

(淨中) 四三

嶺〕

同〔神靈矢口渡〕

(平賀) 四三

○淨足〔田中朝臣〕の詩

(詩集) 三〇

○玉光舍

(石川) 四六

○清童

(淨上) 二八

○清仲〔陪從〕

(宇治) 一四

○清長〔貫首〕

(古今著) 五八

○ぎよなふのちやうち

(骨董集) 六九

ん

同〔再考〕

(骨董集) 三三

○喜代之助

(田舍上) 八二

○清延の牙の笛

(古今著) 三三

○清原深養父

(百人) 二七

○清原元輔

(百人) 二九

○清秀〔中川瀬平〕

(淨中) 一〇三

○清姫〔眞子の庄司が娘〕

(淨中) 二六

○許眞鄧通を相す

(雅文) 一六

○清正〔左衛門督藤・原〕

(字津上) 二八

○清正〔加藤清正を見よ〕

(雅文) 四六

○清麻呂〔和氣〕の一代

(雅文) 四六

記

○淨麻呂〔美努連〕の詩

(詩集) 五六

記

○淨麻呂〔美努連〕の詩

(詩集) 五六

○兄弟の結婚

(年々) 三六九

○兄弟の田地争ひ

(心學) 三九

○龔端〔配軍〕

(水滸四) 三〇二

○行持

(禪林) 三六六

○橋陳如

(出定) 三六六

○狂女

(石川) 八七

同〔吾妻淨瑠璃〕

(近代) 三九七

同〔文展げ〕

(崎人傳) 三六五

○京傳

畫草紙の作者

(黄衣紙) 一四四

馬琴に烟管烟草入〔黄表紙〕 二四〇

○孝轉〔入道〕

(古今著) 四七

○京都

大佛殿

(大久保) 三三

騷動

(大久保) 六三

馬琴の目に映じた

る京都の各方面〔日記〕 五五

洛陽と長安

(年々) 三四

花見

(書翰) 三七四

○喬道清

術、宋江を破る

(水滸四) 一六

風を回し賊寇を焼

く

○行徳八幡宮

(水滸四) 三六

○行徳船場

(江月四) 三九一

○行人

(江月四) 三九〇

○行人坂

(淨上) 三

○京の蛙と大阪の蛙

(江月二) 六六

○京の君〔義經の室〕

(心學) 二〇

○京の花見

(淨下) 三三〇

○京之名所〔丹前古今

ぶし〕

(書翰) 三七四

○狂文吾嬌那萬俤

(近代) 四八

○杏坪〔頼〕

(石川) 三六七

篠田剛藏への手紙〔書翰〕 三三

其の詩

(詩集) 二〇一

○教法大師〔若衆の開

基〕

(平賀) 二四五

○驕慢

(花月) 五九

○興遊類〔東齋隨筆〕

(宇治) 三三

○狂亂〔所作〕

(近代) 四九

○京童

(宇津上) 二八

同

(宇治) 三〇六

同〔あづま淨留利〕

(近代) 三九

○虚言

權と實

(禪林) 一七四

其報い

(心學) 三一

其戒

(出定) 五三

○玉冠〔御即位の時の〕

(宇治) 五五

○玉麒麟〔虚俊義〕

(水滸三) 一四六

○玉莖〔枉惑の法師〕

(宇治) 三

○行元寺〔牛頭山〕（江戸二）五七

○行基

補陀落の観音（日記）三三

有馬温泉に病者を

救ふ（古今著）七

○行基式目（遊京）四〇

○曉行法印（古今著）五三

○行慶寺〔八幡山〕（江戸一）五六

○教月上人うはなりう

ちの歌（曾呂利）五四

○狂言

狂言の濫觴（平賀）一七三

狂言と女（八文字）五二六

○教吳寺（風土記）四六

○京極（宇津上）二四

同（宇津下）七三

○京極高次（太閤上）四七

○京極太政大臣〔宗輔〕

笛に執心す（古今著）四八

連歌（宇治）四六

○京極中納言〔定家〕（宇治）四三

○京極の一大殿希代の

位署（古今著）一三〇

○贈曉吾辭（鶉衣）六五

○慶算くらまぎれの歌（古今著）四六

○京山〔山東〕の手紙（書翰）四八

○仰山先生の狂詩（川柳）四七

○姜詩（御伽）二〇〇

○狂詩（川柳）四二

○行事所（宇津下）二七三

○俠詞花川戸（脚下）一

○經師屋（平賀）三六

○行者（浄上）四

同（宇津上）四

○堯舜之民比屋可封（年々）三四

○行水船（骨董集）三五

○眞正〔配軍〕（水滸四）三一

○行相（浄上）七

○脇息（宇津下）二二

○興脇息文（鶉衣）七〇

○行尊〔平等院僧正〕

夢中に不動尊の仕

者を見る（古今著）五三

女御の御惱を除く（古今著）五

横尾山の住僧に奉

仕す（古今著）五

其略傳逸話（百人）四三

○脇尊者（出定）六七

○兄弟諍（狂言下）四九

○兄弟他人の始（書翰）一三

○送曉臺辭（鶉衣）七四

○毀譽

人の非を談ず可ら

ず

(禪林) 一七二

譽を求むる事

(禪林) 三六

善い所ばかり擧げ

よ

(心學) 三四

人の評

(花月) 五八

○行意〔松殿僧正〕

(古今著) 一七

○教育

娘の育て方

(心學) 八

子女の教育

(心學) 二三

子供の仕込

(心學) 三五

愛子の藪入

(心學) 二六〇

誤れる子の育て方(心學) 二六四

師の尊重

(心學) 四九

仕込次第

(心學) 四〇

誤れる子の教育法(八文字) 二二

誤れる娘の教育(八文字) 二六

子供の育て方(書翰) 四

同(書翰) 四九

笠原長順の子女教

育

(窓の) 二七〇

○曉雨〔俠客〕

(武野) 三六

○狂歌

狂歌の趣向

(石川) 五八

狂歌の體

(石川) 四〇

狂歌と和歌

(石川) 四二

吉原十二時

(石川) 五七

古今夷曲集

(古今夷) 一

萬載狂歌集

(萬載) 三七

徳和歌後萬歳集

(徳和歌) 三七

狂歌の名稱

(燕石) 四二

日見の狂歌

(和合人) 三七

地口

(和合人) 三四

放下師の繪の賛(一休) 四三

鐘馗大臣の畫讚(一休) 四五

一休の戀歌(一休) 五九

新右衛門の子息の

方へ壽の歌

(一休) 五〇

律義の人に示す

(一休) 五四

酒宴の歌

(曾呂利) 五七

夫婦の仲直

(曾呂利) 六九

祝の詠み違へ

(曾呂利) 六三

茶の湯の功能

(醒睡) 三八

引導

(一休) 四七

○行海〔道成寺の僧〕

(淨中) 三五

○境界の論

(心學) 三九

○杏花園〔蜀山人〕六十

賀

(石川) 四九

○京鹿子〔葉手〕

(近代) 一八〇

○狂歌坊主

(琦行傳) 七九

○鳩鷺道話 (心學) 三

○急河〔高倉宰相入水〕(日記) 七

○さうくわん鳥の詞 (黃表紙) 一三

○丘隅あもん〔田中〕 (琦行傳) 六二

○鳩溪〔平賀源内を見よ〕

○九月盡〔新撰朗詠集〕

秋 (古代) 三三

○救荒一助 (心學) 九

○久三 (淨中) 五九

○久左衛門捨子を養ふ

事 (大岡) 四六

○久作〔久松の親〕 (淨上) 元一

○九山八海 (太閤上) 二六

○及時雨〔宋公明を見よ〕

よ (水滸二) 三七

○九州 (淨上) 八

○九州道の記〔立旨法

印 (日記) 一〇

○毬杖 (宇津上) 七六

○牛渚の淵 (近代) 六七

○炙すゑそが〔淨瑠璃〕 (近代) 六八

○舊跡遺文序〔平春海〕 (琴後) 六〇

○弓箭の家 (淨上) 六

○急先鋒〔素超〕

東郭にて功を争ふ〔水滸一〕 三四

宋公明に擒にせら

る (水滸三) 二二

○鳩巢〔室〕

其の詩 (詩集) 四

白石より火事見舞〔書翰〕 一四

青地禮幹への手紙〔書翰〕 一六

其墓 (江戸二) 六九

○久藏〔坂井〕 (太閤上) 三六

○久藏〔芭〕 (淨上) 六三

○求大雅 (畸人傳) 三五

○牛女交會の説 (閑田) 四

○九天玄女

宋公明に遇ふ (水滸二) 四六

宋公明に法を授く〔水滸四〕 六

○久八〔近頃河原達引〕 (淨下) 三四

同〔伊勢屋の番頭〕 (大岡) 三六

○牛馬と主家 (閑田) 二四

○弓馬の家 (淨上) 三

○九尾の狐 (燕石) 二六

○久兵衛〔うどんや〕 (脚上) 二九

○九紋龍〔史進〕

大に史家村を鬧す〔水滸一〕 六七

赤松林に剪運す〔水滸一〕 一八〇

誤て東平府に陥れ

らる (水滸三) 三四

○さうり牛 (骨董集) 二五

○欽明帝

(出定) 六四七

同

(出定) 六四八

同

(古事記) 二九三

○錦毛虎〔燕順〕

(水滸二) 一八九

○公茂〔金岡が子〕

(古今著) 三三三

○禁野

(狂言上) 四六六

○金彌〔須賀〕御預とな

る事

る事

(女太平) 五四

○公行〔播摩守〕

(宇治) 二八〇

○金蘭齋

(畸人傳) 二八〇

○金李潭〔鷲〕賛

(和漢) 四三〇

○禁裏の博士

(淨上) 七

○金輪寺〔禪夷山〕

(江戸三) 三三七

○金龍院〔昇天山〕

(江戸一) 六六六

○金龍山の餅

(和合人) 二八二

○金龍山米饅頭

(骨董集) 三三

○金龍道人の義茶亭の

義の字

(閑田) 一九五

○木村重成の逸話

(窓の) 一五

○木村重成の妻の遺書〔書翰〕 六二

○木村又藏

(太閤上) 三九

素性

(太閤上) 三六

勇力

(太閤下) 二四

元豪が伏兵を破る〔太閤下〕 二四

○木村和田藏

(淨下) 二六

○拚命三〔石秀〕

(水滸二) 五四

○奇妙院

(淨下) 二

○肝煎

(平賀) 一二三

○龜毛

(禪林) 一三

○木屋吉左衛門

(窓の) 一七

○客と座敷

(禪林) 二七

○伽多〔天笠僧〕

(宇治) 一八

○脚絆の考證

(八文字) 三二

○きやん島

(平賀) 三三〇

○伽羅

(淨上) 八五

同

(平賀) 五〇

○きやんさん〔紀州〕

(淨上) 一四

○伽羅といふ語

(用捨箱) 七六〇

○伽羅の油

(八文字) 二二〇

○伽羅之板橋誦

(近代) 四六

○木やり〔長歌〕

(近代) 一九

○木やり音頭

(淨上) 一五三

○灸

(武野) 五四

天神新助の話

(石川) 四四

灸する様

(石川) 四〇

○妓夫〔ギウ〕

(石川) 三〇

○求韻歌仙行

(和漢) 四〇

○求韻短歌行

(和漢) 三七

鳩翁

(心學) 七

其人物

(心學) 一七

其性行

(心學) 一七

雁飛行

(黃表紙) 四

○金汝礪

(太閤下) 一四

○金錢

金を樂む親父

(八文字) 三

高利

(八文字) 三

藥と金

(八文字) 六

金の溜るも峠あり(八文字) 三九

五十年先の胸算用(八文字) 三六

金が金を儲く

(八文字) 四三

金銀儲ける事

(八文字) 四四

金持たぬ身の無念(八文字) 四四

何でもない事

(心學) 三五

小遣錢の用途

(心學) 四四

金の世の中

(平賀) 一六

行末

(黃表紙) 二六

四季の辭

(風俗) 三〇

舊恩を以て借用

(大久保) 三三

○公助(武則の子)父に

打たる

(古今著) 六二

○金仙氏

(禪林) 三七

○禁足旅記

(俳句集) 八三

○琴臺(東條)

(書翰) 四八

○錦帶橋

(淨下) 三六

○巾著切

(平賀) 二七

○禁中(和漢朗詠集、雜)(古代) 二五〇

同(新撰朗詠集、雜)

(古代) 三五

○禁停

(八文字) 五二五

○禁廷

(淨上) 一

○公任(四條大納言)

もみぢ葉

(古今著) 一四

和歌の舟に乗る

(宇治) 五三

其逸話

(百人) 三一

○公時(坂田)

(淨中) 五七

○公時酒の醒(所作)

(近代) 五八

○金の漆

(宇津下) 三

○金之丞(増島)

(書翰) 三一

○金之助(小さんの子)

(娘節用) 六五

○銀の道具御法度

(心學) 三三

○勤番

(淨上) 三

○公春(隨身)

宇治左府に打たれ

(古今著) 三三

んとす

行幸先の狼藉を鎮

む

む

千鳥の連歌

(古今著) 四一

○錦豹子(楊林)

(宇治) 四〇

○金福寺

(水滸二) 五三

○金峰山

(日記) 四三

同(箔打の事)

(田舎上) 二七

○金平

(宇治) 四七

○金兵衛(渡邊)

(脚下) 四九

○其風〔詠蓮〕

(和漢) 三九五

○岐阜城

(太閤上) 一八

同

(太閤上) 四八

○貴布根〔明神〕

(宇治) 五三

○貴船大明神社〔品川〕

(江戸一) 四七

同〔大森〕

(江戸一) 四三

○きぶれまうで〔長歌〕

(近代) 八三

○貴平

(日記) 三九

○喜兵衛〔五大力戀絨〕

(脚下) 八三

同〔興話情浮名横櫛〕

(脚下) 五〇

○儀平〔門脇〕

(淨上) 四九

○義平次〔三河屋〕

(淨中) 五九

○君乎置天〔風俗〕

(古代) 四八

○君をばじめて〔今様〕

(古代) 一五

○君があけてし〔今様〕

(古代) 一五

○君吉

(田舎上) 八七

○君ちりなとり

(近代) 四一

○君はしんぞ踊

(近代) 四七

○琴

(宇津上) 四

○金右衛門〔並河〕

(太閤下) 一六

○金右衛門〔岡村〕

(淨上) 三〇

○金王櫻

(江戸四) 四三

○金王鷹

(江戸二) 一五

守佛正觀世音

(江戸二) 一四

影堂

(江戸二) 一七

産湯水

(江戸二) 一七

○きんかい〔新羅〕

(宇治) 三〇

○金槐集

(百人) 六七

○金開寺

(淨上) 三八

○銀閣寺

(田舎上) 三三

同

(淨上) 二六

○金花山

(日記) 三〇

○金華山の故事

(萬葉下) 四三

○權花禪尼

(田舎下) 三六

○金銀を伽羅といふ

(用捨箱) 七五

○金銀を湯水の様

(黄表紙) 二〇八

○金銀の善惡の鑑定

(心學) 三五

○琴魚〔櫟亭〕

(書翰) 三九四

○金鷄鳥

(心學) 四〇

○金吾〔坪井〕

(女太平) 八七

○錦江亭

(遊京) 四二

○錦江亭歌會

(遊京) 四五

○金光明寺〔國分山〕

(江戸四) 三〇

○金五郎〔森下〕

(大久保) 四一

同〔小さんの情夫〕

(娘節用) 六

同〔興話情浮名横櫛〕

(脚下) 五八

○金山寺

(水滸四) 三九

○徑山寺

(一休) 四一

○吟聲

(狂言上) 一〇

○金州城の陷落

(太閤下) 四七

○金十郎〔質屋の番頭〕の

○弁名、連(蒼髯公九錫)

俳諧文)

○城名樋山

○黄なる泉

○忌日

○木になる餅

○絹賣彌一

○衣笠

○衣笠山

○きぬかぶり(衣被)

○絹川谷藏

○後朝の文(高尾)

○擣衣(新撰朗詠集、秋)

○碓(千鳥の前の姥)

○碓のおとを野狸

○きぬたのまき歌淨瑠璃

璃(よし原小歌)

(近代) 二四

(和漢) 三九

(風土記) 五〇

(宇津上) 二四

(石川) 二八

(平賀) 二七

(脚下) 二六

(浄下) 四三

(浄上) 六三

(宇治) 一六

(脚下) 六三

(書翰) 七

(古代) 三三

(浄上) 五

(八笑人) 三三

○木下川藥師堂

○木下川藥師の杜若

○甲子のわざわひ

○紀生磐(宿禰任那に)

て反す

○紀伊國(催馬樂、呂)

○紀定丸

○義の字義

○木下稻荷祠

○木下長嘯子

○紀武俊

○紀貫之(貫之参照)

○紀任重

○紀友則

○記の内侍(阿佛尼の)

女)

同(信西が室)

(江戸四) 二四

(江戸四) 四五

(年々) 六一

(歌戎) 五七

(古代) 一三

(石川) 四〇

(閑田) 一五

(江戸三) 七

(畸人傳) 六四

(石川) 一六

(百人) 六三

(雅文) 七

(百人) 二五

(書翰) 一五

(宇治) 五七

○紀直方

○紀正盛

寛仁の話

諸士に陰言注意

○木保神

○著婆

○宜白亭記

○喜八(傾城阿波の鳴門)

同(伊勢屋)

同(煙草屋)

○木原山

○吉備上道臣田狹任

那にて反す

○吉備兒島

○吉備村

○黄表紙

(石川) 三六

(窓の) 五

(窓の) 六八

(古事記) 五五

(八文字) 五三

(鶉衣) 八三

(淨中) 三五

(黄表紙) 五〇

(大岡) 五九

(江戸一) 三六

(歌戎) 五

(古事記) 二

(日記) 四四

(田舎上) 九五

後醍醐天皇の故事(太閤上) 三六

明智左馬助 (太閤中) 三四

入江小七郎 (太閤中) 三五

眞袖が原の古狐 (一休) 四九

古葉の歌 (一休) 四三

愛甲三郎 (曾呂利) 五七

北條氏康 (曾呂利) 五七

高橋圖南と狐つき(崎人傳) 三九

人を誑かす (崎人傳) 五九

明神の使はしめ、八

百八狐 (淨上) 二八

白狐の形 (淨上) 三七

蜜柑 (大久保) 三四

却て獵人を釣る (黄表紙) 一五

狐恩を仇 (花月) 五三

獵人の殺生を禁ず(雅文) 二七

神なりとの説 (古道) 四九

物怪の祟

狐釣り

九尾

○狐川

同

同

○狐崎

同(景時打死)

○狐じま

○狐塚

○狐釣(こんくわい)

○狐付きの間違

○狐の仕組

○狐の尻尾

○狐火

○喜連川

○喜怒

(出定) 五八

(狂言上) 五

(燕石) 二六

(日記) 一四

(淨上) 一三

(田舎上) 五四

(日記) 二八〇

(日記) 一八六

(淨上) 四九

(淨上) 四六

(狂言上) 五七

(七偏人) 四九

(和合人) 三〇八

(和合人) 二八一

(淨上) 三九

(淨上) 三五

皆影ぼうし

腹の立合

喜怒は神の御霊

○祈禱

同

○几董(高井)

井華集

蕪村よりの手紙

○儀同三司

○儀同三司母

○殺堂(鷲津)の詩

○鬼得院

○きどく帽子

○織内

○記内

○氣長の氣短

○木梨姫皇子の不倫

(心學) 二七

(心學) 二九六

(靈能) 二六三

(田舎上) 三九三

(雅文) 四六

(俳句集) 五九

(書翰) 二四九

(古今著) 二六五

(百人) 三五

(詩集) 四八

(田舎上) 五八四

(淨下) 三九

(字津上) 五三

(脚上) 二

(心學) 二九

(古事記) 二四七

○妓女〔和漢朗詠集、雜〕（古代）二七

同〔新撰朗詠集、雜〕（古代）三〇

○義仲寺（日記）四六

○義仲塚（俳句集）八四

○几帳（字津上）二六

同（狹衣）六六

○きてう〔吾妻淨瑠璃〕（近代）三六

○喜蝶〔與三右衛妹〕（脚上）二

○吉六〔紺屋の下人〕（淨中）五二

○吉川元吉（太閤中）一八三

○杵築郡（風土記）四八

○杵築郷（風土記）四六

○來次郷きつざ（風土記）四九

○杵築宮（日記）一五〇

○吉凶御門の由來（大久保）二四

○木津城（太閤中）五八

○きつ相（淨上）一四

○ぎつちやう棧枕

同〔再考〕

○狐

家につくくる事（宇治）二〇

人につきてしとき

食ふ事（宇治）二三

某士老狐を威す（窓の）二〇

浪人妻の不義を庇

ふ（窓の）一五九

親の救を乞ふ（窓の）二五〇

中川家の藥（窓の）三〇九

物頭に切腹を勧む（窓の）三二〇

大安公の鶴を取る（窓の）三二一

驗者の妻に憑る（窓の）三三三

福天神（古今著）三七

大納言泰通の高倉

の亭（古今著）四六

東大寺大佛禮拜（古今著）五九六

朱雀大路の美女（古今著）六〇一

狐と馬（石川）三〇九

のら狐の言（石川）三四

痴人を化す（石川）三五

南部の狐塚（閑田）三

狐と稻生明神（閑田）一四一

近江國正念寺の狐（閑田）一四二

初午に辨天（閑田）一四四

花崎社（閑田）一四四

女となりて覺左衛門に嫁す（琦行傳）七四四

葛の葉狐の淨瑠璃

の由來（琦行傳）七四四

狐が三正尾が七（平賀）三三

稻荷大明神の御神

託（平賀）五三〇

○北村雲山

(畸人傳) 三六九

○北村篤所

(畸人傳) 三三七

○北村祐庵〔堅田祐庵〕

其略傳

(畸人傳) 三三〇

補遺

(畸人傳) 六四九

○北山

(狹衣) 五五

同

(字津上) 六一

○北山雪山

(畸人傳) 三六九

○北山友松子

奇行

(畸人傳) 三七〇

補遺

(畸人傳) 六四九

○義太夫〔堀本〕

(淨中) 一六

○義太夫〔森本〕

(太閣下) 三九

同〔明石〕

(太閣中) 三五

○義太夫〔二代目〕の墓〔日記〕

六八

○祇陀林寺

(字治) 三〇

○喜多六

(脚上) 六一

○吉〔雲助〕

(脚下) 八

○奇智奇才

少年盜賊を捕ふ

(窓の) 二〇九

庄屋の妻

(窓の) 二八

三田の使者

(窓の) 一七〇

丸龜の老臣

(窓の) 一七三

多田三左衛門

(窓の) 一八一

熊谷鍋屋の僕

(窓の) 二三四

五丸殿

(窓の) 二三三

代官黨の吟味

(窓の) 三三七

留守居の士

(窓の) 三六七

問部氏の足輕

(窓の) 三九〇

秀吉の奇才

(太閣上) 二六

長七郎家主を惱す〔大久保〕

一元

猪之助と水瓶

(琦行傳) 九六

○きち子〔春海より賜はれる書〕

(琴後) 七三

○桔梗きぢやう

(字津下) 四三五

○吉次〔金寶〕

(御伽) 四四五

○吉祥院〔東覺山〕

(江戸二) 二五

○吉祥寺〔諏訪山〕

(江戸三) 二九三

○吉祥寺吉三郎

(江戸著) 四四四

○吉祥天女

(字津上) 六〇六

○吉祥天女の詫言

(石川) 三五

○吉智首の詩

(詩集) 五二六

○吉之助〔穀物屋の伴〕

(大岡) 五八九

○吉兵衛〔黒田〕

(太閣中) 五三四

同〔輪拔〕

(淨上) 六六

同〔煙草屋〕

(琦行傳) 六六二

同〔寶澤改め〕

(大岡) 四三

同〔京都丸山料理人〕

(大岡) 四三

同〔甲州屋〕

(大岡) 四九

○鬼女

(古今著) 四八九

同

(田舎上) 一六

○喜集院喜平太

(脚 下) 二四二

○紀州取調の苦心

(大 岡) 一五六

○紀州明神社

(江 戸 三) 三七一

○きしゆごぜん

(御 伽) 二二

○喜助(伊勢音頭戀寐

刃)

(脚 上) 六〇九

同(俠詞花川戸)

(脚 下) 七三

○儀助(肝入)

(脚 上) 六八一

○きすの丞

(黄表紙) 二〇

○喜瀬川の大水

(日 記) 六六七

○木瀬川の光親卿の故

事

(日 記) 三

○起勢里

(風土記) 五四四

○貴賤の階級

(心 學) 五四六

○貴賤の性情

(雅 文) 二二

○喜撰法師

逸傳

(百 人) 七

登仙

(平 賀) 三七

○煙管(男)煙草入(女)

にわかれる

(黄表紙) 二四三

○煙管の噺

(心 學) 一七四

○擬生

(宇津下) 五八

○喜藏

(脚 下) 五七

○徽宗帝夢に梁山泊に

遊ぶ

(水滸四) 六三

○木曾城の合戦

(太閤上) 六九

○木曾路

(遊 京) 四三

○岐嶺路紀行

(鴉 衣) 八三

○木曾の棧道

(淨 上) 二八三

○岐嶺賦

(鴉 衣) 六八

○木曾義仲(義仲を見よ)

○喜陀川の合戦

(太閤中) 六六

○喜多古七太夫

(窓 の) 二六

○北嵯峨

(淨 上) 四

○北澤淡島明神

(江 戸 二) 一〇

○北島

(淨 上) 四

○木太刀

(宇津上) 一三

○北院御室(白髮のう

ば)

(古今著) 四七

○北野宰相の塔婆建立

(古今著) 七

○北野の大茶會

(太閤下) 三

○北の陣(朔平門)

(宇 治) 二七

○北野天神

(淨 上) 六三

○北野天神社

(江 戸 三) 二〇

○北野宮寺の臨時作文(古今著) 二六

○北の丸新御殿御普請

の事

(女太平) 一四八

○北野の社

(宇 治) 五四

○北村秀吟

まざくの句

(古今著) 五七

別莊地

(江 戸 二) 六〇

○樵夫の娘

(字津上) 二四

○象

(字津上) 一四

○義齋(醫)

(琦行傳) 七五

○喜左衛門(傾城阿波

の鳴門)

(淨中) 元一

○喜左衛門(近頃河原

達引)

(淨下) 元九

○蜺貝姫

○象潟

(古事記) 四九

○象潟御前(定倉の妻)

(淨下) 七九

○木崎文兵衛

(大久保) 二九五

○喜作(幫間)

(脚上) 九三

○象の小川

(日記) 四八

○きさのき

(字津上) 二八

○紀山軍

(水滸四) 三二

○木更津

(日記) 九四

同

(脚下) 三五

○きさり持

(古事記) 七三

○義齒

(閑田) 一九五

○義士計入(計入云々

參照)

(書翰) 一三六

○岸玄知

(畸人傳) 六五

○岸高頼五郎

(田舎上) 三四

○規子内親王

(古今著) 五七九

○雉子の皮

(字津下) 二六

○きじのけん六

(黃表紙) 七

○雉子宮

(江戸二) 七

○來島郷

(風土記) 四九二

○杵島郷

(風土記) 五五五

○杵島郡

(風土記) 五五四

○鬼神

疫病神

(靈能) 三一

鬼神と山魅

(雅文) 二五

鬼神敬遠

(心學) 四九

○鬼神餘論

(燕石) 三六五

○鬼神論

(燕石) 三五〇

○鬼神或問

(燕石) 六三五

○鬼子母神(四谷)

(江戸二) 二六四

同(高井戸)

(江戸二) 二九六

同(雜司ヶ谷)

(江戸二) 六四〇

○岸本利貞の求めに書

送る文

(うけら) 二九〇

○騎射

(田舎下) 四九六

○起請

誓言

(八文字) 五二七

血文

(八文字) 五二三

僧の起請

(八文字) 五二三

起請文

(淨下) 二九五

○記誦

(禪林) 二九

○送其常辭

(鴛衣) 七七五

○奇獸異鳥

(閑田) 一二七

○鐵鐘

救荒一助

(心學) 九

高森正國施樂す

(崎人傳) 五九

○鐘きうち

(崎行傳) 六七

○騎牛の武者

(太閤下) 一五

○奇橘

(閑田) 一五

○桔梗

(田舎上) 一五

○桔梗が原

(淨上) 三〇

○木切澤

(江戸二) 四八

○吉々利々きりり〔神樂歌〕明

(古代) 二三

星

(古代) 二三

○菊

和漢朗詠集、秋

(古代) 三二

新撰神詠集、秋

(古代) 三〇

御前の一本菊

(字津上) 三二

花壇の菊

(淨上) 三七

延喜十三年十月十

三日御記

(古今著) 五七

殘菊を奉る

(古今著) 五七

爲長の詩に定家逃

ぐ

く

(古今著) 五九

○菊合、賦

(鶉衣) 八〇

○菊一文字

(百人) 七五

○問菊辭

(鶉衣) 八三

○菊をめぐる記〔平春

海〕

○きくがまや〔質屋〕

(琴後) 六六

○きくがまや〔質屋〕

(黃表紙) 四六

○菊川の話

(日記) 一六

同

(日記) 一六

同

(日記) 一六

同

(日記) 三三

同

(日記) 三六

○菊桐菊桐三菊桐合せ

て菊桐六菊桐の前〔黃表紙〕一六

○菊咲

(田舎下) 一八

○謝贈菊紙人〔東花

坊〕

坊

○きく水寺

(和漢) 二六

○菊水の井戸

(日記) 三九

○菊水の巻

(淨下) 四七

○菊千

(脚上) 四三

○菊づくし〔踊歌〕

(和合人) 四四

○菊作の簀作

(近代) 四六

○鬼窟裏の活計

(淨上) 五七

○菊野〔藝子〕

(心學) 二二

○菊の摺襷

(脚下) 四四

○菊の花

(字津上) 六六

○菊姫〔假名千里〕

(狂言上) 三九

○菊理媛神

(淨上) 六三

○樵夫歌を詠む

(靈能) 二五

○樵夫の小童

(字治) 九五

僧法眼茶屋に遊ぶ(畸人傳) 三〇

鯉山の由來 (畸人傳) 六八

同 (狂言下) 七六

○祇園會 (田舎上) 七四

同 (遊京) 三九七

○祇園會御旅所 (江戸一) 六一

同 (江戸一) 一四二

○祇園梶子 (畸人傳) 三四五

○祇園寺(虎柏山) (江戸二) 三〇〇

○祇園執行日記 (遊京) 四八

○祇園精舍 (宇治) 五五

○祇園大社 (淨上) 八一

○祇園女御(祇園女御

九重錦) (淨上) 八三

同(鎌倉三代記) (淨中) 二三

○祇園女御九重錦(淨上) 七

○祇園の社 (淨上) 二八三

同 (淨下) 三二

同 (江戸三) 四九

○祇園百合子 (畸人傳) 三八

○木賀(箱根) (黃表紙) 九七

○義家朝臣ぎかあそん (宇治) 一四三

○鬼界が島 (石川) 二九

○さがへの驛 (日記) 五九

○歸家日記(井上通女) (日記) 二六三

○氣賀の關 (日記) 六五

○其角(寶井) (俳句集) 一七三

其句集 (俳句集) 一七三

芭蕉より大酒の戒(書翰) 一三五

鹽川文麟へ義士討

入の狀 (書翰) 一三六

俳友へ江戸の近況(書翰) 一三九

其墓 (江戸二) 七二

寶晉齋其角翁宿 (江戸一) 一四九

山鳥の句の由來 (江戸著) 四三

ゆふだちやの俳句(江戸四) 四四

猿蓑序 (風俗) 一九

嘲佛骨ノ表 (風俗) 一九

自畫自讃の評 (日記) 六五七

○其角句集 (俳句集) 一七三

○歸雁(和漢朗詠集、秋)(古代) 三三〇

同(新撰朗詠集、秋)(古代) 三三九

○義觀(反古の聖) (宇治) 三六

○義觀の義氣 (畸人傳) 五七

○きかん坊 (淨下) 二四七

○さがるゐん (田舎下) 二七

○黃菊白菊 (年々) 二六

○雉名鳴女きでしななめ (古事記) 六九

同 (古道) 四〇〇

○雉の頓使きでしひたづかひ (古事記) 七二

○紀記の歌 (古代) 一

智謀

柳澤の取立

(琦行傳) 七七

(女太平) 七七

自害の事

(女太平) 二〇

土器塚

(江戸二) 一六六

河原左大臣

(百人) 一三三

川原寺

(日記) 四七

河原新市

(狂言上) 二八四

河原撫子のせきちく(黄表紙) 一七六

河原院

融の靈

(百人) 一四四

同

(醒睡) 二二九

同

(宇治) 四七

河原人

(宇津下) 四四

瓦葺

(宇津下) 六六

かばり伊勢ぶし(よし)

(近代) 三五

原小歌

(近代) 三五

替り榮閑神おろし(は)

やり歌

(近代) 四三

替り祭文(はやり歌)(近代) 四〇

かばりぬめり歌(よし)

(近代) 三

し原小歌

(近代) 三

かばり美人揃(よし)

原小歌

(近代) 六

キ

綺

(宇津上) 六五

氣

氣と志

(禪林) 三三

不生の氣

(禪林) 三五

眞丹

(禪林) 三六

臍下狐然

(禪林) 三六

精氣神の三物

(禪林) 三七

義(眞の義)

(禪林) 三〇

利いた風

(和合人) 三六

歸一坊

(太閤中) 五九

鬼一法眼義經との問

答

(雅文) 九六

喜市郎(伊藤)

(書翰) 三三

紀伊溫泉

(萬葉上) 六

紀伊七首(國風)

(近代) 九

基肄郡

(風土記) 五三

喜右衛門(遠藤)

淺井父子を諫む

(太閤上) 三〇

討死

(太閤上) 三七

魏王(周)の故事

(大久保) 一六

妓王涌

(閑田) 六三

祇園

さし紙

(日記) 五七

大樓の噂

(日記) 五三

方言

(日記) 五四

歌曲

(日記) 五五

化物屋敷

(窓の) 二三〇

○河崎

(江戸一) 四三

○河崎庄司次郎高重宅

地

(江戸一) 四六

○河崎庄司次郎高重宅

舊趾

(江戸二) 一七

○川作

(浄上) 三〇

○河島皇子の詩

(詩集) 五八

○川次郎

(田舎上) 八三

○川次郎の靈

(田舎下) 三三

○川角源内

(脚上) 二六九

○かはせ銀

(浄上) 二五九

○川そひ柳〔雜藝〕

(古代) 一六九

○川たけ〔長歌〕

(近代) 二六

○川谷貞六死を豫知す

(畸人傳) 五四〇

○河田豊前守の勇戦

(太閤中) 三八〇

○河内

(脚下) 六九

○河内前司

(宇治) 二八〇

○河内二十六首〔國風〕

(近代) 四九

○河内國の聖の話

(宇治) 五三

○河内郷

(風土記) 四六

○河内里

(風土記) 四六

○河内重如〔山次郎判官〕

(古今著) 一七一

代

○河内の浪人

(浄中) 四三

○河内屋七左衛門の惡

所狂

(武野) 三三

○蛙

晴明に殺さる

(宇治) 三七

青蟻と草餅

(一休) 四八

古の大名

(醒睡) 三九

藤堂樂庵

(畸人傳) 五一

京阪見物

(心學) 二〇

○蛙石

(近代) 五七

○蛙をかへるといふ

(年々) 三三

こと

(浄中) 七

○蛙が鼻

(和合人) 三五

○革頭巾

(近代) 五一

○川づくし〔長歌〕

(鶉衣) 八三

○蛙歌

(浄上) 四二

○蛙丸〔名劍〕

(宇治) 二〇

○かはつるび

(日記) 六

○河名

(浄上) 四四

○川中島

(靈能) 二四七

○河沼比賣神

(八文字) 四三

○川の流れ

(和合人) 三三

○革羽織

(宇津下) 三七三

○かはぶえ〔口笛〕

(風土記) 五七

○川邊里

(窓の) 二六

○河村瑞軒

智慧

智慧

いのち
命こめたる

(宇津上) 二〇三

○火裏の蓮

(禪林) 三九

○狩人

(宇治) 一九七

○借物の辯

(鶴衣) 五九七

○假家坂

(江戸二) 三八〇

○家隆かきゆういへたか(家隆の條參照)

かさゝぎの歌

(宇治) 四八〇

天王寺にて終れる

時の歌

(古今著) 一六七

七十七歳の時九條

前内大臣への歌(古今著) 一九〇

天王寺にて終れる

時の歌七首

(古今著) 四三五

○臥龍梅

(江戸四) 一三四

○臥龍梅の梅干

(七偏人) 六四四

○迦陵頻の樂

(田舎上) 四七三

○刈萱道心(加藤左衛

門繁氏入道

(淨上) 七

○荊萱桑門かるかやとうしんつくしのいへづと筑紫つくし榎え

(淨上) 一

○刈萱尼

(田舎上) 二六

○刈萱の關

(日記) 一六

○韓白カルスフイヌガミ犬神かるた

(雅文) 五五

○牌骨

必勝の心得

(武野) 四二〇

骨牌の繪かき

○輕大郎女かるのおほいらつめ

(古文記) 二五三

○輕太子御歌かるも

○刈藻

(古文記) 二五〇

同(道成寺現在蛇鱗)

○輕箒

(淨中) 二六

○かるやま(半太夫ぶし)

○輕業

(近代) 六六

○枯野(雜司谷より堀

(石川) 三七六

内路

(江戸四) 四八四

○彼もよき人

(花月) 五九

○嘉例の曾我

(平賀) 三五七

○畫樓繪合序(許六)

(風俗) 一三四

○河井繼之助(妹への

手紙)

(書翰) 五四三

○川合里

(風土記) 五四五

○川合の社

(田舎下) 六一

○川浦遊軒

(脚上) 九

○川おろしといふ詞

(年々) 三六

○川勝丹波守

(大久保) 三五三

○川上地藏

(狂言下) 三七九

○河口(催馬樂、呂)

(古代) 一三五

○河口善光寺

(江戸三) 三六一

○川口渡

(江戸三) 三五七

○河越

常業寺、最勝院

(日記) 一三三

○唐組の緒

(宇津上) 三九

○唐鞍

(宇津上) 四四

○からさを投

(淨上) 七

○唐崎

(宇治) 一四

○辛崎

(宇津下) 四六

○辛崎心中(はやり歌)

(近代) 四六

○辛崎の松

(日記) 五九

○芥子漬の滑稽

(七偏人) 六九

○辛子の粉

(淨上) 一九

○唐島の船軍

(太閤下) 一八

○鳥

○鷗しとまと親子

(醒睡) 三六

わなにかゝる

(黄表紙) 二

鹿の友

(宇治) 一六

鷺と鴉

(禪林) 三七

島の明神に出て來

(古今著) 一五

る

○鳥瓜

(田舎上) 一九

○鳥金からすがねの由來

(武野) 四五

○鳥川

(日記) 八

○同

(日記) 三四

○犁からすき

(宇津上) 三三

○唐簾からすだれ

(遊京) 四四

○鴉からす箴

(鴉衣) 八七

○鳥の九郎助

(淨中) 三三

○鳥丸光廣の超俗

(窓の) 三三

○鳥森稻荷

(江戸一) 三四

○唐泊

(狹衣) 一六

○同

(田舎下) 三七

○唐撫子のかくあやの

(宇津下) 七六

うちき

(萬葉上) 三三

○辛荷島

(古事記) 三七

○枯野からぬ

(唐人の名を附くる事) 閑田 八一

○唐船からぶね

(平賀) 三八

○韓室里からむろ

(風土記) 五六

○からもり

(宇津下) 六九

○雁かり

和漢朗詠集、秋

(古代) 二九

新撰朗詠集、秋

(古代) 三六

天にかりがね一匁

(一休) 四三

い

典兵衛

(醒睡) 五三

手習子の歌

(醒睡) 二八

食はれぬ歌

(古今著) 五三

○雁音かりがね

(田舎下) 三三

○同

(狂言下) 三

○かり島

(日記) 一五

○獵路池

(萬葉上) 八

○迦羅鳴起、瀬

(江戸四) 三八

○雁の子(かひのうちに

賀茂の社

(古今著) 一五

○賀茂眞淵

家集

(賀茂) 一

閑居地

(江戸一) 二九

略傳

(古道) 三〇

其逸傳

(崎人傳) 二七

旅のなぐさ

(日記) 三五

岡部日記

(日記) 三七

後の岡部日記

(日記) 三九

○鷗かもめ

(字津下) 五

○賀茂詣かや(堀川大臣)

(狭衣) 三三

○榎かや

(字津下) 六七〇

同

(禪林) 二七

○夏夜(新撰朗詠集、夏)

(古代) 三四

○萱津

(日記) 二〇

同

(日記) 天

○榎寺

(江戸三) 四六

○蚊帳かやねひめのかみに香袋を掛く

(用捨箱) 七六

○鹿屋野比賣神

(古事記) 一四

同

(靈能) 二七五

○萱の齋院かやののさと

(百人) 六九

○賀野里かやののさと

(風土記) 五一五

○柏野里かやののさと

(風土記) 五四

○茅野天神

(江戸一) 二二

社殿

(江戸四) 三三

境内の梅

(字津上) 一三〇

○萱館かややかた

(字津上) 一三〇

○粥

(字津上) 五六

○粥杖

(狭衣) 四七四

同

(骨董集) 一四

○粥の木

(骨董集) 一四

同

(用捨箱) 六八三

○かよひぐるま(端歌)

(近代) 六〇四

○通ひち(吾妻淨瑠璃)

(近代) 三〇〇

同(三上り)

(近代) 六六

○唐綾(本多近經の妻)

(浄下) 四四五

○火雷神

(平賀) 四九七

○唐糸の前

(御伽) 八九

○我來也からうす

(燕石) 五七〇

○碓からうす

(字津上) 三五〇

○越瓜からうり(百姓太郎助)

(太閤中) 二三四

○唐織からかさ(高坂彈正の妻)

(浄上) 三三一

○傘からかさ

(字津下) 七七

○傘踊

(近代) 四四五

○韓神

(古事記) 六六

同(神樂歌)

(古代) 九七

○唐衣からしぬ

(字津上) 八四

同(人名)

(田舎上) 八五

○唐木政右衛門

(脚上) 三二

○唐草

(字津上) 五九六

○干菓物(乾菓子)

(字津上) 三三五

龜山

(淨中) 六三

○龜山天皇

(馭戎) 二〇九

○龜山の孝子

(閑田) 九六

○瓶破り柴田俗稱の由

來

(太閤上) 三五一

○かめわり山

(黃表紙) 二五

○賀茂

(遊京) 三九六

○鴨

野鴨と家鴨

(大久保) 一六九

甘言見舞

(大久保) 三七七

理法

(大久保) 四四四

片目と歌

(古今著) 六三七

○蒲生快軒日野城を守

る

(太閤上) 二四〇

○蒲生野

(萬葉上) 一〇

○かもうり

(日記) 六六五

○冬瓜仁右衛門

(武野) 三七五

○賀茂翁家集の序〔千

薩〕

(うけら) 二九六

○加茂川

(淨上) 二六三

同

(宇津上) 一八六

同

(宇治) 一八四

○鴨川

(淨上) 一〇三

同

(一休) 四六

○加茂川堤

(田舎下) 六三二

○鴨建角見命〔眞淵

の祖〕

(古道) 三二

同

(靈龍) 三八

○鹿持雅澄〔三阮歌曲

解〕

(古代) 六九五

○鴨野

(風土記) 三九五

○迦毛大御神

(古事記) 六三

○鴨長明〔長明を見よ〕

○賀茂神戶

(風土記) 二四六

○賀毛郡

(風土記) 其契

○賀茂の競馬

(曾呂利) 六四〇

○賀茂の大明神

(古今著) 三

同

(宇治) 一四一

同

(狹衣) 三六

同

(醒睡) 二九五

○賀茂の祭

(宇津上) 三七三

同

(狹衣) 三六

同

(田舎上) 三六三

同

(遊京) 四六

同

(宇治) 三六四

○賀茂の行幸

(狹衣) 五四

同

(宇治) 四九

同

(狹衣) 三三三

同

(狹衣) 三六四

○加茂祭再興

(閑田) 一四九

○加茂の社

(宇治) 一八三

蟹に餌をかはせ給

ふ

(古今著) 五九五

遷都

(宇治) 四九七

○神骨伎神漏彌

(祝詞) 三〇四

同(名號の考)

(靈能) 三三三

○神屋楯比賣命

(古事記) 六三

○神倭伊波禮毘古命

〔神武天皇〕

(古事記) 二〇二

○紙屋院

(曾呂利) 五三

○觀瀾奇行

(窓の) 一七一

○冠附選

(川柳) 二七

○冠山の合戦

(太閤中) 四三

○勘六(新版歌祭文)

(淨上) 三三

同〔夏祭浪花鑑〕

(淨中) 五二

○甘露水

(江戸二) 二九

○禿の黄卷

(平賀) 六三

○漢和手引草序

(鶴衣) 七〇

○寒椿

(田舎上) 五七

○龜

龜の故事縁語

(石川) 四四

浦島太郎に助けら

る

(御伽) 二七

俳諧師と龜

(古道) 三六

龜の首

(古今著) 四七

甲に毛生ひたり

(古今著) 六五

御祝言御見舞

(黄表紙) 二

龜を買ひてはなす

事

(宇治) 五八

耳と大海老

(一休) 四六

南極見物

(一休) 四七

○甕

(宇津下) 二

○龜井

(宇治) 四八

○龜菊

(百人) 七九

同〔鳥廻色爲朝〕

(脚下) 五七

○龜田久兵衛

(畸人傳) 一三

○龜田窮樂

(畸人傳) 一三

○龜田鵬齋

(先哲) 一〇五

○龜塚

(江戸二) 二七四

○龜千代

(伊達) 四三

○龜戸天満宮

社殿

(江戸四) 二二

境内の梅

(江戸四) 三三

池邊の藤

(江戸四) 四三

○龜戸の妙義社

(七偏人) 五三

○龜八

(和合人) 五〇

○龜舞

(宇津下) 五

○龜の尿

(閑田) 一六

○龜の尾の山

(宇津上) 五五

○龜の看經

(閑田) 一六

○龜山

(太閤中) 四

同

(狹衣) 四六

○神直毘神かむなびのかみ

(古事記) 二五

同

(靈能) 二五

○漢南軍

(太閤下) 四三

○神名樋山かむなびやま

(風土記) 四三〇

同

(風土記) 四六一

○神名火山

(風土記) 四四四

同

(風土記) 四七三

○かなり(雷鳴壺)

(宇津下) 七四

○堪忍箱

(心學) 三九

○堪忍、聯(張昇角)

(和漢) 三六三

○神主の相撲好

(八文字) 四九

○元年

(年々) 三六

○漢高祖

(太閤上) 三七

○漢武帝

(近代) 四

故事

(大久保) 七

李夫人の故事

(御伽) 一九五

○漢文帝

(御伽) 一九五

○觀音

筑摩の湯

(宇治) 一八五

俊蔭本誓を念ず

(宇津上) 四

其の賜物

(石川) 一六

靈驗

(石川) 一三

淺草觀世音(淺草

の條參照)

初瀬の觀音の御罰(石川)

(石川) 二〇三

觀音久次

(脚下) 五九

○觀音經

(出定) 六三

同

(宇治) 一六

○觀音堂(河崎)

(江戸一) 四四

○觀音詣

(淨上) 五

○勘八(本朝二十四孝)(淨上)

(淨上) 二九

同(俠詞花川戸)

(脚下) 三

○看板

(脚下) 三

傾城買のら指南所(八文字) 四七

霍亂をはくらん

(心學) 三

○上林春松

(醒睡) 三六〇

○蒲原

(日記) 七

同

(日記) 七

同

(日記) 三七

○蒲原右内

(脚上) 四七九

○神原郷

(風土記) 四九八

○かんふうらん替り(は

やり歌)

○觀福壽寺(護國山)

(近代) 四九

○灌佛院

(江戸一) 五二〇

○寛平法皇

(曾呂利) 五九四

○眼兵衛(道芝の父)

(淨下) 五六一

○貫平

(淨中) 四七

○雁平(奴)

(脚上) 一三

○勸發菩提心偈

(禪林) 五五五

○桓武帝

○雁大名 (狂言下) 四三

○神田川 (江戸一) 六六

○神田大明神社 (江戸三) 一八三

○上達部(左京の大夫)

のあらまきの話 (宇治) 四九

○神田橋 (江戸一) 九

○神田橋の喧嘩 (金澤) 一八二

○神田明神 (平賀) 三〇八

○神田明神の舊地 (江戸一) 九

○神田明神の櫻 (江戸四) 四四

○神田明神の由來 (大久保) 四七一

○神田茂左衛門 (脚上) 一六七

○勘太郎(悪黨) (大岡) 四九二

○感通寺(本妙山) (江戸二) 四〇〇

○管仲 (平賀) 四四四

○寛思僧都 (古今著) 四六

○觀知僧都 (古今著) 五六一

○岩長羽(戯花) (和漢) 二九四

○寛朝僧正(遍照寺) (宇治) 三九六

○上野の宮(頼明) (宇津上) 二二七

○關帝の靈現 (太閤下) 五〇九

○鑑亭(聯東花坊) (和漢) 三三

○閑田子 (琦行傳) 七五

狐の考證 (琦行傳) 七五

熱食の有害なるを論ず

○神門 (琦行傳) 八七

○勘當 (風土記) 四七

勘當の是非 (八文字) 二二

武藝を好みて勘當(八文字) 二八

金溜めて勘當 (八文字) 一六

放蕩息子 (心學) 一九

○關東 (燕石) 三七四

同 (日記) 五四

○甘棠 (日記) 六二

○顏統軍(元顏光) (水滸四) 六

○關東小六(丹前古今) (近代) 四〇二

○關東小六青葉(所作) (近代) 五三六

○關東小六自然居士(所作) (近代) 五三六

○還道村 (水滸二) 四八

○鑑塔ノ銘(蓮二房) (和漢) 四九

○關東ほそり (近代) 一六三

○神戶川 (風土記) 四八三

○神門都 (風土記) 四八一

○神度(劍) (古事記) 七三

○神戶水海 (風土記) 四八四

○掛取 (宇津上) 三四

○雁取帳 (黃表紙) 五

○關 (燕石) 六三〇

○銅 (燕石) 六三〇

○韓克鉞清正と戦ふ (太閤下) 一六五

○函谷關の故事 (百人) 四〇三

○かんこ鳥 (黄表紙) 三三三

○上野の布 (字津上) 二四三

○願西(雲助) (平賀) 五〇〇

○寛齋(市河)の詩 (詩集) 一七六

○勘齋(茶道坊主) (淨中) 五

○勘左衛門(吉田)の射

術

○神崎 (金澤) 五三三

○神前郡 (宇治) 五二八

○神崎郡 (風土記) 五七七

○神崎の里 (風土記) 五七七

○神崎遊女 (淨下) 一九一

○菅三品(三日月賦) (平賀) 五五五

○元三大師堂 (和漢) 三三三

○元日(試筆) (江戸二) 七七

○菅師冬(本箱銘) (和漢) 五二一

○漢字の四聲 (年々) 二四八

○韓信 (淨上) 三三五

○鑑真(僧) (出定) 六六三

○勤進比丘尼繪解 (骨董集) 一八一

○勤進柄杓 (禪林) 一七五

○菅秀才(菅丞相の

子)

○觀修僧正(解脱寺) (黄表紙) 二二三

○漢壽亭侯印 (宇治) 一三九

○願書(法事の願文) (燕石) 二七九

○關勝(大刀) (字津上) 五二四

議して梁山泊を取

らんとす (水滸三) 二二四

水火の二將を降す (水滸三) 二九一

義をもつて三將を

降す (水滸四) 一七五

○甘庶氏名命の由來 (出定) 五二〇

○菅丞相(菅家、菅公、道

眞參照) (宇治) 五二一

○岩司鐘(百物語序) (和漢) 三七二

○勘四郎(田路) (太閤下) 二二五

○寛政時代の川柳 (川柳) 二二二

○觀世左吉の太鼓 (江戸著) 五二九

○觀世太夫の逸話 (窓の) 二五九

○勸善懲惡 (心學) 二二九

○勘藏 (淨下) 三八五

○鹹草酒 (脚下) 五二三

○觀相と雛 (花月) 五四六

○がんどうの字 (閑田) 一九九

○勘太 (淨上) 六〇五

○眼太 (淨上) 六二九

○神田 (日記) 一七〇

○神田庵小知 (琦行傳) 六七五

○紙屑紙かみやがみ

○神湯

○髮結小五郎踊

○髮結才三

○髮結の滑稽

○神魯美命

○かん（藝者）

○神阿多都比賣かむあたつひめ

○雁爭

○閑院大臣（冬嗣）

○關羽印の追考

○關雲長

○神活須毘神かむいくすびのかみ

○寛永寺（東叡山）

○寛永寺の雪

○神大市比賣かむおほいちひめ

○感應院（修驗者）

（字 治） 五三

（風土記） 四六

（近代） 四四

（女房） 七一

（七偏人） 四六

（靈能） 二三

（脚下） 三

（古事記） 六六

（狂言上） 三五

（字 治） 三五

（燕石） 六六

（燕石） 二七九

（古事記） 六六

（江戸三） 三四

（江戸四） 四九五

（古事記） 四

（大岡） 二七

○感應寺（長嶺山）

○觀音山

○觀音寺

同

○寒温と人の容儀

○寛快（壇光坊）

○勸學院

○漢學の半可通

○監河侯

○寛濶一休（吾妻淨瑠璃）

同

○寒菊の名所

○神吉城の合戦

○閑居

同（和漢期詠集、雜）

同（新撰期詠集、雜）

同（宴曲）

（江戸三） 二六〇

（江戸一） 五五

（日記） 一二

（江戸二） 二九

（禪林） 一三

（今古著） 四七五

（字津上） 四八

（年々） 二四

（字 治） 四四

（近代） 三〇九

（江戸四） 四七

（太閤上） 五二

（禪林） 一三

（古代） 二六三

（古代） 三六

（古代） 四四

○閑居（記）

○閑居賦（汶村）

○觀九郎（尻喰）

○觀月の宴の鐵砲

○菅家

○諫言

仕方

那波道圓君を諫む（窓の） 三八

藤原藤房

死諫

○管絃（和漢朗詠集、雜） 古 代 三二

同（新撰期詠集、雜） 古 代 三六

同（五音七聲） 古 今 著 一九四

○管絃曲（宴曲） 古 代 四八一

○菅公の話 百 人 二八七

○勘合の印 淨 下 二二

○雁國 黃 表 紙 六〇

（鶉衣） 六五

（風俗） 五六

（淨中） 四九〇

（大久保） 三五七

（百人） 一八四

（窓の） 二八一

（雅文） 九

（書翰） 元

（古 代） 三二

（古 代） 三六

（古 今 著） 一九四

（古 代） 四八一

（百 人） 二八七

（淨 下） 二二

造化の三神

(靈能) 三二

延波^{えは}

(靈能) 三三

安太牟^{あだむ}

(靈能) 三三

諸神生出の由來

(靈能) 三九

ゴツド

(靈能) 三三

神祇官の八神の神

神の名稱

(古道) 四三

狐は神なりとの説

(古道) 四九

加美の語の意義

(古道) 四八

萬物の本體

(古道) 四二

○神野山

(日記) 九四

○髮

白髮三千丈

(石川) 三六

蟹四間

(石川) 三九

源氏宮の美髮

(狭衣) 三三

二の宮の美髮

(狭衣) 四〇

○紙

紙屋

(八文字) 四〇

紙を徒に費すこと(禪林) 一五

○上岡里^{かみをかのると}

(風土記) 三二

○神風の伊勢の考證

(日記) 三三

○上加茂

(淨上) 二八

○紙衣

(宇治) 四一

○紙子

(淨中) 三六

○紙子寶^{かみごと}

(用捨箱) 七三

○神語^{かみこと}

(古事記) 六〇

○幽冥事の由來^{かみこと}

(靈能) 二九

○紙子仕立の伊達羽織(平賀) 五三

○紙崎主膳

(淨下) 三五

○上下(宴曲)

(古代) 四九

○上下の上げかりの事(年々) 三八

○上諏訪

(淨上) 二九

○かみすき(吾妻淨瑠璃)

(近代) 三二

○髮長姫

(古事記) 二〇三

○上無川

(江戸一) 五三

○神名備山

(萬葉上) 一三

○同

(日記) 四〇

○雷^{かみなり}

(黄表紙) 一六

○同

(田舎上) 四九

○同

(淨上) 六

○雷避の御守

(田舎上) 四七

○髮置の祝

(田舎下) 二五

○紙衾ノ記(芭蕉)

(和漢) 四七

○紙袋ノ序^{かみふく}

(鶉衣) 七五

○賀負里^{かみふり}

(風土記) 五九

○上の關

(淨下) 三三

○上の御社^{かみむすびのかみ}

(狭衣) 五五

○神産巢日神

(古事記) 六

○同

(靈能) 二二

○神詣

(心學) 五九

○鎌〔山科の薪賣〕

(醒睡) 一三

○鎌倉

(淨中) 五

同

(日記) 三

同

(日記) 四

同

(日記) 四

同

(日記) 二

同

(日記) 一七

同〔長歌〕

(近代) 二九

○鎌倉右大臣

(百人) 五二

○龍蝦

(平賀) 一八

○鎌倉御所

(淨中) 四二

○同

(淨上) 一七

○鎌倉權五郎景政

(淨上) 二七

○鎌倉三代記

(淨中) 一

○鎌倉賦〔許六〕

(風俗) 三〇

○鎌倉武士

(宇治) 四七

○蒲田の梅

(江戸一) 四三

同

(江戸四) 五七

○鎌田正次

(太閤中) 一七

○蒲田郷

(風土記) 五八

○鎌田隼人

(淨下) 一八

○蒲田八幡宮

(江戸一) 四三

○鎌足〔内大臣藤原〕

(宇治) 五〇

○鎌足道行〔所作〕

(近代) 五〇

○かまち〔頰骨〕

(宇治) 四三

○鎌作觀世音

(江戸二) 九

○竈

(宇津上) 一三

○竈將

軍勘略之卷〔黃表紙〕 二五

○竈の價

(石川) 五三

○竈の神

(古事記) 六

○竈殿歌〔神樂歌、明星〕 (古代) 二六

○蒲の籠

(田舎上) 二九

○蒲黃

(古事記) 四

○釜賦

(鶺鴒衣) 七六

○鎌腹

(狂言下) 四三

○釜日

(和合人) 三五

○我慢の心

(禪林) 三五

○釜磨

(骨董集) 四

○神

鬼神敬遠

(心學) 四九

天神地祇

(心學) 五九

天神地神

(古事記) 六

山川草木風火の諸

神

(古事記) 二

神託

(雅文) 四七

神罰冥罰

(禪林) 二六

産宮の神使

(八文字) 二二

貧乏神と福の神

(八文字) 二二

商神

(八文字) 四一

貧乏神

(八文字) 四九

神の道

(直毘靈) 三

○懷良親王

(歌 戎) 二七

○鐘の音

(狂言下) 三九

同

(年々) 三七

○金の御嶽

(宇津上) 五〇四

○兼久〔秦〕

(宇 治) 一九

○兼弘〔秦〕

(宇 治) 四八三

○兼冬〔姉妹達大礎〕

(脚 上) 三六〇

同〔繪本太功記〕

(淨 中) 五

○兼雅〔右大將藤原〕

(宇津上) 三

○兼躬〔宮内〕

(宇津下) 七四三

○兼幹〔信濃介〕

(宇津上) 二四

○兼光〔檢非違使別當〕

(古今著) 三九

○兼盛の歌

(古今著) 一六三

○兼行〔秦〕

(宇 治) 四九

○加納將監〔紀伊徳川

(大 岡) 一

家老〕

○狩野探信の竹の繪

(江戸著) 五三

○加能知院〔僧〕

(宇 治) 一六八

○叶屋

(脚 上) 五五

○辛酉は革命

(年々) 二〇六

○彼乃行〔風俗〕

(古代) 一五

○河泊神

(宇 治) 四六

○樺櫻

(宇津上) 三六

○かばれ島〔備前〕

(宇 治) 四三〇

○樺燒

(骨董集) 六七

○何屋亭〔記井童平〕

(和 漢) 四八

○華表人〔雙六行〕

(和 漢) 三四

○花瓶臺記

(鴉 衣) 七四

○加毘羅衛國の位置

(出 定) 五〇

○樂府〔宴曲〕

(古 代) 四三

○歌舞妓

(田舎上) 三九

同

(太閤下) 五〇

○歌舞伎芝居〔堺町〕

(江戸一) 二三

同〔木挽町〕

(江戸一) 二〇〇

○禍福

(花 月) 一八

○灌佛の童

(宇津下) 一六

○兜塚

(江戸一) 一四

○冑人形

(骨董集) 一四

○甲宮

(江戸四) 二五

○かふらぎのわたり〔越

前甲樂城浦〕

(宇 治) 八七

○かぶるにもはく踊〔よ

し原小歌〕

(近 代) 三

○かぶるの宿

(淨 上) 五

○禿の菖蒲打

(用捨箱) 七二

○嘉兵衛〔山田〕

(太閤下) 四三

同〔高田屋〕の手紙

(書 翰) 二七

同〔親も嘉兵衛子も嘉

兵衛〕

(黄表紙) 一八〇

○壁代

(狹 衣) 二四

同

(宇津上) 三八四

○金澤文庫舊址 <small>かなざわのぞか</small>	(江戸一) 六四
○金 鈕 岡 <small>かなたのむ</small>	(古事記) 三三
○銅 鹽 の 晴	(心 學) 一三
○假名遣	(年 々) 三六
○金津地蔵 <small>かなづる</small>	(狂言下) 四三
○鐵 蔓	(田舎下) 一七
○假名用眞名韻序	
〔廉安道〕	(和 漢) 六三
○金輪墳	(曾呂利) 五三
○賀名生の鼻居	(淨 中) 四一
○金麻呂 <small>かなまろ</small>	(雅 文) 四四
○金碗 <small>かなわ</small>	(宇津下) 五三
○要島辨財天社	(江戸一) 四三
○金谷 <small>かなやま</small>	(日 記) 二一
○金山毘古神 <small>かなやまびめのみ</small>	(靈 能) 三六
○金山毘賣神	(靈 能) 三六
○金山まぶ踊	(近代) 四三

○假名家文字之進	(娘節用) 五
○蟹	
團友の夢	(俳句集) 七三
濱の小蟹	(日 記) 二
飛騨匠の蟹	(石 川) 一五
蛇を切り恩を報ず	(古今著) 六三
○蟹江一益信雄と戦ふ	(太閤中) 六一
○蟹川踊	(近 代) 四九
○蟹山伏	(狂言上) 四六
○金(近江かいづの遊 女)	(古今著) 三四
○金有屋箱右衛門	(女 房) 五八
○金賣吉次 <small>かねうり</small>	(御 伽) 四五
○鐵漿親 <small>かねがや</small>	(田舎下) 五〇
○金が金儲ける世の中	(八文字) 四三
○兼方(秦)の和歌	(石 川) 三一
同	(宇 治) 四二

○鐘ヶ澤	(江戸四) 三七
○鐘ヶ淵	(江戸四) 三〇
○金が御崎	(日 記) 一五
○兼國(秦)	(古今著) 四七
○兼實(月の輪の禪定)	(淨 上) 一八
同(左大辨小野)	(淨 中) 三九
○兼澄(笠原太郎)	(淨 中) 一
同(兵衛太夫源)	(宇津上) 一〇
○兼忠	(淨 下) 二三
○金太郎	(女 房) 五八
○兼連(葛城源藏)	(淨 中) 二四
○兼任(秦)	
たゞ一人の従者	(古今著) 四三
連歌	(宇 治) 四四
○兼時(左將曹尾張)	(古今著) 三九
同(侍従)	(宇津上) 二七
○兼俊(前筑前守)	(古今著) 三三

法華經の陣幕を賜

はる (太閣下) 二五

仁智を以て朝鮮の

庶民を伏す (太閣下) 一五

小西行長と先陣を

争ふ (太閣下) 一五

韓克誠と戦ふ

(太閣下) 一五

元耳哈を討つ

(太閣下) 一六

鬼將軍

(太閣下) 二〇

虎を打殺す

(太閣下) 二二

大地震に登城す

(太閣下) 二四

梁山の民を安んず

(太閣下) 四〇

蔚山城の戦

(太閣下) 四四

知計を以て楊鎬を

欺く (太閣下) 四八

吉川廣家に馬印を

與ふ (太閣下) 四八

慈愛心 (窓の) 一九

出征諸將へ籠城覺

悟の狀 (書翰) 一六

同蝶花形名歌島臺 (淨下) 二二

加藤七右衛門 (脚上) 五四

賀悼の勸進 (閑田) 八九

加藤光康衆將を驚か

す (太閣下) 二五

加藤嘉明

素性 (太閣上) 五三

諸士を驚す (太閣上) 五四

かどた〔お埒の娘〕 (淨上) 五

門附の趣向 (七偏人) 五三

門附の滑稽 (七偏人) 五七

兼かより (宇津上) 八四

香取 (日記) 三三

香取大神宮 (江戸四) 二六

門間治部左衛門 (窓の) 二五七

金石〔巨勢〕 (雅文) 四七九

鐵臼かねうす (宇津上) 二五

金江半兵衛 (脚上) 四七

金岡 (狂言上) 三八九

金ヶ崎の落城 (太閣上) 三五

かながしらい介 (黄表紙) 一〇

金川 (江戸二) 五四

神奈川驛 (江戸一) 五三

金崩 (宇治) 四七

金扱かりき (心學) 四二

假字曆 (宇治) 一五五

金澤 (日記) 一二三

同 (江戸一) 五九

金澤の太田神社 (日記) 二二九

金澤〔加州〕の大火 (金澤) 三六

金澤文庫 (日記) 二七

かつみ

同

○勝彌〔舞子〕

○勝山

○勝頼〔武田〕

○桂

○楓

○楓

○桂市兵衛

○桂川

同

○桂樹

○葛城〔催馬樂、呂〕

○金山毘古神

○金山毘賣神

○鍛人

○兼輔

〔古今著〕 五九

〔宇治〕 四九

〔脚上〕 三四

〔日記〕 九五

〔淨上〕 二六

〔宇治上〕 三〇

〔古事記〕 七

〔古事記〕 七

〔淨中〕 一七

〔宇治〕 三〇

〔宇津上〕 三六

〔田舎上〕 五二

〔古代〕 二四

〔古事記〕 一五

〔古事記〕 一五

〔古事記〕 七

〔百人〕 三三

○兼政〔葛城權頭〕

○かつらぎつぼねり

〔あづま淨留利〕

○葛城山

○髪葛子節供

○桂殿

○桂の木

○臺の具

○桂の里

○かつらの失策

○かつらの杖

○桂女の假想文

○桂山

○桂山の賤の妻

○家庭

大黒柱の喩

現銀大安賣腹立所〔心學〕 二六

〔淨中〕 二二

〔近代〕 三〇

〔日記〕 四三

〔骨董集〕 二七

〔宇治上〕 三九

〔宇津上〕 四

〔宇津下〕 四七

〔宇治〕 三二

〔和合人〕 四三

〔淨上〕 八

〔曾呂利〕 六四

〔日記〕 二七

〔禪林〕 五八

善事帳

建具の喩

義綱公と高尾との

初世帶

○家庭教育〔教育を見よ〕

○稼堂〔成島〕の手紙

○加藤宇萬伎真淵の歌

の評

○加藤清正

素性

長濱領巡見

曼陀羅の旗を賜は

る

四王天但馬守を討

つ

賤ヶ岳の高名

肥後半國を賜はる〔太閤下〕 一六

〔心學〕 三六

〔心學〕 四五

〔淨下〕 一

〔書翰〕 四九

〔崎人傳〕 二七

〔太閤上〕 二九

〔太閤上〕 三四

〔太閤中〕 三五

〔太閤中〕 三四

〔太閤中〕 四三

〔太閤下〕 一六

○火定の法

(心學) 二九四

○花鳥風月

(田舎上) 三七五

○梶原氏宅地

(江戸一) 四二一

○梶原塚(豐島)

(江戸三) 三六七

○梶原が二度の駈

(淨下) 二六六

○梶原が墓(宇津の山)(日記) 六六

○梶原源太景季(ひら

がな盛衰記)

がな盛衰記)

(淨下) 二四三

同(濱出草紙)

(御伽) 二五三

○梶原三郎

(黃表紙) 九七

○梶原平次景高(ひら

がな盛衰記)

がな盛衰記)

(淨下) 二四〇

同(鎌倉諸藝袖日記)(八文字) 四七

○梶原平三景時(ひら

がな盛衰記)

がな盛衰記)

(淨下) 二〇二

同(鎌倉諸藝袖日記)(八文字) 四二

同(唐米草紙)

(御伽) 九三

○勝浦太郎兵衛

(窓の) 二九六

○洛閭羅(阮小七)

(水滸三) 四八

○勝右衛門(吉見)

(淨中) 三九

○かつむ(鑿)

(黃表紙) 二二

○勝岡

(古今著) 三五

○鯉突

(宇津下) 三

○堅魚ふし

(石川) 四六

○かづき

(年々) 三〇三

同

(淨上) 五

○清女

(宇津上) 三六

○羯鼓炮碌

(狂言上) 一九五

○上總國一の宮

(古今著) 一三

○上總國歌

(萬葉下) 二七

同

(萬葉下) 三三

○上總五首(國風)

(近代) 七

○月山

(日記) 三三

○葛師

(日記) 三三

○葛師の眞間の手兒名(萬葉上) 二四三

○勝鹿眞間娘子

(萬葉上) 二二

○葛師八幡宮

(江戸四) 三五

○葛師明神社

(江戸四) 三五

○喝食

(宇津下) 三九

○勝助(矢代)

(太閤中) 二〇二

同(お染の兄)

(淨中) 三三

○甲冑の差別

(閑田) 一九四

○勝手が原

(江戸一) 二四六

○勝手の社

(日記) 四三

○氷虎

(平賀) 一九四

○かづま(三下り)

(近代) 二七六

○勝間源五兵衛

(脚下) 九〇

○和政(少將滋野)

(宇津上) 一三

○勝間田の池

(江戸四) 三五

○勝間龍水

(武野) 三三

○かつみ

(花月) 四六

其謀計

賤ヶ岳の高名

○片桐空臺

○片倉家來由の事

○片倉小十郎

○かた筭

○片瀬川

○かたそぎの記

○堅田

○堅田の浮御堂

○堅田の浦の船頭彌五郎

○堅田祐庵

○形と影

○形と質

○かたちの教

○かたち風〔第七の琴〕

(大久保) 三三

(太閤中) 五〇

(窓の) 六二

(伊達) 六二

(窓の) 六二

(淨上) 三三

(日記) 元

(崎人傳) 三二

(田舎下) 五〇

(淨下) 四

(一休) 四七

(崎人傳) 三〇

(禪林) 六二

(禪林) 六九

(花月) 五六

の名

○かたつぶり

○かたつぶりの角先の

國々

○刀の良否

○かたなり〔人名〕

○交野

同

○荷田東廬〔春滿〕

國學の大家

戀歌を詠まず

○荷田在麿の奇行

○かだの栗島〔はやり歌〕

○かだの浦

○かたの助

○交野少將

(宇津上) 一九

(宇津下) 一六

(一休) 四三

(雅文) 三六

(石川) 三〇

(宇津下) 六七

(曾呂利) 六九

(古道) 三〇

(崎人傳) 二六

(崎人傳) 二六

(近代) 四四

(淨上) 四九

(宇治) 七五

(百人) 二八〇

○交野八郎〔強盜〕

○かたばちかばりぶし

○〔よし〕原小歌

○帷子

○帷子川

○帷子里

○片眼眇ひたる蛇〔女の執念〕

○華陀流の療治

○鍛冶

○加持

○無梶川

○褐の衣

○棍鞠の式

○かちん〔餅〕

○花鳥

同

(百人) 七五

(近代) 二七

(淨中) 六三

(江戸一) 五七

(江戸一) 五九

(閑田) 九六

(心學) 一四〇

(宇津上) 二五

(宇津下) 三九

(風土記) 三五

(宇津上) 三三

(遊京) 四〇

(閑田) 一九

(御伽) 四九

(田舎上) 三八

○かすみのか
香澄郷

(風土記) 三八

○粕谷の藤治

(浄下) 二五七

○風(和漢朗詠集、雜)

(古代) 二三

同(新撰朗詠集、雜)

(古代) 三五〇

同(宴曲)

(古代) 四四四

○かせき(鹿)

(字治) 一六

○鹿杖かせづえ

(字治) 三三

○かせの忌いみひ

(字津上) 四三

○風の落葉

(花月) 五八〇

○風之神

(靈能) 三三〇

○風速浦

(萬葉下) 二七一

○風引僧

(醒睡) 四七

○風吹柳

(太閣下) 五三三

○かせんがひ(長歌)

(近代) 五三

○歌仙の額

(田舎下) 二四二

○官藏(大伏)

(平賀) 五四

○火葬の始め

(出定) 六八三

○かぞへ歌(長歌)

(近代) 二三四

○かた糸の序(平春海)

(琴後) 六三三

○堅い鹽

(字津下) 一九七

○片意地の例話

(心學) 二六

○方結郷かたえのかと

(風土記) 四三

○片山芳香(琴後集序)

(琴後) 四四

○片岡山の非人

(雅文) 三三

同

○片折かたおろし(神樂歌)

(古學) 九六

○片貝

(田舎上) 二九

○片攪調太夫かき

(田舎上) 二五四

○片假字の子もじ十二(字治)

(字治) 二六

○鹿集城かたかりの合戦

(太閣上) 六八

○形氣

大名形氣

(浄上) 元

武士氣質

(浄上) 三

出家形氣

(浄中) 一五四

親仁形氣

(八文字) 五

子息形氣

(八文字) 二〇九

娘形氣

(八文字) 二〇九

商人形氣

(八文字) 三九

○敵打かたきうち

下女主の恨を報ゆ(窓の) 二〇八

商家の二子 (窓の) 一七四

二兄弟 (窓の) 三三七

宮城野信夫 (浄中) 四七

同 (脚上) 五六

に初岩藤を刺す (浄下) 六〇〇

靜馬の仇討 (脚上) 三二

敵討と五行 (禪林) 三四

○仇討の茶番 (八笑人) 二〇

○敵討つゝれの錦 (心學) 三八

○肩衣袴 (閑田) 一七

○片桐且元

○鹿島神社〔芝浦〕

(江戸一) 三五

同〔品川〕

(江戸一) 三三

同〔常陸〕

(御伽) 一

○鹿島の要石

(日記) 五二

○鹿島の崎

(萬葉上) 五〇〇

○香島の里

(淨下) 一八四

○香島津

(萬葉下) 四一

○香島宮

(風土記) 四一

○加島宗叔

(畸人傳) 元四

○嘉辰令月

(古代) 四六

○冠者太郎〔義經公の
若君〕

(黃表紙) 三五

○迦葉尊者

(出定) 五九

同

(禪林) 五三

○我笑〔俳諧師〕

(脚下) 二六

○精米

(字津上) 三六七

○嘉四郎

(脚下) 三三

○柏木善右衛門

(脚上) 三四

○柏崎

(日記) 六六

○柏之助

(田舎下) 三三

○柏の若葉の蒔繪の印

(田舎上) 一九六

籠

○柏原

(日記) 五七

同

(日記) 五七

○柏原里

(風土記) 五二

○柏原捨女の俳諧

(畸人傳) 五五九

○員家〔比企〕

(淨中) 一

○主計〔介松〕

(淨中) 五七九

○春日行幸

(狹衣) 五三

○春日大明神

(古今著) 一四

○春日明神

(淨中) 二四三

○春日明神社

(江戸一) 二六二

○春日野

(字津上) 一〇九

同

(字津上) 四三

同

(萬葉上) 一三四

同〔長歌〕

(近代) 二〇五

○春日局

(大久保) 七七

○春日祭

(祝詞) 三〇九

○春日の社

(日記) 四三三

同

(宇治) 四三

○春日屋甚九郎

(脚上) 二二

○春日山

(宇治) 四七五

○春日詣

(字津下) 七三

○員親〔侍の別當藤原〕

(字津上) 二二〇

○員業〔府生山部〕

(字津上) 三三五

○賀周里

(風土記) 五三

○霞〔和漢朗詠集、春〕

(古代) 一八三

同〔新撰朗詠集、春〕

(古代) 三〇三

○霞ケ關

(日記) 二二〇

○霞ケ關舊蹟

(江戸二) 二五

○霞山稻荷明神祠

(江戸二) 四九

○籃渡

(閑田) 五七

○かこ弓

(古事記) 六九

○笠(丹以之)

(和漢) 二九四

○火災

元祿十一年

(窓の) 八七

元祿十六年

(窓の) 八九

禁裏炎上

(窓の) 一五五

明暦の大火

(窓の) 三八

惕齋と見舞の人

(先哲) 七九

明暦の大火と瑞軒(琦行傳) 六七

火災避難の家

(石川) 一五六

白石の火事見舞狀(書翰) 一四四

○香西五郎左衛門

(窓の) 二六

○風木津別之忍男神

(古事記) 二三

○笠置の城

(淨中) 五七三

○鶴

(平賀) 三二一

同

(古今著) 三五六

○笠沙の御前

(古事記) 八五

○插頭の花

(宇治) 四九

○笠島

(江戸一) 三九三

○笠塚碑(李由)

(風俗) 一八一

○笠寺(長歌)

(近代) 二四

○笠寺觀音

(醒睡) 二三

○笠の下

(狂言上) 一六

○笠の下に布を垂る

(骨董集) 六

○かさの次郎七

(淨上) 三九

○笠の次手序

(鶴衣) 六八

○笠(賦(昨囊))

(和漢) 三五

○果

(脚下) 六五

○藪の裳

(宇津上) 八四

○冠者の君

(田舎下) 三三

○笠原長順子息の教育(窓の) 二七〇

○風祭(三河國に)

(宇治) 一五

○汗袴

(宇津上) 八四

○風宮の神

(取戎) 二四

○花山院

一千日の行

(淨上) 九五

詠歌

(古今著) 一五

御出家

(古今著) 四九

○花山僧正

(百人) 二三

○華山の手紙

(書翰) 五〇

○笠森のねせん

(平賀) 五六

○菓子

結果(カクノアツ)(石川) 三二

山崎闇齋幼時の話(先哲) 五

○香椎の浦

(日記) 一六

○加州家山獵御遊の事(金澤) 一七三

○かし尾

(日記) 一四〇

○河鹿(大堰川)

(日記) 五九

○鹿鹽神社

(日記) 四六

○貸本

(淨中) 五〇三

○神樂歌 かぐらうた

(古代) 八九

○神樂岡

(曾呂利) 六七

○神樂坂

(江戸二) 三六

○霍亂の看板はくらん (心學) 三

○鶴林

(禪林) 一五

○覺林寺〔最正山〕

(江戸二) 六

○瘦鱗解解〔許六〕

(風俗) 九七

○隠れ遊

(田舎上) 五

○隠家の茂睡

(騎人傳) 三七

○かくれあそび

(骨董集) 二二

○隠れたるより見はる

るはなし

(心學) 二二

同

(心學) 四七

○かくれ沼

(宇津上) 四九

○影と形

(禪林) 六

○花景〔麻布先生門人〕 (平賀) 七

○欠落 かけおち

(八文字) 三九

○景勝〔越後の城主長尾

三郎〕

(淨上) 二九

○掛川

(日記) 六五

同

(日記) 五八

○懸川

(日記) 三九

○掛川菟筵

(平賀) 三七

○景清〔壇浦兜軍記〕

(淨下) 四七

同〔めくら仙人〕

(黄表紙) 三

○景清の女誠

(八文字) 三七

○掛硯

(平賀) 五三

○かけそ

(宇津下) 六六

○花月の遊

(花月) 五九

○景連〔江田判官〕

(平賀) 四七

○景成〔執權鎌倉權頭〕

(淨上) 一七

○棧集小序

(鶴衣) 七〇

○戲影法師〔水陳人〕

(和漢) 三八

○かげま

(黄表紙) 二六

○我見

(心學) 三三

○景基〔笛の祕曲〕

(古今著) 四七

○掛物

結婚の掛物

(八文字) 八

道言の掛物

(八文字) 一六

○蔭山里

(風土記) 五八

○蜻蛉日記

(百人) 二四

○蜻蛉の小野

(日記) 四三

○翔の的弓

(古今著) 三七

○禾廣〔蛇〕

(近代) 三

○霞谷上人

(騎人傳) 五八

○鹿兒しま〔三上り〕

(近代) 三七

同

(近代) 六六

○がごぜ

(石川) 三

○駕籠舁の喩

(心學) 四六

○賀古郡

(風土記) 五九

○駕籠の間違ひ

(心學) 八九

○覺讚(助僧正)

(古今著) 二六

○悼鶴此文

(鶴衣) 七五

○覺芝和尚

(崎人傳) 二九五

○隱題

(宇治) 三三三

○隱し狸

(狂言下) 四八

○僧學信の逸傳

(崎人傳) 四三

○隱目附

(大久保) 六〇

○覺者

(禪林) 三三

○學者の行狀

(心學) 五二

○學者の必得べき古今

(年々) 三〇

の變遷

○郭越父子の戦死

(太閣下) 四九

○覺成坊

(曾呂利) 六三

○かくすい

(狂言上) 一六

○樂所

(宇津上) 六四

○覺朝僧都

(宇治) 一八

○迦具土神

(古事記) 一五

同

○樂の宴

(靈能) 二四

○角之丞の酒の歌

(古今著) 一九

○角兵衛の高名

(曾呂利) 七二

○郭務棕日本に使ひす(取戎) 七

○革命の運

(年々) 二六

○學問(修養參照)

學問の眞義

(心學) 一六

一字千金

(心學) 四

其心むけ

(心學) 一七

文ば末

(心學) 四三

學問の利害

(心學) 四〇

其至極

(心學) 四六

商人の學問

(心學) 四三

丸木桴の喩

(心學) 五九

徳の涵養

(心學) 五三

學と祿

(禪林) 一四〇

記誦の學

(禪林) 二九

道學ぶ人

(花月) 五三

朱學

(花月) 五〇

書見は病のもと

(花月) 五六

産經など

(宇津下) 一〇

學ぶ道と教ふる禮(閑田) 一八三

氣淵より宣長へ

(書翰) 三二

文學と武術

(田舎下) 一六

○かく矢

(古事記) 七一

○奕耶姫[竹取翁參照](宇津上) 六九

同

(日記) 六

同

(平賀) 六四

○香具山

(萬葉上) 九四

同

(萬葉上) 二

○香山里

(風土記) 五〇

○神樂

(宇津上) 三

同

(狹衣) 二一

○鏡の宮	(田舎下) 三六
○銅渡	(風土記) 六一
○鏡袋	(田舎上) 三八
○鏡山	(日記) 五八
同	(萬葉上) 二七
同	(石川) 八三
○加賀見山舊錦繪	(淨下) 五五
○瓦罐寺を魯智深焼く(水滸一)	一九二
○加賀屋長兵衛の實義(江戸著)	五二
○香山戸臣神 <small>かやまとおみのかみ</small>	(古事記) 六六
○香川比賣 <small>かじよひめ</small>	(古事記) 六六
○篝火(高綱の妻)	(淨中) 一六
○篝火の巻	(田舎下) 五八
○香川景樹の手紙	(書翰) 三五
○柿	
陸勤の橘	(窓の) 二四
酒後の柿	(禪林) 三七

○餓鬼	(心學) 三三
同	(淨上) 三
○柿賣	(狂言上) 一六
○臥牛(赤田)の詩	(詩集) 四
○蝸牛齋頌	(鶉衣) 六七
○書置(遺書を見よ)	
○杜若(諺) <small>かきつばた</small>	(醒睡) 三〇五
○杜若の名所	(江戸四) 四三
○垣成	(石川) 四九
○かきね(長歌)	(近代) 五七三
○柿の木に南無阿彌陀	
佛の文字	(宇治) 四六
○柿の木に佛現はる	(宇治) 八
○瓦器傳(河何龍)	(和漢) 五六
○柿本人麿	(百人) 四四
○柿本人麿の舊跡	(閑田) 三
○柿山伏	(狂言上) 二九

○がきまひ(さわぎ)	(近代) 六三
○搔研(説陳素六)	(和漢) 四六
○膈の病	(淨上) 三九
同	(田舎上) 一六五
○下愚	(心學) 五三
○額 <small>か</small>	(黃表紙) 三二
○覺阿	(百人) 七四
○樂會	(遊京) 四八
○角鏡	(田舎上) 三八
○郭巨黄金の釜	(御伽) 二〇四
○覺慶(南都を落つ)	(太閤上) 一九九
○學校	(黃表紙) 一三四
○郭國安望津城の兵糧	
庫を焼く	(太閤下) 四九二
○かくこの前(ひろむ	
れの御臺所)	(黃表紙) 二九
○學左衛門(栗山)	(琦行傳) 七四

佛尼

(和漢) 三五

○花和尚(魯智深を見よ)

○顔見世

(平賀) 二五八

○燒蚊辭

(風俗) 一七

同

(鶴衣) 七四

○かゝる(腰元)

(脚上) 三六

同(金太郎の妻)

(女房) 六三

○蕪大將

(石川) 四三

○加々かゝ

(日記) 一五

○加賀

(古今著) 一七

ふし柴の歌

(宇治) 四六

同

(宇治) 五三

同

(百人) 四〇

○加賀(國風)

(近代) 八七

○耀歌會かぐひ

(萬葉上) 四三

○火界呪

(宇治) 三九

○加賀騷動

(金澤) 一七

○河何龍(瓦器傳)

(和漢) 三六

○加賀圓通

(崎人傳) 三九

○加賀家代替

(金澤) 二七〇

○案山子(山田之曾富

(古事記) 六

騰)

(鶴衣) 六六

○案山子、辭かゝせを

(靈能) 三七

○香々背男

(太閤上) 四四

○加賀國の一揆

(風土記) 四六

○加賀郷

(大久保) 一七

○加賀中納言大久保に

出會迷惑の事

○加賀千代

(崎人傳) 五〇

○加賀ふし(端歌)

(近代) 二四

同(端歌)

(近代) 六八

同(二上り)

(近代) 六七

同

(用捨箱) 七三

○鏡

三種の神器

(古事記) 八三

淨玻璃の鏡

(古今著) 五七

佛法の不生の譬

(禪林) 三七

唐の太宗の三鑑

(禪林) 五九〇

土產の鏡

(狂言上) 三六

鏡を知らぬ國の話(心學)

(江戸四) 三二

○鏡石

(和漢) 二九四

○鏡岩詠(四季林有琴)

(崎人傳) 四九七

○加々美櫻塙

(江月三) 五三

○鏡ヶ池

(宇津下) 六九

○鏡がた

(風土記) 五四

○鏡坂

(醒醉) 三七

○鏡島(蘭叔和尚)

(骨董集) 三〇

○鏡磨

(日記) 五

○鏡の宿かじみしよね

(古事記) 六三

○羅摩船

- 快禪律師 (八文字) 三七
 ○海禪寺〔大雄山〕 (江戸三) 四三
 ○海藻〔醫の禁好〕 (禪林) 一七四
 ○海藏院〔悪僧〕 (浄上) 四二
 ○海賊大井の三位の姫 (雅文) 六三
 を奪ふ (雅文) 六三
 ○海賊と遊女 (雅文) 三六
 ○海賊の橋 (石・川) 三六
 ○海賊の發心 (宇治) 二九四
 ○海賊の装 (宇治) 四二
 ○貝田勘解由 (浄下) 二
 ○戒壇 (宇治) 一四
 ○怪談の工夫 (和合人) 三三
 ○怪談地口 (和合人) 三六
 ○開帳 (黄表紙) 一六
 ○解珍〔兩頭蛇〕 (水滸二) 五九
 ○貝塚 (江戸二) 一八

- 貝つ物 (宇津上) 五五
 ○海棠 (浄上) 一〇三
 ○介堂〔忠震の短文〕 (書翰) 四四
 ○海道記〔源光行〕 (日記) 一
 ○海道くだり〔一節切〕 (近代) 一八
 證歌 (近代) 一八
 ○海道上〔宴曲〕 (古代) 四三
 ○甲斐殿の雜色 (宇治) 七
 ○飼鳥の振舞 (閑田) 一三〇
 ○掻練かいねり (宇津上) 三九
 ○甲斐少將出世の初 (窓の) 三三
 ○海馬 (浄下) 三六
 ○垣間見かいはみ (宇津下) 二六
 ○貝原益軒 (先哲) 八三
 同 (崎人傳) 一六
 ○貝原好古 (崎人傳) 一六
 ○海賦 (宇津上) 六五

- 懷風藻 (詩集) 四九
 ○貝ふき鐘 (日記) 四八
 ○海福寺〔永壽山〕 (江戸四) 三
 ○解寶〔雙虎嶋〕 (水滸二) 五九
 ○海北友竹 (窓の) 六三
 ○かいもち (宇治) 三
 ○垣下かいもと (宇津上) 六五
 ○快遊亭 (和合人) 六二
 ○海藏寺〔青山〕 (江戸二) 一五
 ○花榮〔小李廣〕 (水滸二) 三九
 ○還矢恐るべし (古事記) 七一
 ○假縁止 (禪林) 三五
 ○楓〔茶の間の女中〕 (浄上) 一五
 ○かへでの木 (古今著) 五九
 かへりあるじ
 ○還響かへるがつけん (宇津上) 八三
 ○蝦合戰 (古今著) 六三
 ○奉到憶上人歌の序〔阿

に岩の顔

(脚下) 三八

累の顔

(脚下) 六三

手長足長

(平賀) 三三

○海雲比丘

(宇治) 三三

○海惠(嘉祥寺僧都)

(宇治) 四三

○貝覆ひ

(田舎上) 四七

同

(古今著) 三七

○繪畫

服部南郭の畫風

(先哲) 二八

閑中の趣

(古今著) 三〇

成光の鶏の入神

(古今著) 三六

脹れ腐りし男の繪(石川) 二六

巨勢金麻呂繪の怪(雅文) 四二

同(雅文) 四七

畫人范古

(閑田) 一〇四

土佐繪と唐繪

(年々) 二〇四

狹衣の繪

(狹衣) 二三

すばり流

(八文字) 五五

宮筠園

(畸人傳) 一八三

池大雅

(畸人傳) 三九

三熊花顔の櫻

(畸人傳) 四八

淺妻船

(江戸著) 五七

○寛快近江法眼

(古今著) 四三

○噲々が家

(日記) 五六

○開化天皇

(古事記) 一三

○加比加彌ひがね(風俗)

(古代) 一五

○懷舊(和漢朗詠集、雜)

(古代) 二二

同(新撰朗詠集、雜)

(古代) 三五

同(宴曲)

(古代) 四三

○懷舊辭

(鶴衣) 七〇四

○戒行寺(妙典山)

(江戸二) 二六五

○蓋郡智多星に打たる(水滸四) 一三

○海月式部

(淨上) 三四

○開眼

(宇治) 一四

○甲斐源氏

(淨上) 三四

○改元の舊規

(大久保) 四七

○蠶

(古事記) 四〇

○悔悟

親の慈悲

(心學) 六

其動機の一例

(心學) 四七

卯右衛門の後悔

(心學) 一八

伊八の後悔

(心學) 二四

金を盜める士

(窓の) 五

少年の改行

(窓の) 五

○甲香

○開皇の考證

(馭戎) 六三

○開口之詞(延年唱歌)

(古代) 五〇五

○廻國雜記(道興准后)

(日記) 七

○骸骨仁藏

(脚下) 二

○寫海洲子(文)

(鶴衣) 八七

○快川和尚

(太閤中) 四

○海晏寺〔補陀落山〕の

緣起

(江戸四) 四七

○海晏寺〔補陀落山〕の

紅葉

(江戸四) 四七

○奇異の説

(燕石) 五〇

○怪異

分身隱形の法

(雅文) 五

紀任重陰司に滯嶽

を斷く

(雅文) 七

遊女の靈

(雅文) 二七

亡夫の靈

(雅文) 一五

雲魂雲情

(雅文) 一八

狐の怪

(雅文) 二六

古洞の怪獸

(雅文) 三六

洞穴の眞龍

(雅文) 三九

楠正成の古刀

(雅文) 三七

仙女と契る

(雅文) 四二

繪の妙術

(雅文) 四三

飛驒匠の細工

(石川) 一五

蓬萊山

(石川) 一五

夢

(石川) 一七

姫宮誕生の日

(石川) 三三

老夫婦若がへる

(石川) 三〇

老狐

(大久保) 三三

狐

(太閤上) 三八

森傳助

(太閤上) 五〇

妙國寺の蘇鐵

(太閤中) 一〇

白狐

(太閤中) 三四

入江小七郎と狐妖(太閤中) 三四

神通川の合戦

(太閤中) 六二

ぶらり火

(太閤中) 六四

千利休が幽霊

(太閤下) 一〇五

千鳥の香爐

(太閤下) 三三

與惣右衛門白砂を

降らす

(畸人傳) 五九

念佛稱名する人の

掌より糸を生ず(畸人傳) 五三

鯰

(近代) 六

木像と災厄の前知(江戸著) 五〇

龍神左吉の太鼓に

感ず(江戸著) 五〇

ろくろつ首

(武野) 四二

善光寺如來

(大久保) 三

白鳩

(大久保) 一〇七

化女の腕

(八文字) 五〇

靈魂の雷又は蛇に

なる實例(靈能) 二六

人凶也

(古今著) 三六

變化のいろ／＼

(古今著) 五九

天變地異の妖術

(田舎下) 六三

白髮畑の恠

(遊京) 四六

○親不知〔北陸〕 (太閤中) 三〇

○親知らず子知らず (日記) 二八

○おやす〔十兵衛の妻〕 (大岡) 三三

同〔伊達競阿國戲場〕 (脚下) 六四

○小山田高家 (窓の) 六三

○小山田關舊址 (江戸二) 四二

○親譲りの財産 (心學) 四四

○おゆき〔金五郎の妻〕 (娘節用) 三

同〔奈久四郎妻〕 (女房) 六九

同〔木津屋〕 (琦行傳) 八〇

○お弓〔四谷怪談〕 (脚下) 二八

同〔傾城阿波鳴門〕 (淨中) 三四

○およく (女房) 三四

○お由〔佚詞花川戸〕 (脚下) 三五

同〔ひらがな盛衰記〕 (淨下) 一五

同〔生寫朝顔話〕 (淨上) 五九

○およつ (淨中) 三〇

○お米 (脚下) 三〇

○お米 (淨下) 五八

○お米 (淨上) 六

○お米 (淨上) 六

○遠羅天笠 (禪林) 六三

○遠羅天笠 (禪林) 六三

○遠羅天笠 (太閤下) 一六

○大良哈 (古道) 四五

○阿蘭陀 (古道) 四七

末平藏の話 (古道) 四七

濱田彌兵衛の話 (古道) 四七

○お蘭の方 (淨上) 五七

○折かけ燈籠 (用捨箱) 六三

○おりく〔おじやれ〕 (脚上) 四九

○お力〔腰元〕 (脚上) 三三

○おりつ (女房) 一七

○折端 (燕石) 三八

○織部盃 (醒睡) 二九

○おりめ風〔夢の名〕 (宇津上) 一九

○お柳〔柳の精〕 (淨上) 八五

○おれがく〔の心〕 (心學) 四九

○お六〔乞食〕の墓 (日記) 六七

○おろし (宇津下) 二四

○おわき振袖のくどき (淨下) 三三

○尾張内侍 (古今著) 五一

○おはり法師 (宇津下) 三四

○尾張六首〔國風〕 (近代) 六一

力 クワ

○蚊〔祥泰和尚〕 (琦行傳) 六八

○甲斐〔風俗〕 (古代) 一九

同〔國風〕 (近代) 五五

同〔布〕 (宇津上) 三三

○海晏寺〔補陀山〕 (江戸一) 三七

○御馬屋關介〔はやり

歌〕

(近代) 四四

○御厩のまや介

(黄表紙) 一九三

○陰陽師

(字津上) 二八

同

(字 治) 二九三

同

(八文字) 五四

同

(田舎下) 九

○陰陽師書

(字津下) 八

○御召人

(字津上) 七

○に村

(脚下) 七七

○御室^{おむろ}(紫金臺寺)

(古今著) 二七〇

○溫和の顔色

(心 學) 四〇

○思金神

天安河原の會

(古事記) 三

使者の議

(古事記) 六

天孫供奉

(古事記) 八三

○思川

(江戸三) 五

○おもひ川〔長歌〕

(近代) 五三

○思草

(狹衣) 一〇五

○おもひ草〔はやり歌〕

(近代) 四六

○思ひの繪姿〔所作〕

(近代) 五三

○思之津雜藝

(古代) 一六五

○思ひ寄りぬ事

(花月) 五二

○面影〔邪法の鏡〕

(脚上) 三七

○倂^{おもぎらひ}の橋

(江戸二) 五七

○面^{おもだるのかみ}嫌

(字津下) 四三

○淤母陀琉神

(古事記) 六

同

○表歌

(百人) 五五

○おもてみやれ〔はやり歌〕

(近代) 四五

○重荷に小附

(年々) 三六

○おもやこそ〔はやり歌〕

(近代) 四三

○おもよ

(脚下) 五三

○親

親仁氣質

(八文字) 三

息子氣質〔參照〕

(八文字) 一〇七

娘氣質〔參照〕

(八文字) 二〇七

親ごころ

(花月) 五

親の賣物

(心學) 六七

親の恩

(書翰) 三五

○御藥園

(江戸三) 六

○御藥園の桃

(江戸四) 三九

○少宅里^{をやけのさと}

(風土記) 三八

○親子

不思議の對面

(石川) 二三

對面

(石川) 三三

子を悼む情

(石川) 六八

軟い親に硬い子

(八文字) 五三

○親孝行の滑稽

(七偏人) 六四

○御臺

(宇津上) 八四

○御綱茶屋

(淨中) 五九

○御精進^{おんとしみ}

(宇津上) 五二

○女

貞女

(石川) 五

女の手

(石川) 五

鬼女

(石川) 六

贈ふとき女

(石川) 三六

醜女の訴

(石川) 三四

人を謀りて自ら損

す

(石川) 五九

醜女の贊

(石川) 四六

女人の成佛

(禪林) 五九

女の一念

(禪林) 一五

女と佛法

(禪林) 六四

椒房の用心

(禪林) 五〇

品定め

(田舎上) 七一

嫁入り後の覺悟

(心學) 九一

夫の心得次第

(心學) 三二

女子の物言ひ

(心學) 三三

女の子は一代の損(八文字)

九七

女子の容貌

(八文字) 九七

娘氣質(參照)

(八文字) 三〇七

女の風俗

(八文字) 二二

女の移り氣

(八文字) 三〇

惡姓女

(八文字) 三六

若後家の習ひ

(八文字) 三九

女に心を許すな

(八文字) 三七

貞女

(八文字) 四七

後家の酒屋

(八文字) 四三

女の鑑

(八文字) 四九

女の性情

(雅文) 二三

今宮の痴呆

(狹衣) 二四

女子の心得

(書翰) 五三

女の一念

(淨中) 四〇

○なんな(なげぶし)

(近代) 三三

○女形の大失策

(七偏人) 五三

○女車

(狹衣) 四

○女殺の切腹

(大久保) 三九

○女尺八出入の湊(狂

言)

(琦行傳) 八六

○女仙人(所作)

(近代) 五五

○女仙人怨靈(所作)

(近代) 五七

○女大變

(宇津下) 七一

○女塚

(江戸一) 三九

○女の編笠塗笠

(骨董集) 八一

○女之助

(淨上) 三七

○女の裝束

(宇津上) 八三

○女の眉そる事

(年々) 三三

○女山賊^{おんなやまたち}

(狂言下) 四六

○陰魔^{おんま}

(禪林) 四六

- れふれ〔神靈矢口渡〕(平賀) 三三
 ○れへそ〔欲心深き女〕(女房) 三三
 ○れへみ〔淫婦〕(女房) 三七
 ○れ辨 (平賀) 四八
 ○れほこといふことば〔骨董集〕 四四
 ○れほづ (淨上) 五〇
 ○れ政〔仲居〕 (脚上) 六九
 ○れ槓〔乳母〕 (脚下) 八〇
 ○れまき〔近江源氏先陣館四斗兵衛の女房〕 (淨中) 一八〇
 同〔傾城阿波鳴門〕(淨中) 三六四
 ○れ松〔三十石燈始〕 (脚上) 八〇
 同〔姉妹達大礎〕 (脚上) 四九
 同〔猿曳門出風〕 (脚上) 六八
 同〔四谷怪談〕 (脚下) 一七
 ○臣足〔息長真人〕の詩〔詩集〕 五六

- れみつ〔新版歌祭文〕(淨上) 元一
 同〔藤崎道十郎の妻〕(大岡) 三六
 同〔猿曳門出風〕 (脚上) 五七
 同〔美豆奴神〕 (古事記) 四四
 ○女郎花〔和漢朗詠集、秋〕 (古代) 二三
 同〔新撰朗詠集、秋〕 (古代) 三三
 ○女郎花色のかざみ (宇津上) 四三
 ○れ峰〔實の伯母〕 (脚上) 五三
 ○れみの〔後にへみ〕 (女房) 三三
 ○れみよ (女房) 三三
 ○音樂
 琴の由來 (雅文) 四〇
 狹衣中將の奏樂 (狹衣) 二〇
 狹衣の琵琶 (狹衣) 一三
 狹衣の彈琴神を動かす (狹衣) 五九

- 各種の樂器 (心學) 二〇
 我が朝の音律 (近代) 一六五
 光氏の青海波 (田舎上) 三四
 琵琶 (田舎下) 三三
 重忠の音樂論 (淨下) 四一
 音樂樂器の縁語 (石川) 四五
 大宮のりうかく風〔宇津下〕 六七
 樂のこと (花月) 五〇
 音律の事 (閑田) 一五〇
 同 (書翰) 一八三
 ○音樂類〔東齋隨筆〕 (宇治) 四一
 ○溫嶠牛渚の故事 (近代) 六七
 ○音曲、說 (鶉衣) 六六
 ○音聲樂 (宇津上) 二〇
 ○音吹〔對花感老〕 (和漢) 二九
 ○御前栽烟 (江戸四) 三六
 ○溫泉寺法華經 (遊京) 四三

○小野宮實賴

同車出仕

大鑾

様々の御祈

○小野宮大臣實資

○小野宮の大臣

○おのぶ〔後に信夫〕

○小野宮村

○小野村彦惣踊

○悼伯母辭

○伯母が酒

○伯母北の方

○御旗本中心得書

○小幡山城守

○おはつ徳兵衛祝言の

壽

○お初 of 尾上に仕ふる

動機

○お初岩藤を刺す

○お花〔四谷怪談〕

同〔薄田の娘、孝女〕

○尾花

○尾花色の強飯

○尾花澤

○お花の幽霊

○お濱

○小濱〔若狭國〕

同

○お半

○お早〔傳吉の伯母〕

○大原女

○大原女の風俗

○帶

同

〔淨下〕 五〇四

〔淨下〕 六〇一

〔脚下〕 二七三

〔女房〕 六〇四

〔日記〕 七

〔宇津上〕 五〇六

〔日記〕 二二三

〔女房〕 二六八

〔脚上〕 二六六

〔日記〕 九

〔遊京〕 四六六

〔脚下〕 二四四

〔大岡〕 二三四

〔年々〕 二六六

〔曾呂利〕 六三三

〔古事記〕 二四

〔宇津上〕 一八〇

○おひき

○尾引の城名稱の由來〔大久保〕

○お髭の塵

○お久吉兵衛女房

○男人〔紀朝臣〕の詩

○帶取の池

○おひな

○帶の祝

○おひよの〔悪下女〕

○お福〔正月の祝〕

同〔興話情浮名横櫛〕

下女

○お河豚

○お筆〔ひらがな盛衰〕

記

同〔雪次郎の妻〕

○おふね〔三十石船始〕

〔女房〕 六九三

〔淨上〕 三〇

〔大岡〕 四四三

〔詩集〕 五三三

〔曾呂利〕 五九六

〔女房〕 二六五

〔淨下〕 三三〇

〔女房〕 三三五

〔醒睡〕 四四

〔脚下〕 四四四

〔平賀〕 一九三

〔淨下〕 三三

〔女房〕 二六

〔脚上〕 七

鬼の寶物

(心學) 三八

鬼の道歌

(心學) 三八〇

鬼を成佛さする文

言

(心學) 三八一

○鬼が出る〔はやり歌〕

(近代) 四五

○鬼瓦

(平賀) 二六一

同

(狂言下) 三六六

○鬼切丸〔名劔〕

(淨上) 一〇七

○鬼藏人〔黒塚の〕

(淨上) 六

○鬼源藏

(大岡) 六九

○鬼清水

(狂言下) 四三

○鬼將軍

(太閣下) 三〇

○鬼貫禁足旅記

(俳句集) 八三

○鬼貫句集

(俳句集) 五一

○鬼醜草

(曾呂利) 五八三

○鬼傳

(鶴衣) 五七四

○鬼の養子

(狂言上) 三七九

○鬼味噌

(醒睡) 一五

○に縫〔近頃河原達引〕

(淨下) 三九四

同〔猿曳門出謡〕

(脚上) 六七〇

○にぬか

(女房) 六八三

○小野

(淨上) 一五四

同

(宇津上) 二〇六

同

(宇津上) 五五

○斧をの

(宇津上) 六

○尾上〔中老〕

(淨下) 五四

○尾上の瀧

(宇津上) 二四

○斧右衛門

(淨上) 三六

○湊能基おのこうじま呂島

(古事記) 八

○磯おのころし馭ま廬島

(靈能) 三八

○小野氏薩摩邸の試合〔窓の〕

(一七)

○小野神社舊址

(江戸二) 三六

○小野泉藏の妻〔頼山陽の妻より〕

(書翰) 三六

○小野寺秀和

(崎人傳) 二〇八

○小野といふ地名

(閑田) 三〇

○小野妹子入唐の由來〔馭戎〕

三

○小野皇太后宮歡子〔宇治〕

五三〇

○小野小町

其逸話

(百人) 九二

うきくさ

(古今著) 一五九

短慮と酒

(醒睡) 三〇九

されかうべに薄の

なびく音

(宇治) 五八

深草少將

(曾呂利) 五三

○小野の炭

(宇津下) 二九

○小野篁

隠岐に流さる

(百人) 二三

其の傳説

(閑田) 七三

○小野の牧

(江戸二) 三七

○小野宮

(古今著) 三七

○弟橋比賣命の入水 (古事記) 一七二

○ねとづれ(半太夫節) (近代) 六六

○大殿町 (宇津上) 九六

○音無河 (江戸三) 三三

同 (日記) 四三

○ねとなし天神の梅花(醒睡) 一八〇

○音成(碓の) (石川) 四三

同(彦山權現督助劔) (淨上) 四〇

○乙子 (宇津上) 二七三

○乙麻呂(石上朝臣)の

詩 (詩集) 五八

○に富(十兵衛の妹娘) (大岡) 三六

同(興話情浮名横櫛) (脚下) 三五

○乙女の巻 (田舎下) 四三

○乙筋 (宇津上) 六三

○淤藤山津見神 (古事記) 一八

○媒鳥 (宇津上) 一元

○をどり子(どじやう) (平賀) 四

○ねとは (脚下) 八四

○音羽河 (宇津上) 三六

○音羽山 (日記) 四二

同 (日記) 四三

○ね中 (淨中) 六三

○ねなき (脚上) 四九

○ね夏清十郎 (淨上) 元二

○ね浪(五大力戀絨) (脚下) 一六〇

同(大島長門の妻) (平賀) 四八

○放屁 (七偏人) 六六

○鬼

地獄の獄卒、鬼の

いろく (平賀) 三二

女の姿、騒動の聲(古今著) 五九

宮中に鬼の趾 (古今著) 五〇

三位一人五位一人(古今著) 五〇

衣冠著たる一丈あ

まり (古今著) 五二

鬼の足跡馬の足跡(古今著) 五三

伊豆國に船一艘つ

く (古今著) 五四

霧の瘤を取る (宇治) 四

百鬼夜行 (宇治) 元

日藏上人に逢ふ (宇治) 三三

一條棧數屋 (宇治) 五〇

朱雀門の鬼の笛 (宇治) 四九

下の句は鬼の詞 (宇治) 五二

鬼をねにと訓じた

る事 (禪林) 二三

博奕の上手と炎王

宮 (醒睡) 一八五

試食の役 (曾呂利) 五二

鬼さまぐ (心學) 三三

○れちる

(脚下) 五九

○越方(風俗)
をちかた

(古代) 二八

○遠ヶ濤
をちみそ

(江戸四) 六四

○阿千代(船饅頭)

(平賀) 四一

同(五大力戀絨)

(脚下) 八四

同(から四郎の娘)

(女房) 六六

○れ錠口の取次の女中(黄表紙) 六三

○れつが

(平賀) 四九

○れつぎ

(浄中) 六三

○小筑波(風俗)

(古代) 二七

○れ辻

(浄中) 六六

○れつぐら馬(はやり)

(近代) 五三

歌

同(二上り)

(近代) 六四

○れつぐら馬のかはり

(近代) 六七

(二上り)

(浄上) 三九

○臘胸臍

(浄上) 三九

○尾津の前の一つ松
おつさき

(古事記) 一七七

○に常(庄三郎妻)

(大岡) 五七

○に露

(脚上) 四三

○れつる(遊女眞名鶴)(娘節用) 七

同(傾城阿波の鳴門)(浄中) 四三

同(興話情浮名横櫛)(脚下) 四六

○れてい(から四郎の妻)

(女房) 三六

○れ貞の方(吉徳公の側室)

(金澤) 二六

○れてこ

(女房) 七九

○れ傳

(浄上) 六六

○れ寺のなつとう太た

(黄表紙) 二〇

○弟宇加斯
おとうかし

(古事記) 二〇

○音を知る事

(禪林) 三七

○音川勝元

(田舎上) 四三

○に時(常盤屋の遊女)(大岡) 五九

○に伽草紙

(田舎下) 一六

○に徳(五大力戀絨)

(脚下) 八四

同(金升屋の娘)
おとくがは

(女房) 二七

○乙訓川

(宇治) 六七

○男

醜き男

(石川) 八

物語書中の美男

(石川) 三六

妻への態度

(八文字) 二九

○なとこ(なげぶし)
をとこちやう

(近代) 三三

男女郎

(平賀) 三〇

○男道成寺蚊屋之段(所作)

(近代) 五七

○童子女松原の傳説(風土記)

四〇

○男山

(浄上) 一三

○乙壽(光秀の子)

(浄中) 五七

○音壽丸

(浄中) 二三

○頼 (曾呂利) 二九

○にそくつの繪 (古今著) 三三

○に袖(奥州安達原) (淨上) 三九

同(伊賀越乘掛合羽) (脚上) 二五

同(四谷怪談) (脚下) 二九

○に園(伊賀越乘掛合羽)

(脚上) 二五

同(彦山權現暫助劔) (淨上) 四六

同(桔梗屋) (琦行傳) 八三

○に染(新版歌祭文) (淨上) 三〇

同(碁太平記白石噺) (淨中) 五五

同(近頃河原達引) (淨下) 三五

○小田 (風土記) 四七

○御臺所 (黃表紙) 一六

○織田有樂齋第宅地 (江戸一) 二〇

○に鷹 (女太平) 一四

○男高里 (風土記) 五七

○に瀧(下女) (脚下) 三三

○に竹(興話情浮名横櫛)

(脚下) 三三

同(碁太平記白石噺) (淨中) 五三

○織田家相續の評定 (太閤中) 四六

○織田家舊臣燒香の順

序を爭ふ (太閤中) 四六

○男建 (古事記) 三〇

○に辰 (淨中) 六三

○に谷 (淨上) 二九

○小谷の方 (淨下) 二八

○に種(伊賀越乘掛合羽)

(脚上) 二六

同(本朝二十四孝) (淨上) 三九

○小田角丸 (雅文) 四三

○織田信清の苛政 (太閤上) 九四

○織田信長(信長を見よ)

○織田信治の最後 (太閤上) 三一

○に玉 (脚上) 五四

○於玉が池 (江戸一) 二〇

○にたん(小野寺十内

よりの手紙) (書翰) 五

○に軍笛町 (黃表紙) 四六

○にため(しが内女房) (黃表紙) 三〇

○にたよ (淨下) 三九

○小田原 (日記) 二五

○小田原の外郎 (日記) 二七

○小田原の戦 (太閤上) 七

同 (太閤上) 五一

○小田原侍從忠朝 (窓の) 三六

○小田原城 (淨上) 三九

○落合主税之助籠城の

使者 (窓の) 三九

○落合土橋 (江戸二) 五七

をさめ
○専女

(宇津上) 四二

○にさよ

(淨中) 四七三

○に澤〔傾城阿波の鳴門〕

(淨中) 三九〇

同〔伽羅先代萩〕

(淨下) 三四

同〔御所櫻堀川夜討〕

(淨下) 三七

○小澤城址

(江戸二) 四六

○小澤蘆庵〔六帖詠草〕

(六帖) 三三

○小澤蘆庵の歌論と歌

風

(年々) 三六

○鴛鴦〔風俗〕

(古代) 一四八

○同〔歌を残して死す〕

(古今著) 六六

○囁

(石川) 一七〇

○教〔教育参照〕

聖人の教

(心學) 一八五

三教一致

(心學) 一八九

心を知る

(心學) 四四

残さず教育が眞の

儒者

(心學) 五四

○小鹽田又之丞

(脚下) 二七四

○小鹽山

(崎人傳) 六四

○に鹿〔伊勢音頭戀寐

刃〕

(脚上) 六二五

同〔五大力戀鐵〕

(脚下) 八四

○忍熊王の謀叛

(古事記) 一九二

○に繁

(脚下) 六四

○押小路殿の雪の歌

(古今著) 一六

○忍鹽井息栖明神

(近代) 七三

○乎之高倍〔風俗〕

(古代) 一五三

○印

(宇津下) 八

○忍侍從鶴の話

(窓の) 三六

○忍原

(江戸二) 六六

○雄島坐禪石

(日記) 三九

○にしまの原

(日記) 八

○にしやく

(女房) 四八

○に俊〔猿曳門出諷〕

(脚上) 六四

同〔近頃河原達引〕

(淨下) 六三

○に庄〔久松の乳母〕

(淨上) 四二

○白粉の看板

(骨董集) 三〇

○に杉

(脚上) 五四

○に杉に玉の小唄節

(田舎上) 四一

○に杉の實貞

(心學) 四三

○に鈴

(平賀) 四八

○にすま〔光延より訣

別〕

(書翰) 二八

○に節〔姉妹達大礎〕

(脚上) 五七

同〔甚太平記白石噺〕

(淨中) 五七

○に專〔森田屋の娘〕

(大岡) 三〇七

○にせん〔笠森の〕

(平賀) 五六

○にせんものぐるひ〔あ

づま淨留利〕

(近代) 三七

○御藏前の大隠菴

(八笑人) 二四六

○小倉山

(宇津上) 四二一

同

(日記) 五九三

同(出雲)

(風土記) 四九六

○小倉山踊

(近代) 四七〇

○小栗

(日記) 二〇一

同(古今ふし)

(近代) 四二二

○諺おくりな

(年々) 二五五

○小栗の判官兼氏

(黄表紙) 二二三

○小栗又市郎

(窓の) 二九六

○小栗栖をぐるま

(浄中) 二二七

○小栗栖野

(太閤中) 三三七

○小栗栖村

(浄上) 四七〇

○小車(風俗)

(古代) 一四九

○桶の假名遣をけのみこと

(石川) 三三九

○遠をけのみこと 祁命

(古事記) 二八〇

○桶狭間合戦

(太閤上) 一三四

○おけら小僧

(黄表紙) 一八六

○お幸

(浄上) 四八二

○おこたる(守信亭)

(石川) 四二七

○おこと汁

(年々) 三三七

○オコト點の圖

(年々) 三三三

○お事の追考

(用捨箱) 八二六

○お事始

(用捨箱) 六六八

○おこぶ

(浄中) 二〇六

○お駒

(脚下) 八四四

○大おこな 狛權守

(古今著) 三三六

○お紺おこり

(脚下) 六〇三

○瘡おこり

(曾呂利) 五七六

同

(田舎上) 一五四

○忍坂おさか(結婚の廣目)

(曾呂利) 六二一

○小坂部兵部晋近

(浄下) 三六三

○小坂部和三郎

(浄下) 二四二

○お崎

(脚下) 二五九

○お先鈍助踊

(近代) 四八六

○小崎沼

(萬葉上) 四七七

○おさけ(鮭)

(黄表紙) 四

○小笹(長歌)

(近代) 三三三

○小笹

(脚下) 四四四

○お貞の仇討をさたのおはいらつめ

(大岡) 四七六

○長田大郎女

(古事記) 二五四

○おさつ(油屋の下女)

(浄上) 四四四

○お里の亡魂

(大久保) 二七五

○納殿

(宇津上) 一三〇

○おさまりなびく(今

様)

○お三

(古代) 一五九

○お三

(脚下) 六八〇

○おさん盜賊を走らす(大久保) 三九八

○お三婆(澤の井の母)(大岡) 三三

○おさめ(彌太郎女房)(女太平) 一九

同(平洲より貞女譚)(書翰) 一八九

○に吉〔五大力戀絨〕（脚下）二九
 同〔與話情浮名横櫛〕（脚下）三〇
 ○興津
 同
 同
 同
 ○奥津甲斐辨羅神
 おきつかひやらのかみ
 （遊京）三九
 ○奥津比賣命〔生成〕（古事記）二四
 ○奥津島比賣命〔生成〕（古事記）三三
 ○沖津新吾
 おきつなぎさびこのかみ
 （脚上）三五
 ○奥津那藝佐毘古神〔生成〕
 おきつなぎさびこのかみ
 （古事記）二四
 ○奥津日子神〔生成〕（古事記）六六
 おきつひこのかみ
 ○奥津比賣命〔生成〕（古事記）六六
 おきひめのみこと
 ○息長帶日賣命
 おきながたらしひめのみこと
 （古事記）八五
 ○翁草
 （田舎下）一九三
 ○に絹
 （脚上）六四
 ○にきの〔與話情浮名横櫛〕
 （脚下）三五

同
 ○沖の井御前
 （淨下）五九
 ○沖の石
 （日記）三七
 同〔はやり歌〕
 （近代）四九
 ○沖の石の讃岐
 （百人）五〇
 ○隠岐の三子島
 （古事記）二二
 ○荻野八重桐
 （平賀）一五七
 ○に君
 （淨上）三九
 ○置土産
 おきめ
 （淨上）元
 ○置目老嫗
 おきめ
 （古事記）六三
 ○にきげ〔に圓の母〕
 （淨下）三三
 ○奥様のに錠口
 （黄表紙）一九五
 ○奥淨瑠璃
 （用捨箱）七四
 ○奥平傳八の妻の貞節〔窓の〕
 （畸人傳）四三
 ○奥田三角
 （脚上）一八九
 ○奥田庄三郎
 （淨上）一
 ○奥女中

○に國〔出雲の〕（御伽）六三
 ○於國歌舞妓古圖考（骨董集）一九一
 ○尾久の原の櫻草（江戸四）四〇
 ○にくの細道〔芭蕉〕（日記）二七
 ○に熊四谷怪談（脚下）一九三
 同〔白子屋娘〕（大岡）五七
 ○に汲（脚上）三六
 ○奥山〔催馬樂、呂〕（古代）一四三
 同〔催馬樂、呂〕（古代）一四三
 ○奥山津見神
 おくやまつみのかみ
 （古事記）六
 ○に倉〔姉妹達大噺〕（脚上）四〇
 同〔蝶花形名歌島臺〕（淨下）二四
 ○小倉
 おくらの
 （日記）一五
 ○に座子
 （淨上）三
 ○小倉山莊（百人）七七
 ○小倉の山（狭衣）一八九
 ○御藏前のにばあ（武野）三八

○わかしといふ事

(年々) 三六

○岡周防守

(崎人傳) 二四三

○岡大夫

(狂言上) 三九

○わかたまの木

(閑田) 一三三

○わかち

(浄中) 二二

○わかち

(浄下) 八九

○わかちの枕探し

(大岡) 六三

○わかち(長五郎妻)

(女房) 二二

同(油屋の後家)

(浄上) 二二

○岡寺

(日記) 四六

○わかち

(脚上) 二八

○わかち(近江屋の娘)

(女房) 三六

同(與話情浮名横櫛)

(脚下) 三三

○岡の里

(日記) 四六

○岡野左内

(崎人傳) 四六

○岡場所

(平賀) 九

○岡部

(日記) 二

同

(日記) 六

同

(日記) 二五

同

(日記) 二六〇

同

(日記) 二二

○わかち(豆腐)

(骨董集) 六七

同

(骨董集) 三三

○岡部の原

(日記) 九

○岡部の宿

(田舎上) 六五

○岡部日記(賀茂眞淵)

(日記) 三三

○岡部日記の長歌跋(平

春海)

(琴後) 六三

○雄神河

(萬葉下) 四〇〇

○湊迦美神

(古事記) 四四

○靈神

(靈能) 二六

○わかち(後小さん)

(娘節用) 七

○わかち(團十郎の女房)

(黄表紙) 一四

○岡山通踊

(近代) 四三

○岡山鳥(江戸名所花

曆)

○小川踊

(江戸四) 三二

○小川里

(近代) 四七

○小川村

(風土記) 五七

○小川村

(日記) 四八

○御(人)

(字津下) 五三

○亭壺

(浄上) 八

○わかち(仲居)

(脚下) 一三

○隠岐(國風)

(近代) 九

○萩生氏の高聲

(窓の) 一四

○萩生徂徠の略傳

(先哲) 一三

○萩生茂卿の南留別志

(年々) 三五

○興風

(百人) 二五

○わかち

(浄上) 四二

○わかち(古市女郎)

(脚上) 五三

○奥疎神

(古事記) 二四

○わかち(幾多明神の由來)

(崎人傳) 五六

大宮〔黑塚〕 (近代) 七

同〔正頼の妻〕 (宇津上) 三

同〔二の宮の母〕 (狭衣) 三〇

○大宮右大臣櫻人の曲(古今著) 一九

○大宮含忍齋 (太閤上) 二九

○大宮權現(今様) (古代) 一六

○大宮權亮うしろ前の

直衣 (古今著) 二七

○大宮八幡宮 (江戸二) 五三

○近江令 (百人) 二五

○近江六首〔國風〕 (近代) 七

○鸚鵡おうわがへしむんまのふたみち (宇津上) 三三

○鸚鵡返文武二道(黄表紙) 二九

○鸚鵡の物眞似 (黄表紙) 一五〇

○鸚鵡吉兵衛 (黄表紙) 六

○大村峰佳(春海よりの

書) (琴後) 六九

○大物主神

同

○大門口〔吉原〕

○大森〔武藏〕

同

同〔越中〕

○大森宗君一節切中興(近代) 二三

○大森八郎 (雅文) 五四

○大森彦七の後裔 (雅文) 五五

○大森七郎おはやけのさと (風土記) 五五

○大家里 (古事記) 二

○大八島國の由來

同おはやのしま (靈能) 二三

○大家島おはやびこのかみ (風土記) 五三

○大屋毘古神 (古事記) 二三

同 (靈能) 二七

同 (古事記) 五〇

○大山 (日記) 七六

同おはやまくひのかみ (日記) 三三

○大山咋神おはやまつのかみ (古事記) 六

○大山津見神 (古事記) 一四

同 (靈能) 二六

○大山寺おはやまといとよあきつしま (日記) 二九

○大倭豊秋津島 (古事記) 二

○大山守神 (古事記) 一八

○王陽明 (崎人傳) 二七

○往來の御朱印 (脚上) 二八

○王矮虎(英)おはのたつみのかみ (水滸二) 五八

○大綿津見神 (古事記) 三

○岡崎 (日記) 二九

同 (淨上) 五七

○岡崎城の合戦 (太閤中) 五

○岡崎の出女 (日記) 五三

○岡崎橋 (太閤上) 三五

○大原孟 (近代) 四三

○大原眞守の名刀 (八文字) 三九

○大原寺〔藤原寺〕 (日記) 四一

○大原野 (宇津上) 四三

○大原野行幸 (狹衣) 五三

○大原野の祭 (田舎下) 三二

○大原里 (曾呂利) 六三

○大原明神 (日記) 四一

○大原山 (宇治) 五六

○意富日神社 (江戸四) 三五

○意富日神社初鎮座地 (江戸四) 三九

○太平〔本居〕 (遊京) 四一

○大平山 (江戸二) 三三

○於保比禮〔東遊〕 (古代) 四一

○大ふる〔大舍人頭〕 (宇津下) 六四

○大戸比賣命 (古事記) 六六

○王母〔西王母〕 (宇津上) 六三

○王哀の孝行 (御伽) 三三

○大禍津日神 (古事記) 三三

同 (靈能) 三六

○大魔が時 (和合人) 三七

同 (七偏人) 六七

○大幕 (宇津上) 三四

○近江縣物語 (石川) 七

○遷奉太神宮 (祝詞) 三五

○近江かばりまし〔吉原小歌〕 (近代) 一八

○淡海狂僧 (畸人傳) 三三

○近江源氏先陣館 (淨中) 四一

○近江源氏の佐々木 (淨中) 二〇

○大晦日の踊所 (八文字) 一九

○逢路〔催馬樂律〕 (古代) 二七

○大湊の烈女 (遊京) 四七

○大峯 鐘

順逆の峯入 (近代) 四六

○近江國淺井郡 (百人) 四六

○近江國守郡司に (宇治) 四四

難題 (御伽) 四四

○近江守總茂三幅一對 (窓の) 三七

の畫 (萬葉上) 一四

○近江の荒都 (閑田) 四〇

○近江の古跡 (風土記) 四一

○邑美冷水 (閑田) 四一

○近江八景 (閑田) 四一

同〔所作〕 (近代) 四六

○近江八景序〔千那〕 (風俗) 三三

○大御室〔性信〕 (宇治) 五九

○大宮〔神樂歌、小前張〕 (古代) 二五

同〔催馬樂、呂〕 (古代) 四〇

○大斗乃辨神 <small>おほとらひのわか</small>	(靈能) 三三
○大毀祭 <small>おほくさび</small>	(祝祠) 三三
○大戸日別神 <small>おほひのわか</small>	(古事記) 三
○大戸惑子神 <small>おほひまどこのわか</small>	(古事記) 一四
○大戸惑女神 <small>おほひまどめのかみ</small>	(古事記) 一五
○大伴王の詩	(詩集) 五三
○大友皇子	(日記) 二〇四
壬申の亂	(宇治) 四三
同	(詩集) 五七
其の詩	(風土記) 五二
○大伴狹手彦 <small>おはともひのさてひこ</small>	(淨下) 三二
○大友三郎	(江戸二) 五四
○大友松	(古代) 一五〇
○大鳥(風俗)	(江戸二) 一九
○大鳥大明神社	(風土記) 五〇
○大鳥山 <small>おほなはのわか</small>	(古事記) 三五
○大直毘神	

○大中臣能宣朝臣 <small>おほなかつのわか</small>	(百人) 三五
○大策牟遲神(大國主 神參照)	(古事記) 四五
同	(古道) 四七
○大嘗祭 <small>おほにへのまつり</small>	(祝祠) 三二
○大西國貞の淨林釜	(武野) 三四
○大二條關白(教通)	
小式部内侍との戀(宇治)	一六七
同	(宇治) 四二
○應仁記の大事九ヶ條(年々)	四〇
○大人參	(淨下) 三六
○應仁の亂	(田舎下) 一九
同	(淨中) 五三
○大女房阿與米 <small>おほめづひめ</small>	(用捨箱) 八二
○大野手比賣 <small>おほのさと</small>	(古事記) 一二
○大野郷 <small>おほのさと</small>	(風土記) 四三
○大野里 <small>おほのさと</small>	(風土記) 五七

○大のき川	(日記) 四二〇
○大野郡 <small>おほのすけ</small>	(風土記) 五八
○多資忠	(古今著) 三七
○大野寺	(日記) 四四
○大野草銅 <small>おほののさと</small>	(石川) 二四〇
○邑寶里	(風土記) 五三
○太安磨古事記を撰す(古道)	四〇三
○王婆	
賄を貪て風情を説	
く	(水滸一) 六〇八
西門慶を計啖む	(水滸二) 一八
○大量(太刀) <small>おほばかり</small>	(古事記) 三
○大橋(傾城)	(脚上) 一五〇
○大橋東堤 <small>おほはつせみこ</small>	(崎人傳) 六二四
○大長谷王子	(古事記) 三五
○大場道益	(淨下) 三三
○大原郡	(風土記) 四九六

し

母(訣別の狀)

(畸人傳) 五三四
(書翰) 二二

○大瀧の里

(日記) 四一

○大瀧法印

(脚上) 四九

○大嶽城陷落

(太閤上) 四四

○太田見良

(畸人傳) 二九三

○太田神社の緣起

(日記) 三三九

○太田道灌の城跡

(江戸一) 二四四

○太田南畝(杏花園・蜀山人を見よ)

○意富多泥古

(古事記) 一三七

○大田里

(風土記) 五五

○大多麻流別

(古事記) 二

○太田村城の水攻

(太閤中) 五九三

○太田村出屋敷の卯右

衛門

(心學) 一八七

○大盥を駕籠に代用

(大久保) 三七四

○大太郎

(石川) 三三

○大路(催馬樂、律)

(古代) 一三五

○樗庵夢水發句集

(俳句集) 四七

○邑智おうちのかみや驛

(風土記) 五三

○樗の名所

(江戸四) 四三

○横笛わうてう

(宇津下) 七

○大津

(日記) 五

同

(日記) 二五

同

(日記) 二四

同

(日記) 二九六

同

(日記) 四六

同

(遊京) 三九七

○大津繪

(淨下) 一五

同

(田舎下) 一七三

○大津繪の佛像

(骨董集) 九二

○大津にひわけゑ踊

(近代) 四八

○大塚

(江戸二) 六二

○大槻の家來召捕の事(金澤) 三八

○大土神

(古事記) 六

○大津皇子

始て詩賦を作る

(古今著) 一〇〇

其の詩

(詩集) 五九

○大津の町

(淨下) 三三

○大津連の詩

(詩集) 五五

○大津又左衛門の中將

基

(武野) 三四

○大手御門

(大久保) 一三

○應天門

(宇治) 二七三

○大戸明神

(江戸二) 二五三

○王道廢亡の由來

(太閤上) 五九

○大年神

(古事記) 四

同

(古事記) 六

○意富斗能地神

(古事記) 六

同

(靈能) 三三

○大斗乃辨神

(古事記) 六

○相坂山の手向の考證(日記) 三七
○大雀命 (古事記) 一九

○大澤治郎左衛門 (太閤上) 一三

○大澤の池 (遊京) 三三

○大鹽平八郎一件 (書翰) 四七

○凡河内躬恒 (百人) 三六

○王子稻荷社 (江戸三) 三八

○王子權現社 (江戸三) 三八

○王子權現の鎗祭 (江戸四) 四九

○皇子の御いみな(字)遊京 四三

○大島の生成 (古事記) 二

○大島(和泉)の話 (日記) 一六

○大島傳八増祿の由來(窓の) 三三

○大島鳴門 (萬葉下) 二六

○大島[中臣朝臣]の詩(詩集) 五三

○王震起の狂詩 (川柳) 四一

○應神天皇 (古事記) 一九

○奥州 (宇治) 五五

○鷗州の出家 (黃表紙) 二五

○奥州安達原 (崎人傳) 六七

○贈奥州株人辭 (淨上) 一七

○奥州橋 (鶉衣) 六九

○奥州より金を出す (江戸二) 五四

○鶯宿梅 (萬葉下) 四三

○同 (宇治) 五〇

○同 (百人) 二七

○王祥氷の上の魚を取

る (淨上) 三六

○同 (御伽) 一九

○皇靈 (宇津上) 四三

○往生 (心學) 四六

○同 (禪林) 四五

○王昭君(和漢朗詠集、

雜) (古代) 二六

同[新撰朗詠集、雜] (古代) 五〇

同 (田舎下) 一六

同 (宇津上) 六六

同 (淨上) 六三

○往生傳(續本朝往生傳) (宇治) 二五

○大洲侯に奉る中江藤樹の書置 (書翰) 六

○大洲の大男 (遊京) 四三

○大隅太夫 (淨下) 三五

○大隅二首(國風) (近代) 一六

○大隅(守部連)の詩 (詩集) 五三

○大芹(催馬樂、律) (古代) 二六

○大高原吾

手紙の一節 (崎人傳) 三一

細井廣澤と交り深

○大久保彦左衛門

家系

(大久保) 二

上野介を嘲り笑ふ(大久保) 三

殿中に於て不禮御

免

(大久保) 九〇

蕪青

(大久保) 一六三

刀の鑑

(大久保) 一七一

金子調略

(大久保) 一九五

屋敷普請の美麗

(大久保) 二〇五

五郎兵衛を救ふ

(大久保) 二四八

娘をさん

(大久保) 二九

隠居願ひ

(大久保) 四七五

直諫

(大久保) 五三七

病死

(大久保) 五八〇

○大藏卿(源)

(宇津下) 七四四

○大藏史生

(宇津上) 三三〇

○王慶

龔端龔正配軍に師

とせらる

(水滸四) 三〇二

森に因て官司に喫

ふ

(水滸四) 元四

江を渡て捉へらる(水滸四) 三五六

○大宜都比賣

(古事記) 二

○大宜都比賣神

(古事記) 一五

同

(古事記) 元

同

(古事記) 六

○大下馬先の混雜

(大久保) 二四

○王元美

(出定) 六〇

○大事忍男神

(古事記) 三

○大前張(神樂歌)

(古代) 九

○大阪

馬琴の目に映じた

る大阪

(日記) 六三

大阪の氣風

(八文字) 二六七

大阪者

(和合人) 四四

大阪の町々

(淨中) 六三七

○逢坂(牛込)

(江戸二) 五二

○大坂いり

(和合人) 三四三

○大阪御城代(堀田相摸

守)

(大岡) 八九

○大阪茶屋名よせ(ばや

り歌)

(近代) 五〇

○逢坂の關

詠歌

(遊京) 四〇一

蟬丸の事

(宇治) 四九三

許さぬ關

(宇津上) 六九三

これやこの歌

(日記) 三六〇

○大阪上りの道行(所

作)

(近代) 五七

○相坂山

(萬葉上) 三六

同

(日記) 二九七

○大龜 (閑田) 二六

○扇

笛に吹く (袂衣) 二三

形見の扇 (袂衣) 二六

袂衣より人々へ贈

る (袂衣) 五四

野もせにすだくむ

しの音 (古今著) 二五

和漢朗詠集、夏 (古代) 三二

天眼通の自在 (一休) 四〇

○拾扇説 (鶴衣) 七四

○扇ヶ谷 (八文字) 三〇

○大分川 (風土記) 五二

○大分郷 (風土記) 五八

○大木戸門兵衛 (淨下) 四七

○扇流し (田舎下) 五七

○扇歌〔東花坊〕 (和漢) 三七

○扇のかなめ (年々) 三三

○正親町公通〔壽老人、

賛〕 (和漢) 三〇五

○扇屋助治郎葬儀の不

思議 (一休) 四九六

○扇屋の夕霧 (平賀) 三三五

○大城山 (萬葉上) 四六

○黃香 (御伽) 三〇三

○王教頭 (水滸一) 四四

○大草郷 (風土記) 四四

○大櫛 (風土記) 四〇五

○大口 (年々) 二九七

○大口八兵衛 (武野) 三六〇

○大國主神〔大穴牟遲神參照〕

御生成 (古事記) 四四

十七世の神 (古事記) 六一

國讓り (古事記) 七五

日本經營 (古道) 四六

御別名 (古道) 五三

○大國里 (風土記) 五三

○大國御魂神 (古事記) 六六

○大久保石見守切支丹

信仰の顛末 (大久保) 一四

○大久保大隅守 (女太平) 一五

○大久保忠隣

小田原城主となる(大久保) 三

黒澤重次郎を罵る(大久保) 六

見分の爲め上洛 (大久保) 五

板倉と不和 (大久保) 六二

改易せらる (大久保) 七三

○大久保忠常大久保の

家名を再興 (大久保) 八九

○大窪天満宮 (江戸二) 四六五

○大久保隼人の相續 (大久保) 一八

其評論

○大磯

(閑田) 八三
(日記) 三九

同

(日記) 一五

同

(日記) 一五

同

(日記) 二七

同

(日記) 六三

同

(淨上) 五八

同

(黃表紙) 一〇三

○大磯の懷古

(日記) 五二

○大磯のとり

(平賀) 六九

○大いなさ小いなさ

(日記) 六五

○大井の里

(田舎下) 一八

○大井の三位物語

(雅文) 五九

○大岩山の合戦

(太閤中) 五二〇

○大内

(淨上) 四

○大桂

(宇津上) 三八〇

○大内裂

(淨下) 三三

○大内山

(淨上) 三〇

○大海の鶯

(宇津下) 六三

○大浦

(日記) 一五

○大江鬼貫

(脚下) 六三

○大江の岸

(田舎上) 五五

○大江千里

(百人) 一八

○大江廣元

(八文字) 五九

○大江の匡房(匡房を見よ)

○大江師就の沈勇

(窓の) 一七

○大江丸(俳憤悔)

(俳句集) 六九

○大江山

(閑田) 三九

○大江山入り

(田舎下) 一六

○大岡越前守

天一坊

(大岡) 一

越後傳吉

(大岡) 一七

村井長庵

(大岡) 三五

小間物屋彦兵衛

(大岡) 四一

白子屋阿熊

(大岡) 五九

雲切仁左衛門

(大岡) 五九

煙草屋喜八

(大岡) 五九

裁判小話

(大岡) 六五

白子屋御仕置

(江戸著) 四七

○鴨崖(櫻任藏へ蓄米の議)

(書翰) 三七

○横海郡

(水滸一) 五七

○大垣

(日記) 二三

○王學(について)

(書翰) 三三

○大香(おほかやまとおみのかみ) 山戸臣神

(古事記) 六

○大方江

(風土記) 四七

○王家統の訓

(閑田) 一六

○狼峠

(大久保) 三八

○意富加牟豆美命(おほかむづみのみこと)

(古事記) 三〇

○大加牟豆美命(おほかむづみのみこと)

(古道) 四九

○一觀音(千駄木)

(江戸三) 三八

追剝

(黄表紙) 二五九

○追剝の茶番

(七偏人) 七六

○老いほれたる人

(花月) 五五

○老ぼれ枕[古今ふし]

(近代) 四六

○老松

(浄上) 八

○老松民部左衛門

(八文字) 五三

○お岩

(脚下) 二六

○お岩の靈

(脚下) 二四

同

同

○追分

(日記) 四二

○意字

(風土記) 四二

○小碓命

(古事記) 一六五

○おうれ[基太平記白]

(浄中) 四七三

石噺

○意字郡

(風土記) 四七

○お乳母日傘といふ諺(骨董集) 一五一

○お梅[四谷怪談]

(脚下) 一八〇

同[傳吉の女房]

(大岡) 三三

同[喜八妻]

(大岡) 六一

○お馬屋のとく齋

(黄表紙) 九三

○汚穢

(年々) 三五

○お圓

(浄下) 三八

○大海人皇子

(百人) 三

○大洗堰

(江戸二) 五九

○大井[春景氣]

(日記) 三六

○おは衣架

(宇津上) 四三

○大井川

(日記) 六

同

(日記) 一八

同

(日記) 二八

同

(日記) 二二

同

(日記) 三三

同

(日記) 六六

同

(浄上) 六四

同

(遊京) 四七

同

(田舎下) 五九

同

(狭衣) 一八九

同

(宇津下) 四二

○大井川の浮橋

(大久保) 四四

○大堰川の三船

(百人) 五四

○大井河の行幸

(宇治) 五三

○大い君[仁壽殿女御]

(宇津上) 一〇〇

○大い君[孫王の君]

(宇津下) 三五

○大井子[高島]

(古今著) 三七

○大石王[播磨守]の詩(詩集) 五〇

○大石良雄

堀部安兵衛等へ

(書翰) 六七

京都の友へ

(書翰) 八九

細井廣澤へ

(書翰) 九三

三平よりの遺書

(書翰) 一〇九

僕八介記念を乞ふ(畸人傳) 二〇六

- 延年唱歌 (古代) 五〇三
 ○宴の松原 (宇津上) 六七
 ○閨婆惜 (水滸一) 五五
 ○遠帆樓 (遊京) 三九七
 ○焉馬六十の賀 (石川) 四〇〇
 ○圓福寺〔西臺山〕 (江戸三) 四〇
 ○閨浮提 (宇治) 一七三
 ○閨魔 (宇治) 一七〇
 ○閨魔王 (雅文) 八三
 ○同 (平賀) 一七〇
 ○炎魔王宮 (宇治) 五六
 ○同 (宇治) 五九
 ○閨魔堂〔藏前〕 (平賀) 二五
 ○同〔大倉前〕 (江戸三) 四六
 ○同〔牛込〕 (江戸二) 五七
 ○閨魔廳の滯獄 (雅文) 八〇
 ○延命櫻 (江戸四) 四二

- 延命寺 (江戸二) 四五
 ○延命寺〔甘露山〕 (江戸三) 五九
 ○延命十句觀音經 (禪林) 四二
 ○鹽冶郷 (風土記) 四九
 ○圓融院 (宇治) 二九
 ○江村專齋 (畸人傳) 三六
 ○遠慮〔橋の喩、舟の喩〕 (心學) 四三
 ○遠慮遠謀 (花月) 五九
 ○衣紋坂 (平賀) 三五
 ○右衛門櫻 (江戸四) 四〇
 ○惠林寺〔甲府〕 (太閤中) 八
 ○あゝきてるせゑりて (平賀) 二〇
 いと

オ、ヲ

- に秋〔秋色櫻〕 (江戸四) 四三
 ○同〔よし都に嫁す〕 (曾呂利) 六〇
 ○笈 (平賀) 五六
 ○歎老辭 (鶉衣) 六七
 ○綏 (年々) 二九
 ○老曾の森 (日記) 五
 ○に石の孝貞 (心學) 三〇
 ○に市〔五大力戀絨〕 (脚下) 八四
 ○同〔興話情浮名横櫛〕 (脚下) 五五
 ○同〔昨日の奥様今日の
 下女〕 (大久保) 三三
 ○同〔浪右衛門の妻〕 (女房) 一四
 ○に糸〔にじゃれ〕 (脚上) 四〇
 ○老人〔調忌寸〕の詩 (詩集) 五八
 ○おいな〔染付屋の下
 女〕 (女房) 三三
 ○老鼠〔催馬樂、律〕 (古代) 二八
 ○同 (曾呂利) 六三
 ○追剝 (浄上) 六〇

○圓觀上人

(平賀) 三三

○瑛王えんわう〔閻魔王〕

(宇治) 五六

○閻王廳

(石川) 三四

○延喜の聖代

(黃表紙) 二三

○延喜の帝〔醍醐天皇〕

五人の顧問

(古今著) 八一

磨御

(古今著) 四一五

常寧殿の御詠

(黃表紙) 一三一

御病氣の祈り

(宇治) 三六

河原院へ行幸

(宇治) 三七

御衣の上の蠅

(宇治) 五〇三

常にゑみてねばす

(宇治) 五四

○圓久〔叡山四塔の僧〕

(古今著) 四三

○延久の善政

(宇治) 五三

○宴曲

(古代) 四〇五

○圓空

(畸人傳) 二四六

○圓慶

(古今著) 五一

○エンゲルベルヘルト

ケンフル〔日本志の

著〕

(古道) 四二

○圓光寺〔寶鏡山〕

(江戸三) 四四

○圓光大師鏡の御影

(江戸四) 二九四

○延壽

(淨下) 一四六

○遠州詠

(日記) 五〇

○遠州〔政一〕の色紙笠

(花月) 五二〇

○遠州者

(淨上) 一五

○艶書

(八文字) 三六

○艶書合

(田舎上) 七

○圓怨圓愚の問答

(禪林) 四七

○圓勝寺〔光明山〕

(江戸三) 三五

○圓乘寺〔七の碑〕

(江戸著) 四三

○圓照寺〔醫光山〕

(江戸二) 四七六

○緣淨法師

(古今著) 四七

○燕青〔浪子〕

冷箭を放て主を救

ふ (水滸三) 一七

智をもつて撃天柱

を撲つ (水滸三) 四九

月夜道君に遇ふ (水滸三) 五四

雙林鎮に故に遇ふ (水滸四) 一三〇

雙林渡にて雁を射

る (水滸四) 七二

○圓善の鬻體經を讀む (古今著) 四三

○圓宅〔寶珠庵〕 (一休) 五八

○圓通 (畸人傳) 五〇

○圓通寺 (江戸一) 六六

○圓通寺舊跡 (江戸二) 一四

○圓通大師

出家の動機 (日記) 一三

渡唐 (宇治) 五三

○緣纏井 (水滸四) 二五

○惠曇^{えともの}郷

(風土記) 四五一

○江戸名所花暦

(江戸四) 三六一

○惠曇池^{えとみ}

(風土記) 四四五

○惠曇濱

(風土記) 四五六

○江戸屋藥の話

(心學) 二〇一

○江戸ろうさい

(近代) 二六一

○惠南の開香

(畸人傳) 六二六

○繪雞房

(古今著) 三五四

○榎戸湊

(江戸一) 六七六

○江の島

(日記) 一七四

○江島景(宴曲)

(古代) 四六六

○えび(香)

(宇津下) 二五

○海老の話^{えびかづらのみ}

(一休) 四四四

○蒲子^{えびす}

(古事記) 三〇

○蝦夷

(宇治) 四三七

○惠比須、惠比須講

(醒睡) 五〇

商人の元日

(醒睡) 五〇

福の源

(醒睡) 三六六

○惠美壽講

商家の年中行事 (平賀) 三〇一

將軍醉漢に鳥を賜

ふ

(窓の) 三〇二

○惠比須像の由來

(窓の) 二八四

○蛭子大黒天

(狂言上) 三〇七

○惠比須前稻荷祠

(江戸一) 二七一

○蝦錠

(淨上) 三〇

○海老上滿

(骨董集) 三三八

○海老藏

(黃表紙) 一四六

同

(平賀) 二八一

○葡萄染がされ^{えびぞめ}

(宇津上) 二七三

○海老名の六郎左衛門(御伽) 二五

○海老の隠居

(黃表紙) 一八

○愛比賣^{えひめ}

(古事記) 二

○餌袋

(宇津上) 七〇

同

(宇治) 三三八

○繪佛師良秀

(宇治) 九一

○惠方

(閑田) 五

○惠方釜

(淨上) 四三

○烏帽子

(閑田) 二八

○烏帽子親

(田舎上) 六八

○烏帽子折

(狂言上) 一

同(舞)

(醒睡) 三五

同(二上り)

(近代) 六三

○烏帽子島

(江戸一) 六七六

○烏帽子山

(日記) 三四

○繪本太功記

(淨中) 四九

○繪卷物

(日記) 五九

○江間小四郎

(八文字) 五三

○えみし(蝦夷)の話

(花月) 五〇

○惠美押勝

(雅文) 四九

○縁起

(八文字) 五四〇

江口○遊女

(雅文) 二九

○惠瓊〔安徳寺和尚〕

(淨中) 七一

○惠慶法師

(百人) 三八

○向向院〔國豐山〕

(江戸四) 五四

○餌差竿

(淨上) 一九

○餌差十王

(狂言下) 二五

○繪島

(日記) 一六

同

(日記) 三〇

○ゑじま踊

(近代) 四四

○惠心僧都

(宇治) 三三

○江尻

(日記) 二四

同

(日記) 三五

○江尻藤太

(脚上) 四九

○江尻明神の由來

(日記) 五九

○繪姿〔芝居〕

(平賀) 二五

同

(淨上) 三六

○鯛えを

(淨上) 三二

○蝦夷が島

義經わたれりとの

噂

(黄表紙) 三五

義經、大王の兵法

を寫す

(御伽) 六

○蝦夷が島の大王

(御伽) 七

○穢多

(閑田) 二〇

○惠澤の奇行

(畸人傳) 三二

○越知川

(淨下) 六四

○越後五首〔國風〕

(近代) 八

○越後獅子

(淨上) 九

○越後傳吉之傳

(大岡) 一七

○越後の乳母

(宇津下) 五五

○越前歌川

(畸人傳) 五三

○越前家騷動の由來

(大久保) 三五

○越前五首〔國風〕

(近代) 六

○越前國の騷動

(太閤上) 四四

○越前宰相忠直卿

(大久保) 三五

○越前房

(古今著) 五九

○繪圖

(淨上) 五四

○越中四首〔國風〕

(近代) 八

○越えちんくうな天樂歌物〔延年〕

唱歌

(古代) 五四

○江戸錢湯風呂の始

(骨董集) 三

○江戸城の由來

(大久保) 四

○穢土と淨土

(禪林) 六

○江戸の大城

(江戸一) 三

○江戸の人情風俗

(石川) 三九

○江戸遠江守舊館地

(江戸二) 三五

○江戸俳諧傳系

(俳句集) 二

○江戸橋

(江戸一) 一七

○江戸節

(平賀) 七

同〔端歌〕

(近代) 六〇

○江戸兵衛

(平賀) 四六

○浦島太郎〔浦島が子

參照〕

○上筒之男命うはづつのをのみこと

○上津綿津見命うはつめたつみのかみ

○後妻打うはなりうち

○後妻打の古圖考うはばみ

○後妻打の古圖考うはばみ

○蝮蛇

同

同

エ、エ

○繪合

同

○繪合の巻

○永安寺〔龍華山〕

○永緣僧正

○永觀律師

(御伽) 二七

(古事記) 二五

(古事記) 二五

(淨上) 二七

(骨董集) 二七

(平賀) 二五

(淨上) 二六

(崎人傳) 二九

(古今著) 三六

(田舎下) 一六〇

(田舎下) 一五

(江戸二) 二〇九

(宇治) 九八

(古今著) 三三

○榮花物語

○永源禪寺〔大龍山〕

○榮西

○榮西和尚

○叡山

○叡山源七

○叡山の兒〔雪と花〕

同〔年の暮の文〕

同〔思ひの物語〕〔醒睡〕 三三

○詠史〔和漢朗詠集、雜〕〔古代〕 二六

同〔新撰朗詠集、雜〕〔古代〕 三六

○叡實〔持經者〕

○永昌寺〔朝日山〕

○榮性法眼

○詠草〔わく書〕

○永代橋

同〔さわぎ〕

(曾呂利) 二五

(江戸) 二〇七

(出定) 六六

(淨中) 一四

(百人) 六六

(崎人傳) 三三

(醒睡) 二〇

(醒睡) 一四

(醒睡) 三三

(古代) 二六

(古代) 三六

(宇治) 三三

(江戸三) 四七〇

(古今著) 三三

(書翰) 三五

(江戸一) 一七〇

(近代) 二六

○永超僧都

○惠印〔藏人得業〕

○叡明寺

○榮來丹次

○永樂錢えうがし

○兄宇迦斯えうがし

○畫を知ること

○垣下えが

○ゑがば町

○易〔うらない參照〕

廣大配天地變通

配四時

易の故事緣語

○益庵法印

○ゑぐ

○江口の逍遙

○江口の遊女

(宇治) 一四三

(宇治) 三三

(宇治) 二六五

(淨下) 二六

(曾呂利) 六〇

(古事記) 二〇

(花月) 五七

(宇津上) 三三

(一休) 四〇

(禪林) 八六

(石川) 四三〇

(太閤下) 三〇四

(日記) 三五

(狹衣) 九〇

(禪林) 一九九

○浦づくし踊
占うらなひ

(近代) 四七

易のうらなひ

(宇治) 一六

政治上の疑問

(直毘靈) 二

白水翁の直言

(雅文) 一四

擧兵の機

(雅文) 三三

三依道人の占卜

(雅文) 二五

花月の占

(八文字) 三〇

占の當る事

(八文字) 二八

書判かきはんの占

(八文字) 二一

太占

(靈能) 二五

計略

(淨上) 三〇

八卦

(淨上) 三四

狸の卜者

(琦行傳) 七七

占ひ者判斷物語

(大岡) 二九

○うらのせどのや(ばや

り歌)

(近代) 四五

○裏藤

(脚下) 六六

○孟蘭盆

瓜賣の慳食

(醒睡) 一五

堺の乞食と都の乞

食

(醒睡) 二六

○裏見の瀧

(淨上) 三五

○うらわかみ(端歌)

(近代) 六七

○瓜うり

(宇津下) 四〇

○瓜の故事縁語

(石川) 四三

○郎梨うり

(水滸四) 二六

○瓜盗人

(狂言上) 三五

○うりの仁助

世上手廣き話

(窓の) 二二

娘かるたの上手

(武野) 四八

○雲林院

(宇治) 二九

同

○雲林院の櫻

(曾呂利) 五六

○烏龍嶺

(水滸四) 五九

○うるゐ川うるみか

(日記) 二六

○雲潤里うるみさと

(風土記) 四五

○閏三月(和漢朗詠集、

春)

(古代) 一八

同(新撰朗詠集、春)

(古代) 三〇

○雲箇里うるかん

(風土記) 五三

○字留嚴うるがん

(大久保) 一

○ウルガンソンうるさんじやう

(淨中) 四三

○蔚山城

朝鮮の役

(厭戎) 一九

苦戰

(太閤下) 四八

○漆

(宇津上) 二

○漆山

(日記) 八七

○うれへ文(訴狀)

(宇津上) 五九

○鱗の痣

(淨上) 一七

○浦上里

(風土記) 五五

新撰朗詠集、春 (古代) 三〇五

軒端の梅 (日記) 四七

梅の故事 (石川) 四七

三友 (石川) 四八

梅の故事縁語 (石川) 四九

南殿の櫻は本是梅 (宇治) 四七

鶯の宿 (宇治) 四九

宇治殿と公任卿 (古今著) 五〇

一院の御歌 (古今著) 五三

移植と散る花と (古今著) 五三

菅家の歌 (古今著) 五三

玄知が梅の由來 (崎人傳) 六三

其名所 (江戸四) 三三

○詠梅〔高左把〕 (和漢) 二九

○梅枝〔催馬樂、呂〕 (古代) 一三〇

同〔千鳥の曲〕 (近代) 六七〇

同〔ひらがな盛衰記〕〔淨下〕一三

同〔端歌〕 (近代) 二八

○梅が枝の手水鉢 (淨下) 一七

○梅木の里和中散 (曾呂利) 六三

○梅嫌〔倚彦〕 (和漢) 二九

○梅三郎〔荻野〕 (平賀) 三二

○梅澤 (日記) 二五

○梅澤村 (淨下) 五八

○梅揃石切〔古今ふし〕 (近代) 五七

○宇米茶屋 (江戸四) 五七

○梅千代 (醒睡) 二九

○梅長者〔鵜舟遊覽〕 (和漢) 三〇

○梅づくし〔長歌〕 (近代) 三三

○梅津の里 (田舎下) 三七

○梅壺 (宇津下) 五五

○梅壺の更衣 (宇津下) 六八

○梅壺の御息所 (宇津上) 一七

○梅のかゝる大將 (御伽) 六三

○梅の (脚上) 八九

○梅の木踊 (近代) 四七

○梅之助 (田舎下) 三一

○梅の局 (田舎上) 四九

○梅の花笠 (宇津上) 二八〇

○梅の本 (七偏人) 五五

○梅八 (脚下) 四八

○梅干 (淨上) 二八

同 (八文字) 四六

○梅屋鋪 (江戸四) 三九

同 (和合人) 四三

○梅若丸塚 (江戸四) 三三

○浦川 (日記) 九

○浦島子 (萬葉上) 四四

同 (宇治) 三六

同 (燕石) 五二

○裏佳〔狂歌師〕 (琦行傳) 六九

詩

- 馬方 (詩集) 五六一
○馬九郎 (石川) 三八一
○馬形の障子 (曾呂利) 五七〇
○うまき物 (古今著) 三四三
○馬子の崇佛 (年々) 二六七
○字麻志阿斯詞備比古 (雅文) 一九三
○味稻の翁仙女と契る (古事記) 六
○馬出、馬留 (雅文) 四二
○馬寮 (字津上) 三六三
○馬之丞 (字津上) 三六九
○右馬允 (田舎上) 七三
○馬允なにがし (字津下) 七三四
小冠を害す (古今著) 四二三
増圓法眼と連歌 (古今著) 四四四
三度なのる (古今著) 五二五

- 馬德(宴曲) (古代) 四四五
○馬槽 (字津上) 五八六
○厩戸皇子 (雅文) 一九三
○海幸彦 (古事記) 七〇
○馬弓(騎射) (字津上) 三七六
○海龜 (閑田) 二七〇
○海邊鯉 (雅文) 五三四
○海坊主 (平賀) 一八九
○鄺哥 (水滸二) 一

- 茶肆を鬧がしむ (水滸二) 一
大に授官廳を鬧す (水滸二) 二
○雲華園銘 (風俗) 一四〇
○雲岸寺 (日記) 三三
○蛤貝比賣 (古事記) 五
○雲錦亭 (遊京) 四八
○雲源 (大岡) 五八
○雲居 (窓の) 二四六

- 同 (日記) 三九
同 (窓の) 二八六
○雲光院(龍徳山) (江戸四) 四三
○雲居寺 (宇治) 四四五
○雲茶集 (石川) 四九四
○雲松院(臥龍山) (江戸一) 三四三
○雲淨法師 (一休) 五〇六
○鄺城縣 (水滸一) 五二六
○有無轉變 (心學) 三九三
○海野小太郎 (黄表紙) 二二〇
○雲鈴(蕎麥切、頌) (風俗) 二二
○雲鈴法師行狀、記(蓮二房) (和漢) 四七
○梅

- 筑紫の梅の宴の歌(萬葉上) 二四四
其精靈美人となる(平賀) 二二〇
和漢朗詠集、春 (古代) 一八四

妻よりの書翰

(書翰) 六三

○姦女朝臣

(風土記) 四〇三

○采女が原

(江戸一) 一八九

○采女塚

(江戸三) 五五三

○卯の葉重踊

(近代) 四三

○卯の花の名所

(江戸四) 四六

○卯の花山

(日記) 三九

○鵜羽黒右衛門

(脚上) 五一

○宇野豊後守

(太閤中) 六六

○宇野醜泉

(畸人傳) 六三

○姥が懷

(浄下) 三三

○姥が森

(江戸一) 四六

○優婆塞

(宇津上) 二四四

○うば玉(小うた)

(近代) 三六四

○有髪の老人

(浄上) 三三五

○乳母の忠節

(心學) 一〇三

○乳母への注意

(心學) 四一〇

○宇比地邇神 うひぢののかみ

御生成

(古事記) 六

生立及び御名の意

義

(靈能) 二三

御名の意の説明

(靈能) 二四

○右兵衛佐

(醒睡) 五

○産衣(源太拜領の鎧)

(浄下) 一五

○産神詣

(心學) 五九

○鵜舟遊覽(梅長者)

(和漢) 三二

○産養 うぶやしなひ

(狹衣) 四二

同

(宇津上) 五二

○馬

二萬ばかりの音 (古今著) 五三

涙をうかべて死す (古今著) 五七

縁浄法印の歌 (古今著) 六七

智願聖人めのとの

尼 (古今著) 六九

塞翁が馬

(古今著) 六三

走る木馬

(石川) 一九四

馬と狐

(石川) 三九

命の親

(大久保) 三三

天馬の吉凶

(雅文) 一三

馬が寝小便小僧に

弱らされし話

(心學) 六六

渚に白馬

(宇津上) 四

額白の黒馬

(宇治) 一四七

馬に能く駕する法

(禪林) 二〇八

千里の駿馬

(禪林) 五五

駿馬の骨の故事

(百人) 四八

法華栗毛

(醒睡) 三六

十念をさづかる

(畸人傳) 四三

○馬筏

(宇治) 四八

○馬養(伊與部)の詩

(詩集) 五三〇

○宇合(式部卿藤原)の

字都の山

(日記) 六六

同

(日記) 六六

同

(日記) 六九

同

(日記) 六〇

同

(日記) 三四

同

(日記) 三七

同

(日記) 三七

○うつぼぶれ〔淨瑠璃〕

(近代) 五六

同〔半太夫ぶし〕

(近代) 五三

○太秦うづまさ

(狭衣) 四六

同

(字治) 四二

○太秦錦

(田舎上) 三三

○太秦の草紙

(日記) 五五

○字受賣うづめのみこと命〔天字受賣命を見よ〕

(平賀) 三五

○うづら〔芝店〕

(平賀) 三五

○鵜

河内清七

(崎人傳) 一八九

播磨守頼明侍從

(窓の) 三四

館林の士

(窓の) 三五

芋魁との間違

(一休) 五三

萬代が池の鵜狩

(醒睡) 三九

○鵜の權兵衛

(脚下) 五九

○烏亭焉馬六十の賀

(石川) 四三

○臺うてな〔大夫〕

(平賀) 四三

○うてなが原

(淨上) 四七

○字出の法師

(古今著) 五九

○うてんつ國

(平賀) 三〇

○字度の濱

(日記) 二三

○鰐鮓

(醒睡) 九

○優疊華

(字津上) 三三

○鰐鮓の看板

(用捨箱) 八八

○右内

(脚上) 四五

○菟原處女

(萬葉上) 五九

同

(萬葉上) 五二

○髻うなをこ髪子

(字津上) 三〇

○うなぎ

伊麻子の孝

(崎人傳) 二九

月海上に浮んでは

の句

(醒睡) 三二

其良否

(日記) 五七

○海坂うなさか

(古事記) 一〇〇

○一角うにこ

(八文字) 五七

○雲濃野うねの

(風土記) 五三

○うねのの小太郎

(黃表紙) 九一

○畝火白檮原宮

(古事記) 二五

○畝火村

(日記) 四七

○畝火山

(萬葉上) 七

同

○采女〔瀬川〕

妻女書を朝鮮に送

る

(太閤下) 二五九

氏長者

(古今著) 二五七

○内田三郎家吉(ひら

がな盛衰記)

(淨下) 二三四

○宇治中納言朝雅

(曾呂利) 二五七

○打出の濱

(日記) 二五

○氏時(北條相摸守)

(淨上) 二九

○宇治殿頼通

落馬

(宇治) 一八

水龍の笛

(宇治) 四九三

顯基中納言を訪ふ

(宇治) 五〇六

平等院建立

(宇治) 五二六

實資を試む

(宇治) 五三〇

加茂の臨時祭

(古今著) 九〇

○氏長の力量

(宇治) 三三三

○氏仲

(田舎下) 三三六

○磬(唐人の連歌)

(古今著) 一三三

○内野

(萬葉上) 二

○宇治の綱代

(宇津上) 四〇

○宇治の左大臣

(宇治) 四〇

○宇治の里

(曾呂利) 二五五

○宇治の局

(淨中) 一四三

○打出濱の合戦

(太閤中) 三三

○打出小槌

(骨董集) 二二三

同(追考)

○宇治橋の合戦

(骨董集) 二四六

○宇治兵部之輔

(百人) 三

○うちまき

(脚上) 三九三

同

(宇津上) 一三二

同

(宇津止) 五八六

○氏康(靈狐の話)

(閑田) 一九三

○宇治山の古蹟

(醒睡) 二九九

○寄 扇扇戀

(百人) 八八

○團扇(賛(荆口)

(鵜衣) 八七〇

○團賛(馬泉)

(風俗) 二二六

○四月神衣祭

(祝詞) 三五七

○うつし(移し鞍)

(宇津上) 六〇

○宇都志國玉神

(古事記) 四四

○宇津志日金拆命

(古事記) 二五

○空蟬の巻

(田舎上) 一〇八

○内津草

(鵜衣) 八五〇

○渦浪

(田舎上) 一六〇

○宇津宮

(日記) 二〇〇

○宇津宮慈心院

(日記) 一四三

○宇都宮騷動之記

(大久保) 一

○宇津宮藤綱

(雅文) 三三〇

○宇都宮彌三郎

(八文字) 五三

○宇津宮由的

(先哲) 二七

○宇豆毘古

(古事記) 一〇三

○空洞

(宇津上) 三

○靱猿

(狂言下) 四四四

○宇都の山

(日記) 三二

薄雪(琴唄)

(淨上) 二四

同(東雲の曲)

(近代) 六七

薄様

(字治) 四七

薄葉

(字津上) 六六

羽扇

(平賀) 二五

○うそかへ鬼取

うそしつかりがんよりちやう

(百人) 二四

○陸多雁取帳

(黄表紙) 四五

○うそつき

うそひめ

(醒睡) 二七五

○驚姫

(御伽) 五二

○歌(和歌を見よ)

(淨上) 四

○歌争

(書翰) 一

○歌合の判

(醒睡) 三〇三

○歌

(右大將のむと兼雅(字津上) 六〇

○右大將道綱母

(百人) 三五

○宇多院

(字治) 三七

○歌方姫

(脚下) 六四

○歌がるた

(淨上) 三

○宇田川橋

(江戸一) 三二

○歌木

(淨中) 四六

○歌菊(竹尾の遊女)

(黄表紙) 五〇

○歌澤節

(七偏人) 五三

○歌修行の茶番

(七偏人) 五三

○歌相撲

(狂言下) 四二

○轉寝(三上り)

(近代) 二六

○歌塚

(百人) 五二

○歌塚の記(千蔭)

(うけり) 二九三

○宇多帶

(百人) 一五

○宇陀の血原

(古事記) 二〇

○雅樂寮

(字津上) 三九

○宇治

(淨上) 五〇

同

(淨上) 五三

同

(日記) 五〇

○氏有の放鷹樂

(古今著) 一五五

○討入後大高源吾より

(書翰) 二七

水間沾徳へ

(書翰) 二七

○討入の前日大石良雄

(書翰) 六九

より京都の友へ

(書翰) 六九

○氏家伯壽

(崎人傳) 五三

○内川

(江戸三) 三六

同

(江戸四) 三六

○宇治河

(萬葉上) 六六

同

(遊京) 三九四

同

(曾呂利) 五七

○宇治川の合戦

(百人) 六四二

○宇治川の先陣

(八文字) 五九

○内沙汰

(狂言上) 九

○宇治左大臣頼長

(宇治) 一四

以長の物忌

(宇治) 三〇

以長の禮節論

(宇治) 三〇

頼政に歌をもとむ(宇治) 四九

○請狀

(石川) 四二

○有卦初踊

(近代) 四二

○有卦無卦

(閑田) 六

○右近

(百人) 二七

同

(太閤中) 三六

○右近の君

(狹衣) 四六

同

(宇津下) 四九

○鷗坂河

(萬葉下) 四〇

○兎の大手柄

(燕石) 三八

○宇佐の郡〔豊前國〕

(淨上) 二三

○宇佐の使

(宇津上) 三三

○宇佐美定翰

(雅文) 三三

○宇佐美瀧水

(先哲) 二六

同〔某へ短文〕

(書翰) 二二

○宇佐山城の合戦

(太閤上) 三六

○牛

力強き牛の話

(宇治) 二六

不思議の記

(宇治) 三五

牛の故事縁語

(石川) 四六

引出物

(古今著) 五二

神物の牛

(古今著) 五九

祇園會

(古今著) 六〇

阿彌陀經をうめく〔古今著〕 六九

狂歌

(曾呂利) 六四

○牛馬

(狂言上) 四七

○海潮

(風土記) 四八

○牛込城址

(江戸二) 三七

○牛小屋

(江戸一) 三八

○牛島神明宮

(江戸四) 一九

○牛田薬師堂

(江戸四) 二三

○牛天神社

(江戸二) 五九

○大人といふ詞

(年々) 三四

○牛の舉丸

(大久保) 四三

○牛御前王子權現社

(江戸四) 一七

○牛御前王子權現社の

雪

(江戸四) 四八

○牛之綱〔古今ふし〕

(近代歌) 四六

○宇島門

(日記) 一六

○牛まど踊

(近代) 四三

○有心の族

(宇津上) 六七

○牛若丸の奥州下り

(御伽) 四七

○臼

(宇津上) 四八

○碓井

(風土記) 三九

○碓氷峠

(鶺鴒衣) 八六

○臼杵〔説佐俗山〕

(和漢) 四三

○うすぎの八郎

(黄表紙) 九二

○薄雲〔大鷹の名〕

(淨上) 八七

○うすけぶり〔長歌〕

(近代) 五七

○薄衣〔琴歌〕

(近代) 六八

○碓女

(古事記) 七三

○薄雪〔女の名〕

(田舎下) 一四

○上野谷中 (日記) 二八

○卯右衛門御手討の事(女太平) 六

○卯右衛門の話 (心學) 一六七

○魚(百魚譜) (鵜衣) 六三三

○魚市 (江戸一) 六二

○魚を斗々といふ (骨董集) 三〇

○魚養(遣唐使の子) (醒睡) 二二

同 (宇治) 四三

○魚說法 (狂言下) 三一

○魚づくし (七偏人) 五九

○魚津城の戦 (太閤中) 三七

○魚鳥あんばいよし (黄表紙) 一

○鵜飼 (宇津上) 一五

○鵜飼の謡曲 (田舎下) 三八

○宇迦之御魂神 (古事記) 四

○宇賀郷 (風土記) 四七

○鵜萱葺 不合命 (古事記) 一〇〇

○浮れ女(端歌)

○浮穴郷 (近代) 二五

○浮木の龜 (風土記) 五八

○うきくさ(長歌) (淨上) 六

○浮島ヶ原 (近代) 五〇

同 (日記) 二七

同 (日記) 二七

同 (日記) 三七

○浮島の村 (風土記) 五三

○浮洲(實は春次) (淨上) 六〇

○浮田直家 (太閤上) 五三

○浮田秀家 (太閤下) 六

○浮橋 (宇津上) 三八

○浮牡丹の香爐 (淨中) 六五

○浮世繪 (日記) 六〇

○浮世組(本手) (近代) 一四

○浮世狂ひ (田舎上) 六

○浮世小路 (江戸一) 六

○浮世言葉(古今ふし) (近代) 四八

○浮世渡平 (淨下) 三〇

○うきれ(長唄) (近代) 三二

○浮世袋 (骨董集) 四

同 (骨董集) 八

○浮世又平の女繪 (田舎上) 五九

○鶯(和漢朗詠集、春) (古代) 一八

同(新撰朗詠集、春) (古代) 三三

同 (狂言下) 二六〇

同(渡白狂) (和漢) 五三

同(伊勢武者の話) (宇治) 五〇四

○愛鶯(辨苗宰陀) (和漢) 四三

○鶯谷の櫻會 (石川) 四三

○鶯の關 (日記) 二四三

○鶯の名所 (江戸四) 五九

○鶯ひめ (黄表紙) 八

○岩つき

(日記) 二〇六

同

○石土毘古神

(醒睡) 二九四

○石筒之男神

(古事記) 二二

○岩手の里

(古事記) 一七

○岩手

(浄上) 二七三

○岩手の里

(日記) 三三

○岩手の館

(浄中) 四六

○岩殿明神

(日記) 一六

○岩飛

(日記) 四四

○岩永左衛門

(浄下) 四九

○岩永黨

(浄中) 一〇

○石長比賣

(古事記) 八

○岩成主税

本國寺を攻む

(太閤上) 二七

討死

(太閤上) 四八

○岩沼

(日記) 三六

○岩根

(田舎上) 四三

○貽和里

(風土記) 五九

○石之日賣

命の嫉妬(古事記) 三三

○岩藤

(浄下) 四六

○岩淵村の關藏

(心學) 二三

○磐船

(靈能) 三六

○伊和里

(風土記) 五五

○石海里

(風土記) 五六

○石見三首(國風)

(近代) 四

○石村村主

(雅文) 四六

○岩屋不動

(曾呂利) 六七

ウ

○鵜

(宇津上) 四六

○初産の祝物

(大久保) 三三

○外郎(小田原の名物)

(日記) 二七

○殖髮聖德太子室

(江戸四) 四二

○植木の市

(石川) 三五

○上島主水の鎗法調練(太閤上)

八五

○上杉右内之助

(脚上) 二八一

○上杉鷹山公

(書翰) 一九二

○上杉景勝

(書翰) 一九二

自ら斥候となる

(太閤中) 三六一

評議

(太閤中) 四三五

○上杉山人

(窓の) 一六七

○上杉爲景

(醒睡) 三三

○うへすぎの僧都

(古今著) 四三

○上杉春太郎

(脚上) 一五〇

○上田秋成

(俳句集) 五五

無腸句集

(俳句集) 五五

松村月溪の手紙

(書翰) 一五八

春海がもとより

(琴後) 六六

○植槻(神樂歌、小前張)(古代)

一四

○上野

(年々) 三二

○上野下寺の椿

(江戸四) 三八

○彌高山
○彌行いやはき
(日記) 一六
(宇津上) 四〇

○伊豫
(宇津上) 二四三

○伊豫五首〔國風〕
(近代) 二〇二

○伊豫簾
(宇津上) 二一八

○伊豫入道
(古今著) 三五五

○伊豫之二名島
(古事記) 二

○伊良虞島いらたかず
(萬葉上) 二

○苛高數珠
(田舎上) 二七

○入相
(淨上) 三

○入江
(淨上) 三三

○入舟風之助
(淨上) 二七

○入間川
(日記) 二二

同
(日記) 三七

同
(狂言上) 四七五

○入間詞
(脚上) 三五五

○いれかた
(脚上) 五八

○入墨〔親子の異見〕
(八文字) 七
同〔狐つき畏る〕
(年々) 三〇五

同〔相撲の鯨〕
(石川) 三六〇

○色
(禪林) 四七

○色香〔長歌〕
(近代) 三三

○いろといふ衣
(年々) 三四

○伊呂波
(狂言下) 三三

同〔古今ぶし〕
(近代) 四七

○いろは歌
(鶉衣) 八七

○いろは假名四谷怪談がなよつやくわいだん
(脚下) 一七

○紅楓 累物語いろもみちかさねものかたり
(脚下) 三二

○祝〔和漢朗詠集、雜〕
(古代) 二六七

同〔新撰朗詠集、雜〕
(古代) 三九

○祝木
(骨董集) 一四

○石井神社
(江戸二) 二四

○祝草紙
(田舎下) 一六五

○岩井原
(日記) 二〇

○岩吉
(脚下) 三四

○岩城山
(淨上) 二七

○岩國家勇次郎
(淨下) 二五

○岩くら川〔越中〕
(日記) 八四

○岩倉公〔孝九よりの手紙〕
(書翰) 五八

○石拆神いはさくのかみ
(古事記) 一七

○鰯を紫といふ
(醒睡) 二

○石清水
(淨上) 四七三

同
(字治) 五〇〇

○石清水八幡宮〔大倉前〕
(江戸三) 四六

○いばしろの結び松
(淨上) 一四〇

○石巢比賣神いはすめのかみ
(古事記) 二

○岩瀬伴藏
(脚上) 四三

○岩田左太夫
(淨下) 二四

○石足〔石川朝臣〕の詩〔詩集〕
(詩集) 五二

○隱居の説

(八文字) 一一〇

○九蒸天皇

(古事記) 二五五

○隱居辯

(鶉衣) 六五二

○院號

(年々) 二六六

○院司

(宇津上) 四二〇

○隱士石臥(博學)

(畸人傳) 三三五

○隱者の大小

(禪林) 二一九

○飲食(酒參照)

食者人之本也

(古今著) 五五四

喰自慢

(八文字) 一〇

喰合せ

(八文字) 四三九

飲食と忠孝

(禪林) 一四四

美食と出家

(禪林) 一五四

物忘れする食物

(石川) 三四九

○飲食色欲箴(許六)

(風俗) 三三九

○殷天錫

(水滸二) 六五三

○印度に關する説

(出定) 五〇六

○陰德の滑稽

(七偏人) 六〇〇

○隱德の話

米屋與左衛門

(畸人傳) 二〇一

室町宗甫

(畸人傳) 三六八

佛佐吉

(畸人傳) 四四三

高戸善七

(畸人傳) 四四〇

澤井知明

(畸行傳) 六五九

○殷富門院大輔

○忌部海道

(雅文) 五二二

○忌部神戶

(風土記) 四三六

○陰陽

(心學) 五〇三

○陰陽之數

(燕石) 五九四

○隱倫(新撰朗詠集、雜)

(古代) 三六九

○印籠

(平賀) 三三三

同

○薯蕷

(八文字) 五二四

○芋

(宇津上) 五三

○いもひ精進

(宇津上) 二〇二

○芋魁と鶉の間違

(一休) 五五三

○妹之門(催馬樂、呂)

(古代) 三九

○薯蕷粥

(宇治) 三

○芋川

(用捨箱) 八〇八

○伊文字

(狂言上) 二〇一

○鑄物師

(宇津上) 三九

同

○いもせ川

(古今著) 四九

○妹背島

(宇津下) 二四一

○いもせ海苔

(字治) 二七

○妹背山

(書翰) 一三七

○妹と我(催馬樂、呂)

(日記) 四三七

○芋之子踊

(日記) 四三七

○芋の山

(近代) 四七一

○芋掘僧

(用捨箱) 七五

○いもりの黒焼

(醒睡) 二六

(淨上) 二七

○井米度あひか

(古事記) 二〇八

○氣吹いぶきの狹霧さやり

(古事記) 三三

○伊吹山(美濃國)

(宇治) 三九

○衣服

京の妓

(日記) 五二

古著のいろく

(石川) 五九

木綿布子生布帷子(心學) 五三

○伊福田寺いふくでん

(日記) 四七

○伊賦いふさ夜坂やさか

(古事記) 三三

同

(靈能) 二五四

○訪ま以文辭

(鶴衣) 七二

○伊平治

(淨中) 五五

○伊兵衛盜賊自訴の事(大岡) 六八

○伊兵衛佐兵衛の狂言(心學) 二九

○今井古城址

(江戸二) 一四六

○今川氏眞

(太閤上) 四七〇

○今川橋

(江戸一) 六

○今川義元

富士川の戦

(太閤上) 三二

桶狹間の戦

(太閤上) 二八

○今切

(日記) 一九三

同

(日記) 二六八

同

(遊京) 三九〇

○今こそその宮

(宇津上) 七三

○今田萬次郎

(脚上) 四三

○今道心

(淨上) 六八

○今戸八幡宮

(江戸三) 五五

○今戸焼

(平賀) 二八一

○今出川内府(光圀より)

の手紙

(書翰) 一八

○今の浦

(日記) 六四

○今姫君

(狹衣) 六五

○今参

(狂言下) 二八三

○今参りの女

(花月) 五八六

○今参の侍

(宇治) 四六五

○今宮

(宇津上) 二〇〇

○今宮の祭

(心學) 三九五

○今物語

(宇治) 四五一

○今山

(風土記) 四五四

○今様

(古代) 一五五

同(佳吉)

(醒睡) 二三

同(平太夫ぶし)

(近代) 六五五

○今様歌

(狹衣) 四九四

○井見庄殿

(醒睡) 三九

○忌服と汚穢

(年々) 二三

○いん(琴)

(宇津上) 六五一

○讀よみ隱逸傳(佐其玉)

(和漢) 五三〇

○因縁果報

(心學) 二五四

○因果を知る事

(禪林) 二〇五

○胤海僧正の狂歌

(窓の) 二四〇

○因果地藏

(淨中) 四九七

○伊農郷 いぬのさと

(風土記) 四三

○井上利勝の仁政

(江戸著) 四九

○伊努郷 いぬのさと

(風土記) 四七

○井上正任室の話

(窓の) 一二

○伊努比賣 いぬひめ

(古事記) 六

○井上通女

(窓の) 二七

○犬張子

(田舎上) 二九

奇才

(窓の) 二七

○犬淵藤内

(浄下) 五八

東海紀行

(日記) 二五

○犬宮(仲忠の子)

(宇津下) 七〇

歸家日記

(日記) 二六

○犬目の少將

(百人) 四六

略傳

(崎人傳) 五三

○犬山伏

(狂言下) 一七

○井頭池、同辨財天宮(江戸二)

五九

○惟然

○亥の子

(田舎上) 四九

句集

(俳句集) 三三

○猪

赤猪の詭計

(古事記) 四九

貧讀

(俳句集) 三七

猪の像

(風土記) 四三

椎葉文の事其他の

稻葉山

(太閤上) 一八〇

逸話

(俳句集) 三八

樵者久兵衛を咬む(崎人傳)

一八〇

奇行

(崎人傳) 五九

雄略天皇

(古事記) 二六

○井上新左衛門

(浄下) 二四

○伊之助

(脚 下) 五五

○井上次郎

(浄下) 二五

○猪之助の水瓶

(崎行傳) 七九

○井上大九郎

(太閤上) 三九

○井彈正

(平賀) 四八

○命

長壽の故事

(石川) 四六

同

(石川) 四六

同

(石川) 四六

同

(石川) 四六

長壽を食る親父

(八文字) 五五

人の命數

(禪林) 三八

命根

(禪林) 四一

○命の無心

(大久保) 三九

○石押分の子

(古事記) 一〇八

○伊八の妻

(心學) 三三〇

○伊庭の十藏

(浄下) 四三

○伊原川

(日記) 二七九

○茨城郡

(風土記) 三九三

○いばら左衛門

(黄表紙) 九三

○庵原左衛門の物語

(八文字) 五九

○稻舟姫あなべのすみなは (田舎上) 二〇四

○猪名部墨繩 (石川) 一四七

○稻穂の湖水 (日記) 二〇六

○蝗いなじしを呑むいたみのこはり (禪林) 五九三

○印南郡 (風土記) 五二二

○稻村 (日記) 四〇

○稻荷塚狐會〔所作〕 (近代) 五二

○稻荷塚四つ門〔所作〕 (近代) 五二

○稻荷のいろく (平賀) 五二

○稻荷參〔古今ふし〕 (近代) 四八

○稻荷山 (日記) 五九〇

○稻荷山の松茸と丹波 (心學) 一八五

○松茸 (和漢) 二九〇

○擬古〔張昇角〕 (醒睡) 三六

○犬 (醒睡) 三六

○文官の犬 (醒睡) 三六

○鳴子の露 (醒睡) 三六

天台と眞言 (醒睡) 二七四

御劍の石附 (古今著) 五九六

右兵衛尉康忠 (古今著) 六〇六

月に三度の精進 (古今著) 六二四

毎月十五日には斷

食 (古今著) 六二五

呪咀を知る (宇治) 四四

御堂關白の愛犬 (宇治) 五〇一

迷ひ犬の話 (心學) 二六

町内の彪犬ひょう (心學) 三四六

犬の聲 (石川) 三四六

神田旅籠町犬の煩

ひ (女太平) 二九

主の難を救ふ (窓の) 六九

犬の智 (閑田) 二五

白犬の話 (近代) 五四

泥坊と談判 (黄表紙) 一六〇

法力くらべと握飯 (一休) 四四

無筆の狗 (曾呂利) 六四九

○いぬ〔仲忠の子〕 (宇津下) 一六

○乾の館 (田舎下) 四四三

○大石の詞 (遊京) 三九〇

○大追物上覽の地 (江戸三) 三九

○大飼 (宇治) 五三

○犬上王〔治部卿〕の詩 (詩集) 五二五

○犬神つかひ (閑田) 二〇九

○犬吉 (田舎上) 一六五

○犬神人 (閑田) 二〇八

○犬嶽むく平 (田舎上) 二四七

○犬山領の騒動 (太閤上) 九四

○犬千代 (丸根の城に赴く) (太閤上) 二九

○犬の糞説經 (力戦) (太閤上) 二三

○犬の糞説經 (宇治) 一六七

並河天民を評す

(畸人傳) 三六

○懿德天皇

(古事記) 二三

○糸櫻

(日記) 四三

○絲毛の車

(宇津上) 三七

同

○糸竹初心集

(狹衣) 三七

○糸路

(近代) 二九

○井戸茶碗

(田舎上) 四一

○いとゞの明神

(醒睡) 三三

○暇の袋

(淨下) 二四

○いとまぶみ

(狂言上) 三五

○糸屋娘踊

(宇津上) 三三

○絲結の御凡帳

(近代) 四六

○糸遊

(宇津上) 三七

○糸縷(さるがう)

(脚上) 四〇

○田舎道者

(骨董集) 一六

○田舎の兒櫻ちこの散るな

(淨上) 五四

見て泣く

(宇治) 三

○田舎人

(宇津上) 三四

○田舎人の語

(石川) 三三

○田舎人とかたらひし

(宇治) 四四

女の歌

○稻河大夫

(日記) 二四

○稻毛直道(春海よりの

書)

書)

○稻毛藥師堂

(琴後) 六七

○稻毛の前司

(江戸二) 二四〇

○伊那佐の小濱

(淨中) 三六

○飯梨いなし郷のさと

(古事記) 七

○稲田宮主須賀八いなだのみやぬすがのやっ

(風土記) 四四

耳神みみのかみ

○稻田姫の舊跡

(古事記) 四四

○稻妻郷助

(閑田) 三六

○稻積山

(淨下) 二

○井奈野(神樂歌)大前

張)

張)

○猪名野谷

(古代) 二〇

○稻葉伊勢守の變死

(田舎上) 四三

○稻葉一徹齋

(窓の) 二六

義景を殺さしむ

(太閤上) 四三

鉢伏の城を攻め落

す

す

○因幡堂

(太閤上) 四六

○稻羽の素兎

(狂言下) 三八

○稻羽の八上姫

(古事記) 四七

○稻葉正勝

(古事記) 四七

○稻葉山合戦

(窓の) 二五

○因幡六首(國風)

(太閤上) 四八

○稻氷いなひのみこと命

(近代) 九

○稻生若水

(古事記) 一〇

○稻舟

(崎人傳) 四六

(平賀) 五九

○一本松 (江戸二) 四
 ○一品の宮 (狭衣) 二六七
 ○泉川 (日記) 三六三
 ○出海左衛門 (淨下) 三三
 ○和泉式部 (醒睡) 一八三
 夫婦喧嘩
 道命阿闍梨との關
 係 (宇治) 一
 貴布根詣 (宇治) 五三
 貴船の螢 (古今著) 二四九
 稻荷詣に禊あをかる (古今著) 一七三
 むかし捨てたるわ
 が子と契る (御伽) 三五
 其略傳 (百人) 二九九
 佛道に入る (曾呂利) 二四四
 (宇津下) 七二四
 ○泉殿
 ○和泉二十一首〔國風〕(近代) 五三

○和泉國の地頭 (醒睡) 四
 ○出水里いづみのみさと (風土記) 五八
 ○泉八左衛門 (窓の) 四三
 ○和泉屋多左衛門〔興話
 情浮名横櫛〕 (脚下) 四三
 ○出雲〔乳母〕 (狭衣) 一八
 ○出雲神戶かんべ (風土記) 四三
 ○出雲杵築大社 (古事記) 九
 ○出雲寺 (宇治) 三六
 ○出雲四首〔國風〕 (近代) 九三
 ○出雲の大川 (風土記) 四七三
 ○出雲の國 (淨上) 二三
 ○出雲の故事緣語 (石川) 四五
 ○出雲國造神賀詞いづものくにつとこかははぎのことば (祝詞) 三七三
 ○出雲郡 (風土記) 四五
 ○出雲風土記 (風土記) 四五
 ○伊豆屋 (脚下) 五九

○出居いでる (宇津上) 一三四
 ○井手の里 (淨中) 四一
 ○井戸 (淨上) 二三
 ○ゐといふ詞 (年々) 二四
 ○伊藤一刀齋 (窓の) 一九
 ○伊藤介亭 (畸人傳) 一八
 ○伊藤喜兵衛 (脚下) 一八
 ○伊藤仁齋 逸話 (窓の) 二六
 閑齊を評す (先哲) 三
 略傳 (先哲) 七
 ○伊東恕 愛牡丹 (和漢) 二九
 遊女泣老 (和漢) 三三
 杓子ノ頌 (和漢) 四三
 ○伊藤東涯 略傳 (先哲) 七

由誓へ述懐

(書翰) 三六

發句集

(俳句集) 六三

○一齋〔佐藤〕

其の詩

(詩集) 三七

大鹽平八郎へ

(書翰) 三三

齊昭の狀

(書翰) 四六

○一山

(歌戎) 二六

○伊豆三首〔國風〕

(近代) 五五

○伊豆山の櫛

(用拾箱) 六九

○一色郡領持廉

(田舎上) 三九

○一色多京泥廉

(田舎下) 三九

○一色亭記

(鶴衣) 六二

○出石宅右衛門

(脚下) 二八

○一心太助

(脚下) 二八

素性

(大久保) 三三

内藤長屋へ病氣見

(大久保) 三三

舞

(大久保) 三三

五郎兵衛問答

(大久保) 二五

御殿用達

(大久保) 三八

○一寸法師

(御伽) 六三

○一寸法師の祖先

(古道) 四六

○一世の源氏

(宇津上) 三

同

(狭衣) 四四

○五瀬命の御負傷

(古事記) 一四

○一僧の靈

(閑田) 五五

○一蝶梨一

(畸人傳) 五〇

○一蝶寺

(江戸四) 四一

○井筒

(平賀) 四七

○井筒女之助

(脚下) 六四

○五つのうばさ(さわぎ)

(近代) 六七

○井筒屋

(浄下) 三九

○一徳

(脚上) 二五

○一徳辯

(鶴衣) 七六

○五伴緒

(古事記) 八三

○幻術の祕文

(浄上) 四六

○飯繩、放下

(平賀) 二七

○伊豆の海

(燕石) 五七

○伊都の尾羽張

(古事記) 一八

○伊都之尾羽張神

(古事記) 七四

○伊豆國歌

(萬葉下) 三三〇

○伊豆十郎

(八文字) 五五

○伊豆の島

(宇津上) 一八

○いづの次郎

(黄表紙) 五五

○伊豆の國府三島神社(日記) 三

○伊豆能賣神

(古事記) 三五

○いつの夕べ(端歌)

(近代) 二六

○一筆啓上火の用心 (大久保) 三八

○一過上人尼と紹巴 (曾呂利) 六〇

○一保が講釋

(浄上) 四四

○一本榎

(江戸二) 四〇

○一念の萌 (心學) 二三

○一の上かみ〔百官の首班〕 (字津下) 四六

○一の關侯〔大瓢より

意見書〕 (書翰) 四三〇

○一の谷の大松明 (心學) 一二

○一の内親王〔女一宮〕 (字津上) 四三

○一宮大明神社 (江戸二) 四八

○櫟の本いちもと (淨中) 四三

○市野屋〔丹前古今ぶ

し〕 (近代) 四五

○市場 (日記) 四八

○土齒池ちまの池 (風土記) 五九

○一番鶏踊 (近代) 四三

○市兵衛の忠義 (窓の) 三

○市邊王の御遺骨 (古事記) 二八三

○一枚繪 (平賀) 二八一

○一枚起請 (淨上) 四九

○市松 (淨中) 五〇

○一幡君 (淨中) 一

○一味齋 (淨上) 四〇

○市村座 (平賀) 二五

○市女笠 (田舎上) 三七

○一文奴 (淨上) 一五

○一目連 (日記) 六三

○市彌禿 (淨上) 一八

○一夜かゞみ〔さわぎ〕 (近代) 三八〇

○銀杏八幡宮 (江戸三) 四九

○一來法師 (淨上) 三七

○一老翁畫賛 (鶴衣) 七八

○市腋の景 (日記) 九

○一學〔荳葉桑門筑紫

轍〕 (淨上) 五

同彦山權現誓助劔〕 (淨上) 四七

○一休

佛鬼軍 (禪林) 九

水かゞみ (禪林) 元

一休和尚法語 (禪林) 五

各種の逸話 (一休) 三七七

一休咏詠 (燕石) 三七九

一休和尚の宛 (閑田) 八三

正筆の掛物 (心學) 三五

母の激勵 (書翰) 二六

○齊内親王奉入いつきのひめみこをいれたてまつる

時 (祝詞) 三四

○一空〔猿蓑〕 (和漢) 四三

○嚴島 (日記) 一六四

○嚴島内侍 (百人) 五六

○一向宗 (淨上) 一八三

○一向宗一揆 (太閤上) 二二〇

○一向無忠太 (脚下) 五四

○一茶〔俳諧寺〕

○馳のなき間の鼠

(字津下) 三六

○いたちのまと

(字津下) 三三

○いたつき

(字 治) 二九

○回達里いたてのさと

(風土記) 五八

○韋駄天宮

(江戸二) 二三

○韋駄天走り

(浄 上) 九

○板橋驛

(江戸三) 三

○板橋原

(江戸三) 三

○板昌則知

(田舎上) 一四二

○板風呂

(骨董集) 二三

同

(字 治) 四八

○伊丹城の合戦

(太閤上) 五四

○異端

(禪 林) 二三

同

(心 學) 四九

同

(心 學) 五三〇

○板屋形の車

(字津上) 一六

○櫟いちひ

(字津上) 五

○一院嵯峨院

(字津下) 七三

○一翁松平春嶽

(書 翰) 五五

○一學三使の間答

(大久保) 四〇〇

○市ヶ谷八幡

(江戸二) 四七

○市ヶ谷八幡宮の雪

(江戸四) 四九

○市川才牛の傳

(江戸著) 四九

○市川城址

(江戸四) 三八

○市川團十郎

(黃表紙) 一四

○市來島比賣命いちきしまひめのみこと

(古事記) 三

○一行院永固山

(江戸二) 二七

○一石橋

(江戸一) 六〇

○市五郎母へ遺書

(書 翰) 五三

○市左衛門富田屋

(脚 下) 八

○一字のだい長歌

(近代) 五七

○一乗寺僧正

(字 治) 一六

○一乗の法

(心 學) 三七

○市助

(脚 下) 五〇

○一代藏經

(禪 林) 四三

○一條

(字津上) 七〇

○一條院

(字 治) 四九

○一條院行幸

(古今著) 五五

○一條院の姫宮

(狹衣) 一五

○一條院の崩御

(狹衣) 一三

○一條棧敷屋の鬼

(字 治) 三〇

○一丈青尾三娘

(水滸二) 五二

○一條攝政

(字 治) 二九

同

(字 治) 一三

○一條殿

(字津下) 五八

○一條の北の方

(字津上) 一七〇

○一條の辻

(醒 睡) 二六

○一條の辻札

(一 休) 四九

○一條の宮

(狹衣) 二六

○市塚左十郎

(脚 下) 八

○一二の橋

(燕 石) 三三

○いせのくまだかばり

〔端歌〕

(近代) 六〇九

○伊勢の小米籬

(骨董集) 一六五

○伊勢の風呂吹

(骨董集) 三

○伊勢人〔風俗〕

(古代) 一五三

○いせぶし

(近代) 一六三

○伊勢参〔伊勢参宮参

照〕

(平賀) 五〇五

○伊勢のみやめぐり踊〔近代) 四七〇

○伊勢武者

(宇治) 五〇四

○伊勢物語

その繪卷

(狹衣) 三

同

(石川) 八

其内容

(百人) 一四九

其考證

(日記) 五五

同〔宴曲〕

(古代) 四三

○伊勢流〔貞丈の學派〕〔古道) 四三

○磯五郎

(石川) 四〇九

○磯崎

(脚上) 一六五

○五十猛神

(靈能) 二七〇

○五十の御賀

(古今著) 四〇九

同

(古今著) 四二二

○磯菜

(田舎上) 三五四

○磯の清水

(江戸一) 三六

○磯之丞

(浄中) 五九

○磯の前司

(浄下) 三六

○磯野丹波守信長に降

る

(太閤上) 四〇二

○磯八兄弟

(崎人傳) 四七

○伊羅太神宮

(江戸一) 一六三

○磯谷伴左衛門

(脚下) 八七

○磯等〔神樂歌、小前張〕〔古代) 一〇三

○伊曾良々崎

(一休) 五六

○板井の清水

(宇津上) 三七三

○板倉勝重

(崎人傳) 六〇八

落し金のさばき

(窓の) 一四三

京都所司代任命

(大久保) 二〇九

○板倉重昌

(日記) 五九

○板倉重宗

(大久保) 二〇九

○板倉所司代

(大久保) 五九

大久保を疑ふ

(醒睡) 一三

理非の決斷

(醒睡) 一三

○板倉周防守財産争の

(醒睡) 一四

批判

(和漢) 四七

○板倉内膳正

(和漢) 四七

申石谷十藏狀

(伊達) 四四

原田甲斐手入の事〔伊達) 四四

○板來里

(風土記) 五九

○板崎出羽守の謀叛

(大久保) 四六

○板敷山

(日記) 二三

○板部

(年々) 五八

萱野三平より大石

良雄へ (書翰) 二〇九

萱野三平より父へ (書翰) 二〇

原總右衛門の母より

り總右衛門へ (書翰) 二三

武林唯七の母より

唯七へ (書翰) 二三

岡本みちより父母

へ (書翰) 一九六

山口藤女

(書翰) 三二

宇津木静區より父

へ (書翰) 三六

蓮田市五郎より母

へ (書翰) 三三

平野國臣より父へ (書翰) 三三

○衣裳惜み (八文字) 三二

○衣裳は禮の標示

(閑田) 一八九

○石原正明〔春海より

の書〕 (琴後) 六五

○鵬の鶯 (淨上) 一五

○五十鈴の宮 (古事記) 八三

同 (遊京) 四三

○息栖明神 (近代) 七三

○伊須餘理比賣 (古事記) 二六

○石動山 (日記) 八四

○伊勢 家を賣る (百人) 二六

同 (曾呂利) 五三

○伊勢〔國風〕 (近代) 五八

○伊勢海老 (醒睡) 三六

○伊勢大輔 (百人) 三九七

○伊勢音頭 戀 渡刃 (脚上) 五四

○いせき踊 (近代) 四四

○伊勢三郎義盛 (淨下) 三四

○伊勢參宮 (畸人傳) 四七〇

○意專老人 (俳句集) 三三三

○伊勢太神宮〔祝詞〕 (祝詞) 三五五

同〔其莊嚴〕 (遊京) 四〇一

同〔靈岸島〕 (江戸一) 一六三

○伊勢地 (日記) 四二

○伊世傳 (和合人) 四〇五

○佐勢貞丈 (古道) 四三五

伊勢學派 (古道) 四三五

發心を勧められし

時の歌 (靈能) 三五二

○伊勢の蟹 (宇津下) 四五〇

○伊勢の海〔催馬樂、律〕〔古代〕 二三四

同〔催馬樂の曲名〕〔宇津上〕 三九六

○伊勢の好事家 (日記) 六五九

○伊勢之櫛田〔はやり

歌〕 (近代) 四八二

○石火矢

(淨上) 三七三

同

(淨中) 四三三

○いしぶし〔魚〕

(字津下) 四三四

同

(田舎下) 五二七

○石邊

(日記) 二九二

○石部金吉郎

(平賀) 七

○石部の宿

(淨下) 二九六

○石巻の前齋

(田舎上) 三五五

○石佛半助

(脚下) 四九

○石巻山

(日記) 三九

○石枕の由來

(日記) 二〇七

同

(江戸三) 四〇四

○石村檢校三味線を作

(近代) 二三八

る

○石森鷗庵

(脚上) 二四七

○醫者

(琦行傳) 七三三

見かへり醫者

(日記) 一九九

醫者の不養生

(平賀) 二九三

匙人を殺す

(石川) 二九六

俄醫者

(八文字) 一三三

女醫者の言

(八文字) 二五八

儒醫の言

(八文字) 四四四

療治より詞の七加

(八文字) 四四四

減

(八文字) 五九

蔽醫者の講譯と療

(八文字) 五九

治

(八文字) 五九

名醫とは何ぞ

(心學) 五三三

醫者の道

(心學) 五四

醫者の高慢

(花月) 五〇三

醫者の先見

(花月) 五〇三

醫者の心得

(花月) 五〇六

醫者二人

(花月) 五〇六

醫者の道

(花月) 五〇七

○石藥師

(日記) 一九九

同

(日記) 二九二

○醫者と石屋の間違

(七偏人) 六五〇

○石山

(字津下) 七三二

○石山の合戦

(太閤上) 四六六

○石山形の硯石

(田舎下) 五七七

○石山城

(太閤中) 一六七

○石山上人

(太閤上) 二七四

○石山寺

(石川) 一〇四

○石山寺契情大州道行(近代) 三七九

○石山の觀音

(田舎下) 二二七

○遺書(遺言參照)

(田舎下) 二二七

熊谷入道

(和漢) 四〇六

袈裟御前より母へ(書翰) 九

堀ろく子より堀半

(書翰) 六六

左衛門へ

(書翰) 六六

木村重成の妻より

(書翰) 六六

夫へ

(書翰) 六六

○漁船いさりね

(花月) 四九

○石井郷

(風土記) 五七四

○伊集院江閑

(窓の) 二七〇

○石臼鑿

(曾呂利) 六四

○石臼屋の藝助

(黃表紙) 九二

○石神

(狂言下) 八五

○石觀音堂

(江戸一) 四八〇

○石川(催馬樂、呂)

(古代) 一四三

○石川五右衛門(五右

衛門參照)

(禪林) 一六八

○石川島由來

(大久保) 一三三

○石川丈山

文武

(窓の) 二〇五

略傳、富士山の詩

其他

(先哲) 元

○石川年足朝臣の墓誌(遊京) 四三

○いしきり(二上り)

(近代) 二七七

○伊斯許理度寶命いしりどめのみこと

(古事記) 三七

天安河原の會

(古事記) 八三

天孫供奉

(心學) 四九

○石田勘平(都鄙問答)

(宇津下) 一八

○石だたみ

(窓の) 二七三

○石谷土入の眼識

(太閣上) 三四〇

○石田三成

秀吉に仕ふ

齋藤内藏介を服す

(太閣中) 三五五

成政を糺す

(太閣下) 一五五

密謀

智計秀次を陥る

田中兵部を瞞す

竹谿禪師と謀る

名護屋へ下向す

○石地藏の裁判

○石津

(淨上) 四〇三

○石塚社

(江戸二) 三四〇

○石作寺

(宇津下) 五九五

○石作里

(風土記) 五三五

○石出帶刀

(大久保) 二七三

○石動君(繁氏の子)

(淨上) 六

○石堂馬之丞

(田舎上) 七三

○石燈籠の説法

(心學) 三三三

○石留武助

(脚上) 二八

○蹴石野いしふみね

(風土記) 五七七

○いしの臺

(宇津下) 三七三

○石橋の下の蛇

(宇治) 二九

○石橋中將

(脚上) 二

○石濱

(江戸三) 五三二

○石濱古戰場

(江戸三) 五九

○石濱城趾

(江戸三) 五五

○石濱の庵にて雨中に

作れる文(千蔭)

(うけり) 二六八

池田

(日記) 二六

○いけだ〔三下り〕

(近代) 二九

○池大雅

(崎人傳) 三九

同〔九霞〕

(武野) 四二

○池大雅の妻玉瀾

(崎人傳) 三三

○池田勝政

(太閤上) 二六

○池田城の合戦

(太閤上) 二六

○池田勝入齋

(太閤中) 二六

○池田信輝

(太閤上) 二六

○池殿御前

(淨上) 二〇

○生捕鈴木

(狂言上) 二五

○いけにへ

(宇治) 一五

同

(宇治) 二二

○池の尾

(宇治) 二二

○蓮池之會合

(八笑人) 八

○いけ花の眞義

(石川) 四九

○倚彦〔岸〕

梅嶺

(和漢) 二六

闇ノ論

(和漢) 四三

○闇基〔基を見よ〕

(江戸二) 四三

○威光寺〔草原山〕

(古今著) 六三

○懿公の鶴

(直毘靈) 一八

○異國の神の道を難ず〔直毘靈〕

○異國亂争の所以

(金澤) 三一

○生駒三士

(風土記) 四六

○生馬郷

(淨上) 一八

○生駒之助〔志賀崎〕

(淨中) 三三

○伊左衛門〔藤屋〕

(日記) 一〇三

○いさゝか橋

(古代) 一六

○伊佐立奈半〔維藝〕

(古事記) 七

○伊邪那岐命

(古事記) 八

生成

(古事記) 一〇

國土建立

(古事記) 一〇

黃泉國に至る

(古事記) 一〇

○伊邪美命

(古事記) 七

生成

(古事記) 八

國土建立

(古事記) 一五

神遊

(靈能) 三三

火産靈神を生む

(淨上) 一八

本地あみだ如來

(靈能) 三五

黃泉戸喫

(八文字) 一八

○遺産争ひ

(花月) 五六

○諫と讒〔諫言参照〕

(古事記) 一七

○居寢清水

(田舎下) 二六

○十六宵

(近代) 三六

○十六夜〔あづま淨留〕

(曾呂利) 六五

同〔其語義〕

(百人) 七五

○十六夜日記

(鶺鴒衣) 六三

○十六夜賦

(心學) 三一

○覺と聾と盲

○稗栗ひかり

(字津下) 六〇

同

○伊賀越乘掛合羽いがごせりかけつば

(曾呂利) 六八

○伊香郡司いかにこほりのつかさ

(脚上) 一〇

○伊香いかに

(御伽) 五九

○伊加豆智神いかづちのかみ

(平賀) 三二

○雷岳いかづちやま

(靈能) 二四

○いかな客衆いかにきやくしゆ

(萬葉上) 八

歌

○何爲いかにせん

(近代) 四六

○いがの

(古代) 二七

○伊賀亮いかにのあきら

(脚上) 一五

○風いかにのふう

(大岡) 七

○伊香保

(黃表紙) 一六

○伊香保の道行ふり

(日記) 三四

○伊香保館端歌

(日記) 三五

○いかるが

(近代) 二四七

(古今著) 六三

○生寫いさうし朝顔話あさがおはなし

(淨上) 五七

○生膽の約束

(大久保) 三三

○壹岐(國風)

(近代) 二〇八

○威儀師

(狹衣) 一〇

○壹岐島

(萬葉下) 二九

○伊伎島の生成いぎすたま

(古事記) 二

○窮鬼いきりやう

(田舎上) 三三

○生靈いきのたま

(田舎上) 三六

○壹岐直祖眞根子いぎのあたひのおやまねこ

(閑田) 八〇

○幾いく豆ふやの娘まめふやのむすめ

(淨下) 三

○居杭いぐさ

(狂言上) 二六

○活いくさ櫛神くしのかみ

(靈能) 三三

同

○いくさの道いくさのちみち

(古道) 四七

○齋串いぐし

(花月) 五四

○幾瀬いくせ百川の妻

(字津上) 二七

○生田

(淨中) 二七

○生太刀、生弓矢

(古事記) 五

○生田の森

(淨下) 二五

○生玉いくたま

(淨上) 四三

○活玉いくたま前玉比賣神さきたまひめのみこと

(古事記) 六三

○生玉明神いくたまのあきみ

(日記) 六三

○活道岡いくちのをが

(萬葉上) 三四

○活津日子根命いくつひこのみこと

(古事記) 三

○いく春(長歌)

(近代) 二七

○幾世餅

(平賀) 一六

○豎嶺關

(水滸四) 五三

○池いけを作るといふ語の

(年々) 三七

古義

○池二川いけふたがは喜七夕よろこびしちがひ晴はれ

(和漢) 六七

○生洲

(日記) 六六

○池添孫八

(脚上) 二六

○池田

(日記) 一七

同

(日記) 一九

○飯依比古いひよりひこ

(古事記) 二

○家の二種

(石川) 四二

○家あこ君

(字津上) 三〇

○家貞

(淨上) 八一

○家島

(日記) 一六七

同

(萬葉下) 二九六

○家隆

其塔

(日記) 四九

其碑

(日記) 六二

年老いて佛に歸す(靈能) 三五〇

略傳逸話

(百人) 七九

○いへたかとかりう(家隆)

隆

(年々) 三三〇

○家隆と貞丈の歌の評(靈能) 三三三

○家綱

(宇治) 一五二

同(徳川四代將軍)

(女太平) 一六

○家成

(古今著) 四七

○家平(三重翰)

(古今著) 三六八

○家通(梅の歌)

(古今著) 一三七

○家光

將軍宣下

(大久保) 六六

彦左衛門を尊ぶ

(大久保) 六九

彦左衛門に鶴の吸

物

(大久保) 一五五

孝心

(大久保) 四三二

相撲を好む

(大久保) 四八七

重陽の節

(大久保) 五八

○家康

大久保隼人を駿府に召す

(大久保) 三

庄助の功を稱す

(大久保) 四七

本多上野介の言を用ふ

(大久保) 三

彦左衛門を死後の

名代と定む

(大久保) 七五

秀忠へ訓諭

(大久保) 六

鯉と鴨の物語

(大久保) 三二

直筆の狂歌

(大久保) 三二

大將軍

(醒睡) 三二

秀忠御臺所への手紙

紙

(書翰) 四三

其遺訓

(禪林) 五二〇

○家依

(宇治) 五二五

○伊王善逝(藥師如來參照)

照

(禪林) 一五

○伊織之介(花垣)

(淨中) 二六

○庵崎いんざき

(江戸四) 三六

○五百引石いほひきいし

(古事記) 五三

○五十日いひじふか

(宇津下) 六六

○伊賀侍從

(窓の) 三六

○伊賀(國風)

(近代) 五七

○淡島神社

(江戸一) 五五

○合柿

(狂言下) 一四

○粟田

(遊京) 四三

○粟田の陶器

(日記) 五七

○粟田口

(狂言上) 一五

同

(淨下) 三三

○粟田口善輔

(崎人傳) 五九

○粟田口大納言(忠良)

(古今著) 四七

○粟田口の別當入道

(宇治) 四六

○粟田の宮

(百人) 五〇

○粟田山

(田舎下) 二八

○淡道之穂之狹別島

(古事記) 二

○淡路(國風)

(近代) 一〇〇

○淡路島

(淨上) 四一

同

(日記) 一六

同

(日記) 二四

○粟津

今井が塚

(日記) 二六

義仲寺

(日記) 四六

粟津の原

(日記) 五

○沫那藝神、沫那美神(古事記)

一三

○あはの御前

(黄表紙) 二三

○鴨波里

(風土記) 五二

○阿波の十郎兵衛

(淨中) 三五

○安房須明神社

(江戸四) 三四〇

○阿波の徳島

(淨中) 四九

○粟の餅

(淨上) 三八

○蛇の貝

(淨上) 九五

○飽間齋藤氏戦死墓碑(江戸三)

五

○金粟酒

(平賀) 二七

○あわ雪

(閑田) 三

○あばれ風(琴の名)

(宇津上) 一九

イ 中

○居合腰

(淨上) 六

○飯石郡

(風土記) 四九〇

○飯石郷

(風土記) 四九三

○飯倉

(江戸一) 二四六

○飯倉神明宮

(江戸一) 二六

○飯匙

(宇津上) 五九

○井伊掃部頭

(女太平) 七

同

(大久保) 七〇

○飯鮓銘(吾仲)

(風俗) 一四

○藺草履

(淨上) 一五

○飯塚

(日記) 二四

○飯綱權現社

(江戸一) 五五

○井伊直政

(大久保) 八

同

(窓の) 二七

○揖保郡

(風土記) 五九

○揖保里

(風土記) 五八

○飯室山

(江戸二) 三三

○ありあけ〔端歌〕 (近代) 三三
 ○有賢大藏卿 (宇治) 一五四
 ○有難いく (心學) 三七八
 ○有難興一兵衛 (琦行傳) 八三〇
 ○有清 (宇治) 五〇九
 ○有子〔内侍〕 (百人) 五五五
 ○ありしよ〔長歌〕 (近代) 五八八
 ○有季 (古今著) 五二三
 ○有末 (御伽) 四九
 ○有栖川 (曾呂利) 六六六
 同 (狹衣) 三三三
 ○有磯〔賦〕〔源源支〕 (和漢) 三六一
 ○在繼 (古今著) 二五三
 ○有恒 (石川) 三三四
 ○蟻通 (百人) 三六六
 ○蟻通の明神 (宇治) 五〇四
 ○有教〔大炊三位〕 (淨上) 一六六

○ありのすさび〔今様〕〔古代〕 一五六
 ○在原業平〔業平を見よ〕
 ○在衛 (宇治) 五七
 ○有馬 (近代) 三六一
 ○有馬温泉 (八文字) 一九四
 ○有雅 (日記) 三三
 ○ありまの松〔古今ぶし〕 (近代) 四二七
 ○ありまの社 (宇治) 四七八
 ○有馬の湯 (遊京) 五九
 同 (宇津上) 三三六
 ○有馬則維^{のりまさ} (窓の) 三三四
 ○ありまぶし〔端歌〕 (近代) 六六七
 ○有馬涼及 (崎人傳) 一八三
 同 (崎人傳) 三六三
 ○有村金助 (淨下) 一三三
 ○有盛 (古今著) 四六六

○在良 御前の期詠 (古今著) 一二〇
 御侍讀の時に酒 (古今著) 五九
 ○或人の七十の賀の序
 〔千蔭〕 (うけら) 三六三
 ○贈或人書 (鶉衣) 七七
 ○爲或人書序 (鶉衣) 七七
 ○贈或法師辭 (鶉衣) 七三
 ○粟 (宇津上) 二二三
 同〔生成〕 (古事記) 四〇
 ○阿波〔國風〕 (近代) 一〇〇
 ○安房〔國風〕 (近代) 七
 ○淡川城合戰 (太閤上) 五〇
 ○淡川彈正定範 (太閤上) 五〇
 ○阿和佐久御魂^{あわさくみたま} (古事記) 八五
 ○淡島 (古事記) 九
 ○粟島甲斐之介 (脚上) 四四

根合せ

爲武の狀ためたけ

○葛蒲酒

○葛蒲の節句

同

○葛蒲の前

○鮎いせり篝火

○年魚釣あひり

○鮎あひりの良否

○阿川郷あや

○荒蘭が崎

○洗川

○荒井の海

○荒井の關所

○新井白石

略傳

鬼神論

(古今著) 五二

(古今著) 五五

(八文字) 四〇二

(田舎下) 五〇〇

(狭衣) 一一

(淨上) 三

(宇津下) 四四

(古事記) 一八九

(日記) 五八七

(風土記) 四九八

(江戸一) 三九三

(江戸四) 三五七

(遊京) 三九〇

(日記) 二六〇

(先哲) 八九

(窓の) 二七四

○荒蘭山(戸山)

○荒海の障子

○荒尾主膳

○荒木源五

○荒木田麗女著述書目(遊京) 四七七

○荒木山城守(馬符、文)和漢 四〇七

○荒木行重の剃髮 (太閤中) 三六〇

○荒木弓踊(古來中興踊

歌)

○荒木村重の謀叛

○荒倉丈四郎

○荒五郎(三條の)

○嵐山

同

同

同

同

(江戸二) 五二〇

(古今著) 三三三

(脚上) 二四

(淨下) 四九

(遊京) 四七七

(和漢) 四〇七

(太閤中) 三六〇

(近代) 四六一

(太閤上) 五三

(脚下) 三八

(御伽) 三三

(田舎下) 五七四

(遊京) 四〇七

(曾呂利) 六三八

(日記) 五九〇

(宇津上) 四三

同

○荒田(風俗)

○荒妙あらたへ

○あら玉といふ事

○荒灘風之助

○在根良の訓あらによし

○曠野集序(芭蕉)

○荒卷

○荒卷十左衛門

○荒卷伴作

○荒見川(紙屋川)

○顯物(宴曲)あらはすもの

○阿羅々仙人あられ

○霞あられ

同(和漢朗詠集、冬)

同(新撰朗詠集、冬)

○あられ(妙り物)

(淨上) 五六一

(古代) 一五一

(淨上) 六二〇

(年々) 二八二

(淨下) 三

(閑田) 三

(風俗) 二八

(宇津下) 一八二

(窓の) 三三

(脚上) 一五一

(宇治) 三六

(古代) 四一

(出定) 五三

(宇津下) 七五七

(古代) 三〇

(古代) 三三八

(淨上) 五二九

○天之都度間知泥神あめのつどへちねのかみ (古事記) 翌

○天之常立神あめのとこたつのかみ (古事記) 六

○天之鳥船あめのとりぶね (古事記) 一五

○天中原長常(山家鳥蟲)

歌 (近代) 元

○天詔琴あめののりこと (古事記) 四

○天一根あめのひとつね (古事記) 二

○天日腹大科度美神あめのひはらおほしなどみのかみ (古事記) 三

○天之日矛あめのひこ

渡來 (古事記) 二二

新羅王子ちめのおきをのかみ (直毘靈) 三

○天之吹男神あめのふきねのかみ (古事記) 一三

○天之葦根神あめのよしねのかみ (靈能) 二七

○天之太玉命あめのふとたまのみこと (古道) 四三

○天兩屋あめのふたや (古事記) 二

○天之冬衣神あめのふゆぎぬのかみ (古事記) 翌

同 (靈能) 二二

○天火明命あめのほあかりのみこと (古事記) 八

○天菩卑能命あめのほひのかみ (古事記) 三

○天菩比神あめのほひのかみ (古事記) 六

○天穗日神あめのほむすひのかみ (古事記) 六

○天穗日神あめのほむすひのかみ (古事記) 六

大穴牟遲神あめのほむすひのかみ (古道) 四〇

使し給ふ (古道) 四〇

御性質あめのみかぬしのかみ (古事記) 三

○天之薺主神あめのなづきののかみ (古事記) 三

○天之水あめのみくまりのかみ (古事記) 三

○天之御中主神あめのみなかぬしのかみ (古事記) 六

同 (靈能) 二二

○天若日子あめのわかひこ (古事記) 六

中國平定の使 (古事記) 六

葬送 (古事記) 三

大穴牟遲神あめのほむすひのかみ (古道) 四〇

○天比登都柱あめひとつばしち (古事記) 二

○天稚御子あめわかみこ (字津上) 二〇

同 (狹衣) 二四

○阿夜訶志古泥神あやかしこぬのかみ (古事記) 七

○綾あや (五大力戀綾、嬖子) (脚下) 一〇五

○綾あや (蘭笠) (字治) 一八五

○吾屋惶根神あやかしこぬのかみ (靈能) 三三

○あやき (字津上) 一七〇

○あやかり物 (淨上) 五

○綾助あやすけ (幫間) (脚上) 三四

○綾瀨主水之正あやせき (脚下) 四四

○綾あや (田舎上) 三三〇

○漢部あやべのさと (風土記) 五一四

○漢部あやべのさと (風土記) 五一六

○あやむしろの序あやむしろ (春) (琴後) 六二

○菖蒲あやめ (海) (字治) 四九八

○奥州になし

○安養の尼

(古今著) 四八

○安樂寺(太宰府)

(袂衣) 二六

同(梅香山)

(江戸二) 二〇

同(佛迎山)

(江戸三) 四七

○安樂寺の祭禮

(百人) 二〇

○雨

四季の情趣

(花月) 五六

和漢朗詠集、春

(古代) 一八三

新撰朗詠集、春

(古代) 三〇四

宴曲

(古代) 四七〇

手習子の歌

(醒睡) 三〇

手習ひ子

(醒睡) 三三

村雨

(袂衣) 二八〇

同

(田舎下) 六六

五月雨

(田舎下) 五五

雨の故事縁語

(石川) 四三

○黄牛あめうし

(宇津上) 三七

○飴賣

(黄表紙) 二六〇

○錫賣の笛

(閑田) 一七

○雨風

(花月) 五八

○天知迦流美豆比賣

(古事記) 六六

○天石屋

(古事記) 三

○天之石門別神

(古事記) 八三

○天之浮橋

(古事記) 八

同

(古道) 四四

○天之浮橋の考證

(靈能) 三〇四

○天宇受賣命

(古事記) 三

天安河原の會

(古事記) 三

天孫降臨の供奉

(古事記) 八三

○天之忍男

(古事記) 二

○天之忍許呂別

(古事記) 二

○天忍日命

(古事記) 八

○天忍穗耳命

(古事記) 六

中國へ任命

(古事記) 六

御生立

(靈能) 二六八

○天之尾羽張

(古事記) 一八

○天迦久神

(古事記) 七四

○天香山

(古事記) 三七

○天之久比奢母知神

(古事記) 二三

○天之闇戸神

(古事記) 二四

○天兒屋命

(古事記) 二七

天安河原の會

(古事記) 二七

天孫供奉

(古事記) 八三

藤原氏の祖

(古道) 四三

○天之狹霧神

(古事記) 二四

同

(古事記) 六三

○天佐具賣

(古事記) 七二

○天之狹土神

(古事記) 四四

○天之狹手依比賣

(古事記) 二二

○天之底立神

(靈能) 三九

○天手力男神

(古事記) 三七

○網坂 (江戸一) 二六〇

○網磯野 (風土記) 五七九

○あみすき(さわぎ) (近代) 二六四

○阿彌陀經 (出定) 六六

○阿彌陀坂 (江戸二) 三三三

○阿彌陀三昧 (宇津上) 一七

○阿彌陀堂 (宇治) 五三三

○阿彌陀佛 (宇治) 九

同 (禪林) 一〇

○阿彌陀佛の銅像 (江戸二) 二七七

○綱干 (日記) 三二〇

○安永時代の川柳 (川柳) 四三

○安覺 (閑田) 七三

○安閑天皇 (古事記) 二九二

○安穴先生の狂詩 (川柳) 四八

○安康天皇 (古事記) 二五四

○安國寺惠瓊

秀吉を相す (太閤上) 七〇

秀吉の陣に参向 (太閤中) 一八八

高松城に來る (太閤中) 一九五

清正の使として順

天城に赴く (太閤下) 四七八

○安在子の掛物の比喻(窓の) 咒

○安國殿 (江戸一) 二二〇

○安西の彌七郎 (黄表紙) 九四

○安神散 (淨上) 二六五

○安珍 (淨中) 二五三

○安藤重長 (大久保) 一三〇

○安藤爲章 (畸人傳) 三八一

○安藤東野 (先哲) 二三

○安藤正次 (窓の) 二〇四

○安德天皇

其の舊跡 (閑田) 六三

閻魔廳にての訴訟(雅文) 七

○行燈(考證) (骨董集) 七

同(再考) (骨董集) 三三

同山家の婿 (醒睡) 三六

同 (醒睡) 三六

同(天王行燈) (石川) 四六

○安仲(本能寺の變を告

ぐ) (太閤中) 四〇三

○安南の合戦 (太閤下) 二四

○安寧天皇 (古事記) 一三

○安平寨 (水滸二) 八三

○庵ノ記 (鶉衣) 七六

○あんぱん丹 (淨上) 二五

○按摩の稽古 (心學) 八

○讓庵名文 (鶉衣) 七三

○安養院(臥龍山) (江戸二) 九七

○安養寺(叡光山) (江戸二) 三六

同(清光山) (江戸二) 四六

○天津日高日子穗穗手
あまつひたかひこほしで
みのみこと

見命

(古事記) 八

○天津日嗣の名稱の説(直毘靈)
あまつひそらとよあきつねわけ

(古事記) 二四

○天御虚空豐秋津根別(古事記)
あまつまうら

(古事記) 二

○天津麻羅

(古事記) 三

○天つ社、國つ社

(祝詞) 三八

○千歳汁
あまつら

(字津下) 三

○天照大神

(古事記) 二

御生成

(古事記) 二

子生の誓

(古事記) 三

天の岩戸隠れ

(古事記) 二

中國統治の詔

(古事記) 六

奉祀の由來

(古今著) 三

須佐之男命との誓(靈能)
あまのさかて

(古事記) 二六

石屋に隠れ給ふ

(靈能) 二七

○天明神の示現

(狹衣) 四七

○天照神より傳れる御

寶

○天鳥船神
あまとりふねのかみ

(古事記) 七五

○あまの岩戸

(古事記) 二

同

(靈能) 二七

同

(字津上) 五三

○天の浮橋

(古事記) 八

○蟹の小舟
あま

(淨上) 二

○天の川(古今ふし)

(近代) 四七

○銀河序(芭蕉)

(風俗) 二六

○蟹の子
あまのこ

(花月) 二六

○海部郡

(風土記) 五九

○天の逆針

(淨上) 一

○天逆手
あまのさかて

(古事記) 二六

○天のじやき
たくなは

(淨上) 三

○蟹の栲縄

(字津上) 三七

○蟹の苦屋

(字津下) 一九

○天中川

(日記) 一八

○天沼矛
あまのぬぼり

(古事記) 八

○あまの羽衣

(日記) 一八

同

(字津上) 五九

○天の橋立(丹後)

(字治) 五三

○あまのまてがた

(日記) 三九

○天の眞名井

(古事記) 三

○天の安河原

(古事記) 三

○天野山

(太閤上) 五三

○蟹の業
あめのわざ

(田舎上) 五三

○天斑馬
あめのおちこま

(古事記) 三

○雨森芳洲

(古事記) 三

たばれ草の一節

(崎人傳) 二七

其逸傳

(崎人傳) 五九

○雨夜の品定め
あまのりき

(田舎上) 七一

○餘木の阿彌陀如來
あまのき

(江戸三) 五四

○過部城の合戦
あまのりき

(太閤上) 六〇

○編笠簀

(鵜衣) 六〇

阿部川

(日記) 四二

○あべ川紙子踊

(近代) 四〇

○阿部喜左衛門

(窓の) 二〇六

○安部野

(浄上) 一五四

○安部朝臣首名の詩

(詩集) 五三

○阿閉臣事代

(詩集) 五三

日月の神の託宣

(古道) 四九

月神の詔

(靈能) 二五

○阿部晴明〔晴明を見よ〕

(大久保) 五二

○安倍忠秋

(浄上) 一四三

○安倍の童子

(百人) 七三

○阿部仲麿

(浄中) 四九

○安部法印

(日記) 四二

○阿保大明神

(日記) 四八

○阿保こえ

(日記) 四二

○阿保宿

(古今著) 二七三

○尼〔おほはらの里〕

(古今著) 二七三

同〔始めて男を知る〕(古今著) 五〇

同〔くるぞや〕

(古今著) 五〇四

同〔泣きそこなひ〕

(古今著) 五〇五

同〔地藏菩薩を見る〕(宇治) 二七

○尼ヶ崎

(太閤中) 二七

同

(浄中) 一二三

○甘槽近江守

(曾呂利) 六三

○雨合羽の半太夫

(黄表紙) 一九三

○天が紅、尼が紅粉

(用捨箱) 八五

○尼君梅月院

(女房) 一七三

○天草一族討手の評定(大久保) 五二

○雨乞

祈雨の宣命

(古今著) 一六

僧正寛空孔雀經法

(古今著) 四〇

を修す

(古今著) 四〇

澄憲法印雨をふら

(古今著) 六

能因の天の川の詠(古今著) 一四

龜策吹遠理

(古今著) 二〇四

僧學信

(崎人傳) 四六

其角の句

(江戸四) 四四

弔の涙

(一休) 五〇五

靜觀僧正

(宇治) 四四

能宣入道の歌

(宇治) 五二

鉦と笛

(醒睡) 三五五

○雨乞、表〔許六〕

(風俗) 一九七

○尼將軍

(百人) 六七

○天田堤

(浄中) 三〇七

○天津國玉神

(古事記) 六九

○天津久米命

(古事記) 八四

○天つ罪、國つ罪

(祝詞) 三三三

○天津日子根命

(古事記) 三

○天津日高日子波限建

(古事記) 三

○鶴葦草葦不合命(古事記) 一〇〇

○東屋あづまや催馬樂、律あつみつ

(古代) 一三

○敦光

幽玄の詩

(古今著) 四八

あすかみそ

(古今著) 五八

○阿曇連等の祖

(古事記) 三五

○敦盛の首

(書翰) 八

○敦盛の北の方

(御伽) 一五

○敦頼あつより(はし鷹)

(古今著) 一五

○厚行

(字治) 五五

○敦頼あつより(秦)

(古今著) 三八

○當吉

(田舎上) 五四

○あての槌

(淨上) 一八

○あて宮

(字津上) 九三

○跡見武雄

(雅文) 五三

○あとあないちり

(閑田) 一三〇

○穴あな一

(平賀) 二九八

○穴稻荷社地の花

(江戸四) 四六

○穴澤天神社

(江戸二) 四三

○安名尊あなたと(催馬樂、呂)

(古代) 二九

○あなどる心

(花月) 五八

○穴八幡社のひかり松あなすき(江戸四)

四三

○脚本

(字津下) 四六

○穴穂王子

(古事記) 二八

○穴穂箭

(古事記) 二八

○阿難棺中の釋迦と問

(古事記) 二八

答

(出定) 五五

○姉妹達あねいもとたてのおはきど大礎

(脚上) 三三

○姉が小路

(淨上) 一八

○姉川の合戦

(太閤上) 三五

○あれはの松

(日記) 三〇

○阿あ匿

(出定) 五五

○阿野の局

(淨中) 六一

○阿波岐原

(古事記) 三三

○あばらやの女

(字治) 四八

○家鴨あひる

(大久保) 一六九

同

(淨上) 二三

○蛇あぶ

(字治) 二八

○阿武隈川

(日記) 一四

同

(日記) 三三

○阿佛尼

(百人) 七五

鎌倉へ訴訟

(百人) 七五

奉珂憶上人歌ノ序(和漢)

(書翰) 一五

紀の内侍へ訓戒

(書翰) 一五

○錠あぶみ

(字津上) 三六

○油あぶみを薬に忌む

(禪林) 一七五

○油絞

(淨上) 四九

○油堤

(江戸一) 六八

○油屋

(淨上) 四八

○油綿

(字治) 四〇

○安倍の文殊もんじゆ

(日記) 四三

○阿部川

(日記) 三八〇

○あたりの野邊(今様) (古代) 一五九
○味遅鉏高日子根神 (古事記) 六二

同
○味耜高彥根神 (古道) 四六

○阿等女作法(神樂歌) (古代) 八九
○敦景の競馬 (古今著) 三四

○淳方 (古今著) 二八
○敦兼 (古今著) 二五

○小豆島 (古事記) 二
○小豆の生成 (古事記) 四〇

○梓 (田舎下) 一四
○梓 巫 (田舎上) 三一

○敦實親王 (宇治) 四九
○熱田 (日記) 二二

同
○熱田神宮由來 (日記) 三八

○敦忠の管絃 (日記) 一九
○敦忠の管絃 (百人) 二九

○篤胤伴信友へ相談 (書翰) 二〇
○熱田の神 (宇治) 一〇三

○熱田の宮 (淨下) 四二
○熱田の宮參拜 (日記) 一〇

○熱田の宮の由來 (日記) 五九
○熱田明神 (醒睡) 三二

○熱田明神社(新鳥越) (江戸三) 五〇
○安土 (淨中) 四九

○安土城下の騷動 (太閤中) 一四
○安土の宗論 (太閤中) 一八

○安土山の記 (太閤上) 四一
○敦近(頼次に勝つ) (古今著) 三三

○敦延(兼弘と競馬す) (古今著) 三三
○敦周(龍吟鶴唳) (古今著) 二二

○敦久(臨時客) (古今著) 九三
○厚鬢男 (淨上) 一五

○吾妻の由來 (古事記) 一七

○東遊 (古代) 一四
○東歌の序(春海) (琴後) 六八

○東夷 (淨上) 四二
○東をどり(二上り) (近代) 三七

○東絹 (宇津土) 八六
○吾嬬權現社 (江戸四) 一四

○篤昌 (宇治) 一五
○東路(風俗) (古代) 一五

○吾妻堤 (江戸二) 二七
○東の人 (宇治) 二八

同
○吾妻の森の茶番 (宇治) 三六

○吾妻の森の連理楠 (七偏人) 四九
○東妻道之記出端 (江戸四) 四七

○東妻道之記出端 (近代) 三九
同出端の跡遠目金 (近代) 四九

○吾妻明神 (江戸一) 五九
同 (脚下) 四八

あしはらのなかつくに

○葦原 中國

(古事記) 元

○飛鳥井

(狹衣) 四

同〔催馬樂、律〕

(古代) 一三

○飛鳥井家〔懷紙の書

法〕

(百人) 六九

○飛鳥井姫

(狹衣) 四

○飛鳥川〔端歌〕

(近代) 二四

○飛鳥神社

(日記) 四〇

○飛鳥寺

(日記) 四九

○飛鳥明神社

(江戸三) 五〇

○明日香大太刀

(雅文) 五三

○飛鳥の里

(淨中) 二五

○飛鳥山

(江戸三) 二七

○飛鳥山の櫻

(平賀) 二八

○飛鳥山の花盗人

(大岡) 六四

○飛鳥山の花見

(八笑人) 二〇

○飛鳥山賦

(鶉衣) 七八

○あすた川の考證

(石川) 二九

○阿須波神

(古事記) 六

○阿須波明神祠

(江戸四) 三六

○阿修羅

(宇津上) 七

○汗〔自盜の二汗〕

(禪林) 四五

○按察使の君

(宇津下) 四六

○麻生里

(風土記) 五七

○校倉

(宇治) 三四

○阿曾次郎

(淨上) 五九

○阿曾丸

(雅文) 四五

○阿蘇明神祠

(江戸三) 七

○朝臣

(年々) 五〇

○安宅の能の説

(窓の) 三三

○安宅丸の乗初

(窓の) 一五

○愛宕

(日記) 一七

○愛宕の峯

(宇津上) 一五

○愛宕の山

(宇治) 三六

○愛宕權現宮

(江戸三) 五九

○愛宕山

(太閤中) 六

○愛宕山權現社

(江戸一) 三九

○愛宕山の雪

(江戸四) 四六

○安達ヶ原

(心學) 三三

同

(淨上) 二五

○安達原の謠

(心學) 六一

○安達大藏

(脚上) 四三

○安達丈助

(脚上) 三五

○安達仙兵衛

(脚上) 三七

○安達興兵衛

(脚上) 一四

○あだなさけ〔半太夫ぶし〕

(近代) 四四

○あだ枕〔長歌〕

(近代) 三六

○熱海紀行

(鶉衣) 八四

○安太半延波

(靈能) 三三

○新 年〔催馬樂、呂〕

(古代) 二九

○朝日觀世音 (江戸二) 四
 ○朝日神明宮 (江戸三) 五八
 ○あさひ天女 (御伽) 八三
 ○麻布先生 (平賀) 七七
 ○麻布谷町の人殺し (大岡) 六五
 ○安相里 (風土記) 五六
 ○麻生後序〔許六〕 (風俗) 二六
 ○麻布龍土組屋舗の梅 (江戸四) 三七
 ○淺間川 (日記) 九〇
 ○淺間山 (鶴衣) 八七
 同 (江戸二) 四七
 同 (日記) 一八六
 ○楳丸〔景清重代の刀〕〔淨下〕 四四
 ○薊花〔水陳人〕 (和漢) 二九
 ○淺綠〔催馬樂、呂〕 (古代) 二六
 ○淺水〔催馬樂、律〕 (古代) 二六
 ○朝山郷 (風土記) 四八

○蘆浦〔草鞋大王〕 (近代) 六〇
 ○足占山 (日記) 一四
 ○足利義政 (醒睡) 二七三
 ○足利持氏手飼の猿 (窓の) 四一
 ○葦垣〔催馬樂、呂〕 (古代) 二三
 ○脚鼎 (宇津上) 四八
 ○あしかの局 (石川) 三九
 ○葦牙 (古事記) 六
 ○葦牙の説 (靈能) 三八
 ○足柄坂 (萬葉上) 五七
 ○足柄山 (日記) 三三
 同 (日記) 二八
 同 (日記) 二六
 ○足輕町 (琦行傳) 六七
 ○足毛塚 (江戸二) 一八七
 ○阿私仙 (袂衣) 三三
 ○足高山の傳説 (日記) 二六

○阿私陀仙人 (出定) 五五
 ○葦手 (宇津下) 一五
 同 (宇治) 四九
 ○葦那陀迦神 (古事記) 六三
 ○足名椎 (古事記) 四一
 ○安師里 (風土記) 五五
 ○芦の湯〔箱根〕 (黃表紙) 一〇
 ○阿字不生の日輪 (禪林) 四〇
 ○葦船 (古事記) 九
 ○蘆屋道滿 (宇治) 四六
 ○葦屋の處女 (萬葉上) 五八
 ○蘆屋船主 (石川) 一九七
 ○芦分舟〔端歌〕 (近代) 四三
 ○葦原色許男神〔大國主〕 (古事記) 四四
 ○葦原醜男命 (靈能) 二七三
 ○葦原の鹿 (風土記) 三九

○淺草

(日記) 一七〇

同〔端歌〕

(近代) 六二

○淺草市〔年の市〕

(平賀) 三三

○淺草紙

(平賀) 四六

○淺草川の月

(江戸四) 四二

○淺草の事實

(燕石) 三八

○淺草並木〔五助の試合〕

(大久保) 三〇

合

○淺草の繁昌

(和合人) 三五

○淺草橋

(江戸一) 二四

○淺草本願寺〔奴僕の仇討〕

(窓の) 四〇

○淺草餅

(和合人) 三八

○朝酌あさくみのさと 柳の

(風土記) 四三

○朝酌あさくみのせとのわたり 促渡

(風土記) 四一

○朝倉〔神樂歌〕明星

(古代) 二五

○朝倉義景

淺井家との關係 (太閤上) 三〇

前波が妾を奪はし

む (太閤上) 四四

田神山の敗

(太閤上) 四四

最後

(太閤上) 四三

○朝倉山〔木丸殿〕

(百人) 二四

○あさけ川

(日記) 三六

○朝涼

(字津下) 四七

○淺茅の尼

(田舎下) 四七

○朝綱〔天江、後江相公〕

(古今著) 二〇

白樂天を夢む

(古今著) 二〇

暮雲曉淚

(古今著) 二〇

前後相違の恨

(古今著) 三二

○淺妻船

(平賀) 四四

○朝妻舟〔舟〕

(石川) 四三

同〔端歌〕

(近代) 二四

同〔端唄〕

(近代) 六〇

○淺茅あさや〔鎌倉三代記〕 (淨中) 二四

○淺茅が浦〔蒙古初めて來襲の地〕

(馭戎) 二三

○淺茅が原

(日記) 一〇八

同

(江戸三) 五一

○あさぢふあさぢふのふの字

(閑田) 一五

○字あさなをつくる事

(年々) 二六四

○朝寐辭

(鶴衣) 五七六

○淺野〔白拍子〕

(脚上) 三三

○淺野家の火災の事

(金澤) 二二〇

○淺之進〔志道軒の稚名〕

(平賀) 二八

○淺野中務少輔〔飄齋よりの手紙〕

(書翰) 四三

○淺野彌兵衛

(太閤上) 九五

○淺野良助〔與話情浮名横槍〕

(脚下) 三七

萬載狂歌集の序

(萬載) 三七

傳學

(琦行傳) 七七五

○赤穂(播磨)

(遊京) 四八

○阿古木

(田舎上) 二八

○あこ君

(字津上) 一七

○あこ法師(怪物にさら

はる)

(古今著) 五四

○阿古耶

(淨下) 四九

○阿古耶の擧責め

(淨下) 四六

○あこやの珠

(字治) 四〇五

○阿古屋の松

(百人) 四二

同

(淨下) 四七四

同

(字治) 四八

○阿古耶の母

(淨下) 四三

○阿含部の大意

(禪林) 四四

○朝(宴曲)

(古代) 四四

○朝比奈

(狂言上) 三七〇

同(古今節)

(近代) 四三

同

(黃表紙) 元

○朝比奈三郎義秀

(八文字) 四八

○淺井長政

信長の妹お市と婚

姻

(太閤上) 三二

信長と不和の因

(太閤上) 三七

朝倉との關係

(太閤上) 三九

三田村に出陣

(太閤上) 三四

最後

(太閤上) 四三

○淺井の郡司

(字治) 一四

○淺井久政の生害

(太閤上) 四九

○淺井又六の剛勇

(窓の) 一五

○淺尾(加州家の老女)(金澤) 三三

○淺岡(龜千代お守役)(伊達) 四三

○淺香

(淨上) 五六四

○櫓(和漢期詠集、秋)(古代) 二五

同(新撰期詠集、秋)

(古代) 三四

同(端歌)

(近代) 六八

○朝顔

(淨上) 六五

○朝顔の巻

(田舎下) 三三

○牽牛花の名所

(江戸四) 四九

○淺香の沼

(日記) 一四

○安積澹泊の人物

(書翰) 一四八

○あさがへり(端歌)

(近代) 六四

○阿佐ヶ谷神明宮

(江戸二) 四七

○あさか山

(日記) 三四

○あさぎ(長歌)

(近代) 五九

○淺黃帷子(吾妻淨瑠

璃)

(近代) 二六

○朝霧

(田舎上) 七

○朝霧ヶ瀧

(江戸二) 一七〇

○淺葱枕

(骨董集) 九六

○淺草

(日記) 一六

ま淨留利)

(近代) 三五

○秋の日の序

(鴛衣) 七〇

○秋之坊(讀法華經)

(和漢) 三三

○秋の坊に示す辭(支

考)

考)

(風俗) 一四

○秋の山

(曾呂利) 六〇〇

○秋の山ぶみ(春海)

(琴後) 五九

○秋の山ぶみの文(千

蔭)

蔭)

(うけら) 二七〇

○秋夜(新撰朗詠集、秋)

(古代) 三五

○秋葉大權現社

(江戸四) 一九三

同

(江戸四) 四七

○秋葉の祠

(窓の) 二〇三

○秋葉山

(日記) 五〇

○秋毘賣神

(古事記) 六七

○明衡(大學頭)

(宇治) 六六

同(相摸の問答)

(雅望) 三五

同(伽羅先代萩)

(淨下) 一六

○顯通大納言

(古今著) 一四

○秋山修理亮彦左衛門

を諫む

を諫む

(大久保) 一六〇

○秋山玉山(惺窩の像の

贊)

贊)

(先哲) 一五

○秋山長藏

(脚下) 二二三

○顯雅卿

(古今著) 二六

○顯光(堀河左大臣)

(宇治) 四六

○顯宗

(宇治) 二八〇

○顯基

(古今著) 二八

出家

(古今著) 二八

恩愛の情

(古今著) 二六三

法名圖昭

(宇治) 五〇六

○惡七兵衛景清(景清參

照)

○惡所八景(さわぎ)

(淨下) 四四

○惡所八景(さわぎ)

(近代) 二八七

○惡禪師

(燕石) 三七七

○芥川貞佐

(畸人傳) 六三〇

○惡太郎

(狂言下) 三五

○惡坊

(狂言上) 三五

○惡靈左府(堀河左大臣

顯光)

顯光)

(宇治) 四六

○上綏の主(兵衛佐)

(宇治) 六一

○明智光秀(光秀を見よ)

(宇津上) 五九

○あけの衣主(五位)

(宇津上) 八四

○帷

(淨上) 二〇

○曙(惟弘が女房)

(古) 一〇五

○總角(神樂歌、小前張)

(古代) 一〇五

同(催馬樂、呂)

(古代) 一四〇

同(三十石艦始、傾城)

(脚上) 二

○揚屋

(田舎上) 二三

○揚屋差紙

(平賀) 望

○朱樂管江

○赤羽川	(江戸一) 二六
○赤羽根こえ	(日記) 四三
○赤羽橋	(江戸一) 二四八
○赤羽山八幡宮	(江戸三) 三三七
○赤はらたれる	(浄中) 五九
○明星 ^{あかほし} 神樂歌	(古代) 二二
○赤星運八	(浄上) 五〇
○赤前垂	(浄上) 八五
○赤間ヶ關	(日記) 一五
○赤間源左衛門	(脚下) 三六
○赤松左衛門正則	(田舎上) 六
○赤松太郎高直	(田舎上) 六九
○赤女 ^{あかめ} (魚)	(年々) 二七〇
○あかん平	(平賀) 二四三
○赤湯泉 ^{あかゆ}	(風土記) 五三
○あがり馬	(古今著) 四九
○秋	

和漢朗詠	(古代) 三三
新撰朗詠	(古代) 三二
宴曲	(古代) 四〇
初秋の風俗	(石川) 三六五
秋の花	(石川) 三六五
秋の行事	(石川) 四九
夕べの思ひ	(狭衣) 一〇〇
更け行く秋	(狭衣) 四八
山寺の秋	(狭衣) 四七
雲林院の秋色	(田舎上) 四七
○安藝 ^{安藝} (國風二首)	(近代) 九七
○安藝 ^{安藝} (伊達)	
名月の夜館へ盗人	
入る事	(伊達) 四三
兵部の惡意を訴へ	
んとす	(伊達) 四三
江戸へ召さる	(伊達) 四四

甲斐と對決	(伊達) 五二〇
○秋を惜む記 ^{あきをかこむ} (春海)	(琴後) 六〇五
○秋鹿郡 ^{あきかのこほり}	(風土記) 四四〇
○飽咋 ^{あきぐひ} 之宇斯能神 ^{うしのかみ} (生成)	(古事記) 二四
○あき艸 ^{あきくさ} (長歌)	(近代) 三三
○秋篠 ^{とやま} の外山の里	(閑田) 一六
○顯輔 ^{とくすけ} (左京大夫)	
百首よむやう	(古今著) 一六四
うれしさ	(古今著) 一七三
櫻花の連歌	(古今著) 五七
たゝみめ云々	(古今著) 五八
略傳逸話	(百人) 五三
○顯澄 ^{あきづか} (兵衛佐)	(宇津上) 一〇〇
○阿岐豆野 ^{あきづぬ} の由來	(古事記) 二六九
○安騎野 ^{あきぎの}	(萬葉上) 二〇
○秋の色 ^{あきのいろ} (中興當流あづ)	

○青沼明神 (江戸二) 四二
 ○青根嶽 (日記) 四〇
 ○青の馬〔催馬樂、呂〕 (古代) 二九
 ○英遠の浦 あを (萬葉下) 四二
 ○青葉の館 (田舎上) 四六
 ○青葉琵琶之助 (田舎上) 七九
 ○青表紙 (田舎上) 九五
 同 (平賀) 一四三
 ○青柳〔裏組〕 あをやぎ (近代) 一八三
 同〔催馬樂、律〕 (古代) 一三三
 同〔姉妹達大礎〕 (脚上) 四八〇
 ○青山因幡の孝心 (大久保) 五九
 ○青山伯耆守 (大久保) 四九
 ○青山幸利 (窓の) 三六
 ○青物づくし (七偏人) 五九〇
 ○青森 (淨上) 二二九
 ○赤井家の滅亡 (太閤上) 六二〇

○赤えといふ魚 (年々) 二七三
 ○あかゞり (狂言上) 一七四
 ○赤城明神社 (江戸二) 五〇
 ○赤城明神の舊地 (江戸二) 五六
 ○赤朽葉の花文繚の小 けもんれうこ (宇津上) 六六
 同〔大江定基の出家〕 (日記) 六〇
 同〔茶亭の女〕 (日記) 二六八
 同〔業平塚の話〕 (日記) 二九六
 ○赤坂御門 (江戸二) 一五九
 ○赤坂臺 (江戸二) 四九
 ○赤坂傳藏 (脚下) 二七七
 ○明石 (日記) 二八
 ○明石の浦 (淨上) 五二
 ○明石の宗入 (田舎上) 四九
 ○明石の豊丸 (雅元) 四四

○明石の姫君 (田舎下) 一八六
 ○明石の巻 (田舎上) 一八七
 ○赤染衛門 其逸話 (百人) 三七
 榮花物語 (曾呂利) 五三
 捨子の歌 (曾呂利) 六三
 代る命 (古今著) 一五〇
 ○縣居翁の墳墓 あがたふ (江戸四) 四七四
 ○縣居翁贈辨子文 あがたのかみ (遊京) 四三
 ○縣祇 あがたのかみ (風土記) 三六六
 ○縣神子 あがたのかみ (燕石) 五五
 ○赤塚明神祠 (江戸三) 四九
 ○曉〔和漢朗詠集、雜〕 (古代) 二五
 同〔新撰朗詠集、雜〕 (古代) 三五
 ○曉の情趣 (年々) 三三
 ○赤根山 あかのさと (江戸二) 一八
 ○英賀里 あかのさと (風土記) 五四

有朋堂文庫

第二輯
六十冊

總索引

ア

- 相合袴 (狂言上) 一四七
- 相生 (脚下) 三六
- 相れひとふ詞 (年々) 三六
- 相生の松 (浄上) 九四
- 逢鹿驛^{あひか} (風土記) 五三
- 愛久津彌太郎 (窓の) 三三
- 愛敬の心 (心學) 四三
- 愛甲三郎 (曾呂利) 五九
- 遇澤 (日記) 三三
- 相澤六郎 (脚下) 五八
- 愛日樓集 (先哲) 四〇
- あひそめ川 (浄上) 三四七

- 藍染川 (江戸) 一〇三
- 藍玉 (浄上) 四七
- 相圖の花火 (花月) 五五
- 間の山 (田舎上) 四二
- 同 (日記) 五五
- 間之山念佛 (近代) 四三
- 愛梅説^{あひめ}〔萬子〕 (風俗) 九三
- 姪^{あひやけ} (浄上) 二七
- アウの音の辨 (出定) 六九
- 阿吽の二字 (心學) 四六
- 襖^{あて} (字治) 一八五
- 同 (字津下) 五〇
- 同 (古今著) 一七三
- 青渭神社 (江戸二) 三三

- 青渭堤 (江戸二) 三四
- 青井下坂の刀 (脚下) 五七
- 葵の巻 (田舎上) 三六
- あながみ (字津上) 五五
- 青木主計頭 (畸人傳) 二四三
- 青木明神 (閑田) 四九
- 青朽葉の衣 (字津上) 三九五
- 青侍の長谷觀音參籠 (字治) 二七
- あなじ (字津下) 六八
- 青常の君 (字治) 三〇
- 青露草 (字津下) 五〇
- 青砥藤綱第宅の舊跡 (江戸四) 二四〇
- 青鈍のさしぬき (字津下) 三六
- 青沼馬沼押比賣^{あそぬはぬおしひめ} (古事記) 六三

目錄

有朋堂文庫 第六十二冊輯 總索引……………一—四七〇

有朋堂文庫 第一第二兩輯 一百二十冊 總目錄……………四七一—四八四

有朋堂文庫 第一第二兩輯 一百二十冊 總解題……………四八五—五四〇

(イ) 本解題は「有朋堂文庫」第一第二兩輯一百二十冊について作製し、第一輯の分は括弧を附して第二輯と區別せり。

(ロ) 本解題は概ね各冊の卷頭に附したるものと重複するの嫌なきにあらざれども、其書名が凡て収載書冊の細目に涉りて五十音順に排列せられあるを以て、また讀者を便ずるもの少なからざるべきを信ず。

(ハ) 本解題の書名は凡て發音のまゝを五十音順に排列せり。但、傍訓は凡て歴史的假名遣に據る。書名の下に往々記載せる括弧中の文字は、これを收めて統括的に附したる本文庫の書名の略稱と知るべし。

本書の作製及び校正に關しては、椿強祐、星野亮太郎、石井晴信の三氏を煩はしたる事甚だ多し。記して謝意を表す。

大正四年十二月

編纂者 塚本哲三

例言

一 總索引について、

(イ) 本索引は「有朋堂文庫」第二輯六十冊のみにつきて作製し、第一輯に及ばず。第一輯は、必要に應じて、之を各書の卷末に加へたれば也。

(ロ) 本索引は、主として人名・地名・物名等を取り、抽象的な思想方面と、詩歌の句俚諺の類とは多く節略に従へり。然して人名は或は姓を以てし或は名を以てし、必らずしも統一せず、専ら世の通用の廣きに従へり。然れども人各見る所を異にするものあり、使用者若し此に求めて得ずんば即ち彼に就いて求むるの勞を辭せられざるべし。

(ハ) 本索引の語句は凡て發音のまゝ五十音順に従つて排列せり。但往々にして附したる傍訓は凡て原文のまゝ歴史的假名遣に據りたり。

一 總解題について、

監修者及び校訂者諸先生の努力の、夙に江湖の間に認識せられたるものあり、今敢て贅する迄もなからん。

微力なる余をしてよく此事業を持続し、遂に今日の完成を見るを得しめたるもの、一に會員諸彦の贊助と、監修、校訂及校正の任に當られたる諸先生の熱誠とに職由せずんばあらず。東京築地活版所、凸版印刷株式會社本所分工場の兩印刷所が、本文庫印刷上多大の便益を與へられたるもの、亦本文庫の完成に與つて力ある事大なり。今此書の成るに當り、切にこれら各方面の同情に對して感謝の意を表す。

大正四年十二月

發行者 三浦理

緒言

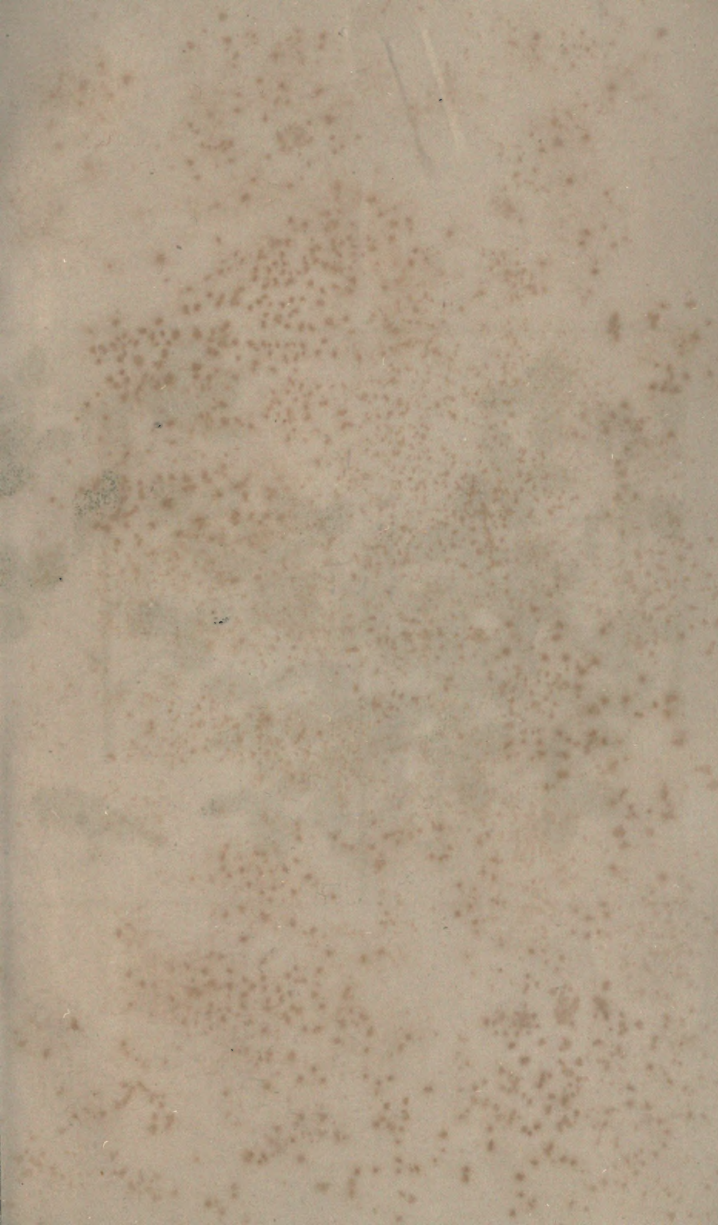
「有朋堂文庫」は日本文學の精華を網羅し、之を閲讀携帶共に至便にして而も書齋客間の備品たるに最もふさはしき形體の内に收めんと旨趣に出でたるものにて、其始めて第一輯の會員を募りたるは明治四十五年五月の事に屬し、超えて大正二年十一月より第二輯の刊行に著手せり。而して第一輯は大正三年十月を以て結了し、第二輯は大正四年九月その本文を終了せり。其間星霜を閲すること四、偶、其半にして歐洲大亂の突發せるあり、爲めに用紙クロース等の上に蒙りたる打撃の決して鮮少ならざるものありしかども、本文庫の材料が、凡て戰亂以前の特約に係りし事とて、前後よく體裁の不統一を醸すが如き事なきを得たるは、出版者の竊かに以て欣榮とする所也。

今本文庫の計數を見るに、總冊數一百廿一冊、之に收むる所の書四百七十一種、而して頁數總計八萬八百七十頁の多きに達し、插畫の數亦六千三百面に上れり。單に數字の上より見るも、尙且明治以來の大刊行物たるを失はざるべきか。其内容に至りては、

PL
707
T8



總索引總解題春





PL
707
T8

Tsukamoto Tetsuzo
Yuhodo bunko sosakuin

Eas
As
Stu

PL
707
T8

G

TEIR CARD

EAS

.....

.....

.....

Location...

No. of copies

Binding...

